

# 2019年度 人間環境学部 講義概要 (シラバス)



法政大学

# 科目一覽

最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

【C2554】	アーティストと社会貢献 [庄野 真代] 春学期授業/Spring	1
【C2023】	アメリカ環境法 [永野 秀雄] 秋学期授業/Fall	2
【C2009】	アメリカ法の基礎 [永野 秀雄] 春学期授業/Spring	3
【C2900】	英語Ⅰ (スキルアップ科目) [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	3
【C2903】	英語Ⅰ (スキルアップ科目) [永井 大輔] 春学期授業/Spring	4
【C2909】	英語Ⅱ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 秋学期授業/Fall	5
【C2915】	英語Ⅲ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 春学期授業/Spring	6
【C2921】	英語Ⅳ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 秋学期授業/Fall	7
【C2419】	衛生・公衆衛生学Ⅰ [児玉 ゆう子] 春学期授業/Spring	8
【C2420】	衛生・公衆衛生学Ⅱ [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	9
【C2421】	衛生・公衆衛生学Ⅲ [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	10
【C2223】	NGO活動論 [小野 行雄] 春学期授業/Spring	11
【C2203】	NPO・ボランティア論 [川崎 あや] 秋学期授業/Fall	12
【C2024】	エネルギー政策論 [菊地 昌廣] 春学期授業/Spring	13
【C2406】	エネルギー論Ⅰ [北川 徹哉] 春学期授業/Spring	14
【C2422】	エネルギー論Ⅱ [北川 徹哉] 秋学期授業/Fall	15
【C2231】	開発教育 [福田 紀子] 春学期授業/Spring	16
【C2228】	科学技術社会論 [詫間 直樹] 秋学期授業/Fall	18
【C2416】	環境科学Ⅰ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	19
【C2417】	環境科学Ⅱ [藤倉 良] 秋学期授業/Fall	20
【C2418】	環境科学Ⅲ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	21
【C2503】	環境教育論 [野田 恵] 春学期授業/Spring	22
【C2107】	環境経営と会計 [八木 裕之] 秋学期授業/Fall	23
【C2112】	環境経営論Ⅰ [林田 昌也] 春学期授業/Spring	24
【C2113】	環境経営論Ⅱ [石井 政雄] 秋学期授業/Fall	25
【C2110】	環境経済論Ⅰ [國則 守生] 春学期授業/Spring	26
【C2111】	環境経済論Ⅱ [國則 守生] 秋学期授業/Fall	27
【C2409】	環境健康論Ⅰ [中村 真通] 春学期授業/Spring	28
【C2410】	環境健康論Ⅱ [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	29
【C2217】	環境社会論Ⅰ [西城戸 誠] 春学期授業/Spring	30
【C2218】	環境社会論Ⅱ [西城戸 誠] 秋学期授業/Fall	31
【C2219】	環境社会論Ⅲ [西城戸 誠] 秋学期授業/Fall	32
【C2316】	環境人類学Ⅰ [高橋 五月] 春学期授業/Spring	33
【C2317】	環境人類学Ⅱ [高橋 五月] 秋学期授業/Fall	34
【C2321】	環境人類学Ⅲ [高橋 五月] 秋学期授業/Fall	35
【C2311】	環境哲学基礎論 [吉永 明弘] 春学期授業/Spring	36
【C2126】	環境ビジネス論 [竹ヶ原 啓介] 秋学期授業/Fall	36
【C2322】	環境表象論Ⅰ [梶 裕史] 春学期授業/Spring	37
【C2323】	環境表象論Ⅱ [梶 裕史] 秋学期授業/Fall	38
【C2013】	環境法Ⅰ [横内 恵] 春学期授業/Spring	39
【C2014】	環境法Ⅱ [永野 秀雄] 秋学期授業/Fall	40
【C2015】	環境法Ⅲ [横内 恵] 秋学期授業/Fall	40
【C2016】	環境法Ⅳ [今井 康介] 秋学期授業/Fall	41
【C2129】	環境マネジメントスタディーズⅠ [池原 庸介] 春学期授業/Spring	42
【C2130】	環境マネジメントスタディーズⅡ [池原 庸介] 秋学期授業/Fall	43
【C2430】	環境モデル論Ⅰ [渡邊 誠] 春学期授業/Spring	44
【C2431】	環境モデル論Ⅱ [渡邊 誠] 秋学期授業/Fall	46
【C2310】	環境倫理学 [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	47
【C2411】	気候変動論Ⅰ [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	48
【C2412】	気候変動論Ⅱ [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	49
【C2701】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	50
【C2703】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	51
【C2704】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	52

【C2706】	基礎演習 [人間環境学部教員]	秋学期授業/Fall	53
【C2707】	基礎演習 [人間環境学部教員]	秋学期授業/Fall	54
【C2708】	基礎演習 [人間環境学部教員]	秋学期授業/Fall	55
【C2712】	基礎演習 [人間環境学部教員]	秋学期授業/Fall	56
【C2714】	基礎演習 [人間環境学部教員]	秋学期授業/Fall	57
【C2716】	基礎演習 [人間環境学部教員]	秋学期授業/Fall	58
【C2717】	基礎演習 [人間環境学部教員]	秋学期授業/Fall	59
【C2718】	基礎演習 [人間環境学部教員]	秋学期授業/Fall	60
【C2719】	基礎演習 [人間環境学部教員]	秋学期授業/Fall	61
【C2720】	基礎演習 [人間環境学部教員]	秋学期授業/Fall	62
【C2722】	基礎演習 [人間環境学部教員]	秋学期授業/Fall	63
【C2723】	基礎演習 [人間環境学部教員]	秋学期授業/Fall	64
【C2724】	基礎演習 [人間環境学部教員]	秋学期授業/Fall	65
【C2725】	基礎演習 [人間環境学部教員]	秋学期授業/Fall	66
【C2726】	基礎演習 [人間環境学部教員]	秋学期授業/Fall	67
【C2729】	基礎演習 [人間環境学部教員]	秋学期授業/Fall	68
【C2733】	基礎演習 [人間環境学部教員]	秋学期授業/Fall	69
	キャリアチャレンジ [人間環境学部教員]	春学期授業/Spring	70
【C2504】	キャリア入門 [長峰 登記夫]	春学期授業/Spring	70
【C2007】	行政学 [山口 二郎]	年間授業/Yearly	71
【C2133】	行政法Ⅰ [横内 恵]	春学期授業/Spring	72
【C2134】	行政法Ⅱ [横内 恵]	秋学期授業/Fall	73
【C2209】	グローバル・コミュニケーション [ストックウエル・エスター]	春学期授業/Spring	74
【C2557】	グローバルスタディーズⅠ [吉田 秀美]	春学期授業/Spring	75
【C2558】	グローバルスタディーズⅡ [吉田 秀美]	秋学期授業/Fall	76
【C2106】	経営学入門 [梅野 匡俊]	春学期授業/Spring	77
【C2012】	刑法の基礎 [渡辺 靖明]	春学期授業/Spring	78
【C3000】	研究会 A [朝比奈 茂]	秋学期授業/Fall	79
【C3029】	研究会 A [今枝 佑輔、松本 倫明]	年間授業/Yearly	80
【C3005】	研究会 A [岡松 暁子]	年間授業/Yearly	81
【C3006】	研究会 A [梶 裕史]	年間授業/Yearly	82
【C3038】	研究会 A [梶 裕史]	年間授業/Yearly	83
【C3028】	研究会 A [金藤 正直]	年間授業/Yearly	84
【C3007】	研究会 A [北川 徹哉]	年間授業/Yearly	86
【C3009】	研究会 A [國則 守生]	年間授業/Yearly	87
【C3010】	研究会 A [小島 聡]	年間授業/Yearly	88
【C3011】	研究会 A [小島 聡]	年間授業/Yearly	89
【C3030】	研究会 A [児玉 ゆう子、宮川 路子]	年間授業/Yearly	90
【C3031】	研究会 A [児玉 ゆう子、宮川 路子]	年間授業/Yearly	91
【C3004】	研究会 A [杉戸 信彦]	年間授業/Yearly	92
【C3012】	研究会 A [ストックウエル・エスター]	年間授業/Yearly	93
【C3035】	研究会 A [高田 雅之]	年間授業/Yearly	94
【C3052】	研究会 A [高田 雅之]	年間授業/Yearly	95
【C3071】	研究会 A [高橋 五月]	年間授業/Yearly	96
【C3015】	研究会 A [武貞 稔彦]	年間授業/Yearly	97
【C3072】	研究会 A [竹本 研史]	年間授業/Yearly	98
【C3046】	研究会 A [谷本 勉]	年間授業/Yearly	99
【C3017】	研究会 A [辻 英史]	年間授業/Yearly	100
【C3003】	研究会 A [手塚 恵美子]	年間授業/Yearly	101
【C3018】	研究会 A [永野 秀雄]	年間授業/Yearly	102
【C3019】	研究会 A [永野 秀雄]	年間授業/Yearly	103
【C3020】	研究会 A [長峰 登記夫]	年間授業/Yearly	104
【C3022】	研究会 A [西城戸 誠]	年間授業/Yearly	105
【C3023】	研究会 A [根崎 光男]	年間授業/Yearly	106
【C3024】	研究会 A [長谷川 直哉]	年間授業/Yearly	107
【C3025】	研究会 A [日原 傳]	年間授業/Yearly	108
【C3026】	研究会 A [平野井 ちえ子]	年間授業/Yearly	109

【C3027】	研究会 A [藤倉 良] 年間授業/Yearly	110
【C3073】	研究会 A [横内 恵] 年間授業/Yearly	111
【C3034】	研究会 A [渡邊 誠] 年間授業/Yearly	112
	研究会修了論文 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	113
【C3037】	研究会 B [岡松 暁子] 春学期授業/Spring	114
【C3062】	研究会 B [金藤 正直] 年間授業/Yearly	114
【C3039】	研究会 B [北川 徹哉] 年間授業/Yearly	116
【C3090】	研究会 B [國則 守生] 年間授業/Yearly	117
【C3082】	研究会 B [佐伯 英子] 年間授業/Yearly	118
【C3083】	研究会 B [佐伯 英子] 年間授業/Yearly	119
【C3036】	研究会 B [杉戸 信彦] 年間授業/Yearly	120
【C3040】	研究会 B [ストックウエル・エスター] 年間授業/Yearly	121
【C3095】	研究会 B [高田 雅之、金藤 正直、渡邊 誠] 年間授業/Yearly	122
【C3064】	研究会 B [高橋 五月] 年間授業/Yearly	123
【C3043】	研究会 B [武貞 稔彦、竹本 研史] 年間授業/Yearly	124
【C3057】	研究会 B [谷本 有美子] 秋学期授業/Fall	125
【C3054】	研究会 B [永野 秀雄] 春学期授業/Spring	126
【C3047】	研究会 B [長峰 登記夫] 年間授業/Yearly	126
【C3091】	研究会 B [西城戸 誠] 年間授業/Yearly	127
【C3048】	研究会 B [根崎 光男] 年間授業/Yearly	128
【C3049】	研究会 B [長谷川 直哉] 年間授業/Yearly	129
【C3055】	研究会 B [日原 傳] 秋学期授業/Fall	130
【C3084】	研究会 B [湯澤 規子] 年間授業/Yearly	131
【C3085】	研究会 B [湯澤 規子] 年間授業/Yearly	132
【C3081】	研究会 B [横内 恵] 年間授業/Yearly	133
【C3086】	研究会 B [吉永 明弘] 年間授業/Yearly	134
【C3087】	研究会 B [吉永 明弘] 年間授業/Yearly	135
【C3060】	研究会 B [渡邊 誠] 年間授業/Yearly	136
【C3065】	研究会 B [渡邊 誠、小島 聡] 春学期授業/Spring	137
【C3066】	研究会 B [渡邊 誠、小島 聡] 秋学期授業/Fall	138
【C2104】	現代企業論 [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring	139
【C2559】	現代思想と人間Ⅰ [竹本 研史] 春学期授業/Spring	140
【C2560】	現代思想と人間Ⅱ [竹本 研史] 秋学期授業/Fall	141
【C2200】	現代社会論Ⅰ [田中 勉] 春学期授業/Spring	142
【C2201】	現代社会論Ⅱ [田中 勉] 秋学期授業/Fall	143
【C2202】	現代社会論Ⅲ [佐伯 英子] 秋学期授業/Fall	144
【C2011】	憲法の基礎 [土屋 志穂] 秋学期授業/Fall	145
【C2500】	公害防止管理論Ⅰ [大岡 健三] 春学期授業/Spring	146
【C2501】	公害防止管理論Ⅱ [大野 香代] 秋学期授業/Fall	147
【C2108】	公共経済学 [小田 圭一郎] 春学期授業/Spring	148
	コース修了論文 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	148
【C2118】	国際環境政策Ⅰ [國則 守生] 春学期授業/Spring	149
【C2119】	国際環境政策Ⅱ [内山 勝久] 秋学期授業/Fall	150
【C2017】	国際環境法 [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall	151
【C2008】	国際関係論 [岡松 暁子] 春学期授業/Spring	151
【C2122】	国際経済協力論Ⅰ [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	152
【C2123】	国際経済協力論Ⅱ [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall	153
【C2232】	国際社会学 [新藤 慶] 秋学期授業/Fall	154
【C2004】	国際法Ⅰ [岡松 暁子] 春学期授業/Spring	155
【C2005】	国際法Ⅱ [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall	155
【C2400】	サイエンスカフェⅠ [石井 利典] 春学期授業/Spring	156
【C2401】	サイエンスカフェⅡ [児玉 ゆう子] 春学期授業/Spring	157
【C2402】	サイエンスカフェⅢ [高田 雅之] 春学期授業/Spring	158
【C2429】	サイエンスカフェⅣ [渡邊 誠] 春学期授業/Spring	159
【C2227】	災害政策論 [中川 和之] 春学期授業/Spring	160
【C2116】	CSR 論Ⅰ [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring	162
【C2117】	CSR 論Ⅱ [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall	163

【C2413】	自然環境政策論Ⅰ [高田 雅之] 春学期授業/Spring	164
【C2414】	自然環境政策論Ⅱ [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	165
【C2403】	自然環境論Ⅰ [杉戸 信彦] 春学期授業/Spring	166
【C2404】	自然環境論Ⅱ [杉戸 信彦] 秋学期授業/Fall	167
【C2405】	自然環境論Ⅲ [杉戸 信彦] 春学期授業/Spring	168
【C2433】	自然環境論Ⅳ [中井 達郎] 秋学期授業/Fall	169
【C2432】	自然災害論 [杉戸 信彦] 秋学期授業/Fall	170
【C2006】	市民社会と政治 [谷本 有美子] 春学期授業/Spring	170
【C2229】	社会開発論 [新村 恵美] 秋学期授業/Fall	171
【C2207】	社会統計論 [藤本 隆史] 春学期授業/Spring	172
【C2800】	情報処理基礎 [小林 信彦] 春学期授業/Spring	173
【C2801】	情報処理基礎 [小林 信彦] 秋学期授業/Fall	174
【C2802】	情報処理基礎 [今枝 佑輔] 春学期授業/Spring	175
【C2803】	情報処理基礎 [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	176
【C2804】	情報処理基礎 [渡邊 誠] 秋学期授業/Fall	177
【C2805】	情報処理基礎 [小林 信彦] 秋学期授業/Fall	178
【C2806】	情報処理基礎 [小林 信彦] 春学期授業/Spring	179
【C2810】	情報処理基礎 [今枝 佑輔] 春学期授業/Spring	180
【C2505】	食と農の環境学Ⅰ [西川 邦夫] 春学期授業/Spring	181
【C2506】	食と農の環境学Ⅱ [湯澤 規子] 春学期授業/Spring	182
【C2507】	食と農の環境学Ⅲ [湯澤 規子] 秋学期授業/Fall	183
【C2508】	スポーツビジネス論Ⅰ [岩村 聡] 春学期授業/Spring	184
【C2509】	スポーツビジネス論Ⅱ [岩村 聡] 秋学期授業/Fall	185
【C2300】	西欧近代批判の思想 [越部 良一] 春学期授業/Spring	186
【C2308】	西洋美術史論 [新保 淳乃] 秋学期授業/Fall	187
【C2423】	大気と社会Ⅰ [丸本 美紀] 春学期授業/Spring	188
【C2424】	大気と社会Ⅱ [北川 徹哉] 秋学期授業/Fall	189
【C2026】	地域協力・統合 [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	190
【C2211】	地域経済論 [湯澤 規子] 春学期授業/Spring	191
【C2213】	地域コモンズ論 [船戸 修一] 秋学期授業/Fall	192
【C2212】	地域福祉論 [宮脇 文恵] 春学期授業/Spring	193
【C2407】	地球科学史Ⅰ [谷本 勉] 春学期授業/Spring	194
【C2408】	地球科学史Ⅱ [谷本 勉] 秋学期授業/Fall	195
【C2025】	地球環境政治論 [横田 匡紀] 春学期授業/Spring	195
【C2010】	地方自治論 [谷本 有美子] 秋学期授業/Fall	196
【C2950】	テーマ別英語1 (スキルアップ科目) [CHUANFEI WANG] 春学期授業/Spring	197
【C2956】	テーマ別英語3 (スキルアップ科目) [ロバート・G・ジェイムズ] 春学期授業/Spring	198
【C2959】	テーマ別英語4 (スキルアップ科目) [ロバート・G・ジェイムズ] 秋学期授業/Fall	199
【C2809】	統計とデータ分析 [渡邊 誠] 春学期授業/Spring	200
【C2214】	都市環境論Ⅰ [難波 匡甫] 春学期授業/Spring	201
【C2215】	都市環境論Ⅱ [難波 匡甫] 秋学期授業/Fall	202
【C2216】	都市デザイン論 [田中 大助] 春学期授業/Spring	203
【C2120】	途上国経済論Ⅰ [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	204
【C2121】	途上国経済論Ⅱ [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall	205
【C2312】	日本環境史論Ⅰ [根崎 光男] 春学期授業/Spring	206
	プログラム修了論文 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	207
【C2313】	日本環境史論Ⅱ [根崎 光男] 秋学期授業/Fall	208
【C2302】	日本詩歌の伝統 [日原 傳] 春学期授業/Spring	209
【C2307】	日本美術史論 [豊田 和平] 秋学期授業/Fall	210
【C2600】	人間環境学への招待 [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	211
【C2602】	人間環境学への招待 [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	212
【C3200】	人間環境セミナー (現場からみる SDGs (持続可能な開発目標)) [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	213
【C3201】	人間環境セミナー (離島講座) [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	214
【C3204】	人間環境セミナー (サステイナブルな社会と生活協同組合の実践) [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	215
【C2570】	人間環境特論 (地域資源社会論) [湯澤 規子] 秋学期授業/Fall	216
【C2571】	人間環境特論 (ジェンダーと家族の社会学) [佐伯 英子] 春学期授業/Spring	217
【C2572】	人間環境特論 (社会学理論と現代社会) [佐伯 英子] 春学期授業/Spring	218

【C2573】 人間環境特論（健康 [Please insert into preamble] まちづくり＝スマート・ウェルネス・シテイの挑戦） [塚尾 晶子] 秋学期授業/Fall	218
【C2574】 人間環境特論（都市政策への挑戦～湘南からのメッセージ～）[杉渕 武] 秋学期授業/Fall	219
【C2575】 人間環境特論（市民参加×まちづくり～地域コンサルティングの現場から）[佐谷 和江] 春学期授業/Spring	221
【C2128】 人間の安全保障 [植村 充] 秋学期授業/Fall	222
【C2807】 ネットワークとマルチメディア [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	223
【C2502】 廃棄物・リサイクル論 [楠木 儀郎] 秋学期授業/Fall	224
【C2303】 比較演劇論Ⅰ [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	225
【C2304】 比較演劇論Ⅱ [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	226
【C2105】 ビジネスヒストリー [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall	227
【C2208】 ファシリテーション論 [鈴木 まり子] 春学期授業/Spring	228
【C2240】 ファシリテーション論 [鈴木 まり子] 春学期授業/Spring	229
フィールドスタディ [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	230
【C2204】 フィールド調査論 [西城戸 誠] 春学期授業/Spring	230
【C2205】 フィールド調査論 [廣本 由香] 秋学期授業/Fall	231
【C2233】 文化経営論 [荒川 裕子] 秋学期授業/Fall	232
【C2127】 平和学 [植村 充] 春学期授業/Spring	233
【C2131】 簿記入門Ⅰ（2016年度以降入学者）[大下 勇二] 春学期授業/Spring	234
【C2109】 簿記入門Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）[大下 勇二] 年間授業/Yearly	235
【C2132】 簿記入門Ⅱ（2016年度以降入学者）[大下 勇二] 秋学期授業/Fall	236
【C2102】 マクロ経済学Ⅰ [今 喜史] 春学期授業/Spring	237
【C2103】 マクロ経済学Ⅱ [今 喜史] 秋学期授業/Fall	238
【C2100】 ミクロ経済学Ⅰ [芦田 登代] 春学期授業/Spring	239
【C2101】 ミクロ経済学Ⅱ [芦田 登代] 秋学期授業/Fall	240
【C2002】 民法Ⅰ [花立 文子] 春学期授業/Spring	241
【C2003】 民法Ⅱ [花立 文子] 秋学期授業/Fall	242
【C2314】 ヨーロッパ環境史論Ⅰ [辻 英史] 春学期授業/Spring	243
【C2315】 ヨーロッパ環境史論Ⅱ [辻 英史] 秋学期授業/Fall	244
【C2019】 労働環境法 [水野 圭子] 春学期授業/Spring	245
【C2220】 労働環境論Ⅰ [長峰 登記夫] 春学期授業/Spring	246
【C2221】 労働環境論Ⅱ [長峰 登記夫] 秋学期授業/Fall	247
【C2225】 ローカルスタディーズⅠ [船戸 修一] 秋学期授業/Fall	248
【C2226】 ローカルスタディーズⅡ [坂本 昭夫] 秋学期授業/Fall	249
【C3454】 SCOPE Seminar [Atsuko Watanabe] 秋学期授業/Fall	250
【C3455】 SCOPE Seminar [Masaatsu TAKEHARA] 秋学期授業/Fall	250
【C3457】 SCOPE Seminar [Atsuko Watanabe] 春学期授業/Spring	251
【C3458】 SCOPE Seminar [Masaatsu TAKEHARA] 春学期授業/Spring	252
【C3461】 SCOPE Seminar [Shamik Chakraborty] 秋学期授業/Fall	253
【C3462】 SCOPE Seminar [Shamik Chakraborty] 春学期授業/Spring	254
【C3750】 Co-creative Workshop AⅠ [Masaatsu TAKEHARA] 秋学期授業/Fall	255
【C3751】 Co-creative Workshop AⅡ [Masaatsu TAKEHARA] 春学期授業/Spring	256



SOC300HA

## アーティストと社会貢献

庄野 真代

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境、人権、医療、福祉、災害など多様な公共的課題に関するアーティストの社会貢献活動は世界的にみても20世紀半ばから歴史的蓄積があるが、そこから生きた学問を紡ぎ出す作業は未開拓である。そこで、この授業では、私自身の「音楽を通して社会貢献・支援活動」を積んだ経験とともに、社会貢献活動を推進しているアーティストが共生社会の実現にどう関わっているのかを考えながら、参加者自身の社会性を問い直す機会とする。さらに、アーティストと大学の協働による新たな社会貢献論を構想する。

## 【到達目標】

- ・アーティストの社会貢献活動の歴史、現状と課題について理解する。
- ・アーティストが社会貢献活動を通じて訴えたい現代社会の諸問題を考察する。
- ・アーティストの社会貢献活動を通して、自らの社会参加について思考力を高める。
- ・社会貢献活動の実践的な企画力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

まず「アーティスト」「社会貢献」という言葉の定義について理解を深め、アーティストが国際社会や日本で活動を展開してきた歴史的な経緯を確認する。さらに、現代社会におけるアーティストの多様な社会貢献活動から、それらが社会や一般市民の考えにどのような影響をおよぼしていく可能性があるのかを探究。授業形式は、毎回のテーマに添った内容を解説しながら関連した音楽や映像を紹介し、それぞれが調べてきた豆情報を持ち寄り進めていく。授業期間内に1～2回、ゲスト講師を迎える予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講師の自己紹介と講義ガイダンス
第2回	アーティストとは？社会貢献とは？	芸術は人が豊かな精神生活を営む上で不可欠なもの。その担い手であるアーティストの定義や社会貢献の意味への理解を深める。
第3回	プロテストソングの誕生～アーティストと現代史（1）	1960年代にアメリカのフォーク歌手らが政治的抗議の歌を歌い、ジョンレノンらによって他ジャンルに広がり、音楽が社会活動となった経緯を知る。ビート・シーガーなど。
第4回	代表的アーティストの社会貢献と自己変容～アーティストと現代史（2）	イギリスとアイルランドのロック／ポップス界のスター達で結成された「ライブ・エイド」（1984年）を契機に「USA フォー・アフリカ」「LIVE 8」などが作られ、多くのアーティストが慈善活動家として動き出した時代を考察する。ボブ・ゲルドフ、ボノなど。
第5回	社会貢献活動の軌跡～アーティストと現代史（3）	平和・環境・子ども・HIV/AIDS、貧困、災害支援、地域など、諸問題に取りくむアーティストの活動を知る。マイケルジャクソンなど。
第6回	国際社会とアーティスト～親善大使としての役割	国や文化の違いを超えて交流できるアートの有用性を考察するとともに、国内外の親善大使として活動するアーティストがどのような働きをしているのかを探ってみる。アンジェリーナ・ジョリーなど。
第7回	東日本大震災とアーティストの社会貢献活動	震災後、アーティストたちが被災地支援のために手がけたことを検証するとともに、各地における反応や成果、その継続性について考察する。レディガガなど。
第8回	アートと市民社会組織	アート（文化・芸術）の促進活動そのものが社会貢献活動になっているNPO/NGO、市民団体について考察する。
第9回	企業とアーティストの協働	企業や団体が行う社会貢献活動において、アーティストが関わる（チャリティイベントなど）ケースの企画意図や効果について考える。

第10回	コミュニティ形成とアーティストの役割	アートのある場所には人が集まり一時的なコミュニティができる。そこでのアーティストの果たす役割について考察する。
第11回	社会貢献活動の企画ワークショップ	社会貢献イベントなどを自分で企画してみる。
第12回	アーティスト参加型プロジェクトのケース	「ピンクリボン」「ほっとけない世界のまずしさキャンペーン」「なんとかしなきゃ！プロジェクト55億人」など、啓蒙プロジェクトに参加してきたアーティストの活動を知る。
第13回	クラウドファンディングなどによる支援活動例	アーティストが社会貢献するための資金集めについて最近の動向を考察し、誰もが社会参加につながる方法を知る。
第14回	新たな知の創造と社会貢献活動の展望	授業内容に基づきながら、新たな社会貢献論を構想し、さらに、社会の触媒としてのアートから生まれた提言が、今後どのように市民社会で発展しているのかを探究する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回のテーマに沿ったリサーチレポートを書いてくる。提出は第5回の講義の時。

## 【テキスト（教科書）】

資料を適宜、配布

## 【参考書】

その都度、紹介

## 【成績評価の方法と基準】

①リサーチレポート 30%、②課題レポート 40%、③授業内試験 30% による総合評価

## 【学生の意見等からの気づき】

現在活動中のアーティストの動画などの紹介が好評だったため、今期も新しい情報を提供しながら講義を進めていきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

- ・ゲスト講師をお迎えする回もあります。その場合はテーマが変更になります。
- ・講師が主催しているチャリティイベントなどのボランティアスタッフを希望される方は歓迎します。是非、実際の社会貢献プログラムを体験してみてください。
- ・「人間環境特論（アーティストと社会貢献）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。
- ・履修希望者は初日に志望書を書いていただきます。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This is a course to learn social contribution by artists through music and other performances. Students will learn the footprints of artists, who have developed social contribution and support activities through music while analyzing their messages and will explore ways to engage with their own society.

LAW300HA

## アメリカ環境法

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

### 【Outline and objectives】

This course will give you the fundamental principles of United States environmental law. Among those, the National Environmental Policy Act, Superfund (CERCLA) and nature conservation law are highly evaluated. On the other hand, the prevention of air pollution is lagging behind the global tide.

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アメリカ環境法の基本を学びます。アメリカ環境法には、優れた環境影響評価、土壌汚染対策、自然保護に関する法制度があります。その一方で、大気汚染の防止については、世界的潮流から距離を置いています。このような特徴を学びます。

### 【到達目標】

社会に出て、国際的な影響力のあるアメリカ環境法に関係する業務に向き合ったときのために、基本的な理解力をつけることを目指します。また、アメリカ環境法の特徴を学ぶことで、わが国の環境法を考えるとときに、比較して検討できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この講義では、法学を専門としていない学生を対象に、アメリカ環境法を講義します。まず、その概要をみた後、アメリカが公害問題にどのように対応してきたかを学びます。これに続いて、環境影響評価、大気・水・土壌といった個別の法規制について検討していきます。そして、現在注目を集めている自然保護とエネルギーに関する法制度を学習します。また、特徴のある州法を例に挙げて議論します。最後に、軍に対する環境法規制を考えてみたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	アメリカ環境法の概要	連邦政府と州の環境法、政府機関や環境NGOの果たす役割
第2回	アメリカ環境法の歴史	環境規制の始まりと現代的展開
第3回	連邦環境政策法（1）	環境影響評価の仕組み
第4回	連邦環境政策法（2）	具体的事例の検討
第5回	大気汚染防止法	規制内容と具体的訴訟
第6回	水質汚濁防止法	規制内容と具体的訴訟
第7回	土壌汚染対策に関連する規制	スーパーファンド法等
第8回	廃棄物・化学物質に関する規制	資源保護回復法等
第9回	自然保護（1）	海、河川、湿地等の保護
第10回	自然保護（2）	森林の保護・国立公園制度
第11回	自然保護（3）	絶滅危惧種等の保護
第12回	エネルギー法	化石エネルギー、核エネルギーと法、自然エネルギーと法
第13回	コモンローと環境法	州法で特徴のある環境規制
第14回	軍と環境法	軍に対する国内外での環境規制

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

### 【参考書】

諏訪雄三『アメリカは環境に優しいのかー環境意思決定とアメリカ型民主主義の功罪』（新評論、1996年）、畠山武道『アメリカの環境保護法』（北海道大学図書刊行会、1992年）。

### 【成績評価の方法と基準】

定期試験（100%）により評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

動画等を用いたわかりやすい授業をこれからも実施していく予定です。

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター

### 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

LAW200HA

## アメリカ法の基礎

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アメリカに興味のある方を対象に、その法制度の基本的な特徴を講義します。憲法上の問題を中心に、統治制度や人権保障のあり方などを検討していきます。それぞれのテーマでは、興味深い判例を紹介していきます。

## 【到達目標】

学生が、この授業をとおして、アメリカ法の基本的な制度を理解できるようになるとともに、社会問題の解決策がひとつではなく、様々なアプローチがあることを理解できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

この講義では、法学を専門としていない学生を対象に、アメリカ法の基礎を講義します。まず、導入部としてアメリカの歴史と法の発展を学びます。これに続いて、連邦制度と、独自の三権分立を学びます。この後、わが国の憲法にも大きな影響を与えて続けている人権法について、その代表的なトピックを学習します。そして、社会に出てからも役に立つ労働法、独占禁止法、契約法、不法行為法などを講義します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	アメリカ法の歴史	植民地時代、独立革命、連邦憲法の制定、英米法の特徴
第 2 回	連邦制度	特に憲法、軍隊等をもつ州政府について
第 3 回	連邦議会	連邦議会の特色、日本の議会との差異
第 4 回	大統領	大統領の権限、大統領府の組織
第 5 回	司法権	連邦裁判所、法曹、陪審制、州の司法権との関係
第 6 回	表現の自由	表現の自由の限界、報道の自由
第 7 回	集会・結社の自由、通信の秘密	これらの自由とその限界
第 8 回	信教の自由	信教の自由の限界と国教樹立の禁止
第 9 回	プライバシーの保護	個人、家族、ライフスタイルのプライバシー
第 10 回	法の下での平等（1）	人種差別の規制
第 11 回	法の下での平等（2）	男女差別等の規制
第 12 回	労働法・社会保障法	米国の社会労働法制の特徴
第 13 回	経済的自由とその限界	独占禁止法等の仕組み
第 14 回	契約法・不法行為法	米国の特色ある制度について

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用し必ず予習・復習をすること。法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

## 【参考書】

松井茂記『アメリカ憲法入門（第7版）』（有斐閣、2012年）。

## 【成績評価の方法と基準】

定期試験（100%）により評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

これからも、アメリカ法に興味を持って頂ける授業をしていきたいと思ひます。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100, 「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This course will give you the fundamental principles that comprise the American legal system. We will examine the United States Constitution, centering on the issues of the federal government and civil rights. For each issue we will learn important judicial precedents.

LIN100HA

## 英語 I（スキルアップ科目）

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4 年／1 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、CALL(Computer Assisted Language Learning) 教材や authentic な映画などを用いて、日常会話の基礎力を養います。

## 【到達目標】

英語でのコミュニケーションに親しみを持つことが第一目標です。また、厳しいステップではありますが、教材の英語と生の英語の違いを学ぶことも重要です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

最初は、後述のテキストと同 CALL 教材により、基礎的なリスニングとスピーキングの力を養います。教材に慣れてきたら、インプットのバラエティを豊かにし authentic な英語表現になじむため、随時映画やドラマの断片も教材とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスと後述のテキストに基づいて、講座概要を説明します。CALL 教材のデモンストレーションもあります。受講者選抜となる可能性が高いので、受講を希望する人は、必ず出席してください。
第 2 回	テキスト Chapter1・2（旅行編）	‘Where Do I Get the Bus?’ (Getting information) ‘Do You Have a Reservation, Ma’am?’ (Checking in at a hotel) ‘Could You Repeat That?’ (Asking for directions)
第 3 回	テキスト Chapter3・4（旅行編）	‘I’ll Take the Wrangler Convertible’ (Renting a Car) ‘Would You Like Soup or Salad?’ (Ordering a meal)
第 4 回	テキスト Chapter5・6（旅行編）	‘Where’s the Fitting Room?’ (Shopping for clothes) ‘Would You Mind Taking My Picture?’ (Asking for a favor)
第 5 回	テキスト Chapter7・8（旅行編）	‘Good to See You!’ (Meeting a friend) ‘I Enjoyed My Stay’ (Checking out of a hotel) ‘Aisle Seat, Please’ (Expressing preference)
第 7 回	テキスト（旅行編）の応用	テキスト（旅行編）で学んだ状況と表現の応用として、映画やドラマに登場する類似の場面を扱います。
第 8 回	テキスト Chapter13・14（留学編）	‘So, What’s Your Major?’ (Self-introduction) ‘I’ll Try to Do My Best’ (Getting advice)
第 9 回	テキスト Chapter16・17（留学編）	‘Do You Have Any ID?’ (Opening a bank account) ‘How about Sea Mail?’ (Sending a package)
第 10 回	テキスト Chapter18・19（留学編）	‘Would You Like to Join Us?’ (Inviting a friend) ‘I Have a Sore Throat’ (Buying medicine)
第 11 回	テキスト（留学編）の応用	テキスト（留学編）で学んだ状況と表現の応用として、映画やドラマに登場する類似の場面を扱います。
第 12 回	復習（1）	テキスト Model Dialogue 復習のための小テスト（口頭）を行います。今期全体についてのポイント講義を行います。

- 第13回 期末試験 13回分の学習の定着度を確認するため、リスニングを含む筆記試験を行います。この試験では、正確さを重視します。
- 第14回 復習(2) 期末試験を返却し、これに基づくフィードバックと学習アドバイスをを行います。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業前に、各 Chapter の Communication Focus には目を通してください。授業後は、Main Dialogue と Interview を復習してください。また、授業内でのタスクのために、Model Dialogue は完全に覚える必要があります。

#### 【テキスト（教科書）】

Viva! San Francisco (Macmillan Languagehouse)  
written by Hiroto Ohyagi and Timothy Kiggell.  
2,000 JPY

#### 【参考書】

URL (例)

<https://www.expedia.co.uk/>

<https://www.ox.ac.uk/gazette/>

<https://www.londontheatre.co.uk/> など。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) と期末試験 (50%) から総合的に評価します。合計 4 回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

「実践的な英語表現が身につけてよかった」・「映画を用いたタスクが楽しかった」・「新しいCALLシステムにふれたのが新鮮だった」など、前向きなコメントが多く嬉しく思いました。「映画のタスクをもっとやりたかった」という意見もあったので、2019年度の受講生の様子を見ながら、教材英語と authentic な英語のバランスを調整したいと思います。

#### 【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室での授業です。

#### 【その他の重要事項】

当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。初回授業にて選抜または抽選を行う可能性が高いです。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

You will be encouraged to improve your everyday conversation in English. Learning materials include those for CALL(Computer-assisted-language-learning) and authentic movies and drama which can be adult learner-friendly.

LIN100HA

## 英語 I (スキルアップ科目)

永井 大輔

配当年次/単位：1~4年 / 1単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的な表現を題材として、英語リスニング能力の基礎を身につけます（あるいは身につける方法を学びます）。

#### 【到達目標】

- ・平易で自然な英語でのやり取りを聞き取れるようにします。
- ・日常的な表現がわかるべき状況ですぐに口から出てくるようになるまで身につけます。
- ・英語音声を集約して繰り返し聞き慣れるように身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

主に教科書を用いながら、授業中にできるだけ多くの英語を解説とともに聴き、それぞれのテーマの表現に耳を慣らします。練習問題については、正解以外のことについても質問します。さらに、耳で覚えた表現を適切な発音で用いることが出来るように、適宜文字を見ずに口に出す練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容や進め方について、シラバスに書いてあることの他に、細かい注意点などを説明します。学期中に注意点を守らなかった場合には不利益が生じる可能性があります。必ず出席して下さい。
第2回	教科書 Unit 1	場面：トラブル・困難 表現：位置・場所
第3回	教科書 Unit 2	場面：乗り物 表現：時間・期間、頻度
第4回	教科書 Unit 3	場面：ショッピング 表現：数量・距離・長さ
第5回	教科書 Unit 4	場面：スポーツ・エンターテイメント 表現：感情表現
第6回	教科書 Unit 5	場面：食事/レストラン 表現：勧誘/提案、依頼
第7回	教科書 Unit 6	場面：旅行・レジャー 表現：判断・評価
第8回	教科書 Unit 7	場面：ビジネス、オフィス 表現：経験・完了
第9回	教科書 Unit 8	場面：インターネット・コンピューター関連 表現：情報の交換
第10回	教科書 Unit 9	場面：金銭・費用関連 表現：方法・手段
第11回	教科書 Unit 10	場面：ホテルで 表現：原因・理由
第12回	教科書 Unit 11	場面：天候 表現：予定/日程/計画
第13回	教科書 Unit 12	場面：電話 表現：許可/義務・必要
第14回	教科書 Unit 13	場面：学校 表現：位置・場所

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の各 Unit の内容は、練習問題の音声も含めてすべて授業中の質問や発話練習の対象となります。意味の分からない語彙がないように丹念に辞書等で調べ、表現のフレーズはさまざまなパターンを自分で作ってみてください。長い音声はワークシートによるディクテーションタスクの対象となります。

#### 【テキスト（教科書）】

Michael Schauerte and Koji Nishiya, Listening Practice for Daily Expressions (『日常表現リスニング 15 章』) (音羽書房鶴見書店、2012 年) 1,800 円 (税別) ISBN978-4-7553-0362-3

毎回の授業には辞書（英和もしくは英英、授業回によっては和英も）の持参が必須となります。授業中に使用できるのは紙媒体もしくは専用装置型のもののみなので注意すること。

#### 【参考書】

特に指定しません

**【成績評価の方法と基準】**

授業への取り組み（参加度・貢献度・パフォーマンス）：80%  
 ・質問に対して十分な予習をふまえた受け答えができたかどうか  
 ・Unit ごとの表現を自然な発音・ストレス・抑揚・ポーズとともに話すことができたかどうか

授業回ごとの提出物：20%

・ディクテーションを主体とするワークシート

欠席および遅刻について

・学期中に4回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積3回で欠席1回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【学生が準備すべき機器他】**

教科書に付属している CD に収録された音声を繰り返し聴ける機器環境を必ず確保して下さい。また、自分で英語表現を声に出す練習のできる時間と場所を確保して下さい。

**【その他の重要事項】**

この科目は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行ないます。受講を希望する学生は、必ず初回授業に出席して下さい。

この科目は定期試験や授業内試験を行わず、平常点のみで評価しますので、毎週十分な時間を予習に割り、必ず出席して下さい。

各課題においてコピー、他受講者の引き写し、著作物の剽窃、機械翻訳を行なったことが発覚した場合、該当受講生に対する該当授業回の評価を無しとします。同様の行為を繰り返した場合は、さらに厳しい措置がとられることも考えられますので注意しましょう。また、他の受講生による上記の行為に協力したりしないよう注意して下さい。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

Students will acquire basic skills of listening comprehension by learning daily expressions in English.

LIN100HA

**英語Ⅱ（スキルアップ科目）**

磯部 芳恵

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

In this course, students study English holistically (listening, speaking, writing, reading) using a textbook accompanied by videos to increase their knowledge and understanding of many important aspects of American culture and society.

**【到達目標】**

The goal of this course is to enable students to learn about American culture and society. By paraphrasing and acting out students should be able to develop communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】****1. Listening**

Students are taught: general comprehension(listening for gist, looking for detailed information, dictation close)

**2. Speaking**

Students are taught: paraphrasing and acting out

**3. Writing(a reaction paper and the favorite line in each unit)**

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	Unit 1 Andy Meets Miranda	About the course, Words & phrases, first viewing, listening exercise
第2回	Unit 1 Andy Meets Miranda	Second viewing, exercises and acting out
第3回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第4回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	Second viewing, exercises and acting out
第5回	Unit 3 Miranda, the Almighty	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第6回	Unit 3 Miranda, the Almighty	Second viewing, exercises and acting out
第7回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第8回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	Second viewing, exercises and acting out
第9回	Unit 5 Andy Performs a miracle	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第10回	Unit 5 Andy Performs a miracle	Second viewing, exercises and acting out
第11回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第12回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	Second viewing, exercises and acting out
第13回	Review	Vocabulary review and discussion about
第14回	Feedback	Overall review and feedback

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are required to be prepared for exercises A, B & E.

**【テキスト（教科書）】**

*The Devil Wears Prada* (松柏社、2,200円)

**【参考書】**

An English-Japanese dictionary will be useful. A good online English-Japanese dictionary can be found here:

<http://www.alc.co.jp/>

**【成績評価の方法と基準】**

Class participation 30 %

Acting out 30 %

Final test 40 %

Unexplained/unjustified absences exceeding three class sessions may disqualify students from obtaining credit for the course. Lateness exceeding 15 minutes without justification will count as one-third absence.

**【学生の意見等からの気づき】**

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. The instructor always welcomes and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

**【学生が準備すべき機器他】**

Students should bring general stationery (e.g. pen, pencil, glue, paperclips).

**【その他の重要事項】**

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

In this course, students study English holistically (listening, speaking, writing, reading) using a textbook and accompanied by videos to increase their knowledge and understanding of many important aspects of American culture and society.

LIN100HA

**英語Ⅲ（スキルアップ科目）**

**磯部 芳恵**

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

This course will integrate all language skill areas. Listening and reading exercises will be used to acquaint students with a variety of current global topics. Speaking and writing activities will be applied to organize their ideas and opinions. Students will develop discussion and critical thinking skills.

**【到達目標】**

The goal of this course is to develop students' abilities to communicate confidently in English and to be able to express one's thoughts clearly.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

Students practice Obama's speech at the beginning of each lesson and then moves on to the main textbook.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	Course introduction Unit 1 A great read	Grammar and vocabulary
第2回	Unit 1 A great read	Conversation
第3回	Unit 1 A great read	Reading
第4回	Unit 1 A great read	Review
第5回	Unit 2 Technology	Grammar and vocabulary
第6回	Unit 2 Technology	Conversation
第7回	Unit 2 Technology	Reading
第8回	Unit 2 Technology	Review
第9回	Unit 3 Society	Grammar and vocabulary
第10回	Unit 3 Society	Conversation
第11回	Unit 3 Society	Reading
第12回	Unit 3 Society	Review
第13回	Checkpoint 1	Review Unit 1-3
第14回	Wrap-up and final exam	Wrap-up and final exam

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Preparation for each unit, reading and writing a summary and doing the exercises. Get ready for the recitation of Obama's speech in June.

**【テキスト（教科書）】**

Viewpoint 2(Cambridge University Press)

『オバマ演説集』（朝日出版社）1,000円

**【参考書】**

An English to English Dictionary is recommended.

**【成績評価の方法と基準】**

Attendance and participation 40%, recitation 10%, in-class test 50%.

\*\*Class attendance is a course requirement.

Students are allowed no more than three absences in the semester.

**【学生の意見等からの気づき】**

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes.

The instructor always welcomes and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime

**【その他の重要事項】**

Attendance is important and this attendance policy will be explained in the first class.

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This course will integrate all language skill areas. Listening and reading exercises will be used to acquaint students with a variety of current global topics. Speaking and writing activities will be applied to organize their ideas and opinions. Students will develop discussion and critical thinking skills.

LIN100HA

**英語Ⅳ（スキルアップ科目）****磯部 芳恵**

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

This course focuses on improving the students' communication skills by their summarizing news stories and doing role-playing in order to be better able to deal with business situations in the future.

**【到達目標】**

This course aims to develop business communication skills that will help learners to interact in a business context and be able to give a convincing presentation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

Students practice listening and speaking using the news digest and then moves on to the main textbook.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	Course introduction & Unit 1	Mini lesson
第2回	Unit 1 Working life	Vocabulary
第3回	Unit 1 Working life	Video and discussion
第4回	Unit 2 Projects	Vocabulary
第5回	Unit 2 Projects	Key expressions
第6回	Unit 3 Leisure time	Vocabulary
第7回	Unit 3 Leisure time	Key expressions
第8回	Review	Review Unit 1-3
第9回	Unit 8 Working together	Vocabulary
第10回	Unit 8 Working together	Vocabulary
第11回	Unit 8 Working together	Key expressions
第12回	Unit 12 Innovation	Vocabulary
第13回	Unit 12 Innovation	Key expressions
第14回	Wrap-up and final exam	Presentation and in-class test

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students will do the reading part at home and get prepared for presentations.

**【テキスト（教科書）】**

Business Result Intermediate(Oxford University Press)

**【参考書】**

Students must have access to a computer with internet connection in order to complete some home research tasks.

**【成績評価の方法と基準】**

Attendance & Participation 40%, Presentation 20%, Test40%.

\*\*Class attendance is a course requirement.

Students are allowed no more than three absences in the semester.

**【学生の意見等からの気づき】**

Students will be given more opportunities to study the current news.

**【その他の重要事項】**

Attendance is important and the attendance policy will be explained in the first class in September.

※本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This course focuses on improving the students' communication skills by their summarizing news stories and doing role-playing in order to be better able to deal with business situations in the future.

SOM300HA

## 衛生・公衆衛生学 I

児玉 ゆう子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学は予防医学管理 ID であり、疾病の予防、健康の保持増進をはかる科学技術の探究である。歴史的には伝染病の予防に始まり、現在では循環器疾患、心疾患、がん、糖尿病などの生活習慣病の予防から環境と疾病の関係を追及し、さらに健康の疫学へと進み、健康の保持増進をはかるための方策を探索するところまで進んでいる。本講座においては、予防医学の基礎となる考え方を学ぶとともに、現代社会に潜むさまざまな健康関連問題を取り上げる。健康意識の提起を行い、個人として自己健康管理を行ううえで必要な知識を習得することを目的としている。

## 【到達目標】

各種の健康問題の実情を学び、学生が取るべき健康行動について考えていく。たとえば、学生生活においてしばしば問題となる飲酒行動について、アルコール摂取により体に何が起こるのかを知り、飲酒に関わる問題を引き起こさないためにどのような健康行動を身に着けていくべきかについて具体的にその方法を考えることができるようになる。これらの学びの積み重ねによって、学生は、将来の疾病を予防し、健康寿命を延長していくことが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

少子化、超高齢化社会において問題となっている医療関連の話題について学ぶ。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学 I～III の内容は若干重複することがある。授業は講義形式でおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義を受けるにあたっての心構え、予防医学の基本的概念・予防医学の基礎について
第 2 回	ライフスタイルと生活習慣病①	生活習慣病の概念、病気の種類
第 3 回	ライフスタイルと生活習慣病②	主要死因とその関連疾患、生活習慣病の予防について
第 4 回	ライフスタイルと生活習慣病③	生活習慣病各論
第 5 回	ライフスタイルと生活習慣病④	生活習慣病各論
第 6 回	喫煙の健康影響①	タバコの害、法的規制、社会の取り組み
第 7 回	喫煙の健康影響②	喫煙による疾病、禁煙について
第 8 回	アルコールの健康影響①	アルコールの健康被害について
第 9 回	アルコールの健康影響②	アルコール依存症について
第 10 回	少子・高齢社会における健康問題①	少子・高齢化社会の健康問題
第 11 回	少子・高齢社会における健康問題②	介護問題、高齢者虐待
第 12 回	児童虐待	児童虐待の現状と対策
第 13 回	感染症	性感染症・食中毒
第 14 回	まとめ・期末試験	まとめ・期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

## 【参考書】

開講時に指定する

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、期末試験 80 %  
期末試験を最終講義日に授業内で行う。持ち込みは不可。

## 【学生の意見等からの気づき】

大人数のため、おしゃべりがうるさいことがあるが、適宜注意をして静かに講義が進められるように配慮する。

## 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Public health is the science and art of preventing disease and promoting human health. The history of public health began with the prevention infectious diseases and developed into the prevention of lifestyle-related diseases, such as cardiovascular diseases, severe cardiac diseases, malignant tumors, and diabetes, and establishing the relationship between causation and one's living environment. Moreover, the science of public health has extended into the epidemiology of health, and studies to establish the policies that encourage health maintenance and improvement.

SOM300HA

## 衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。これは、医学から発達した社会学であり、保健、医療、福祉がその3本柱となっている。公衆衛生の実践活動のためには、絶え間ない教育と組織化された地域社会の努力が必要である。

## 【到達目標】

本講座では、学生は疫学、保健衛生統計学的手法、社会学的手法を用いて問題調査、提起を行い、さらには対策を講じていく過程を学習する。これにより、学生は日々の生活の中で触れる健康情報を評価し、取捨選択を行い、適切な健康行動を取ることが可能となる。

さらに、日本の医療の現状について学び、患者としての適切な受療行動を考える。

また、生命倫理の諸問題について取り上げ、いかに生き、いかに死ぬかについて考えていく。特に終末期医療についての知識を身につけることによって、将来、家族や自分が終末期を迎えたときにどのような医療を受け、いかに死を迎えるかを話し合い、決定する機会を持ち、実施することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

衛生・公衆衛生学Ⅰに引き続き、各種健康問題について、特に近年社会において注目されている各種保健の問題点について学習する。授業は講義形式で行う。

さらに、疫学の基礎、疫学調査、スクリーニングについての知識を得る。実際にスクリーニングプログラムの評価法を学び、健康診断の意味を考える。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	衛生・公衆衛生学概論	衛生・公衆衛生学Ⅱで学ぶ内容を紹介し、学ぶ意義について考える。
第2回	疫学の基礎①	疫学の歴史、各種指標
第3回	疫学の基礎②	バイアス・因果関係
第4回	疫学演習	肺がんと喫煙について、因果関係を考える。 計算問題
第5回	水俣病について	ビデオ鑑賞・感想文提出
第6回	スクリーニング プログラム①	スクリーニングプログラムの条件
第7回	スクリーニング プログラム②	スクリーニングにおける問題点、バイアス
第8回	環境保健	環境と健康
第9回	社会保障	日本の医療制度について
第10回	生命倫理①	医の倫理 医療崩壊 患者と医師の権利と義務
第11回	生命倫理②	安楽死・尊厳死 医療訴訟
第12回	生命倫理③	遺伝子関連問題 遺伝病、色覚異常
第13回	生命倫理④	終末期について 映画鑑賞（死について考える） 感想文提出
第14回	授業内試験	試験を実施し、その後講義全体のまとめを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業後に復習を行う。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

## 【参考書】

必要な場合には開講時に指定する

## 【成績評価の方法と基準】

授業内試験を最終講義日に行う。持ち込み不可（90%）。映画の感想文の提出を平常点として評価する（10%）。

**【学生の意見等からの気づき】**

大人数の講義のため、騒がしいことがあったが、適宜注意を促して静粛な環境で講義を進められるように努力する。

**【学生が準備すべき機器他】**

双方向性の講義を試験的に実施するために、SNS が利用可能な PC、タブレット、スマートフォンなどを利用予定である。

**【その他の重要事項】**

衛生・公衆衛生学 I をあらかじめ受講していることが望ましい。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100. 「7 コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

The aim of public health is health promotion and disease prevention by fully developing the physical and mental abilities of people to protect them from diseases. This is sociology developed from medicine. Health, medical care, and welfare are the three pillars of public health. Practical activities of public health require continuous education and organizational community efforts. In this lecture, we offer students the opportunity to learn important knowledge on public health to live a healthy life.

SOM300HA

**衛生・公衆衛生学Ⅲ**

宮川 路子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。公衆衛生の実践活動のためには、人間の教育および社会の努力が必要である。現在、我が国においては、年間の自殺者数が 1998 年から 14 年間連続して 3 万人を超えていた。現在減少傾向ではあるが、いまだ多くの人が自殺により命を断っている。また、精神的な問題を抱える人の数は大幅に増加しているといわれている。しかし、これらの人が適切に精神科を受診できていないことが問題視されている。

本講座では、とくに精神関連の話題を取り上げ、メンタルヘルスについての幅広い知識を身につけていくことを目的としている。

**【到達目標】**

精神疾患についての知識を身につけることにより、学生が自分自身の精神的な安定を保ち、また自分自身のみならず、家族や同僚、友人など、周りの人の状態にも敏感に気づくことができるようにする。

ものの考え方を考えることによって、精神を健康に保つ方法を身につける。

栄養療法によって精神疾患を防ぎ、改善する知識を身につける。

精神疾患の予防（予防、早期発見・早期治療、社会復帰）を目指し、日本社会にはびこっている偏見を取り除くことも目的としている。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

テキスト、配布資料、パワーポイントを用いながら講義を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第 2 回	精神保健 メンタルヘルスケア①	生涯にわたる精神保健の必要性について 精神保健福祉とその対策 自殺について
第 3 回	メンタルヘルスケア②	産業保健におけるメンタルヘルスケア 過重労働、過労自殺、過労死
第 4 回	メンタルヘルスケア③	ストレスについて 快適職場について
第 5 回	精神障害①	睡眠障害 よい睡眠をとるために大切なこと
第 6 回	精神障害②	気分障害について うつ病、双極性障害
第 7 回	精神障害③	新型うつ病について
第 8 回	精神障害④	摂食障害について
第 9 回	精神障害⑤	不安障害
第 10 回	精神障害⑥	統合失調症
第 11 回	精神障害⑦	発達障害
第 12 回	精神障害の栄養療法①	精神障害に対する栄養療法の実際について（有効な疾患）
第 13 回	精神障害の栄養療法②	精神障害に対する栄養療法の実際について（サプリメント）
第 14 回	授業内試験	試験を実施し、その後講義のまとめを行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業後に復習を行う。新聞をよく読む。

**【テキスト（教科書）】**

こころの「超」整理法 宮川路子 中央経済社 2012 年  
参考資料を適宜配布する。

**【参考書】**

適宜紹介する

**【成績評価の方法と基準】**

授業内試験を最終講義日に行う。持ち込みはテキストのみ可（90 %）。食事内容についてのアンケートを実施する際にはそれを平常点としてカウントする（10 %）。

**【学生の意見等からの気づき】**

大人数の講義のため、騒がしいことがあるが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する。

**【学生が準備すべき機器他】**

双方向性の講義を試験的に実施するために、SNS が利用可能な PC、タブレット、スマートフォンなどを利用予定である。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100. 「7 コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

In Japan, the number of suicide in the year had been over 30,000 for 14 consecutive years since 1998. Although it is currently on a downward trend, many people still lose their lives by suicide. In addition, it is said that the number of people who have mental problems has increased greatly. However, it is regarded as a problem that these people are not appropriately treated by psychiatry medicine.

The purpose of this lecture is to acquire a wide range of knowledge about mental health. Students can aware of their own or their family's mental disorders in the early stage. Students also learn how to be mentally stable by changing the way of thinking and also support it by nutrition therapy.

SOC300HA

**NGO活動論**

小野 行雄

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 6/Fri.6

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

世界が直面する問題を理解し、NGOの活動する場と方法を確とした上で、日本のNGO、国際NGO、「途上国」NGO等の現状を把握し、市民社会におけるNGOの役割、市民としての自分の役割について考える。

**【到達目標】**

- 1 世界の人々が直面している問題とそれら相互のつながりについて体験的に理解する
- 2 NGOと市民社会に関する歴史と現状を理解し、広い視野で世界の人々のつながりを考えられるようになる
- 3 NGO活動を通して自ら世界に関わろうとする積極性と市民性を身につける

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

ワークショップとディスカッションによるグループワークを中心に進める。自ら学び、自ら主体的に関わり、自ら進み行きを決める「参加」があらゆる場面での大きな柱となる。毎回積極的に体験し、意見を交換し、調査し発表する姿勢が求められるため、受動的な意識態度では受講できない。映像資料も多用する。毎回簡単なレポートを作成する時間をとり、次の授業でそれをめぐる意見交換を行いながら先に進める。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション NGOの基礎	グループづくりワークショップ NGOについての基礎情報確認ワークショップ
第2回	NGO活動の基礎－支援の方法	インド山岳民族をめぐるワークショップ「ドンゴリアコンドの人々」とグループ討議
第3回	NGO活動の基礎－開発と近代	インド山岳民族の事例をめぐる介入と近代化についてのグループ討議
第4回	NGO活動の基礎－グローバルイゼーションの影響	インド・ラダック開発に関わるビデオ視聴とグループ討議
第5回	NGO活動の基礎－緊急支援	フィリピン緊急支援事例についてグループ討議
第6回	NGO活動の基礎－地域支援	フィリピン地域支援をめぐるワークショップ「24人にインタビュー」とグループ討議
第7回	NGOの理論	NGOの分類枠組みについて学び
第8回	NGOシミュレーション1	フィリピン地方題材のドキュメンタリー視聴とグループによる支援の検討
第9回	NGOシミュレーション2	グループによるフィリピン支援NGO設立を想定した計画作成
第10回	NGOシミュレーション3	グループによるフィリピン支援NGO設立を想定した計画発表
第11回	NGO事例研究－日本のNGO 2	その他日本NGOについてグループによる事例調査と発表および講義
第12回	NGO事例研究－国際NGO	国際NGOとNGOネットワークについてグループによる事例調査と発表および講義
第13回	NGO事例研究－「途上国」NGO	「途上国」NGOについてグループによる事例調査と発表および講義
第14回	NGOの役割	NGOの社会的役割および社会との関わりについて講義とグループ討議

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回渡される課題ペーパーを読んでくこと。次の回の最初に、そのペーパーを巡って討論を行うこととする。

10月にお台場で行われる「グローバルフェスタ JAPAN」または横浜で行われる「よこはま国際フェスタ」にできる限り参加すること。最初の講義で説明するが、これを一種のフィールドワークとし、情報収集とインタビューを行う実践の場とする。

**【テキスト（教科書）】**

使用しない。

**【参考書】**

授業内で適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

グループワークへの参加度および毎時間のレポートを重視する。  
平常点(発表等)40%、毎時間のレポート 40%、期末レポート 20%

**【学生の意見等からの気づき】**

毎時間 10 分程度のレポート作成の時間をとる。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業時間内でインターネットを使った事例調査を行うため、ネットにつながるパソコンまたはスマートホン持参が必須となる。

**【その他の重要事項】**

グループワークを中心とするので、主体的学習意欲があること、積極的にコミュニケーションをとる意志があることが必須条件である。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き (P100. 「7 コース制」) を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

Understanding modern issues of the world and situations of NGOs.  
Thinking of roles of NGOs and our own in civil society, and developing the positive attitude toward the participation.

SOC200HA

**NPO・ボランティア論**

川崎 あや

配当年次/単位：1～4 年 / 2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

NPO (Nonprofit Organization) は、市民によって設立・運営される非営利組織です。多様な分野で、行政や企業が取り組みにくい社会問題の解決や公益的なサービスに取り組んでいます。日本でNPOが注目されるようになって20年あまりが経ちました。

市民はNPOに、ボランティアなどの様々な形で参加することで、社会に働きかけ、市民的公共性を創出する担い手となります。この授業では、NPOやその担い手についての理解を深めることを通して、現代社会の様々な課題を探るとともに、ひとりひとりが、市民として、社会とどのように関わっていくのかを考える機会とします。

**【到達目標】**

・NPOの意味、役割、これまでの歴史、運営や財源、行政や企業との関係などについて理解を深めるとともに、NPOが継続・発展する上での課題を考える。

・NPOが多様な人々(ボランティア、寄付者、その他の支援者等)に支えられて存在していることを理解するとともに、NPOに関わる人たちがなぜNPOに関わるのかを考える。

・NPOが取り組んできた課題を通して、社会の変化や現代社会の課題について問題意識をもつ。

・今後の市民社会はどのような方向に進むべきか、また市民一人ひとりが、社会とどのように関わるべきか、学生自身も含めて考える。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

・原則として各回ごとに、テーマにそった講義を行います。

・毎回、リアクションペーパー(感想・質問・意見)を任意で提出してもらいます。

・リアクションペーパーの質問については、次の授業の冒頭でコメントし、前回授業の振り返りの時間をとります。また、リアクションペーパーの意見等をもとに、学生からも意見を出してもらい、学生間で様々な視点や意見を学びあいます。

・NPOに参加し活動している学生から、発表してもらう時間をとります。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目標、内容、進め方についての説明
第2回	NPOの基礎知識～NPOとは何か	・NPOの意味と意義 ・NPOとボランティアの関係 ・NPOとNGO ・非営利の意味
第3回	NPOの社会的役割～事例を通して①	・NPOの具体的な活動事例(子育て、介護、生活困窮者支援、国際協力等)をもとに、NPOの社会的役割を考える。
第4回	NPOの社会的役割～事例を通して②	・NPOの具体的な活動事例(子育て、介護、生活困窮者支援、国際協力等)をもとに、NPOの社会的役割を考える。
第5回	市民社会の変遷とNPO	・日本における市民社会の歴史 ・市民活動からNPOへの変遷
第6回	NPO法人制度(NPO法の目的と内容)	・NPO法とは ・NPO法の制定過程 ・他の法人制度との比較 ・公益法人制度改革
第7回	NPOのミッションと組織	・NPOのミッションを実現するための組織構造 ・市民の多様な関わり方 ・行政組織や企業組織との違い
第8回	NPOの財政	・NPOの財政構造 ・財源の多様性と特性 ・NPOにとって寄付の重要性 ・NPO法人の税制(寄付金控除)
第9回	NPOとボランティア～なぜNPOにボランティアが集うのか	・NPOにおけるボランティアの重要性 ・社会参加・自己実現の場としてのNPO

第10回	NPOと雇用～NPOで働く人たち	・雇用・就労の場としての可能性と課題 ・NPOの就労実態 ・NPOの職域
第11回	NPOによる社会変革～NPOと政治・NPOの政策提案	・NPOと政治の関係 ・政策提案による社会変革の担い手としてのNPOの役割 ・中間支援組織の役割
第12回	セクター間連携～NPOと行政	・自治体のNPO支援施策 ・行政とNPOの協働
第13回	セクター間連携～NPOと企業、ソーシャルビジネス	・NPOと企業の共通点、相違点 ・NPOと企業の協働 ・ソーシャルビジネス（社会的起業）とNPOの関係
第14回	授業の振り返りと補足	・全体を通しての授業の振り返り ・学生の関心の高かったテーマについての補足、等

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
・各回のレジュメ（パワーポイント資料）配布するので、授業後、各自授業内容を振り返り内容をよく理解し、自分なりの考えを整理してみる。疑問点等があれば、次回授業のリアクションペーパーで提出してください。  
・欠席した場合も授業支援システムからレジュメをダウンロードして授業内容を把握しておくこと。  
・参考書等で授業内容と関連する内容を読み、考察を深めること。  
・各自で、関心のある分野のNPOの事例をインターネット等で調べたり、NPO支援センターなどで情報収集したり、実際にボランティア参加してみることをお勧めします。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

#### 【参考書】

「市民社会とNPO」 かながわ女性会議発行 600円  
「市民社会と自己実現」 岡守徳著 有信堂 2500円＋税  
「知っておきたいNPOのこと基本編」 日本NPOセンター発行 500円  
その他、授業内でも紹介します。授業で聞くだけでなく、参考書のいずれかを購入するか、各自でNPOに関する本や小冊子を手し、授業とあわせて理解や考察を深めるようにしてください。

#### 【成績評価の方法と基準】

定期試験（論述式。テキスト・レジュメ等の持ち込み可）を実施。論述では、①授業内容を的確に理解しているか（30%）、②自分自身の意見や問題意識が述べられているか（50%）、③考えを整理してわかりやすく論じられているか（20%）、を重視して評価する。  
※毎回のリアクションペーパーの提出回数や記述内容は、原則として成績評価には反映させません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

NPOにボランティア等で参加している同年代の学生の発表は、他の学生に共感を招き、興味も深まるようです。NPO等での活動経験がある学生には、ぜひ積極的に報告してもらいたいと思います。発表できる学生はリアクションペーパー等で申し出てください。  
・NPOが取り組む社会問題を、自らの実体験や今後の進路等とも重ねあわせて意見を述べる学生が多くみられます。自らの生き方や生活とどう関わるのか、また、自らも社会の構成員としてどう関わるべきことなのか、という視点で学習に臨むことは重要です。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

#### 【その他の重要事項】

・約30年間、神奈川でNPOの活動現場で、NPO支援や生活困窮者支援に携わってきた経験をもとに、具体的な事例や体験談（神奈川での事例が主となります）を交えた授業となります。  
・学生による発表を随時取り入れたいと思いますので、授業計画を一部変更することもあります。

#### 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100,「7コース制」）を参照してください。

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

Organization in Japan is known as an NPO is a non-profit organization and established cooperation with citizens, operates private. Committed to the solution of social problems in various fields, Government and companies hard to work and services of public interest. NPO appeared in Japan since more than 20 years. Civil society to civil public sphere creation by NPO to participate in various ways, such as volunteer leaders. The opportunity to think through deepening understanding of non-profit organizations and their supporters in this class explores the challenges of modern society and every citizen, society and how to deal out.

POL300HA

## エネルギー政策論

菊地 昌廣

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水6/Wed.6

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なエネルギー資源の選択、エネルギー利用による地球温暖化、エネルギー資源の価格変動など、多様化する社会問題と経済問題に如何に対処すべきか等の課題、我々の生活の基盤となる電気エネルギーの自由化を踏まえた安定供給確保等の課題を踏まえて、将来のエネルギー政策を国際的、国内的視野に立って議論する。

#### 【到達目標】

- ①エネルギーの基本的技術構造の説明能力を習得する。
- ②社会構造とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ③国内政治とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ④エネルギー需給構造について国際的要因の説明能力を習得する。
- ⑤エネルギー政策立案時の視点や立案のポイントを理解する。
- ⑥質疑応答・討論によりエネルギー問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

エネルギーに関する基本的な要素を理解した後、社会問題とエネルギー利用に関連した課題、国内政治とエネルギー需給に関連した課題、エネルギーの国内需要と供給に関連する国際的な課題を議論する。最後にエネルギー政策立案の考え方を習得する。  
講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義内容の概観	授業のテーマと到達目標等本講義の意義について説明する。また、現在のエネルギー利用の実態と付帯する社会問題、経済問題等本講義の議論点について概括するとともに、エネルギーを議論するときの基礎となる各エネルギーの供給メカニズムや利用時のエネルギー損失等、議論の背景となる要因について議論する。
第2回	エネルギー消費と産業構造	GDPとエネルギー消費の関係等、社会生活とエネルギーとの係わりについて解説すると共に資源から利用可能な状態までの国際的なエネルギー需給バランス等、エネルギーライフサイクルとエネルギー利用の産業構造について議論する。
第3回	省エネルギーとエネルギーミックス（再生可能エネルギー、新エネルギー）	エネルギー利用効率向上のために採られてきた省エネルギー対策と国際社会から自立した化石燃料に依存しない持続可能な再生可能エネルギーや新エネルギーの活用について議論する。
第4回	新たなエネルギー資源開発や化石エネルギー価格の変動要因	シェールガス、シェールオイル、メタンハイドレードなど新エネルギー資源の確保問題や、国際経済成長戦略と原油、天然ガス、石炭などの在来型化石燃料の価格変動要因との関連について、最近の情勢を分析しつつ議論する。
第5回	エネルギー安定供給（エネルギーセキュリティ）	エネルギー政策の一つの要素であるエネルギーセキュリティ問題について、歴史的経緯や考慮すべき要素を議論する。
第6回	エネルギー政策の歴史とエネルギー関連法令	近代産業発展に伴って採用されてきた我が国のエネルギー政策を解説すると共に現在のエネルギー関連法令について議論する。
第7回	エネルギー税制	国家がエネルギー政策を推進するためには、その資金が必要であり、資金確保のための適切な税制とその用途、活用法の実態を議論する。

第 8 回	電力自由化政策と電力自由化のメカニズム	電力を含むエネルギーは公共財としての側面を有しているが、福島原発事故以降採られてきた電力自由化の動きと、国民に安定的な電力供給体制構築のためのエネルギー価格を構成する要素を議論する。
第 9 回	エネルギー利用とリスク	地球温暖化から派生する気候変動や食糧問題等を踏まえて、エネルギーを国際社会が安心安全な環境で使用するために配慮すべきエネルギー利用形態とそのリスクについて、京都議定書と昨年のパリ合意の内容を比較しつつ議論する。
第 10 回	国際戦略としてのエネルギー需給問題	資源小国である我が国は海外からの供給を前提としていることから、原油価格変動に注視している状況にあり、世界のエネルギー供給戦略と我が国の利用戦略について歴史的視点から議論する。
第 11 回	エネルギー政策立案のメカニズムと政策の方向性	エネルギー基本計画策定、実施関連法令立案等具体的なエネルギー政策を立案するためのメカニズムを紹介すると共に今後の国内エネルギー政策の方向性について議論する。
第 12 回	エネルギー産業を介した地方創生方策	エネルギー基本計画により再生可能エネルギーなどの活用の活性化が推進されており、このような産業を介した地方創生のための方策について議論する。
第 13 回	将来のエネルギー需給予測と消費展望	将来の内外のエネルギー需給予測を世界各国の経済発展との関連で解説すると共に、今後の世界エネルギー需給についての将来展望について議論する。
第 14 回	講義内容のレビューと質疑応答	これまでの講義内容をレビュー質疑応答を行うことにより、講義内容の理解を深める。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業日前に次回講義で使用する資料を授業支援システムを介して配信する。受講生は、授業支援システムへ登録し、資料の受領が行えるようにしておくこと。受講日までにその内容をよく予習することを求める。エネルギー問題に関する報道内容等に留意し、講義の論点についての事前の情報収集が授業内容の理解を促進させる。

**【テキスト（教科書）】**

講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。

**【参考書】**

- 本講義を受講するに当たって、以下の文献を推奨する。
- 1) 十市 勉 (2005) 『21 世紀のエネルギー地政学』（産経新聞出版）
  - 2) 小池康郎 (2011) 『文系人のためのエネルギー入門』（勤草書房）
  - 3) 三浦隆利、他 (2008) 『エネルギー・環境への考え方』（養賢堂）
  - 4) 藤原淳一郎 (2010) 『エネルギー法研究』（松岳社）
  - 5) エネルギー・経済統計要覧、日本エネルギー経済研究所（最新年度版）
  - 6) その他、エネルギー白書等政府刊行物

**【成績評価の方法と基準】**

平常点：10 点  
期末試験結果 90 点（論述式試験による）

**【学生の意見等からの気づき】**

自らエネルギーに関連する内外の動きを敏感にとらえ、予習しておくことが受講に効果的である。

**【学生が準備すべき機器他】**

事前に授業支援システムで配信する講義レジメのプリント

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

In order to establish the energy utility policy, we learn and discuss many background and elements related to the energy from domestic and international views.

INE200HA

**エネルギー論 I**

北川 徹哉

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

エネルギーは私たちの生活や社会、経済と密接にリンクしているとともに、近年の環境への配慮の重要性の高まりを背景に、エネルギー開発・利用のあり方がより一層注目されている。本講義においては、エネルギーの資源の特徴や流れ、エネルギー関連の基礎原理、発電形態を学ぶとともに、我が国および諸外国のエネルギーの現状について知る。

**【到達目標】**

1. エネルギーと人間生活、社会との結びつきを説明できる。
2. 各種エネルギー資源の特徴とその利用方法、原理について説明できる。
3. 現代のエネルギーの利用状況と国際的な動向を説明できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

この授業は講義形式で行われる。また、質問は随時受け付ける。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	エネルギーとは	エネルギーの定義と歴史、世界のエネルギー情勢
第 2 回	エネルギーの資源、流通、消費	1 次エネルギーと 2 次エネルギー、各種資源の輸入と流通、各種エネルギーの消費動向
第 3 回	エネルギーを表す量、単位	熱量、仕事、パワー、電力量などの意味と表現
第 4 回	熱とエネルギー	エネルギー保存とジュールの実験
第 5 回	熱と力	サイクルとは何か、熱力学第 1 ・第 2 ・第 3 法則
第 6 回	エネルギー使用と仕事	カルノーサイクルの構成、サイクルがする仕事と効率
第 7 回	エントロピー	エントロピーとは何か
第 8 回	熱エネルギーの移動	エントロピーと熱との関係、エントロピー増大の法則
第 9 回	熱から電力への変換	熱と水の関係、発電で用いられるサイクル
第 10 回	電力の需要と供給	送電・配電、電力の需給バランス
第 11 回	火力発電所の仕組み	火力発電の種類、火力発電所の構造
第 12 回	原子力とは	原子の構造、核分裂、核燃料
第 13 回	原子力発電所の仕組み	原子炉の種類、原子力発電所の構造
第 14 回	核燃料サイクル、放射性廃棄物	プルサーマル、高速増殖炉、使用済核燃料の処分

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。次の内容を事前に学習しておくこと。第 1～3 回：エネルギー・資源の用語と単位。第 4 回：ジュールの実績。第 5～8 回：前回の講義内容の見直し。第 9 回：水の性質。第 10～13 回：我が国の電力会社と発電所。第 14 回：原子力の時事問題

**【テキスト（教科書）】**

使用しない。

**【参考書】**

必要に応じて紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

レポート（50 %）：各種エネルギーの特性に関する課題により、主として到達目標 2 の達成度を評価する。

試験（50 %）：各種資源とエネルギー利用形態、エネルギーと社会との関係などの知識を問うものであり、到達目標 1～3 全般の習得度を評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

エネルギー分野は広範囲な内容を含み、楽しく学べます。科学的な内容については焦点を絞って取り上げます。わからないところは質問しましょう。本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

The topics in this course contain the fundamentals on resources and their transformation to energy used for power generations, and on the energy demand-supply relationship. Special attention is paid to the electricity power generations using fossil and nuclear fuels.

INE300HA

## エネルギー論Ⅱ

北川 徹哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

元来、エネルギーは自然を源として自然に帰ってゆくという再生循環の輪の中にあった。再生可能エネルギーという言葉が脚光を浴びるようになったのは、環境問題がクローズアップされ始めた近年のことである。本講義ではエネルギーを環境問題の視点から眺めつつ、開発と導入が進みつつある再生可能エネルギーの仕組みや特徴について、我が国と諸外国での導入状況を比較しながら理解してゆく。

## 【到達目標】

1. エネルギーと環境問題との結びつきを説明できる。
2. 各種再生可能エネルギーの仕組みを説明できる。
3. 再生可能エネルギーの効率、環境負荷低減効果、課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。また、質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境問題とエネルギー	エネルギーの環境対策と国の方針（電力を中心に）
第2回	再生可能エネルギーの定義と分類	再生可能エネルギーとは、新エネルギーの種類
第3回	水資源	水資源の循環、河川の性質
第4回	水力発電	水力発電の種類と仕組み、落差、中小水力発電
第5回	海水の動きを利用する発電	波力、潮力、潮流・海流による発電
第6回	風と風車	風車のタイプと性能、風がもつエネルギー、発電用風車の仕組み
第7回	風力発電	風況、パワーカーブ、発電量予測、風車と音
第8回	太陽光の特性、太陽光発電に適した物質	太陽光がもつエネルギー、太陽電池セルとシリコン
第9回	太陽光発電の発電量	太陽光発電の仕組みと種類、フィード・イン・タリフ
第10回	太陽光の熱、太陽熱発電	太陽熱の熱利用、太陽熱発電の種類と仕組み
第11回	バイオマス	バイオマスの種類と分類、バイオマスの賦存量
第12回	バイオマスエネルギー	バイオマスエネルギーの利用技術と課題、バイオマスエネルギーの利用事例
第13回	自然の温度を利用したエネルギー	地熱資源と地熱発電、海洋温度差発電
第14回	燃料電池	(B)EVとFC(E)Vなどのエコカーのバラエティ、燃料電池の仕組みと種類、家庭用燃料電池、水素インフラ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。次の内容を事前に学習しておくこと。第1回：エネルギーのCO<sub>2</sub>換算、第2回：再生可能エネルギーの種類、第3～5回：水の高さ・速さとエネルギーの関係、第6～7回：風力発電の時事問題、第8～10回：太陽光・太陽熱利用の時事問題、第11～12回：バイオマス利用の時事問題、第13回：地球内部と海洋の構造、第14回：エコカーの時事問題

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

レポート（50%）：各種再生可能エネルギーの利用方法に関する課題により、主として到達目標2の達成度を評価する。試験（50%）：各種再生可能エネルギーの仕組みや原理、環境問題への貢献などに関する知識を問うものであり、到達目標1～3全般の習得度を評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【その他の重要事項】

再生可能エネルギーには話題が豊富です。また、再生可能エネルギーのほとんどは、実は昔からあったということを実感して欲しいと思います。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

The topics in this course contain the fundamentals on resources and their transformation to energy used for power generations, and on the energy demand-supply relationship. Special attention is paid to the electricity generations using renewable resources such as hydropower, wind power, solar power, biomass fuel and geothermal power.

EDU200MA

## 開発教育

福田 紀子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人権に基づいた社会のより良い変化（開発）に取り組むための活動は、課題を抱えた人々の間で実践が重ねられてきました。人権の基本的な概念理解や人道支援の国際基準のテキストから、人類共通の課題意識や試行錯誤の中で獲得した“価値観=大切にしているもの”に近づきたいと思います。今年度は基本的な教育、人権、人道に関する国際文書や、アジアの成人教育の文脈で書かれた『Citizen's Education for Good Governance』の内容とアクティビティを取り上げ、GovernanceとAccountabilityの2つのキーワードを読み解いていきましょう。市民社会のどんな組織も必要な自分たちのコミュニティへの関与や公正な運営のありかたについて考えることとなります。また、成人教育のファシリテーター向けガイドブックのアクティビティ進行を通して、アクションラーニングや参加型ワークショップと言われる学習手法についての意義や進行者の態度・留意点を学んでいきます。

## 【到達目標】

- 1) 国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材、報告書等から、人権、参加とエンパワメントに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
- 2) 人権尊重の思考と行動枠組、ジェンダー等、社会の公正な運営方法(GovernanceとAccountability)に必要な思考と行動のスキルを自分の生き方からし方、社会の現実と関連させながら理解し実践する。
- 3) 参加型学習の学び方(手法、概念、進行)を経験し、人々をエンパワメントする学習について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

基本的に読んでおく英文資料、当日配布の資料（英・日）、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担する機会と、3名程度のチームで参加型学習のファシリテーターを実践する機会もあります。

授業は講義と参加型アクティビティ、学生の発表（ファシリテーション）を進めていきます。その中のディスカッションは日本語で行います。アクティビティやテキスト他の情報から何を学んだのかを重視します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation -Wants, Needs, Rights -Education as Human Rights -Declaration of the Conference -selfesteem - The role of the facilitator	〈この授業の進め方〉 教育・学習・人権に関わる文書や文章を通してこの授業で捉えたい概念を概観します。 参加型学習のファシリテーターとしてのポイント①
2	-Governance Theme ① Power & Governance -“Peace”&“Violence”	人権を考える上で、“マイノリティ”に対する配慮がなぜ必要なのかを考えます。また “平和”と“暴力”枠組を知ります。
3	-Governance Theme ② Gender Equity	ジェンダーの認識と実態の基ジェンダーについての自分の認識と日本のデータにあたり、変化の要因を探ります。 *翻訳・進行の担当分担
4	Humanitarian Response & Rights base approach with the diversity -The Code of Conduct for the International Red Cross & Red Crescent Movement & Non-Governmental Organization(NGOs) in Disaster Relief / The Sphere Standard	人道支援の国際基準で求められる行動綱領と避難所シミュレーションから、人間の尊厳を大切し、公正に行うとは何かを理解します。
5	Citizen's Education for Good Governance ~ Outline of the Concept	Citizen's Education for Good Governance の基本概念を概観します

6	Citizen's Education for Good Governance ① Power and Governance	パワーとガバナンス エンパワーメントとは何かについて考えます
7	Citizen's Education for Good Governance ② Conflict and Governance	対立とガバナンス 課題解決のプロセスに必ずおこる対立の捉え方を学びます
8	Citizen's Education for Good Governance ③ Youth and Governance	若者とガバナンス 参加を促進するものについて考えます
9	Citizen's Education for Good Governance ④ Media and Governance	メディアのありかたについて考えます
10	Media Literacy and Gender	メディアリテラシーについて～ジェンダーの視点から考えます
11	Citizen's Education for Good Governance ⑤ Citizen's Organising for Governance	市民がつながる、協力的に活動することについて考えます
12	Citizen's Education for Good Governance ⑥ Analyzing & Understanding People's Reality	現実のしごとや暮らしの中の問題や変化について考えます
13	Citizen's Education for Good Governance ⑦ A Rights-Based Approach to Citizenship Capacities	人権の視点を基本にした市民社会のありかたについて考えます
14	Governance & Accountability	人道支援団体の国際基準が示す“アカウントビリティ”を知り、ガバナンスを考えた意味を再考します

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に紹介された Web 上での資料、配布された資料は必ず読んでおいてください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた翻訳・整理と小グループ/パートナーとの発表の準備が必要となります。国際的な出来事、国際協力活動、身近な社会の課題に関心をもち、自分の関心と行動傾向を考えながら、授業の理解につなげて下さい。

#### 【テキスト（教科書）】

特に購入の必要はありません。教材は配布または Web 上の所在を伝えます。

#### 【参考書】

The Sphere Project-Humanitarian Charter and Minimum Standards in Humanitarian Response

<http://www.spherehandbook.org>

Core Humanitarian Standard/ Guidance Notes and Indicators

<http://www.corehumanitarianstandard.org/files/files/CHS-Guidance-Notes-and-Indicators.pdf>

Participatory Learning & Action-a trainer's guide(IIED)

『2030 年未来への選択』（西川潤）

『ワールドスタディーズ-教え方学び方ハンドブック』『参加型で考える 12 のものの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）

『参加型ワークショップ入門』（ロバート・チェンバース著）

#### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、各回授業のふりかえりシート 40%  
個人/グループでの発表と成果物（模造紙作業やワークシート）30%、  
レポート 30%

#### 【学生の意見等からの気づき】

参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアクティビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを読み解き、進行・手法・思考の枠組・問いかけについての意味を自分で掴むことが必要です。不消化感を感じるときもあると思いますが、その感覚も経験として自分の中で保持し、他者に問いかける力に変え、共有から生まれる学びがあればと願います。

ファシリテーターの実践はより主体的な学習へのコミットメント（内容理解、スキルと態度）を高める機会として行ってください。

#### 【その他の重要事項】

国際合意の文書は完成された概念やタテマエではありません。多くの人々の困難から学ぼうと世界中の人々が積み上げ、練り直し、現実の反映させようと格闘している文脈がひとつひとつあります。災害時の支援としての国際基準をはじめ、あらゆる活動にグローバルな文脈があり、影響があります。ガバナンス、市民社会等、慣れないコンセプトかもしれませんが、国際的な合意の文脈を理解する為の一つのステップとして学んでいきましょう。

また「参加型」を中心とした対立解決のプロセスも世界の差別や緊張関係を平和的な手段で正していくために用いられる基本的な手法です。分担したアクティビティのファシリテーションをはじめ、授業への出席を重視します。部活等の欠席の理由は特別な場合を除き特に考慮しませんので、規定の出席確保を前提に授業に望んで下さい。

#### 【Outline and objectives】

The objective of this class would be getting the Basic Concepts for understanding Human Rights, Gender, Humanitarian Response, Activism for Social Justice through International Standard, Agreements and Methods.

The classroom would be mainly proceed with Participatory Learning Method as participants and facilitators, using "Citizen's Education for Good Governance"(2005,ASPBAE) that has been a training handbook of Adult Learning in Asian Context.

SHS300HA

## 科学技術社会論

託問 直樹

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術のアウトプットは、社会に多大な正負両面の影響を与える。逆に、研究費の調達や人材の供給、研究活動の社会的承認などを巡って、社会の側から科学技術への影響も存在する。従って、科学技術と社会は相互に影響を及ぼしながらお互いを形成していくのであり、このようなプロセスを「共進化」と呼ぶ。この「共進化」のプロセスを解明し、関連する問題点を広く知らしめることが、科学技術社会論の使命の一つである。

本授業では、こうした科学技術と社会の相互作用を理解するために有用な諸概念を学ぶとともに、それらの概念を用いて具体的事例を理解する能力を養う。

## 【到達目標】

科学技術と社会との関わりを理解するために有用となる概念を学ぶとともに、それらを用いて具体事例を論じる能力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

科学技術社会論の様々な重要概念がコンパクトにまとめられている優れたテキストー平川秀幸著『科学は誰のものなのか 社会の側から問い直す』（NHK出版生活人新書、2010年）をベースとして、重要概念と関連事例の解説を行う。

また、質疑応答を適宜行う。そのために、テキストの各章について当番を複数決めておく。当番になった者は、講師や他の学生からの質問に答えられるように準備してきてもらう。

また、毎回、授業の終わりに、コメントシートに感想・意見・質問を記入してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	当科目の目的と背景、授業の進め方についての説明。科学技術と社会の相互作用についての簡単な説明。
第2回	「統治」から「ガバナンス」へ（その1） （テキスト対応箇所：第2章序盤）	なぜ今ガバナンスなのか、科学技術ガバナンスの登場、日本の転機：1995年、双方向なコミュニケーション、ほか。
第3回	「統治」から「ガバナンス」へ（その2） （テキスト対応箇所：第2章中盤）	参加型テクノロジーアセスメント、市民が参加するコンセンサス会議、市民陪審とシナリオワークショップ、ほか。
第4回	「統治」から「ガバナンス」へ（その3） （テキスト対応箇所：第2章終盤）	BSE問題が引き起こした「信頼の危機」、理解から対話・参加へ、「アウェー」としてのサイエンスカフェ、ほか。
第5回	科学技術は「完全無欠」か（その1） （テキスト対応箇所：第3章序盤）	「地震予知は困難」と認めた科学者たち、水俣病を悪化させた完璧主義、実験室の科学はまだ途半ば、知識の品質管理、「ファイナルアンサー」までのさらなる道のり、ほか。
第6回	科学技術は「完全無欠」か（その2） （テキスト対応箇所：第3章中盤）	それでも残る科学の不確実性、不確実性における二つの無知（Known UnknownsとUnknown Unknowns）、科学知識の制約、理想化にともなう不確実性、ほか。
第7回	科学技術は「完全無欠」か（その3） （テキスト対応箇所：第3章終盤）	誠実な科学者は白黒つけられない、理想系と現実系とのギャップ、ほか。
第8回	科学技術と社会のディープな関係（その1） （テキスト対応箇所：第4章序盤）	科学技術と社会のかかわりをどう見るか、「共生」という考え方、科学技術の純潔主義、研究開発の国家総動員体制、ほか。
第9回	科学技術と社会のディープな関係（その2） （テキスト対応箇所：第4章中盤）	「価値中立的な科学技術」から「善い科学技術」へ、人工物に埋め込まれた政治性（アーキテクチャの権力、環境管理型権力）、ほか。
第10回	科学技術と社会のディープな関係（その3） （テキスト対応箇所：第4章終盤）	「緑の革命」の光と影、作動条件への不適合、技術の困い込み症候群、利益構造の不平等、構造的課題としての市場の力、ほか。

第11回 科学の不確実性とどう付き合うか（その1）  
（テキスト対応箇所：第5章序盤）

リスク論争で問われるものは？、調べる人が変わればデータも変わる、価値基準をどこに置くか、ほか。

第12回 科学の不確実性とどう付き合うか（その2）  
（テキスト対応箇所：第5章中盤）

拳証責任が映し出す利害の対立、遺伝子組換え作物の環境影響、拳証責任の逆転、評価基準を変えた政治的・社会的理由、ほか。

第13回 科学の不確実性とどう付き合うか（その3）  
（テキスト対応箇所：第5章終盤）

事前警戒原則、欧州組換え作物規制が示唆するもの、問いのフレーミングと答えの解釈、価値中立性を再定義する、とるべきリスクと避けるべきリスク、「賭け」を「実験」に変える知恵、ほか。

第14回 知ること、つながること  
（テキスト対応箇所：第6章）

どうやって科学技術問題に関わるのか、次の一歩が踏み出せない、「一人一人の心がけ」でよいのか、不自然な省略、知的協働のアクションチャート、信頼できる資料の見つけ方。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

・テキスト（平川秀幸著『科学は誰のものなのか—社会の側から問い直す』（NHK出版生活人新書））の該当箇所を事前に読んできてもらう。

・授業時間中に理解を深めるためQ&Aの時間を適宜とるが、そのために、テキストの各章について当番を複数決めておく。当番になった者には、講師や他の学生からの質問に答えられるように、特に入念に準備してきてもらう。

## 【テキスト（教科書）】

平川秀幸『科学は誰のものなのか—社会の側から問い直す—』、NHK出版生活人新書、2010年。

本授業を履修する者には、教科書を購入し、毎回の授業時に持参することを義務付ける。

（紙媒体は品切れなので、電子書籍を購入されたい。）

## 【参考書】

必要に応じて、参考になる文献やウェブサイトを紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

・平常点40%、中間レポート20%、期末レポート40%。

・平常点は、毎回提出してもらうリアクション・ペーパーをもとに採点する。白紙提出は大幅な減点となるので注意すること。

・中間レポートの概要：身近にある、製作者の意図が埋め込まれている人工物の事例およびユニバーサルデザインの事例を探し、その写真を撮ってきてもらう。

・期末レポートの概要：

テキストに関連する好きなトピックを選び、そのトピックに関連する文献を選んでその概要を紹介してもらった後、自説を展開してもらう。A4用紙5枚程度。

## 【学生の意見等からの気づき】

・テキスト第6章「知ること、つながること」に関する授業を、期末レポートの提出日より前に実施してほしいとの希望があったので、検討する。

## 【学生が準備すべき機器他】

教科書は、紙媒体が品切れなので、電子書籍を購入してもらうことになる。（紙媒体を好む場合は、古本がまだ売られていれば、そちらを購入してもよい。）

電子書籍を購入・使用する場合は、プラットフォームとなる端末（kindle 端末やスマートフォン、パッド、PCなど）も毎回の授業に持参してもらうことになる。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Outputs of S&T (science and technology) have both positive and negative impacts on society. Conversely, society has impacts on science and technology through funding of research and so on. Thus, S&T and society influence and co-produce each other. We call such process "co-evolution."

STS (Studies on Science, Technology and Society) is engaged in the mission of elucidating this "co-evolution" process and pointing to the problems related to it.

The objective of this course is to provide students with useful concepts to understand such co-evolution process, and to cultivate students' abilities to apply these concepts to concrete examples.

ENV300HA

## 環境科学 I

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学 I では比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学 II では地球規模や国境を超える問題について、環境科学 III では資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。I、II、IIIのいずれかだけを履修してもかまいません。

## 【到達目標】

以下に示した環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・大気汚染（ばいじん、硫酸酸化物、窒素酸化物、アスベスト）
- ・上下水道の構造と処理のプロセス
- ・水質汚濁（富栄養化のメカニズム、工場排水の処理）
- ・土壌汚染（原因、対策技術）
- ・廃棄物（法律上の定義と現状）
- ・リサイクル（意義と現状）
- ・基準の決め方（リスク論と基準の決定方法）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（序章）	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第 2 回	大気汚染・その 1（第 1 章）	大気汚染の歴史、ばいじん、硫酸酸化物
第 3 回	大気汚染・その 2（第 1 章）	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第 4 回	上水道（第 2 章）	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第 5 回	下水道と浄化槽（第 2 章）	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第 6 回	水質汚濁（第 3 章）	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第 7 回	工場排水と土壌汚染（第 3 章）	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第 8 回	悪臭（第 4 章）	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第 9 回	騒音（第 4 章）	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第 10 回	廃棄物・その 1（第 5 章）	廃棄物の定義、一般廃棄物
第 11 回	廃棄物・その 2（第 5 章）	産業廃棄物
第 12 回	リサイクル（第 5 章）	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第 13 回	有害物質とリスク、基準の決め方（第 6 章）	有害の意味、リスクの意味と大小、基準値の決め方
第 14 回	まとめ	全体の復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
授業計画のテーマ欄にカッコ内でテキストの該当する章を示しました。この部分をあらかじめ読んでから受講してください。

## 【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

## 【参考書】

藤倉良（2015）環境学は総合格闘技？ 人間環境論集，第16巻，第1号，pp.71-85

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験のみで評価します（100％）。毎回、リアクションペーパーを記述して提出してもらいますが、評価とは関係しません。

## 【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

## 【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきた。その当時の経験等を踏まえて講義を進める。

## 【Outline and objectives】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basic engineering knowledge regarding mechanisms and countermeasures of local environmental problems such as air pollution, water pollution, waste, soil contamination, noise, odor, harmful substances.

ENV300HA

## 環境科学Ⅱ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

## 【到達目標】

以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・人口増加のパターンと要因
- ・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
- ・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
- ・気候変動をめぐる社会
- ・越境大気汚染の原因と対策
- ・中国の資源と環境
- ・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。

法学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第2回	オゾン層・その1（第7章）	紫外線、フロンガス
第3回	オゾン層・その2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第4回	気候変動・その1（第8章）	IPCC、二酸化炭素の温室効果
第5回	気候変動・その2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第6回	気候変動・その3（第8章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第7回	気候変動・その4（第8章）	緩和策
第8回	気候変動・その5（第8章）	適応策
第9回	越境汚染（第9章）	酸性雨の化学、光化学オキシダント、プラスチックごみ
第10回	中国の環境と資源・その1（第11章）	人口、食料と水資源
第11回	中国の環境と資源・その2（第11章）	エネルギー、公害、政策
第12回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第13回	環境国際協力	事例研究
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。

## 【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

## 【参考書】

講義中に指定します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験のみで評価します（100%）。毎回、リアクションペーパー記述・提出してもらいますが、評価には関係しません。

## 【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきた。その当時の経験等を踏まえて講義を進める。

## 【Outline and objectives】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basics of science regarding mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone layer protection, acid rain and resource and environmental problems in China.

ENV300HA

## 環境科学Ⅲ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

## 【Outline and objectives】

Students will acquire basic knowledge about the meaning of resources, the scientific nature of resources and the prospect of utilization. Major items include freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, and minerals.

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

## 【到達目標】

資源の歴史的意味に始まり、以下に示すさまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。

- ・資源の意味
- ・淡水
- ・エネルギー
- ・土壌とリン、窒素
- ・遺伝資源
- ・ベースメタルとレアアース

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

パワーポイントとレジュメを用いて講義を行います。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第2回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第3回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第4回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第5回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第6回	エネルギー（3）	石炭、水力
第7回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第8回	土壌（1）	土壌の構造、土壌の機能
第9回	土壌（2）	世界銀行の対日援助：日本の農業開発事例
第10回	リンと窒素	循環、機能、存在
第11回	生物多様性	生物多様性保全の意義、名古屋議定書
第12回	遺伝資源	食料、医薬品
第13回	金属資源	銅、鉄、アルミニウム、鉛、レアメタル
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
毎回配布するレジュメを使って復習してください。

## 【テキスト（教科書）】

特ありません。

## 【参考書】

藤倉良(2015) 増大するアジア地域の電力、水の需要と大型ダムプロジェクト、人間環境論集、第15巻第2号、pp.157-170

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験のみで評価します（100%）。講義時間中に質問事項などを記述・提出してもらうことがありますが、評価には関係しません。

## 【学生の意見等からの気づき】

図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

## 【学生が準備すべき機器他】

特ありません。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）在職時に生物多様性条約の策定過程に加わった。その経験等を踏まえて講義を進める。

SEE300HA

## 環境教育論

野田 恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、環境教育とESD(持続可能な開発のための教育) について学び、持続可能な社会の実現において教育が果たす役割を理解することを目的とします。また、環境教育の具体的実践例や歴史について学びながら、持続可能な社会のために何が必要なか、自分自身の考えを深めていきましょう。

## 【到達目標】

環境教育の目的やねらい、歴史的経緯、環境教育で扱われるテーマや主要な概念、教育方法について理解し、説明ができる。環境教育の現状や課題、可能性などについて複合的な視点を持ち、自分なりの考えを持てるようになる。また、環境教育実践へつながる関心や意欲をはぐくみ、自分なりにプログラムや教材を考える視点や基礎を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

環境教育の理論的基礎やさまざまな環境教育実践について学ぶ。授業では対話型および参加型的手法を用いる。毎回のテーマに即した資料を読み自主学習を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義のねらい・進め方についての説明と自分の環境教育の経験を振り返る。
第2回	環境教育の歴史（1）	環境教育の歴史や重要な点を概説する。
第3回	環境教育の歴史（2）	1990年代の日本の環境教育について映像資料とともに解説する。
第4回	環境教育の歴史（3）	2000年以降の環境教育およびESDについて講義する。
第5回	環境教育を体験する（1）	日本の環境教育のひとつである自然体験学習について学ぶ。
第6回	環境教育を体験する（2） （ワークショップのため教室変更予定）	環境教育の一つである公害教育の教材を体験する（教室変更）
第7回	公害教育	公害から学ぶとともに、日本の公害教育のルーツのひとつである公害教育について学ぶ。沼津三島の住民運動について触れる。
第8回	自然と関わる環境教育（1）	自然保護教育や自然学校など自然と関わる環境教育について解説する。
第9回	自然と関わる環境教育（2）	持続可能な地域づくりに貢献する自然系環境教育の実践について紹介する。
第10回	中間まとめ（ワークショップのため教室変更予定）	これまでの講義を振り返り、これまでに学んだことは何か、自分なりの考えをまとめる。また受講者同士のディスカッションを通じて考えを深める。
第11回	環境教育プログラムを考えてみよう	社会教育施設や学校における環境教育について学ぶとともに、環境教育プログラムを作成する。
第12回	これからの環境教育：SDG sと環境教育	環境教育・ESDとSDG sについて学ぶ。12回は特にSDG sについて解説し、参加型教材を用いて関心や考えを深める。
第13回	これからの環境教育：環境教育の可能性と課題	環境教育の可能性及び課題について解説する。
第14回	筆記試験	成績評価に関わる試験となります。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。参考文献や配布する資料などを読み課題に取り組む。環境教育施設を訪問したり、環境教育プログラムに実際に参加して、授業時間外にも積極的に学びを深めることが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

講義ごとに紹介する。参考資料を授業支援システムを通じて配布する。

## 【参考書】

『環境教育』日本環境教育学会編、教育出版  
『環境教育学－社会的公正と存在の豊かさを求めて－』井上有一・今村光彦編  
『持続可能性の教育－新たなビジョンへ－』佐藤学ほか編著、教育出版  
『奇跡のむらの物語』、辻英之著、農文協

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 90%、授業内に指示された課題および授業への参加態度など平常点 10%

最終日に筆記試験を行います（授業内配布資料およびノートの持ち込み可）  
筆記試験において、環境教育の目的やねらい、歴史的経緯、環境教育で扱われるテーマや主要な概念、教育方法についての説明を求め理解度を評価対象とします。また、持続可能な社会とは何かの説明とその社会を実現するために教育にはどのような役割や可能性があるのか、現状における課題は何かを説明します。

## 課題の例

- 1) 環境教育・ESDの事例を調べる（環境教育、ESDの事例を調べ授業で示した観点に沿って事例を評価、Web提出。1600文字程度）
- 2) 中間まとめの準備 そのほか

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度からの変更点▶基礎的な事項を理解しているのかを評価の対象とするため、筆記試験を行い、成績評価にすることにしました。

## 【学生が準備すべき機器他】

太い文字が書けるサインペン（黒以外でも可。黄色や蛍光色など見えにくい色は不可）を常備してください。初回から授業支援システムにアクセスできるように準備しておいてください。

## 【その他の重要事項】

受講生の要望や理解度をふまえて、授業計画や内容は変更することがありますので予めご了承ください。成績評価や課題について説明しますので、受講を希望する方は、第1回目の授業に出席するようにしてください。6回目と10回目は教室を変更して授業を行う予定です。詳細は、授業内でアナウンスをしますので留意してください。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

In this course, you will learn about environmental education and ESD, understand the role of education for a sustainable society, and further deepen our own thoughts.

MAN200HA

**環境経営と会計**

八木 裕之

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

会計は、特定の経済主体が行った活動の状況を定量的に測定し、この結果を情報利用者（ステイクホルダー）に伝達するための情報システムです。そのために、会計の領域は、マイクロ会計（家計、企業、政府を対象とした会計）、メソ会計（地域を対象とした会計）、マクロ会計（国を対象とした会計）の3つに分類されます。本講義では、マイクロ会計のうち、「企業（主に、株式会社）」を対象とした会計（企業会計）を体系的に学習することを目的とします。

**【到達目標】**

本講義では、企業や組織の財務状態や経営成績を把握するために不可欠な簿記と経営分析の基本的な仕組みを修得し、環境経営や環境保全活動の財務的側面が分析できることを目的とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本講義では、テキストを用いて専門的で難解な用語、概念、技法（コアな部分）を平易に説明します。また、関連する練習問題を配布し、履修者による解答やディスカッションなどを通して会计学への理解を深めていきます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 「会計」とは何か	講義の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明します。また、企業経営における会計の目的や役割について説明します。
第2回	会計の基本的技法	会計を支える技法（簿記）の手続きとその内容について説明します。
第3回	簿記の構成要素－資産、負債、純資産－	簿記の構成要素のうち、資産、負債、純資産について説明します。
第4回	簿記の構成要素－収益、費用－	簿記の構成要素のうち、収益および費用について説明します。
第5回	取引と勘定	帳簿記入の対象（取引）とその処理方法について説明します。
第6回	簿記・会計の練習問題①	第2回から第5回までの講義内容を練習問題を用いて復習します。
第7回	仕訳と転記 仕訳帳の記帳方法	取引の仕訳と仕訳帳の記帳方法について説明します。
第8回	仕訳帳と総勘定元帳	仕訳帳から総勘定元帳までの転記方法について説明します。
第9回	試算表と精算表	試算表・精算表作成の意義と方法について説明します。
第10回	決算と財務諸表	帳簿の締切り、損益計算書および貸借対照表の作成までの流れとその方法について説明します。
第11回	簿記・会計の練習問題②	第6回から第10回までの講義内容を練習問題を用いて復習します。
第12回	企業分析の方法 実数分析	企業分析（経営分析）の必要性と、実数分析の方法について説明します。
第13回	安全性分析 収益性分析	安全性と収益性の分析方法について説明する。また、第12回と第13回の講義内容も加味した練習問題を用いて、企業経営の分析を行います。
第14回	環境経営と会計	これまでの学習内容に基づいて、環境経営を支援する環境会計の仕組みについて説明します。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本講義は、企業会計の知識や考え方を修得するために、テキストの内容を論理的に説明し、解説すると同時に、グループワークや Q&A 形式も取り入れます。演習問題の復習や関連する企業情報の調査情報などにも積極的に取り組んでください。

**【テキスト（教科書）】**

資格の大原（2018）『土日で合格の日商簿記初級』中央経済社。

**【参考書】**

講義中にいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあげておきます。

- ・鈴木一道（2012）『会計学 はじめの一步』中央経済社。
- ・山崎雅教（2014）『簿記 はじめの一步』中央経済社。

- ・榎岡源一郎（2015）『図解でナットク 会計入門』中央経済社。
- ・千代田邦夫（2016）『新版 会計学入門－会計・監査の基礎を学ぶ－（第4版）』中央経済社。

**【成績評価の方法と基準】**

本講義の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ・リアクション・ペーパーの提出（20％）
- ・ミニテスト（20％）
- ・確認テスト（20％）
- ・期末試験（40％）

**【学生の意見等からの気づき】**

毎年、講義中に提出してもらっているリアクションペーパーや、アンケート調査に書かれている意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

**【学生が準備すべき機器他】**

学生の皆さんに準備してもらおう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明する場合がありますので、ノートなどを持ってきてください。

**【その他の重要事項】**

- ・ワードおよびパワーポイントベースの資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

The purpose of this lecture is to learn about corporate accounting and environmental accounting.

MAN300HA

## 環境経営論 I

林田 昌也

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業を中心とした組織が、環境保全をスタートラインにさらに積極的な企業価値を生むための戦略あるいは政策を策定し、それに基づいて組織を編成し、全体管理していく一連を学習する。「企業（主に、株式会社）」の環境経営を経営学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、環境経営の全体像も理解していくことを目的とする。また単に環境にとどまらず、社会的課題のグローバルなアジェンダである SDGs やサステナビリティ経営（CSR 経営または CSV 経営）の現状やその取組みについても取り上げる。

## 【到達目標】

本講義では、日本企業で現在実践されている環境経営およびサステナビリティ経営における方針（戦略）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を理論的に、また実践的に明らかにし、習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本講義では、日本企業で実践されている環境経営およびサステナビリティ経営のための戦略、組織などの特徴について、企業の環境報告書やサステナビリティ報告書を活用しながら理解することを目指す。特に企業出身である教員が在籍した酒類飲料業界の事例を中心に具体的な実践的な取り組みを学習することにより、時代・情勢に合わせた企業の対応の一連を体系的に学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 企業における環境経営やサステナビリティ経営の現状	講義の目的、内容、進め方、評価について説明する。また、現在海外や国内において、企業が行っている環境経営またはサステナビリティ経営の取組み（持続可能な開発目標（SDGs）などへの取組み）を紹介し、説明する。
第 2 回	環境経営の意義	また、企業経営における環境保全への取組みの必要性を説明する。
第 3 回	サステナビリティ経営の展開	企業におけるサステナビリティ経営の意義を説明する。
第 4 回	環境・サステナビリティ経営の全体像	従来の企業経営の仕組みと比較しながら、環境経営およびサステナビリティ経営の仕組みを説明する。
第 5 回	環境経営戦略	従来の経営戦略と比較しながら、環境経営戦略の特徴を説明する。
第 6 回	サステナビリティ経営戦略	従来の経営戦略および環境経営戦略と比較しながら、サステナビリティ経営戦略の特徴を説明する。
第 7 回	ケーススタディ①	第 6 回までの講義内容に基づいて、日本企業の環境・サステナビリティ経営戦略事例を説明する。
第 8 回	環境経営組織	従来の経営組織と比較しながら、第 5 回の講義で説明した環境経営戦略を実現していく経営組織の特徴を説明する。
第 9 回	サステナビリティ経営組織	従来の経営組織および環境経営組織と比較しながら、第 6 回の講義で説明したサステナビリティ経営戦略を実現していく経営組織の特徴を説明する。
第 10 回	ケーススタディ②	第 9 回までの講義内容に基づいて、日本企業の環境・サステナビリティ経営組織モデルを分析する。
第 11 回	環境経営管理	環境に関する国際規格（ISO14001）などを用いたマネジメントシステムを説明する。
第 12 回	サステナビリティ経営管理	社会的責任に関する国際規格（ISO26000）や国連グローバルコンパクトなどを用いたマネジメントシステムを説明する。
第 13 回	ケーススタディ③	第 12 回までの講義内容に基づいて、日本企業の環境・サステナビリティ経営管理モデルを分析する。

第 14 回 環境・サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメント

海外や国内における企業の取組みを活用しながら、環境・サステナビリティ・バリューチェーンやサプライチェーンを対象としたマネジメントの意義とその手法を説明する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本講義は、「企業」の環境経営およびサステナビリティ経営の方法論だけでなく、ゼミナール活動で必要とされる研究・調査の方法、論文・レポートの書き方などの基礎基本も身に付けてもらうために、配布資料の内容を論理的に説明し、解説するとともに、参加型（双方向型）形式あるいは Q&A 形式も取り入れて進めていきます。そのために、講義日前後は、関連する他の著書や新聞・雑誌記事なども読んで、講義中に、積極的に参加・発言できる知識量を増やすように努めてください。

## 【テキスト（教科書）】

特に使用しません。  
ただし、日本企業の環境報告書やサステナビリティ報告書、また、関連資料をダウンロードして持ってきてもらうことがあります。

## 【参考書】

講義中に著書・論文・雑誌・URL 等をいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあげておきます。

## 【環境経営/サステナビリティ経営（CSR 経営）】

- ・谷本寛治（2006）『CSR - 企業と社会を考える -』NTT 出版。
- ・名和高司（2015）『CSV 経営戦略 - 本業での高収益と、社会の課題を同時に解決する -』東洋経済新報社。
- ・國部克彦（2017）『CSR の基礎』中央経済社。

## 【URL】

- ・環境省「環境に配慮した事業活動の促進」〈[http://www.env.go.jp/seisaku/list/keizai\\_project.html](http://www.env.go.jp/seisaku/list/keizai_project.html)〉。
- ・「CSR 図書館.net」〈<http://csr-toshokan.net/>〉。

## 【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は次の 4 点に基づいて評価します。

- ・リアクション・ペーパーの提出（20 %）
- ・討論やクイズへの参加（20 %）
- ・確認テスト（20 %）
- ・期末試験（40 %）

## 【学生の意見等からの気づき】

講義中に提出してもらったリアクションペーパーや、アンケート調査に書かれている意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

## 【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらった機器は特にありませんが、ノートなどメモするものは持ってきてください。

## 【その他の重要事項】

- ・ワードおよびパワーポイントベースの資料と映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問などは電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

In this class you would be learning how the enterprises, mainly companies, starts its stream from observing environment conservations, then formulating strategy or policy, to positively gain company value leading to building an organization, to have overall control. We would be going over environmental management of the companies, mainly stock companies, from business administration perspective. We would also place the class objective to understanding total image of environmental management paying attention to their interrelationship. In addition, we will be covering current situation and efforts of SDGs and sustainability management (CSR management or CSV management) which is the social challenge from global point of view.

MAN300HA

## 環境経営論Ⅱ

石井 政雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国内の「地域」を主体とした環境経営やサステナビリティ経営を経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、両経営の全体像も理解していくことを目的とする。

## 【到達目標】

本講義では、国内の地域で現在実践されている環境経営やサステナビリティ経営における方針（政策、施策、事業計画または戦略）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を理論的に、また、実践的に明らかにし、習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本講義では、講義内容に関連する著書、報告書、新聞・雑誌記事、映像資料などを多用しながら、地域で実践されている環境経営やサステナビリティ経営のための政策・施策・事業計画または戦略、組織体制、マネジメントの特徴を理解することを目指していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介。講義の目的、内容、進め方、評価について説明。また、講義で取り上げる事例分析対象について概略を説明する。
第2回	環境経営の実践、持続可能な地域づくり思潮の変化・動向	理念的視点から地域づくりの基本的視座、振興の「証（あかし）」、価値観のパラダイムシフト等について。また具体的な戦略としてのSDGs、CSV等新たな動向等、その背景・内容等について説明する。
第3回	環境経営の実践、持続可能な地域づくり基盤について	仮説として環境経営、サステナビリティ経営を実践している自治体は、係る側面に限らず多彩な面において好循環の構図を持っていると考えている。このダイナミズムについて実証的・論理的に説明する。
第4回	過疎自治体における環境経営、サステナビリティ経営の実践事例分析（Ⅰ）	環境経営、持続可能な地域づくり実践事例として青森県横浜町、群馬県上野村、秋田県大潟村等を題材に取組の背景・経過、現状、成果と課題、新展開の方向等について説明する。
第5回	過疎自治体における環境経営、サステナビリティ経営の実践事例分析（Ⅱ）	第4回の事例に加えて岡山県西粟倉村、同新見市（旧哲多町）等を題材に取組の背景・経過、現状、差異化と課題、新展開の方向等について説明する。
第6回	ディスカッション①	第4・5回の講義内容を踏まえて経営学・会計学視点からの動態的分析を学生とのディスカッションにより分析を試みる。
第7回	地方都市を対象とした環境経営、サステナビリティ経営の実践事例分析（Ⅰ）	環境経営、持続可能な地域づくり実践事例として新潟県村上市、石川県七尾市等を題材に取組の背景・経過、現状、成果と課題、新展開の方向等について説明する。
第8回	地方都市を対象とした環境経営、サステナビリティ経営の実践事例分析（Ⅱ）	第7回の事例に加えて長野県飯田市、鹿児島県薩摩川内市等を題材にその背景・経過、現状、成果と課題、新展開の方向等について説明する。
第9回	ディスカッション②	第7・8回の講義内容を踏まえて経営学・会計学的視点からの動態的分析を学生とのディスカッションにより分析を試みる。また、過疎自治体での取り組みとの比較を試みる。
第10回	施策・事業の導入による環境経営、持続可能な地域づくりの高度化・加速化への実践事例分析（Ⅰ）	高度化・事業導入の手段としての産業クラスター、再生可能エネルギー、食品廃棄・ロス問題に取り組んでいる実践事例（フードバレー十勝、長野県飯田市、同松本市、新潟県新発田市等）を対象にその概念やそれぞれの事例の実情、課題等について説明する。

- 第11回 施策・事業の導入による環境経営、持続可能な地域づくりの高度化・加速化への実践事例分析（Ⅱ） 高度化・事業化の手段としての6次産業化、農工商連携、地域商社等（宮城県伊豆沼農産、青森県ミルク工房ボンサーブ、宮城県一海一笑等）の取り組み事例を題材にそれぞれの取組や国内での動向を説明する。
- 第12回 ディスカッション③ 第10・11回の講義内容を踏まえて経営学・会計学的視点からの動態的分析を学生とのディスカッションにより分析を試みる。
- 第13回 環境経営、持続可能な地域づくり提案活動 事例で取り上げたケースの中から1ケースを対象に、その取り組みのリーダーとともに意見交換しながら次の展開に向けた提案活動を行いその可視化の方向を深める。
- 第14回 「地域」における環境経営やサステナビリティ経営の要諦とは これまでの講義内容を踏まえて左記テーマに関わる要諦を説明する。併せて学生諸君にはこれまで説明した事例活動を通して生きがい・やりがいを持つことを理解してもらい、地方、に目を向け一人でも二人でも半定住・二地域居住、移住、定住を目指すことを期待する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本講義は、「地域」の環境経営およびサステナビリティ経営の方法論だけでなく、ゼミナール活動で必要とされる研究・調査の方法、論文・レポートの書き方などの基礎基本も身に付けてもらうために、テキストの内容を論理的に説明し、解説するとともに、参加型（双方向型）形式あるいはQ&A形式も取り入れて進めていきます。そのために、講義日前後は、関連する他の著書や新聞・雑誌記事なども読んで、講義中に、積極的に参加・発言できる知識量を増やすように努めてください。

## 【テキスト（教科書）】

二神恭一・高山真・高橋賢（2014）『地域再生のための経営と会計—産業クラスターの可能性—』中央経済社。  
笹生仁・石井政雄（2004）『事例に学ぶ 多自然居住地域の創造』ぎょうせい

## 【参考書】

講義中に著書・論文・雑誌・URLなどをいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあけておきます。

## 【著書】

・西川太一郎（2008）『産業クラスター政策の展開』八千代出版。  
・諸富徹（2015）『再生可能エネルギーと地域再生』日本評論社。  
・山崎朗（2015）『地域創生のデザイン』中央経済社。

## 【URL】

・まち・ひと・しごと創生本部（<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/>）。  
・経済産業省 中小企業・地域経済産業（[http://www.meti.go.jp/policy/sme\\_chiiki/index.html](http://www.meti.go.jp/policy/sme_chiiki/index.html)）  
・農林水産省 食料産業（<http://www.maff.go.jp/j/shokusan/index.html>）  
・六次産業化・地産地消メールマガジン（[chisan\\_chisyo@maff.go.jp](mailto:chisan_chisyo@maff.go.jp)）  
・地域情報局メールマガジン [ide-c23r@mlit.go.jp](mailto:ide-c23r@mlit.go.jp)  
・消費者庁「食品ロス削減関係省庁等連絡会議」（<http://www.caa.go.jp>）  
・環境省「食品ロスポータルサイト～食べ物を捨てない社会へ～」（<http://www.env.go.jp/recycle/foodloss/index.html>）

## 【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ・リアクション・ペーパーの提出（20%）
- ・討論やクイズへの参加（20%）
- ・確認テスト（20%）
- ・期末試験（40%）

## 【学生の意見等からの気づき】

2019年度からの新任教員の為、表題については記入できない

## 【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらおう機器は特にありませんが、ノートなどメモするものは持ってきてください。

## 【その他の重要事項】

・ワードおよびパワーポイントベースの資料と映像資料を用いて授業を進めていきます。  
・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。  
・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to learn about environmental management and sustainability management related to a local area.

ECN300HA

**環境経済論 I****國則 守生**

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

環境問題と市場経済はどのような関連でなければならないのかを問題意識として、環境経済学で取り扱われる重要な概念・考え方を学ぶ。とくに近年、国際的な環境問題を取り扱ううえで注目されている環境問題に対する経済的手段 (economic instruments) を理解し、その役割を評価・検討する。そのために、市場経済のパフォーマンスの検討から始めて、環境問題に対処するためにどのような考え方や政策が行わなければならないか、市場経済を補完・克服するための環境政策の基礎的な視点を検討していく。

**【到達目標】**

さまざまな経済活動ともなって発生している環境問題の解決を考えるためには、環境問題と経済活動との関わりを体系的に理解する必要がある。この授業では、経済学の側面から環境問題の捉え方や問題の解決・軽減のためにどのような対処方法があるのかを幅広い立場から検討することを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で行う。最初に、環境問題が過去、どうして市場経済で対処が難しかったのか、また困難であり続ける要因は何なのか、そして対処するにはどのような枠組みが必要なのかなどを学ぶ。そのために、環境経済学で取り扱われる「外部性」、「公共財」などの概念や性質を理解する。その後、近年、注目を浴びている環境問題に対する経済的手段を理解するために必要とされる基礎的事項を講義する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方および経済における環境の果たす役割の概観
第 2 回	日本を中心としたローカルな環境問題	公害問題やその後の環境問題についての概観
第 3 回	ミクロ経済学のレビュー (1)	市場とは何かについて考える
第 4 回	ミクロ経済学のレビュー (2)	分析道具として、限界概念、余剰概念などを議論
第 5 回	ミクロ経済学のレビュー (3)	パレート効率性による市場の評価とその前提条件
第 6 回	公共財の課題 (1)	環境問題の公共財的側面
第 7 回	公共財の課題 (2)	リンダール均衡の考え方と現実での対応
第 8 回	環境問題の捉え方 (1)	負の外部性問題としての環境問題の視点
第 9 回	環境問題の捉え方 (2)	環境税の基礎理論（そのメリットと限界）
第 10 回	環境問題の捉え方 (3)	規制的手段と経済的手段の比較
第 11 回	環境問題の捉え方 (4)	環境税の種類（ビゲー税、ボーモル・オーツ税など検討）
第 12 回	環境問題の捉え方 (5)	環境問題における当事者間交渉の可能性とコース定理
第 13 回	環境問題の捉え方 (6)	その他の経済的手段
第 14 回	まとめ	環境問題に対する政策等の総括

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。重要な概念とその適用に関し、毎回、復習すること。また、配布印刷物にもよく目を通し、その理解と問題意識の涵養につとめること。受講に当たっては、ミクロ経済学 I、II の履修（同時履修も含めて）が望ましい。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しないが、必要に応じて担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

**【参考書】**

以下の書籍が概念等を学ぶ上で参考となる。

R. K. ターナー他 (2001) 『環境経済学入門』（大沼訳）東洋経済新報社  
栗山浩一・馬奈木俊介 (2016) 『環境経済学をつかむ』第 3 版、有斐閣

**【成績評価の方法と基準】**

期末に筆記試験を実施する（期末試験 100 %）。

**【学生の意見等からの気づき】**

重要な概念については繰り返し説明したい。

**【その他の重要事項】**

必要に応じてエクササイズ（問題練習）を課すので、必ず解いてください。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100. 「7 コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This lecture deals with how to modify the market to keep the environment in good shape. Special attention is paid to economic instruments such as environmental taxes as a proper measure for the local and global environment.

ECN300HA

## 環境経済論Ⅱ

國則 守生

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では自然資源などの安定的な利用組織としてのコモンズや環境改善のメリットとその対策のための費用負担との関係、市場評価の難しい環境評価の課題などを通じて、環境・資源問題の具体的な問題を考える際に必要な枠組みや課題について講義する。なかでも、長期の環境問題などに対して残された課題は何なのか、市場が存在しない環境を経済評価する際の問題点、環境を含む社会的共通資本とは何かなどについて、これらの基礎的な考え方を議論し、持続可能な社会を構築する際の課題について環境の側面からアプローチする。

## 【到達目標】

この授業は、環境経済学における基礎的かつ重要な考え方や概念などを環境経済論Ⅰに引き続き学習し、それらを適用する力を身につけることを目指す。とくに、持続的な資源利用、長期の環境問題、環境の経済的な評価などに注目して現在社会で環境との共生を目指す経済的な対応を理解することをテーマとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。具体的には、自然資源などの安定的な利用組織としてのコモンズや環境改善のメリットとその対策費用負担との関係、環境評価の基礎の理解などを通じて、環境・資源問題の具体的な問題を考える際に必要な枠組を講義する。とくに、長期の環境問題などに対して、残された課題は何なのか、市場が存在しない環境をどのように経済評価するのかなどに関して、その基礎を講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	環境経済論Ⅰのレビューと環境経済論Ⅱの概観
第2回	環境とコモンズ (1)	「コモンズの悲劇」とローカル・コモンズ、グローバル・コモンズ
第3回	環境とコモンズ (2)	ローカル・コモンズの長期的な存立条件と意味
第4回	再生可能資源の課題	漁獲（努力）モデルと過剰漁獲問題
第5回	資源価格と利子率の関連 (1)	非再生可能資源におけるホテリング・ルール
第6回	資源価格と利子率の関連 (2)	長期的な資源価格推移とバックストップ技術
第7回	環境とコスト・ベネフィット分析 (1)	潜在的パレート改善の考え方とその限界
第8回	環境とコスト・ベネフィット分析 (2)	前提条件と社会的効用関数からの解釈
第9回	環境と割引率	割引の基本的な考え方、長期の社会的割引の考え方など
第10回	環境とリスク	リスクの考え方とコスト・ベネフィット分析への応用
第11回	環境の価値評価 (1)	伝統的トラベル・コスト法の考え方
第12回	環境の価値評価 (2)	ヘドニック価格法の考え方
第13回	環境の価値評価 (3)	表明選考法（CVM, Conjoint 分析など）の考え方
第14回	社会的共通資本とまとめ	社会的共通資本としての環境と全体の総括

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。重要な概念とその適用に関し、毎回、復習すること。また、配布印刷物などによく目を通し、問題意識の涵養につとめること。講義は環境経済論Ⅰの履修を前提として組み立てられている。また、受講に当たってはマイクロ経済学Ⅰ、Ⅱの履修（同時履修も含めて）が望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。作成した印刷物を授業にて配布する。

## 【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念などを学ぶうえで参考となる。  
栗山浩一・馬奈木俊介 (2016) 『環境経済学をつかむ』第3版、有斐閣  
宇沢弘文 (2000) 『社会的共通資本』岩波新書 696

## 【成績評価の方法と基準】

理解度を確認するため、期末に筆記試験を実施する（期末試験 100%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

重要な概念については、いろいろな観点から、繰り返し説明したい。

## 【その他の重要事項】

必要に応じてエクササイズ（問題練習）を課すので、必ず解いてください。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

After Environmental Economics I, this lecture covers the topics of the theory of commons, natural resource management and cost-benefit analysis with the environment. Since there's no market for the environment, how to evaluate it plays a vital role in environmental economics. Theory of social common capital is also explained as an alternative analytical notion.

BOM200HA

## 環境健康論 I

中村 真通

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国は長寿国である一方で、健康寿命を延ばすことがこれからの課題とされている。すなわち病気になる前に予防する未病治や、病気になったとしても生活の質を向上することが求められている。そのような中、環境全体を視野に入れた健康観を基盤とした補完代替医療が注目を浴びている。本講義では、補完代替医療の中から、心身一如といった健康観をもつ東洋医学を基盤に精神・心理療法も交え、社会への関わり方と環境に応じた心身の健康へのアプローチについて理解する。最後に社会的問題になっている疾患をいくつか取り上げ、統合医療的な幅広い視点を養い、環境への適応と健康問題に柔軟に取り組む姿勢を追及する。

## 【到達目標】

1. 補完代替療法の分類について説明できる。
2. 西洋医学と東洋医学の健康観を説明できる。
3. 鍼灸が健康に及ぼす影響とそのアプローチについて説明できる。
4. 薬膳が健康に及ぼす影響とそのアプローチについて説明できる。
5. 手技が健康に及ぼす影響とそのアプローチについて説明できる。
6. メンタルの問題とその対応の多様性について理解できる。
7. 性格特性とストレスマネジメントについて概説できる。
8. 家族・学校・社会での健康的な関わり方について理解できる。
9. 日本の生活環境と健康に関する指標について概説できる。
10. 腰痛・肩こりに対する統合医療的アプローチについて理解できる。
11. 婦人科・美容に対する統合医療的アプローチについて理解できる。
12. 認知症に対する統合医療的アプローチについて理解できる。
13. 精神疾患に対する統合医療的アプローチについて理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義・演習形式で行い、スライドを中心に効率よい知識の伝達を行う。内容により演習を行い、適宜リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、受講態度、補完代替療法について
第 2 回	健康の概念	西洋医学と東洋医学の健康観について
第 3 回	健康への東洋医学的アプローチ	鍼灸のアプローチと健康に及ぼす影響
第 4 回	健康への東洋医学的アプローチ	薬膳のアプローチと健康に及ぼす影響
第 5 回	健康への物理的アプローチ	手技のアプローチと健康に及ぼす影響
第 6 回	健康への心理的アプローチ	多様なメンタルな問題とその対応
第 7 回	健康への心理的アプローチ	こころの分析とその対応
第 8 回	個人的要因が社会環境や健康に及ぼす影響	性格特性とストレスマネジメント
第 9 回	社会的要因が社会環境や健康に及ぼす影響	家族・学校・社会との関わり
第 10 回	健康の概念	日本の生活環境と指標
第 11 回	有訴者率の高い疾患に対する統合医療	腰痛・肩こりについて
第 12 回	社会的関心の高い統合医療	婦人科・美容について
第 13 回	社会問題となっている疾患に対する統合医療	認知症について
第 14 回	社会問題となっている疾患に対する統合医療	精神疾患について

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。それぞれの講義の予習・復習として、プリントや参考文献を読み、今後の社会生活に活用可能な視点を考える。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

## 【参考書】

兵頭明（2009）『東洋医学のしくみ』新星出版  
 （社）日本東洋医学会 学術教育委員会編（2007）『漢方医学テキスト』南江堂  
 全日本鍼灸学会 HP <http://jsam.jp/>

日本統合医療学会 HP <http://imj.or.jp/>  
 その他、都度講義内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（課題）：20% 期末試験：80%

## 【学生の意見等からの気づき】

新規担当のため、該当しない。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

鍼灸・あん摩マッサージ指圧 臨床・教育・研究業績 10 年以上  
 スクールカウンセラー・全日本鍼灸学会編集委員  
 看護師・理学療法士養成の大学非常勤講師の実務経験を有し、心と身体の健康に対して多面的な授業を展開する。

## 【Outline and objectives】

Based on the viewpoint of Oriental medicine, the essence of the human body is considered as a "function." This function is related to both "body" and "emotion," which is important for balance. In the clinical situation of acupuncture, acupuncturists directly approach their patients' "body" by giving them physical stimuli of acupuncture. However, they seem to indirectly work on their patients' "emotion." In addition, the communication between acupuncturists and their patients also has an influence on the therapeutic effects. Thus, it is important to properly approach both the patients' "body" and "emotion" in clinical settings.

BOM200HA

## 環境健康論Ⅱ

朝比奈 茂

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

補完代替医療とは、一言で説明すると「現代西洋医学領域外の医学・医療体系の総称」である。近年、NCCAM（アメリカ国立補完代替医療センター）では、環境全体を視野に入れたエコロジカルな健康観を基礎として、生命の特徴である多様性、個別性、一回性を重視する補完代替医療分野に多大の研究費を費やしはじめた。またアメリカ、ヨーロッパ諸国を中心として、世界各国の伝統医療の見直しながされ、多くの人が日常的にとりいれ、その効果を実感している。

本講義では、世界におよそ 600 種あると言われている補完代替医療のうち、代表的ないくつかの伝統医療を取り上げ、その特徴や功罪などを説明する。また、必要に応じて現代西洋医学との融合、または使い分けできる思考、姿勢を身につけることで、幅広い視点から環境と健康問題に取り組む可能性を追及する。

## 【到達目標】

1. 補完代替医療の健康観について説明できる。
2. 世界の伝統医療についてその特徴を説明できる。
3. 代表的な補完代替医療を列挙でき、その内容を概説できる。
4. 代表的な補完代替医療の特徴、長所および短所を説明できる。
5. 現代西洋医学と補完代替医療を比較し、それぞれの特徴を説明できる。
6. 東洋医学の根幹である「気」の概念を理解できる。
7. 陰陽論、五行学説について概説できる。
8. 鍼・灸療法の特徴、効果、用い方について説明できる。
9. ホメオパシーの特徴、長所および短所を説明できる。
10. エネルギー療法について実践例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義は、常に人の生命活動を意識して展開する。生命活動について、多方面（毎回のテーマ）からアプローチし、到達目標を達成していく。授業は講義形式で行い、スライド、DVD を用いて視覚的に効率よい知識の伝達を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第 2 回	補完代替医療の健康観Ⅰ	NCCAM（アメリカ国立補完代替医療センター）の研究、取組、世界の現状などを紹介する。
第 3 回	補完代替医療の健康観Ⅱ	ドイツのがん治療の現状を DVD を視聴しながら解説する。
第 4 回	補完代替医療システム ：中国伝統医学Ⅰ	中国伝統医療である東洋医学について、発祥と発展、健康観や哲学などを解説する。また現代西洋医学との相違を提示し、検討する。
第 5 回	補完代替医療システム ：中国伝統医学Ⅱ	東洋医学の基本概念である陰陽五行論、経穴と経絡、気血水（津液）について説明する。
第 6 回	補完代替医療システム ：中国伝統医学Ⅲ	東洋医学分野の内系医学に属する鍼・灸療法の特徴、効果、用い方について説明し、実際に鍼・灸治療を行いその効果を体験する。
第 7 回	補完代替医療システム ：中国伝統医学Ⅳ	東洋医学分野の寒傷系医学に属する湯液療法の特徴、効果、用い方について説明する。具体例として7種類の生薬を使用する葛根湯を実際に調合、煎じてそれを服用する実習を行う。
第 8 回	補完代替医療システム ：ホメオパシー	欧米やインド、南米などに広く普及している、ホメオパシーについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第 9 回	補完代替医療システム ：インド伝統医学（アーユルヴェーダ、ヨガ）	インド地域を中心として発達した 5000 年の歴史があるアーユルヴェーダ、ヨガについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第 10 回	精神・身体相互介入による医療 ：瞑想法、呼吸法	精神および身体相互介入による医療に位置付けられている瞑想について、科学的な視点から捉えるとともに、日本の「禅」との関連性を解説する。

第 11 回	生物学的療法 ：マクロビオティック、ハーブなど	世界の多くの著名人、有名人などが行っていると言われている、「マクロビオティック」について、健康観や哲学、長所や短所などを概説し、実際にその調理方法を解説する。
第 12 回	手技および身体を介する療法 ：按摩・指圧・マッサージ	按摩・指圧・マッサージについて、その発祥と発展、施術の法則と方法、特徴的な手技、長所と短所などを説明する。
第 13 回	手技および身体を介する療法 ：カイロプラクティク、オステオパシー、リフレクソロジー	カイロプラクティク、オステオパシー、リフレクソロジーについて、その発祥と発展、健康観や哲学、長所と短所などを説明する。
第 14 回	エネルギー療法 ：ヒーリングタッチ	ヒーリングタッチについて、その発祥と発展、健康観や哲学、長所と短所などを説明する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する。

## 【参考書】

『補完代替医療入門』 上野圭一著 岩波アクティブ新書  
『ホメオパシー医学への招待』 松本丈二著 フレグランスジャーナル社  
『標準東洋医学』 仙頭正四郎 金原出版  
『近代中国の伝統医学』 ラルフ・C・クロイツァー著 創元社  
『傷寒論を読もう』 高山宏世著 東洋学術出版社  
『アーユルヴェーダとヨガ』 上馬場和夫著 金芳堂  
『人はなぜ治るのか』 アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）により評価を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100, 「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

The body can heal itself. Natural healing is not a miracle but a fact of biology - the result of the innate healing system in the human body. The opportunity to experience this spontaneous healing can be increased by giving proper exercise and adequate rest to the body. In this lecture, from the perspective of oriental medicine, students learn about the natural healing system.

SOC300HA

## 環境社会論 I

西城戸 誠

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境社会学は、「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」に大別される。本講義では 2 つのアプローチを具体的な事例を用いて講義をしながら、環境／環境問題を調査研究するための理論と方法論を習得し、広い視野から環境に関わる諸課題を把握する方法を学ぶ。

## 【到達目標】

社会的な視点から人間の行動と「環境」との関係のあり方について学び、環境社会学の基本的なアプローチ、概念を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

社会的なアプローチの特徴を紹介した後、環境社会学の諸アプローチを概観する。戦後日本の環境問題の歴史を振り返りながら、環境問題の構造を把握することによって、「加害-被害構造論」「受益圏・受苦圏」「社会的ジレンマ論」について講義する。続いて、人々の生活と水とのかかわりという点に着目しながら、「生活環境主義」「近い水・遠い水」「河川管理の変遷と生活と水との関わり」「技術と災害、災害文化の形成と伝承」といったトピックスについて講義する。最後に環境社会学の方法論と環境社会学の意義について述べ、「理論と実証の往復」という環境社会学のスタイルを学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会学とは何か？	社会的なアプローチの概要について講義する。
第 2 回	環境社会学とは何か？	環境社会学の 2 つのアプローチに関する概要を講義する。
第 3 回	日本の環境問題の歴史とその構造 (1) - 先史から第二次世界大戦まで	人間社会と環境の関係の変化を把握した後、第二次世界大戦以前までの日本の環境問題の歴史について概説する。
第 4 回	日本の環境問題の歴史とその構造 (2) - 公害問題から地球環境問題	戦後日本の環境問題の歴史について、環境問題の加害者、被害者とその運動、行政の対応について概観する。
第 5 回	日本の環境問題の歴史とその構造 (3) - 加害-被害構造	日本の環境問題の歴史を踏まえて、加害-被害論と、被害構造論について講義する。
第 6 回	受益圏と受苦圏 (1) - 概念の定義とその適用	受益圏と受苦圏という概念とその適用について講義する。
第 7 回	受益圏と受苦圏 (2) - 事例から考える受益圏と受苦圏	受益圏と受苦圏概念の適用について、具体的な事例を用いて講義する。
第 8 回	環境破壊と社会的ジレンマ (1) - 社会的ジレンマ論の概要	社会的ジレンマという概念を用いて、環境破壊のメカニズムについて講義する。
第 9 回	環境破壊と社会的ジレンマ (2) - 事例から社会的ジレンマを考える	事例を通じて社会的ジレンマについて講義する。
第 10 回	「水」と生活文化 (1) - 生活環境主義とは？	生活環境論、生活環境主義について講義する。
第 11 回	「水」と生活文化 (2) - 「近い水」「遠い水」	「近い水・遠い水」、水の総有という点から、人と水のかかわりとその変化について講義する。
第 12 回	「水」と生活文化 (3) - 河川管理の変遷と公共性	日本の河川行政、河川管理の変遷から人と水のかかわりの変化について講義する。
第 13 回	「水」と生活文化 (4) - 技術と災害	水害（災害）に対する技術のあり方について講義する。
第 14 回	「水」と生活文化 (5) - 災害文化の形成と伝承	水害および水害教育という観点から、災害文化の形成と伝承を考え、今後の人と水のかかわりの方向性を考える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。それぞれの講義の復習として、テキストや参考文献を各自で入手し、講読する。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

## 【参考書】

鳥越皓之・帯谷博明編著『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房

## 【成績評価の方法と基準】

論述式の試験（80%）＋平常点（講義中に行うコメントペーパーなど）（20%）

## 【学生の意見等からの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、講義内容の分量が多く、話し方が早口になってしまいう点も、内容を厳選することで可能な限り対処したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to learn a basic sociological perspective on the relationship between society and the environment.

SOC300HA

## 環境社会論Ⅱ

西城戸 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、環境問題の解決に重要な市民運動、NPO・NGO、ボランティア団体の活動を「社会運動」という観点から整理し、講義を行う。そして、社会運動から見える現代社会や社会問題、環境問題への理解を深め、民主政治、政治参加、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養うことを目的とする。

## 【到達目標】

環境問題に関わる社会運動の多様な形や活動の条件、活動の意味などを理解すること。地域的な共同性・公共性を構築するための市民参加の制度設計に関する理解を深めること。

日本におけるエネルギーと社会、市民との関係について歴史的な経緯と今後の関係性についての多様な知見の存在を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

はじめに「社会運動」に注目して「社会」を捉える視点について、社会学と社会運動論の関係を紐解く。次に、リスク社会である現代社会における社会運動の意義、可能性について、日本の反原発運動の事例から講義する。続いて、なぜ人々が社会運動に参加するのか（運動の承認論）、どのように社会運動を展開するのか（資源動員論、フレーミング論）という点を解説し、さらに社会運動のさまざまな形とその変化を捉える視点を提示しながら、「社会運動とは何か」という根本的な問いに答える。最後に再生可能エネルギーを求める市民運動を事例として、環境運動の新たな展開と市民参加、地域的な公共性に関する議論を展開し、現代社会の構造変動と社会運動の潜勢力について考えたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会運動から社会が見える	講義のガイダンスとともに、なぜ、今、「社会運動」を議論する必要があるのかという点について講義する。
第2回	社会学と社会運動	社会学の歴史を、社会運動の観点から、その概略を講義する。
第3回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動（1）－リスク社会論	「リスク（社会）」をキーワードに、現代の環境問題と環境運動を位置づけについて講義する。
第4回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動（2）－反・脱原発運動の歴史	チェルノブイリ原発事故と反原発運動、福島第一原発事故後の反原発運動を事例として、リスク社会における環境運動について講義する。
第5回	なぜ環境運動に関わるのか・運動参加の承認論（1）－水俣病	水俣病を巡る社会運動を事例に、運動参加の承認論について講義する。
第6回	なぜ環境運動に関わるのか・運動参加の承認論（2）－水俣から福島へ	水俣病を巡る社会運動と、福島第一原発事故に関わる人々の関係について考える。
第7回	運動のさまざまな形とその変化（1）－理論	社会運動のさまざまな形態を紹介し、社会（環境）運動の外延を広げることによって、現代社会の運動への理解を深める。
第8回	運動のさまざまな形とその変化（2）－実証と事例研究	さまざまな形態の社会（環境）運動とその形態の変化について、生活クラブ生協を事例にして論じる。
第9回	どのように環境運動を展開するのか（1）－資源動員論	どのように運動を展開するのかという点について、資源動員論を紹介しながら講義する。
第10回	どのように環境運動を展開するのか（2）－フレーミング	「フレーミング」という観点から、運動への潜在的な参加者を集める方法について議論する。
第11回	再生可能エネルギーと環境運動（1）－「市民風車」の誕生とその展開	日本における再生可能エネルギーの導入、普及と環境運動の展開について講義する。
第12回	再生可能エネルギーと環境運動（2）－コミュニティパワーと社会的受容性	地域に資する再生可能エネルギー（コミュニティパワー）の普及と社会的受容性について講義する。
第13回	再生可能エネルギーと環境運動（3）－3.11以降の環境運動の可能性	3.11以降の再生可能エネルギーを希求する市民の動きと、反原発運動などの環境運動との関連について講義する。

第14回 再生可能エネルギーと環境運動（4）－世界の中の日本と今後の課題 日本での再生可能エネルギーの普及について世界的な潮流を踏まえて、課題と展望について講義する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義中に参照した文献の講読。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布  
大畑裕嗣・成元哲・道場親信・樋口直人（編著）『社会運動の社会学』有斐閣（2004年）

## 【参考書】

西城戸誠『抗いの条件－社会運動の文化的アプローチ』人文書院（2008年）  
丸山康司・西城戸誠・本巢芽美（編著）『リスクと地域資源管理からみた再生可能エネルギー』ミネルヴァ書房（2015年）

## 【成績評価の方法と基準】

定期試験（90%）と平常点（追加レポートなど・10%）

## 【学生の意見等からの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、講義内容の分量が多く、話し方が早口になってしまう点も、内容を厳選することで可能な限り対処したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This lecture provides the viewpoint of "social movements" as a citizen movement, NPO / NGO, and volunteer organization for solving environmental problems.

SOC300HA

## 環境社会論Ⅲ

西城戸 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、環境社会学の視点から、環境（自然）や地域社会の持続性に関する講義を行う。特に合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生、縮小社会といった持続性にかかわる問題に対して、映像資料を用いて具体的な事例から議論を行う。また、それぞれ具体的な問題点に関する解決策を考える。さらに、これらの議論から、「環境と社会」の社会学を中心とした、持続性学（サステナビリティ学）を展望する。

## 【到達目標】

日本国内の事例を中心に取り上げながら、「環境（自然）」と「地域（社会）」の持続性（サステナビリティ）に関する議論として、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生、縮小社会といったテーマにかかわる問題について映像資料を活用した上で、これらの問題の解決策について考える力をつけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

理論的な論点の提示と事例検討を繰り返し、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生、縮小社会、といったキーワードへの理解を深める。なお、映像資料を用いるが、映像資料に対しては要約、コメント等をその都度求める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・環境と地域の持続性を考える視点(1)	環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容を振り返りながら、環境・地域の持続性を考えるための論点を提示する。
第2回	合意形成とレジティマシー(1)：「海は誰のものか」	人と自然がかかわる際の、自然環境をめぐる価値や意味の共有を巡る課題を、合意形成とレジティマシーという観点から講義する。
第3回	合意形成とレジティマシー(2)：市民参加とレジティマシー	合意形成やそのレジティマシーを巡る、市民参加のあり方について講義する。
第4回	生業・半栽培・資源管理(1)：コンブの森から考える	生業とそれを支える伝統的な生態学的な知識に着目し、昆布漁を事例として資源管理のあり方を考える。
第5回	生業・半栽培・資源管理(2)：半栽培から資源管理へ	生業および半栽培という観点から資源管理のあり方について講義する。
第6回	生業・半栽培・資源管理(3)：生態系サービス	生態系サービスという概念から、人と自然のかかわりについて講義する。
第7回	自然再生と順応的管理(1)：コウノトリと地域再生	兵庫県豊岡市におけるコウノトリをめぐる自然再生
第8回	自然再生と順応的管理(2)：獣害問題と順応的管理	サルの「獣害問題」を事例に、サルの順応的管理および地域再生の方向性について講義する。
第9回	過疎問題と地域社会(1)：過疎と「核」の受容	北海道幌延町の核廃棄物処理施設の誘致問題を事例として、過疎地域における核の受容の背景について講義する。
第10回	過疎問題と地域社会(2)：「核」への抗議と運動文化	核廃棄物処理施設誘致の反対運動の展開を見ながら、過疎地域の地域再生や、地域の持続性に関して議論する。
第11回	負の遺産と地域再生(1)：炭鉱社会の盛衰・夕張を事例として	財政破綻した北海道夕張市の背景と、炭鉱社会の盛衰に関する概要を講義する。
第12回	負の遺産と地域再生(2)：炭鉱遺産によるまちづくりの展開	「負の遺産」をどのように地域再生に結びつけるべきかという点を、炭鉱遺産によるまちづくりの事例から考える。
第13回	縮小社会とその課題(1)：「縮小社会」とは何か。	「縮小社会」とはどのような現象か。東京、夕張、中国地方における「縮小社会」の現状について学ぶ。
第14回	縮小社会とその課題(2)：構造的課題点と解決策	中山間地域における地域おこし協力隊など、縮小社会の解決策を考える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回の講義内容の復習と、環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容の関連づけを随時、行ってほしい。また、映像教材に対するコメントを求める。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

## 【参考書】

講義ごとに参考資料を紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

論述式の試験(60%) + 平常点(講義中に行うコメントペーパーなど)(40%)

## 【学生の意見等からの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、講義内容の分量が多く、話し方が早口になってしまう点も、内容を厳選することで可能な限り対処したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用

## 【その他の重要事項】

本講義は、環境社会論Ⅰ、Ⅱの履修後の受講を想定しており、これらの2つの講義の理解を前提として講義を展開する箇所がある。履修制限は行わないが、環境社会論Ⅰ、Ⅱを未履修の学生は、留意すること。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き(P100,「7コース制」)を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

In this lecture, I will give environmental sociological lectures on environmental sustainability and sustainability of communities. Specifically, this lecture deals with themes such as consensus building, legitimacy of environment, adaptive management, regional regeneration, and shrinking society.

CUA200HA

## 環境人類学 I

高橋 五月

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学 I では、人間と自然の関係について探求してきた国内外の人類学者たちによる民族誌や理論を参照しながら、様々な文化的背景をもとに多様に存在する人間と環境の関係について学ぶ。また、環境人類学のアプローチを用いて身近な環境問題について議論し、文化的側面を理解することの重要性についての理解を深める。

## 【到達目標】

本講義では、身近な環境問題について文化人類学のアプローチを利用しながら再考することで、人間と環境の関係についての知識とグローバルな視点を深めることに加え、クリティカルシンキングを養うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

映像資料を随時活用しながら講義をおこなう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明する。
第 2 回	環境人類学とは？	環境人類学とはどんな分野なのかについて紹介する。
第 3 回	文化生態学とは？	環境人類学の「父」であるジュリアン・シュチュワードの研究を紹介する。
第 4 回	民族生態学とは？	人間と環境の関係を民族学的に考察する研究を紹介する。
第 5 回	生態人類学とは？	ロイ・ラバポートによる宗教儀式と生態との関係についての研究を紹介する。
第 6 回	狩猟採集文化	狩猟や採集という文化を通して人間と環境の関係について講義する。
第 7 回	中間試験	中間試験を行う。
第 8 回	複合社会	文化的変容が人間と環境の関係に与える影響について講義する。
第 9 回	地下環境	鉱物採取（石炭、ウラン、石油、ダイヤモンド）と環境問題との接点を講義する。
第 10 回	地球温暖化	気候変動が人間と環境に与える影響について講義する。
第 11 回	人口と環境	人口の増減が人間と環境の関係に与える影響について講義する。
第 12 回	生物の多様性	生物多様性が人間と環境の関係に与える影響について講義する。
第 13 回	環境思想と運動	環境思想と環境運動から見た人間と環境の関係について講義する。
第 14 回	消費者文化	大量消費社会が生み出す環境問題について講義する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
 (準備学習) 詳しい授業計画を授業第 1 回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。  
 (復習) 中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。

## 【テキスト（教科書）】

授業内に紹介します

## 【参考書】

パトリシア・K. タウンゼンド著、岸上 伸啓・佐藤 吉文訳『環境人類学を学ぶ人のために』世界思想社

## 【成績評価の方法と基準】

講義中にリアクションペーパーの提出（30%）、中間・期末筆記試験（70%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義で使用するスライドをもとにした「レジュメ」を支援システムにて公開しています。ただ、これは講義の要点が書かれているだけのものですので、学生各自で授業メモを取り、自分なりのレジュメを完成させてください。映像資料も利用しながらの授業が好評だったので、今後も同様のスタイルで授業を進めたいと思います。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

"Environmental Anthropology I" is an introductory course to learn environmental anthropology and related discussions on human-environment relations.

CUA300HA

**環境人類学 II**

高橋 五月

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

環境人類学 II では、「サステイナビリティ」をキーワードに、持続可能性とは何か、持続可能社会の実現のために過去にどのような方策が取られ、現在どのような課題が生じているのか、事例と人類学的アプローチをもとに講義し、議論する。

**【到達目標】**

本講義の目的は、持続可能な社会の「作り方」を教えることではありません。本講義は、様々な事例や理論をもとに、クライスメイトと議論しながら、学生が自分なりに「サステイナビリティ」のあり方について考え、探求するためのツールを身につけることを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

映像資料を随時活用しながら講義を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明する
第 2 回	サステイナビリティとは？（1）	サステイナビリティの概念の誕生とその歴史的背景について講義する
第 3 回	サステイナビリティとは？（2）	持続可能な社会とは何か？ これまで実行された方策とその課題について講義する
第 4 回	コモンズ（1）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」について講義・議論する
第 5 回	コモンズ（2）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」と関連した文化人類学的議論について講義・議論する
第 6 回	持続可能な農業	農業技術発展と環境変化の関係、遺伝子組み換え作物の生態的影響について講義・議論する
第 7 回	中間試験	筆記の中間試験を行う
第 8 回	持続可能な水産業	水産資源の枯渇や海洋汚染などの問題と持続的な水産業について講義・議論する
第 9 回	生物多様性とは？	気候変動に関する文化・政治的問題、自然エネルギーにまつわる文化人類学的議論について講義・議論する
第 10 回	里山・里海	里山・里海が目指すサステイナビリティの意味やあり方について講義・議論する
第 11 回	災害	災害とサステイナビリティの関係について講義・議論する
第 12 回	エネルギー	エネルギー問題をもとにサステイナビリティの意味やあり方について講義・議論する
第 13 回	アンソロポシオン	アンソロポシオンとは何か、地球環境にもたらした人類の影響について探求する最新の人類学的研究について講義・議論する
第 14 回	まとめ：地球の見方	地球の見方をテーマに、環境人類学 II の総括をする

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。（準備学習）詳しい授業計画を授業第 1 回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。

**【テキスト（教科書）】**

資料を配付する。

**【参考書】**

授業中に提示する。

**【成績評価の方法と基準】**

講義中にアクションペーパーの提出（30%）、中間・期末筆記試験（70%）。

**【学生の意見等からの気づき】**

講義で使用するスライドをもとにした「レジュメ」を支援システムにて公開しています。ただ、これは講義の要点が書かれているだけのものですので、学生は各自で適宜授業メモを取り、自分なりのレジュメを完成させてください。映像資料も利用しながらの授業が好評だったので、今後も同様のスタイルで授業を進めたいと思います。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

"Environmental Anthropology II" is a lecture course to study the concept of sustainability from critical perspectives through anthropological and related discussions.

CUA300HA

## 環境人類学Ⅲ

高橋 五月

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅲは、定員制（上限40名）です。定員を超える希望があった場合は、第一回授業内で志望理由書を書いて提出していただき、選考します。選考結果は同日中に掲示します。授業では、講義に加えて、学生によるプレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションを取り入れたアクティブラーニングを実践します。授業のイメージとしては、講義とゼミが合わさったような感じです。質問等がある方は、第1回ガイダンスに出席する、または教員にメールで連絡を下さい。積極的な応募をお待ちしています！

2019年度のテーマは災害人類学です。災害の文化・社会的側面について日本国内外の文化人類学的研究をもとに学びます。災害とは何か。リスクとは何か。復興とは何か。私たちは、災害にまつわるキーワードについて、知っているようで、その意味について深く考えずに使用していることが多々あります。本授業では、震災にまつわるキーワードの意味を多角的に探求することで、その先に見えてくる文化や社会システムについて考察することを目標とします。従って、本授業の目的は、キーワードを「正しく定義すること」ではありません。学生が自ら疑問を探求し、考察する力を身につけること、またその力を磨くことが最終的な目的です。

## 【到達目標】

- 1) 災害人類学の議論や視点について基礎的な知識を取得する
- 2) 災害にまつわるキーワードについて、批判的に考察する力を取得する
- 3) 国内外の災害事例についての基本的な知識を取得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

アクティブラーニングを実践するために定員制をとります。授業は、講義に加え、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションを行います。プレゼンテーションは、5つのテーマから1つを学生各自が選び、新聞記事などを調査し、自分なりの考えを発表します。テーマは例えば、「日本で最古の災害とは何か」などがあります。「正しい答え」はないので、学生各自が調査をもとに得た知識をクラスメイトと共有し、議論することが目的です。グループワークのテーマは、災害ミュージアムです。国内外の災害事例ごとにグループ分けをし、オリジナルの災害ミュージアム構想をつくり、発表します。ミュージアムづくりを通して、災害を記録すること、記憶すること、伝えることの意味について理解を深めることを目的とします。この授業ではディスカッションの機会を多く設けます。自分の考えを自分の言葉で表現出来るスキル、また人の意見を自分の考えと対比させながら考察を深めるスキルを磨くことが目的です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の目的や進め方について、また定員制と選考についての説明をする
第2回	震災人類学の意義（1）	文化人類学者が災害を研究する意義について講義、討論する
第3回	震災人類学の意義（2）	文化人類学者が災害を研究する意義について、具体的な事例研究をもとに更に理解を深める
第4回	「災害」とは何か（1）	「災害」とは何か。その意味を探索。
第5回	「災害」とは何か（2）	「災害」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探索。
第6回	「災害」とは何か（3）	「災害」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探索。
第7回	「リスク」と「安全」の意味（1）	「リスク」とは何か。「安全」とは何か。その意味を探索。
第8回	「リスク」と「安全」の意味（2）	「リスク」とは何か。「安全」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探索。
第9回	「復興」の意味（1）	「復興」とは何か。その意味を探索。
第10回	「復興」の意味（2）	「復興」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探索。
第11回	「復興」の意味（3）	「復興」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探索。
第12回	災害ミュージアム（1）	グループごとに災害ミュージアムの構想をまとめ、発表する
第13回	災害ミュージアム（2）	グループごとに災害ミュージアムの構想をまとめ、発表する
第14回	期末試験	授業内期末試験を実施する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。（準備学習）詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業の前日までに読み、感想文（300字程度）を授業支援システムにアップしましょう。

（復習）期末試験の問題は講義で使用する文献、映画、および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

授業支援システムにアップする

## 【成績評価の方法と基準】

文献感想文（20%）、個人プレゼンテーション（20%）、グループワーク（20%）、平常点（20%）、期末試験（20%）

## 【学生の意見等からの気づき】

議論が中心の授業を通して、学生はお互いに学び合い、視野を広げる機会を楽しんでくれたようで嬉しいです。2019年度の授業も楽しみにしています。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

"Environmental Anthropology III" is a seminar/lecture course to study anthropology of disasters.

PHL300HA

## 環境哲学基礎論

吉永 明弘

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学的空間論、身体論、人間主義地理学、風土論、都市論を学ぶとともに、アメニティマップ作り実践を通じて、各人が自分にとって良好な環境とはいかなるものかについての認識を深めることを目標とする。

## 【到達目標】

「良い環境とは何か」について自分なりの答えが見つけれられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義、質疑応答、レポートへの応答。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	なぜ環境を哲学するのか	「環境とは何か」となぜ問う必要があるのかを説明する
2	哲学的空間論	ユクスキュル環境論、市川浩の身体論、ボルノウの空間論を紹介する
3	人間主義地理学	トゥアンとレルフの「場所」についての理論を紹介する
4	風土論:和辻哲郎	和辻哲郎の風土論を紹介する
5	風土論:ベルク	オギュスタン・ベルクの風土論を紹介する
6	風土論的環境倫理の構想	岸由二、桑子敏雄、亀山純生の議論を紹介する
7	都市論:ジェイコブズ	ジェイコブズの都市論について紹介する。
8	清溪川復元と美の条例	ソウル市の清溪川復元事業と真鶴町の美の条例について紹介する
9	アメニティマップ概論	アメニティマップの作り方を説明し、過去のマップを紹介する
10	アメニティマップ製作	実際にアメニティマップをつくってみる
11	アメニティまとめ	作成したアメニティマップを用いて議論する
12	対話型講義	アメニティマップの有効な使い方について議論する
13	環境と観光	観光が地域環境にもたらす影響について論じる
14	ローカルからグローバルへ	「地域環境保全」から「地球環境保全」への道筋をさぐる

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

## 【テキスト（教科書）】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

## 【参考書】

吉永明弘『フックカイト`環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

## 【成績評価の方法と基準】

試験（50%）、マップ製作（20%）、レポート（30%）

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

You find answering the question "What is a good environmental?"

MAN300HA

## 環境ビジネス論

竹ヶ原 啓介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題と経済との関わりを具体的に考える素材として「環境ビジネス」を取り上げる。気候変動対応、循環型社会システム形成、自然資本保全、環境リスク管理など、様々な分野で展開される企業活動の分析を通じて環境問題を捉え直すことにより、環境と経済の関わりについて複眼的な考察が出来るようになることを目標とする。授業では、主要分野の環境ビジネスについて、内外の具体例を素材にファイナンスの基本的な考え方を交えて検討すると共に、実際に企業分析を体験することで理解を深めていく。

## 【到達目標】

環境ビジネスを構成する多様な企業活動について、総合的な理解を深め、主要な分野についてビジネスモデルを分析し、その成長性やリスクについて具体的に議論が出来るようになる。様々な企業情報に触れると同時に、汎用性の高いツールとしてファイナンスの基本的な考え方を学ぶことにより、様々なビジネスモデルを検討する際に、自然にファイナンス的な見方が出来るようになる。また、企業分析と発表・フィードバックを経験することで、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

環境ビジネスについて、その市場規模や構成、雇用などといった巨視的な視点を押さえると共に、エネルギー、資源リサイクル、リスク管理、水、自然資本保全など主な各論テーマ毎に、ケーススタディ等を通じて具体的に分析しつつ学習する。その際、ファイナンスの基本的な考え方を、基礎的な分析ツールを知ることで、汎用性のある知識の習得を目指す。また、個別企業の分析を通じてESGの観点から環境ビジネスの実態に触れるとともに、教員からのフィードバックを通じてプレゼンテーション能力の涵養を図る。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業で取り上げていくテーマを紹介し、受講後の到達点イメージを共有する。
第2回	環境ビジネス概論	環境ビジネスの基本的な性格と市場規模など全体像の把握を行うと共に、分析のフレームワークについての知識を整理する。
第3回	環境と金融①	近時注目を集める環境金融の考え方を理解するとともに、ファイナンスの基本的な考え方やツールについて学ぶことにより、各論以降の検討に向けた基礎を構築する。
第4回	環境と金融②	前回の続き。NPV、IRRなどの考え方、キャッシュフロー表の構成などの基本を理解する。
第5回	環境と金融③/プレゼンチーム分けと事前ミーティング	前回の続き。また、講義後半で行う企業分析のチーム分けを確定し、チームメンバーの顔合わせを行う。
第6回	ケース1：気候変動対応ビジネス1	太陽光発電や風力、バイオマスを素材に、再生可能エネルギービジネスについて、その事業性や普及に向けた課題等を考える。
第7回	ケース2：気候変動対応ビジネス2	再生可能エネルギーと並ぶ温暖化対策ビジネスである省エネについて考える。ESCOなどを通じて、省エネがビジネスとして成立するポイントについて考える。
第8回	ケース3 リサイクルビジネス1/企業分析プレゼン①	規制が作り出した巨大産業であるリサイクルビジネスの基本構造を理解し、容器包装や金属など具体的な事例を踏まえて成功モデルを探る。なお、今回から講義の後半に企業分析・プレゼンを実施する予定。
第9回	ケース3 リサイクルビジネス2/企業分析プレゼン②	前回の続き。
第10回	ケース4：土壌汚染対策ビジネス/企業分析プレゼン③	法規制導入を機に拡大が期待されるが、予想とは異なるパスを辿った土壌・地下水汚染対策ビジネスの基本構造を理解し、成功モデル・戦略を探る。

第 11 回	ケース 5：水ビジネス／企業分析プレゼン④	希少化する淡水資源と人口増加をバランスさせる切り札として期待される水ビジネス。国内では上下水道インフラの更新、海外では新興国への進出による成長が期待されているビジネスの現状と展望を考える。
第 12 回	ケース 6：自然資本・生物多様性保全ビジネス／企業分析プレゼン⑤	自然資本／生物多様性という概念と、これをビジネスと接続する視点を確認しつつ、幾つかの優れた事例を通じて、関連ビジネスについて考える。
第 13 回	ケース 7：ESG 投資と環境ビジネス 1／企業分析プレゼン⑥	欧米の長期投資家を嚆矢に、現在我が国でも影響力を強めている ESG 投資など「環境金融」の機能について考える。
第 14 回	ケース 7：ESG 投資と環境ビジネス 2／企業分析プレゼン⑦	前回の続きと全体の振り返り。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。ファイナンスと聞くと身構えてしまいがちですが、予備知識は一切不要です。むしろ復習を重視して下さい。自分が関心のある業界／企業が環境問題にどのように関わっているか、問題意識をもって講義に臨めば得るものが多いでしょう。講義では、受講生数次第ですが、単独あるいはチームで担当する企業の環境ビジネスについて分析・プレゼンしてもらいます。教室での質疑、講師からのフィードバックを含め、過去の受講生の多くが、この経験が有用だったと振り返っています。こうした分析・プレゼン資料作成作りへの積極的な参加が望まれます。なお、必要な資料等は原則として授業支援システム等を通じて配布します。

#### 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したレジュメや参考資料を授業支援システム等を通じて配布します。

講義は、基本的にこのレジュメを参照しながら行われるので、受講する学生は忘れずに持参するようにして下さい。

#### 【参考書】

環境省 環境経済情報ポータルサイト  
[http://www.env.go.jp/policy/keizai\\_portal/index.html](http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal/index.html)  
 このほか、講義において適宜紹介していきます。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業の一環であるプレゼンテーションへの参加と内容・貢献度（50%）と、講義に関連して理解度を確認するため複数回課す予定の事前課題の提出（30%）、平常点（20%）から、総合的に判断する。なお、プレゼンテーションに関して個別指導を行う関係上、受講希望者が多い場合に人数調整を行うことがある。

#### 【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーションに関してチーム制をとる場合、受講生の学年等に偏りが出ないように留意するとともに、講義の中でチームメンバーが顔合わせを行う機会を設けるなど、その後のチームワークの円滑化を図る。

#### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出には原則として授業支援システムを利用する。プレゼンテーション作成にパワーポイントを使用する。

#### 【その他の重要事項】

分析・プレゼン社数は6～7件を想定しているが、受講者数に応じて増減する可能性がある。また、事前課題として、ベンチャー企業の取り組み事例などに関する資料を講義で配布し、次の講義までに簡単なレポートを課す。できるだけ多くの事例に触れることで理解を深める趣旨だが、このレポートの提出も成績評価上重要な位置づけになる。

#### 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

In this lecture we deal with "Environmental business" as a material to concretely consider the relationship between environmental problems and the economy. By analyzing corporate activities developed in various fields such as climate change response, recycling social system formation, natural capital preservation, environmental risk management, etc., we can reconsider the environmental problems, and get a multi-eye view on the relationship between the environment and the economy. In the lesson, we will examine specific examples of domestic and foreign aspects of environmental business in key fields. It also aims to master the basic idea of finance. Students will be in charge of corporate analysis and presentation.

TRS200HA

## 環境表象論 I

梶 裕史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、「文化」の視点からの環境共生型の地域形成・人間形成のとりくみの一例を紹介するものです。「表象」は、心の中に結ばれる像のこと。環境表象とは、人間が自分達をとりまく環境を心にどう捉えるか、ということであるとしたいと思います。授業では、その好個のテーマとして「文化的景観」という考え方をとりあげ、国内を中心とした具体的な事例を紹介し、その豊かな可能性について考察します。

「文化的景観」は、地域の特色ある地理的・歴史的環境と密接に関わる生業・生活文化の「表象」です。ユネスコが世界遺産の幅を広げるために1992年に登録基準として追加して以降、新しい文化遺産の考え方として普及が始まった概念で、わが国も2005年に新文化財として文化財保護法に採り入れています。「自然と人間の共同作品」とユネスコが定義するこの概念は、地域固有の風土・歴史に適切して形成された伝統的な生活・生業（農林水産業や鉱工業）を表わす景観の持続可能性を導びます。有形を支える無形要素や「五感」で感受される要素も重視し、過去の一点の姿に捉われず「有機的に進化する」見通しを前提に、地域の特色ある生活文化資産を今後どのように活かし、継承するかという将来像まで視野に入れた、環境共生志向の持続可能な地域形成・人間形成に寄与する考え方であるといえます。授業では主として国内の事例を紹介し、関連する取り組みとして日本型エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等もとりあげます。

#### 【到達目標】

・「文化的景観」が、従来の文化財の考え方とは一線を画する、「環境」の世紀にふさわしい新しい概念であることが理解できること。  
 ・「景観は」見た目だけではないことや、一見「環境」と関わりが薄そうな事例も大いにエコにつながるが多いということに気付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPTやOHC（書画カメラ）を使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみるのがメインではないと思って下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	「景観」とは何か 導入的説明
第 2 回	ユネスコの「世界遺産」事業概説（「文化的景観」導入の経緯）	併せて国内の世界遺産を紹介
第 3 回	文化的景観の定義	ユネスコ、日本（文化財保護法）
第 4 回	文化財保護法の既存の文化財との比較	「環境」、持続可能性重視の新視点
第 5 回	文化的景観の多面的な効用①	国土の自然環境保全、生物多様性保全ほか
第 6 回	「文化的景観」保全の多面的効用②	日本型エコツーリズム・エコミュージアム等との関連
第 7 回	事例紹介① 近江八幡から学ぶべきこと	重要文化的景観第 1 号
第 8 回	事例紹介② a 宗教・信仰の聖地	熊野三山、沖縄の御嶽、富士山等
第 9 回	事例紹介② b 古典文芸の名所	既存の文化財「名勝」との関連、松島等
第 10 回	前回② b の拡大解釈—その場にはないもの、見えないものが作り出す魅力	文学作品、映画、アニメが創る作品舞台の魅力／「ことば」が景観を創る／心の中のイメージの重要性 など
第 11 回	生きて変化する文化財として(1)	「循環する自然」（＝季節の周期変化）に即した生活文化の意義
第 12 回	生きて変化する文化財として(2)	「伝統」の非固定性／「有機的に進化する」景観。四万十川や沖縄県竹富島を事例に
第 13 回	「伝統」継承のための階層的発想	「無形」の文化尊重の潮流とも関連づけて
第 14 回	まとめ 「視覚」のみから「五感」の景観へ／「感覚環境のまちづくり」との関連	総括とともに、概念進化の可能性を探る

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

前回の復習。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。

#### 【テキスト（教科書）】

授業のなかで随時配布するプリントをもって代えます。

#### 【参考書】

梶裕史「『文化的景観』の特質と可能性」(小島聡・西城戸誠編『フィールドから考える地域環境』第5章、ミネルヴァ書房、2012)ほか、授業のなかで紹介いたします。

#### 【成績評価の方法と基準】

定期試験 75 %、リアクションペーパー・授業マナー等 25 % (授業の初回に、授業マナーについて等諸注意を書いたプリントを配布します。)

#### 【学生の意見等からの気づき】

私語への厳しい注意についてはおおむね好評ですが、時にそのために授業が中断して(当然ながら)雰囲気が悪くなることがあります。しかし大教室で常時静粛な授業環境を確保する効果があるため、方針は変えません。また、「雑談」「余談」的なくだけた話のときは別です。休憩的な意味合いもありますので、くつろいで、その話題に関連して適度に隣の友人と話したり、笑ったりして楽しんでください。要は、真剣に話しているときもくつろぎの時間も、私と一対一で向き合っている感覚で聴いてもらうのがベストだと思います。

また、写真等をたくさんお見せしますが、専用の時間を設けるというかたちではなく、見ながら講義していきます。室内に照明のついたままの状態で見られるため、鮮明さの点で見にくい場合もあるかと思いますが、画像は補助的な情報提供にすぎず、授業の理解に差し支えることはありません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

#### 【その他の重要事項】

・日本の伝統文化をサステイナビリティの視点から見直すことや、エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等に関心を持っている人には良い参考になると思います。

・旧科目名称「環境表象論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

#### 【関連の深いコース】

履修の手引き (P100, 「7 コース制」) を参照してください。

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

This lecture will introduce an example of the environmental symbiosis type of regional initiatives and human character building, from "cultural" viewpoint. "Representation" is an image that is tied in the mind. It would be good to think that environmental representation is how humans grasp the environment surrounding them in their minds. In the lesson, I will take up the idea of "cultural landscape" as its own theme, introduce concrete examples mainly in Japan, and consider the rich possibilities.

TRS300HA

## 環境表象論Ⅱ

梶 裕史

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「五感」が形づくる表象・風景：「環境表象論Ⅰ」の「文化的景観」論の補充を目的として、おまに「五感」の融合的なはたらきにより形づくられる、個人を超えた地域の集団的表象 (= 心の中に結ばれる像) の諸相と、それらが環境共生型の人間形成・地域形成に資する可能性について考察します。

#### 【到達目標】

・「五感」をばらばらに区別するのではなく、相互作用の融合感覚として捉えることが有効なこと (言い換えれば、「視覚偏重社会」のなかで、現場の実体験の大切さ) を理解できること。

・「五感豊か」とは快適なものだけを指すのではないこと (快適、便利ではない要素もかなり重要であること) を理解できること。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

「文化的景観」については、「環境表象論Ⅰ」のシラバス参照。表象論Ⅰと連続性が強いので、まずその概要の復習から入り、その後は便宜的に世間一般の五分類に沿って、項目を設けます。授業計画各回のテーマは視覚・聴覚中心にみえますが、特に「音風景」の中で嗅覚・触覚・味覚の話題も盛り込んでゆきます。「五感」はふつうは本人がリアルタイムに実体験する感覚を指し、これによる表象は「知覚表象」「感覚表象」などと呼ばれますが、持続可能な地域づくりには、「記憶表象」「想像表象」と呼ばれる類で、かつ個人を超えた地域の集団的な心意に関わるものが重要と考えて、クローズアップしてゆきます。そしてその資料として、日本の伝統的な文学や民間伝承を紹介する時間も多くとる予定です。

授業の形式は、ふつうの講義形式。表象論Ⅰ同様、現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、Iに引き続き、視覚的画像をみることがメインではなく、むしろ春学期以上に「目に見えないもの」を重視した内容になります。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：	「環境表象論Ⅰ」の概要の復習も兼ねて「五感」のエコロジーと文化的景観
第2回	日本の「いろ」の話 (1)	日本文化における色彩、配色の特色
第3回	日本の「いろ」の話 (2)	日本文化における「色づかい」の二面性
第4回	日本の「いろ」の話 (3)	3回のまとめ。日本人にとって「いろ」とは何か
第5回	光と影・闇 (1)	「光環境」・灯りに配慮したエコなまちづくり
第6回	光と影・闇 (2)	「エコ」の視点からの陰翳・闇の魅力と重要性
第7回	音の風景とは何か	サウンドスケープと日本文化との関わり・総論 (1)
第8回	日本人の「風景を聴く」伝統	サウンドスケープと日本文化との関わり・総論 (2)
第9回	環境省「残したい日本の音風景 100選」を窓口に (1)	「自然」の音風景の具体例
第10回	「残したい日本の音風景 100選」を窓口に (2)	生き物に関わる音風景の具体例
第11回	「残したい日本の音風景 100選」を窓口に (3)	生業や交通などに関わる具体例。において・触覚・味覚との融合感覚。
第12回	「残したい日本の音風景 100選」を窓口に (4)	伝統祭事に関わる具体例。において・触覚・味覚との融合感覚。
第13回	方言をめぐって	音風景の一種として、地域文化の核である地域のことばに注目
第14回	総括—人間の「身体性」(内なる環境) 重視と感覚環境のまちづくり	環境表象論Ⅰのポイントも含めたまとめ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。前回の復習。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。

#### 【テキスト（教科書）】

授業のなかで随時配布するプリントをもって代えます。

**【参考書】**

環境表象論Ⅰに同じ。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験 75 %、リアクションペーパー・授業マナー等 25 % (授業の初回に、授業マナーについて等諸注意を書いたプリントを配ります)。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業環境については、環境表象論Ⅰとはほぼ同様です。昨年度は、春学期の「表象論Ⅰ」の授業を計画通り完了できなかったため、表象論Ⅱの前半に、本来はⅠで話すべき内容を話し、その結果、一部がシラバスとは異なる内容になったことが反省点です。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

・コースとの関連や皆さんの興味・関心との適性は、「環境表象論Ⅰ」同様と思います。表象論Ⅰの単位取得を履修の条件とはしませんが、履修済みであるほうが理解しやすいでしょう。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き (P100. 「7 コース制」) を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

Theme:Representation and scenery formed by "five senses"

This lecture will consider collective representation of region beyond individuals, mainly formed by the fusal work of "five senses", for the purpose of supplementing the "cultural landscape" theory of "environmental representation I" (= The image connected in the mind), and we will explore the possibility that they contribute to environmental symbiosis type human character building / regional initiatives .

LAW300HA

**環境法Ⅰ****横内 恵**

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

環境法の制度や理論の発展の歴史を踏まえて、環境法の主要分野の現在の法制度やそれをめぐる訴訟の基本的な内容を解説します。

**【到達目標】**

本講義は、様々な環境問題に対する事前の防止や事後的な解決において法の果たす役割について、理論的かつ総合的に理解することを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

レジュメやスライドに沿って、教科書を参照しながら、講義形式で授業を進める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	環境法とは何かについて、解説する
第 2 回	環境法の基本的な考え方	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 3 回	環境法の手法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 4 回	わが国の環境法の歴史	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 5 回	環境基本法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 6 回	大気汚染防止法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 7 回	水質汚濁防止法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 8 回	土壌汚染対策法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 9 回	環境アセスメント	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 10 回	循環基本法・リサイクル法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 11 回	廃棄物処理法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 12 回	自然公園法	教科書等を用いて、国立公園の法制度について開設する
第 13 回	高レベル放射性廃棄物処理	最終処分場の立地選定について解説する
第 14 回	期末試験	授業のまとめおよび期末試験を実施する

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業前に教科書の該当範囲を読んできてください。授業後は、レジュメとノートを読み返しながら教科書を熟読してください。

**【テキスト (教科書)】**

北村喜宣『環境法 [第 4 版]』(弘文堂、2017 年)。

**【参考書】**

必要に応じて授業中に指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験 100%

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

「環境法Ⅲ」に先立って本講義を履修することを推奨します。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き (P100. 「7 コース制」) を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

The programme gives undergraduate students basic theoretical and methodological knowledge in environmental administrative law.

LAW300HA

## 環境法Ⅱ

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、われわれが直面する環境問題について、これを解決する法分野のひとつである環境私法を学びます。

## 【到達目標】

環境問題に現実にかかわる上で必要な知識です。社会人として、この問題に直面したときに、法的な枠組みを用いて考えることができるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

この講義では、まず、環境私法の基礎理論となっている不法行為法を学びます。次に、民事差止訴訟や国家賠償法等について、わかりやすく解説します。また、環境問題を裁判によらずに解決するための紛争処理制度について概観します。その後、大気、水質、騒音、土壌といった具体的な環境汚染に関する民事判例について、その特徴を確認しながら検討していきます。最後に、風評被害訴訟を検証します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境問題と環境私法	環境問題と法の関係、環境法の中の環境私法の役割
第2回	不法行為法（1）	意味、成立要件、種類
第3回	不法行為法（2）	損害、請求権者、損害賠償の調整
第4回	不法行為法（3）	時効、共同不法行為
第5回	複合的大気汚染と共同不法行為	判例法の展開
第6回	民事差止訴訟等	環境問題における民事差止訴訟、消滅時効・除斥期間
第7回	土地工作物責任等	環境問題における土地工作物責任の応用、国家賠償法の適用
第8回	公害紛争処理制度等	公害紛争処理制度、協定による民事的紛争解決
第9回	大気汚染訴訟	大気汚染訴訟に関する判例理論の発展
第10回	水質汚濁・地下水関連訴訟	水質汚濁・地下水関連訴訟の具体例
第11回	騒音訴訟等	騒音訴訟、振動訴訟、悪臭訴訟、日照・通風・風害に関する訴訟の具体例
第12回	眺望権・景観権に関する訴訟	眺望権・景観権の具体例と限界
第13回	土壌汚染訴訟、企業資産における土壌汚染と情報開示	土壌汚染訴訟の具体例、企業資産における土壌汚染と情報開示の問題点
第14回	環境問題に起因する風評被害訴訟	環境問題に起因する風評被害訴訟における因果関係、損害評価の難しさ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

定期試験（100%）により評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたいと思っています。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This lecture will give you civil liability for environmental damage, which is one of the legal fields for solving this environmental problem facing us.

LAW300HA

## 環境法Ⅲ

横内 恵

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境アセスメント、産業廃棄物、高レベル放射性廃棄物、環境リスクの各分野につき、判例も検討対象に含めて、行政法理論との関係で理解を深めます。その際には、関連法令や判決文を実際に参照しながら、基礎的な調査能力を習得することも目指します。

## 【到達目標】

本講義は、「環境法Ⅰ」の履修を前提として、個別の環境法制の検討を通して、環境法政策の実務的な課題をとらえるとともに、それをめぐる法的論点の理解を深めることを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で、ときに教科書やスライドを利用しながら、授業を進めます。各分野につき設問を用意し、レポート課題や授業中の質疑応答を通して、受講生自ら調べて考えて表現することを求めることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・イントロダクション	本講義を受講するにあたっての注意事項等を説明する
第2回	環境アセスメント（1）	教科書を用いて当該テーマについて解説する
第3回	環境アセスメント（2）	教科書を用いて当該テーマについて解説する
第4回	環境アセスメント（3）	当該テーマに関する訴訟につき、判例を紹介しながら解説する
第5回	環境アセスメント（4）	SEA等、当該テーマの今後の課題について、諸外国と比較しながら解説する
第6回	廃棄物処理法（1）	教科書を用いて廃棄物処理法の概要を解説
第7回	廃棄物処理法（2）	産廃処理施設設置に際する環境アセスメントのあり方について解説する
第8回	廃棄物処理法（3）	産廃処理施設設置に際する地方自治体の事前協議と住民参加のあり方について解説する
第9回	高レベル放射性廃棄物（1）	高レベル放射性廃棄物処理について解説する
第10回	高レベル放射性廃棄物（2）	高レベル放射性廃棄物最終処分場の立地選定手続について解説する
第11回	高レベル放射性廃棄物（3）	高レベル放射性廃棄物最終処分場の立地選定手続についてドイツの手続と比較しながら課題を検討する
第12回	環境リスク制御法制（1）	環境リスク制御の法理論的問題について解説する
第13回	環境リスク制御法制（2）	環境リスク制御のあり方について、具体的な制度を題材として開設する
第14回	期末試験	授業のまとめおよび期末試験を実施する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。準備学習については、講義中に指示します。授業後に、レジュメやノートをしっかりと読んで復習してください。

## 【テキスト（教科書）】

北村喜宣『環境法（第4版）』（弘文堂、2017年）。

## 【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【その他の重要事項】

本講義は、「環境法Ⅰ」履修済みの人を主な対象としています。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

The programme gives undergraduate students special knowledge and skills within several environmental fields.

LAW300HA

## 環境法Ⅳ

今井 康介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題について法的なアプローチを行う場合、3つのアプローチがあります。民法的なアプローチ、行政法的なアプローチ、そして刑法的なアプローチです。各アプローチには、それぞれの原則や理論、メリット・デメリットがあります。環境法Ⅳの授業では、刑法的なアプローチの独自性、特殊性、そしてその限界を扱います。

この授業で環境刑法の基礎、罰則の概要、現在の問題点等を学ぶことにより多角的な視点から環境問題を考えられるようになることが、最終的な目標です。

## 【到達目標】

例えば、山の中にいらなくなったパソコンを捨ててくるのは、廃棄物処理法違反（不法投棄罪）なのは明らかですが、自分の敷地の一角に放置しておくのは、犯罪なのでしょうか？ 燃えるゴミと燃えないゴミを分別しないで捨てたら捕まるのでしょうか？ お正月でゴミ回収がストップするので、コンビニのゴミ箱に生ゴミを捨てたら犯罪なのでしょうか？

この授業を受講すると、これらの場合にどのように考えるべきかが分かるようになります。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

教科書や参考書については、初回の講義で案内します。講義で配る配付資料は、授業支援システムでも公開しています。

多くの法律が登場するので、適宜、六法やインターネットで法律の条文を参照してください。

2018年度の講義とは異なる内容を扱うので、再履修の人は注意してください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 環境保護の手段としての 刑法と環境刑法	授業の進め方、評価方法についての説明。環境刑法はどのような学問か、どのような特色があるか、なぜ環境刑法を学ぶのかについて説明します。
第2回	環境刑法の基礎理論① ——刑罰の基本原則編——	環境刑法の前提となる刑法の基本原則（罪刑法定主義等）について学びます。
第3回	環境刑法の基礎理論② ——基礎知識・歴史編——	日本の公害問題と我が国の環境問題の1つの転機となった公害国会を学びます。特に公害国会以前の法律状況、刑法学の議論状況を紹介します。
第4回	環境刑法の基礎理論③ ——最近の動向編——	公害国会以降の刑法学の状況について検討します。また環境法の体系化問題を検討します。その際、公害罪法についても、検討します。
第5回	空気・大気の保護について	大気汚染や空気の汚染に関する規制・罰則を紹介し、規制が導入された経緯を紹介し、また騒音や振動関連の規制を取り扱います。
第6回	水の保護について	水質汚濁、海洋汚染などの水に関連する規制・罰則を紹介し、検討します。
第7回	土の保護について	土壌汚染や農用地の汚染についての規制・罰則を紹介し、検討します。
第8回	廃棄物処理法①	豊島事件、青森・岩手不法投棄事件、ビーフカツ事件などの廃棄物関連の事件を取り扱います。
第9回	廃棄物処理法②	何が廃棄物か、例えばおからは廃棄物か？ を検討します。
第10回	廃棄物処理法③	不法投棄や不法焼却等、廃棄物処理法に規定されている自然犯的な罰則について検討します。
第11回	廃棄物処理法④	廃棄物の受け渡しの局面における罰則を検討します。
第12回	動物の保護①	動物愛護法の違反事例を検討して、動物に関する規制を学びます。
第13回	動物の保護②	動物愛護法の近時の改正や、動物の死後の規制について検討します。
第14回	総復習・テスト	講義の復習と試験を行います。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
環境問題は、よくニュースになります。そのため、報道された環境問題をテーマにして、何が法的に問題なのか考えると、この講義がよりいっそう実り豊かなものになります。

**【テキスト（教科書）】**

講義要綱を執筆している段階では未定のため、初回の講義で指示します。

**【参考書】**

北村喜宣『環境法（有斐閣ストゥディア）』（有斐閣、2015年）、1944円がおすすめです。

さらに環境刑法の重要問題を取り上げた連載として、今井康介「(隔月連載) ニュースから読み解く環境刑法」環境管理 54巻8号(2018年～)があります。

その他の参考文献については、初回の授業時に紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

最終の筆記試験は実施しません。授業内で行う小テスト（選択式）(90%)及び平常点（10%）で評価します。場合によってはレポート（任意提出）も加味して、総合判断します。

**【学生の意見等からの気づき】**

反響が強かった、身近な環境問題を取り上げられるように心がけたいと思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

環境刑法を理解するためには、刑法の基礎知識が必要になります。それゆえ、本講座の受講生には、春学期に開講される「刑法の基礎」（渡辺清明先生）の履修をおすすめしています。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科日は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

There are three legal approaches.

In this lesson, we deal with the peculiarity of the criminal approach, identity and its limitations.

The goal of this lesson is to learn the basics of the environmental criminal law and to think about environmental problems from the perspective of penalties.

MAN300HA

**環境マネジメントスタディーズ I**

池原 庸介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

地球規模の環境課題である気候変動問題、およびその抑制を目的とした対策は、社会を構成するすべての人間活動や生態系に影響を及ぼす。気候変動問題に軸足を置いた国内外の政策動向や、近年国際舞台で重視されている非国家主体と呼ばれる自治体、企業、投資家、そしてNPO（非営利組織）の取り組みについて理解を深める。講義では、世界の最新動向も交えた解説を通じて、活きた知識を身につける。

**【到達目標】**

気候変動問題を正しく理解し、2016年に発効した国際枠組み「パリ協定」の下で、世界が脱炭素社会の実現に向けてどのように取り組んでいるか、政府や企業、非営利組織など様々な観点から包括的に理解すること。3ヶ月間の学習で、気候変動問題に詳しくなり、他者と議論できるレベルに到達することが期待される。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本講義では、社会科学・自然科学の両面から気候変動問題およびその解決に向けた世界の取り組みについて全体像を概観する。講義形式で理解を深めてゆき、環境マネジメントスタディーズⅡ（秋学期）のディスカッションにおいても議論に貢献できる十分な知識を涵養する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 深刻化する気候変動問題	講義の進め方 気候変動問題とは
2	気候変動の科学①	IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第5次評価報告書が示す将来予測、炭素予算など
3	気候変動の科学②	予測される気候変動の影響
4	国連気候変動枠組み条約と国際交渉	国際的な気候変動交渉の流れ
5	京都議定書下での政策動向	法的拘束力を持つ削減目標と柔軟性メカニズム
6	パリ協定の成立	国際合意の難しさ、全員参加型の気候変動対策、脱炭素に向けた取り組み
7	パリ協定下での各国の政策動向	主要各国の気候変動・エネルギー政策
8	日本の気候変動・エネルギー政策	日本の中長期目標とその課題、世界からの評価
9	非国家主体による気候行動①	非国家主体による取り組みの重要性、リマ・パリ行動アジェンダ
10	非国家主体による気候行動②	世界の産業界の動向、各種国際イニシアチブ
11	非国家主体による気候行動③	ESG投資、化石燃料に対する投資引き揚げ
12	世界のエネルギー政策	『脱炭素』を実現する世界のエネルギーのあり方
13	再生可能エネルギー普及拡大の動き	各国の再生可能エネルギー政策、企業などによる再生可能エネルギーの活用
14	試験、まとめ	全体総括、授業内テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
準備学習は不要だが、各回講義資料（毎回配布）の復習は必須。次の授業までに復習を行っておくことで、後の授業の理解度も格段に高まる。これを継続すれば、春学期の3ヶ月間で、気候変動問題はよく知っていると感じられるレベルに到達可能。

※ 気候変動は、裾野が広く且つ複雑な環境問題であるため、まずは企業の取り組みやエネルギーなど関心のあるところから学習を始め、少しずつ深掘りしていくことが重要。下記の参考書を活用し、徐々に全体像をとらえていくと効果的。

**【テキスト（教科書）】**

毎回、担当教員が作成した印刷資料を配布。

**【参考書】**

●小西雅子 『地球温暖化は解決できるのかーパリ協定から未来へ!』 岩波ジュニア新書、2016年

●WWF ジャパン 『企業の温暖化対策ランキング』各編報告書（電気機器編、金融・保険業編など9編を発行済み）

※ 各編の報告書は、いずれもウェブサイト上で閲覧、ダウンロードが可能

<https://www.wwf.or.jp/activities/activity/214.html>

- 諸富徹、浅岡美恵『低炭素経済への道』岩波新書、2010年
- 榎屋 治紀『これからのエネルギー』岩波ジュニア新書、2013年
- 小宮山 宏、山田 興一『新ビジョン 2050 地球温暖化、少子高齢化は克服できる』日経 BP 社、2016年

#### 【成績評価の方法と基準】

- ①平常点（小テスト含む）：50%
- ②期末試験：50%

①小テストでは、気候変動問題に関する基礎的事項や用語を理解しているかを問う。

②パリ協定の下での世界の脱炭素に向けた動向、各主体の取組みなどについて理解し、課題に対して自らの考えを論理的に展開しているか等を評価。

#### 【学生の意見等からの気づき】

国際組織に勤務する担当教員の経験等に基づく国連会議の話題や企業の取組み事例などが分かり易かったとの声が得られたため、今年度もそうした内容を積極的に取り扱う。

#### 【学生が準備すべき機器他】

講義資料は原則として、授業支援システム上に掲載。それらを閲覧する場合はパソコンが必要。

#### 【その他の重要事項】

環境マネジメントスタディーズⅡ（秋学期）の履修予定者は、本科目を事前に履修することを推奨。

#### 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

Climate change is a transboundary environmental issue and has influence on all human activities and ecosystems globally. Students can learn about climate policies in and outside Japan as well as ambitious efforts to address the issue by non-state actors such as cities, businesses, investors and NPOs, which are considered to play pivotal roles toward a zero-carbon society.

MAN300HA

## 環境マネジメントスタディーズⅡ

池原 庸介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境マネジメントスタディーズⅠで学んだことをベースに、気候変動問題をはじめ、森林の伐採や水産物の過剰漁獲などの問題にも範囲を広げ、人間活動が地球環境に与えている負荷の大きさを理解し、持続可能な社会の実現に向けて求められる解決策、課題等について、演習（ゼミ）形式で理解を深める。

#### 【到達目標】

人間活動が地球環境に与えている負荷の大きさを示す指標『エコロジカル・フットプリント』を用いて地球環境の実情を理解し、森や海を守り、気候変動問題を解決していくために何が必要かを自ら考え議論することができる。企業の取組みについて調べ、発表を行うことで、プレゼンテーションスキルを向上させる。（調べるポイント等については、事前に授業の中で詳しく解説）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

人間活動、特に企業活動や生活者の消費行動が、どのようなかたちで地球環境に負荷を与えているかに焦点を当て、様々なトピックの資料を読みディスカッションを行う演習（ゼミ）形式で理解を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス エコロジカルフットプリント	LPI（生きている地球指数）、EF（エコロジカル・フットプリント）を通じ、地球環境の現状を理解
2	気候変動問題の解決に向けて	パリ協定、脱炭素に向けた世界の取り組み
3	企業の温暖化対策①	企業の取り組みを評価する際に重視すべき視点（長期目標、ライフサイクルなど）
4	企業の温暖化対策②	学生による発表とディスカッション
5	企業の温暖化対策③	学生による発表とディスカッション
6	企業の温暖化対策④	学生による発表とディスカッション
7	企業の温暖化対策⑤	学生による発表とディスカッション
8	企業の温暖化対策⑥	学生による発表とディスカッション
9	持続可能な森林資源の活用に向けて①	森を守る調達・消費行動（紙パルプ調達とFSC認証）
10	持続可能な森林資源の活用に向けて②	森を守る調達・消費行動（パーム油調達とRSPO認証）
11	持続可能な森林資源の活用に向けて③	ロールプレイとディスカッション（RSPO）
12	持続可能な水産資源の活用に向けて①	海を守る調達・消費行動（水産物調達とMSC）
13	持続可能な水産資源の活用に向けて②	海を守る調達・消費行動（養殖水産物調達とASC）
14	試験、まとめ	全体総括、授業内テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
  - 企業の温暖化対策について、下記の【参考書】に示す『企業の温暖化対策ランキング』の報告書の中から関心のある業種を選び、少しずつ読み進めていく。各社の取り組みレベルを見極める力が養われ、この分野の理解が深まる。
  - 4回～8回の授業において、企業の温暖化対策に関する発表を実施（各人1回）。パワーポイントによる発表資料を準備
- ※気候変動は、裾野が広く且つ複雑な環境問題であるため、まずは関心のある分野から学習を始め、少しずつ深掘りしていくことが重要。日ごろから、関連するニュースや記事などを読み、興味関心のある分野を増やしていくと効果的

#### 【テキスト（教科書）】

原則として、担当教員が作成した印刷資料を配布。

#### 【参考書】

- WWF ジャパン『企業の温暖化対策ランキング』各編報告書（電気機器編、食料品編など9編の報告書を発行済み）
- ※各編の報告書は、いずれもウェブサイト上で閲覧、ダウンロードが可能。  
<https://www.wwf.or.jp/activities/2017/10/1392731.html>
- WWF『生きている地球レポート 2018』
- ※レポートは、ウェブサイト上で閲覧、ダウンロードが可能。  
[https://www.wwf.or.jp/activities/data/2018101pr2018\\_jpn\\_sum.pdf](https://www.wwf.or.jp/activities/data/2018101pr2018_jpn_sum.pdf)
- 小西雅子『地球温暖化は解決できるのかーパリ協定から未来へ！』岩波ジュニア新書、2016年

## 【成績評価の方法と基準】

①平常点：50%

②期末試験：50%

①企業の環境対策について調査し発表（調査するポイント等については、授業内であらかじめ解説）。

②各回で取り上げた内容を通じ、エコロジカル・フットプリントを用いて地球環境の実情を理解し、与えられた課題に対して自らの考えを論理的に展開しているか等を評価。

## 【学生の意見等からの気づき】

発表とグループディスカッション、ロールプレイなどを通じて、結果的にとても理解が深まったという声が多かったため、今年度も継続の予定。

## 【学生が準備すべき機器他】

講義資料は原則として、授業支援システム上に掲載。それらを閲覧する場合はパソコンが必要。また、発表資料（原則としてパワーポイント）の作成にもパソコンが必要。

## 【その他の重要事項】

環境マネジメントスタディーズⅠ（春学期）を事前に履修することを推奨。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100, 「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

By using the Ecological Footprint indices, students can learn about to what extent human activities burden the global environment from the viewpoint of climate change, deforestation, excessive fish catch, etc. You can also foster better understanding of what are needed toward realizing a truly sustainable society through small-group discussion and role playing method.

ENV200HA

## 環境モデル論Ⅰ

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：環境基礎論として「地球」と「人為」を考える  
モデルとは自然界や人間社会などで起きている現象、そこに働いている法則、様々な対象間の相互関係等を分析しそのエッセンスを人間にとって分かりやすく表現したものである。環境問題を考察するには、地球システムと人間活動の特徴を理解しそれらの関連性を分析することが必要である。地球上に生起する環境問題はどのような自然法則に支配されて（制約を受けて）いる結果なのか？ 本科目では物質とエネルギーという観点から「地球システム」と「人為」の特徴を把握し、それらを「定常開放システム」としてモデル化する。ライフサイクルアセスメントやエコロジカルフットプリントなどの具体的な指標（手法）についても触れることにより人間活動の特徴を調べていく。本科目の内容を通して眺めてみると、物質とエネルギーは量的に保存されるが質的に劣化する（空間的に拡散する）という特徴を意識することが環境問題を考察するための「鍵」となっていることが理解されるであろう。本科目は「物質循環」や「持続可能」という問題を科学的に捉えるための基礎という位置づけにもなっている。

## 【到達目標】

本科目は環境問題を考察する上での基礎学であり深く環境を学ぼうとする学生にとっては必須の内容であると思われる。地球システムとその上で行われている人間活動の特徴を科学的に考察するための背景を知ることが目標である。次の「授業計画」で述べている内容は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大方理解できるようになるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

理系の内容が苦手だと思っている学生にこそ理解してもらえるような授業としたいと考えている。画像、映像などのビジュアルな教材等をできるだけ使用しながら進めていく予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明について。関連する他の科目（サイエンスカフェⅣ、統計とデータ分析、環境モデル論Ⅱなど）の概要と本科目との関連性についての解説。
第2回	玩具「水飲み鳥」はどのようなモデルなのか？	資源として「水」を飲み、排出物として「水蒸気」を大気中に拡散させる水飲み鳥の運動のメカニズムについて。水という物質の「量の保存」と「質の劣化」についてのイメージをつかむ。そこには地球システムならびに人間活動の特徴が凝縮している。孤立系と開放系そして定常とは？
第3回	地球というシステムを眺める（宇宙から微生物までを考える）	太陽と地球そしてエネルギーを概観する。太陽定数と地球のエネルギー収支。光合成のメカニズムと炭水化物（糖）。生態系と炭素・窒素などの物質循環。水の大循環と地球の放熱。生物（生産者、消費者、分解者）は物質循環に対してどのような役割を担っているのか？
第4回	物質と人為を考える（人間活動による物質とその移動について）	工業製品等の生産とその消費活動のプロセスを例にして、資源の採取から廃棄処分に至る過程を考察する。物質はどのように変化し最後はどこに行くのか？ 廃棄物を焼却処理すると減容化するが、果たして物質は消えて無くなったのか？
第5回	エネルギーと人為を考える（人間活動によるエネルギーの変化とその移動について）	エネルギー資源の採取から変換、利用に至るプロセスを考察する。エネルギーはどのように変換され、最後はどこに行くのか？ エネルギーは消費されると消えて無くなるものなのか？

第 6 回	自然の法則と環境 1	熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門。これらの法則は「地球システム」、「人為」とどのように関係しているのか？ エントロピーとは何か？ エクセルギーとは何か？ 環境系のモデルとしての定常開放系について。
第 7 回	自然の法則と環境 2	熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門。エントロピーが増大するとはどのようなことか？ ゴミ捨て場はエントロピーのたまり場。エントロピー増大の結果としての環境問題について。
第 8 回	ライフサイクルアセスメント (LCA) に見る人為の熱力学 1	人間活動の特徴を LCA の立場から考察する。ライフサイクルとは何か？ インベントリ分析、システム境界などの解説。物質・エネルギーの保存則と拡散則は LCA ではどのように表現されているか？
第 9 回	ライフサイクルアセスメント (LCA) に見る人為の熱力学 2	製品やサービスに対する環境影響評価の具体例を用いて考察する。資源採掘、加工・変換、運搬、消費 (使用)、廃棄、回収、処分などのプロセスと物質・エネルギーの流れについて。
第 10 回	エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る 1	人間活動による環境負荷の大きさをエコロジカルフットプリント指標で測る。資源消費・廃棄物等排出の量と土地面積への変換について。野菜の室内栽培 (野菜工場) の環境負荷はどれくらいなのか？ 露地栽培とはどちらが負荷は少ないのか？
第 11 回	エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る 2	人類のエコロジカルフットプリントの増大と地球の扶養力について。地球は今ここで行われている人間活動を支える扶養する力 (容量) を持っているのか？
第 12 回	持続可能性への考察 1	資源量と廃棄物を受け取る空間の有限性 (地球の有限性) と成長の限界について考察する。自然界における物質循環と人工的な物質循環の考察。クローズド・ループ・インダストリは存在するのか？ ゼロエミッションは可能なのか？ そもそも永久機関は存在するのか？ エントロピー増大則に伴う人為の「壁」について。
第 13 回	持続可能性への考察 2	玩具「水飲み鳥」再登場。広い空間では動き続ける水飲み鳥だが、狭い空間に置くと動きが止まる。狭い空間で動きを持続させる方法はあるのか？ エントロピーの増大と廃棄、そして循環と持続の考察へ。環境系のエッセンスを分析しモデル化する。
第 14 回	総括	講義内容をまとめ、参加者による総合討論を行う。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、授業内容を復習してください。

#### 【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

#### 【参考書】

開講時に紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業をゆつくりと進めていきます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

#### 【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもちないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。本科目は「環境モデル論 II」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので合わせてその科目を履修することをお勧めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「サイエンスカフェ IV」ならびに「統計とデータ分析」があります。もちろんこれらも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれらも履修することをお勧めします。

#### 【関連の深いコース】

履修の手引き (P100. 「7 コース制」) を参照してください。

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

Theme: Introduction to modelling of the earth system and human work

Aim of this course is to acquire the basic knowledge concerning environmental problems and sustainability of the earth. The scientific approach is schemed with thermodynamics. In order to consider the problems, we need to understand the mechanism of the earth system including energy balance and material circulation on it. Feature of human work is required to be examined with relation to natural law acting on it.

This course mainly deals with the matter “energy and materials” which is analyzed through the law of thermodynamics appeared in the field of physics. We formulate the nature of the energy transformation and flow of materials on and around the earth. The earth system is modeled as one of the stationary-open systems. The techniques of the life-cycle assessment and the ecological-foot print are introduced here. In this course, we recognize that the concept is important for the first law as energy conservation and the second one as quality consumption (i.e. entropy increment). This is valid not only for energy phenomena but also for material ones.

ENV200HA

## 環境モデル論Ⅱ

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：環境基礎論として「循環」と「持続」を考える  
 本科目では持続可能とは何か？という問題を自然科学的な観点からより具体的に考えることをテーマとする。自然界にはおいては物質・エネルギーは保存されているが、様々な現象はこの保存則だけによって支配されているわけではない。物事が進むにはその方向（時間の矢）があり、それらは拡散する（言い換えるとエントロピーは増大する）という特徴を持っている。系を持続可能とするためにはこの増大したエントロピーを廃棄し続ける必要がある。持続という言葉はシステムの時間経過に対する不変性（安定性）を意味するものであり、その問題を考察するためには対象系の状態遷移の様子（時間発展、ダイナミクス）を調べるのがひとつのアプローチであろう。本科目では、自然界において観察されているいくつかの現象や具体例を眺めてみることにより定常開放システムが持続していくための条件等を探ることとする。そのため比較的容易に理解できるシステムダイナミクス（SD）手法を習得し様々な系のダイナミクスをシミュレーション体験する。フィードバック機構とその役割、時間遅れの影響などについて理解を深める。さらには持続可能というテーマに対しエントロピー増大則などを含めた熱力学的考察をおこなう。

## 【到達目標】

本科目は環境問題を考察する上での基礎学であり深く環境を学ぼうとする学生にとっては必須の内容であると思われる。自然界で観察されている幾つかの現象を再現しそれを分析する力を身につけることを目標としている。またエントロピーの概念を習得し、物質循環などの問題に結び付けて考察ができるようになることも目標のひとつである。次の「授業計画」で述べている内容は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大分理解できるようになるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

理系の内容が苦手だと思っている学生にこそ理解してもらえようという授業としたい。情報教室を使用し、特に EXCEL を利用することが多くなる。授業では、ほぼ毎回 EXCEL についての演習を行う時間を設ける予定である。EXCEL をより高度利用したいと考えている方にとっても有意義な内容となるであろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明と受講者の決定について
第 2 回	情報教室の利用のしかた	情報実習室環境の説明と各種ソフトウェア+ネットワークの利用のしかたについて
第 3 回	EXCEL ラーニング	表計算機能、グラフ機能、データベース機能の使用法を習得する。
第 4 回	成長の限界 1	ローマクラブ「成長の限界」(1972)と世界モデルの紹介。人口、食糧、工業生産、資源消費量などの成長とその限界について。幾何級数成長（指数関数的成長）のメカニズムを銀行預金、利子返済などの簡単な例で体感する。
第 5 回	成長の限界 2	細菌増殖モデルとそのシミュレーションについて。限られたスペースで増殖する細菌の増殖曲線（S 字型曲線、ロジスティック曲線）にこめられた成長と限界のメカニズムの分析。細菌数増加と残されたスペース（栄養）の減少との関係について。
第 6 回	成長の限界 3	捕食者と被食者（例えばウサギとヤマメコ）に関する個体数変動のダイナミクスについて。ロトカ・ヴォルテラによる捕食と被捕食（2 体）の競合関係と正・負フィードバックの効果の分析。自然界が持っている持続性のメカニズムを解析する。
第 7 回	成長の限界 4	捕食者と被食者の関係の拡張としての多体間の個体数変動のダイナミクスについて。3 体、4 体間の競合と持続性を解析する。

第 8 回 システムダイナミクス（SD）入門 1

様々な問題の構造とその分析、原因と結果の因果関係の分析、シナリオの描画、モデルの検証などについて。SD で使用される記号とフローの描き方。レベル（ストック、状態）とレイト（流量）、フロー（流れ）、情報、コンバータ、ソース、システム境界等の概念と計算手法の習得について。

第 9 回 システムダイナミクス（SD）入門 2

具体例をもとにして SD 計算を EXCEL 上で体験する。正と負のフィードバック（因果関係）ループの理解。その構造がシステムに与える影響（効果）を調べる。それにより「持続する」を考察する。

第 10 回 複雑系の世界 1

複雑系とカオス理論について。決定論と確率論、初期値敏感性（バタフライ効果）と予測（不）可能性、ロジスティック写像とリターンマップなどの理解。決定論カオス（非線形力学）と環境問題との関係性を考察する。

第 11 回 複雑系の世界 2

複雑系とフラクタルについて。自己相似性、フラクタル次元などの理解とグラフィックスによる描画。自然界においてフラクタル構造はなぜ出現するか？などを考察する。株価の変動、地震のエネルギーなどもフラクタル分布。

第 12 回 エントロピーの概念について

情報理論の紹介。情報量とエントロピーの概念、情報の価値・役割と確率について。エントロピーが最大になるとはどのような事か？エントロピーの直感的理解について。持続するという事との関係。

第 13 回 総括 1

本科目で見てきたダイナミクスの特徴を熱力学的側面から浮き彫りにする。フィードバックと時間遅れ、多体間の競争・競合、非線形力学等のメカニズムとエントロピー論との関連性について。

第 14 回 総括 2

ローマクラブ「成長の限界」(1972)、「限界を超えて」(1992)、「成長の限界 人類の選択」(2004)をどのように読むか？ナチュラル・ステップ「ナチュラル・チャレンジ」(1998)の言う持続可能な社会のための条件をどのように解釈するか？

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、授業内容を復習してください。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

## 【参考書】

開講時に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

受講時の積極性 50%、最終授業時に出席するレポートの充実度 50%。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくりと進めていきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業では毎回情報教室を利用します。受講にあたっては皆さんのパソコン経験の有り無しは問いません。

## 【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもちないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。本科目は「環境モデル論Ⅰ」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので合わせてその科目を履修することをお勧めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「サイエンスカフェⅣ」ならびに「統計とデータ分析」があります。もちろんこれらも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれらも履修することもお勧めします。本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Theme: Introduction to system dynamics and sustainability as computer simulation

In this course we execute computer simulation for dynamical systems with interaction. Personal computers accompanying software EXCEL are used in a computer-practice room. Object of this course is to examine the conditions which realize the stable state for dynamical systems. By means of the simulation studies, we clarify the mechanism of sustainability for feedback systems. For instance we practically examine the population change of rabbits and wildcats in forest for a model system with the prey-predator relation.

As a common rule in nature, both energy and materials are conserved at any time. On the other hand, they diffuse spatially with time and become uniform. This phenomenon shows their quality is spent with time. This is known as the law of entropy increment. In order to realize sustainability of systems, we need to continue to dump the increased entropy somewhere. This point will be discussed with the system dynamics simulated here. The concept of entropy can be learned in the last part of this course in terms of the information theory.

PHL200HA

**環境倫理学**

吉永 明弘

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

環境倫理学は 1970 年にアメリカに誕生した応用倫理学の一分野であり、日本では 1990 年代に始まった若い分野である。本講義ではアメリカと日本の議論の違いに注目しながら環境倫理学の全体像を説明する。受講者はそれを通して倫理的なアプローチの特色を学ぶことにもなる。

**【到達目標】**

アメリカの環境倫理学と日本の環境倫理学の歴史と中身について理解できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義、質疑応答、レポートへの応答

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	倫理学の基礎：功利主義、義務論、徳倫理学	環境問題を「倫理学」の視点から学ぶための基礎となる理論を紹介する
2	正義論の基礎	環境問題を「正義論」の視点から学ぶための基礎となる理論を紹介する
3	環境問題からみた人類史	人類の歴史を環境問題の観点からまとめ直す
4	アメリカの環境倫理学：土地倫理を中心に	環境倫理学の原点とされる「土地倫理」を中心にアメリカの議論を紹介する
5	アメリカの環境倫理学：動物倫理を中心に	環境倫理から動物倫理へと分岐していった経緯を紹介する
6	アメリカの環境倫理学：環境プラグマティズム	アメリカの最近の潮流である環境プラグマティズムの主張を紹介する
7	日本の環境倫理学：加藤尚武の三つの基本主張	日本の環境倫理学の代表者による三つの主張を紹介する
8	日本の環境倫理学：鬼頭秀一のローカルな環境倫理	日本の環境倫理学の特徴である「ローカルな環境倫理」の内容について紹介する
9	日本の環境倫理学：公害の環境倫理	公害問題について映像資料を参考に議論する
10	日本の環境倫理学：公害の環境倫理	公害問題の歴史と現在の状況について紹介する
11	環境倫理学の新動向：都市の環境倫理	最新の動向である「都市の環境倫理」について紹介する
12	災後の環境倫理学：復興のありかたについて	震災復興について映像資料を参考に議論する
13	災後の環境倫理学：原子力発電について	原子力発電について映像資料を参考に議論する
14	未来の環境倫理学	環境倫理学の今後の姿について議論する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

**【テキスト（教科書）】**

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014 年

**【参考書】**

吉永明弘『フックカイト 環境倫理』勁草書房、2017 年  
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018 年

**【成績評価の方法と基準】**

試験（50 点）とレポート（50 点）。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100、「7 コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

You can understand history and contents of environmental ethics.

PLN200HA

**気候変動論 I**

松本 倫明

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。  
春学期では、まず現在進行中の気候変動である地球温暖化を概観する。つぎに気候変動のベースとなる気候システムの基礎的なことがらを深く学ぶ。

**【到達目標】**

この授業を通じて、気候変動の科学的なりテラシーを身につけることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で授業を進める。プロジェクターを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。またビデオ教材を用いる。この授業を受講するにあたり特別な予備知識を必要としない。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第 2 回	地球温暖化の概要（1）	いくつかの観測結果を概観する。世界平均気温、海面水温、温室効果ガス濃度の変化など。
第 3 回	地球温暖化の概要（2）	地球温暖化の科学の入門。太陽放射、放射強制力、アルベドについて学ぶ。
第 4 回	地球温暖化の概要（3）	地球温暖化の予測について概観する。予測の方法、気候モデルの概要、予測の結果など。
第 5 回	地球温暖化の概要（4）	将来取り得る選択肢についての議論
第 6 回	大気の構造	大気に焦点をあてる。対流圏、成層圏、中間圏、熱圏、オゾン層、分子組成など。
第 7 回	放射と熱	電磁波、黒体放射、熱力学の基礎を学ぶ。
第 8 回	循環と気象	水平方向のエネルギー収支を学ぶ。温帯低気圧、熱帯低気圧、ジェット気流、ハドレー循環など。
第 9 回	海洋の循環	海洋による熱の循環について学ぶ。風成循環、熱塩循環など。
第 10 回	エネルギー収支	鉛直方向のエネルギー収支を学ぶ。大気の窓、アルベド、温室効果など。
第 11 回	温室効果	温室効果の基礎を学ぶ。温室効果ガスによる赤外線吸収と放射など。
第 12 回	放射平衡	大気が多層モデルによって温室効果の理解を深める。
第 13 回	炭素循環	二酸化炭素と炭素循環の概念の理解。大気・海洋・植生・土壌における炭素のフラックスと貯蓄量など。
第 14 回	まとめ	授業をまとめる。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業のなかで指示をする。

**【テキスト（教科書）】**

テキストを使用せず、授業中に資料としてプリントを随時配布する。

**【参考書】**

なし。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が 70%、ミニテストが 30%である。履修者数が多くない場合には、グループによるディスカッションを行い、ディスカッションの内容を成績に反映する。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

**【学生が準備すべき機器他】**

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

**【その他の重要事項】**

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

Students learn scientific knowledge about global warming.

EAE200HA

## 気候変動論Ⅱ

松本 倫明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。秋学期では、地球温暖化の実際と影響について深く学ぶ。さらに、地球誕生から現在までの気候変動について学び、地球温暖化の理解を深める。また、昨今の地球温暖化をめぐる動向についても解説する。

## 【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なりテラシーを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。プロジェクターを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。

気候変動Ⅰを履修した後にこの授業を履修することを推奨する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	平均気温の変化（1）	温度の測定方法を紹介する。気温分布の季節変化と長期傾向を理解する。
第3回	平均気温の変化（2）	長期傾向を抽出するための統計処理の方法を理解する。ヒートアイランドについても補説する。
第4回	温室効果ガス（1）	温室効果ガス濃度分布と季節変化、長期傾向を理解する。
第5回	温室効果ガス（2）	排出量の推移、排出源、吸収源、海洋との交換を理解する。
第6回	エアロゾル	火山とエアロゾルの排出、人為的なエアロゾルの排出、アルベドと気候への影響。
第7回	降水量	降水量と水蒸気量の変化を世界平均と日本の場合について学ぶ。
第8回	雪氷	氷河の後退、北極海と南極の海水、気候への影響について学ぶ。
第9回	海洋・海面水位	気候システムにおける海洋の役割、海面水位変化の分布について学ぶ。
第10回	予測の方法	地球温暖化予測の方法について学ぶ。気候システムの概要、アンサンブル平均など。
第11回	予測の結果	地球温暖化予測の結果（気温、海面水位、降水量、異常気象、日本への影響など）を概観する。
第12回	古気候学	様々なスケールにおける気候変動を考える。小氷期、中世の温暖期、氷期、間氷期、氷河期など。
第13回	緩和策・適応策	地球温暖化に対する緩和策と適応策を簡単に紹介する。
第14回	まとめ	講義をまとめる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業のなかで指示をする。

## 【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、授業中に資料としてプリントを随時配布する。

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%を予定しているが、途中で簡単なレポート課題を課すことがある。履修者数が多くない場合には、グループによるディスカッションを行い、ディスカッションの内容を成績に反映する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

## 【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Students learn scientific knowledge about global warming.

BSP100HA

## 基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

### 【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

### 【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	同上
第5回	テキストの講読（3）	同上
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	同上
第11回	グループ発表・討論3	同上
第12回	グループ発表・討論4	同上
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

### 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

### 【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

BSP100HA

**基礎演習**

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

**【Outline and objectives】**

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

**【到達目標】**

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	同上
第5回	テキストの講読（3）	同上
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	同上
第11回	グループ発表・討論3	同上
第12回	グループ発表・討論4	同上
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員が指示する。

**【参考書】**

担当教員が授業時に適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

**【その他の重要事項】**

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

BSP100HA

## 基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

### 【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

### 【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	同上
第5回	テキストの講読（3）	同上
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	同上
第11回	グループ発表・討論3	同上
第12回	グループ発表・討論4	同上
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

### 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

### 【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

BSP100HA

**基礎演習**

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

**【到達目標】**

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	同上
第5回	テキストの講読（3）	同上
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	同上
第11回	グループ発表・討論3	同上
第12回	グループ発表・討論4	同上
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員が指示する。

**【参考書】**

担当教員が授業時に適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

**【その他の重要事項】**

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

## 基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

### 【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を取り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	同上
第5回	テキストの講読（3）	同上
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	同上
第11回	グループ発表・討論3	同上
第12回	グループ発表・討論4	同上
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

### 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

### 【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

### 【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

**基礎演習**

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

**【到達目標】**

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	同上
第5回	テキストの講読（3）	同上
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	同上
第11回	グループ発表・討論3	同上
第12回	グループ発表・討論4	同上
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員が指示する。

**【参考書】**

担当教員が授業時に適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

**【その他の重要事項】**

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

## 基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

### 【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を取り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	同上
第5回	テキストの講読（3）	同上
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	同上
第11回	グループ発表・討論3	同上
第12回	グループ発表・討論4	同上
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

### 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

### 【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

### 【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

**基礎演習**

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

**【到達目標】**

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	同上
第5回	テキストの講読（3）	同上
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	同上
第11回	グループ発表・討論3	同上
第12回	グループ発表・討論4	同上
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員が指示する。

**【参考書】**

担当教員が授業時に適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

**【その他の重要事項】**

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

## 基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

### 【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	同上
第5回	テキストの講読（3）	同上
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	同上
第11回	グループ発表・討論3	同上
第12回	グループ発表・討論4	同上
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

### 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

### 【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

### 【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

**基礎演習**

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

**【到達目標】**

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	同上
第5回	テキストの講読（3）	同上
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	同上
第11回	グループ発表・討論3	同上
第12回	グループ発表・討論4	同上
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員が指示する。

**【参考書】**

担当教員が授業時に適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

**【その他の重要事項】**

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

## 基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

### 【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

### 【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	同上
第5回	テキストの講読（3）	同上
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	同上
第11回	グループ発表・討論3	同上
第12回	グループ発表・討論4	同上
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

### 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

### 【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

BSP100HA

**基礎演習**

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

**【到達目標】**

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	同上
第5回	テキストの講読（3）	同上
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	同上
第11回	グループ発表・討論3	同上
第12回	グループ発表・討論4	同上
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員が指示する。

**【参考書】**

担当教員が授業時に適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

**【その他の重要事項】**

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

## 基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

### 【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	同上
第5回	テキストの講読（3）	同上
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	同上
第11回	グループ発表・討論3	同上
第12回	グループ発表・討論4	同上
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

### 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

### 【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

### 【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

**基礎演習**

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

**【到達目標】**

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	同上
第5回	テキストの講読（3）	同上
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	同上
第11回	グループ発表・討論3	同上
第12回	グループ発表・討論4	同上
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員が指示する。

**【参考書】**

担当教員が授業時に適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

**【その他の重要事項】**

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

## 基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

### 【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	同上
第5回	テキストの講読（3）	同上
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	同上
第11回	グループ発表・討論3	同上
第12回	グループ発表・討論4	同上
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

### 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

### 【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

### 【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

**基礎演習**

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

**【到達目標】**

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	同上
第5回	テキストの講読（3）	同上
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	同上
第11回	グループ発表・討論3	同上
第12回	グループ発表・討論4	同上
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員が指示する。

**【参考書】**

担当教員が授業時に適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

**【その他の重要事項】**

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

**基礎演習**

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

**【到達目標】**

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	同上
第5回	テキストの講読（3）	同上
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	同上
第11回	グループ発表・討論3	同上
第12回	グループ発表・討論4	同上
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員が指示する。

**【参考書】**

担当教員が授業時に適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

**【その他の重要事項】**

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

**基礎演習**

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

**【到達目標】**

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	同上
第5回	テキストの講読（3）	同上
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	同上
第11回	グループ発表・討論3	同上
第12回	グループ発表・討論4	同上
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員が指示する。

**【参考書】**

担当教員が授業時に適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

**【その他の重要事項】**

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

## 基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

### 【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	同上
第5回	テキストの講読（3）	同上
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	同上
第11回	グループ発表・討論3	同上
第12回	グループ発表・討論4	同上
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

### 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

### 【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

### 【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

**基礎演習**

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

**【到達目標】**

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	同上
第5回	テキストの講読（3）	同上
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	同上
第11回	グループ発表・討論3	同上
第12回	グループ発表・討論4	同上
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員が指示する。

**【参考書】**

担当教員が授業時に適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

**【その他の重要事項】**

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

CAR300HA

## キャリアチャレンジ

人間環境学部教員

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間環境学部が協定を結んだ団体先へのインターンを通して、その団体の活動内容とその背景を理解するとともに、キャリア形成に資する知識、経験を生身につける。

## 【到達目標】

在学中に企業・行政組織・NPOなどで短期の就業を体験することでキャリア形成への意識を高め、卒業後の進路選択に資することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本科目は、人間環境学部が独自に連携する自治体、NPO等の団体に研修派遣するインターンシップ型の科目であり、自分で研修先を見つける科目である「インターンシップ」とは異なります。本科目は学生自身が現地に行き、受け入れ団体の研修プログラムに参加します。現地実習は夏期休暇中と春期休暇中に行い、授業実施期間に学内で事前研修と事後研修を行います。なお、実習は、通常の大学での学習を阻害しないことが条件となります。詳しくは、「履修の手引き」を参照してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	キャリアチャレンジ説明会（春・秋セメスターで各一回行います）	履修を希望する場合、必ず出席しなければなりません。出席者の名簿が「履修希望者名簿」となり、この名簿に記載されていない場合、単位取得はできません。
第2回	キャリアチャレンジ・事前研修	キャリアチャレンジの内容についての事前研修を行います。内容については受け入れ団体によって異なります。
第3回～第12回	キャリアチャレンジ実習	受け入れ団体での研修。
第13回	キャリアチャレンジ・事後研修（1）	キャリアチャレンジの内容についての事後研修を行います。内容は受け入れ団体によって異なりますが、主に研修内容のプレゼンテーションを行います。
第14回	キャリアチャレンジ・事後研修（2）	事後研修会におけるプレゼンテーションを踏まえて、レポートの提出、および講評会を実施します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習先の業種・業務の特色など、担当教員の指導により、事前の情報収集（参考文献や資料）を行い実習の効果を高めることが望まれます。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

個別に指導します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（80％）・レポート（20％）

## 【学生の意見等からの気づき】

毎年、参加した学生からの意見や要望を考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

## 【その他の重要事項】

自治体が受け入れ団体の場合は、自治体職員をはじめ公的機関への進路を考えている学生に推奨し選考過程で優先するなど、想定する対象者を特定する場合があります。

「キャリアチャレンジ」は、「フィールドスタディ」、「人間環境セミナー」とともに社会と連携した科目であり、2017年度から「選択必修科目」（6単位）の対象科目になります。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This is an internship program for the designated organization/institution. Students will be able to understand mission and activities of the organization/institution and to obtain necessary knowledge and experiences for the future career planning.

CAR200HA

## キャリア入門

長峰 登記夫

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Understanding job careers.

## 【到達目標】

This class aims to give students an opportunity to study in English what the job career is, why they should learn it, and how it should be made. By so doing, this subject will give students hints to consider about their own careers and help them understand issues about career making and make their own careers in the future.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

This class will be run in English and basically in the form of lecture. However, if the number of students is not large, discussion will be an essential part of the class. The lecture will take up various topics in regard to career making. Students are supposed to read materials in advance, prepare to ask questions and answer the questions asked by the lecturer. Also, students will be required to make presentations in class. The lecture will deal with issues mainly in Japan and English speaking countries focusing on career making in the global stage.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Introduction to career studies	What career studies are will be discussed.
week 2	Why career studies?	It will be discussed why we should study job careers.
week 3	English words and expressions for career studies	Before the start of career studies, students will check English words and expressions needed for career studies. This will be continued for 10 to 15 minutes in the subsequent sessions.
week 4	Japanese employment practices (1)	The basic features of Japanese employment practices will be discussed. This will be particularly important for students who will try to find a job in Japan or at a Japanese company.
week 5	Japanese employment practices (2)	The lecture will give an overview of how Japanese students find a job.
week 6	International students at Hosei	Students will look at international students at Hosei and Hosei students overseas and think why they are studying overseas.
week 7	How to make a job career (1)	Students will briefly learn how people make a job career in Japan and in the countries of overseas students.
week 8	How to make a job career (2)	Students will briefly learn how people make a job career in the global stage.
week 9	Career changes	Students will think about career changes they may face and experience in life.
week 10	Women's career and its international comparison	Women's career is different from men's and the difference varies from country to country. Students will learn why it is so.
week 11	What will be my career? (1)	Presentation by students about their own career in the future.
week 12	What will be my career? (2)	Continued from the previous week.
week 13	Employment situation in the global business area in Japan	Employment situation in the global business area will be discussed. Or if available, a guest speaker may be invited and talk his/her job experience.
week 14	Final exam.	Final examination and commentary on it.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are supposed to read materials carefully in advance and make clear what they cannot understand and should be ready to ask questions, answer questions asked by the lecturer or make comments on the lecturer's talk.

## 【テキスト（教科書）】

Reading materials are provided from time to time prior to the lectures. This class does not use a particular textbook.

## 【参考書】

References will be presented at the beginning of the class.

## 【成績評価の方法と基準】

Assessment will be made by short exams (20%) and by a final exam or an essay (80%). Students will frequently have a short exam in class. Also, the final exam will be conducted in the final session or students instead may be required to submit an essay of around 3,000 words.

## 【学生の意見等からの気づき】

The lecturer, if conditions allow, will try to invite one or two guest speakers because students are interested in listening to talk by people who have various job experiences including working overseas.

## 【学生が準備すべき機器他】

Nothing.

## 【その他の重要事項】

Japanese students have been learning English for many years. This class will offer a challenging opportunity to learn something (job careers) in English, not to learn the English language itself.

Those who intend to take this subject must attend the first class and follow the instructions from the lecturer. Students also must take their results of English language proficiency tests such as TOEFL, TOEIC, Eigo-kentei Shiken or other similar tests.

If the number of students who intend to take this subject is more than 15 at the first class, priority will be given to the students of the Faculty of Sustainability Studies and some sort of selection will be made for students from the other Faculties.

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Understanding job careers.

POL100AC

## 行政学

山口 二郎

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：水 2/Wed.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は政策行政系の科目である。

行政府の役割と活動について説明し、行政府を担う官僚組織について、その構造、歴史、特徴、動態を解説する。また、政府における政策形成過程についても、解説する。

## 【到達目標】

政府の役割と限界についての確に理解すること。

現代官僚制の役割と限界についての確に理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

現代行政の構成要素、官僚組織、行政制度、政府体系、政策形成過程について講義を展開する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	I 行政とは何か 1 リスクと行政	近現代におけるリスクの変容と政府活動の拡大
第2回	1 リスクと行政 続	グローバル化とリスクの変化及び行政活動の変質
第3回	2 政府の役割	政府と市場の比較にもとづく、政府の役割と限界についての説明
第4回	2 政府の役割 続	公共性の意義と政府の役割
第5回	3 行政の発展段階と行政概念の展開	民主化、産業化がもたらす行政活動の拡大 福祉国家と行政
第6回	II 近代官僚制と行政 1 近代官僚制の成立とウェーバーの官僚制論	官僚制の概念の歴史的展開 マックス・ウェーバーの官僚制概念
第7回	1 近代官僚制の成立 続	官僚制と合理性 グローバル化と官僚制の変容
第8回	2 官僚制の構造と機能	官僚制における整理と病理、機能と逆機能
第9回	2 官僚制の構造と機能 続	官僚制における服従と自発、忠誠と叛逆
第10回	3 行政責任と行政裁量	官僚制の裁量と民主的統制
第11回	3 行政責任と行政裁量 続	日本の行政における責任の概念と政策の失敗
第12回	4 官僚組織と現代社会	20世紀文明としての官僚制 フォーディズムと官僚制組織
第13回	5 ポスト 311 の官僚制と行政	科学技術の発達と専門権力 民主政治と専門権力の関係
第14回	5 ポスト 311 の官僚制と行政 続	政策決定における個人と組織
第15回	5 ポスト 311 の官僚制と行政 続	日本官僚制における無責任体制 官僚制の「優越性」とは何か
第16回	III 政策と行政 1 政策の概念	政策の定義
第17回	1 政策の概念 続	政策の類型化
第18回	2 政策の循環	政策類型と政策決定過程の対応 政治システムと政策の循環 政策の連鎖
第19回	3 政策課題の形成	フィードバックの重要性 政策の守備範囲
第20回	3 政策課題の形成 続	作為と不作為をめぐる権力 行政需要とは何か 行政需要の充足と政策
第21回	4 政策の形成と作成	合理的政策作成モデル 多元的政策形成モデル
第22回	5 政策の選択	政策選択の合理化モデル 合理性の意義と限界
第23回	6 政策の実施	政策実施と官僚制の裁量 政策実施に対する市民的統制
第24回	7 政策の評価	政策評価の基準 政策評価の活用方法とその限界 官僚制と自己修正能力

第 25 回	IV 日本の行政の構造と動態 1 日本の統治機構と官僚制	日本における行政制度の歴史的展開 日本官僚制の歴史的特徴
第 26 回	2 議院内閣制と官僚制	議院内閣制における行政府 議院内閣制と政官関係
第 27 回	2 議院内閣制と官僚制 続	戦後日本における「官僚支配」の実態 政権交代と政治主導の意味
第 28 回	3 日本の社会経済システムと行政	日本における市場と官僚制 遅れてきた福祉国家と官僚制

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教科書の該当部分を事前に読んでおく  
講義で言及される政治、行政現象に関して、新聞、テレビ、雑誌等の報道をフォローする。  
参考文献をなるべくたくさん読む

**【テキスト（教科書）】**

西尾勝 行政学 有斐閣

**【参考書】**

開講時に文献リストを配布する

**【成績評価の方法と基準】**

期末筆記試験による

**【学生の意見等からの気づき】**

現実にかかる行政にかかわる問題を取り上げ、適宜学生からの意見を求めて、双方向的な議論も行いたい。

**【Outline and objectives】**

This lecture aims at providing basic framework and concepts to understand modern bureaucracy in terms of organization structure, history and dynamics.

LAW200HA

**行政法 I**

横内 恵

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

行政法とは、行政の活動を根拠づけたり規制したりする法の体系です。本講義ではそのうち、行政の組織のあり方や、行政法の基本原則、行政活動の類型などについて、具体例を示しながら解説します。

**【到達目標】**

行政の様々な活動を法的に理解・考察できるようになることを、本講義の到達目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

レジュメと教科書に沿って、判例集を参照しながら授業を行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、行政組織の基礎概念	教科書を用いて、当該テーマについて解説する
第 2 回	国の行政の仕組み、地方の行政の仕組み	教科書を用いて、当該テーマについて解説する
第 3 回	法律による行政の原理	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 4 回	行政法の一般原則	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 5 回	行政の規範定立	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 6 回	行政行為（1）	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 7 回	行政行為（2）	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 8 回	行政契約	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 9 回	行政指導	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 10 回	行政計画	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 11 回	行政の実効性確保手段	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 12 回	行政裁量	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 13 回	行政手続	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 14 回	期末試験	授業内で期末試験を実施します

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
授業前に教科書の該当箇所を読んでください。授業後は、レジュメを見ながら教科書と判例集を熟読してください。

**【テキスト（教科書）】**

北村和生、佐伯彰洋、佐藤英世、高橋明男『行政法の基本〔第6版〕』（法律文化社、2017年）。

**【参考書】**

・判例集：大橋真由美、北島周作、野口貴公美『行政法判例 50 ！』（有斐閣、2017年）。  
・六法：三省堂「デイリー六法」、又は、有斐閣「ポケット六法」（いずれも、最新版）。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験 100%

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

公務員試験の受験を考えていることは、本科目の履修を強く推奨します。  
「行政法Ⅱ」の履修希望者は、先に本講義を履修してください。  
2017年度以前に「行政法の基礎」の単位を修得済の場合、本科目の履修はできません。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

The programme gives undergraduate students basic theoretical and methodological knowledge in administrative law.

LAW200HA

## 行政法Ⅱ

横内 恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「行政法Ⅰ」の授業内容を前提として、違法または不当な行政活動を是正したり、国民の権利を保護したりするための救済制度について、具体的な事例を取り上げながら解説します。

## 【到達目標】

行政と国民の間の紛争をいかに法的に解決するかについて、論理的に考えられるようになることを本講義の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

レジュメと教科書に沿って、判例集を参照しながら授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	行政救済法概説	教科書を用いて、当該テーマについて解説する
第2回	取消訴訟：処分性	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第3回	取消訴訟：原告適格	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第4回	取消訴訟：判決の効力	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第5回	無効等確認訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第6回	不作為の違法確認訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第7回	義務付け訴訟と差止訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第8回	当事者訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第9回	民衆訴訟・機関訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第10回	行政不服審査制度	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第11回	国家賠償法：公権力の行使、公の营造物	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第12回	国家賠償法：違法性、故意・過失	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第13回	国家賠償法：規制権限不行使	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第14回	期末試験	授業内で期末試験を実施する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業前に教科書の該当箇所を読んでください。授業後は、レジュメを見ながら教科書と判例集を熟読してください。

## 【テキスト（教科書）】

北村和生、佐伯彰洋、佐藤英世、高橋明男『行政法の基本〔第6版〕』（法律文化社、2017年）。

## 【参考書】

・判例集：大橋真由美、北島周作、野口貴公美『行政法判例 50！』（有斐閣、2017年）。  
・六法：三省堂「デイリー六法」、又は、有斐閣「ポケット六法」（いずれも、最新版）。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【その他の重要事項】

本講義は、「行政法Ⅰ」履修済みの人を主な対象としています。公務員試験の受験を考えていることは、本科目の履修を強く推奨します。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

The programme gives undergraduate students basic theoretical and methodological knowledge in administrative law.

SOC200HA

**グローバル・コミュニケーション**

**ストックウエル・エスター**

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

This course focuses on basic communication skills in personal and social environments (local), as well as in international and multicultural environments (global). Cultural constructs are analysed in an individual's culture of origin and in a range of other similar and dissimilar cultures. The cultural roots of reality are seen as deriving from the effects of religious, family and historical world views. Language, non-verbal communication, social customs and expected patterns of relationships are examined in relation to interpersonal, business, educational and political situations. This course has been designed to give students an overview of intercultural communication and to stimulate further independent learning.

**【到達目標】**

The aims of the course are:

- ・ to give students opportunities to better know themselves, their values and biases, and to develop an awareness of how these factors influence intercultural environment.
- ・ to enable students to identify culturally learned assumptions and behaviours.
- ・ to enable students to explore specific cultural group information and relate that knowledge to culturally learned awareness.
- ・ to enable students to understand theoretical issues relevant to the study of intercultural communication.
- ・ to develop the process of cultural adaptation.
- ・ to promote positive attitudes towards the culturally different and to develop intercultural communication competence.

Through this course, students will be able to prepare for their professional lives not only in their domestic society but also in an international society. Students entering the fields of business, teaching, social services and tourism will have opportunities to apply their skills in daily contacts with culturally different client groups.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

Classes will consist of lectures followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics that will be discussed in the following class. Classes will consist of a series of short lectures and other video materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures and videos. In addition, students will also gain skills in academic writing including research techniques and oral presentation skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of global and local (glocal) communication
第2回	Essentials of Human Communication: What and how	Definition of communication / Types of communication / Models of communication / The goal of studying communication
第3回	The Challenge of Intercultural Communication I: Culture and Communication	Why we study intercultural communication / What is culture? / Characteristics of culture
第4回	The Challenge of Intercultural Communication II: Culture and Communication	Culture and our perceptions, values, attitudes, beliefs / Problems in intercultural communication
第5回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns/ Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures

第 6 回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns/ Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures
第 7 回	Language and Culture: Words and Meaning	Language and intercultural communication / Language and culture
第 8 回	Non-verbal Communication: The Messages of Action, Space, Time, and Silence	Functions of non-verbal communication / Definition and types of non-verbal communication / Non-verbal communication and culture
第 9 回	Culture Shock	Definition of culture shock / The stages of culture shock / Effects of culture shock
第 10 回	Potential Problems in Intercultural Communication	Seeking similarities/ uncertainty reduction/ stereotyping/ prejudice/ racism/ ethnocentrism and power
第 11 回	Cultural Influence on Context I: The Business Setting & the Educational Setting	Culture and context / Communication and context / Intercultural communication and the business context
第 12 回	Cultural Influence on Context II: The Business Setting & the Educational Setting	The multinational business context - cultural views toward management
第 13 回	Intercultural Changes: Recognizing and Dealing with Differences	Becoming interculturally competent / The future of intercultural communication
第 14 回	Written Assignment / Take Home Exam / Class Evaluation	Students submit their written assignment and are instructed on how to do their take home exam

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes.

#### 【テキスト（教科書）】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

#### 【参考書】

Jackson, Jane. (2014). *Introducing language and intercultural communication*. Routledge.

James W. Neuliep. (2014). *Intercultural Communication: A Contextual Approach (6th Edition)*. SAGE Publications.

Larry A. Samovar, Richard E. Porter and Edwin R. McDaniel. (2014). *Intercultural Communication: A Reader (14th Edition)*. Wadsworth Publishing.

#### 【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), a group project (20%), two short written assignments (20%), and a take-home exam (20%).

\* Note that students who miss 4 classes or more cannot pass this subject.

#### 【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

#### 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100. 「7 コース制」）を参照してください。

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

This course focuses on basic communication skills in personal and social environments (local), as well as in international and multicultural environments (global). Cultural constructs are analysed in an individual's culture of origin and in a range of other similar and dissimilar cultures. The cultural roots of reality are seen as deriving from the effects of religious, family and historical world views. Language, non-verbal communication, social customs and expected patterns of relationships are examined in relation to interpersonal, business, educational and political situations. This course has been designed to give students an overview of intercultural communication and to stimulate further independent learning.

ARSI300HA

## グローバルスタディーズ I

吉田 秀美

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが日常生活で購入している商品は、様々な原材料を加工して作られています。例えば、大豆は味噌や豆腐の材料であるだけでなく、マーガリン、ファーストフードの揚げ油、スナック菓子、石鹸、インク、バイオ燃料にまで使われています。

本授業では、こうした原材料（世界の市場で大量に取引される商品＝コモディティ）を入り口として、環境、貿易、食料、エネルギー、歴史、ODA、企業や NGO の活動などについて学びます。授業を通じて、各自が自分なりの歴史観や世界観を形成していくための基礎的能力を身に付けることを目指します。

#### 【到達目標】

- 1) 身近なモノを事例として、生産地や生産者その他のステイクホルダーに関する具体的なイメージを持ち、社会・経済の動き方を理解する。
- 2) 文献や統計資料（英文含む）を読みこなす力を身につける。
- 3) ウェブサイト上にある情報を丸のみせず、情報発信者の立場や目的を客観的に判断して使いこなす力を身につける。
- 4) 調べて得た知識を基礎としつつ、独自の視点で課題や解決策を提案する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本授業はグループワークを中心とした演習形式で進めますので、毎回、積極的に参加する意欲のある受講者を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的、進め方や資料の探し方についての説明、基礎知識の講義、受講希望者が多い場合は選考テスト
第 2 回	講義：パーム油のサプライチェーンについて	生産者から消費者までの流れや課題を学ぶ
第 3 回	グループワーク：大豆をめぐる各国のステイクホルダー（1）	グループ研究を進めるうえで必要な基礎知識、データの集め方などを学ぶ
第 4 回	グループワーク：大豆をめぐる各国のステイクホルダー（2）	集めた情報を統合して、課題の全体像をつかむ
第 5 回	グループワーク：大豆の生産（1）	国ごとに異なる生産者の多様性や課題を知る
第 6 回	グループワーク：大豆の生産（2）	国ごとに異なる生産者の多様性や課題を知る
第 7 回	グループワーク：大豆の流通	大豆がグローバルに取引される構造を理解する
第 8 回	グループワーク：大豆を使った加工食品	大豆がどのように加工され消費者に届くかを理解する
第 9 回	グループワーク：世界の食糧需給と農業	遺伝子組み換え技術や有機農業について議論する
第 10 回	グループワーク：援助とビジネス	大豆に関連する開発援助プロジェクトやビジネスについて理解を深める
第 11 回	農林水産物の生産と環境に関する文献と議論、発表テーマの決定	各自の関心に合わせ、発表のグループ分けを行う
第 12 回	映画鑑賞	関連分野のドキュメンタリー映画の鑑賞と議論
第 13 回	発表・議論（1）	受講者が設定したテーマの発表（1）
第 14 回	発表・議論（2）	受講者が設定したテーマの発表（2）

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で紹介する文献やウェブサイトを事前に読んでおくこと。

#### 【テキスト（教科書）】

「WWF Report 2014 拡大する大豆栽培—影響と解決策」  
概況把握のため表記テキストを使用しますが、様々な視点の文献や統計資料を各回で紹介いたします。

WWF (2012) 「生きている地球のためのより良い生産」

授業内でウェブサイトを提示するので、各自ダウンロードすること。

#### 【参考書】

本郷豊・細野昭雄 (2012) 「ブラジルの不毛の大地『セラード』開発の奇跡」(JICA プロジェクト・ヒストリー) ダイアモンド社

**【成績評価の方法と基準】**

参加姿勢（予習とグループワークへの貢献）（40%）、グループ発表（2回）（30%）、レポート（2回）（30%）を基本とします。  
予習への取り組み状況によって加点します。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年度と同じ材料を扱いますが、授業時間の変更に伴い、授業内でのグループワークや意見発表する時間を増やし、正式なグループ発表の回数を減らします。

文献を読んだり、ネットで調べ物をして、といった予習をして、とすることで、グループワークが活性化されますので、積極的な参加を求めます。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業中に文献調査が必要な場合は、パソコン等を準備するよう指示します。資料の配布や課題提出のために、授業支援システムを活用します。

**【その他の重要事項】**

グローバル・スタディーズⅠではモノと環境の関わりに重点を置き、Ⅱではモノと人の移動の関わりに重点を置きます。連続履修をすると理解が深まります。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

In our daily lives, we purchase various products made from materials procured globally. Soybean is one of the basic materials not only for foods but also for animal feeding and for industrial products such as biofuel. Its production and consumption are closely related to the environment, trade, food, energy, history, ODA, NGOs, business. Through classes, students will learn these issues using soybean as a case.

ARSI300HA

**グローバルスタディーズⅡ**

吉田 秀美

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

私たちにとって身近な食品である砂糖は、歴史の中で人の移動に大きな影響を与えてきました。本授業では砂糖がもたらした人の移動について、主要な生産国の歴史と現在直面している課題を考察します。授業を通じて各自が自分なりの歴史観や世界観を形成していくための基礎的能力を身に付けることを目指します。

**【到達目標】**

- 1) 現代の社会の成り立ちには歴史的経緯があることを理解し、その知識をふまえて現代の国境を超える人の移動について考察する。
- 2) 文献や統計資料を読みこなす力を身につける。
- 3) ウェブサイト上にある情報を丸のみせず、情報発信者の立場や目的を客観的に判断して使いこなす力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本授業はグループワークを中心とした演習形式で進めますので、毎回、積極的に参加する意欲のある受講者を期待します。受講希望者が25名を超過する場合は、第1回目の授業で簡単な英文和訳・英作文のテストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的、進め方や資料の探し方についての説明、基礎知識の講義、受講希望者が多い場合は選考テスト
第2回	講義：カカオ（1）	カカオと人の移動の歴史
第3回	講義：カカオ（2）	チョコレート産業とCSR
第4回	文献講読と発表（1）	大航海時代を新大陸の側から見る
第5回	文献講読と発表（2）	砂糖プランテーションがアフリカと新大陸にもたらした影響
第6回	文献講読と発表（3）	イギリスの砂糖と紅茶の歴史を知る
第7回	文献講読と発表（4）	奴隷貿易廃絶運動から奴隷の解放まで
第8回	文献講読と発表（5）	年季奉公者について
第9回	文献講読と発表（6）	現代の砂糖と労働をめぐる課題
第10回	映画鑑賞	関連分野のドキュメンタリー映画の鑑賞と議論
第11回	人の移動に関する文献講読と議論（1）	日本からの移民と日本に来た外国人
第12回	人の移動に関する文献講読と議論（2）	外国人技能実習制度
第13回	人の移動に関する文献講読と発表（1）	各自が設定したテーマで発表する（1）
第14回	人の移動に関する文献講読と発表（2）	各自が設定したテーマで発表する（2）

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で紹介する文献やウェブサイトを事前に読んでくること。

**【テキスト（教科書）】**

川北稔（1996）「砂糖の世界史」（岩波ジュニア新書） 907円

**【参考書】**

エリザベス・アボット（2011）「砂糖の歴史」河出書房新社  
WWF（2012）「生きている地球のためのより良い生産」  
ラッセル・キング（ほか著、竹沢尚一郎・稲葉奈々子・高畑幸（訳）（2011）「移住・移民の世界地図 移動する人びと」丸善出版

**【成績評価の方法と基準】**

参加姿勢・予習の提出（40%）、発表（2回）（30%）、レポート（1回）（30%）を基本とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年度は、事前にテキストを読み込んできた学生から、他の受講生の発表や教員の講義に対して積極的な反応があり、「他の授業とも絡めて深く考えることができた」と言う感想がありました。演習型の授業の場合、学びの深さは、学生自身のコミットメントに大きく依存します。学生がコミットしやすい授業環境作りを工夫していきたいと思えます。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業中に文献調査が必要な場合は、パソコン等を準備するよう指示します。資料の配布や課題提出のために、授業支援システムを活用します。

## 【その他の重要事項】

グローバル・スタディーズ I ではモノと環境の関わりに重点を置き、II ではモノと人の移動の関わりに重点を置きます。連続履修すると理解が深まります。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100. 「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Sugar has had a great impact on people migration in history. In this lesson, we will look at the history of major producing countries and the challenges currently faced by the migration caused by sugar. Through classes, we aim to acquire basic skills for each person to form their own historical and world views.

MAN200HA

## 経営学入門

梅野 匡俊

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学は、企業をはじめ社会にある様々な組織の現実の活動を理論的に解明しようとする学問です。企業、団体は外部の環境とともに、持っている資源（人、もの、金、情報）や組織としての考え方によって、その活動が規定されます。また、組織の活動は多岐にわたり、経営学もマーケティングや戦略論、会計などの広い分野を包括しています。本講義では、経営学が何を対象として、どのような理論によって体系化されているかを学ぶことを目的とします。

## 【到達目標】

本講義では企業や幅広い組織の活動の具体的事例をもとに、経営学の体系と理論を学びます。それぞれの理論が意味することを理解するとともに、企業、組織の活動をどのような理論で分析していけばよいかを身に付けることを目標とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

事前に企業、組織の具体的な活動を事例として提示し、受講生各自が予習で分析、それを授業でディスカッションすることで、理解を深めます。ディスカッションの後、各事例はどのような理論で考える事ができるかを講義し、具体と理論の橋渡しをおこないます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、本講義で学ぶこと	講義の目的、内容、進め方、評価の説明。経営学が目指すものと、その体系について説明します。
2	組織	組織とは何か、組織における資源とは。組織と組織の関係はどのようなになっているか。
3	戦略	なぜ戦略が必要なのか。戦略はどのように作られるか。
4	マーケティング	マーケティングとは何か。組織によるマーケティングの違い。ブランドとは。
5	新商品開発	なぜ、新商品は必要なのか。新商品開発はどのように行われるか。
6	技術と経営	技術革新はどのように起こるのか。技術革新にどのように対応するのか。
7	多角化	組織が多角化するのとはなぜか、そのために組織に必要なことは何か。
8	国際化	国際化はどのような道筋で起こるのか。国際化に対応するには。
9	会計	組織の収益構造はどのように変わっているか。損益と資金の関係は。
10	投資	将来に向かっての投資はどのように判断するのか。
11	人材	組織を動かす人材をどのように活性化させるのか。
12	企業	企業はどのように発生していったのか。現代の企業形態について。
13	社会における企業	社会存在としての企業の在り方
14	イノベーション	イノベーションとは何か。組織はどのようにイノベーションを起こしていくのか。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義では色々な事例をもとに授業を進めます。事例を事前に提示するので、必ず視点から分析検討をおこなって、授業に臨んでください。

## 【テキスト（教科書）】

講義で使った資料は、その回の授業の最後に配布します。

## 【参考書】

山倉健嗣編著「ガイダンス 現代経営学」中央経済社

## 【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の3点にもとづいておこないます。  
 ・事例に対する分析・検討ペーパーの提出と内容（50%）  
 ・ディスカッションへの参加度合い（10%）  
 ・期末試験（40%）

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません

**【学生が準備すべき機器他】**

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありません。

**【その他の重要事項】**

授業は教員が用意したチャートを投影しながら進めます。チャートのレジュメを学生の皆さんには配布します。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

Business administration is the science to theorize the activities of companies and organizations in society. Its scope is diverse, including strategy theory, marketing, accounting, etc. In this lecture, we will learn the system and the theory of Business administration based on the case examples.

LAW200HA

**刑法の基礎**

渡辺 靖明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「刑法」とは、「犯罪」と「刑罰」とを定めた法律のことです。それでは、どのような行為が「犯罪」として処罰の対象となるのでしょうか。また、その前提となる刑法の原則とはどのようなもののでしょうか。この授業では、これについて具体的な事例を通じて学び、刑法の社会における意義と役割とを考えます。

**【到達目標】**

犯罪や刑罰に関する報道等に接すると、私たちは、その犯罪の被害者や遺族に純粋に同情し、また加害者への怒りに共感します。しかし、犯罪を減らし社会をより良くするには、加害者が犯罪をしてしまった理由・要因等にも思いを巡らせる必要があるのではないのでしょうか。そもそも、犯罪の抑止にとって、刑罰が最適なののでしょうか。刑罰以外に有効な手段や政策はないのでしょうか。こうした多角的な視野から、犯罪の原因、抑止、刑罰制度の在り方などを考えられるようになる。これがこの授業の最終的な目標です。

そのためには、法と倫理・道徳との異同、刑法の意義・役割、刑罰の目的、刑法と他の法律との関係を踏まえて、刑法の一般原則及び犯罪の一般的及び個別的な成立要件等を理解する必要があります。この授業では主としてこれらの基礎知識を修得していきます。

レジュメには、適宜〔確認問題〕、〔検討問題〕を設けます。基礎知識修得の目安は、その各問題の解答と理由とを理解できるようになることです。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

毎回ごとにレジュメを配布し、具体的事例について検討して、各テーマごとの理解をはかります。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	「刑法」とは何か。	刑法の形式的・実質的な意義や刑法（法）と倫理・道徳との異同等を学ぶ。
第2回	「刑法」の一般原則とは何か。	罪刑法定主義・責任主義・最終手段性など、刑法の一般原則を学ぶ。
第3回	「刑罰」とは何か。	刑罰と民法の損害賠償・行政法の行政処分との違いや、国家が刑罰を科すことが許されるのは何故かなどを学ぶ。
第4回	犯罪の一般的な成立要件	犯罪の一般的成立要件（構成要件・違法性・責任）の基礎を学ぶ。
第5回	犯罪の故意と過失、未遂と共犯	犯罪の故意・過失、未遂・共犯の基礎を学ぶ。
第6回	殺人罪・傷害罪	いつから殺傷罪等の対象である「人」と認められるのか、人の「死」とは何を指すのか。「傷害」とはいかなる行為なのか。これらについて学ぶ。
第7回	自殺関与・同意殺人罪	刑法上の「被害者の同意」の意義と、自殺関与罪の基礎及び安楽死・尊厳死などについて学ぶ。
第8回	脅迫罪・強要罪・監禁罪、強制わいせつ罪・強制性交等罪	意思決定の自由、性的自由に対する罪の基礎を学ぶ。
第9回	住居侵入罪	住居権・住居の平穏に対する罪の基礎を学ぶ。
第10回	名誉毀損罪・真実性の証明による免責	名誉に対する罪の基礎及び刑法における名誉の保護と表現の自由の保障との関係を学ぶ。
第11回	窃盗罪・強盗罪・詐欺罪・恐喝罪	財産に対する罪の共通原則及び財産移転罪の基礎を学ぶ。
第12回	横領罪・背任罪・器物損壊罪	財産移転罪以外の財産に対する罪の基礎を学ぶ。
第13回	放火罪・偽造罪	社会に対する罪（放火罪（公共危険犯）、偽造罪（取引の安全に対する罪））の基礎を学ぶ。
第14回	賄賂罪	国家の作用に対する罪（汚職の罪）の基礎を学ぶ。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。配布レジュメ等に基づく予習・復習をする。

## 【テキスト（教科書）】

なし。配布レジュメを使用します。

## 【参考書】

特に指定はしません。お勧めの参考書は、授業時に説明します。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、刑法の基礎知識を問う定期試験 80 %、レポート等 20 % の総合評価で行う予定です。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアンケートでは、「具体的な事例があげられており、わかりやすかった。」「刑法の問題を身近に感じさせられた。」など、概ね良い評価がなされてきました。しかし、配布レジュメがだんだんと詳細になりすぎたという意見もありました。良い評価に慢心せず、授業時の質問を増やしたり、レジュメの記載内容に工夫をするなどして、聴講時の関心と集中力が維持できるように、一層の努力を重ねたいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムでは、本授業に関する連絡や、各回の終了した毎にその回のレジュメのアップなどをします。支援システムをこまめにチェックしてください。

## 【その他の重要事項】

「憲法の基礎」、「行政法の基礎」、「民事法Ⅰ・Ⅱ」等の他の法律系科目も併せて履修しておくこと、「刑法の基礎」の授業内容の理解が一層深まるでしょう。また、秋学期開講の「環境法Ⅳ」（環境刑法）では、主として環境犯罪について学びます。「刑法の基礎」を履修しておけば、「環境法Ⅳ」の授業の内容をより深く理解できます。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100, 「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

What kind of action is subject to punishment as a crime? What is the basic principle of criminal law to consider crime and punishment? We will learn it through concrete examples. And we will think the meaning and role of criminal law in society.

OTR400HA

## 研究会 A

## 朝比奈 茂

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4, 月 5/Mon.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「なぜ人間は○○○だろうか?」といった素朴な疑問をもとに、文献資料より人間の生理的・心理的な仕組みや働きについて調査し、自らが問題を提示し解決しようとする理論と方法を習得することを目的とする。

## 【到達目標】

1. 研究テーマを選定し、レポート内にて自分の意見を述べることができる。
2. 文献購読をし、その内容をまとめ、ゼミ員に対して発表できる。
3. グループ内で、ディスカッションができる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

設定したテーマに関する資料や文献を収集し、問題点や疑問点を列挙し、グループ内で共有する。グループ内では、集まった多くの情報を統合して、最終的にグループの意見として発表し、レポートを作成する。授業は主に SGD（スモールグループディスカッション）形式を用いて行う。全体では毎回一人ずつ、全員の前で文献（日本語、英語どちらでも良い）講読を行い、発表の技術を身につける。グループそれぞれが目標やテーマを決め、調査および討論を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の概要、ねらい、到達目標を明示し、年間スケジュールの確認を行う。また自己紹介を通じてゼミ員相互の理解を深める。
第 2 回	文献検索、プレゼンテーション、レポート作成	テーマ選びから文献検索、プレゼンテーション、レポート作成に関する説明を行う。
第 3 回	テーマ設定、意見交換	グループ分けを行い、役割分担を決める。今後の計画を立てる。
第 4 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 5 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 6 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 7 回	中間発表	グループごとに、これまで話し合った内容を発表する。
第 8 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 9 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 10 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 11 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 12 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 13 回	(1) 最終発表（報告会）	グループごと、テキストに関して発表を行い、ディスカッションを行う。
第 14 回	(1) 最終発表（報告会）	グループごと、テキストに関して発表を行い、ディスカッションを行う。
第 15 回	ガイダンス	秋学期のスケジュール確認を行うとともに、夏季休暇中に提示した課題の発表を行う。
第 16 回	研究（調査）テーマ検討	秋学期に行う、研究（調査）テーマを各々で検討し、決定する。
第 17 回	資料収集および講読	図書館やインターネットを通じて、資料を収集する。仕入れた文献を整理して内容を理解する。
第 18 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。

第 19 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第 20 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第 21 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第 22 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第 23 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第 24 回	DVD 鑑賞	環境全般に関する DVD を視聴し、各々が感じたこと、考えたことを、グループに分けディベート形式で討論する。
第 25 回	レクリエーション (スポーツ大会)	スポーツ活動を通じて、ゼミ員相互のコミュニケーションを図る。
第 26 回	外部講師による講演会	現在社会で活躍している講師 (学外) を招聘し講義を行う。
第 27 回	卒業論文報告会	4 年生による卒業論文の発表を行う。
第 28 回	卒業論文報告会	4 年生による卒業論文の発表を行う。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

- ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
- ・設定したテーマに関する資料を図書館、WEB を活用して調べておく。
- ・各自興味のあるテーマを決め、文献収集を行う。
- ・思いついた疑問をそのままにしないで、調べるように習慣づける。

**【テキスト (教科書)】**

使用しない。

**【参考書】**

- ・その科学が成功を決める リチャード・ワイズマン 文春文庫

**【成績評価の方法と基準】**

授業の参画状況 (60%)、プレゼンテーション (25%)、レポート (15%) を総合して判断する

**【学生の意見等からの気づき】**

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に学生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 授業終了時に、次回の予告を行うことで、自宅での学習機会を増やすことにつなげる。

**【関連の深いコース】**

環境サイエンスコース

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This class is conducted as the seminar, emphasizing in the small group discussion. Students are supposed to be knowledgeable enough to participate in this workshop. Therefore students' preparation for this seminar is essential as well as their positive attitude and active involvement are required. By completing this workshop, students are expected to learn and improve the awareness of health and self-medication, which enable them to create an appropriate decision making and take an action accurately for the health-related issues.

OTR400HA

**研究会 A**

今枝 佑輔、松本 倫明

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

「地球温暖化とその周辺」

地球環境/地球温暖化対策/省エネ/エネルギー問題/エコ技術 など、地球温暖化をキーワードに幅広いテーマを扱います。

**【到達目標】**

地球温暖化とその周辺について理解を深めます。たとえば温暖化政策や温暖化対策と称しているものが本当に正しいか、これらを検証する力を身につけることを目標とします。そのために、客観的に事実やデータにもとづいて定量的に解析し、考察する力をつけます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

最近の活動内容は以下の通りです。2018 年度はサイエンスコミュニケーションを大きなテーマにしますが、詳細はゼミ内の話し合いで決めます。

「環境速報」(通年) …環境に関するニュースをレポーターが発表し、みんなで考えます。環境に関する幅広い知見を得ることが目的です。

「文献輪講」(前期) …地球温暖化に関する文献を輪講します。文献は毎年異なります。近年では、IPCC 評価報告書、エネルギー白書、原子力・自然エネルギーに関する書籍、科学技術社会論 (STS) の書籍、省庁発行の資料、環境白書を輪講しました。

「研究報告」(後期) …個人の研究の進捗状況を発表し、議論します。

「グループワーク」(逐次) …特定のテーマについてグループで研究します。近年では、環境展における企業研究、文献調査、キャンパスの放射線量調査を行いました。

「報告書」(年度末) …1 年間の成果をまとめた報告書を提出します。4 年生は研究会修了論文 (卒論) を提出します。

必要に応じてサブゼミを火曜 6 限に行うことがあります。上記の他に親睦会などが行われます。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	打ち合わせ	研究会運営について打ち合わせをします。
第 2 回	環境速報 文献輪講 グループワーク	環境速報と文献輪講を行います。グループワークを話し合います。
第 3 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 4 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 5 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 6 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 7 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 8 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 9 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 10 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 11 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 12 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 13 回	グループワーク発表 グループワーク発表	春学期のグループワークの成果を発表します。
第 14 回	まとめ	春学期のまとめをします。
第 15 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 16 回	環境速報 研究報告 グループワーク	環境速報と研究報告を行います。グループワークについて話し合います。
第 17 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 18 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。

第 19 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 20 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 21 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 22 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 23 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 24 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 25 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 26 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 27 回	グループワーク発表	グループワークの発表を行います。
第 28 回	まとめ	1年間のまとめをします。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。環境速報・文献購読・研究報告のレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。課外活動で学外で調査を実施することがあります。

#### 【テキスト（教科書）】

授業中に指示をします。

#### 【参考書】

授業中に指示をします。

#### 【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加姿勢、発表と議論の姿勢、年度末報告書にもとづき総合的に判断します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

ピアレビューは好評なので今年度も引き続きピアレビューを行います。グループワークを充実させます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

環境速報・文献購読・研究報告のレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。課外活動では、学外で調査を実施することがあります。

#### 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

Students learn scientific knowledge about global warming and related issues.

OTR400HA

## 研究会 A

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生じた、あるいは生じている様々な問題を素材として、国際平和（国際社会の中の日本、国際紛争の解決、環境問題の改善、人権の保障、よりよい社会の実現）について考える。

#### 【到達目標】

自分で設定したテーマについて、徹底的に調べ、研究し、発表し、議論することで、問題解決能力を身に付ける。

卒業時には、研究会修了論文を提出する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

専門文献購読、事例研究、個人の研究報告、時事問題に関する討論、ディベート等を行う。

学生による自主的な運営を期待する。

適宜、サブゼミを行う（読書会、映画鑑賞会等）。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際平和の追求	ガイダンス 年間計画 グループ発表と討論
第 2 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 3 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 4 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 5 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 6 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 7 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 8 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 9 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 10 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 11 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 12 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 13 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 14 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 15 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 16 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 17 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 18 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 19 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 20 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 21 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 22 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 23 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 24 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 25 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 26 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 27 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 28 回	国際平和の追求	4 年生による総括

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。報告者が事前に指定する文献を読み、それに基づいて十分に予習をしてくること。

#### 【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年。  
小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年。  
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

#### 【参考書】

松井芳郎『国際環境法の基本原則』東信堂、2010 年。

#### 【成績評価の方法と基準】

発表：30 %

議論への参加：30 %

期末レポート：30 %

ゼミ運営への貢献：10 %

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

Participants will discuss international peace focusing on armed conflicts, international environmental issues, human rights etc.

OTR400HA

**研究会 A**

梶 裕史

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 5/Fri.5

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

テーマ：「文化的景観」とエコツーリズム

「文化的景観」という考え方をベースに、地域固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、各自の現地調査を通じて事例研究を行う。現地調査（各自の関心によりフィールドを決め、ヒアリング調査を必ず含んで自主的に企画する）で選ぶフィールドについては、特定の一か所に限らないテーマ設定のしかたもある。

**【到達目標】**

「環境表象論ⅠⅡ」の内容を、自主的な現地調査の体験によって実感的に理解すること。また、前年度の沖繩離島ゼミ合宿の体験や、他のゼミ生の研究発表など様々なフィールドの話から、自己の現地体験とのつながりを見つけられ、研究成果を「共有」できるようになること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

「授業計画」の通り、参加者個々の研究発表とその後の質疑応答・ディスカッションが中心となります。（ただし、「到達目標」に記した通り、他のゼミ生の研究とのつながりを見つけられ、「共有」できることが大切です。）

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	年間オリエンテーション、参加者自己紹介	年間スケジュールの説明等
第 2 回	個人研究発表①	発表は 1 人 30 分以内程度、題材は主として昨年度の研究成果に基づき、発表後にグループワークを含む質疑応答や教員のレクチャー等
第 3 回	個人研究発表②	(例) 竹富島の「住」と景観 その 1
第 4 回	個人研究発表③	(例) 竹富島の「住」と景観 その 2
第 5 回	個人研究発表④	(例) 竹富島の「住」と景観 その 3
第 6 回	個人研究発表⑤	(例) 竹富島の「衣」（伝統的な染織の文化）その 1
第 7 回	個人研究発表⑥	(例) 竹富島の「衣」（伝統的な染織の文化）その 2
第 8 回	今年度の個人研究テーマ、現地訪問構想①	各自、現段階の構想を簡潔に発表
第 9 回	個人研究発表⑦	(例) 竹富島の「食」の文化 その 1
第 10 回	個人研究発表⑧	(例) 竹富島の「食」の文化 その 2
第 11 回	個人研究発表⑨	(例) 竹富島の祭事・行事と「うつぐみ」精神
第 12 回	個人研究発表⑩	(例) 竹富島の「観光文化」の歩みと将来
第 13 回	今年度の個人研究テーマ、現地訪問構想②	夏休み前の中間報告
第 14 回	個別指導	個別に提出する現地訪問計画書に基づく
第 15 回	秋学期オリエンテーション	スケジュール説明、夏休み中の個人研究の各自ふりかえり等
第 16 回	個人研究発表⑪	題材は昨年度または今年度（夏休み等）の研究成果に基づく。発表後にグループワークを含む質疑応答や教員のレクチャー等
第 17 回	個人研究発表⑫	(例) 離島のエコツーリズムと環境保全
第 18 回	個人研究発表⑬	(例) 離島の伝統芸能・祭事とアイデンティティー
第 19 回	個人研究発表⑭	(例) 港町の産業遺産（倉庫）を活用したツーリズム
第 20 回	個人研究発表⑮	(例) 宿町町の景観保全とツーリズム
第 21 回	個人研究発表⑯	(例) 農家民泊とグリーンツーリズム
第 22 回	個人研究発表⑰	(例) 里山における五感の環境教育（体験プログラム）
第 23 回	個人研究発表⑱	(例) 文芸の名作を活かしたツーリズム
第 24 回	個人研究発表⑲	(例) アニメツーリズム（フィルムツーリズム）の試み
第 25 回	個人研究発表⑳	(例) アート・ツーリズム（アートを活かした地域づくり、感性価値創造）
第 26 回	グループワーク①	個々の成果の共有につながるテーマを学生が自主設定

- 第 27 回 グループワーク② 前回の続きとまとめ（学生の自主作業）  
 第 28 回 学年末論文の構想発表 論文に使用する参考文献リストも合わせ  
 （タイトル・要旨・仮目次等）と個別指導

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各自、現地調査の準備にあたる予備知識や現地情報の収集（主に春学期）。授業内（教室）以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。なお、3・4年生は先輩として2年生（4限参加）の指導も行うことが求められます。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

#### 【参考書】

授業のなかで紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

発表内容および学年末論文 65 %、参加姿勢やゼミという組織の中での協調性・貢献度等 35 %

#### 【学生の意見等からの気づき】

・好評の「教員と学生個々との近さ、親しみやすさ」という特色を今後も活かしていきます。  
 ・「好きこそものの上手なれ」の信条に沿って、各自の趣味嗜好・資質に適った研究テーマを設定できることは、自律的な自己管理の意思が必要なものの、モチベーションを良好に持続できれば、多様性ゆたかな研究成果を共有できる面白さと刺激があるという声が、定評としてあります。  
 ・学部フィールドスタディほどの質は伴わないにせよ、自主的にヒアリングを必ず含む現地調査を企画し実行する経験は、コミュニケーション力の向上につながっているようです。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

#### 【その他の重要事項】

・この金曜5限研究会は、前年度からの継続参加者（3・4年生）が履修登録対象となります。

#### 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科日は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

Theme: "Cultural landscape" and ecotourism

Based on the concept of "cultural landscape", we link the viewpoints of eco-tourism, tourism culture, eco-museum and other aspects of Japanese-style ecotourism, tourism culture, and the possibility of human formation utilizing local natural and cultural assets. Conduct case studies through field surveys of their own. Regarding field to be selected in the field survey (field is decided according to their interests and voluntarily planned, including necessarily hearing survey), there are also methods of theme setting not limited to one specific place.

OTR400HA

## 研究会 A

### 梶 裕史

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 4/Fri.4

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：海・離島の「文化的景観」とエコツーリズム

「文化的景観」という考え方をベースに、離島・海辺固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、夏休みに企画・実施する「沖縄離島ゼミ合宿」（訪問先＝八重山諸島）での調査・体験を活かして事例研究をおこなう。

#### 【到達目標】

「環境表象論ⅠⅡ」の内容を、ゼミ合宿時の現地調査・体験によって実感的に理解すること。また、この刺激で自主的にフィールドワークを計画する意欲を高めると同時に、沖縄に限らず様々なフィールドの話から、自己の現地体験とのつながりを見つけられ、個々の研究成果を共有できるようになること。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

「授業計画」に示すように、教室では同学年の共同作業（共同研究発表の準備）や個人研究発表とその後の質疑応答、意見交換など、グループワークが中心となります。春学期は主として、夏休みに実施する沖縄離島ゼミ合宿の事前学習、秋学期は主として、合宿の成果をまとめる共同作業を行なってもらう予定です。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、参加者自己紹介	年間スケジュールの説明等
第 2 回	沖縄・八重山離島についてのガイダンス	合宿で訪問する地域について概観的な予備学習
第 3 回	導入課題の小発表（グループワーク）	竹富島を訪ねる旅を想定した自主企画（日帰り／1泊）
第 4 回	講義とグループワーク①	竹富島の集落景観（有形部分）の価値Ⅰ
第 5 回	講義とグループワーク②	伝統文化継承と「観光」の両立 その経緯
第 6 回	講義とグループワーク③	島の針路選択の成功
第 7 回	講義とグループワーク④	集落景観の価値Ⅱ（無形部分） 祭事・行事の意義など
第 8 回	講義とグループワーク⑤	「うつくみの心」と観光文化（第 2 回からのまとめ）
第 9 回	講義とグループワーク⑥	竹富島の「循環する自然」に即した生活文化
第 10 回	個別小発表	現地で調べたいテーマについて／合宿のグループ分け
第 11 回	講義とグループワーク⑦	石垣島白保集落について 概観
第 12 回	講義とグループワーク⑧	白保の「サンゴ礁文化継承」の地域活動についてー竹富島との共通点・相違島の方々と交流するにあたっての留意事項等
第 13 回	夏合宿の打ち合わせ①	各自のヒアリングの質問候補の紹介・共有のグループワーク
第 14 回	夏合宿の打ち合わせ②	合宿を振り返り、その成果をまとめたポスター作成（ゼミ相談会用）と共同発表に向けた打ち合わせ
第 15 回	共同作業①（ポスター作成）	構成（コンテンツ）、見出し、解説文、写真選定等
第 16 回	共同作業②（ポスター作成）	小グループ毎に、前回の細部をつめる
第 17 回	共同作業③（ポスター完成）	ゼミ相談会のポイント打ち合わせ
第 18 回	共同作業④（共同プレゼンの準備）	ポスター作業の取機をもとに、年末に発表する内容の準備を始める
第 19 回	共同作業⑤（共同プレゼンの準備）	前回の続き。
第 20 回	共同作業⑥（共同プレゼンの準備）	レジュメ完成
第 21 回	共同作業⑦（共同プレゼンの準備）	プレゼン予行練習
第 22 回	個人研究発表①（学年末論文作成の準備）	個別に合宿の成果を発表。1人 20 以内で1回 2～3人程度。第 1 グループ（例）伝統的な食文化と健康

発行日：2019/5/1

- 第24回 個人研究発表②（学年末論文作成の準備） 上記と同じ。第2グループ（例）「住」の景観と連帯感・共同規範
- 第25回 個人研究発表③（学年末論文作成の準備） 第3グループ（例）祭事・芸能と共同体の規範、絆
- 第26回 個人研究発表④（学年末論文作成の準備） 第4グループ（例）伝統を活かすツーリズムと、破壊する観光開発（リゾート問題）
- 第27回 2年生共同発表 3・4年生も参加、聴講
- 第28回 個別論文指導 グループワークを行う中で、一人一人を呼んで教員がアドバイス

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各自、合宿の準備にあたる予備知識や現地情報の収集（主に春学期）。授業内（教室）以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

#### 【参考書】

授業のなかで紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

発表内容および学年末論文 65 %、参加姿勢やゼミという組織の中での協調性・貢献度等 35 %。

#### 【学生の意見等からの気づき】

- ・好評の「教員と学生個々との近さ、親しみやすさ」という特色を今後も活かしていきます。
- ・「好きこそものの上手なれ」の信条に沿って、各自の趣味嗜好・資質に合った研究テーマを設定できることは、自律的な自己管理の意思が必要なものの、モチベーションを良好に持続できれば、多様性ゆたかな研究成果を共有できる面白さと刺激があるという声が、定評としてあります。
- ・学部のフィールドスタディほどの質は伴わないにせよ、自主的にヒアリングを必ず含む現地調査を企画し実行する経験は、コミュニケーション力の向上につながっているようです。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

#### 【その他の重要事項】

- ・「環境表象論Ⅱ」を履修の人は、今年度中に受講してください。
- ・この金曜4限研究会は2・3年の新規参加者が履修登録対象になります。

#### 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

Theme: "Cultural landscape" of the sea and remote islands and ecotourism

Based on the concept of "cultural landscape", the possibility of ecological region formation and human formation making full use of the isolated natural and cultural assets of remote islands and beaches, Japanese ecotourism, tourism culture, eco-museum etc. perspective While linking, we conduct case studies taking advantage of surveys and experiences at "Okinawa island seminar camp" (Yaeyama Islands) where we plan and implement during the summer vacation.

OTR400HA

## 研究会 A

金藤 正直

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 5/Fri.5

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、文献調査、現地調査（フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査）、そして、社会実験やフィージビリティスタディを通じて、「地域の持続的成長のためのビジネスデザイン」の方法について学習していくことを目的とする。

#### 【到達目標】

本研究会では、地域で実施されている農林漁業者、企業、自治体、公的機関、大学などの連携事業の現状と問題、また、その問題への解決策を、研究チームで自由に、論理的に考えながら明らかにしつつ、その結果をわかりやすく、丁寧に説明していく能力を習得することを目標としています。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

- ①今年度は、昨年度までの研究・調査テーマをもとに設定された研究グループ（RG）「組織連携・クラスター RG、CSV 事業 RG、再生可能エネルギー・廃棄物 RG、ローカルビジネス RG、ヘルスケア産業 RG」の中の1チームに所属し、研究・調査をしてもらいます。その後、（前年度のレポートなどを用いて）研究計画書を作成し、報告してもらいます。
- ②研究・調査では、①の研究計画書をもとに、著書、論文、調査報告書などの諸文献を多面的に、また丁寧に整理し、その結果をもとに研究対象となる地域または事業の現状やいくつかの問題を明らかにしてもらいます。
- ③文献の考察とともに、質的調査（アンケート調査およびヒアリング調査など）または量的調査を通じて、②で明らかにされた諸問題への解決策が、研究対象となる地域の持続的成長に本当に繋がるかどうかを検討してもらいます。
- ④各チームメンバーのさらなるレベルアップのために、大学院生（主に社会人）やその他関係者へのプレゼンテーション、①のテーマに関する機関が主催するイベント（研究会など）への参加、調査先や大学間（学部間）での勉強会・報告会、合宿（特別ゼミ）などを開催します。
- ⑤①～④の成果については、適宜報告（中間報告や最終報告）をするとともに、これをもとにした研究・調査レポートまたは研究会修了論文を作成し、提出してもらいます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 研究・調査の目標設定	研究会の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。 また、チームを作り、その中で各自の1年間の目標を検討し、設定する。
第2回	研究・調査やその成果報告の方法（A）	文献を用いた研究とその成果報告に関する方法を説明する。
第3回	研究・調査のテーマと方法に関する報告	各チームが行う研究・調査のテーマと方法について報告し、決定する。
第4回	研究・調査の方向性とその内容に関する検討	各チームで1年間の研究・調査の方向性とその内容を検討する。
第5回	研究・調査報告①	各チームで研究・調査のテーマに関連する文献を整理し、その内容を報告する。
第6回	研究・調査報告②	各チームで研究・調査のテーマに関連する文献を整理し、その内容を報告する。
第7回	研究・調査報告③	各チームで研究・調査のテーマに関連する文献を整理し、その内容を報告する。
第8回	研究・調査報告④	各チームで研究・調査のテーマに関連する文献を整理し、その内容を報告する。
第9回	研究・調査報告⑤	各チームで研究・調査のテーマに関連する文献を整理し、その内容を報告する。
第10回	研究・調査報告⑥	各チームで研究・調査のテーマに関連する文献を整理し、その内容を報告する。
第11回	研究・調査報告⑦	各チームで研究・調査のテーマに関連する文献を整理し、その内容を報告する。
第12回	研究・調査報告⑧	各チームで研究・調査のテーマに関連する文献を整理し、その内容を報告する。

第 13 回	研究・調査やその成果報告の方法 (B)	アンケート調査およびヒアリング調査とその結果報告に関する方法について説明する。
第 14 回	研究・調査計画書の作成方法	これまでの研究・調査の成果を整理する計画書の作成方法について説明する。
第 15 回	研究・調査計画書の報告 (中間報告) (A)	春学期中に取り組んだ研究・調査や作成した計画書に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。
第 16 回	研究・調査計画書の報告 (中間報告) (B)	春学期中に取り組んだ研究・調査や作成した計画書に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。
第 17 回	研究・調査に関する映像資料の視聴	研究・調査に関連する映像資料を視聴するとともに、その内容を各チームで議論する。
第 18 回	製品・商品の生産・販売店の調査	研究・調査に関連するアンテナショップや施設などに行き、そこでの取組内容について調査する。
第 19 回	研究・調査報告⑨	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 20 回	研究・調査報告⑩	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 21 回	研究・調査報告⑪	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 22 回	研究・調査報告⑫	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 23 回	研究・調査報告⑬	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 24 回	研究・調査報告⑭	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 25 回	研究・調査報告⑮	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 26 回	研究・調査報告⑯	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 27 回	ゲストスピーカーによる講義	ゲストスピーカー（行政、事業者、市民・NPO、学識経験者等）の講義とその内容に関する討論を行う。
第 28 回	総括－最終報告－	今年度取り組んだ研究・調査や春学期に作成した計画書（レポートあるいは小論文）に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。

#### 【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to learn the method of business design for sustainable growth of the region based on literature survey, field survey, and feasibility study.

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
本研究会では、諸文献の分析や実践的な取組みを通して、研究・調査テーマの決定、研究・調査の目的・視点・方法、研究・調査に関する先進地域や研究対象地域の選定・検討方法などを学習し、今後社会で活躍するための能力を身に付けていきますので、大変なこともあるかもしれませんが、楽しく前向きに、また、計画的に実施してください。

#### 【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告はパワーポイントを利用しますので、各チームはレジュメの作成と配布をお願いします。

#### 【参考書】

チームあるいはそのメンバーの研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。

- ① 討論への参加（発言内容）（20%）
- ② 報告用配布レジュメの内容（20%）
- ③ 報告内容（プレゼンテーション能力）（30%）
- ④ 研究・調査レポート、研究会修了論文（30%）

#### 【学生の意見等からの気づき】

毎年、ゼミ生の意見や要望などを考慮に入れ、講義内容を改善しています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用しますので、毎回準備をお願いします。

#### 【その他の重要事項】

本研究会は、個人による研究・調査だけでなく、数名のメンバーから構成されるチームでの研究・調査が中心となります。また、調査先の方々、学部外の学生や教員と一緒に勉強会や報告会などのイベントも開催します。そのため、物事を自分で考え、また、積極的かつ意欲的に取り組むことができる能力だけでなく、人と人とのつながりや他人への気配りを大切にできる能力も身につけてください。

#### 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

OTR400HA

## 研究会 A

北川 徹哉

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 4/Tue.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エネルギーは社会にとって血液であり、ほぼ永遠に考え続けなければならない重要な課題である。本研究会においては、国内外のエネルギー政策や技術の過去・現在、エネルギーと人間とのかかわり、エネルギーの未来像について勉強してゆく。

## 【到達目標】

1. 我が国におけるエネルギー政策の重要性を説明できる。
2. エネルギーと環境負荷軽減、人の暮らしとの関係を説明できる。
3. 交通・運輸、居住空間などにおけるエネルギーの現状と課題について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

前半は、指定したテキストあるいは資料を用いて各自の担当部分を決めて輪講してゆく。各回の担当者は自分の担当部分の内容を理解して、その他の文献も参照しながら内容をまとめ、発表に臨む。後半には、春学期の輪講で得た知識をベースに個人あるいはグループごとにテーマを設定して課題に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	テキスト・資料の内容	輪読するテキスト・資料の内容と社会・エネルギーとの関連性、輪読担当部分の取り決め
第 2 回	担当部分の発表・質疑応答	1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 3 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 4 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 5 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 6 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 7 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 8 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 9 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 10 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 11 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 12 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	11 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 13 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	12 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 14 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	13 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 15 回	調査テーマの選定	調査グループの決定、前半の輪読をヒントに調査テーマを考案、構想発表の準備
第 16 回	調査テーマの構想発表・討論（その 1）	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論（第 1 回）
第 17 回	調査テーマの構想発表・討論（その 2）	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論（第 2 回）
第 18 回	調査と分析（その 1）	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 19 回	調査と分析（その 2）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備
第 20 回	調査と分析（その 3）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備
第 21 回	中間発表・討論（その 1）	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論（第 1 回）
第 22 回	中間発表・討論（その 2）	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論（第 2 回）

第 23 回	調査と分析（その 4）	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 24 回	調査と分析（その 5）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 25 回	調査概要書の作成について	調査概要書のフォーマットと注意事項の説明
第 26 回	調査概要書の執筆	各自あるいは各グループによるデータのとりまとめ、調査概要書の執筆
第 27 回	調査概要書の執筆・最終発表の準備	各自あるいは各グループによるデータのとりまとめ、調査概要書の執筆、最終発表の準備
第 28 回	調査概要書の提出・最終発表	各自あるいは各グループより調査概要書の提出、最終発表

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
第 1～14 回：輪読箇所の精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習

第 15 回：エネルギーと社会に関する時事問題・課題の抽出  
第 16～17、21～22 回：発表用スライドなどの作成、発表の練習  
第 18～20、23～24 回：各種文献・レポート・インタビューなどによる調査と分析

第 25～27 回：調査概要書の執筆・データ整理  
第 27～28 回：発表用スライドなどの作成、発表の練習、調査概要書のリバイズ

## 【テキスト（教科書）】

授業時に指定する。

## 【参考書】

適宜、紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

レポート（調査概要書）（30%：論述の適切さ、到達目標 1～3 への到達度）、発表（40%：スライドなどの良好度、説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標 1～3 への到達度）、議論（30%：説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標 1～3 への到達度）により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

おおむね好評でした。

## 【その他の重要事項】

楽しく、じっくりと勉強します。また、知識を脳裏に固定化するには質問するのが一番です。わからないことは遠慮せずに質問し、スッキリさせてゆきましょう。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This class is a seminar for learning about the policies of energy and resources.

OTR400HA

## 研究会 A

## 國則 守生

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 3/Tue.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の考え方や手法への理解および批判的検討を通じて、現実の環境問題への適用を考える。環境へのその他のアプローチとの比較なども行う。

## 【到達目標】

地球環境問題などの環境問題に対して、どのように対処してゆけばよいのかについて、主として環境経済学の観点から、発表、議論、批判的検討などを行い、各人がその発表力および応用力を身につけることを目標とする。その際、学生間での協働を活発に行い、お互いが向上することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

研究会は演習形式で行う。研究会では、問題意識をもって、環境経済学等のテキスト、記事等の輪読を中心に、ディスカッションを行う。サブゼミ、ゼミ合宿なども実施し、総合力の獲得を目指す。4年生は研究会修了論文作成のための経過報告なども実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方について討議
第2回	課題発表	指定された課題図書講読後の発表
第3回	文献講読(1)	報告および討論
第4回	文献講読(2)	報告および討論
第5回	文献講読(3)	報告および討論
第6回	文献講読(4)	報告および討論
第7回	文献講読(5)	報告および討論
第8回	文献講読(6)	報告および討論
第9回	文献講読(7)	報告および討論
第10回	文献講読(8)	報告および討論
第11回	文献講読(9)	報告および討論
第12回	文献講読(10)	報告および討論
第13回	文献講読(11)	報告および討論
第14回	春学期総括	春学期学習のまとめ
第15回	研究会修了論文中間発表	発表会への参加と発表・討議
第16回	課題発表	指定された課題図書講読後の発表
第17回	文献講読(12)	報告および討論
第18回	文献講読(13)	報告および討論
第19回	文献講読(14)	報告および討論
第20回	文献講読(15)	報告および討論
第21回	文献講読(16)	報告および討論
第22回	文献講読(17)	報告および討論
第23回	文献講読(18)	報告および討論
第24回	文献講読(19)	報告および討論
第25回	文献講読(20)	報告および討論
第26回	文献講読(21)	報告および討論
第27回	研究会修了論文発表	発表会への参加と発表・討議
第28回	秋学期総括	秋学期学習のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

以下の各項目を必ず、実施する。

- 1) 演習ノートを用意し、毎週、決められた範囲の課題の予習・復習を行う。
- 2) サブゼミに出席する。
- 3) ゼミ合宿に参加する。
- 4) 各種課題を提出する。
- 5) 4年生は、研究会修了論文執筆を基本とする。

## 【テキスト（教科書）】

環境経済学のテキスト（授業時に指示する）。

## 【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（80%）および各人のテーマの取組姿勢と提出されたレポート等執筆（20%）によって総合評価する。無断で研究会を欠席することは厳禁とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

不明な点などを明らかにし、議論のなかで解明を目指したい。研究会修了論文執筆に関し、参考となる事項も研究会のなかで適宜紹介したい。サブゼミでの作業内容と連携を強化したい。

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、グローバル・サステイナビリティコース

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

The seminar provides the students with the ability to understand the intricate relationship between the market and the environment. They will also learn various kinds of tools and methods to correct the market failure concerning the environment in an active learning setting.

OTR400HA

## 研究会 A

小島 聡

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 3/Fri.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会のテーマは「持続可能な地域社会の創造」である。特に、環境、経済、社会、文化、公共政策など、多様な視点から、21 世紀における地域社会のソーシャルイノベーションについて総合的にアプローチする。また、市民、NPO、地方自治体、企業などの参加と協働に注目する。

さらに、「持続可能な地域社会」について学内で学びながら、高度な「アクティブラーニング」としての地域活動に取り組む。このような挑戦を通して、大学生としての総合的な能力を構築することをめざす。

## 【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・研究会の共通テーマ、学生の個人テーマに関する知識を獲得する。
- ・時事問題に関する知識を獲得し、現代社会を理解するための知見を涵養する。
- ・問題発見及び分析能力、対応策の立案能力を涵養する。
- ・地域実践に関する企画運営能力を身につける。
- ・研究会内及び学外における他者との協働力を身につける。
- ・文章力を涵養する。
- ・プレゼンテーションや討論をはじめとするコミュニケーション能力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

研究会の共通テーマでは、認識を共有するためのテキストを輪読するとともに、高度なアクティブ・ラーニングである PBL（問題発見・解決型学習）として、特定地域との連携による実践・交流を行いながら、調査研究を実施し政策提言を含む報告書にまとめる。さらに基礎的な能力構築のために、ワークショップ技法の習得、書評の執筆、時事問題に関する討論などを日常の研究に組み込む。さらに、学生の個人研究では、各人が地域社会に関する任意のテーマを設定してゼミ研究論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会のミッションと運営方針、テーマ、1 年間のスケジュールなどを確認する。
第 2 回	前年度の共通テーマの成果に関する報告と共有	前年度の共通テーマの成果について報告した上で、質疑応答により共有する。
第 3 回	本年度の共通テーマの確認	本年度の共通テーマについて、背景と目的、想定される調査研究課題などを確認する。
第 4 回	文献講読（1）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 5 回	文献講読（2）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 6 回	文献講読（3）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 7 回	文献講読（4）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 8 回	文献講読（5）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 9 回	文献講読（6）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 10 回	文献の総括と秋学期の方向性の検討	文献全体を総括しながら、共通テーマに関する知見を整理し、秋学期の調査研究課題への視点を共有する。
第 11 回	個人テーマの報告（1）	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 12 回	個人テーマの報告（2）	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 13 回	個人テーマの報告（3）	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 14 回	地域連携プロジェクトの確認	夏期に実施する地域連携プロジェクトの目的と内容を確認する。
第 15 回	地域連携プロジェクトの検証	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて検証し、秋学期の共通テーマに反映する知見を共有する。

第 16 回	共通テーマの確認	秋学期に調査研究を行う共通テーマについて確認する。
第 17 回	共通テーマの調査研究（1）	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第 18 回	共通テーマの調査研究（2）	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第 19 回	共通テーマの調査研究（3）	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第 20 回	共通テーマの調査研究（4）	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第 21 回	共通テーマの中間報告	共通テーマに関する調査研究の進捗状況と知見について全体で確認し、本年度の最終成果に向けて調整を行う。
第 22 回	共通テーマの調査研究（5）	担当グループごとの報告と質疑応答、議論を行う。
第 23 回	共通テーマの調査研究（6）	担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第 24 回	共通テーマの最終報告と総括	共通テーマについて各グループが最終報告を行った上で、提言報告書の作成に向けて、全体を総括しながら、本年度の成果を全員で共有する。
第 25 回	個人テーマの報告（1）	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 26 回	個人テーマの報告（2）	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 27 回	個人テーマの報告（3）	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 28 回	1 年間のふりかえり	年度当初に掲げた研究会のミッションの実現について検証する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。学生は以下の時間外学習を行う。

- ・文献の事前学習、時事問題の情報収集、書評の作成。
- ・共通テーマに関する事前のグループワーク。
- ・個人テーマに関する論文執筆のための調査研究。

## 【テキスト（教科書）】

開講時の約 1 ヶ月前までに決定し連絡する。

## 【参考書】

適宜、研究会において紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %）、個人テーマへの取り組み姿勢とゼミ論文の執筆（30 %）による総合評価とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

特定地域に関する PBL（問題発見・解決型学習）を進めることについて、答えのない問題に取り組むこと、さらにチームとしての協働は能力構築にとって意義があると感じています。

## 【その他の重要事項】

この研究会は、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）の学生を対象としています。したがって、履修にあたり、上記のコースコア科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマに関連するコース共通科目及びコース連環科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を達成することが望ましいと考えています。このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的成長につながる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じますから、積極的に助言をもとめてください。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

The theme of this seminar is "the creation of sustainable community." In particular, we approach synthetically about the social innovation of community in the 21st century from various viewpoints, such as environment, economy, society, culture, and public policy. Moreover, we take notice of participation and collaboration of citizen, NPO, local government, company, etc. Furthermore, we tackle the local activity as advanced "active learning", learning about "sustainable community" within the campus. The participants in this class aim at building the synthetic capability as a university student through such a challenge.

OTR400HA

## 研究会 A

小島 聡

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 5/Fri.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会のテーマは、「持続可能な地域社会の創造」である。特に、21 世紀における地域社会のソーシャル・イノベーションに関する学びを基盤として、様々な地域活動を企画し実践する。また学生は、卒業論文を完成させるための調査研究を行う。この研究会の目的は、社会人として必要な能力の基礎を身につけながら、将来のキャリアイメージを模索することである。

## 【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・共通テーマ、個人テーマに関する知識を獲得する。
- ・論文作成能力を身につける。
- ・問題発見及び分析能力、対応策の立案能力を涵養する。
- ・研究会内及び学外における他者との協働力を身につける。
- ・プレゼンテーションや討論をはじめとするコミュニケーション能力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

研究会の共通テーマでは、認識を共有するためのテキストを輪読するとともに、高度なアクティブ・ラーニングである PBL（問題発見・解決型学習）として、特定地域との連携による実践・交流に参画する。さらに、研究会修了論文については各人がそれぞれのテーマに取り組み、成果については公開のプレゼンテーションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会の運営方針、テーマ、1 年間のスケジュールなどを確認する。
第 2 回	前年度の共通テーマの成果に関する確認	前年度の共通テーマの成果について確認する。
第 3 回	本年度の共通テーマに関する検討	本年度の共通テーマについて、調査研究の内容、地域連携プロジェクトとの関連性などを検討する。
第 4 回	文献講読（1）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 5 回	文献講読（2）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 6 回	地域連携プロジェクトの企画（1）	夏期に実施する地域連携プロジェクトのイメージと素案について検討する。
第 7 回	文献講読（3）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 8 回	文献講読（4）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 9 回	地域連携プロジェクトの企画（2）	夏期に実施する地域連携プロジェクトの基本設計について検討する。
第 10 回	文献の総括	文献の内容を総括し、共通テーマに関する知見を共有する。
第 11 回	地域連携プロジェクトの企画（3）	夏期に実施する地域連携プロジェクトの実施設計について検討する。
第 12 回	個人テーマの報告（1）	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究計画と進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 13 回	個人テーマの報告（2）	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究計画と進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 14 回	地域連携プロジェクトの企画（3）	夏期に実施する地域連携プロジェクトの企画内容を調整する。
第 15 回	秋学期の方向性の確認	秋学期の共通テーマの方向性を確認する。
第 16 回	地域連携プロジェクトの検証（1）	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて、成果と知見、課題などについて検証し、今後を展望する。
第 17 回	地域連携プロジェクトの検証（2）	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて、成果と知見、課題などについて検証し、今後を展望する。
第 18 回	ソーシャルイノベーション・ミニ F S（1）	地域におけるソーシャルイノベーションの現場へのフィールドスタディを実施する。
第 19 回	地域連携プロジェクトをふまえた提言作成（1）	夏期に実施した地域連携プロジェクトをふまえた提言の作成に着手する。

第 20 回	地域連携プロジェクトをふまえた提言作成（2）	夏期に実施した地域連携プロジェクトをふまえた提言の作成作業を行う。
第 21 回	ソーシャルイノベーション・ミニ F S（2）	地域におけるソーシャルイノベーションの現場へのフィールドスタディを実施する。
第 22 回	地域連携プロジェクトの提言作成（3）	夏期に実施した地域連携プロジェクトをふまえた提言案を確認し内容を調整する。
第 23 回	ソーシャルイノベーション・ミニ F S の総括	地域におけるソーシャルイノベーションの現場へのフィールドスタディを検証し知見を確認する。
第 24 回	ソーシャルイノベーションとキャリア形成	夏期に実施した地域連携プロジェクトや地域におけるソーシャルイノベーション・ミニ F S をふまえて、自らのキャリア形成について議論する。
第 25 回	個人テーマの報告（1）	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 26 回	個人テーマの報告（2）	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 27 回	個人テーマの報告（3）	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 28 回	研究会のふりかえり	年度当初に掲げた研究会のミッションの実現と各人の「社会人基礎力」の涵養についてふりかえる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

学生は以下の時間外学習を行う。

- ・文献の事前学習。
- ・地域連携プロジェクトの企画。
- ・研究会修了論文執筆のための調査研究。

## 【テキスト（教科書）】

- ・開講時の約 1 ヶ月前までに決定し連絡する。

## 【参考書】

適宜、研究会において紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %）、研究会修了論文に関する個人テーマへの取り組み姿勢（30 %）による総合評価とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

PBL（問題発見・解決型学習）として、地域で実践し、その成果に関する報告書作成などに取り組むことは、かなりの負担ですが、チームとして協働しながら、かつ学外の組織や人々と連携することで、責任について体感し、研究会を通して、いわゆる「社会人基礎力」を育てていると感じています。

## 【その他の重要事項】

この研究会は、ローカル・サステナビリティコース（旧・地域環境共生コース）に登録した学生を対象としています。

したがって、履修にあたり、上記のコースコア科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連するコース共通科目及びコース連環科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を達成することが望ましいと考えています。このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的成長につながる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じますから、積極的に助言をもとめてください。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

The theme of this seminar is "creation of sustainable community." In particular, we plan and practice the local activity based on learning about the social innovation of community in the 21st century. Moreover, students perform surveillance study for completing graduation thesis. The purpose of this seminar is to grope for a future career image, while students learn the basic capability required as a member of society.

OTR400HA

## 研究会 A

児玉 ゆう子、宮川 路子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 3/Mon.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を健康に生きていくために

ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 1998 年から 14 年連続で 3 万人を超えていた。現在は減少傾向にあるものの、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数は非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりながら増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。学生が将来社会に出て、働きながら健康を維持し、健康寿命を延長して長寿をめざすための知識を得ることを目的としている。さらに、コミュニケーション能力、発言力、ディスカッション能力を高めることにより、職場における最大のストレス要因である人間関係を円滑に保つことができる能力を取得する。

## 【到達目標】

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解を深めることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）、グループディスカッションを通じて、議事進行、意見のまとめと発表、発言力、コミュニケーション力を身につけることが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標としている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（1）	研究発表とディスカッション
第 4 回	同上（2）	同上（2）
第 5 回	同上（3）	同上（3）
第 6 回	同上（4）	同上（4）
第 7 回	同上（5）	同上（5）
第 8 回	同上（6）	同上（6）
第 9 回	同上（7）	同上（7）
第 10 回	同上（8）	同上（8）
第 11 回	同上（9）	同上（9）
第 12 回	同上（10）	同上（10）
第 13 回	同上（11）	同上（11）
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第 15 回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第 16 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（12）	研究発表とディスカッション（12）
第 17 回	同上（13）	同上（13）
第 18 回	同上（14）	同上（14）
第 19 回	同上（15）	同上（15）
第 20 回	同上（16）	同上（16）
第 21 回	同上（17）	同上（17）
第 22 回	同上（18）	同上（18）
第 23 回	同上（19）	同上（19）
第 24 回	同上（20）	同上（20）
第 25 回	同上（21）	同上（21）
第 26 回	同上（22）	同上（22）
第 27 回	同上（23）	同上（23）
第 28 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用し必ず予習・復習をすること。日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書を読むこと。

## 【テキスト（教科書）】

開講時に指定します

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容などの評価（50%）、通常の参加態度（50%）による総合評価を行います。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていきます。

## 【その他の重要事項】

2 年生からの参加が基本であり、学生は選んだテーマについて毎回掘り下げて調査、研究を行い、最終的に卒業論文を作成します。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

In a stressful contemporary society, many people live with psychiatric disorders. Stress in working environments such as diversification of labor form, overwork and work-life balance issues are increasing. In addition, many people are suffering from lifestyle diseases due to irregular living. There are various barriers for us to live healthily both physically and mentally. Also, in medical care, it is required to perform self-health management by appropriately selecting information to be flooded. This lecture aims at maintaining good health and acquiring knowledge to extend healthy life. Currently, the biggest stress factor in the workplace is human relations. By improving communication skills, speech skills, and discussion skills, students can acquire the ability to maintain good human relations in workplaces.

OTR400HA

## 研究会 A

児玉 ゆう子、宮川 路子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 4/Mon.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を健康に生きていくために

ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 1998 年から 14 年連続で 3 万人を超えていた。現在は減少傾向にあるものの、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数は非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりながら増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。学生が将来社会に出て、働きながら健康を維持し、健康寿命を延長して長寿をめざすための知識を得ることを目的としている。さらに、コミュニケーション能力、発言力、ディスカッション能力を高めることにより、職場における最大のストレス要因である人間関係を円滑に保つことができる能力を取得する。

## 【到達目標】

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解を深めることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）、グループディスカッションを通じて、議事進行、意見のまとめと発表、発言力、コミュニケーション力を身につけることが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標としている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（1）	研究発表とディスカッション
第 4 回	同上（2）	同上（2）
第 5 回	同上（3）	同上（3）
第 6 回	同上（4）	同上（4）
第 7 回	同上（5）	同上（5）
第 8 回	同上（6）	同上（6）
第 9 回	同上（7）	同上（7）
第 10 回	同上（8）	同上（8）
第 11 回	同上（9）	同上（9）
第 12 回	同上（10）	同上（10）
第 13 回	同上（11）	同上（11）
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第 15 回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第 16 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（12）	研究発表とディスカッション（12）
第 17 回	同上（13）	同上（13）
第 18 回	同上（14）	同上（14）
第 19 回	同上（15）	同上（15）
第 20 回	同上（16）	同上（16）
第 21 回	同上（17）	同上（17）
第 22 回	同上（18）	同上（18）
第 23 回	同上（19）	同上（19）
第 24 回	同上（20）	同上（20）
第 25 回	同上（21）	同上（21）
第 26 回	同上（22）	同上（22）
第 27 回	同上（23）	同上（23）
第 28 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書を読むこと。

## 【テキスト（教科書）】

開講時に指定します

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容などの評価（50%）、通常の参加態度（50%）による総合評価を行います。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていきます。

## 【その他の重要事項】

2 年生からの参加が基本であり、学生は選んだテーマについて毎回掘り下げて調査、研究を行い、最終的に卒業論文を作成します。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

In a stressful contemporary society, many people live with psychiatric disorders. Stress in working environments such as diversification of labor form, overwork and work-life balance issues are increasing. In addition, many people are suffering from lifestyle diseases due to irregular living. There are various barriers for us to live healthily both physically and mentally. Also, in medical care, it is required to perform self-health management by appropriately selecting information to be flooded. This lecture aims at maintaining good health and acquiring knowledge to extend healthy life. Currently, the biggest stress factor in the workplace is human relations. By improving communication skills, speech skills, and discussion skills, students can acquire the ability to maintain good human relations in workplaces.

OTR400HA

## 研究会 A

杉戸 信彦

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然界は時として災害をもたらします。その姿は、われわれの理解と考え方で大きく変わってきます。本研究会では、自然環境（主に地形環境や地震発生環境）と土地条件、土地の歴史などについて、自然災害という側面を重視しながら主に自然地理学的な観点から考え、人間社会のあり方を見つめなおします。

### 【到達目標】

自然環境の地域的差異とその要因、歴史の変遷を説明できる。  
自然と人間のかかわりあい、とくに自然環境が人間社会に与える影響を具体的に記述できる。  
調査法や発表法を身につける。  
地図を活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

座学に加え、課題演習や野外実習、グループワーク、個人研究を行います。個人研究は、各自テーマや地域を設定して取り組みます。キーワードは、自然環境、自然災害、地形環境、地震、津波、豪雨、火山噴火、気候変動、予測、土地条件、土地利用、ハザードマップ、災害の歴史、土地の歴史、インフラ、防災教育、地域性、メカニズム、歴史の変遷などです。学生の皆さんの主体的な興味関心と情熱がベースになります。はじめは漠然としていても構いませんが、積極的に学び、意義深いテーマや重要な地域を見出すよう期待します。災害の多い日本列島で生きるうえで妥当な自然観とはどのようなものかについても考えていきたいと思っています。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	趣旨説明、文献検索法説明、論文作成・発表法説明
第 2 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 3 回	文献講読	意見交換
第 4 回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第 5 回	課題演習	机上作業
第 6 回	野外実習	フィールド巡検
第 7 回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第 8 回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第 9 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 10 回	グループワーク	意見交換
第 11 回	グループワーク	発表、質疑応答・討論
第 12 回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第 13 回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第 14 回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第 15 回	個人研究準備	テーマの設定
第 16 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 17 回	文献講読	意見交換
第 18 回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第 19 回	課題演習	机上作業
第 20 回	野外実習	フィールド巡検
第 21 回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第 22 回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第 23 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 24 回	グループワーク	意見交換
第 25 回	グループワーク	発表、質疑応答・討論
第 26 回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第 27 回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第 28 回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
資料の収集・分析や事前調査、発表準備、発表後の整理、追加調査、とりまとめ等を行うこと。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員から配布ほか

### 【参考書】

授業中に紹介

### 【成績評価の方法と基準】

平常点やレポート等の総合評価（100%）。基準は研究会における取り組みの状況や到達目標の達成度等です。

### 【学生の意見等からの気づき】

知識や応用力、思考力に加え、基礎力やスキルをより涵養すべく、詳しく具体的な説明や効果的な進め方を心がけます。

### 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

### 【Outline and objectives】

Natural phenomena that cause disasters will also occur in the future. However, disaster risk can be minimized by our science, technology, and social activities for disaster prevention. We examine natural environments in the Japanese islands (geomorphic environment, seismogenic environment, and so on), land conditions, and land histories at each site with emphasis on natural disasters, based on physical-geographic approaches, in order to improve our social resilience.

OTR400HA

## 研究会 A

## ストックウェル・エスター

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 4/Mon.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

\* Mass Media Research \*

The media are everywhere in our industrialized world today. One of the important roles of the media is to extend our knowledge of the environment beyond places and events that we can experience directly. The media can determine our perceptions about the facts, norms, and values of society through selective presentation and by emphasizing certain themes. The media can affect audience conceptions of social reality and also help the audience to form their attitudes toward an issue, a thing or a nation. These concepts will be discussed in this subject.

## 【到達目標】

This course gives an introduction to current theoretical and practical debates regarding the role of the mass media in today's society. Some of the topics covered include media businesses, the dual role of the media as information source and entertainment, research into short-term and long-term effects of the media, media audiences, and mass communication models. During the course, students will learn how to question the degree to which the media influence us versus how we use the media to fit our preconceived ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class. In the first semester, students will mainly learn theory and an overview of the different aspects in mass communication. In the second semester, students will do their own research project regarding mass media effects.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of Mass Media Research
第 2 回	Mass Media & Society	Mass communication vs. mass media / Mass media industries
第 3 回	Mass Media & Society	The changing technologies / The new media environment
第 4 回	Theories of Mass Media Studies	General theories of mass media / The role of theories
第 5 回	Theories of Mass Media Studies	The goals of mass media theory / Development of mass media effects theories
第 6 回	Theories of Mass Media Effects	General trends in effects theories / The Bullet Theory / The Limited-Effects Model
第 7 回	Theories of Mass Media Effects	Moderate effects theories / The Powerful Effects Model / Specific theories of mass media effects
第 8 回	Agenda Setting	The Chapel Hill study / The media agenda and reality / Applications of agenda setting
第 9 回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity
第 10 回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity
第 11 回	Persuasion in Mass Media	Persuasive effects of the media
第 12 回	Media Stereotypes & Bias	Effects of media stereotypes / Newspaper and foreign affairs / Sex role stereotypes / Racial stereotypes

第 13 回	Children Behavior & Mass Media	The presence of violent content / The causal link between viewing violence and behaving aggressively
第 14 回	Class Presentations and Feedback	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations
第 15 回	Mass Media Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 16 回	Mass Media Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 17 回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing
第 18 回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing
第 19 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 20 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 21 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 22 回	Method	Data Collection / Entry data
第 23 回	Method	Data Collection / Entry data
第 24 回	Method	Data Collection / Entry data
第 25 回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data
第 26 回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data
第 27 回	Interpretation of Results	Understand the meaning of the results from the data
第 28 回	Class Presentations and Feedback	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations. In addition, students will take part in class discussions about each presentation topic

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after class for review purposes in the first semester. For the second semester, they will need to write a weekly learning journal to keep a record of their research progress.

## 【テキスト（教科書）】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

## 【参考書】

David R. Croteau and William D. Hoynes (2013). *Media/Society: Industries, Images, and Audiences*. SAGE Publications.

John V. Pavlik and Shawn McIntosh (2014). *Converging Media: A New Introduction to Mass Communication* (4th Edition). Oxford University Press.

Shirley, Biagi (2014). *Media/Impact: An Introduction to Mass Media*. Wadsworth: Thomson.

## 【成績評価の方法と基準】

1st Semester: In-class participation (20%), a presentation (10%), a take-home exam (10%) and a written assignment (10%). 2nd Semester: Assessment will consist of 10 weekly learning journals (10%), a summary of literatures (10%), a group presentation (10%) and a group research paper (20%)

## 【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

## 【その他の重要事項】

This class is open to students who have taken グローバル コミュニケーション or 'Stockwell's'ゼミ B (Human Communication) before.

## 【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース、人間文化コース

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

\* Mass Media Research \*

The media are everywhere in our industrialized world today. One of the important roles of the media is to extend our knowledge of the environment beyond places and events that we can experience directly. The media can determine our perceptions about the facts, norms, and values of society through selective presentation and by emphasizing certain themes. The media can affect audience conceptions of social reality and also help the audience to form their attitudes toward an issue, a thing or a nation. These concepts will be discussed in this subject.

OTR400HA

## 研究会 A

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 3/Fri.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然のもつ奥深い魅力を実感するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題を解決し、望ましい在り方を探求することをテーマとします。その際、地域社会や経済活動との関わりなどの視点を中心に、加えて国際的視点や海外事例、他の環境問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識を上積みする基盤を作り、その上に各自の問題意識を組み立て、修了論文を目指します。

## 【到達目標】

以下の4点を身に付けることを目標とします。

- ①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（プレゼンテーション/レポート能力）
- ③他者との議論を通して、異なる視点の意見を受け入れ合意を形成する能力（コミュニケーション能力）
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（論理的思考）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。

- ①グループワークとおして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます
- ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
- ③野外学習/ゼミ合宿とサブゼミ学習を通じて、市民活動/企業とのコラボやフィールドに学び、企画力・実践力・分析力を養います（※サブゼミ学習のテーマ例：都市緑地・水辺・野鳥・東京湾・里山と都市農業・生き物文化など）
- ④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の進め方
第2回	テーマ1：グループ研究	事前学習
第3回	テーマ1：グループ研究	グループ討議
第4回	テーマ1：グループ研究	グループ討議と中間発表
第5回	テーマ1：グループ研究	グループ討議
第6回	テーマ1：グループ研究	グループ討議とまとめ
第7回	テーマ1：グループ研究	発表と総括講義
第8回	テーマ2：グループ研究	事前学習
第9回	テーマ2：グループ研究	グループ討議
第10回	テーマ2：グループ研究	グループ討議と中間発表
第11回	テーマ2：グループ研究	グループ討議
第12回	テーマ2：グループ研究	グループ討議とまとめ
第13回	テーマ2：グループ研究	発表と総括講義
第14回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第15回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第16回	テーマ3：ディベート1	事前学習
第17回	テーマ3：ディベート2	グループ討議
第18回	テーマ3：ディベート3	ディベート第1回
第19回	テーマ3：ディベート4	グループ討議
第20回	テーマ3：ディベート5	ディベート第2回
第21回	テーマ3：ディベート6	発表とまとめ
第22回	テーマ4：個人・グループ研究1	事前学習

第 23 回	テーマ 4：個人・グループ	グループ内プレゼン ブ研究 2
第 24 回	テーマ 4：個人・グループ	グループ討議 ブ研究 3
第 25 回	テーマ 4：個人・グループ	グループ討議と中間発表 ブ研究 4
第 26 回	テーマ 4：個人・グループ	グループ討議 ブ研究 5
第 27 回	テーマ 4：個人・グループ	発表と総括講義 ブ研究 6
第 28 回	年間まとめ	総括講義と意見交換

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行ってまいります。また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加してまいります。

#### 【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

#### 【参考書】

講義において随時紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

#### 【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）と「自然環境論Ⅳ」（秋期）の履修を推奨します。

#### 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

#### 【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

#### 【Outline and objectives】

In this course, students will learn the richness and diversity of nature and ecosystem services, and will explore ways to solve various problems between the humans and nature mainly from local perspectives, based on the understanding of ecosystems and wildlife.

OTR400HA

## 研究会 A

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 4/Fri.4

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然のもつ奥深い魅力を実感するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題を解決し、望ましい在り方を探求することをテーマとします。その際、国際的な視点や海外事例を中心に、加えて地域社会や地域経済活動、他の環境問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識を上積みする基盤を作り、その上に各自の問題意識を組み立て、修了論文を目指します。

#### 【到達目標】

以下の 4 点を身に付けることを目標とします。

- ①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（プレゼンテーション/レポート能力）
- ③他者との議論を通して、異なる視点の意見を受け入れ合意を形成する能力（コミュニケーション能力）
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（論理的思考）

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。

- ①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます
- ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
- ③野外学習/ゼミ合宿とサブゼミ学習を通じて、市民活動/企業とのコラボやフィールドに学び、企画力・実践力・分析力を養います（※サブゼミ学習のテーマ例：都市緑地・水辺・野鳥・東京湾・里山と都市農業・生き物文化など）
- ④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	テーマ 1：グループ研究 1	事前学習
第 3 回	テーマ 1：グループ研究 2	グループ討議
第 4 回	テーマ 1：グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 5 回	テーマ 1：グループ研究 4	グループ討議
第 6 回	テーマ 1：グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 7 回	テーマ 1：グループ研究 6	発表と総括講義
第 8 回	テーマ 2：グループ研究 1	事前学習
第 9 回	テーマ 2：グループ研究 2	グループ討議
第 10 回	テーマ 2：グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 11 回	テーマ 2：グループ研究 4	グループ討議
第 12 回	テーマ 2：グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 13 回	テーマ 2：グループ研究 6	発表と総括講義
第 14 回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第 15 回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第 16 回	テーマ 3：ディベート 1	事前学習
第 17 回	テーマ 3：ディベート 2	グループ討議
第 18 回	テーマ 3：ディベート 3	ディベート第 1 回
第 19 回	テーマ 3：ディベート 4	グループ討議
第 20 回	テーマ 3：ディベート 5	ディベート第 2 回
第 21 回	テーマ 3：ディベート 6	発表とまとめ
第 22 回	テーマ 4：個人・グループ研究 1	事前学習

第 23 回	テーマ 4：個人・グループ	グループ内プレゼン ブ研究 2
第 24 回	テーマ 4：個人・グループ	グループ討議 ブ研究 3
第 25 回	テーマ 4：個人・グループ	グループ討議と中間発表 ブ研究 4
第 26 回	テーマ 4：個人・グループ	グループ討議 ブ研究 5
第 27 回	テーマ 4：個人・グループ	発表と総括講義 ブ研究 6
第 28 回	年間まとめ	総括講義と意見交換

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行ってもらいます。また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加してもらいます。

**【テキスト（教科書）】**

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

**【参考書】**

講義において随時紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（100%）：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、講義形式学習のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

**【その他の重要事項】**

「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）と「自然環境論Ⅳ」（秋期）の履修を推奨します。

**【関連の深いコース】**

グローバル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

**【実務経験のある教員による授業】**

公務員、独立行政法人、民間企業

**【Outline and objectives】**

In this course, students will learn the richness and diversity of nature and ecosystem services, and will explore ways to solve various problems between the humans and nature mainly from global perspectives, based on the understanding of ecosystems and wildlife.

OTR400HA

**研究会 A**

高橋 五月

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 4/Thu.4

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

Aゼミのテーマは「人と環境の文化人類学」です。文化人類学の文献購読を通してエスノグラフィという調査方法と記述方法について学びつつ、学生は各自でエスノグラフィを用いたフィールドワークを行い、関心がある問題テーマについて調査研究を行い、卒業論文を作成します。

**【到達目標】**

- 1) 人間と環境の関係について、先行研究を通して文化人類学的視点について理解を深める
- 2) エスノグラフィという文化人類学的調査の基本的な知識を得る
- 3) 現地調査を通して、エスノグラフィの実践的なスキルを得る
- 4) エスノグラフィックな視点と思考を磨き、普段「当たり前」として過ごされてしまう物事に埋め込まれている複雑な文化的側面に面白さを見出し、「問い」を組み立てるスキルを養う

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

ゼミ生の卒論研究テーマに関連する先行研究を講読と意見交換をしながら、エスノグラフィと文化人類学的理論についての理解を深める。また、学生は各自で卒論研究のフィールドワークを引き続き実行すると同時に、先行研究の講読と意見交換を参考にしながら卒論研究での理論的議論の発展に努める。また、ゼミでは各自の卒論研究の経過を報告し、他学生や教員からのコメントや質問を随時卒論執筆に反映させる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介とゼミの進め方、課題についての説明。文献購読の司会担当決め。
第 2 回	本年度の卒論研究計画の発表（1）	各自の卒論研究について、本年度の調査計画書を提出し、発表する
第 3 回	本年度の卒論研究計画の発表（2）	各自の卒論研究について、本年度の調査計画書を提出し、発表する
第 4 回	先行研究の講読（1）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 5 回	先行研究の講読（2）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 6 回	先行研究の講読（3）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 7 回	先行研究の講読（4）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 8 回	先行研究の講読（5）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 9 回	先行研究の講読（6）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 10 回	先行研究の講読（7）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 11 回	先行研究の講読（8）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 12 回	先行研究の講読（9）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 13 回	先行研究の講読（10）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 14 回	春学期のまとめ	期末課題の提出、発表。中間発表の順番決め。
第 15 回	卒論研究中間発表（1）	卒論研究の中間発表
第 16 回	卒論研究中間発表（2）	卒論研究の中間発表
第 17 回	卒論研究中間発表（3）	卒論研究の中間発表
第 18 回	卒論研究中間発表（4）	卒論研究の中間発表

第19回	先行研究の講読(11)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第20回	先行研究の講読(12)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第21回	先行研究の講読(13)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第22回	先行研究の講読(14)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第23回	先行研究の講読(15)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第24回	先行研究の講読(16)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第25回	先行研究の講読(17)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第26回	先行研究の講読(18)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第27回	卒論発表(1)	卒論提出予定者による研究成果発表
第28回	卒論発表(2)	卒論提出予定者による研究成果発表

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。指定された文献は必ず読み、感想文(300字程度)を授業支援システムにアップロードし、ゼミ当日は積極的に議論に参加すること。発表担当文献については、事前準備を十分にしておく。フィールドワークは各自で学期中及び夏季・冬季休暇中に行う。加えて、卒論研究に関連する先行文献は教員に相談しながら各自で収集し、読み進め、先行研究レビューを執筆する。

#### 【テキスト(教科書)】

小田博志『エスノグラフィー入門』春秋社(2010)

#### 【参考書】

随時授業内でお知らせします

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)、文献講読と発表(20%)、各自の研究関連発表と研究論文(50%)

#### 【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションも積極的に取り入れ、学生同士が意見交換できる場を大切にしたいと思います。

#### 【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース、人間文化コース

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

This is an advanced seminar course on cultural/environmental anthropology, in which all students are expected to actively engage in class discussions. In addition to reading existing ethnographic literature, each student designs and conducts own ethnographic research project in order to prepare for a senior thesis.

OTR400HA

## 研究会 A

武貞 稔彦

配当年次/単位：2~4年/4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 5/Fri.5

#### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

2019年度は、途上国の「貧困削減」のために実施される「途上国支援」のみならず、東北の東日本大震災の被災地に行われる「復興支援」など、複数の「支援」の場や関係を議論することを通じ、社会における「支援」の役割と位置づけ、ひいては「支援」を媒介にした人間関係のあり方について、受講者が深く考え行動できるようになることを目指します。

#### 【到達目標】

本研究会では、(ア)開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ)自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ)将来の持続可能な社会の姿を想像・構想できるようにすることを目標とします。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関するグループ調査とディスカッション、c) 参加者の意見表明の機会、からなります。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方(予定)について概説する。
第2回	基礎文献の輪読(1)	「支援」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第3回	基礎文献の輪読(2)	「支援」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第4回	基礎文献の輪読(3)	「支援」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第5回	基礎文献の輪読(4)	「支援」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第6回	基礎文献の輪読(5)	「支援」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第7回	基礎文献の輪読(6)	「支援」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第8回	グループディスカッション 課題1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第9回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第10回	グループディスカッション 課題2	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第11回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第12回	グループディスカッション 課題3	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第13回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第14回	春学期のまとめ	春学期全体のまとめ、フィードバック。
第15回	春学期まとめと秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第16回	グループディスカッション 課題4	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第17回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第18回	グループディスカッション 課題5	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第19回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第20回	グループディスカッション 課題6	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第21回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第22回	グループディスカッション 課題7	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第23回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第24回	グループディスカッション 課題8	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。

第 25 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 26 回	グループディスカッション 課題 9	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 27 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 28 回	まとめ	年間の議論を総括するとともにこれまでの活動に関するフィードバックを行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。基礎文献、与えられた課題（英文含む）は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定のテキストはありません。

**【参考書】**

研究会において紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（議論への積極的参加や貢献など）（70%）、期末レポート（30%）に基づいて評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

ゼミ生同士のコミュニケーションのバリエーションを増やすことに留意する。

**【学生が準備すべき機器他】**

必要に応じて、調査、発表用のパソコン／タブレットなどを持参すること。

**【関連の深いコース】**

グローバル・サステナビリティコース、ローカル・サステナビリティコース

**【実務経験のある教員による授業】**

担当者は、途上国への経済協力の実務に携わった経験がある。本研究会においては、経済協力の実務を通じて得られた知見が活用されている。

**【Outline and objectives】**

This is a seminar on "helping (assistance)." Students are expected to take part in group talk and various communications vigorously. Students will be able to understand basic concept on "helping (assistance)" and to nurture their values and attitudes towards the act of "helping (assistance)."

OTR400HA

**研究会 A**

**竹本 研史**

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 5/Mon.5

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現代社会の問題を考察するために必要な、自由、人権、民主主義、平等、所有、他者、差別、権力、平和、労働、貧困、正義、ジェンダー、セクシュアリティといった諸概念は、これまでの長い思想的・文化的な伝統のなかで数多くの議論が積み重ねられてきた。

本研究会では、ヨーロッパや近現代日本の文化や社会について、必要な文献講読や芸術作品の分析を通じて、上記諸概念に関する歴史的議論の内容と背景や表象のあり方などを理解し、それらの現代社会における意義を考察することを目標としている。

たとえば、私たちは多数決で決まったことには必ず従わなければならないのだろうか？ デモクラシーは本当に迷惑なものなのだろうか？ なぜ記録は正しく残さなければならないのだろうか？ 格差や不平等はなぜ是認できないのか？ マイノリティに対するポジティブ・アクションはなぜ必要なのだろうか？ 芸術は社会の何をどのように捉えるのだろうか？ なぜ差別する自由は存在してはならないのか？ 社会は、移民や難民をどのように迎え入れるべきなのか？ などなど...

こうしたことを踏まえ、2019 年度は「民主主義とは何か？」をテーマとする。

**【到達目標】**

(1) ヨーロッパや近現代日本の思想や文学、文化に関する文献の正確な読解力の定着。ならびに、「人間」や「社会」、「民主主義」をはじめとする諸概念それ自体が、どのような歴史的負荷を帯びているか把握すること。

(2) 個々の問題の発見、必要な情報の収集・分析、論理的な考察、成果の表現（発表や討議を通じた意見表明の方法、レポート作成を通じた論文執筆の方法）。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

(1) ヨーロッパや近現代日本の文化や社会に関する文献の輪読+個人研究発表。

(2) 学期に 1 回、事前学習のうえ、映画館・美術館・博物館、劇場、コンサート・ホールなどでプチ FS。

(3) ゼミ合宿（夏休みか春休み）。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、および各人の 1 年間の研究スケジュールの確認
第 2 回	テキストの精読 (1)	民主主義に関する基礎的文献の講読 (1)
第 3 回	テキストの精読 (2)	民主主義に関する基礎的文献の講読 (2)
第 4 回	テキストの精読 (3)	民主主義に関する基礎的文献の講読 (3)
第 5 回	テキストの精読 (4)	民主主義に関する基礎的文献の講読 (4)
第 6 回	テキストの精読 (5)	芸術に関する基礎的文献の講読 (1)
第 7 回	テキストの精読 (6)	芸術に関する基礎的文献の講読 (2)
第 8 回	プチ FS 事前学習会 (1)	プチ FS（映画館・美術館・コンサートホールなどを訪問し作品鑑賞）に必要な予備知識について学生が発表
第 9 回	テキストの精読 (7)	民主主義に関する基礎的文献の講読 (5)
第 10 回	テキストの精読 (8)	民主主義に関する基礎的文献の講読 (6)
第 11 回	テキストの精読 (9)	民主主義に関する基礎的文献の講読 (7)
第 12 回	テキストの精読 (10)	民主主義に関する基礎的文献の講読 (8)
第 13 回	4 年生研究会修了論文中間発表 (1)	4 年生を対象とした卒論中間発表
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ
第 15 回	テキストの精読 (11)	民主主義に関する古典の精読 (1)
第 16 回	テキストの精読 (12)	民主主義に関する古典の精読 (2)
第 17 回	テキストの精読 (13)	民主主義に関する古典の精読 (3)
第 18 回	テキストの精読 (14)	民主主義に関する古典の精読 (4)
第 19 回	テキストの精読 (15)	民主主義に関する古典の精読 (5)
第 20 回	テキストの精読 (16)	民主主義に関する古典の精読 (6)
第 21 回	テキストの精読 (17)	芸術に関する古典の精読 (1)
第 22 回	テキストの精読 (18)	芸術に関する古典の精読 (2)

第 23 回	プチ FS 事前学習会 (2)	プチ FS (映画館・美術館・コンサートホールなどを訪問し作品鑑賞) に必要な予備知識について学生が発表
第 24 回	2、3 年生研究構想発表 (1)	3 年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論 (前編)
第 25 回	2、3 年生研究構想発表 (2)	2、3 年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論 (後編)
第 26 回	4 年生研究会修了論文中間発表 (2)	研究会修了論文第 2 章までの執筆段階において中間発表を行う (前編)
第 27 回	4 年生研究会修了論文中間発表 (3)	研究会修了論文第 2 章までの執筆段階において中間発表を行う (後編)
第 28 回	まとめ	1 年間の総括

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
 (1) 授業で扱う文献は熟読のうえ、疑問点を整理し、専門用語などは事前に調べておくこと。(2) 日頃からとにかく本を読むこと。映画、美術、音楽、演劇、ダンス、パレエ、マンガ、スポーツ、お笑いなどを積極的に鑑賞、観戦すること。(3) 人文・社会科学分野の文献を数多く揃えている書店や古本屋を覗いてみる。

#### 【テキスト (教科書)】

授業当初はプリント。後半で扱う古典については教場で指示する。

#### 【参考書】

教場にて指示。

#### 【成績評価の方法と基準】

(1) 2、3 年生は、授業中に年間 2 回の発表と積極的な議論への参加 (20%)、夏・冬 2 回の期末レポート (50%) と 2 ヶ月に 1 度のブック (映画)・レポート提出 (30%)。

(2) 4 年生は、授業中の積極的な議論への参加 (15%)、および、研究会修了論文の 2 回にわたる中間報告 (20%)、研究会論文を提出すること (50%)。6 月まで 1 月 1 回のブック (映画)・レポート提出すること (15%)。

#### 【学生の意見等からの気づき】

毎年どのようなテキストを取り扱うのかを教員、学生双方で議論し合いながら決定している。

#### 【その他の重要事項】

人間文化コース、グローバル・サステイナビリティコース所属学生のみ受講が可能である。

#### 【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース、人間文化コース

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and principles of democracy. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and writing research papers.

OTR400HA

## 研究会 A

谷本 勉

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 2/Tue.2

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大森荘蔵の科学哲学を手がかりにして科学とは何か、人間とは何かを探求する。

#### 【到達目標】

「心」の問題を中心に据えて、世界、自然、環境について批判的に考える力を得ることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

大森荘蔵の種々の哲学エッセーをそれぞれ担当して読解した後、皆で議論して、理解を深めていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明
第 2 回	イントロダクション 1	「夢まぼろし」 「記憶について」 「真実の百面相」 「心の中」
第 3 回	イントロダクション 2	「ロボットの申し分」 「夢見る脳、夢みられる脳」
第 4 回	イントロダクション 3	イントロダクションの総括のための議論と解説
第 5 回	イントロダクション 4	「哲学的知見の性格」 「他我の問題と言語」 「言語と集合」
第 6 回	初期大森哲学 1	初期大森哲学の前半の総括のための議論と解説
第 7 回	初期大森哲学 2	「決定論の論理と、自由」
第 8 回	初期大森哲学 3	「知覚の因果説検討」
第 9 回	初期大森哲学 4	「知覚風景と科学的世界像」
第 10 回	初期大森哲学 5	初期大森哲学の後半の総括のための議論と解説
第 11 回	初期大森哲学 6	それぞれの描く大森哲学 1
第 12 回	初期大森哲学 7	夏休みのレポートの発表と議論
第 13 回	初期大森哲学 8	「ことだま論-言葉と「ものごと」」 1
第 14 回	春学期総括	「ことだま論-言葉と「ものごと」」 2
第 15 回	秋学期の展望	「ことだま論-言葉と「ものごと」」 3
第 16 回	中期大森哲学 1	「科学の畏」
第 17 回	中期大森哲学 2	「虚想の公認を求めて」
第 18 回	中期大森哲学 3	中期大森哲学の総括のための議論と解説
第 19 回	中期大森哲学 4	「過去の制作」
第 20 回	中期大森哲学 5	「ホーリズムと他我問題」
第 21 回	中期大森哲学 6	「脳と意識の無関係」
第 22 回	後期大森哲学 1	「時は流れず-時間と運動の無縁」
第 23 回	後期大森哲学 2	「[後の祭り]を祈る-過去は物語」
第 24 回	後期大森哲学 3	「自分と出会う-意識こそ人と世界を隔てる元凶」
第 25 回	後期大森哲学 4	後期大森哲学の総括のための議論と解説
第 26 回	後期大森哲学 5	それぞれの描く大森哲学 2
第 27 回	後期大森哲学 6	
第 28 回	秋学期総括	

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。

#### 【テキスト (教科書)】

『大森荘蔵セレクション』(平凡社ライブラリー、2011 年)

『物と心』(ちくま学芸文庫、2015 年)

#### 【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

担当部分の発表の内容と議論への参加の態度を加味して、総合的に評価する。平常点 (50%) とレポート (50%)。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでの指摘を授業に反映していく。

#### 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

In this seminar, we will think about the problem of "heart and things" by using the philosophy of Omori Shozo as a text. Especially at this seminar, all participants read the papers of Omori, discuss the dualism philosophy, and aim to obtain a viewpoint to understand the world.

OTR400HA

**研究会 A**

辻 英史

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

世界と日本の生活保障——社会福祉と市民社会  
グローバル化と新自由主義経済の拡大により日本を含む世界各地で格差社会が進み、多様な生き方が可能になる反面、貧困や孤立の問題が大きくなっている。

病氣や加齢、失業、子育てといったライフイベントのために生活が不安定化してしまった人々を、どのように支え、地域社会やコミュニティに包摂していくのか、それぞれの社会で模索が続いている。

**【到達目標】**

このゼミでは、ヨーロッパおよび日本を中心に、社会的な弱者の生活を支えるために、どのような試みがおこなわれてきたのかを、それぞれの地域の事情に即して比較して考察します。

今年度は、日本や世界各国における外国人をめぐる諸問題を扱います。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

両学期とも、前半はテーマに関する重要な文献の講読をおこない、後半は春学期はグループワーク、秋学期はディベートをおこなう。その準備や個別の研究相談のために必要に応じてサブゼミを開講する（隔週で週1回程度を予定）。またゼミ合宿を開催する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介とゼミの説明
第2回	研究発表	3-4年生の研究発表
第3回	研究発表	3-4年生の研究発表
第4回	研究発表	3-4年生の研究発表
第5回	文献講読	テーマに関する基礎的なテキストを購読する。
第6回	文献講読	テーマに関する基礎的なテキストを講読する。
第7回	文献講読	テーマに関する基礎的なテキストを講読する。
第8回	文献講読	テーマに関する基礎的なテキストを講読する。
第9回	グループワーク	グループワークのテーマを決め、グループ分けをおこなう。
第10回	グループワーク	グループワークをおこなう。
第11回	グループワーク	グループワークをおこなう。
第12回	グループワーク報告	各グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第13回	グループワーク報告	各グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第14回	まとめ	全体討論およびゼミ合宿準備
第15回	オリエンテーション	ゼミ合宿の準備をかねる。
第16回	卒論中間報告	4年生が卒論の中間報告をおこなう。
第17回	卒論中間報告	4年生が卒論の中間報告をおこなう。
第18回	文献講読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第19回	文献講読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第20回	文献講読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第21回	文献講読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第22回	ディベートテーマ決め	ディベートのテーマを決め、グループ分けをおこなう。
第23回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。
第24回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。
第25回	ディベート本番	ディベートをおこなう。
第26回	ディベート本番	ディベートをおこなう。
第27回	卒論最終報告	4年生対象の卒論完成報告。
第28回	まとめ・反省	2・3年生は1年間の学習内容を総括し翌年度の学習テーマを決める。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
ゼミのなかでは参加者の個別の関心にそのまま合致した内容を扱うことは少ないので、各自の自主的な努力が重要である。自分の関心に即して文献を調べ、資料を集めるなど調査し、報告の準備をすること。  
また、文献講読の際は、必ず事前にテキストを用意し、読んでくること。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて授業中に指示する。

**【参考書】**

竹沢尚一郎編著『移民のヨーロッパ―国際比較の視点から』明石書店、2011年。  
宮島喬／鈴木江理子『外国人労働者受け入れを問う』岩波ブックレット、2014年。  
西日本新聞社『新移民時代―外国人労働者と共に生きる社会へ』明石書店、2017年。  
NHK取材班『外国人労働者をどう受け入れるか―「安い労働力」から「戦力」へ』NHK出版新書、2017年。  
津崎克彦／駒井洋『産業構造の変化と外国人労働者―労働現場の実態と歴史的視点』明石書店、2018年。  
芹澤健介『コンビニ外国人』新潮新書、2018年。  
ほか、必要に応じて授業中に指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

議論への参加（20％）、研究報告、グループワーク、ディベートなどでの貢献（30％）、秋学期末のレポート（50％）

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【関連の深いコース】**

ローカル・サステナビリティコース、人間文化コース

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

Seminar on social welfare, social policy and civil society in Japan and other countries

OTR400HA

**研究会 A**

手塚 恵美子

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 2/Fri.2

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

異文化交流とジャポニズムをテーマに、19世紀以降の表象文化について、美術、デザイン、建築、映画、ファッションなどを切り口にして「ジャポニズム」現象について考え、異文化交流や比較文化について学びます。

**【到達目標】**

19世紀から使われはじめた言葉「ジャポニズム」。その意義を探り、「日本」のそとに視点を移して「ニッポン」を見なおすという作業をすることで、双方向的な視点の体験をすることが授業の大きな目標です。授業での発表とその準備作業を通して、資料収集・分析能力や、調査内容を整理し明確に報告する能力を養います。また、グループワークやディスカッションを通じて、意見交換による気づきから学んだことを、積極的に発言する姿勢を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

美術、デザイン、建築、映画、ファッションに関する指定された日本語文献を購読し、関連参考文献の調査・分析をふまえて、各自その内容を分かりやすく要約してまとめます。それを授業中に発表し、内容について全員でディスカッションをおこないます。また、各自が進めている研究テーマに関する発表も行い、全員によるディスカッションを通じて、各自の研究を深化させます。一年を通して、ゼミ生それぞれが自分の考えや疑問点を積極的に発言することが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究会の内容、進め方についての説明
第2回	文献購読または作品論評	指定された文献や作品についてディスカッション
第3回	文献購読または作品論評	指定された文献や作品についてディスカッション
第4回	文献購読または作品論評	指定された文献や作品についてディスカッション
第5回	文献購読または作品論評	指定された文献や作品についてディスカッション
第6回	文献購読または作品論評	指定された文献や作品についてディスカッション
第7回	文献購読または作品論評	指定された文献や作品についてディスカッション
第8回	文献購読または作品論評	指定された文献や作品についてディスカッション
第9回	文献購読または作品論評	指定された文献や作品についてディスカッション
第10回	文献購読または作品論評	指定された文献や作品についてディスカッション
第11回	文献購読または作品論評	指定された文献や作品についてディスカッション
第12回	グループ発表	指定されたテーマに関するグループ発表と、それにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第13回	グループ発表	指定されたテーマに関するグループ発表と、それにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第14回	春学期のまとめ	春学期に学んだことを振り返り、総括します
第15回	秋学期へのオリエンテーション	秋学期の内容と進め方についての説明
第16回	4年生による研究紹介	4年生が各自行っている研究に関する小発表と、それにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第17回	文献購読または作品論評	指定された文献や作品についてディスカッション
第18回	文献購読または作品論評	指定された文献や作品についてディスカッション
第19回	文献購読または作品論評	指定された文献や作品についてディスカッション
第20回	文献購読または作品論評	指定された文献や作品についてディスカッション
第21回	文献購読または作品論評	指定された文献や作品についてディスカッション

発行日：2019/5/1

第 22 回	4 年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表と、それにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 23 回	4 年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表と、それにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 24 回	3 年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表と、それにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 25 回	3 年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表と、それにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 26 回	2 年生による研究発表	各自の選んだ文献に関する発表と、それにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 27 回	2 年生による研究発表	各自の選んだ文献に関する発表と、それにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 28 回	1 年間のまとめ	1 年間で学んだことを振り返り、総括します

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。指定された文献をよく読み、授業中のディスカッションで自身の考えを積極的に述べられるよう準備して、授業に臨んでください。研究発表では、自らの問題意識にもとづいて、事前に十分な関連調査を行い、論点を明確に伝える努力をしましょう。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

#### 【テキスト（教科書）】

随時指定します。

#### 【参考書】

ジャポニズム学会編『ジャポニズム入門』思文閣出版、2000 年  
上記のほか、各回の授業に関連する参考文献、展覧会カタログなどを紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

発表内容と、発表へ向けた調査・プレゼンテーションの工夫などの努力度（50 %）、授業中の積極的な発言など参加姿勢（40 %）、年度末の小レポート（10 %）を、総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース、人間文化コース

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

What is Japonisme? The theme of this seminar is intercultural studies. We will analyze cultural representations such as art, design, architecture, film and fashion.

OTR400HA

## 研究会 A

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 2/Tue.2

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。2019 年度は、英文で書かれたサステイナビリティ報告書を学習します。

#### 【到達目標】

このゼミナールは、① 4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、② 文献読解を中心とした英語力を身につけること、③ 日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、① 実践ビジネス英語の暗誦、② Japan Times1 面の訳、③ 日経新聞「きょうのことば」の記憶、④ 米国の PBS 放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、水質関係第 1 種公害防止管理者、および、英検準 1 級の資格取得を目標としています。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4 年生による研究論文の発表が行われます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第 2 回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を 2 年生のために勉強の仕方等を説明
第 3 回	春合宿課題の説明	春合宿の課題の説明、準備、サブゼミ課題の実施
第 4 回	春学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 5 回	春学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 6 回	春学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 7 回	春学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 8 回	春学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 9 回	春学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 10 回	春学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 11 回	春学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 12 回	春学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 13 回	春学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 14 回	春学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の英文 CSR に関する発表、夏合宿課題の説明等
第 15 回	秋学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 16 回	秋学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 17 回	秋学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 18 回	秋学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 19 回	秋学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 20 回	秋学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 21 回	秋学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 22 回	秋学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 23 回	秋学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 24 回	秋学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 25 回	秋学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 26 回	秋学期本ゼミ発表 (12)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 27 回	秋学期本ゼミ発表 (13)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 28 回	秋学期本ゼミ発表 (14)	環境関連の英文 CSR に関する発表

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。

#### 【テキスト（教科書）】

CSR に関する概説的なテキストを、開講時に指定します。

#### 【参考書】

特にありません。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点のみです。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

これからも、学生の努力を応援していきたいと思っています。

#### 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、グローバル・サステイナビリティコース

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This seminar will learn the basics of Environmental compliance audits. In the 2019 academic year, we will examine several sustainability reports written in English.

OTR400HA

**研究会 A**

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 4/Tue.4

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。2019 年度は、英文で書かれたサステイナビリティ報告書を学習します。

**【到達目標】**

このゼミナールは、① 4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、② 文献読解を中心とした英語力を身につけること、③ 日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、① 実践ビジネス英語の暗誦、② Japan Times1 面の訳、③ 日経新聞「きょうのことば」の記憶、④ 米国の PBS 放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、水質関係第 1 種公害防止管理者、および、英検準 1 級の資格取得を目標としています。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4 年生による研究論文の発表が行われます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第 2 回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を 2 年生のために勉強の仕方等を説明
第 3 回	春合宿課題の説明	春合宿の課題の説明、準備、サブゼミ課題の実施
第 4 回	春学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 5 回	春学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 6 回	春学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 7 回	春学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 8 回	春学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 9 回	春学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 10 回	春学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 11 回	春学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 12 回	春学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 13 回	春学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 14 回	春学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の英文 CSR に関する発表、夏合宿課題の説明等
第 15 回	秋学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 16 回	秋学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 17 回	秋学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 18 回	秋学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 19 回	秋学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 20 回	秋学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 21 回	秋学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 22 回	秋学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 23 回	秋学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 24 回	秋学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 25 回	秋学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 26 回	秋学期本ゼミ発表 (12)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 27 回	秋学期本ゼミ発表 (13)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 28 回	秋学期本ゼミ発表 (14)	環境関連の英文 CSR に関する発表

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。

**【テキスト（教科書）】**

CSR に関する概説的なテキストを、開講時に指定します。

**【参考書】**

特に、ありません。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点のみです。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

**【学生の意見等からの気づき】**

これからも、学生の努力を応援していきたいと思います。

**【関連の深いコース】**

サステイナブル経済・経営コース、グローバル・サステイナビリティコース

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This seminar will learn the basics of Environmental compliance audits. In the 2019 academic year, we will examine several sustainability reports written in English.

OTR400HA

**研究会 A**

**長峰 登記夫**

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 5/Thu.5

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

職業生活をとらして労働環境を考える。

**【到達目標】**

本研究会での学習や作業をとらして、学生たちが卒業後就職してからかわる仕事や労働環境のあり方について学ぶと同時に、物事を論理的に考え、作業を計画的に推し進められるようになることをめざす。そこに至る一里塚として、授業内における読み合わせや個別研究成果の発表、議論、レポートがある。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

春学期は基本的な知識の習得を目的に、基本文献の読み合わせをする。発表者は学習内容をレジュメにまとめて報告し、それに基づいて議論する。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、その成果をレジュメにまとめて発表し、授業内での議論をふまえて最終的にレポートにまとめる。したがって、春学期と秋学期、それぞれ一人最低1回ずつはレジュメの作成、それに基づいた発表、最終的なレポート提出が義務づけられる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか等について学習する。年間計画についても説明する。
第2回	レジュメ、レポートの書き方1	図書館、インターネット、データベース等を利用した情報収集の仕方について学ぶ。
第3回	レジュメ、レポートの書き方2	レジュメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第4回	日本の雇用システム 伝統と変化1	日本の雇用システムの特徴と歴史について学ぶ。この回ではいわゆる終身雇用に焦点を当て、歴史的な変化についても学ぶ。
第5回	日本の雇用システム 伝統と変化2	日本の雇用システムのなかの年功制（賃金と昇進）に焦点を当て、歴史的な変化も踏まえて学ぶ。
第6回	日本の雇用システム 伝統と変化3	日本の企業内組合は海外では見られない、最も日本的な社会システムのひとつだといってよい。この回ではその特徴についてみていく。
第7回	日本の雇用システムの新たな側面	歴史的にみれば、成果主義的雇用管理（賃金と昇進）は日本の雇用システムのなかの新しい側面といってよい。この回ではそれについて学ぶ。
第8回	日本の雇用システムとジェンダー	日本企業の雇用慣行のなかで女性はハンディを負うとされ、海外諸国との比較でもそれが指摘されている。それには様々な理由があるが、それは何か、また、近年それはどう変化してきたのかについて学ぶ。
第9回	日本の雇用システムと非正規雇用、格差	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型として非正規雇用の増大があげられる。ここではなぜ非正規雇用が増大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第10回	日本の雇用システムと労働時間（1）	日本の労働時間は長いと言われ、実際、いまだに過労死や過労自殺がおこっている。ここでは日本の労働時間の実際をみる。
第11回	日本の雇用システムと労働時間（2）	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。それと労働時間はいかに関係し、また他の原因は何か等について考える。
第12回	障がい者の就職支援と雇用	障害者差別解消法施行以前からの、障がい者の就職や雇用の実態と現状について学ぶ。

第 13 回	大学生の就職 1 (日本の就職の特徴)	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。
第 14 回	大学生の就職 2 (グローバル人材)	近年グローバル人材への関心が高まっている。グローバル人材とは何か、企業はなぜグローバル人材に注目するのか、採用の実態はどうか等について考える。
第 15 回	日本の雇用システムの特徴	日本の雇用システムの特徴をまとめて整理し、トータルに理解できるようにする。
第 16 回	秋学期のテーマの確認	春学期での学びをもとに各自がおこなう個別テーマを確認し、研究の進め方等について個別にアドバイスをする。
第 17 回	研究の進め方とレポートの書き方	各自が読んだレポートの書き方の新書を参考に、改めてレポートの書き方の形式や引用の仕方等について学ぶ。
第 18 回	学生による研究発表 1	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 19 回	学生による研究発表 2	上記と同じ
第 20 回	学生による研究発表 3	上記と同じ
第 21 回	学生による研究発表 4	上記と同じ
第 22 回	学生による研究発表 5	上記と同じ
第 23 回	学生による研究発表 6	上記と同じ
第 24 回	学生による研究発表 7	上記と同じ
第 25 回	学生による研究発表 8	上記と同じ
第 26 回	レポートの途中経過報告	学生は 80 %程度完成したレポートの途中経過を報告し、修正や追加についての指示を受け、完成に向けての作業の指針とする。
第 27 回	学生による研究発表 1 0	上記研究発表表と同じ
第 28 回	完成版レポートの提出	完成版のレポートを提出。最終チェックを受け、マイナーな修正指示があればそれにしたがって完成させる。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。春学期は、毎回指定された文献資料を事前に読んで、わからないことをチェックし、授業中に質問したりコメントを加えたりして、意見を言えるようにしておくこと。秋学期は、発表予定者が事前に指示する発表内容に関連した資料を読んで、春学期同様、授業内での議論に参加できるよう準備しておくこと。夏期休暇中の課題：夏期休暇中に後期発表の計画を立てて、教員に提示する。夏期のゼミ合宿を行う場合はそこで行う。

#### 【テキスト (教科書)】

春学期は基本的に本の 1 章や文献資料をコピーして読んでいく。具体的な資料は開講時に指示する。労働環境論 I および II で使った副教材はゼミでも参考資料として使う。秋学期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とする。ただし、秋学期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

#### 【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣ブックス、2012 年。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、1. 参加姿勢、2. 授業での発表、3. 発表のために作成したレジュメの内容、4. 授業内での議論への参加、5. 最終的に提出されたレポートの内容、6. その他の平常点 (含出席) 等を加味して総合的に行う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

修了論文作成において、より早い時期からの計画的な指導が必要。

#### 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

The object of this subject is to provide students with a chance to think about work environments through daily working life after graduation. For that, students will study about various issues relating to employment, discuss them, make a presentation in class and write a final essay. By so doing, students will learn the way of thinking logically about things and perform them according to a plan.

OTR400HA

## 研究会 A

西城戸 誠

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 4/Mon.4

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域社会の〈環境〉の中で特に「農」「水」「エネルギー」と〈人〉のかかわりを巡る課題に対して、実証的な研究の手法を学びながら、社会調査を行い、実践的な課題解決をする力を養う。

#### 【到達目標】

第一に、地域社会の「農」「水」「エネルギー」と〈人〉のかかわり方の実態について学ぶ。第二に、従来の「環境と人」との関係性とは異なった実践に着目し、関連テーマについて社会調査を実施する。具体的には、首都圏近郊および中山間地域・被災地などをフィールドにするほか、生活協同組合 (生活クラブ生協) の実践に関わりながら、調査研究を行う。この調査を行うことで、一連の社会調査の方法論を学ぶとともに、実践的な研究の方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本授業は、3 つの部分から構成される。

- 1) 文献講読：フィールドや調査テーマに関連した文献を講読する。
- 2) 現地視察：文献講読と並行しながら、首都圏や東京都の中山間地域における農林業ならびに集落についての現地視察を行う。
- 3) グループに分かれての調査研究の実施：テーマの設定、現地調査、報告書・論文の執筆、プレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションを実施する。
第 2 回	文献講読 (1) : 前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第 3 回	文献講読 (2) : 前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第 4 回	文献講読 (3) : フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 5 回	文献講読 (4) : フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 6 回	文献講読 (5) : フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 7 回	現地視察	調査地域の視察を実施する。
第 8 回	調査グループの設定、テーマの選定 (1)	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業 (先行研究の収集) を実施する。
第 9 回	調査グループの設定、テーマの選定 (2)	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業 (先行研究の収集) を実施する。
第 10 回	グループ中間発表会	グループ別に調査テーマの方向性について報告し合い、議論をする。
第 11 回	調査準備・予備調査 (1)	調査のための準備 (文献・資料・データの収集) および、予備調査を実施する。
第 12 回	調査準備・予備調査 (2)	調査のための準備 (文献・資料・データの収集) および、予備調査を実施する。
第 13 回	調査準備・予備調査 (3)	調査のための準備 (文献・資料・データの収集) および、予備調査を実施する。
第 14 回	調査準備・予備調査 (4)	調査のための準備 (文献・資料・データの収集) および、予備調査を実施する。
第 15 回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告と今後の方向性について報告し合い、議論をする。
第 16 回	各グループにおける調査 (1)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 17 回	各グループにおける調査 (2)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 18 回	各グループにおける調査 (3)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。

第 19 回	各グループにおける調査(4)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 20 回	各グループにおける調査(5)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 21 回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告を行い、議論をする。
第 22 回	各グループにおける調査(6)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 23 回	各グループにおける調査(7)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 24 回	各グループにおける調査(8)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 25 回	各グループにおける調査(9)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 26 回	各グループにおける調査(10)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 27 回	グループの発表・報告書作成(1)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第 28 回	グループの発表・報告書作成(2)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。関連文献の講読やフィールドワークを課す。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。

**【参考書】**

随時、指定する

**【成績評価の方法と基準】**

授業やフィールドワークへの参加姿勢、プレゼンテーションや調査報告書の内容などから総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

本講義は月曜日 5 時限目にサブゼミとして延長して行う場合もある。

**【関連の深いコース】**

ローカル・サステイナビリティコース

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

The aim of this seminar is to learn a sociological perspective on the relationship between humans and the environment, especially focusing on agriculture, water, and renewable energy.

This seminar also offers how to create a research design for sociological empirical study and how to write a research paper.

OTR400HA

**研究会 A**

根崎 光男

配当年次／単位：2～4 年／ 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 4/Mon.4

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

テーマ：江戸の都市環境研究

巨大都市・江戸の町にみられる諸相（名所巡り・動物飼育など）を調査・研究し、その特徴を文献・フィールドの調査を通して考え、指定した、あるいは自らの設定した課題を解決する力を養う。そのために、歴史資料の読解、古文書の解読などを行い、実践的な環境史研究を進める。

**【到達目標】**

環境史研究のための教養を身につけ、また歴史資料や古文書の読解力を前進させ、自らが設定した課題の解決に向けた取り組みや判明した事柄を説明できる。この延長線上に研究会修了論文を提出できるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

この授業は、課題の解決に向けた歴史資料・古文書の読解、フィールドの調査、各自の調査・研究に基づく発表、研究レポート・研究会修了論文の執筆といった一連の作業を、演習形式により行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本研究会の目標の周知と環境史研究の方法を学ぶ
第 2 回	史料読解①	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第 3 回	史料読解②	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第 4 回	史料読解③	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第 5 回	大学周辺フィールド調査①	古地図を持って大学周辺の地理・歴史を探索し、人の暮らしを考える
第 6 回	調査研究のグループ発表①	指定した課題を分析し、グループ別に発表する
第 7 回	調査研究のグループ発表②	指定した課題を分析し、グループ別に発表する
第 8 回	古文書解読①	指定した古文書を解読・分析し、討論を行う
第 9 回	特定テーマ中間発表①	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 10 回	特定テーマ中間発表②	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 11 回	特定テーマ中間発表③	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 12 回	特定テーマ中間発表④	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 13 回	特定テーマ中間発表⑤	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 14 回	特定テーマ中間発表⑥	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 15 回	研究計画の確認	各自の研究計画を確認し、意見交換を行う
第 16 回	大学周辺フィールド調査②	古地図を持って大学周辺の地理・歴史を探索し、人の暮らしを考える
第 17 回	史料読解④	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第 18 回	史料読解⑤	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第 19 回	史料読解⑥	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第 20 回	調査研究のグループ発表③	指定した課題を分析し、グループ別に発表する
第 21 回	調査研究のグループ発表④	指定した課題を分析し、グループ別に発表する
第 22 回	古文書解読②	指定した古文書を解読・分析し、討論を行う
第 23 回	特定テーマ研究発表①	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 24 回	特定テーマ研究発表②	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 25 回	特定テーマ研究発表③	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う

- 第 26 回 特定テーマ研究発表④ 各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
- 第 27 回 特定テーマ研究発表⑤ 各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
- 第 28 回 特定テーマ研究発表⑥ 各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。配付した歴史史料・古文書を事前に解説・分析する。

#### 【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

#### 【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %）、発表・レポート（30 %）により評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

調査研究の進捗状況を把握するため、必要に応じて面談を行う。

#### 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

Investigates various aspects(e.g.visiting showplaces and feeding animals)of the city of Edo,and we will think about the characteristics of them through

literature reviews and field surveys.

OTR400HA

## 研究会 A

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 4/Tue.4

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代企業論、ビジネスヒストリー、CSR 論 I・II で習得した知識をベースに、「良い企業、良い社会、良い働き方」とは何かという問いに対する回答を見出すため、企業と社会の関係性を学びます。SDGa（持続可能な開発目標）、パリ協定、CSR（企業の社会的責任）、Business Ethics 等のテーマを中心に、サステイナブル社会における企業と社会の関係を学びます。

#### 【到達目標】

CSR、企業倫理、社会的責任投資、ソーシャルビジネス、環境会計等の分野で実証的アプローチによる研究を行い、4 年生は研究会修了論文、2・3 年生は日経ストックリーグレポートを作成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

春学期は、CSR および Business Ethics に関する文献や論文を輪読し、論文作成に必要な知識を習得しディベート能力も涵養します。秋学期は、複数のチームを編成し日経新聞と野村証券が主催するストックリーグに参加します。日経ストックリーグでは CSR 情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの社会的責任投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。さらに、その成果をレポートにまとめてコンテストにチャレンジします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス ・ストックリーグ	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要
第 2 回	卒業論文 ・企業と社会に関する文献講読①	卒業論文の執筆スケジュール 担当者による報告と全体討議
第 3 回	企業と社会に関する文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 4 回	企業と社会に関する文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 5 回	企業と社会に関する文献講読④	担当者による報告と全体討議
第 6 回	ストックリーグ 第 1 回テーマ報告	テーマの方向性について報告
第 7 回	ESG 投資文献購読①	担当者による報告と全体討議
第 8 回	ESG 投資文献購読②	担当者による報告と全体討議
第 9 回	ESG 投資文献購読③	担当者による報告と全体討議
第 10 回	ストックリーグ 第 2 回テーマ報告	問題認識と分析手法の報告
第 11 回	ESG 投資文献購読④	担当者による報告と全体討議
第 12 回	財務分析文献購読①	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 13 回	財務分析文献購読②	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 14 回	財務分析文献購読③	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 15 回	ストックリーグ 第 3 回テーマ報告	ファンドテーマの決定 企業調査の方法・スケジュールの報告
第 16 回	ストックリーグ グループ中間報告①	これまでの分析結果の報告
第 17 回	卒業論文中間報告①	卒論テーマ・論文構成の発表
第 18 回	ストックリーグ活動①	チーム活動の報告
第 19 回	ストックリーグ活動②	チーム活動の報告
第 20 回	ストックリーグ活動③ (企業訪問)	企業ヒアリング
第 21 回	ストックリーグ中間報告②	ユニバースの発表
第 22 回	ストックリーグ活動④ (企業訪問)	企業ヒアリング
第 23 回	ストックリーグ活動⑤ (企業訪問)	企業ヒアリング
第 24 回	ストックリーグ活動⑥	企業ヒアリング
第 25 回	ストックリーグ中間報告③	ポートフォリオの完成
第 26 回	卒業論文中間報告③	卒業論文の予備報告
第 27 回	ストックリーグ活動⑦	レポート作成

第 28 回 ストックリーグ活動⑧ レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。企業の CSR 活動・財務内容に関する分析や企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。

【テキスト（教科書）】

長谷川直哉編著『不連続社会と向き合った企業家の光と陰』文真堂、2019 年  
長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文真堂、2018 年  
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017 年  
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文真堂、2016 年  
日経エコロジー編『ESG 経営ケーススタディ 20』日経 BP 社、2017 年  
水口剛『ESG 投資』日本経済新聞社、2017 年  
谷本寛治『責任ある競争力ー CSR を問い直す』エヌティティ出版、2013 年  
谷本寛治『SRI 社会的責任投資入門』日本経済新聞社、2003 年

【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【共通評価】ゼミ・サブゼミ・調査への参加態度・貢献度  
【個別評価】4 年生：卒業論文  
2・3 年生：ストックリーグのレポート

【学生の意見等からの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンを使用します。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財)国際金融情報センターに出向し、カントリースクや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

【関連資格】

証券アナリスト検定会員（CMA）

【Outline and objectives】

This seminar focuses on themes such as SDGs (Sustainable Development Target), Paris Agreement, CSR (Corporate Social Responsibility), Business Ethics and learns the relationship between companies and society in a sustainable society.

OTR400HA

研究会 A

日原 傳

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

名勝と文学作品の関係を探る。

【到達目標】

- ・日本の自然や歴史について理解を深める。
- ・名勝の成立に関わる文学作品や関連文献を捜し、読み解くことを通して、調べる力・発表する力をつける。
- ・各自研究テーマを設定してレポートや論文を執筆し、文章を書く力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・最初の授業で名勝に関するいくつかの文献を紹介する。基本テキストを決め、担当箇所を各自に割り当てる。担当者は割り当てられた本文、および関連する文献について可能な限り調べて報告する。それを踏まえて、皆で議論する。
- ・テキストを輪読する過程で、各自が個人の研究テーマを決め、最終レポートや研究会修了論文の執筆に結びつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	紀行文と名勝	テキストの説明。参考文献の紹介。
第 2 回	文献講読	テキスト輪読
第 3 回	文献講読	テキスト輪読
第 4 回	文献講読	テキスト輪読
第 5 回	文献講読	テキスト輪読
第 6 回	文献講読	テキスト輪読
第 7 回	文献講読	テキスト輪読
第 8 回	文献講読	テキスト輪読
第 9 回	文献講読	テキスト輪読
第 10 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第 11 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第 12 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第 13 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第 14 回	文献講読	テキスト輪読
第 15 回	文献講読	テキスト輪読
第 16 回	文献講読	テキスト輪読
第 17 回	文献講読	テキスト輪読
第 18 回	文献講読	テキスト輪読
第 19 回	文献講読	テキスト輪読
第 20 回	文献講読	テキスト輪読
第 21 回	文献講読	テキスト輪読
第 22 回	文献講読	テキスト輪読
第 23 回	文献講読	テキスト輪読
第 24 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 25 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 26 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 27 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 28 回	総合討論	年間の研究活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
- ・各自に割り当てた基本テキストの担当箇所について、可能な限り調べ、レジュメを作成する。
- ・各自テーマを決め、論文執筆のために文献を収集する。
- ・論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します。

【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度、発表内容）70%  
最終レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

研究会修了論文に関して、個別に面談指導する時間を早くから設ける。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the relation between a place of scenic beauty and literature.

OTR400HA

## 研究会 A

平野井 ちえ子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 4/Thu.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の文化、主に舞台芸術を切り口として、文化政策・アートマネジメントの現状を考えます。

## 【到達目標】

1. 地域に暮らす人々の生活とそれぞれの地に固有の文化活動との関わりを理解することです。
2. 基本的な知識と方法論を身につけた後、とくに自信をもって語れる得意ジャンルまたはエリアをもつことが必要です。
3. 文化というソフトウェアから地域を考える姿勢が大切です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

春学期の前半は、日本の伝統芸能・民俗芸能・現代演劇・前衛的パフォーマンスの流れに親しむため、文献や映像資料による講義・ディスカッションを行ないます。春学期後半には、参加者各自に舞台芸術鑑賞レポートの作成と発表を求めます。秋学期の前半は、文化政策とそのケーススタディの基本書を輪読します。秋学期後半には、参加者各自が設定した地域の文化のケーススタディを指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 能・狂言（講義・討論）	1年間の流れを概説します。また、春学期の舞台芸術鑑賞レポートについて説明します。 能舞台の構造を説明した後、能と狂言について、それぞれの物語性・演技の型・視聴覚効果の特徴などを講義します。映像資料について意見交換します。
第2回	歌舞伎（講義・討論）	歌舞伎の舞台構造を説明した後、「時代物」・「世話物」・「所作物」について講義を行ないます。映像資料について意見交換します。
第3回	文楽（講義・討論）	文楽と歌舞伎を対照的に考察します。映像資料について意見交換します。
第4回	現代演劇1（講義・討論）	翻訳劇の系譜について講義を行ないます。映像資料について意見交換します。
第5回	最新舞台情報・舞台芸術鑑賞レポート作成指導	舞台芸術情報の探し方を指導します。論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説します。
第6回	現代演劇2（講義・討論）	現代日本の劇作家・演出家について講義を行ないます。映像資料について意見交換します。
第7回	民俗芸能（講義・討論）	日本の民俗芸能について講義を行ないます。映像資料について意見交換します。
第8回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（1）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第9回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（2）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第10回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（3）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第11回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（4）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第12回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（5）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第13回	フィールドワーク文献購読・討論（1）	『フィールドワーク 一書を持って街へ出よう』1. フィールドワークとは何か 2. フィールドワークの論理
第14回	フィールドワーク文献購読・討論（2）	『フィールドワーク 一書を持って街へ出よう』3. フィールドワークの実際 4. ハードウェアとソフトウェア
第15回	文献購読・討論（『入門文化政策』1）	1. 文化政策の観点からの京都観光論 2. 国際観光と文化政策 3. 地域文化資源と文化マネジメント（富山の事例）
第16回	文献購読・討論（『入門文化政策』2）	1. 市民と自治体による文化芸術創造都市づくり（横浜の事例） 2. 中山間地域の文化政策 3. 文化政策とその担い手

発行日：2019/5/1

- 第17回 文献講読・討論（『入門文化政策』3）  
1. 格差社会における文化政策 2. ライフスタイルのための文化政策  
3. 文化政策としてのミュージアム・マネジメント
- 第18回 文献講読・討論（『入門文化政策』4）  
1. 活動の現場からみた公と民の協働論 2. 市民文化の創造環境を目指して 3. 公共施設の運営と指定管理者制度
- 第19回 文献講読・討論（『入門文化政策』5）  
1. 文化創造拠点としての宗教空間 2. 「政策科学」のこれからと文化政策への期待
- 第20回 地域の文化レポート作成指導（1）  
調査方法や論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説します。
- 第21回 地域の文化レポート作成指導（2）  
どのようなテーマ設定が可能か、ケーススタディを紹介します。
- 第22回 地域の文化レポート作成指導（3）  
参加者各自が設定したレポートテーマとアイデアの詳細を交換します。
- 第23回 地域文化レポート発表・討論（1）  
発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
- 第24回 地域文化レポート発表・討論（2）  
発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
- 第25回 地域文化レポート発表・討論（3）  
発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
- 第26回 地域文化レポート発表・討論（4）  
発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
- 第27回 地域文化レポート発表・討論（5）  
発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
- 第28回 総括  
2018年度のゼミを振り返り、講義・文献講読・舞台芸術鑑賞レポート・劇場レポートの各項目と相互の関係について、ディスカッションとフィードバックを行います。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
文献講読の予習（発表者はレジュメの準備）  
舞台芸術鑑賞とフィールド調査（レポート作成）

#### 【テキスト（教科書）】

井口貢（2008）『入門文化政策 地域の文化を創るということ』ミネルヴァ書房  
佐藤郁哉（2006）『フィールドワーク 一書を持って街へ出よう』新曜社

#### 【参考書】

青山昌文（2015）『舞台芸術への招待』放送大学教育振興会  
大笹吉雄（1999）『劇場が演じた劇』教育出版株式会社  
舞台芸術財団演劇人会議（2005）『シンボジウム・劇場芸術の地平』舞台芸術財団演劇人会議  
SPAC（1999）『劇場とは何か 新しい文化活動の創出に向けて』SPAC  
平野井（2006）『小鹿野歌舞伎の現在』『法政大学人間環境論集』第6巻第2号  
平野井（2007）『SPACの地域性と国際性』『法政大学人間環境論集』第7巻第2号

#### 【成績評価の方法と基準】

【平常点】50%  
参加態度、口頭発表（テキスト輪読分と、各期末レポートの概略について）  
【期末レポート】50%  
春学期は、舞台芸術鑑賞レポート  
秋学期は、文化発信の「場」のレポート

#### 【学生の意見等からの気づき】

好評です。今後も、学生の自主性を尊重し、地域と芸術をバランスよく論じ合う交流の場としていきたいと思っております。

#### 【学生が準備すべき機器他】

BTO309教室での授業です。

#### 【その他の重要事項】

当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

#### 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

We will discuss regional theatres and performing arts referring to current Japanese situation of cultural policy and art management.

OTR400HA

## 研究会 A

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金3/Fri.3

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学術論文を検索する Google Scholar というサイトのトップには「巨人の肩の上に立つ」という言葉が出てきます。築きあげられた先人の知識の上に私たちが立っているという意味です。先人の知識とは本であり論文です。本を読むことは知的生活をする上での基本です。このゼミでは本を読むことで巨人の肩の上に立つことを目指します。

#### 【到達目標】

年間に10冊以上の本を読んで要旨か書評をまとめることを目標とします。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

2週に1冊指定された本を読み、その書評を期日までに授業支援システムに提出してもらいます。そのうえで、半期に2回以上、書評についてプレゼンテーションをしてもらいます。今年度、現在までに読んだ本は『農学が世界を救う』『捕食者なき世界』『効かない健康食品』『暮らしの中のニセ科学』『比較貧困学』などです。

書籍は各自が購入するか図書館から借りるかなどして、自力で調達してください。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	顔合わせ、自己紹介など
第2回	1冊目1	書評提出
第3回	1冊目2	議論
第4回	2冊目1	書評提出
第5回	2冊目2	議論
第6回	3冊目1	書評提出
第7回	3冊目2	議論
第8回	4冊目1	書評提出
第9回	4冊目2	議論
第10回	5冊目1	書評提出
第11回	5冊目2	議論
第12回	6冊目1	書評提出
第13回	6冊目2	議論
第14回	7冊目1	書評提出
第15回	7冊目2	議論
第16回	8冊目1	書評提出
第17回	8冊目2	議論
第18回	9冊目1	書評提出
第19回	9冊目2	議論
第20回	10冊目1	書評提出
第21回	10冊目2	議論
第22回	11冊目1	書評提出
第23回	11冊目2	議論
第24回	12冊目1	書評提出
第25回	12冊目2	議論
第26回	13冊目1	書評提出
第27回	13冊目2	議論
第28回	まとめ	総合討論

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
4年生は卒業研究を進めてください。

#### 【テキスト（教科書）】

適宜、指定します。

#### 【参考書】

必要に応じて指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

要旨・書評の提出状況（100%）で評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

なるべく幅広い分野をカバーするように課題本を選定します。

#### 【関連の深いコース】

主たる関連コースは環境サイエンスコースですが、他コースに登録している学生もコース変更をせずに履修できます。

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

At the top of the site "Google Scholar" comes the word "Stand on the shoulders of giants". It means that our society stands on the knowledge of the forerunners who have been built. Predecessor's knowledge are books and articles. Reading books is fundamental for intellectual life. The purpose of this seminar is to stand on the shoulders of the giants by reading books.

OTR400HA

## 研究会 A

横内 恵

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 4/Tue.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

わが国の環境法のうち行政法分野の法制度や判例について調査をし、ディスカッションやディベートを通して深く考え、理解することを目指します。また、受講者各自で研究テーマを設定し、主体的に研究して4年生終了時まで論文を書き上げることを目指します。

## 【到達目標】

本研究会では、(1) 国内環境法の主要分野についての知識を習得すること、(2) 受講者各自で設定した研究テーマについて、よく調べて発表し、皆で議論すること、(3) 学部4年次には、研究会修了論文を提出し、その内容について発表することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

環境法に関する文献講読や判例研究、個人の研究報告とディスカッション、ディベート等の様々な方法で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本研究会のテーマについて解説し、受講者の春学期の報告スケジュールを決定する
第2回	環境行政法 (1)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第3回	環境行政法 (2)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第4回	環境行政法 (3)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第5回	環境行政法 (4)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第6回	環境行政法 (5)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第7回	環境行政法 (6)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第8回	環境行政法 (7)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第9回	環境行政法 (8)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第10回	環境行政法 (9)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第11回	環境行政法 (10)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第12回	ディベート (1)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第13回	ディベート (2)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第14回	まとめ	春学期の復習を行う
第15回	秋学期の研究計画	各受講者の研究テーマについて協議し、報告スケジュールを決定する
第16回	研究報告 (1)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第17回	研究報告 (2)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第18回	研究報告 (3)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第19回	研究報告 (4)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第20回	研究報告 (5)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第21回	研究報告 (6)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第22回	研究報告 (7)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第23回	研究報告 (8)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第24回	研究報告 (9)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第25回	研究報告 (10)	受講者による研究報告とディスカッションを行う

第 26 回	ディベート (1)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 27 回	ディベート (2)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 28 回	まとめ	秋学期の総復習を行い、次年度の研究計画を立てる

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。報告準備にあたっては、事前に文献調査をしっかりと行ってください。適宜、受講生に課題を出すこともあります。

**【テキスト（教科書）】**

北村喜宣『環境法〔第4版〕』（弘文堂、2017年）。

**【参考書】**

大塚直『環境法〔第3版〕』（有斐閣、2010年）。  
淡路剛久、大塚直、北村喜宣編『環境判例百選〔第2版〕』（有斐閣、2011年）。  
その他、必要に応じて研究会中に指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

総合評価（目安としては、平常点85%、課題15%）

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

**【関連の深いコース】**

サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This seminar offers undergraduate students opportunities to acquire knowledge in environmental administrative law and compose graduation theses.

OTR400HA

**研究会 A**

渡邊 誠

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

テーマ：文系の立場から科学技術政策へ向けて多角的に考える「人」と「環境問題」の関連について具体的な事例をもとに幅広く考察し、環境問題の論点や視点の持ち方を研究していきます。科学技術の進歩とは何か？を意識しながらその将来像や政策の方向について考えていきます。参加者同士で調査・報告・討論しながら人間と科学技術の関係性と政策の進め方などについて考察を深めます。具体的な研究内容は授業時に相談しながら選定します。

**【到達目標】**

今日我々が抱えている環境問題を科学技術の進歩の結果としてとらえ、その歴史や役割などを考察し、我々のライフスタイルなどを結びつけながら総合的に考える力を養うことを目標としています。自らが問題・課題を発見し、調査・検討するという体験を通して、自分の意見をしっかりと持ち、説得力のある表現（プレゼンテーション）ができるようになることも目標としています。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

1年間の授業内容はおおむね次の通りです。春学期には主として数名からなるグループを作り調査や討論を進めその研究内容を報告します。さらにゼミ生全員でディスカッションを行うことにより、お互いの問題意識やそれに関わる知識を全員で共有します。秋学期には、各個人が研究テーマを定め、それについて調査・研究を進め、報告と討論を行います。科学技術とその政策に関連する具体事例について調査し多角的に考察を行います。4年生は「研究会修士論文」を提出することを前提としていますが、その中間発表と最終報告も行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	1年間の授業計画についての打ち合わせを行う。
第 2 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行う。
第 3 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行う。
第 4 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行う。
第 5 回	基礎的事項の確認	科学技術とその政策を考察する上で必要な内容を検討する。
第 6 回	基礎的事項の確認	科学技術とその政策を考察する上で必要な内容を検討する。
第 7 回	基礎的事項の確認	科学技術とその政策を考察する上で必要な内容を検討する。
第 8 回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 9 回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 10 回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 11 回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 12 回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 13 回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 14 回	グループ研究の総括	グループ研究のまとめと総合討論を行う。
第 15 回	個人研究のためのガイダンス	テーマ選定のための検討を行う。
第 16 回	個人研究の報告と検討 (2,3年生)	個人研究のテーマと調査内容について報告する。
第 17 回	個人研究の報告と検討 (2,3年生)	個人研究のテーマと調査内容について報告する。
第 18 回	個人研究の報告と検討 (2,3年生)	個人研究のテーマと調査内容について報告する。
第 19 回	卒論の中間報告 (4年生)	研究会修士論文（卒論）の中間報告と質疑応答を行う。
第 20 回	卒論の中間報告 (4年生)	研究会修士論文（卒論）の中間報告と質疑応答を行う。
第 21 回	卒論の中間報告 (4年生)	研究会修士論文（卒論）の中間報告と質疑応答を行う。

第 22 回	個人研究の報告と検討 (2,3 年生)	個人研究の調査内容について報告する。
第 23 回	個人研究の報告と検討 (2,3 年生)	個人研究の調査内容について報告する。
第 24 回	個人研究の報告と検討 (2,3 年生)	個人研究の調査内容について報告する。
第 25 回	個人研究の報告と検討 (2,3 年生)	個人研究の調査内容について報告する。
第 26 回	卒論の最終報告 (4 年生)	研究会修了論文 (卒論) の最終報告と質疑応答を行う。
第 27 回	卒論の最終報告 (4 年生)	研究会修了論文 (卒論) の最終報告と質疑応答を行う。
第 28 回	卒論の最終報告 (4 年生)	研究会修了論文 (卒論) の最終報告と質疑応答を行う。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。グループ研究あるいは個人研究を進めるための調査、検討、資料作成を行うこととします。発表に際してはあらかじめレジュメを作成し提出します。

#### 【テキスト (教科書)】

特に使用しません。

#### 【参考書】

開講時に紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

報告内容および討論参加の積極性など 60%、提出されたレポート内容など 40%。

#### 【学生の意見等からの気づき】

基礎事項などについては、なるべくわかりやすい説明となるよう留意します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションのための PC などは各自用意してください。

#### 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

Theme: Discussion about environmental problems from a viewpoint of the technology evolution

In this seminar we consider human being and environmental problems caused by a result of the evolution of science and technology in our society. The meaning of the "progress" of technology is inquired here. We mainly discuss both of merits and faults for technologies recently developed. Policy studies are introduced here. In the spring semester, students are divided into some groups in this seminar: group study will be held during the period. Discussions based on individual reports will be mainly introduced in the autumn semester. Students should examine realistic examples of technology organized in society and its influence to our living beforehand. In class, they report prepared contents including their own opinions and suggestion. Discussion will be made by all of participants.

OTR400HA

## 研究会修了論文

### 人間環境学部教員

配当年次/単位：4 年 / 2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

A タイプ研究会を原則として 2 年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

#### 【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆することが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

各 A 研究会の中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第 2 回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第 3 回	テーマの設定と構成②	同上
第 4 回	テーマの設定と構成③	同上
第 5 回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第 6 回	資料の収集②	同上
第 7 回	資料の収集③	同上
第 8 回	資料の収集④	同上
第 9 回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第 10 回	情報の整理②	同上
第 11 回	情報の整理③	同上
第 12 回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第 13 回	執筆②	同上
第 14 回	執筆③	同上

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。

#### 【テキスト (教科書)】

各教員が指示する。

#### 【参考書】

各教員が指示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

#### 【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②B タイプ研究会受講者は登録できない。(B タイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write scientific paper based on their research.

OTR400HA

## 研究会 B

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生じた、あるいは生じている様々な問題を素材として、国際平和（国際社会の中の日本、国際紛争の解決、環境問題の改善、人権の保障、よりよい社会の実現）について考える。

## 【到達目標】

自分で設定したテーマについて、徹底的に調べ、研究し、発表し、議論することで、問題解決能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

専門文献講読、事例研究、個人の研究報告、時事問題に関する討論、ディベート等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際平和の追求	ガイダンス
第 2 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 3 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 4 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 5 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 6 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 7 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 8 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 9 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 10 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 11 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 12 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 13 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 14 回	国際平和の追求	グループ発表と討論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。報告者が事前に指定する文献を読み、それに基づいて十分に予習をしておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年。  
小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年。  
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

## 【参考書】

松井芳郎『国際環境法の基本原則』東信堂、2010 年。

## 【成績評価の方法と基準】

発表：30 %  
議論への参加：30 %  
期末レポート：30 %  
ゼミ運営への貢献：10 %

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Participants will discuss international peace focusing on armed conflicts, international environmental issues, human rights etc.

OTR400HA

## 研究会 B

金藤 正直

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 4/Fri.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、ビジネスモデルや企業および地域を主体とした事業（ビジネス）に関する文献の内容分析とともに、それに関連する現地調査（フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査）を通じて、「地域の持続的成長のためのビジネスデザイン」の方法論を学習していくことを目的とする。

## 【到達目標】

本研究会では、経営学や会計学（どちらも基礎レベル）の視点から、企業や地域に根ざしている事業（ビジネス）の現状や問題、また、その問題への解決策を考察し、そうした取組みを通して、経済・経営系の基礎知識、分析能力、論理力などといった社会で活躍していくための基礎的な能力を身につけることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

①著書、論文、報告書、新聞記事などの文献を用いて、秋学期に実施する経営分析に必要な経営学と会計学の基礎基本を学習してもらいます。  
②①の学習が終了した後、チームを再編成し、秋学期に実施する経営分析の対象となる企業（昨年度は飲食店（カフェ））または地域ビジネス（地域固有の産業や企業）を検討し、決定してもらいます。  
③①の学習をもとにしたゼミオリジナルの時系列的分析シートに基づいて、②で決定した企業または地域ビジネスに関する新たな文献のサーベイや、事業関係者への質的調査（アンケート調査やヒアリング調査）を実施し、その企業または地域ビジネスの現状（持続的成長のポイントなど）や問題を明らかにするとともに、その問題への解決策（今後も、持続的に成長していくためのビジネス展開の方法など）を検討し、提案してもらいます。  
④春学期および秋学期での進捗状況や研究・調査の成果は、適宜報告（中間報告・最終報告）するとともに、これをもとにした研究・調査レポートも作成し、提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	研究会の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。 また、各自 1 年間の目標を検討し、設定してもらう。
第 2 回	研究・調査のための諸文献の分析方法 (A)	テキストや他の著書を用いて、主体的に研究・調査していくための方法を説明する。
第 3 回	研究・調査のための諸文献の分析方法 (B)	論文や報告書などを用いて主体的に研究・調査していくための方法を説明する。
第 4 回	諸文献の分析内容の報告・議論①	諸文献の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第 5 回	諸文献の分析内容の報告・議論②	諸文献の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第 6 回	諸文献の分析内容の報告・議論③	諸文献の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第 7 回	諸文献の分析内容の報告・議論④	諸文献の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第 8 回	研究・調査テーマの選定・検討方法	研究・調査テーマ（研究対象とする事業）の選定・検討方法を説明するとともに、実際にその事業を選定し、検討していく作業も行う。
第 9 回	研究・調査テーマの分析方法	第 7 回までの講義内容に基づいて、第 8 回で選定・検討した研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析していくための方法を説明する。
第 10 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論①	研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 11 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論②	研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 12 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論③	研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 13 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論④	研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。

第 14 回	小 括	これまでの報告・議論の内容を整理し、その内容を全員に共有していく。
第 15 回	研究・調査に関する報告会 (A)	春学期中に取り組んだ研究・調査の取組内容を報告し、それを全員で議論する。
第 16 回	研究・調査に関する報告会 (B)	春学期中に取り組んだ研究・調査の取組内容を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第 17 回	現地調査の方法 (A)	現地調査 (フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査) の方法を説明する。
第 18 回	現地調査の方法 (B)	現地調査 (フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査) のための調査票の作成方法を説明するとともに、実際に調査票の作成作業も行う。
第 19 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑤-1	現地調査も加味した研究・調査の方向性を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第 20 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑤-2	現地調査も加味した研究・調査の方向性を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第 21 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑤-3	現地調査も加味した研究・調査の方向性を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第 22 回	製品・商品の生産・販売店の調査 (A)	研究・調査に関連するアンテナショップや施設などに行き、そこでの取組内容について調査する。
第 23 回	製品・商品の生産・販売店の調査 (B)	第 22 回で調査した結果を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第 24 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑥	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ (研究対象とする事業) を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 25 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑦	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ (研究対象とする事業) を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 26 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑧	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ (研究対象とする事業) を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 27 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑨	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ (研究対象とする事業) を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 28 回	総括 研究・調査テーマの検討 内容の整理	これまでの報告・議論の内容を整理し、その内容を全員に共有していくとともに、その内容を研究・調査計画書やそれをもとに作成されるレポートに活かしていく方法を説明する。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to learn the methodology of business design for sustainable growth of the region based on the literature survey and the field survey.

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
本研究会では、諸文献の分析や実践的な取組みを通して、研究・調査テーマの決定、研究・調査の目的・視点・方法、研究・調査に関する先進地域や研究対象地域の選定・検討方法などを学習し、研究会 (A) や今後社会で活躍するための基礎的な能力をしっかりと身に付けていきますので、大変なこともあるかもしれませんが、楽しく前向きに、また、計画的に実施してください。

## 【テキスト (教科書)】

使用するテキストは第 1 回に紹介します。  
また、パワーポイントを用いて報告してもらいますので、レジュメの作成と配布をお願いします。

## 【参考書】

チームあるいはそのメンバーの研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。  
・討論への参加 (発言内容) (20%)  
・報告用配布レジュメの内容 (20%)  
・報告内容 (プレゼンテーション能力) (30%)  
・研究・調査レポート (30%)

## 【学生の意見等からの気づき】

毎年、ゼミ生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用しますので、毎回準備をお願いします。

## 【その他の重要事項】

本研究会は、個人による研究・調査だけではなく、数名のメンバーから構成されるチームでの研究・調査が中心となります。また、調査先の方々、学部外の学生や教員と一緒に勉強会や報告会などのイベントも開催します。そのために、物事を自分で考え、また、積極的かつ意欲的に取り組むことができる能力だけではなく、人と人とのつながりや他人への気配りを大切にできる能力も身につけてください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

OTR400HA

## 研究会 B

北川 徹哉

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エアラインとエアポートの各種業務の詳細を学び、航空交通運輸の発達と命を守ることの重責を知る。

## 【到達目標】

1. 航空産業の性質と経営を説明できる。
2. 空港の歴史と運営業務を説明できる。
3. 航空産業と空港業務の課題と未来を展望できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

テキストを2冊ほど選び、各自の担当部分を決めて春学期は1冊目を、秋学期は2冊目を輪講してゆく。各回の担当者は自分の担当部分を理解して内容をまとめて臨み、発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	テキスト（1）の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明、輪読担当部分の取り決め
第2回	担当部分の発表・質疑応答	1番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第3回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第4回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第5回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第6回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第7回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第8回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第9回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第10回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第11回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第12回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	11番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第13回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	12番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第14回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	13番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第15回	テキスト（2）の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明、輪読担当部分の取り決め
第16回	担当部分の発表・質疑応答	1番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第17回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第18回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第19回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第20回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第21回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第22回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第23回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第24回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第25回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第26回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	11番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

- 第27回 前回の復習、担当部分の発表・質疑応答 12番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
- 第28回 前回の復習、担当部分の発表・質疑応答 13番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。第1～28回：輪読箇所の精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習

## 【テキスト（教科書）】

授業時に指定する。

## 【参考書】

適宜、紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

発表（50%：スライドなどの良好度、説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標1～3への達成度）、議論（50%：説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標1～3への達成度）により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【その他の重要事項】

自分がわからない部分は、ほかの人もわからないものです。わからないことを皆で学ぶのがゼミなのです。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This class is a seminar for learning about aviation business and airport operation.

OTR400HA

## 研究会 B

## 國則 守生

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 2/Tue.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会は、経済学の基礎的な考え方を学びつつ、「良き社会」(good society)を求めて環境政策などを実践するために必要な素養を獲得することを目的とする。同時に、発表・ディスカッションなどの能力を獲得することも目的とする。そのために、具体的な例をもとに、経済学やその周辺の専門分野の考え方の理解・応用を易しいレベルから行う（自分の言葉で理解・判断する能力と他人と協力して問題を解決するチームワーク能力の獲得を図る）。

## 【到達目標】

重要な経済学の基礎的な考え方を集中して学び、環境問題の軽減・解決を含む「よき社会」を考えるために必要な素養を、発表、議論、批判的検討を通じて獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

研究会は演習形式で行う。研究会では、経済学などに関する各種資料・論文などを輪読し、それに関してディスカッションを行う。その際、経済学に関するベーシックで重要な考え方、捉え方をしっかりと身につけるため、お互いの意見交換を重視する。また、毎週サブゼミを実施し、グループで調査・研究・発表を行う。ゼミ合宿ではサブゼミなどで行った調査・研究を発展させ、全体で議論する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方について討議
第 2 回	課題発表	指定された課題図書講読後の発表
第 3 回	文献講読 (1)	報告および討論
第 4 回	文献講読 (2)	報告および討論
第 5 回	文献講読 (3)	報告および討論
第 6 回	文献講読 (4)	報告および討論
第 7 回	文献講読 (5)	報告および討論
第 8 回	文献講読 (6)	報告および討論
第 9 回	文献講読 (7)	報告および討論
第 10 回	文献講読 (8)	報告および討論
第 11 回	文献講読 (9)	報告および討論
第 12 回	文献講読 (10)	報告および討論
第 13 回	文献講読 (11)	報告および討論
第 14 回	春学期総括	春学期学習のまとめ
第 15 回	課題発表	指定された課題図書読書後の発表
第 16 回	文献講読 (12)	報告および討論
第 17 回	文献講読 (13)	報告および討論
第 18 回	文献講読 (14)	報告および討論
第 19 回	文献講読 (15)	報告および討論
第 20 回	文献講読 (16)	報告および討論
第 21 回	文献講読 (17)	報告および討論
第 22 回	文献講読 (18)	報告および討論
第 23 回	文献講読 (19)	報告および討論
第 24 回	文献講読 (20)	報告および討論
第 25 回	文献講読 (21)	報告および討論
第 26 回	文献講読 (22)	報告および討論
第 27 回	文献講読 (23)	報告および討論
第 28 回	秋学期総括	秋学期学習のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
 1) 演習ノートを用意し、毎週、決められた範囲の課題の予習・復習を行う。  
 2) サブゼミに出席する。  
 3) ゼミ合宿に参加する。  
 4) 各種課題を提出する。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

## 【参考書】

必要に応じて、テーマごとに関連資料、論文等を適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (80%) および各人のテーマの取り組み姿勢と提出されたレポート等執筆 (20%) によって総合評価する。無断で研究会を欠席することは厳禁とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

最初の時期にできるだけ各学生の意見が積極的に発せられるように、雰囲気作りに配慮したい。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This seminar deals with how to construct a good society, including the environment. It will cover various real issues to find a concrete agenda. To that goal, the students are encouraged to participate in an active manner.

OTR400HA

## 研究会 B

佐伯 英子

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 3/Thu.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では「身体社会学」の中から医療、ジェンダー、生命倫理に焦点を当てて理解を深めます。2019年度は医療をテーマとし、「正しい」とされる身体とは何か、身体と社会的多様性とはどのような関係があるのか、そして身体の社会的側面を考える際に医療はどのような役割を担うのか、を考えます。

## 【到達目標】

1. 「身体」を社会的観点から捉えることにより新しい知見を得る
2. 各自が設定した研究テーマに沿って調査を行い、卒業時には、研究会修了論文を提出する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

春学期は文献講読を中心に進めます。文献や資料は英語と日本語で書かれたものが約半分ずつになります。秋学期は個人研究に関する発表を中心に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の概要と目標; 年間計画の確認; 自己紹介
第2回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第3回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第4回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第5回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第6回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第7回	個人研究 中間報告	個人研究の調査計画と進捗状況の報告
第8回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第9回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第10回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第11回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第12回	個人研究の発表	進捗状況とこれからの計画について報告
第13回	個人研究の発表	進捗状況とこれからの計画について報告
第14回	春学期のまとめ	これまでの学びのふりかえり; 夏季休暇中の課題の確認; 秋学期の進め方についての説明
第15回	ガイダンス	秋学期の計画について確認
第16回	個人研究の発表 (文献)	報告、質疑応答とディスカッション
第17回	個人研究の発表 (文献)	報告、質疑応答とディスカッション
第18回	個人研究の発表 (文献)	報告、質疑応答とディスカッション
第19回	個人研究の発表 (文献)	報告、質疑応答とディスカッション
第20回	個人研究の発表 (文献)	報告、質疑応答とディスカッション
第21回	個人研究の発表 (文献)	報告、質疑応答とディスカッション
第22回	個人研究の発表 (調査)	研究テーマの調査進捗状況等について発表; 質疑応答
第23回	個人研究の発表 (調査)	研究テーマの調査進捗状況等について発表; 質疑応答
第24回	個人研究の発表 (調査)	研究テーマの調査進捗状況等について発表; 質疑応答
第25回	個人研究の発表 (調査)	研究テーマの調査進捗状況等について発表; 質疑応答
第26回	個人研究の発表 (調査)	研究テーマの調査進捗状況等について発表; 質疑応答
第27回	個人研究の発表 (調査)	研究テーマの調査進捗状況等について発表; 質疑応答
第28回	1年間のまとめ	今年度の学習内容と研究活動のふりかえり

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎週課題となる文献を読み、ディスカッションに備え、質問や意見を用意してきてください。また、個人研究として各自がテーマを決めて調査と発表をすることが求められます。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 30%; 課題 50%; 最終レポート 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用します。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This seminar on the Sociology of the Body focuses on issues surrounding medicine, gender, and bioethics. In the academic year of 2019, we will pay especially close attention to the aspect of medicine and consider questions, including: What is the body that is considered "correct" in our society; What is the relationship between the body and diversity; and what kind of roles does medicine play in social aspects of the body.

OTR400HA

## 研究会 B

佐伯 英子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 2/Fri.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学的視点を養いながら、実践的な社会科学の調査（質的調査）のスキルを身につけるための研究会です。

## 【到達目標】

- 質的調査の方法を学ぶ。
- 英語文献・論文を探し、読み、使いこなせるようになる。
- 各人のテーマに沿って研究計画書を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義、発表、グループディスカッション、グループワークを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の概要と目標; 年間計画の確認; 自己紹介
第 2 回	社会学の「社会の見方」; 質的調査とは何か	ジャーナリズムと社会学; 質的調査と量的調査
第 3 回	個人研究 ワークショップ	何を知りたいか; どのような方法で調べたいか
第 4 回	個人研究に使用する文献 (日本語) の発表	報告、質疑応答とディスカッション
第 5 回	英語文献の探し方 (図書)	図書館にてワークショップ
第 6 回	個人研究に使用する文献 (英文図書) の発表	報告、質疑応答とディスカッション
第 7 回	英語資料の探し方 (新聞、雑誌記事、学術論文)	データベースの使い方
第 8 回	個人研究に使用する文献の発表 (英語論文)	報告、質疑応答とディスカッション
第 9 回	英語論文の読み方	構成を知る; 目的に沿った読み方; 読み方のコツ
第 10 回	半構造インタビュー、フォーカス・グループ	インタビューの依頼; 準備; 手法; ラポール
第 11 回	参与観察	観察の方法; フィールドノートの取り方; 整理方法
第 12 回	テキスト分析	雑誌、新聞、テレビ番組等の内容をどのように社会調査に使うか
第 13 回	質的データの分析方法	データの管理; 整理と分析; コーディング
第 14 回	春学期のまとめ	これまでの学びのふりかえり; 夏季休暇中の課題の確認; 秋学期の進め方についての説明
第 15 回	ガイダンス	秋学期の計画について確認
第 16 回	リサーチクエスション	問いの立て方; 先行研究とのつながり
第 17 回	研究計画書の書き方	内容と構成
第 18 回	先行研究のまとめかた	研究課題との繋げ方
第 19 回	先行研究のまとめについて発表	個人研究のために用意した先行研究のまとめの報告とディスカッション
第 20 回	調査方法のワークショップ	個人研究で使用する調査方法に関するグループワークとグループディスカッション
第 21 回	調査方法についての発表	個人研究で使用する調査方法について発表
第 22 回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答
第 23 回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答
第 24 回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答
第 25 回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答
第 26 回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答
第 27 回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答
第 28 回	1 年間のまとめ	今年度の学習内容と研究活動のふりかえり

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。課題を定められた期間内に仕上げること、文献を読み、報告やディスカッションに備えること、自主的に研究を進めることが求められます。

## 【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

## 【参考書】

適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 20%; 課題 60%; 最終レポート 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使います。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This seminar is designed to have students obtain skills necessary for conducting qualitative social research while cultivating sociological perspectives.

OTR400HA

## 研究会 B

杉戸 信彦

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 2/Tue.2

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然界は時として災害をもたらします。その姿は、われわれの理解と考え方で大きく変わってきます。本研究会では、自然環境（主に地形環境や地震発生環境）と土地条件、土地の歴史などについて、自然災害という側面を重視しながら主に自然地理学的な観点から考え、人間社会のあり方を見つめなおします。

### 【到達目標】

自然環境の地域的差異とその要因、歴史的変遷を説明できる。  
自然と人間のかかわりあい、とくに自然環境が人間社会に与える影響を具体的に記述できる。  
調査法や発表法を身につける。  
地図を活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

座学に加え、課題演習や野外実習や、グループワークを行います。グループワークは、各自テーマや地域を設定して取り組みます。キーワードは、自然環境、自然災害、地形環境、地震、津波、豪雨、火山噴火、気候変動、予測、土地条件、土地利用、ハザードマップ、災害の歴史、土地の歴史、インフラ、防災教育、地域性、メカニズム、歴史的変遷などです。災害の多い日本列島で生きるうえで適切な自然観とはどのようなものかについても考えていきたいと思っています。全体を通じ基礎的な内容を扱います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	趣旨説明
第 2 回	講義	文献等検索法説明、論文の作成法・発表法説明
第 3 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 4 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 5 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 6 回	課題演習	机上作業
第 7 回	野外実習	フィールド巡検
第 8 回	文献講読	意見交換
第 9 回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第 10 回	文献講読	意見交換
第 11 回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第 12 回	文献講読	意見交換
第 13 回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ
第 15 回	ガイダンス	趣旨説明、文献等検索法説明、論文の作成法・発表法説明
第 16 回	グループ研究	テーマや地域の設定
第 17 回	課題演習	机上作業
第 18 回	野外実習	フィールド巡検
第 19 回	文献講読	意見交換
第 20 回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第 21 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 22 回	グループ研究	発表、質疑応答・討論
第 23 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 24 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 25 回	グループ研究	発表、質疑応答・討論
第 26 回	文献講読	意見交換
第 27 回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第 28 回	グループ研究	発表、質疑応答・討論

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
資料の収集・分析や事前調査、発表準備、発表後の整理、追加調査、とりまとめ等を行うこと。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員から配布ほか

### 【参考書】

授業中に紹介

### 【成績評価の方法と基準】

平常点やレポート等の総合評価（100%）。基準は研究会における取り組みの状況や到達目標の達成度等です。

### 【学生の意見等からの気づき】

知識や基礎力、思考力に加え、応用力やスキルをより涵養すべく、詳しく具体的な説明や効果的な進め方を心がけます。

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

### 【Outline and objectives】

Natural phenomena that cause disasters will also occur in the future. However, disaster risk can be minimized by our science, technology, and social activities for disaster prevention. We examine natural environments in the Japanese islands (geomorphic environment, seismogenic environment, and so on), land conditions, and land histories at each site with emphasis on natural disasters, based on physical-geographic approaches, in order to improve our social resilience.

OTR400HA

## 研究会 B

## ストックウェル・エスター

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 2/Mon.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

\* Human Communication \*

Our lives are made up of communication in many different forms. We communicate with people around us not only through verbal language, but also through other forms of communication as well. The ability to communicate effectively is important in university study and in professional life. Differences in culture often have an effect on the way in which we communicate with each other. News and current events are also communicated to us through media such as newspapers, television and the Internet. These concepts will be discussed in this subject.

## 【到達目標】

This course combines both theory and practice, and provides an overview of the different aspects of human communication. We will cover fundamental theories to explain features of interpersonal relationships, groups, organizational relationships, cultural diversity, cultural attitudes, groups and persuasion, mass media, and the effects of the media on receivers. Students will learn to question why some forms of communication work and why others fail. Individual, social and technological aspects of communication are examined from theoretical and practical points of view.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activity, and overview of human communication
第 2 回	Introduction of Communication Studies	Definition of communication / Components of communication / Types of communication
第 3 回	Introduction of Communication Studies	Models of communication / The goal of studying communication
第 4 回	Self, Perception & Communication	What occurs in perception? / How do we perceive others? / What is self-awareness?
第 5 回	Self, Perception & Communication	How does perception affect communication and sense of self?
第 6 回	Verbal Communication	What is language? / Characteristics of language
第 7 回	Verbal Communication	How can language be an enhancement and an obstacle to communication?
第 8 回	Non verbal Communication	What is non-verbal communication? / How are verbal and non-verbal communication related? / What are non-verbal codes?
第 9 回	Non verbal Communication	Why are non-verbal codes difficult to interpret? / How can we improve our non-verbal communication?
第 10 回	Listening & Critical thinking	Misconceptions about listening / The listening process / Four types of listening / Critical listening
第 11 回	Writing Workshop	Planning & writing a short essay
第 12 回	Writing Workshop	Planning & writing an academic paper
第 13 回	Presentation Workshop	Planning & preparing oral presentation / Presentation techniques
第 14 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.

第 15 回	Fundamental Communication Studies	Overview of the course, online activity, and overview of fundamentals of communication
第 16 回	Interpersonal Communication	The nature of communication in interpersonal relationships
第 17 回	Interpersonal Communication	Essential interpersonal communication behaviour / How to improve interpersonal relationships
第 18 回	Small group Communication	The types & functions of small groups / The role of leadership in small groups
第 19 回	Small group Communication	Theoretical approaches to group leadership / Establishing culture in small groups
第 20 回	Intercultural Communication	Various different cultural patterns / Hofstede's characteristics of culture
第 21 回	Intercultural Communication	Potential problems in intercultural communication / Characteristics of different cultures / Strategies for improving intercultural communication
第 22 回	Organizational Communication	Type of organisations & organisational structures / Communication Network
第 23 回	Organizational Communication	Organisational Assimilation / The dark side of workplace communication
第 24 回	Mass Communication	Synchronous communication / Asynchronous communication / CMC and the communication process
第 25 回	Mass Communication	Mass media organisations / Agenda-setting, Gatekeeping, and Social Reality / Theories of media effects
第 26 回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 27 回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 28 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes.

## 【テキスト（教科書）】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

## 【参考書】

Adler, R., & Rodman, G. (2013). Understanding Human Communication (9th Edition). New York: Oxford.

Joseph A. DeVito (2014). Human Communication: The Basic Course (13th Edition). Pearson.

Pearson, J., Nelson, P., Titsworth, S., & Harter, L. (2013). Human Communication. Boston: McGraw Hill.

## 【成績評価の方法と基準】

Students are expected to participate actively in class. Assessment is based on weekly class participation, writing online forum postings, presentations and written assignments. Students will not be assessed on their English language skills, but rather on their knowledge of the content of the classes.

## 【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Our lives are made up of communication in many different forms. We communicate with people around us not only through verbal language, but also through other forms of communication as well. The ability to communicate effectively is important in university study and in professional life. Differences in culture often have an effect on the way in which we communicate with each other. News and current events are also communicated to us through media such as newspapers, television and the Internet. These concepts will be discussed in this subject.

OTR400HA

## 研究会 B

高田 雅之、金藤 正直、渡邊 誠

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 2/Thu.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に千代田区を対象に以下のテーマについて実践的に学ぶことを目的とします。

## ①廃棄物マネジメント

資源循環型都市に向けて、廃棄物の減量及び処理の最適な方法を経営学の視点から考究する。

## ②都市の生物多様性

都市の緑地・水辺がもつ環境保全効果や生物多様性を高めるための方策を生態学の視点から考究する。

## ③温室効果ガスの削減

温室効果ガス排出量を削減する仕組み・技術・配慮などについて①～②を含めて幅広い視点から考究する。

## 【到達目標】

法政大学は 2006 年に千代田区と環境保全活動に関する協力協定を締結しており、それを実践するために、以下の 2 点を到達目標とします。

①千代田区が独自に作成した環境マネジメントシステムである CES（千代田エコシステム）のうち、「個人の環境配慮行動を促進する活動（クラス I）」について研究・提案・実践を行います。

②都市の環境をテーマとした学習を通して、実践的な思考能力、企画立案能力、関係者との調整と協働能力を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

約 3 分の 2 は「廃棄物マネジメント」と「都市の生物多様性」の 2 つのテーマに分かれてそれぞれ研究を行います。残りの 3 分の 1 は合同で「温室効果ガスの削減」の講義や、交流ディスカッション、イベントの企画・準備・実践などを行います。

テーマ別研究（廃棄物と生物多様性）では、千代田区における現状や特性について学ぶとともに、個々人の関心に応じた研究テーマを設定して調査・討論・取りまとめを行い、到達目標に掲げた能力を高めます。

さらに区内のさまざまな関係者と協働し実践活動を行うため、千代田区や CES 推進協議会が開催する環境イベントへの参加と支援、児童館や小学校と連携した環境教育、独自に企画・立案する普及啓発イベントの実施や成果の発信を通して「千代田エコシステム（CES）」の周知・普及に貢献します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	基礎学習（廃棄物・自然）1	テーマに関する基礎知識の習得
第 3 回	基礎学習（廃棄物・自然）2	テーマに関する基礎知識の習得
第 4 回	基礎学習（廃棄物・自然）3	テーマに関する基礎知識の習得
第 5 回	個人学習（廃棄物・自然）1	テーマ設定と全体討議
第 6 回	個人学習（廃棄物・自然）2	テーマ紹介と全体討議
第 7 回	個人学習（廃棄物・自然）3	テーマの進捗と全体討議
第 8 回	個人学習成果発表（廃棄物・自然）	発表と意見交換
第 9 回	環境教育イベント企画 1	子供を対象とした実践企画の検討
第 10 回	環境教育イベント企画 2	子供を対象とした実践企画の準備
第 11 回	温室効果ガス演習 1	基礎的な学習
第 12 回	温室効果ガス演習 2	基礎的な学習、グループ研究
第 13 回	温室効果ガス演習 3	基礎的な学習、グループ発表
第 14 回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第 15 回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第 16 回	温室効果ガス演習 4	実践的な取り組み検討
第 17 回	温室効果ガス演習 5	実践的な取り組みに関する討論
第 18 回	温室効果ガス演習 6	実践的な取り組みの発表
第 19 回	グループ学習（廃棄物・自然）1	テーマ設定と全体討議
第 20 回	グループ学習（廃棄物・自然）2	テーマの進捗と全体討議
第 21 回	グループ学習（廃棄物・自然）3	グループ発表と全体討議
第 22 回	提言の検討（廃棄物・自然）1	グループによる討論

第 23 回	提言の検討（廃棄物・自然）2	グループ間の討論
第 24 回	提言の検討（廃棄物・自然）3	全体討論とブラッシュアップ
第 25 回	研究成果の発表（廃棄物・自然）	提言の発表と意見交換
第 26 回	環境教育イベント企画 3	子供を対象とした実践企画のブラッシュアップ
第 27 回	環境教育イベント企画 4	子供を対象とした実践企画に関する全体討論
第 28 回	年間まとめ	総括講義と意見交換

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各自の研究に係る文献・資料収集、実地調査のほか、共同の活動としてゼミ時間以外に、各種イベントの準備と実施、施設見学や現地調査等を実施します。

## 【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

## 【参考書】

講義において随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：活動参加、学習意欲、受講態度、グループワークや学内外のイベント活動（環境展やエコプロなど）への貢献、ゼミ運営への率先と貢献、提出物の内容と期日遵守等を総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

## 【その他の重要事項】

「環境経営論 I・II」「自然環境政策論 I・II」「環境モデル論 I・II」などの関連する講義科目の履修を推奨します。

## 【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

## 【Outline and objectives】

In this course, students will learn practically the following themes mainly for Chiyoda Ward.

① Waste management : Study optimal methods of waste reduction and treatment from the viewpoint of business administration.

② Urban biodiversity : Study the functions of urban nature and measures for rich biodiversity from the viewpoint of ecology.

③ Reduction of greenhouse gas emissions : Study the mechanisms and technologies to reduce greenhouse gas emissions from a broad perspective.

OTR400HA

## 研究会 B

高橋 五月

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 3/Thu.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Bゼミのテーマは「エスノグラフィーで学ぶ人と環境」です。人間と環境の関係について、文化人類学者たちがエスノグラフィーという調査方法を用いて探求した先行研究を読みながら、学生自らエスノグラフィーを用いたフィールドワークを行い、関心がある問題テーマについて調査研究を行い、調査論文を作成する。

## 【到達目標】

- 1) 人間と環境の関係について、先行研究を通して文化人類学的視点について理解を深める
- 2) エスノグラフィーという文化人類学的調査の基本的な知識を得る
- 3) フィールドワークの実践的なスキルを得る
- 4) 先行研究レビューを参考にしながら調査データを分析し、調査論文にまとめる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

春学期は、先行研究を講読しながら、エスノグラフィーの入門書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自のフィールドワークの準備、調査計画を行う。フィールドワークは各自の調査計画に応じて、夏季・冬季休暇中および学期中に実施する。秋学期は、先行研究を講読し、先行研究レビューを作成しながら、フィールドワークで収集したデータの分析を調査論文としてまとめ、発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介とゼミのテーマ、進め方、課題についての説明、文献講読の発表担当を決める
第 2 回	エスノグラフィー入門 (1)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 3 回	エスノグラフィー入門 (2)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 4 回	エスノグラフィー入門 (3)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 5 回	エスノグラフィー入門 (4)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 6 回	エスノグラフィー入門 (5)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 7 回	エスノグラフィー入門 (6)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 8 回	エスノグラフィー入門 (7)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 9 回	エスノグラフィー入門 (8)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 10 回	エスノグラフィー入門 (9)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 11 回	エスノグラフィー入門 (10)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 12 回	エスノグラフィー入門 (11)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 13 回	エスノグラフィー入門 (12)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 14 回	前期のまとめ	前期のまとめ、各自の調査計画作成を発表、提出する。
第 15 回	ガイダンス	後期の進め方についての説明
第 16 回	調査研究の中間報告 (1)	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する

第 17 回	調査研究の中間報告 (2)	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する
第 18 回	調査研究の中間報告 (3)	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する
第 19 回	調査研究の中間報告 (4)	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する
第 20 回	エスノグラフィー分析 (1)	関連先行研究文献を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第 21 回	エスノグラフィー分析 (2)	参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第 22 回	エスノグラフィー分析 (3)	参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第 23 回	エスノグラフィー分析 (4)	参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第 24 回	エスノグラフィー分析 (5)	参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第 25 回	エスノグラフィー分析 (6)	参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第 26 回	研究成果の発表 (1)	調査論文を発表し、討論する
第 27 回	研究成果の発表 (2)	調査論文を発表し、討論する
第 28 回	研究成果の発表 (3)	調査論文を発表し、討論する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。指定された文献は必ず熟読して演習に臨み、積極的に議論に参加すること。発表担当文献については、事前準備を十分にしておく。調査準備とフィールドワークは各自で学期中及び夏季・冬季休暇中に行う。研究テーマに関連する先行研究文献は教員に相談しながら各自で収集し、読み進め、先行研究レビューを随時アップデートすること。

## 【テキスト（教科書）】

小田博志『エスノグラフィー入門』春秋社（2010）

## 【参考書】

随時授業内でお知らせします

## 【成績評価の方法と基準】

議論への参加（30%）、文献発表（20%）、調査計画、現地調査、調査論文（50%）

## 【学生の意見等からの気づき】

現地調査を自ら計画して遂行するのは苦労も多いですが、楽しさと達成感を得られるということを学生も感じ取ってくれているようで嬉しいです。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This is a seminar course on ethnographic research methods, in which all students are expected to actively engage in class discussions. In addition to learning the basics of ethnography based on a textbook, students will design and conduct individual ethnographic fieldwork and write a paper based on his/her findings.

OTR400HA

## 研究会 B

## 武貞 稔彦、竹本 研史

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 5/Thu.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2019 年度は、途上国、先進国を問わず課題となっている、「不平等」、「格差」をテーマに持続可能な社会のあり方についての議論を深めます。何が「平等」で「格差のない」持続可能な社会とはどのようなものかについて、受講者が深く考えかつ具体的に行動できるようになることを目指します。

## 【到達目標】

本研究会では、(ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ) 自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ) 途上国、先進国を問わず、将来の持続可能な社会の姿を自らの価値観に基づき想像／構想できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関する個人またはグループによる調査とグループディスカッション、c) 参加者の意見表明やプレゼンテーションの機会、からなります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方（予定）について概説する。
第 2 回	何が「問題」か？	「格差問題」に関する基礎文献を読み、何が「問題」なのかについて意見交換する。
第 3 回	誰にとって「問題」か？	「格差問題」に関する基礎文献を読み、誰にとって「問題」なのかについて意見交換する。
第 4 回	グループディスカッション課題 1（身近な格差問題）(1)	「格差問題」に関する基礎文献を読み、身近な格差問題について意見交換する。(1)
第 5 回	グループディスカッション課題 1（身近な格差問題）(2)	「格差問題」に関する基礎文献を読み、身近な格差問題について意見交換する。(2)
第 6 回	グループディスカッション課題 1（身近な格差問題）(3)	「格差問題」に関する基礎文献を読み、身近な格差問題について意見交換する。(3)
第 7 回	グループディスカッション課題 2（日本における格差問題）(1)	「格差問題」に関する基礎文献を読み、日本における格差問題について意見交換する。(1)
第 8 回	グループディスカッション課題 2（日本における格差問題）(2)	「格差問題」に関する基礎文献を読み、日本における格差問題について意見交換する。(2)
第 9 回	グループディスカッション課題 3（先進国における格差問題）(1)	「格差問題」に関する基礎文献を読み、日本以外の先進国における格差問題について意見交換する。(3)
第 10 回	グループディスカッション課題 3（先進国における格差問題）(2)	「格差問題」に関する基礎文献を読み、日本以外の先進国における格差問題について意見交換する。(4)
第 11 回	グループディスカッション課題 4（途上国における格差問題）(1)	「格差問題」に関する基礎文献を読み、途上国における格差問題について意見交換する。(1)
第 12 回	グループディスカッション課題 4（途上国における格差問題）(2)	「格差問題」に関する基礎文献を読み、途上国における格差問題について意見交換する。(2)
第 13 回	グループディスカッション課題 4（途上国における格差問題）(3)	「格差問題」に関する基礎文献を読み、途上国における格差問題について意見交換する。(3)
第 14 回	「格差」とは？「不平等」とは？	春学期の学びの総括を行う。
第 15 回	秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第 16 回	「問題」を「解決する」とは？ (1)	「格差問題」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(1)
第 17 回	「問題」を「解決する」とは？ (2)	「格差問題」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(2)

第 18 回	「問題」の捉え方を学ぶ	「格差問題」に関する基礎文献を読み、「問題」の捉え方—フレミングについて学ぶ。
第 19 回	グループディスカッション課題 5（過去における格差問題）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 20 回	グループディスカッション課題 5（過去における格差問題）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第 21 回	グループディスカッション課題 6（現代における格差問題）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 22 回	グループディスカッション課題 6（現代における格差問題）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第 23 回	グループディスカッション課題 7（途上国における格差問題）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 24 回	グループディスカッション課題 7（途上国における格差問題）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第 25 回	グループディスカッション課題 8（途上国における格差問題）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 26 回	グループディスカッション課題 8（途上国における格差問題）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。(1)
第 27 回	グループディスカッション課題 8（途上国における格差問題）(3)	グループ発表および全体ディスカッション。フィードバックを含む。(2)
第 28 回	年間の学びの総括	「格差」「不平等」について理解できた点、できなかった点を整理し、今後の学びや行動の計画を考案する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。基礎文献、与えられた課題（英文含む）は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定のテキストはありません。

## 【参考書】

研究会において紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

研究会での議論への貢献（70%）、期末レポート（30%）にて評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

過去には、ゼミ生同士のコミュニケーションをより頻繁に行いたいとの意見および、個人としての意見発表のスキル向上への配慮の要望があったことから、人数と時間の制約の中での議論の進め方について留意したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【実務経験のある教員による授業】

担当者（のうち1名）は、途上国への経済協力の実務に携わった経験がある。本研究会においては、貧困削減や格差是正のための支援の経験を通じて得られた知見が活用されている。

## 【Outline and objectives】

This is a seminar on "inequality." Students are expected to take part in group talk and various communications vigorously. Students will be able to understand basic concept on "inequality" and to nurture their values and attitudes towards the act of amending inequality.

OTR400HA

## 研究会 B

谷本 有美子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本テーマは「自治体で働くということ」です。卒業後に自治体で公共政策の担い手となることを目指す学生のために、公務員予備校などで主に学ぶ一次の筆記試験対策とは異なる観点からキャリアデザインを支援する研究会です。またこの研究会における経験を通じて、論述やグループ討議、最終面接などの二次試験以降の対応力を高めること、さらに学生が自治体職員になった場合に必要となる政策形成能力の基礎を身につけることも目的としています。

## 【到達目標】

- 1) 自治体職員のキャリアイメージを形成する
- 2) 自治体職員になるための目的意識を涵養する
- 3) 市民性を備え、広い視野を持って地域課題に対応できる能力への理解を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

現在、自治体で求められている人物像に関する講義、地域課題に関する広い視野やコミュニケーション能力を身につけるための時事問題に関するテーマ討議、ゲストスピーカー（現職の自治体職員等）の講義と対話、地域の課題に取り組んだ自治体の政策事例の検討、特定地域の課題と政策動向に関する調査・新たな政策アイデアの検討と報告、必要に応じ現地調査などを組み合わせていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会の進め方についての説明と、受講者の意見交換を通じて自治体職員に対する各人のイメージを共有する
第 2 回	自治体の政策課題の発見 (1)	最近の報道から自治体に関連しそうな課題を受講生が持ち寄り、グループでその対策アイデアを検討する
第 3 回	自治体の政策課題の発見 (2)	第 2 回の内容を発表し、全体で討議する
第 4 回	自治体職員のミッションとは？	自治体職員が働く現場の事例から、仕事のミッションについて考える
第 5 回	ケース分析「自治体職員の仕事」	ビデオやテキスト等の事例を題材に自治体職員の仕事に必要な能力についてグループで討議、発表する
第 6 回	自治体の現場課題を考える～政策形成思考のトレーニング (1)	自治体現場の最前線の政策課題について、グループディスカッションを通じて解決策を探る
第 7 回	自治体の現場課題を考える～政策形成思考のトレーニング (2)	第 6 回の内容を発表し、全体で討議する
第 8 回	自治体職員（ゲストスピーカー）に聞く (1)	現職の自治体職員をゲストスピーカーとして招き、職務の実際やキャリアについて聞き取りを行う
第 9 回	自治体職員（ゲストスピーカー）に聞く (2)	現職の自治体職員をゲストスピーカーとして招き、職務の実際やキャリアについて聞き取りを行う
第 10 回	自治体職員としてのキャリア形成を考える	前年度受講者から進路選択の実際について聞き取り、キャリア形成について考える
第 11 回	特定自治体の政策調査とキャリアイメージの形成 (1)	受講生各自が仮の志望自治体を選び、関心のある政策を調べて、自身がどのように携わり、キャリアを形成したいかについてのプレゼンテーションを行う
第 12 回	特定自治体の政策調査とキャリアイメージの形成 (2)	第 11 回からプレゼンテーションの続き
第 13 回	特定自治体の政策調査とキャリアイメージの形成 (3)	第 11・12 回からプレゼンテーションの続き
第 14 回	総括討論	学習した内容を振り返りつつ、自治体職員の役割・あるべき姿などについて総括的に討論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

- ・テーマ討論や講義内容に関する事前学習
- ・ゲストスピーカーからの聞き取りのための事前学習
- ・関心を持った自治体の政策や地域資源等についての情報収集

## 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。各回のテーマに応じて、必要な印刷物を配付します。

## 【参考書】

稲継裕昭『地方自治入門』（有斐閣）、今井照『地方自治講義』（ちくま新書）の他、授業内で適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

課題の履行と提出（40%）、参加姿勢（60%）による総合評価とします

## 【学生の意見等からの気づき】

自治体の仕事の実際に触れられる機会を可能な限り提供します。グループ討議で他の受講生と共に学びながら報告内容をまとめる経験を積み、発表の機会を通じてプレゼンテーション技術が向上できるようなサポートをします。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

The basic theme is to work as a civil servant. This seminar helps students who intend to become an actor of public policy in local governments after graduation in designing their work plan from a practical viewpoint. The experience of this seminar will enhance the ability to pass on such as an oral examination, a group discussion, an interview. The second aim is to acquire the basis of policy making ability which is necessary for civil servants at the local government.

OTR400HA

## 研究会 B

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、英語で書かれた基本的な契約書（英米法に基づくもの）を読むための勉強をします。英文契約書の英語は、特殊なものです。そのための基本的な用語や文例を学んでいきます。

## 【到達目標】

受講者の皆さんが、社会に出て国際的に活躍されるときに遭遇する英文契約を読む基礎力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

担当教員が、初歩的な教科書をもとに、英文契約の基本を解説していきます。授業の途中で何回か、教科書にでてくる用語や文例を覚えて頂き、確認する小テストを行います。教科書を終えたのち、現実に用いられている英文契約書（プリント）を用いて、皆さんに読んで頂きます。受講生何名かで構成される班による発表形式を取りたいと思います。難しい箇所は、担当教員が解説いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	英文契約書の背景（1）	国際契約書と英語等
第 2 回	英文契約書の背景（2）	仲裁、準拠法、国際裁判管轄等
第 3 回	契約書の英語（1）	接続詞、助動詞等
第 4 回	契約書の英語（2）	特殊な用語法（1）、小テスト
第 5 回	契約書の英語（3）	特殊な用語法（2）、小テスト
第 6 回	契約書の英語（4）	特殊な用語法（3）、小テスト
第 7 回	契約書の英語（5）	特殊な用語法（4）、小テスト
第 8 回	契約書の英語（6）	売買契約書（1）、小テスト
第 9 回	契約書の英語（7）	売買契約書（2）、小テスト
第 10 回	契約書の英語（8）	売買契約書（3）、小テスト
第 11 回	英文契約の読解（1）	実際の英文契約読解（班による発表）
第 12 回	英文契約の読解（2）	実際の英文契約読解（班による発表）
第 13 回	英文契約の読解（3）	実際の英文契約読解（班による発表）
第 14 回	英文契約の読解（4）	実際の英文契約読解（班による発表）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書で指定された小テストの箇所（一定の長さの条文や単語）を覚えて来て下さい。また、実際の英文契約書の訳を班ごとに発表するときと和訳や説明をしたレジュメの準備をお願いします。

## 【テキスト（教科書）】

宮野準治・飯泉恵美子著『英文契約書の基礎知識』（ジャパンタイムズ社、1997年）、配布プリント。

## 【参考書】

特ありません。

## 【成績評価の方法と基準】

成績は、小テストの合計点（70%）と班による発表評価（30%）により評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

これからも、丁寧に英文契約の読み方を解説していきたいと思っています。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【実務経験のある教員による授業】

大学教員になる以前、企業の国際法務部で、英文契約及び関係する文書を英語で大量に起草してきたことから、読解の対象となる英文契約を説明するときに、なぜそのような表現になるのか、あるいは、自分であればもっと詳細に必要な事項を書き込むといった説明を行うことができる。

## 【Outline and objectives】

In this seminar, we will study for reading basic contracts written in English (based on Anglo-American law). English style and terms written in contracts are very unique. Students will learn basic contract terms and examples.

OTR400HA

## 研究会 B

長峰 登記夫

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 4/Thu.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業生活をとおして労働環境を考える。

## 【到達目標】

前期は労働環境を考える際の基本的な知識の習得をめざし、基本文献の読み合わせをする。後期は自分でテーマを設定して勉強し、その成果を授業で発表し、最終レポートにまとめられるようになることをめざす。こうした学習をとおして、私たちが卒業後就職してからかわる仕事や労働環境のあり方について学ぶと同時に、物事を論理的に考え、作業を計画的に推し進められるようになることをめざす。そこに至る一里塚として、授業内における読み合わせや研究成果の発表、レポートがある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

前期は基本的な知識習得を目的に、基本文献の読み合わせをする。発表者は学習内容をレジュメにまとめて報告する。後期は自分でテーマを設定して勉強し、レジュメにまとめて発表し、最終的にはレポートにまとめる。したがって、前期と後期、それぞれ一人最低1回ずつはレジュメ作成、それに基づいた発表、最終的なレポート提出が義務づけられる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか、等について学習する。年間計画についても説明する。図書館、インターネット、データベース等を利用した専門的な情報収集の仕方について学ぶ。
第 2 回	レジュメ、レポートの書き方1	レジュメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第 3 回	レジュメ、レポートの書き方2	日本の雇用システムの3大特徴とされてきた終身雇用、年功制、企業内組合のうちの終身雇用について学ぶ。
第 4 回	日本の雇用システム 1(終身雇用)	年功賃金と年功昇進に焦点を当てて、年功制について考える。また、それが近年どう変化してきたかについてもみていく。
第 5 回	日本の雇用システム 2(年功賃金・昇進)	日本の雇用慣行のなかでも、企業内組合は最も日本的なシステムだといつよい。企業内組合の組織や機能、海外諸国のそれとのちがいで等についてみていく。
第 6 回	日本の雇用システム 3(企業内組合)	日本の雇用慣行が変化してきた最大の要因の一つが、成果主義的雇用管理の導入である。ここでは成果主義的な賃金や昇進について考える。
第 7 回	日本の雇用システム 4(成果主義的雇用管理)	海外諸国と比較して、日本企業で女性はより大きなハンディを負うとされてきた。それには様々な理由があるが、それは何か、また、均等法施行以来それはどう変化してきたのかについても学ぶ。
第 8 回	日本の雇用システム 5(雇用とジェンダー)	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型として非正規雇用の増大があげられる。ここでは、なぜ非正規雇用が拡大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第 9 回	日本の雇用システム 6(非正規雇用と格差)	日本は先進諸国のなかで労働時間の長さが際立っていた。なぜなのか、その問題はどこに現れているのか、また、それが近年どう変化してきているのか等について学ぶ。
第 10 回	仕事と労働時間 1(労働時間)	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。それと労働時間が関係あるのか、あるとすればいかに関係しているのかについて考える。
第 11 回	仕事と労働時間 2(長時間労働とメンタルヘルス)	最初の注意事項にしたがってレポートが構成されているか、コメントをする。
第 12 回	レポート提示とコメント	

第 13 回	障がい者の就職支援と雇用	障害者差別解消法施行以前からの、障がい者の就職や雇用の実態と現状について学ぶ。
第 14 回	レポート提出とチェック	最終レポートの提出とチェック
第 15 回	大学生の就職 1 (日本の就職の特徴)	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。
第 16 回	大学生の就職 2 (大学生の就職の実態)	現時点で大学生の就職にはどのような問題があるのか、それについて新聞記事や週刊誌の記事等とおして最新の情報を確認する。
第 17 回	前期学習の復習 1 (日本の雇用とは)	前期に行った日本の雇用慣行について総括的なまとめを行い、学生の個別研究につなげる。
第 18 回	前期学習の復習 2 (日本の雇用の新たな流れ)	日本の雇用慣行の何がどう変わったのか、あるいは変わりつつあるのかをみて、日本の雇用慣行の現状について確認し、学生の個別研究につなげる。
第 19 回	学生による研究発表 1	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 20 回	学生による研究発表 2	学生による発表と質疑応答
第 21 回	学生による研究発表 3	学生による発表と質疑応答
第 22 回	学生による研究発表 4	学生による発表と質疑応答
第 23 回	学生による研究発表 5	学生による発表と質疑応答
第 24 回	学生による研究発表 6	学生による発表と質疑応答
第 25 回	学生による研究発表 7	学生による発表と質疑応答
第 26 回	学生による研究発表 8	学生による発表と質疑応答
第 27 回	レポートの仮提出、チェックと指導	最終提出前にレポートの基本的な形式ができてきているか、作成途中のレポートをチェックする。
第 28 回	レポート提出	最終レポートの提出とチェック

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。前期は、毎回指定された文献資料を事前に読んでおくこと、後期は、発表予定者が事前に指示した、発表内容に関連した資料を読んで、議論に参加できるよう準備する。

#### 【テキスト (教科書)】

前期は基本的に本の 1 章や文献資料をコピーして読んでいく。具体的な資料は随時授業で指示する。後期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とする。ただし、後期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

#### 【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣ブックス、神代和欣著『産業と労使』放送大学教育振興会。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、1. 参加姿勢、2. 授業での発表、3. 発表のために作成したレジュメの内容、4. 授業内での議論への参加、5. 最終的に提出されたレポートの内容、6. その他の平常点 (含出席) 等を加味して総合的に行う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生が期限内に指示された作業 (レジュメ作成や報告、レポート作成等) を終えられるよう、指導する。

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

The object of this subject is to provide students with a chance to think about work environments through daily working life after graduation. For that, students will study about various issues relating to employment, discuss them, make a presentation in class and write a final essay. By so doing, students will learn the way of thinking logically about things and perform them according to a plan.

OTR400HA

## 研究会 B

西城戸 誠

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 6/Tue.6

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習は、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの文献を講読し、それぞれの領域の最先端の議論を理解するとともに、実証的な社会学研究を自ら行うための方法論を学ぶことを目的とする。

#### 【到達目標】

本研究会では、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究を集中的に講読し、「環境」「都市」「地域」に対する社会的なさまざまなし、アプローチの特徴を理解することができる。また、実証的な社会学の方法論を学ぶ事ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

研究会参加者の関心に従い、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究 (国内外) を決定し、講読する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションの実施。演習の年間計画を立てる。
第 2 回	文献購読 (1)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 3 回	文献購読 (2)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 4 回	文献購読 (3)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 5 回	文献購読 (4)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 6 回	文献購読 (5)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 7 回	文献購読 (6)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 8 回	文献購読 (7)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 9 回	文献購読 (8)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 10 回	文献購読 (9)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 11 回	文献購読 (10)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 12 回	文献購読 (11)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 13 回	文献購読 (12)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 14 回	講読文献の内容の比較検討 (1)	春学期に講読した文献を比較検討し、実証研究の方法論の検討する。
第 15 回	文献購読 (13)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 16 回	文献購読 (14)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 17 回	文献購読 (15)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 18 回	文献購読 (16)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。

- 第19回 文献購読 (17) 課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
- 第20回 文献購読 (18) 課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
- 第21回 文献購読 (19) 課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
- 第22回 文献購読 (20) 課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
- 第23回 文献購読 (21) 課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
- 第24回 文献購読 (22) 課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
- 第25回 文献購読 (23) 課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
- 第26回 文献購読 (24) 課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
- 第27回 文献購読 (25) 課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
- 第28回 講読文献の内容の比較検討 (2) 秋学期に講読した文献を比較検討し、実証研究の方法論の検討する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。関連文献の講読。および、研究会修了論文執筆に向けた一連の作業 (文献購読、調査、論文執筆等)

**【テキスト (教科書)】**

随時、指定する。

**【参考書】**

随時、指定する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

本演習は火曜日 6 時限目にサブゼミとして延長して実施することがある。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

The aim of this seminar is to understand the latest discussions in the fields of environmental sociology, community sociology, urban sociology, rural sociology. This seminar also offers how to create a research design for sociological empirical study and how to write a research paper.

OTR400HA

**研究会 B**

根崎 光男

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 5/Mon.5

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

近世日本の地域環境について、地域の歴史を調査・研究し、その特徴を文献・フィールドの調査を通して考える。そのために、歴史史料の読解、古文書の解読、グループ学習、フィールド調査、各自の研究発表を行い、環境史研究を深める。

**【到達目標】**

環境史研究のための教養を身につけ、また歴史資料や古文書の読解力を前進させ、自らが設定した課題の解決に向けた取り組みや判明した事柄を説明できる。この延長線上に研究会レポートを提出できるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

この授業は、指定されたテーマに関連した歴史史料・古文書の読解、フィールドの調査、各自の調査・研究に基づく発表、研究レポートの執筆といった一連の作業を、演習形式によって行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明とゼミの進め方の確認を行う。
第2回	史料読解①	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第3回	史料読解②	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第4回	大学周辺フィールド調査①	古地図を持って、大学周辺を探索し、地域の歴史の痕跡の意味を考える。
第5回	史料読解③	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第6回	史料読解④	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第7回	大学周辺フィールド調査②	古地図を持って、大学周辺を探索し、地域の歴史の痕跡の意味を考える。
第8回	史料読解のグループ学習①	指定した課題の調査結果を、グループごとに発表する。
第9回	史料読解のグループ学習②	指定した課題の調査結果を、グループごとに発表する。
第10回	古文書解読①	指定した古文書を解読・分析し、ディスカッションを行う。
第11回	特定テーマ中間発表①	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第12回	特定テーマ中間発表②	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第13回	特定テーマ中間発表③	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第14回	中間発表の総括と課題の検討	中間発表を総括し、新しい課題について意見交換する。
第15回	グループの研究テーマの確認	グループ学習の研究テーマを確認し、秋学期の課題を明確にする。
第16回	史料読解⑤	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第17回	史料読解⑥	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第18回	史料読解⑦	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第19回	史料読解⑧	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第20回	古文書解読②	指定した古文書を解読・分析し、ディスカッションを行う。
第21回	史料読解⑨	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第22回	特定テーマグループ研究発表①	設定した課題の調査結果を、グループごとに発表する。
第23回	特定テーマグループ研究発表②	設定した課題の調査結果を、グループごとに発表する。
第24回	古文書解読③	指定した古文書を解読・分析し、ディスカッションを行う。
第25回	特定テーマ研究発表①	各自の研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

- 第 26 回 特定テーマ研究発表② 各自の研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
- 第 27 回 特定テーマ研究発表③ 各自の研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
- 第 28 回 特定テーマ研究発表④ 各自の研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
配付した歴史史料・古文書を事前に解説・分析する。  
グループ・個人の研究テーマにかかわる文献収集・分析を行う。

#### 【テキスト（教科書）】

プリントを配付する。

#### 【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（70％）、発表・研究レポート（30％）により評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

調査研究の進捗状況を把握するため、必要に応じて面談を行う。

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

Examines the history of the region, and explores the characteristics of the regional environment in the early modern period of Japan through literature reviews and field surveys.

OTR400HA

## 研究会 B

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、企業価値とは何かをテーマに、SDGs、CSR、統合思考、スチュワードシップコード、コーポレートガバナンスコード、ESG 投資（責任投資）など企業活動の非財務情報の重要性に着目して、サステナブル社会で求められる企業像や企業価値について学びます。

#### 【到達目標】

CSR、企業倫理、社会的責任投資、ソーシャルビジネス、環境会計等の基礎知識を習得し、日経新聞・野村証券主催のストックリーグに参加して企業評価とバーチャルトレードを経験します。その成果を基にレポートを作成してコンテストにチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

春学期は、CSR および Business Ethics に関する文献や論文を輪読し、ストックリーグに必要な知識を習得します。秋学期は、チームを編成しストックリーグに参加します。ストックリーグでは CSR 情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの社会的責任投資ファン드를組成しバーチャルトレードを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス ・スケジュール ・ストックリーグ	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要
第 2 回	企業と社会に関する文献 講読①	担当者による報告と全体討議
第 3 回	企業と社会に関する文献 講読②	担当者による報告と全体討議
第 4 回	企業と社会に関する文献 講読③	担当者による報告と全体討議
第 5 回	企業と社会に関する文献 講読④	担当者による報告と全体討議
第 6 回	ストックリーグ 第 1 回テーマ報告	テーマの方向性について報告
第 7 回	ESG 投資文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 8 回	ESG 投資文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 9 回	ESG 投資文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 10 回	ストックリーグ 第 2 回テーマ報告	問題認識と分析手法の報告
第 11 回	ESG 投資文献講読④	担当者による報告と全体討議
第 12 回	財務分析文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 13 回	財務分析文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 14 回	財務分析文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 15 回	ストックリーグ 第 3 回テーマ検討	ファンドテーマ決定企業の調査手法・調査スケジュールの報告
第 16 回	ストックリーグ中間報告 ①	これまでの分析結果の報告
第 17 回	卒業論文中間報告①	卒業論文テーマ・論文構成の発表
第 18 回	ストックリーグ活動①	チームの活動報告
第 19 回	ストックリーグ活動②	チームの活動報告
第 20 回	ストックリーグ活動③	チームの活動報告
第 21 回	ストックリーグ中間報告 ②	ユニバースの発表
第 22 回	ストックリーグ活動④ (企業訪問)	企業ヒアリング
第 23 回	ストックリーグ活動⑤ (企業訪問)	企業ヒアリング
第 24 回	ストックリーグ活動⑥ (企業訪問)	企業ヒアリング
第 25 回	ストックリーグ中間報告 ③	ポートフォリオの完成
第 26 回	卒業論文中間報告③	卒業論文の予備報告
第 27 回	ストックリーグ活動⑦	レポート作成
第 28 回	ストックリーグ活動⑧	レポート作成

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

企業の CSR 活動・財務内容に関する分析や企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。

**【テキスト（教科書）】**

長谷川直哉編著『不連続社会と向き合った企業家の光と陰』文真堂、2019 年  
 長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文真堂、2018 年  
 長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017 年  
 長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文真堂、2016 年  
 日経エコロジー編『ESG 経営ケーススタディ 20』日経 BP 社、2017 年  
 水口剛『ESG 投資』日本経済新聞社、2017 年  
 谷本寛治『責任ある競争力ー CSR を問い直す』エヌティティ出版、2013 年  
 谷本寛治『SRI 社会的責任投資入門』日本経済新聞社、2003 年

**【参考書】**

必要に応じて随時紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（30%）ゼミにおける報告内容および討議への貢献度、企業ヒアリングの取り組み内容  
 レポート（70%）日経ストックリテラチングレポート

**【学生の意見等からの気づき】**

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

**【学生が準備すべき機器他】**

必要に応じてパソコンを使用します。

**【実務経験のある教員による授業】**

**【実務経験】**

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財)国際金融情報センターに出向し、カントリートリスクや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

**【関連資格】**

証券アナリスト検定会員（CMA）

**【Outline and objectives】**

In this seminar we will learn the importance of non-financial information of corporate activities such as SDGs, CSR, integrated thinking, stewardship code, corporate governance code, ESG investment (responsible investment). In addition, we will discuss the corporate image and corporate value required in a sustainable society.

OTR400HA

**研究会 B**

日原 傳

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

中国が直面する環境問題の実態を知り、その解決の方法を考える。

**【到達目標】**

- ・中国の環境問題について理解を深める。
- ・中国の環境問題の解決のために行動する人々の活動状況を知る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

最初の時間に使用する基本テキストについて説明する。その上で、参加者に担当箇所を割り振る。担当者はテキストを精読して、問題点を把握し、他の文献等に当たって可能な限り調べて報告する。それを踏まえて、皆で議論を行なう。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	テキストについて	基本テキスト及び関連資料の説明。
第 2 回	文献講読	テキスト輪読
第 3 回	文献講読	テキスト輪読
第 4 回	文献講読	テキスト輪読
第 5 回	文献講読	テキスト輪読
第 6 回	文献講読、発表	テキスト輪読、発表
第 7 回	文献講読、発表	テキスト輪読、発表
第 8 回	文献講読、発表	テキスト輪読、発表
第 9 回	文献講読、発表	テキスト輪読、発表
第 10 回	文献講読、発表	テキスト輪読、発表
第 11 回	文献講読、発表	テキスト輪読、発表
第 12 回	文献講読、発表	テキスト輪読、発表
第 13 回	文献講読、発表	テキスト輪読、発表
第 14 回	総合討論	研究会活動の振り返り

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
- ・テキストの該当箇所を下読みし、議論の種を見つけておく。
- ・担当者は担当箇所に関して、可能な限り調べ、レジュメを作成する。

**【テキスト（教科書）】**

開講時に指示します。

**【参考書】**

授業の進行に合わせて、随時紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（授業への参加態度・発表）70%  
 最終レポート 30%

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度内容を新たにしたのでアンケートを実施していません。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Chinese environmental problems.

OTR400HA

## 研究会 B

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 3/Tue.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2019 年度は「食からみた社会」について調べ、考え、議論します。

## 【到達目標】

この研究会では「地域」や「社会」について「食」や「食べること」をキーワードとして考えます。①関連する文献や書籍を精読し、②自らの「問い」を立て、③主体的に調べ（フィールドワークや資料分析）、④リサーチペーパーを作成することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

受講者の問題関心によって演習の方法は適宜調整しますが、基本的には①文献・書籍の精読と研究会全体の議論、②テーマ「食からみた社会」についてのグループワークとフィールドワーク、③リサーチペーパーの作成と報告を、段階的に進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（春）	研究会の進め方の説明、研究会メンバーの自己紹介、年間計画の相談をする
第 2 回	「学び問う」、「調べ考える」ことについて	研究を進めるにあたっての心構え、方法などについて概説する
第 3 回	基礎文献購読と報告（1）	「食からみた社会」に関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 4 回	基礎文献購読と報告（2）	「食からみた社会」に関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 5 回	基礎文献購読と報告（3）	「食からみた社会」に関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 6 回	基礎文献購読と報告（4）	「食からみた社会」に関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 7 回	基礎文献購読と報告（5）	「食からみた社会」に関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 8 回	食のフィールドワーク（第 1 回）	研究会全体でミニフィールドワークを実施する
第 9 回	調査計画の報告（1）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 10 回	調査計画の報告（2）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 11 回	調査計画の報告（3）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 12 回	調査計画の報告（4）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 13 回	調査計画の報告（5）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 14 回	研究会（春）のまとめ	春学期の総括と秋学期の課題を話し合う
第 15 回	オリエンテーション（秋）	秋学期の研究会の進め方について話し合う
第 16 回	食のフィールドワーク（第 2 回）	研究会全体でミニフィールドワークを実施する
第 17 回	グループ研究報告とディスカッション（1）	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 18 回	グループ研究報告とディスカッション（2）	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する

第 19 回	グループ研究報告とディスカッション（3）	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 20 回	グループ研究報告とディスカッション（4）	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 21 回	グループ研究報告とディスカッション（5）	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 22 回	個別研究についての報告（1）	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する
第 23 回	個別研究についての報告（2）	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する
第 24 回	個別研究についての報告（3）	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する
第 25 回	個別研究についての報告（4）	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する
第 26 回	個別研究についての報告（5）	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する
第 27 回	個別研究についての報告（6）	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する
第 28 回	年間のふりかえりとまとめ	「食からみた社会」という共通テーマについて得られた知見と課題について議論する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。自らの問題意識に関わる論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれを収集整理、熟読し、自分のオリジナリティに自覚的になることを目指してください。また、文献などだけでなく自分の 5 感でフィールドワークを体感してみてください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

## 【参考書】

・適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

文献購読報告（30 %）、グループ調査計画（20 %）、グループ研究報告（30 %）、個別研究計画報告（20 %）を総合して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

新年度からの開講なので、特にありません。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【その他の重要事項】

特にありません。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

In 2019, I will investigate, think and discuss about "the society as seen from food and eating".

OTR400HA

## 研究会 B

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域経済、人文地理学、歴史学、民俗学、文化人類学などの視点から興味があるテーマを調べ、考え、議論します。受講生の問題関心に合わせて、2019 年度の「研究会共通テーマ」を決定します。

## 【到達目標】

この研究会では受講者でテーマを決定し、それをキーワードとして考えます。①関連する文献や書籍を精読し、②自らの「問い」を立て、③主体的に調べ（フィールドワークや資料分析）、④リサーチペーパーを作成することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

受講者の問題関心によって演習の方法は適宜調整しますが、基本的には①文献・書籍の精読と研究会全体の議論、②テーマについてのグループワークとフィールドワーク、③リサーチペーパーの作成と報告を、段階的に進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（春）	研究会の進め方の説明、研究会メンバーの自己紹介、年間計画の相談をする
第 2 回	「学び問う」、「調べ考える」ことについて	研究を進めるにあたっての心構え、方法などについて概説した後、研究会メンバーで共通テーマを決める
第 3 回	基礎文献購読と報告（1）	関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 4 回	基礎文献購読と報告（2）	関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 5 回	基礎文献購読と報告（3）	関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 6 回	基礎文献購読と報告（4）	関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 7 回	基礎文献購読と報告（5）	関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 8 回	春のフィールドワーク	研究会全体で身にフィールドワークを実施する
第 9 回	基礎文献購読と報告（1）	関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 10 回	基礎文献購読と報告（2）	関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 11 回	基礎文献購読と報告（3）	関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 12 回	基礎文献購読と報告（4）	関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 13 回	基礎文献購読と報告（5）	関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 14 回	研究会（春）のまとめ	春学期の総括と秋学期の課題を話し合う
第 15 回	オリエンテーション（秋）	秋学期の研究会の進め方について話し合う
第 16 回	調査計画の報告（1）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 17 回	調査計画の報告（2）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 18 回	調査計画の報告（3）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 19 回	調査計画の報告（4）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する

第 20 回	調査計画の報告（5）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 21 回	秋のフィールドワーク	研究会全体で身にフィールドワークを実施する
第 22 回	グループ研究報告とディスカッション（1）	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 23 回	グループ研究報告とディスカッション（2）	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 24 回	グループ研究報告とディスカッション（3）	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 25 回	グループ研究報告とディスカッション（4）	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 26 回	グループ研究報告とディスカッション（5）	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 27 回	個別研究テーマの報告	個人ごとに研究テーマを報告し、議論する
第 28 回	年間のふりかえりとまとめ	共通テーマについて得られた知見と課題について議論する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。自らの問題意識に関わる論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれを収集整理、熟読し、自分のオリジナリティに自覚的になることを目指してください。また、文献などだけでなく自分の 5 感をフィールドワークを体感してみてください。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

## 【参考書】

適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

文献購読報告（30%）、グループ調査計画（20%）、グループ研究報告（30%）、個別研究計画報告（20%）を総合して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

2019 年度から開講なので特にありません。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【その他の重要事項】

特にありません。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

We study, think and discuss topics of interest from the viewpoints of local economy, humanities geography, historical studies, folklore studies, cultural anthropology and so on. In accordance with the students' problem concerns, we will decide the "research theme shared theme" in 2019.

OTR400HA

## 研究会 B

## 横内 恵

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

動物にも、人間と同じような法的権利が認められるのか。動物の“権利”保護において、平等はあるのか。動物は、訴訟の原告になりうるのか。このような問題について、参加者全員で文献を講読しながら議論を行う。

## 【到達目標】

「動物の権利」について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

受講者が事前に課題文献の該当箇所を熟読し、その上で、その内容についてディスカッションを行う。なお、ディスカッションに入る前に、報告者が、課題文献の該当箇所の概要について報告を行い、内容を確認することとします。学期末には、課題文献の内容をもとにディベートのテーマを設定して、ディベートを行う。毎回、受講者全員が積極的な姿勢で参加することが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本研究会のテーマについて解説し、課題文献を決定する
第 2 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 3 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 4 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 5 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 6 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 7 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 8 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 9 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 10 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 11 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 12 回	ディベート (1)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 13 回	ディベート (2)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 14 回	春学期まとめ	春学期の総復習を行う
第 15 回	オリエンテーション	春学期の復習をし、秋学期の課題文献を決定する
第 16 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 17 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 18 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 19 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う

第 20 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 21 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 22 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 23 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 24 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 25 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 26 回	ディベート (1)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 27 回	ディベート (2)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 28 回	まとめ	1 年間の復習を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、報告担当者だけでなく全受講者が、課題文献を熟読してください。課題文献に関連して紹介された参考文献についても、適宜、読んでもらいます。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて指定します。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

総合評価（目安としては、平常点 70%、課題 30%）

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This seminar is designed to explore animal rights.

OTR400HA

## 研究会 B

吉永 明弘

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 2/Thu.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメニティマップづくりを通して都市の環境倫理を学ぶ

## 【到達目標】

アメニティマップづくりを通して、身近な環境の理解を深めるとともに、残すべき環境、直すべき環境について議論することで、環境に関する社会規範を具体的に考えられるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

文献講読とアメニティマップ作りを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介と、研究会の進め方について
2	文献講読（1）欧米の環境倫理	欧米の環境倫理についての箇所を読む
3	文献講読（2）日本の環境倫理	日本の環境倫理についての箇所を読む
4	文献講読（3）場所論	場所論についての箇所を読む
5	文献講読（4）風土論	風土論についての箇所を読む
6	文献講読（5）都市の持続可能性	都市の持続可能性についての箇所を読む
7	文献講読（6）都市における自然	都市のなかの自然に関する箇所を読む
8	文献講読（7）都市のアメニティ	都市のアメニティについての箇所を読む
9	アメニティマップの作り方（模造紙）	アメニティマップの作り方（模造紙）を説明し、作成例を紹介する
10	フィールドワーク（1）	地図を片手にまちあるきを行う
11	フィールドワーク（2）	地図を片手にまちあるきを行う
12	フィールドワーク（3）	地図を片手にまちあるきを行う
13	アメニティマップの作成	各自の地図の情報を一枚の大きな地図にまとめる
14	アメニティマップの結果	完成したアメニティマップを見ながら議論する
15	アメニティマップの作り方（電子版）	アメニティマップ（電子版）の作り方を説明し、作成例を紹介する
16	フィールドワーク（4）	地図を片手にまちあるきを行う
17	フィールドワーク（5）	地図を片手にまちあるきを行う
18	フィールドワーク（6）	地図を片手にまちあるきを行う
19	アメニティマップの作成	電子データ上にアメニティマップを各自で作る
20	発表（1）	各自がつくったアメニティマップについて発表する
21	発表（2）	各自がつくったアメニティマップについて発表する
22	発表（3）	各自がつくったアメニティマップについて発表する
23	発表（4）	各自がつくったアメニティマップについて発表する
24	発表（5）	各自がつくったアメニティマップについて発表する
25	発表（6）	各自がつくったアメニティマップについて発表する
26	ディスカッション（1）	アメニティマップの利用可能性について議論する
27	ディスカッション（2）	アメニティマップが環境倫理の形成にどのように活用されるかを議論する
28	ディスカッション（3）	この研究会から得たものについて議論する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
身近な環境の変化に日ごろから注意しておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014 年

## 【参考書】

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017 年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018 年

## 【成績評価の方法と基準】

文献講読（50%）、マップ製作（50%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Environmental Ethics from Making Amenity-map.

OTR400HA

## 研究会 B

吉永 明弘

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 3/Thu.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市という身近な環境を舞台にした環境倫理について学ぶ。倫理学、環境倫理学、および幅広い環境問題についての文献を読んでいく。あわせてプレゼンテーションの訓練を行う。

## 【到達目標】

身の回りの環境について観察し、自分なりの「良い環境」についての意見をもち、他者にそれを分かりやすく提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

文献講読と発表が中心となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介と、研究会の進め方について
2	文献講読（1）現代倫理学	現代倫理学に関する文献を読む
3	文献講読（2）欧米の環境倫理	欧米の環境倫理に関する文献を読む
4	文献講読（3）グローバルな環境倫理	グローバルな環境倫理に関する文献を読む
5	文献講読（4）ローカルな環境倫理	ローカルな環境倫理に関する文献を読む
6	文献講読（5）科学技術の倫理	科学技術の倫理に関する文献を読む
7	文献講読（6）公害と環境正義	公害と環境正義に関する文献を読む
8	文献講読（7）自然保護から生物多様性保全へ	自然保護と生物多様性保全に関する文献を読む
9	文献講読（8）環境問題と社会科学	環境問題に関する社会科学の文献を読む
10	文献講読（9）環境論を問いなおす	環境論に批判的な文献を読む
11	文献講読（10）地域環境保全と市民の力	地域環境保全と市民運動に関する文献を読む
12	文献講読（11）場所論と風土論	場所論と風土論に関する文献を読む
13	文献講読（12）景観保全と都市環境	景観保全と都市環境に関する文献を読む
14	文献講読（13）都市の環境倫理をめざして	都市の環境倫理に関する文献を読む
15	プレゼンテーションの心得	プレゼンテーションの際の留意事項を説明する
16	プレゼンテーション（1）	現代倫理学に関する発表を行う
17	プレゼンテーション（2）	欧米の環境倫理に関する発表を行う
18	プレゼンテーション（3）	グローバルな環境倫理に関する発表を行う
19	プレゼンテーション（4）	ローカルな環境倫理に関する発表を行う
20	プレゼンテーション（5）	科学技術の倫理に関する文献を読む
21	プレゼンテーション（6）	公害に関する発表を行う
22	プレゼンテーション（7）	自然保護に関する発表を行う
23	プレゼンテーション（8）	環境論に対する批判についての発表を行う
24	プレゼンテーション（9）	地域環境保全と市民運動に関する発表を行う
25	プレゼンテーション（10）	場所論に関する発表を行う
26	プレゼンテーション（11）	風土論に関する発表を行う
27	プレゼンテーション（12）	景観保全と都市環境に関する発表を行う
28	まとめ	この研究会で得たものについて話し合う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

## 【テキスト（教科書）】

吉永明弘『ブックガイド 環境倫理』勁草書房、2017 年

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014 年

## 【参考書】

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018 年

## 【成績評価の方法と基準】

文献講読（50%）と発表（50%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Urban Environmental Ethics

OTR400HA

## 研究会 B

渡邊 誠

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 4/Tue.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ:科学技術社会について考える（書籍・文献等の講読を中心に）  
 科学技術社会を考えるための素養を身に付けることを目標に、様々な書籍、文献、新聞などの講読を行います。またそれにもとづいて各自の関心のあるテーマについての報告と討論を行うことにより、コミュニケーション力を修得します。科学技術の意義と役割、歴史、様々な問題点と将来像などについて考察し政策との関連について考えます。環境問題をより深く眺め、諸学問分野の垣根を超えた学際的な発想ができるようになることを目指します。

## 【到達目標】

幅広く具体的な内容に触れながら科学技術という断面から人と社会についてより深く考えることができるようになることが目標です。この研究会は理科系の学生向けに開設されたものではありません。科学とは何か？ 科学技術とは何か？ を文系の立場から考察し、科学技術政策を模索、決定し遂行するための方法などについて考えることを目指します。新聞あるいは雑誌、各種統計資料を含む様々な情報を読み解くことができるようになることも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

幾つかの書籍を講読しその内容について報告します。また新聞、雑誌、その他各種資料を参考にして、各自の関心のあるテーマについて報告し討論します。少人数教室での質疑応答、意見交換、ディスカッションなどを経験することにより、自分が自らの意見を持ち、説得力のある主張を展開していくための力を身に付けたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明と進め方の確認を行う。
第 2 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとにディスカッションを経験する。
第 3 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとにディスカッションを経験する。
第 4 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとにディスカッションを経験する。
第 5 回	輪講	書籍等の講読を行い内容を報告する。
第 6 回	輪講	書籍等の講読を行い内容を報告する。
第 7 回	輪講	書籍等の講読を行い内容を報告する。
第 8 回	輪講	書籍等の講読を行い内容を報告する。
第 9 回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告と討論を行う。
第 10 回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告と討論を行う。
第 11 回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告と討論を行う。
第 12 回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告と討論を行う。
第 13 回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告と討論を行う。
第 14 回	総括	春学期の授業内容についての総合討論を行う。
第 15 回	個人研究のためのガイダンス	研究テーマ選定および研究遂行のための考え方について。
第 16 回	個人研究のテーマ検討	テーマ内容の検討を行う。
第 17 回	個人研究のテーマ検討	テーマ内容の検討を行う。
第 18 回	個人研究のテーマ検討	テーマ内容の検討を行う。
第 19 回	個人研究のテーマ検討	テーマ内容の検討を行う。
第 20 回	個人研究のテーマ検討	テーマ内容の検討を行う。
第 21 回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第 22 回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第 23 回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第 24 回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第 25 回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第 26 回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。

第 27 回 総括（1）

共通テーマを設定し総合討論を行う。

第 28 回 総括（2）

共通テーマを設定し総合討論を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
 書籍、各種資料の内容把握と文献収集、事前調査、報告のための資料作成などを行います。

## 【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

## 【参考書】

開講時に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

報告内容および討論参加の積極性など 60%、提出されたレポート内容など 40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

文系の立場であるということに常に意識して、わかりやすい説明となるよう留意します。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Theme: Reading of literature concerning technology and society

In this seminar we read related literature or material concerning our society with technology evolution. We consider the meaning of the progress of technology and its relation to society. Students should find their own theme interested and read related materials beforehand. Themes are accepted widely within the areas not only for natural science but also for other fields of science. In class they introduce referred materials and their opinions. Discussion will be made by all of participants.

OTR400HA

## 研究会 B

渡邊 誠、小島 聡

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

In this seminar we consider the problems concerning human being and society. Image of sustainable society in future is discussed here. This seminar is opened in the spring semester. Participants are limited only for students who enter this faculty through the entrance examination for lifelong-learning persons. One of the objectives of this seminar is to build a community among them. Students introduce not only related literature and materials but also their own opinions in class. Discussion will be made by all of participants.

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：人と社会について考える

この科目は社会人学生を対象とした半期ごとのゼミナールです。春学期と秋学期の両方を履修することも可能です。社会人学生同士が親交を深め合うことによって、新しいコミュニティをつくることをひとつの目的としています。授業では、人と社会の問題について幅広い観点から多角的に考えていきます。社会人である皆さんがこれまで経験してきたことや現在興味を持っている内容をもとにこのテーマについて考えます。必要に応じて、書籍や文献、関連資料、新聞記事などについて読み合わせすることも含めます。

## 【到達目標】

人、自然、社会などの問題について総合的に考える力を身に付けます。複眼的な見方によって問題を分析し、新しいアイデアを提案できる力を修得します。コース修了論文を執筆することができる基礎力を身に付けることも目標としています。（コース修了論文は研究会 A に所属していない方が執筆対象となります。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

参加者による討論を行います。具体的な参考事例を紹介してもらい、これをもとに検討を進めます。教員がテーマ設定することもあります。参加者との相談により、例えば千代田区などの近くのフィールドに出向いて現地研究を進めるミニ・フィールドスタディも行う可能性があります。以下の授業計画は大まかな流れを示しているものであり、回毎のテーマは入れ替わる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	自己紹介、本研究会の進め方の説明など
第 2 回	導入ディスカッション 1	共通テーマをもとにした討論体験
第 3 回	導入ディスカッション 2	共通テーマをもとにした討論体験
第 4 回	研究テーマの検討	研究テーマの検討と選定
第 5 回	文献・資料等の輪読	書籍、論文、各種資料、新聞などの輪読
第 6 回	テーマ研究・論点整理 1	事例研究とその報告、討論
第 7 回	テーマ研究・論点整理 2	事例研究とその報告、討論
第 8 回	研究テーマの検討	研究テーマの検討と選定
第 9 回	文献・資料等の輪読	書籍、論文、各種資料、新聞などの輪読
第 10 回	テーマ研究・論点整理 1	事例研究とその報告、討論
第 11 回	テーマ研究・論点整理 2	事例研究とその報告、討論
第 12 回	プレゼンテーション技法 と論文表現 1	レポート、論文、発表資料などのまとめ方について
第 13 回	プレゼンテーション技法 と論文表現 2	レポート、論文、発表資料などのまとめ方について
第 14 回	総括	本科目のまとめと総合討論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で報告する内容を準備すること。

## 【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

## 【参考書】

開講時に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業参加時の積極性 60%、提出されたレポートの内容 40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

参加する皆さん同士の親交を深めることができるような雰囲気作りに努めたいと考えています。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Theme: Consideration about human being and society

OTR400HA

## 研究会 B

渡邊 誠、小島 聡

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

In this seminar we consider the problems concerning human being and society. Image of sustainable society in future is discussed here. This seminar is opened in the autumn semester. Participants are limited only for students who enter this faculty through the entrance examination for lifelong-learning persons. One of the objectives of this seminar is to build a community among them. Students introduce not only related literature and materials but also their own opinions in class. Discussion will be made by all of participants.

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：人と社会について考える

この科目は社会人学生を対象とした半期ごとのゼミナールです。春学期と秋学期の両方を履修することも可能です。社会人学生同士が親交を深め合うことによって、新しいコミュニティをつくることをひとつの目的としています。授業では、人と社会の問題について幅広い観点から多角的に考えていきます。社会人である皆さんがこれまで経験してきたことや現在興味を持っている内容をもとにこのテーマについて考えます。必要に応じて、書籍や文献、関連資料、新聞記事などについて読み合わせすることも含めます。

### 【到達目標】

人、自然、社会などの問題について総合的に考える力を身に付けます。複眼的な見方によって問題を分析し、新しいアイデアを提案できる力を修得します。コース修了論文を執筆することができる基礎力を身に付けることも目標としています。（コース修了論文は研究会 A に所属していない方が執筆対象となります。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

参加者による討論を行います。具体的な参考事例を紹介してもらい、これをもとに検討を進めます。教員がテーマ設定することもあります。参加者との相談により、例えば千代田区などの近くのフィールドに出向いて現地研究を進めるミニ・フィールドスタディも行う可能性があります。以下の授業計画は大まかな流れを示しているものであり、回毎のテーマは入れ替わる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	自己紹介、本研究会の進め方の説明など
第 2 回	導入ディスカッション 1	共通テーマをもとにした討論体験
第 3 回	導入ディスカッション 2	共通テーマをもとにした討論体験
第 4 回	研究テーマの検討	研究テーマの検討と選定
第 5 回	文献・資料等の輪読	書籍、論文、各種資料、新聞などの輪読
第 6 回	テーマ研究・論点整理 1	事例研究とその報告、討論
第 7 回	テーマ研究・論点整理 2	事例研究とその報告、討論
第 8 回	研究テーマの検討	研究テーマの検討と選定
第 9 回	文献・資料等の輪読	書籍、論文、各種資料、新聞などの輪読
第 10 回	テーマ研究・論点整理 1	事例研究とその報告、討論
第 11 回	テーマ研究・論点整理 2	事例研究とその報告、討論
第 12 回	プレゼンテーション技法 と論文表現 1	レポート、論文、発表資料などのまとめ方について
第 13 回	プレゼンテーション技法 と論文表現 2	レポート、論文、発表資料などのまとめ方について
第 14 回	総括	本科目のまとめと総合討論

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で報告する内容を準備すること。

### 【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

### 【参考書】

開講時に紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業参加時の積極性 60%、提出されたレポートの内容 40%。

### 【学生の意見等からの気づき】

参加する皆さん同士の親交を深めることができるような雰囲気作りに努めたいと考えています。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

### 【Outline and objectives】

Theme: Consideration about human being and society

MAN200HA

## 現代企業論

長谷川 直哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済社会システムにおける企業活動の意義・役割を理解することは経営学の基本です。本講義では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球環境問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、知識集約型社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

## 【到達目標】

ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社制度と様々な経営課題に立ち向かう企業の姿勢を理解し、社会的器官としての企業の役割に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（ナレッジマネジメント、コーポレートガバナンス等）に関する基本理論と事例を取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の全体像
第2回	企業とは何か	株式会社の誕生と発展
第3回	製品・サービスの提供	市場における優位性の獲得
第4回	株式会社の仕組みと課題	株式会社は誰のものか
第5回	大企業の機能と専門経営者の誕生	所有と経営の分離
第6回	企業規模の拡大と組織	規模の利益と経営の効率化
第7回	日本の経営の構造	企業統治の仕組み
第8回	経営管理の理念と機能	日本の経営の成果と課題
第9回	ICT・IoTと企業経営	マネジメントの実践
第10回	特別講義	先端技術の活用と経営変革
第11回	競争戦略とマネジメント	学外の企業関係者による講義
第12回	製品開発戦略	市場競争力の源泉
第13回	製品開発戦略	製品開発のコンセプトとプロセス
第14回	株式市場と企業価値	企業と投資家の関係
第15回	SDGsとESG投資	持続可能な開発目標と企業経営の未来
第16回	企業間競争ケーススタディ	飲料メーカーの競争戦略

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけてどのような戦略的行動をとろうとしているのか考えてみましょう。

## 【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

## 【参考書】

長谷川直哉編著『不連続社会と向き合った企業家の光と陰』文真堂、2019年  
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂、2018年  
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017年  
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文真堂、2016年  
佐久間信夫『よくわかる企業論 [第2版]』ミネルヴァ書房、2016年  
井原久光『テキスト経営学—基礎から最新の理論まで 第3版』ミネルヴァ書房、2008年

## 【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：15%  
期末試験：85%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

## 【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財)国際金融情報センターに出向し、カントリリストや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

## 【関連視角】

証券アナリスト検定会員（CMA）

## 【Outline and objectives】

Understanding the significance and role of corporate activities in economic and social systems is fundamental to business science. Based on changes in the external environment such as the end of mass production and mass consumption, the seriousness of global environmental problems, and the growing interest in corporate social responsibility, this lecture will focus on various contemporary issues surrounding enterprises, I will outline the way of management.

PHL200HA

## 現代思想と人間 I

## 竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：現代社会哲学・思想

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものである。そこで本講義では、現代社会思想の文献や、映画作品、絵本、マンガ、文学作品、美術作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討する。

## 【到達目標】

人間環境学部の学生として、さまざまな学問領域で「サステナビリティ」に関する学習を進めていくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握する。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないますが、授業中ならびにリアクションペーパー提出による質疑+次回授業での応答など、インタラクティブな授業になるように心がける。

単に思想内容の解説だけでなく、当該文献の抜粋を配布したり、映像や写真などの視覚教材も用いたりする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	個人の自由と反植民地主義 (1)	ジャン=ポール・サルトルの思想 (1) 『存在と無』を中心に
第2回	個人の自由と反植民地主義 (2)	ジャン=ポール・サルトルの思想 (2) 『弁証法的理性批判』を中心に
第3回	個人の自由と反植民地主義 (3)	ジャン=ポール・サルトルの思想 (3) 『ユダヤ人問題についての考察』、『黒いオルフェ』を中心に ハンナ・アーレントの思想 (1) —— 『全体主義の起源』を中心に
第4回	個人の自由と反植民地主義 (4)	フランツ・ファノンの思想——『地に呪われた者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に
第5回	フェミニズムの思想 (1)	オラン・ド・グージュ、メアリ・ウルストンクラフト、J・S・ミルの思想を中心に
第6回	フェミニズムの思想 (2)	シモーヌ・ド・ボーヴォワールの思想——『第二の性』を中心に
第7回	全体主義批判と人間性の問題 (1)	フランク・パヴロフ『茶色の朝』、フロリアン・ヘンケル・フォン・ドナースマルク『善き人のためのソナタ』を中心に
第8回	全体主義批判と人間性の問題 (2)	ハンナ・アーレントの思想 (1) —— 『全体主義の起源』を中心に
第9回	全体主義批判と人間性の問題 (3)	ハンナ・アーレントの思想 (2) —— 『エルサレムのアイヒマン』、クロード・ランズマン『シヨア』、ロニー・ブローマン/エイアル・シヴァン『スペシャリスト』を中心に
第10回	全体主義批判と人間性の問題 (4)	ハンナ・アーレントの思想 (3) —— 『人間の条件』、『革命について』を中心に
第11回	規律と権力 (1)	ミシェル・フーコーの思想——『監視と処罰』を中心に
第12回	規律と権力 (3)	ミシェル・フーコーの思想——『社会は防衛しなければならない』、『安全・領土・人口』、『生政治の誕生』を中心に

- 第13回 規律社会から管理社会へ ジョージ・オーウェル『1984』、ジル・ドゥルーズの管理社会論  
第14回 境界の内と外 エティエンヌ・バリバルと2010年の現代ヨーロッパ社会、アキ・カウリスマキ『希望のかなた』

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。

## 【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布する。

## 【参考書】

市野川容孝・宇城輝人編『社会的なもののために』、ナカニシヤ出版、2013年。  
宇野重規『西洋政治思想史』、有斐閣、2013年。  
坂本達哉『社会思想の歴史——マキアヴェリからロールズまで』、名古屋大学出版会、2014年。  
坂本治也編『市民社会論——理論と実証の最前線』、法律文化社、2017年。  
仲正昌樹編『政治思想の知恵——マキアヴェリからサンデルまで』、法律文化社、2013年。  
同編『現代社会思想の海図（チャート）——レーニンからバトラーまで』、法律文化社、2014年。  
山脇直司『公共哲学とは何か』、ちくま新書、2004年。  
同『社会思想史を学ぶ』、ちくま新書、2009年。  
同『公共哲学からの応答——3・11の衝撃の後で』、筑摩選書、2011年。

ほか

\*各思想家の思想に関する参考文献などは教場で随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に提出するコメントシート（20%）+学期末試験（80%）

## 【学生の意見等からの気づき】

レジュメの誤植をなるべくなくすよう努力する。また、パワポを使う際は、もう少し視覚的にわかりやすいようにポンチ絵などを使うようにする。

## 【学生が準備すべき機器他】

とくになし

## 【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史 I）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Theme : Contemporary Social Philosophy

We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.

PHL300HA

## 現代思想と人間Ⅱ

## 竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「正義／不正義」の思想的系譜

フランスでは、リセ（高校）の最終学年で哲学を学ぶことが必修とされている。大学入学資格試験に当たるバカロレアにおいても、人文系であれ、社会科学系であれ、自然科学系であれ、哲学は受験必須科目であり、生徒たちは4時間かけて、ディセルタシオンというフランス式小論文の形式で問題に取り組んでいる。

本講義では、人間環境学部、ならびに学部の主軸理念である「サステイナビリティ」の学問内容とも関わるの深いテーマを選び、受講者諸氏と一緒に考えていく。

今年度は、2018年度バカロレア試験の理系の選択問題だった「何が正しいかを知るために、不正を体験するのは必要か？（Éprouver l'injustice, est-ce nécessaire pour savoir ce qui est juste ?）」をテーマとして設定する。

ただし、あくまで大学の学部専門科目として、それにふさわしいレベルで「正義／不正義」についての思想的知識を身につけたうえで、設定したテーマについて受講者諸氏が見解を示すことが目的である。

## 【到達目標】

人間環境学部の学生として、さまざまな学問領域で「サステイナビリティ」に関する学習を進めていくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられていく負荷を把握する。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養する。

\*「労働」についての思想的系譜を把握したうえで、その知識を基にして「労働を減らせば、より善く生きることになるのか」という問題設定に対して自分自身の見解を示すことができるようになること。

\*その際に、日本語のかたちであれ、ディセルタシオンの形式を身につけて、論理的に上記に関する見解を論じることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないますが、ご提出いただいたコメントシート提出による質疑＋次回授業での応答形式を用いることで、インタラクティブな授業になるようにする。

思想系の授業ということで難しくはあるが、なるべく関連するような映像や写真などの視聴覚教材も積極的に活用していく予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の趣旨説明
第2回	古代の思想家が見る「正義」(1)	プラトンの正義論
第3回	古代の思想家が見る「正義」(2)	アリストテレスの正義論
第4回	近代の思想家が見る「正義」(1)	社会契約説の正義論(1)
第6回	近代の思想家が見る「正義」(2)	社会契約説の正義論(2)
第7回	近代の思想家が見る「正義」(3)	カントの正義論
第7回	近代の思想家が見る「正義」(4)	功利主義の正義論
第8回	近代の思想家が見る「正義」(5)	アダム・スミスの正義論
第9回	近代の思想家が見る「正義」(6)	マルクスの正義論
第10回	近代の思想家が見る「正義」(7)	ニーチェの正義論
第11回	現代の思想家が見る「正義」(1)	ロールズの正義論
第12回	現代の思想家が見る「正義」(2)	デリダの正義論
第13回	現代の思想家が見る「正義」(3)	ハーバーマスの正義論
第14回	まとめ	今学期のテーマに関する総括

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

授業で取り上げた思想家の著作とそのつと時間をかけて格闘すること。

## 【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布する。

## 【参考書】

坂本尚志『バカロレア幸福論——フランスの高校生に学ぶ哲学的思考のレッスン』、星海社新書、2018年。

中山元『正義論の名著』、ちくま新書、2011年。

神島裕子『正義とは何か——現代政治哲学の6つの視点』、中公新書、2018年。

デイヴィッド・パウチャー、ポール・ケリー『社会正義論の系譜——ヒュームからウォルトァーまで』飯島昇哉ほか訳、ナカニシヤ出版、2002年。

デイヴィッド・ジョンソン『正義はどう論じられてきたか——相互性の歴史的展開』押村高ほか訳、みすず書房、2015年。

など

市野川容孝・宇城輝人編『社会的なもののために』、ナカニシヤ出版、2013年。

宇野重規『西洋政治思想史』、有斐閣、2013年。

坂本達哉『社会思想の歴史——マキアヴェリからロールズまで』、名古屋大学出版会、2014年。

坂本治也編『市民社会論——理論と実証の最前線』、法律文化社、2017年。

仲正昌樹編『政治思想の知恵——マキアヴェリからサンデルまで』、法律文化社、2013年。

同編『現代社会思想の海図（チャート）——レーニンからバトラーまで』、法律文化社、2014年。

山脇直司『公共哲学とは何か』、ちくま新書、2004年。

同『社会思想史を学ぶ』、ちくま新書、2009年。

同『公共哲学からの応答——3・11の衝撃の後で』、筑摩選書、2011年。

ほか

\*各思想家の思想に関する参考文献などは教場で随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に提出するコメントシート（20%）＋学期末試験（80%）

## 【学生の意見等からの気づき】

レジュメの誤植をなるべくなくすよう努力する。また、パワポを使う際は、もう少し視覚的にわかりやすいようにボンナ絵などを使うようにする。

## 【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

## 【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史Ⅱ）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Theme : the Philosophical Genealogy of the justice / injustice

We consider the following issues on the basis of philosophical knowledge ; 'Is the injustice necessary to know which is just ?'

SOC200HA

## 現代社会論 I

田中 勉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるさまざまな現象を人間行動（行為）の集積の帰結と捉え、行動（行為）の基本的理解のための基礎概念を学び、日常生活で経験する自己と他者の行動のやりとりがいかなる様式をとって行われるかを理解することをめざす。なぜ人はこのように行動し、あるいは行動しないのか、そのメカニズムを学ぶことで「社会的存在」である人間について考察を深める。

### 【到達目標】

この講義では人間の行動（行為）のメカニズムについて理解し、現代社会の諸現象を分析する思考法を身につけることを目標とする。人間行動を考察するための枠組みについて、欲求・動機づけ・地位・役割・規範・文化など基礎となる概念を理解することができるようになる。また、社会学における研究事例の解説を通して、受講者各自が関心を持つ社会現象へ「人間行動」の視点からアプローチできるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

人間の行動（行為）を社会学の視点から考察するための「枠組み」となる諸概念について解説する。また、「人はなぜこのように行動し、あるいは行動しないのか」を課題として、行動を形づくる要因についていくつかの研究（「预言の自己成就」「社会的ジレンマ」など）を紹介する。さらに、環境問題や都市問題という現代の社会問題を「行動（行為）」の集積的帰結と捉え、そのメカニズムを論じる。講義の中で、受講者から具体的事例や問題解決のアイデアを募集し、検討を加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義のねらい・形式等のガイダンス。「社会」とは何か？	「社会」はどのように認識されるのか。「人々の共同生活」としての社会への多角的な視点の意味を考える。
第2回	人間行動を考える枠組み(1)	「欲求」「規範」「同調」「逸脱」概念から人間の行動を考察する
第3回	人間行動を考える枠組み(2)	「地位」「役割」「社会関係」「集団・組織」概念により、人間の行動が生起する場を考える。
第4回	行動と文化(1)	「文化」とは何か、行動に形を与えるものとしての「文化」。
第5回	行動と文化(2)	「文化のダイナミズム」への視点。文化の変容・衰退、新たな文化の出現。
第6回	行動と文化(3)	「文化相対主義」と「エスノセントリズム」。文化を見る目の相対化。異文化理解と文化伝播・文化借用の事例。
第7回	情報と行動(1)	「预言の自己成就」、「意図せざる結果」が生じるメカニズムとその事例。
第8回	情報と行動(2)	「预言の自己破壊」、「警鐘を鳴らす」ことの有効性とその事例。
第9回	「社会的ジレンマ」(1)	「共有地の悲劇」、私益と公益の相克。合理的な個別利益追求行動と社会的帰結。
第10回	「社会的ジレンマ」(2)	「社会的ジレンマ」のメカニズム。「ジレンマゲーム」にみる行為主体間の選択とその帰結。
第11回	「社会的ジレンマ」(3)	社会的ジレンマと相互信頼。「四人のジレンマ」のメカニズムと行為主体間の「信頼」構築の可能性。
第12回	「環境配慮行動」の考察。	環境「意識」は環境配慮「行動」を生み出すか、をめぐる研究事例。
第13回	「環境配慮行動を促進する仕組み作り」の可能性。	「心理的方略」と「構造的方略」の具体例と実現可能性の検討。
第14回	まとめ-人間の行動と社会。	社会を人間の社会行動の集積として考える意義の再確認。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。特定のテキストは用いないが、トピックスごとの参考文献のリストを配布するので関連箇所を読んでおくこと。

### 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

### 【参考書】

奥村 隆,2014,「社会学の歴史 I」有斐閣

友枝ほか,2017,「社会学のエッセンス」有斐閣

筒井・前田,2017,「社会学入門」有斐閣

山岸俊男,1990,「社会的ジレンマのしくみ」サイエンス社

土場・篠木,2008,「個人と社会の相克」ミネルヴァ書房

このほか開講時に文献リストを配布する。

### 【成績評価の方法と基準】

定期試験を行う（100%）。

### 【学生の意見等からの気づき】

講義内容に関する質問用紙を配布・回収し、講義の中で回答します。

### 【その他の重要事項】

環境問題を含め様々な「社会問題」を考える際、私たちがどのような「社会」を作っているのか、を考えることはこの学部での学習の基礎となります。「社会」を、人間の行動の集積として捉え、人はなぜそう振る舞うのか、なぜこのようには行動しないのか？を柔軟で多様な見方から考えてみよう。

### 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

### 【Outline and objectives】

Sociology of Social behavior(action). For understanding social behavior,students will learn the following themes. ① basic concepts for analyzing behavior, ② culuture and behavior pattern, ③"self-fulfilling prophecy"④"social dilemma" problems.

SOC200HA

## 現代社会論Ⅱ

田中 勉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会へのマクロな視点からのアプローチ～少子・高齢社会を生み出したもの～、をテーマとする。1960～2010年における日本社会の変化を、人口・産業・職業・教育・家族・地域社会などの各領域について社会統計によって確認し、なぜそのような変化が生じたのか、仮説をたててその検証を行う。環境問題をはじめとする社会問題の生起する場である「社会」について理解することは、学生が多様な問題関心のもと学習を進めていく上で必要不可欠なステップとなる。

## 【到達目標】

1960年代から今日までの半世紀における日本社会の変動を国勢調査をはじめとする各種社会統計によって確認する。そのため用語およびデータの収集法を理解し、社会統計を正確に読む知識を獲得できる。また、なぜそのような変化が生じるのかの検討を通して、社会諸領域の変動の相互連関を理解できるようにする。すなわち、実証的で論理的な思考力を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

「社会の何が変化するのか？」という問いから始め、長期社会統計データを用いて変化の様相を知るやり方について解説する。次いで、産業化・少子高齢化などいくつかの領域における変化の様相を取り上げ、何が変化を促進し阻害する要因であるのか、ある領域における変化が別の領域における変化とどのように関連しているのか、などの問いに答えていくことにする。統計資料を配付し、データを読み取り解釈する方法について解説する。講義内で、数回スタディクエスチョンを実施し、受講生から事例や仮説を募集して検討を加えていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「社会変動」という視点	社会構造および社会変動概念により明らかにできることは何か。
第2回	社会変動とは何か	社会の何が変化するのか。変化を捉える方法について考える。
第3回	近代化・産業化（工業化）	産業構造・就業構造の変化。農業社会から産業社会への移行。
第4回	経済成長と「豊かな社会」	経済成長をとらえる指標。「豊かな社会」の成立とその帰結。
第5回	生活と仕事の変化（1）	性別・年齢別の労働力率の変化。働き方の変化と生活様式のかかわり。都市への人口移動と就業形態の変化。
第6回	生活と仕事の変化（2）	「従業上の地位」の変化。雇用労働の進展と職業構造の変化。
第7回	生活と仕事の変化（3）	女性の働き方の変化とライフサイクル。女性労働におけるM字型カーブとその要因。
第8回	生活と仕事の変化（4）	高齢化と産業社会。高齢者と仕事、その現状と将来像。
第9回	生活と仕事の変化（5）	働き方の変化と家族生活。家族（世帯）構成の変化。
第10回	人口の変化（1）	人口転換モデル。国勢調査に見る人口の量と構造の変化。
第11回	人口の変化（2）	少子・高齢社会の出現。合計特殊出生率の低下・未婚率上昇の要因。
第12回	人口の変化（3）	出生率・死亡率、自然増加率の推移。「人口減少社会」の到来。人口減少の何が「問題」なのか。
第13回	人口の変化（4）	少子化・高齢化の国際比較。産業化と人口構造変動の連関。
第14回	まとめ	我々はいかなる社会を作ってきたのか、作っていくのか。「社会を見る目」の重要性。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。統計資料を配付するので、そこから読み取れる事柄を整理しておく。スタディクエスチョンで課題を示すので事例や関連情報を集めておく。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。授業時に担当教員が作成した資料（人口・世帯・地理的移動・労働・教育などに関する社会統計）を配布する。

## 【参考書】

筒井・前田,2017,「社会学入門」有斐閣  
井上・伊藤編,2008,「社会の構造と変動」世界思想社  
赤川学,2018,「少子化問題の社会学」弘文堂  
河野徂果,2007,「人口学への招待-少子・高齢化はどこまで解明されたか」中央公論社  
「人口の動向-日本と世界-」国立社会保障・人口問題研究所  
「データで見る県勢」（財）矢野恒太記念会  
\*このほか開講時に文献リストを配布する

## 【成績評価の方法と基準】

定期試験を行う（100%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

配布資料で示す図・表と講義内容との関連性をより明確にするため、トピックスごとの見出しを付けてカテゴリ化します。

## 【その他の重要事項】

「なぜそのような変化が生じるのだろうか？」を身近な体験・経験から考えよう。「変化の要因」に関する仮説を立てて資料を読み解こう。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Social change in japan from 1960's to 2000's: This course aims to deepens our understanding of social changes in the following fields population, labour, education and family. Through examination of social statistical data in half a century, students will acquire the sociological thinking on the social changes.

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

私たちは「身体」や「生命」について理解を深めようとする際、しばしば医学や生物学等の自然科学に頼ろうとします。しかし、「健康」とは何か、性別や人種におけるカテゴリーはどのようにつくられるか、「美しい身体」や「正しい身体」という規範にどのような意味があるのか、生殖医療や臓器移植等の技術を通して私たちはどこまで「いのち」をコントロールすることができ、すべきなのか、といった問いには、社会科学的視点が欠かせません。それは、「身体」が極めて個人的な体験であると共に社会的、文化的、歴史的な要因に左右されるものであり、また、「生命」という概念の定義が社会や文化の文脈の中で作りだされるものだからです。社会学は「常識」や「当たり前」を疑うことを可能にしますが、身体社会学はその醍醐味を特にダイレクトに感じることでできる領域であると言えます。受講者ひとりひとりが自分で社会を観察し、考え、議論することを通して、身体と医療の社会学の内容の理解と共に、社会学的想像力を身につけることのできる授業とすることを目指します。

**【到達目標】**

本科目では、一般的に自明なものであると考えられている「身体」及び「生命」を社会学的観点から捉えることにより新しい知見を得ることを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業では主に講義、ディスカッション、その他のアクティビティ等を行います。身体社会学という領域は近年、急速な発展を遂げましたが、一方でその蓄積や議論の多くは日本語に翻訳されていないため、多くの学生にとってアクセスの難しいものでもあります。講義では理論を含めたこのような流れを、画像や短い映像資料を使用しながらわかりやすく紹介し、理解を深めるための枠組みを作ります。また、小グループでのディスカッションやアクティビティを通して学生の授業への積極的な参加を促し、ひとりひとりの学びを効果的に深めることができるよう、工夫します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要とねらい；なぜ「身体」を社会学するのか；「生命」とは何か；私たちのからだは「自然」か
第2回	身体社会学とは何か	社会学的想像力；構築主義；身体化(embodiment)；私たちは身体の使い方をどう学習するか
第3回	階級と身体	ハビトゥスと文化資本；労働と身体；貧困と身体；消費活動；食；健康と病
第4回	人種と身体	植民地主義と人種；レイシズム；人種に関するカテゴリーの歴史の変遷
第5回	ジェンダー	「男らしさ」「女らしさ」と身体；「性別」とは何か；性自認と身体
第6回	ボディイメージと摂食障害	「美」のための産業；体重と美に関する基準の変化；拒食症と過食症
第7回	美容医療	身体加工；アイデンティティ；ボディイメージに関する課題を使ったアクティビティ
第8回	「正しい」身体とは何か、逸脱は何を意味するか	スティグマ；結合双生児；心身二元論；「個人」とは何か；医療介入の決定権は誰が握るか
第9回	優生思想	日本におけるハンセン病の歴史；隔離政策；優生政策；優生思想は過去のものか
第10回	いのちの始まりと生命倫理	リプロダクティブ・ライツ；人工妊娠中絶；いのちの始まりをどう理解するか；出生前診断
第11回	生殖補助医療	不妊治療の社会的意味；第三者の関わる生殖補助医療（精子・卵子提供と代理出産）とその倫理的側面
第12回	終末期医療と尊厳死、脳死と臓器移植	いのちの終わりは誰が決めるか；死に関する権利；「いのちの神聖さ」と「いのちの尊厳」；臓器移植の国際比較；技術は私たちの「いのち」に関する理解をどう変えるか、その倫理的側面
第13回	身体と未来	どこまでが身体か；サイボーグ；機械と人間の融合；技術と身体（義肢；人工内耳）；身体は誰のものか

第14回 期末テスト 講義内容の理解度を試験します

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定されたテキストを読んで授業に備え、授業の後は講義内容について復習してください。

**【テキスト（教科書）】**

マーゴ・デメット『ボディ・スタディーズ—性、人種、階級、エイジング、健康/病の身体学への招待』（2017年）

**【参考書】**

柘植あづみ『生殖技術—不妊治療と再生医療は社会に何をもたらすか』みすず書房（2012年）  
安藤泰至、高橋都編『シリーズ生命倫理学 終末期医療』丸善出版（2012年）  
小松美彦・市野川容孝・田中智彦編『いのちの選択——今、考えたい脳死・臓器移植』岩波書店（2010年）  
毎日新聞『境界を生きる』取材班『境界を生きる 性と生のはざままで』毎日新聞社（2013年）  
磯野真穂『なぜふつうに食べられないのか 拒食と過食の文化人類学』春秋社（2015年）  
谷本菜穂『美容整形と化粧の社会学—プラスチックな身体』新曜社（2008年）  
アリス・ドムラット・ドレガー『私たちの仲間 結合双生児と多様な身体の実来』緑風出版（2004年）

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（ディスカッション等への参加、リアクションペーパーも含む）30%；課題 20%；期末テスト 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業支援システムを使用します。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This course on Sociology of the Body and Medicine will examine sociocultural aspects of our knowledge and experiences on the body. Through the considerations of topics including social class, gender, race, eugenics, and bioethics, we will grapple with issues for which there are no easy answers.

LAW200HA

**憲法の基礎**

土屋 志穂

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

憲法とはどのような法であるか、どのように成り立っているのかを学ぶ。憲法の基本的な構造や枠組みを理解する。日本国憲法がどのような憲法であるかを知る。

**【到達目標】**

現実の具体的な社会問題がどのように憲法と関連付けられているかを学び、日本における法の支配について理解する。憲法とについて理解を深めることにより、「憲法問題」を理解し、社会問題を法的に分析する視点を持つ。日本だけでなく、国際社会を広く意識して憲法や法律の視点で物事を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

配布資料を使用しながらの講義形式によるが、講義の中で積極的に発言を求める。

場合によっては、映像などを取り入れることもある。

シラバスは進度によって多少変更する可能性もある。

ただし、憲法の条文を暗記する必要は全くない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 日常生活と法 憲法とは？	法学はどのような学問か。 憲法はどのような法律か。
第2回	憲法の基礎 日本国憲法の成り立ち	憲法の定義 日本国憲法の成立過程 日本国憲法の概要
第3回	天皇の国事行為 平和主義	天皇と国民主権 日本国憲法と自衛隊
第4回	平和主義（続き） 統治機構①	自衛隊と国際社会 権力の分立 選挙と政党
第5回	統治機構②	立法権としての国会
第6回	統治機構③	行政権としての内閣 裁判所 裁判員制度
第7回	統治機構④	裁判所（続き） 地方自治制度
第8回	統治機構⑤	地方自治制度（続き）
第9回	基本的人権の尊重① 基本的人権の尊重②	基本的人権概論 人権に対する制約 新しい人権（憲法に書かれていない人権の保障）
第10回	基本的人権の尊重③	平等権 思想・良心の自由
第11回	基本的人権の尊重④	表現の自由
第12回	基本的人権の尊重⑤	表現の自由（続き） 身体の自由 身体の自由（続き）
第13回	基本的人権の尊重⑥	財産権 職業選択の自由
第14回	基本的人権の尊重⑦	社会権とは 生存権 教育・労働

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。新聞記事等で憲法問題に関係のある社会問題を常に意識しておくこと。（必要がある際には、授業のときに指示します）資料として配布された新聞記事には必ず目を通しておくこと。

**【テキスト（教科書）】**

授業で配布する資料による。教科書の指定はしない。

**【参考書】**

声部信喜『憲法【第6版】』（高橋和之補訂版、岩波書店、2016年）  
ポケット六法（有斐閣）などの六法。  
その他授業の際に指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

原則として、試験期間内の学期末試験による。（90％）  
その他リアクションペーパーと講義における発言を加味して、平常点として考慮する。（10％）  
ただし、学期中2回任意提出のレポート課題を課す。これについては提出があれば、それぞれ上限10点以内で加点要素とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

前年度と同様に行う。  
プリントが多くなってしまうため、整理に注意を払うように十分な注意喚起を行う。

**【学生が準備すべき機器他】**

パワーポイントを使用する。  
その他、映像機器を使用する可能性もある。  
講義資料として配布したものは、授業支援システム上に随時アップロードする。

**【その他の重要事項】****【関連する科目・分野】**

行政法、国際法などの法律関連科目  
政治学、社会制度論等の国家の組織に関わる学問

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This class aims to understand what Constitutions, especially the Japanese Constitution is and what principle consists of the Constitution. In addition, students are required to comprehend the basic structure of the Constitution. Through the whole lessons, students themselves are to know and state how the Constitution works in our society.

Students are requested to reach the following points and get some skills;

- ・ to comprehend the relationship between current social topics and Constitutions
- ・ to comprehend rule of law in Japan
- ・ to comprehend what "Constitutional problems" are
- ・ to get legal perspectives to analyze social affairs logically and legally
- ・ to give legal consideration to not only Japanese problems but also international affairs

ENV300HA

## 公害防止管理論 I

大岡 健三

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では水質汚濁防止のための基本的な手法を学ぶ。湖沼、河川、海などの地表水や地下水に関するさまざまな環境問題についても学び、メインの排水処理技術に加えて、環境法の知識も得る。企業経営や環境行政、国際活動などで環境の知識は不可欠であるが、社会で役立つ実務知識を本講座で習得することができる。公害防止管理者の国家資格を取得するのに役立つ基礎知識の解説もするが、国家試験を受験しない学生も興味深く学ぶことができる授業内容とする。講座終了時までに、工場排水を化学的および生物的に浄化するための主要スキルを習得し、企業や行政の環境担当（公害防止管理者など）によって使用される BOD / COD など技術用語や環境管理の概念を理解する。

## 【到達目標】

マスコミ報道でよく耳にする環境キーワードが十分理解でき、環境系学部卒にふさわしい水環境の原理原則をマスターする。環境汚染の実態および物理化学処理などの浄化処理技術を基礎から習得する。汚れた廃水が無色透明に浄化できるプロセスなど水質管理技術の理解に加え、米国の環境科学の知見や汚染事故、海外情報なども学び、国際レベルで環境問題を思考できるレベルを目指す。実社会で役立つ環境技術と法令の実務スキルの理解を深める。さらに、公害防止管理者国家試験の問題を解く訓練も時々行い、授業終了段階では環境の専門用語や基本概念を問う基本レベルの問題が解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

毎回教材を配布してパワーポイントで説明する。必要に応じて映像を利用。各論では、講師が国内外で取材した産業公害や有名企業の汚水処理の実際、有害物質規制の概要、汚染メカニズム等を解説する。水質浄化技術の基礎を学ぶことによって水に関する環境保全手法を習得する。1回の授業でなるべく完結させるので、欠席しても次回授業がスムーズに理解できるようにする。難解かつ苦手なテーマは何度も説明して理解できるようにする。毎回学生のコメントや要望などを聞いて次回講義に反映する。なお成績評価は、授業内で行う簡単な小テストと平常点で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講座全体の概要 地球温暖化と水環境、廃棄物問題、ベトナム、マレーシア、ネパール、ブルネイ及び米国・欧州の環境事情など	当講座の概要と授業方法について説明。国内外取材の映像などを見て、環境汚染、浄化対策及び公害防止の側面から評価分析する。
第 2 回	環境基本法と法体系、水質環境基準	環境基本法の概要を中心に関連法の体系、水質環境基準について解説する。公害防止者管理法等の各論についても触れる。
第 3 回	水質汚濁防止法と排水基準	水質汚濁防止法に関する概説と排水基準など企業が実際に遵守すべき法令の具体的解説。
第 4 回	日本の水質汚濁の現状と原因 主因は工場排水ではない	水質汚濁の現状を眺め、大気や土壌・廃棄物由来の水質汚濁はどのように起こるのか、事例を中心に研究。
第 5 回	水質汚濁の種類と発生メカニズム、地下水汚染とは何か？	水質汚濁には、生活上問題になる物質と健康に有害な物質がある。河川や地下水汚染の発生メカニズムを理解する。
第 6 回	物理化学的処理法 1 凝集沈殿	汚水処理計画及び工場排水を浄化するための凝集沈殿など物理化学的処理法をわかりやすく解説。
第 7 回	物理化学的処理法 2 浮上分離、ろ過など	工場排水を浄化するための傾斜版、浮上分離、ろ過などの原理を学ぶ。マイクロバブル手法など最新技術にも触れる。
第 8 回	化学的処理法、酸化還元、膜分離の基礎	化学処理法を学ぶ。pH 調整、酸化還元の原理、膜分離などの基本知識及び逆浸透 RO 等最新技術も解説。
第 9 回	生物処理法 1 概要と基礎	排水を浄化するためのエアレーション、好気性微生物を利用する生物処理法の基礎を学ぶ。
第 10 回	生物処理法 2、好気嫌気処理及び汚泥の脱水技術	好気性微生物と嫌気性微生物を利用する生物処理法を解説。各種処理法によって生じる余剰汚泥の脱水技術も学ぶ。

第 11 回	高度処理法、活性炭処理等	排水を浄化するための活性炭利用など高度な処理法および最新技術を応用した処理法について学ぶ。
第 12 回	処理装置の維持管理	物理化学的処理の維持管理。活性汚泥処理の維持管理など実務面の知識。
第 13 回	水質管理のパラメータと水質測定の基礎	BOD/COD,pH,DO 溶存酸素などの知識の整理。試料採取など水質測定の基礎。水質汚濁物質などの復習とまとめ。
第 14 回	環境法令など授業の復習と最終テスト	授業の要点復習および最終テスト実施（問題は簡単な選択問題）。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

Web 公開されている公害防止管理者等国家試験の過去問を授業中に時々使用することがある。国家試験受験希望者は市販の書籍（産業環境管理協会など）またはインターネット検索により自主的に予習復習することが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、毎回プリントを配布

## 【参考書】

「新・公害防止の技術と法規 水質編」

発行所 (一社) 産業環境管理協会

「公害防止管理者等国家試験問題 正解とヒント 水質」

発行所 (一社) 産業環境管理協会

「図解公害防止管理者国家試験合格基礎講座」

発行所 (一社) 産業環境管理協会

## 【成績評価の方法と基準】

授業内で小テストを行い、平常点と合わせて総合点で判定する。配分は小テストが 80%、平常点 20%。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講者の質問や意見を適宜提供してもらい可能な限り次回授業に反映させる。物理化学の基礎知識がない受講者も十分理解できるように授業を進める。

## 【学生が準備すべき機器他】

毎回パワーポイントによる映像を利用

## 【その他の重要事項】

物理や化学などの専門教育を受けていない文系学生を対象に授業をする。過去に経済・経営など他学部の学生も多く受講している。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100. 「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

The course is designed to help you learn and understand the basic methods for water pollution control. You will also learn various environmental issues on surface water such as lakes, streams, and ocean as well as groundwater. In addition to wastewater treatment techniques (main subjects), lectures on environmental laws and regulations will be provided in this course.

You can learn practical environmental knowledge required for corporate management, environmental administration, international activities, etc. The class will also provide introductory-level knowledge useful for acquiring National qualifications of Pollution Control Manager. By the end of the course students will learn the principal skills to clean up the wastewater chemically and biologically. Also you will understand a number of technical terms and concepts including BOD/COD, that are used by pollution control managers etc.

ENV300HA

## 公害防止管理論Ⅱ

大野 香代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の健康や生活環境保全のためには、企業の公害防止管理が必要不可欠である。また、近年は地球温暖化防止の観点より、工場の生産活動に伴い排出される二酸化炭素等の温暖化物質を削減することも企業の重要な責務となっている。

我が国は1960年代の高度経済成長期に深刻な公害問題を抱え、また1970年代に二度のオイルショックを経験したことにより、汚染物質排出抑制技術や省エネ技術は国際的に高い技術を有している。本講座では、近年の大気環境状況や問題と課題、排ガス中の汚染物質の除去方法、省エネ技術、測定方法などの技術的事項を中心に学ぶ。

## 【到達目標】

大気環境状況や問題と課題、排ガス中の汚染物質の除去方法、省エネ技術、測定方法などの技術的事項の概要を学び、企業における環境管理の重要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

前半は大気汚染メカニズム、大気汚染防止法等の環境法規などの環境保全の知識を学び、後半は燃焼管理方法、排ガス処理技術、測定法等の排ガス管理・処理技術を学ぶ。温暖化問題や排ガス処理技術等について課題レポートを提出し、グループディスカッションで問題定義や課題解決の方法を学ぶ。定期試験ではなく、授業内に行う1回の試験と平常点で成績評価を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	大気汚染の歴史と現状	日本の公害問題の歴史と近年の大気環境問題について。
第2回	大気関係の法律	環境基本法や大気汚染防止法、管理者法について概要を学ぶ。
第3回	グループワーク① 課題 気候変動の緩和と適応	グローバルな課題である気候変動に対する企業が行える取り組みについて考える。
第4回	大気汚染のメカニズム、地球環境問題	大気汚染の発生メカニズムと地球環境問題の概要・大気汚染物質とその発生源、発生のプロセスについて。
第5回	燃焼管理技術	効率的な燃焼管理方法について。燃料の種類、燃焼装置、空気比の管理、燃焼管理のための各種測定技術。
第6回	硫酸酸化物の処理技術	排ガス中の硫酸酸化物の排出低減及び処理技術について。
第7回	窒素酸化物の処理技術	排ガス中の窒素酸化物の排出低減方法及び処理技術について。
第8回	グループワーク② 課題 新規の排ガス処理方法	活性炭吸着処理による硫酸酸化物、窒素酸化物等の処理方法について調べ、発表する。
第9回	ばい塵の除去技術（Ⅰ）	ダストの処理計画、排出ガスに含まれる粒子（すす）の性質（粒径分布等）。
第10回	ばい塵の除去技術（Ⅱ）	重力や水等を利用して排出ガスから粒子を除く技術。フィルターや電気を利用して排出ガスから粒子を除く技術。
第11回	有害物質の除去技術	カドミウムや鉛、塩化水素等の有害物質の除去方法について。
第12回	排ガス中汚染物質の測定方法（Ⅰ）	ばい塵の測定方法
第13回	排ガス中汚染物質の測定方法（Ⅰ）	硫酸酸化物、窒素酸化物の測定方法、自動計測方法
第14回	グループワーク③ 企業の環境管理	企業の環境管理において何が重要であるか。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
新・公害防止の技術と法規 大気編の関連箇所を事前に読んでおくこと。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎回の授業に補助資料を配付する。

## 【参考書】

新・公害防止の技術と法規 大気編  
発行所 (社)産業環境管理協会

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 (50%)・レポート課題 (30%)・平常点 (20%)

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果が出ていないので、記述できない。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Pollution control in industrial factories is essential for prevention environment and human health. Companies should have social responsibility to commit to reduce greenhouse gases in their business activities.

Severe pollution issues occurred in 1960s in Japan in exchange for economic growth. In 1970s, we had oil shocks which is supply stringency of crude oil two times. Since we experienced these hard issues, environmental prevention technologies and reduce using energy were accumulated in factories in Japan.

In this class, you learn a recent air quality issues, treatment methods of emission, ways of reduction using energy and measurement methods of pollutants.

ECN200HA

## 公共経済学

小田 圭一郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、ミクロ経済学の基礎理論に基づき、公共政策を分析するための基本的フレームワークを身につける。

## 【到達目標】

学生は、市場経済における公共部門の役割について学ぶ。  
 具体的には、以下の事項を理解する：  
 ・市場経済の利点（厚生経済学の基本定理）と限界（市場の失敗）  
 ・公共財の効率的配分  
 ・外部性の市場的解決  
 ・環境問題の市場的解決方法としての環境税と排出権取引  
 ・情報非対称性問題へのゲーム理論的解決方法の基礎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。数回程度の宿題を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	公共経済学の概観と授業の進め方
第2回	ミクロ経済学①	最適化問題の定式化
第3回	ミクロ経済学②	厚生経済学の基礎
第4回	ミクロ経済学③	市場の失敗
第5回	公共財①	定義・効率的配分条件
第6回	公共財②	リンダール均衡、クラークメカニズム
第7回	ゲーム理論	ゲーム理論の初歩
第8回	外部効果①	定義、コースの定理
第9回	外部効果②	市場的解決方法
第10回	環境政策①	環境問題の定式化
第11回	環境政策②	環境税と排出権取引
第12回	公的企業	自然独占と規制
第13回	情報非対称性問題①	情報非対称性問題の一般的考え方
第14回	情報非対称性問題②	環境政策における逆選択問題の定式化

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
 学生は、ミクロ経済学の初歩について適宜復習を行うとともに、授業内容の理解確認のための宿題を提出する。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社。  
 他は初回授業時に指示。

## 【成績評価の方法と基準】

「到達目標」記載事項の理解度に応じて評価を行う：  
 ・期末試験または期末課題（90%）  
 ・宿題（10%）

## 【学生の意見等からの気づき】

分析の基礎となる諸概念について直観を与えるような説明を行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムから資料をダウンロードし、授業に持参すること。

## 【その他の重要事項】

ミクロ経済学の諸概念に基づいた説明を行うが、具体的な授業計画については、参加学生のバックグラウンド、関心分野等に応じて適宜修正する。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This course will introduce students the basic ideas of public economics. Students will develop theoretical knowledge for analyzing public policies.

OTR400HA

## コース修了論文

人間環境学部教員

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間環境学部での学びを踏まえた、成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

## 【到達目標】

各自でテーマを決め、コース修了論文を執筆することが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

指導教員に従い、個別に指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	同上
第4回	テーマの設定と構成③	同上
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	同上
第7回	資料の収集③	同上
第8回	資料の収集④	同上
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	同上
第11回	情報の整理③	同上
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	同上
第14回	執筆③	同上

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コース修了論文は、基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがって、計画的に進めること。

## 【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

## 【参考書】

各教員が指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

## 【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②コース修了論文の指導教員の決定については、事前に指導教員とよく相談し、内諾を得ること。指導教員の決定に関するプロセスについては、学務部の掲示および履修の手引きを参照し、慎重に行うこと。また、コース修了論文は、秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

③Aタイプ研究会受講者は登録できない。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This is a course for writing thesis (for type B seminar participants). Students will be able to plan and write scientific paper based on their research.

ECN300HA

**国際環境政策 I****國則 守生**

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業では環境問題を国際的な観点、地球規模の観点から議論する際に必要となる考え方を環境経済学の立場から紹介・議論する。地球規模の環境問題は同世代内だけでなく、世代間問題の公平性に関わる側面が顕著であることを確認していく。

**【到達目標】**

この授業は国際的、越境および全地球的な観点から、環境政策と経済との多様な繋がりを理解することを目指す。とくに、採用される政策手段のさまざまな課題を環境経済学の側面から検討することを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で行う。授業は前半で環境問題を軽減・解決を図るために先進各国で採用されてきたさまざまな経済的手段を中心に規制的手段や自主的手段などとの比較を含めて、講義する。とくに各国で経済的手段がいかに利用されているかを概観するとともに、環境税、排出権（量）取引などの効果と課題等について議論する。後半では、酸性雨、オゾン層破壊、地球温暖化などの越境・地球環境問題を対象に、経済的手段の国際協調の視点から、議論する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	環境問題の広がりとその類型
第 2 回	OECD 諸国での環境政策の多様性	時代的変遷とその特徴
第 3 回	環境税賦課の影響	環境税の帰着
第 4 回	環境と経済的手段 (1)	OECD 諸国での課徴金と環境税
第 5 回	環境と経済的手段 (2)	OECD 諸国での排出権（量）取引の種類
第 6 回	環境と経済的手段 (3)	その他の環境に関する経済的手段
第 7 回	環境と経済的手段 (4)	環境関連税制 (Environmentally Related Taxes)
第 8 回	越境環境問題 (1)	国内環境問題との対比
第 9 回	越境環境問題 (2)	酸性雨問題
第 10 回	国際環境協定の可能性 (1)	完全協力解、非協力解、提携 (coalition) などの比較
第 11 回	国際環境協定の可能性 (2)	自律的な国際環境協定や国際協定の難易度
第 12 回	地球環境問題 (1)	オゾン層破壊と国際協定
第 13 回	地球環境問題 (2)	地球温暖化問題と現状実施されている経済的対応の評価
第 14 回	地球環境問題 (3)	地球温暖化問題と地域間、世代間対立の課題、社会的割引率のあり方など

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回とも復習に重点をおいて学習すること。復習に当たっては、各回、新出の概念とそのインプリケーションに注目し、まとめておくこと。受講に当たっては、環境経済論 I、II の履修（同時に含めて）が望ましい。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しないが、必要に応じて担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

**【参考書】**

とくに指定しないが、以下の書籍が概念等を学ぶ上で参考となる。  
R. K. ターナー他 (2001)『環境経済学入門』（大沼あゆみ訳）東洋経済新報社  
栗山浩一・馬奈木俊介 (2016)『環境経済学をつかむ』第 3 版、有斐閣

**【成績評価の方法と基準】**

理解度を確認するため、期末に筆記試験を実施する（期末試験 100 %）。

**【学生の意見等からの気づき】**

学習の定着をはかるため、重要な概念の利用等について繰り返し説明し、理解を深めるよう配慮する。

**【その他の重要事項】**

旧科目名称「国際環境政策」を修得済の場合、本科目の履修はできません。必要に応じてエクササイズ（問題練習）を課すので、必ず解いてください。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100, 「7 コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

教員は政府系政策金融機関の研究部門にて地球温暖化問題に関する研究経験があり、本講義中の地球温暖化問題の一部に考え方、分析などが反映されている。

**【Outline and objectives】**

This lecture is concerned with the multifaceted, international aspects of environmental problems. Especially the lecture finds that global environmental problems are typically susceptible to intra- and inter-generational equity agenda.

ECN300HA

**国際環境政策 II**

内山 勝久

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業は、環境政策の国際比較や国際協調のあり方をテーマとします。国際環境政策 I の内容を踏まえ、さまざまな環境問題について統計などの諸資料を活用しながら現状を客観的に理解するとともに、世界の環境政策の潮流、地球環境問題解決のための国際社会や国際協調のあり方、日本の対応などについて解説し検討します。授業では社会科学全般の観点から各種政策とその背景を考察しますが、とくに経済学の知見を多用し、近年注目されている環境政策の経済的手法の考え方の理解に重点を置きます。

**【到達目標】**

各種統計資料等に基づいた国際比較を通じて、各学生が現代社会の重要課題である環境問題やサステナビリティについて経済学的思考を中心に広い視野から主体的に考察し説明できるようになること、新たな問題意識の発掘や醸成、深耕につなげられるようになることを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

主要な環境問題のうち国際環境政策 I で扱うことができなかった問題について、基礎的事項と国際的な取り組みの動向等を、スライドを利用しながら講義形式で解説します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業のねらいや環境問題の実態について
第 2 回	環境政策の考え方	環境問題と経済活動の関係、環境政策の手段等について
第 3 回	環境と持続可能な発展	途上国の環境問題と国際協調のあり方、及び持続可能な発展について
第 4 回	再生可能資源の保全政策 (1)	市場を活用した森林資源保全政策等について
第 5 回	再生可能資源の保全政策 (2)	市場を活用した水産資源保全政策等について
第 6 回	エネルギー問題と環境政策 (1)	エネルギー消費の現状と政策について
第 7 回	エネルギー問題と環境政策 (2)	気候変動対策と経済的手段について
第 8 回	廃棄物管理政策	廃棄物の現状と市場を活用した廃棄物管理手法について
第 9 回	循環型社会への取り組み	循環型社会形成に向けた内外の政策動向について
第 10 回	企業行動と環境政策	環境政策と企業の環境配慮活動について
第 11 回	金融と環境政策	ESG 投資など金融を活用した環境改善の潮流について
第 12 回	都市・まちづくりと環境政策	低環境負荷のまちづくりに関する経済的手法について
第 13 回	生物多様性政策	市場を活用した生物多様性保全の潮流について
第 14 回	環境と経済社会	環境負荷の見える化や幸福度の考え方について

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。さらに、自分が興味を持ったトピックスについて、新聞・雑誌・ウェブサイトなどで関連情報を収集し、問題意識の醸成に努めてください。

**【テキスト（教科書）】**

特定の教科書は使用しません。担当教員が作成した資料を毎回配布します。

**【参考書】**

・浅子和美・落合勝昭・落合由紀子、『グラフィック環境経済学』、新世社、2015 年。

・亀山康子、『新・地球環境政策』、昭和堂、2010 年。

・環境省『環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』（各年版）。(<http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/>)

その他の参考文献は必要に応じて適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

理解度を確認するために、期末に筆記試験を実施します（期末試験 100 %）。

**【学生の意見等からの気づき】**

2016 年度より担当していますが、これまでのところ、授業改善アンケートによる学生からの重要な指摘事項や、その他の要望事項等は特にありませんでした。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業で使用する資料（スライド）は授業支援システムで事前に配信します。必要に応じてプリントアウトして授業に持参してください。

**【その他の重要事項】**

春学期開講の「国際環境政策 I」の履修を推奨します。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This course focuses on the international comparison of environmental policies and the way of international cooperation. Starting from the basic understanding of the current status of various environmental issues using materials such as statistics, we will study the world trends in environmental policy, the framework for global cooperation to address the global environmental problems, and Japan's responses. In this course, we will look at various types of environmental policies and their backgrounds from the viewpoint of social science. We will make great use of the knowledge of economics in particular, and give importance to understand the basic idea of economic instruments in environmental policy which have received attention in recent years.

LAW200HA

**国際環境法**

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

**【到達目標】**

国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。  
法学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	国際環境法の対象と接近方法	アプローチ
第3回	国際環境法の形成 (1)	国際環境法の生成
第4回	国際環境法の形成 (2)	国際環境法の発展
第5回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第6回	国際環境法の性質 (1)	持続可能な発展
第7回	国際環境法の性質 (2)	世代間衡平、予防的アプローチ
第8回	国際環境法の性質 (3)	共通に有しているが差異ある責任、人類共通の関心事
第9回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第10回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第11回	国際環境法の手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、情報交換、事前の情報に基づく同意、環境影響評価、モニタリング
第12回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第13回	人権と環境	人権の国際的保障と環境
第14回	武力紛争と環境	国際人道法における環境保護

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。

**【テキスト（教科書）】**

岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

**【参考書】**

西井正弘編『地球環境条約』有斐閣、2005年。

その他、適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（100%）による。授業内に任意で行うリアクションペーパーは、加点要素としてのみ考慮する。

**【学生の意見等からの気づき】**

これまでと同様の方法で進める。

**【その他の重要事項】**

旧科目名称「国際環境法Ⅰ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This course introduces students to the theory of international environmental law. Students may learn the specific legal framework of international environmental issues and gain better understanding by reading leading cases.

POL100HA

**国際関係論**

岡松 暁子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

国際社会における平和の構築について考察する。

**【到達目標】**

国際社会の諸問題について、基本的な事象とそれらの主要な分析枠組みを理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

国際社会における平和というものを考察するにあたり、まず、戦争と平和の歴史をたどり、特に第二次世界大戦後の超大国による国際秩序について分析する。さらに、冷戦後の国際社会における新たな紛争と秩序構築について、民族問題、環境問題、貧困問題等に焦点を当てて検討する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	序論：平和とは何か	平和の概念について
第2回	戦争と平和の歴史	戦争と平和の歴史につき、特に近現代を中心に概観する。
第3回	冷戦期の国際関係 (1)	国際関係の分析枠組としての理論と現実
第4回	冷戦期の国際関係 (2)	軍拡競争と軍縮
第5回	冷戦期の国際関係 (3)	核兵器・原子力を巡る諸問題
第6回	冷戦後の国際関係	冷戦後の新たな国際問題の特徴
第7回	民族自決と紛争	脱植民地化と民族自決、民族紛争
第8回	国際安全保障	集団安全保障と日本
第9回	人間の安全保障	新たな平和の概念
第10回	南北問題の歴史的変遷	南北問題と南南問題
第11回	貧困と開発	途上国問題
第12回	人権	国際人権保障の困難性
第13回	地球環境問題	地球環境問題の特質
第14回	国際協力と日本の役割	国際社会における日本の取り組み

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で行った範囲をよく復習すること。

**【テキスト（教科書）】**

開講時に指示する。

**【参考書】**

適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験 100%。

**【学生の意見等からの気づき】**

これまでと同様に進めます。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

The course provides an introduction to international peace studies.

ECN300HA

## 国際経済協力論 I

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけではなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

## 【到達目標】

本講義を通じて獲得を目指す基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取り組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、受講生が自分なりの意見や考えを持ち、人に伝えられるようになることが期待される。加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようになることが期待される。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。  
経営学部のディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP5」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある。

## 【授業の進め方と方法】

国際経済協力論 I においては、講師の経済協力の実務経験の紹介も交えながら、日本の取り組みを中心に、経済協力の歴史や背景、その仕組みについての理解を深めるための講義を進める。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。またリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：国際経済協力とは？	国際経済協力とはどのような取り組みか、またなぜそのような取り組みが必要とされているのかについて理解する。
第 2 回	開発途上国とは？	開発途上国と呼ばれる国や地域はどのようなところで、どのように生まれたのかを理解し、われわれが途上国をみる際の視点を再考する。
第 3 回	国際社会と経済協力の歴史 (1) (1945 年～1960 年代)：戦後世界と南北問題	第二次世界大戦後の国際秩序形成の過程と南北問題の登場、初期の経済協力の取り組みについて概観する。
第 4 回	国際社会と経済協力の歴史 (2) (1970 年～1980 年代)：経済協力への失望と変化の兆し	経済協力の初期の取り組みへの反省と幻滅、その後の変化につながる新たな考え方の登場を概観する。
第 5 回	国際社会と経済協力の歴史 (3) (1990 年代～現在)：冷戦後の世界とグローバル化	冷戦終結後の国際秩序と、グローバル化における経済協力の位置づけを概観する。
第 6 回	日本の経済協力の歩み (1)：被援助国から援助国へ	第二次世界大戦後の日本は援助を受ける国であったこと、その経験がその後の日本の経済協力に与えた影響について理解する。
第 7 回	日本の経済協力の歩み (2)：援助国としてのスタート	日本の援助国としての取り組みについて、1950 年代～1970 年代までの社会経済の変化とあわせ概観する。
第 8 回	日本の経済協力の歩み (3)：援助大国と日本の責任	日本の援助国としての取り組みについて 1980 年代～2000 年以降の社会経済の変化とあわせ概観する。
第 9 回	経済協力の仕組みと方法	日本の経済協力の仕組みと現状（特徴）につき、統計資料などをもとに理解する。
第 10 回	経済協力の現場に関わる人々：政府、援助機関、企業、NGO(NPO)	日本の経済協力はどのような人々に担われているのかを理解する。特に政府（「官」）ではなく、「民」の果たしている役割の大きさについて理解する。

- 第 11 回 経済協力をめぐる議論の大きな流れ (1)：経済成長と人間開発  
経済協力の基本的な目標の変遷について大きな流れとして理解する。「経済」重視から「人間」重視に移り変わる様子を、具体的な戦略（アプローチ）の変遷を通じて理解する。
- 第 12 回 経済協力をめぐる議論の大きな流れ (2)：持続可能な開発と環境  
環境をめぐる問題が経済協力の分野でとりあげられてきた経緯を知り、時代ごとに異なる環境問題の様相について理解する。
- 第 13 回 経済協力の評価と効果をめぐる議論  
これまでの経済協力には効果はあったのか、という問いに対する答えを概観する。そのうえでこれからの経済協力について考えるための材料を得る。
- 第 14 回 日本が経済協力を行う理由  
日本は途上国への経済協力を続けるべきか、そうだとすればその理由は何か、日本国民がそれらの問いをどう考えているかを知る。そのうえで自分なりの答えを考える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。受講生は各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

## 【参考書】

斎藤文彦（2005 年）『国際開発論』（日本評論社）  
勝間靖編著（2012 年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）  
牧田東一編著（2013 年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』（学陽書房）  
外務省（毎年発行）『日本の国際協力』（ODA 白書）

## 【成績評価の方法と基準】

中間レポート（20%）と期末試験（80%）による。リアクションペーパーは加点要素とする場合がある。

## 【学生の意見等からの気づき】

提供される情報が多いため、理解しやすい形でメリハリをつけることが求められているところ授業運営に留意したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものとスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100. 「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

## 【Outline and objectives】

This is a first part of the course on economic cooperation for developing countries putting emphasis on Japanese Official Development Assistance (ODA). Students will be able to understand basic knowledge and background of economic cooperation for developing countries.

ECN300HA

## 国際経済協力論Ⅱ

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけではなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

## 【到達目標】

本講義を通じて獲得する基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなす得ることについて、受講生は自分なりの意見や考えを持てるようになることが期待される。加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。  
経営学部のディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP5」に関連が特に強く、「D4」に関連がかなりある。

## 【授業の進め方と方法】

国際経済協力論Ⅱにおいては、国際経済協力の取り組みにおいて近年注目を浴びているテーマについてより深く解説する。特に、誰が、なぜ経済協力をを行うのか、経済協力の目的とされている「開発」とは一体何を意味するのか、という点を中心に各テーマにアプローチする。

必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

またリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：国際経済協力論Ⅰの復習と国際経済協力をめぐる課題の俯瞰	春学期講義の簡単な概括とあわせ、秋学期にとりあげるテーマについて「持続可能な開発目標（SDGs）」とあわせて全体像を紹介する。
第2回	開発と文化：経済協力の目的を問い直す視点	開発の目標がいかに歴史的に形作られてきたかを知り、多様な文化/社会と開発の関係を概観する。
第3回	新たな主体による経済協力（1）NGO(NPO)と市民社会	近年、経済協力において主たるアクターとなっているNGO(NPO)の活動について概観する。
第4回	新たな主体による経済協力（2）民間企業	一般に営利を追求すると思われる民間企業が、経済協力の分野で行っている活動を紹介し、その背景を概観する。
第5回	開発とジェンダー/マイクロクレジットという試み	ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行（バングラデシュ）を事例に、開発とジェンダーの関係について概観する。
第6回	人間の安全保障と経済協力	近年注目される「人間の安全保障」という考え方を知り、国際社会による「人間の安全保障」実現に向けた行動を概観する。
第7回	紛争と平和構築：テロとの戦いと脆弱国家の復興支援	経済協力と紛争/平和の関係について、近年の新たな取り組みをもとに考える。
第8回	アフリカ（1）：アフリカの苦悩 激しい貧困と機能しない国家	アフリカ諸国とそこに暮らす人々がおかれている厳しい状況について概観する。
第9回	アフリカ（2）：アフリカに対して何ができるのか	これまでのアフリカ支援の評価と今後の課題について概観する。
第10回	フェア・トレード（1）：なぜ今、フェア・トレードが重要か？	フェア・トレードとよばれる取り組みがなぜ必要とされているのかについて理解する。
第11回	フェア・トレード（2）：フェア・トレードの試みとその評価	具体的なフェア・トレードの取り組みを紹介し、その課題や現状について概観する。

第12回	国際経済協力や開発による自然・社会環境への影響	開発による環境への影響はどのようなものか概観し、環境への影響を回避/最小限にするためにとられる対策について理解する。
第13回	地球環境問題と経済協力：気候変動（地球温暖化）を中心に	気候変動（地球温暖化）を事例に、国際社会における環境と開発のバランスの議論を概観する。
第14回	まとめ：持続可能な開発目標（SDGs）と支援、パートナーシップ	さまざまな国際協力の課題や現状を踏まえて、これからの支援やパートナーシップのあり方について概観する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。受講生は各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を、講義の事前/事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する

## 【参考書】

斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）  
勝間靖編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）  
牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力入門』（学陽書房）  
外務省（毎年発行）『日本の国際協力』（ODA 白書）

## 【成績評価の方法と基準】

中間レポート（20%）と期末試験（80%）による。リアクションペーパーは加点要素とする場合がある。

## 【学生の意見等からの気づき】

提供される情報が多いため、講義が単調なものとならないように、学生の理解をすすめるようメリハリをつけることを考えていく。

## 【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

## 【Outline and objectives】

This is a second part of the course on economic cooperation for developing countries putting emphasis on Japanese Official Development Assistance (ODA). Students will be able to understand basic knowledge and background of economic cooperation for developing countries including contemporary topics in the international society regarding Sustainable Development Goals (SDGs).

SOC300HA

## 国際社会学

新藤 慶

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講 semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、在日ブラジル人をめぐる状況を、日本とブラジルの両国の視点から理解することで、国際社会学における主要テーマであるトランスナショナルな移動と定住の状況について理解を深めることを目的とする。

### 【到達目標】

本授業を通じて、在日ブラジル人の移動と生活の実態を総合的な観点から理解することで、今日、世界的に生じているトランスナショナルな現象について理解し、自分なりに考察を進めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的には、資料に基づいた講義によって進める。ただし、リアクションペーパーに質問事項を記載してもらうことで、その質問に答えながら、受講生の関心に基づいた授業展開ができるよう心がける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際社会学とは	国際社会学の考え方について概説する。
第 2 回	在日ブラジル人の増加と行政の対応	在日ブラジル人の増加の背景と行政の対応について概説する。
第 3 回	在日ブラジル人の労働と生活	在日ブラジル人の労働と生活の実態について講義する。
第 4 回	ブラジル系エスニック・ビジネスの展開	在日ブラジル人を対象としたエスニック・ビジネスについて講義する。
第 5 回	在日ブラジル人に対する地域住民の意識	在日ブラジル人に対する地域住民の意識について講義する。
第 6 回	在日ブラジル人と町内会活動	在日ブラジル人の集住地域における町内会の対応について講義する。
第 7 回	公立学校における在日ブラジル人教育	公立学校での在日ブラジル人の子どもに対する教育について講義する。
第 8 回	ブラジル人学校における在日ブラジル人教育	ブラジル人学校における在日ブラジル人の子どもに対する教育について講義する。
第 9 回	在日ブラジル人の保育	在日ブラジル人の子どもに対する保育について講義する。
第 10 回	ブラジル政府による教育支援	ブラジル政府による在日ブラジル人教育に対する支援について講義する。
第 11 回	大都市におけるデカセギの影響	ブラジルの大都市における日本へのデカセギの影響について講義する。
第 12 回	大都市近郊農村におけるデカセギの影響	ブラジルの大規模近郊農村における日本へのデカセギの影響について講義する。
第 13 回	僻地農村におけるデカセギの影響	ブラジルの僻地農村における日本へのデカセギの影響について講義する。
第 14 回	帰国児童生徒へのデカセギの影響	日本から帰国したブラジル人の子どもに対するデカセギの影響について講義する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。まず、授業で紹介した文献等で学習を深めることが挙げられる。それに加えて、国際社会学が扱う対象は、現代社会のさまざまなところで見つけることができるため、普段から国際社会的な関心を持ちながら生活することも重要となる。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義資料を配布する。

### 【参考書】

宮島喬ほか編、2015、『国際社会学』有斐閣。  
小内透編、2009、『講座トランスナショナルな移動と定住』（全 3 巻）、御茶の水書房。

### 【成績評価の方法と基準】

論述試験（70%）＋毎回のリアクションペーパー（30%）

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、写真や図のさらなる活用の要望が出されていたので改善したい。また、遅刻者や私語への対応の不十分さも指摘されていたので、改善し、授業環境の整備に努めたい。

### 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

### 【Outline and objectives】

The objective of this course is to understand the transnational migration and settlement as one of main themes in transnational sociology by understanding the Japanese Brazilians' conditions focusing on the relation between Japan and Brazil.

LAW200HA

## 国際法 I

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。本講義では、その国際法の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

## 【到達目標】

国際法の基礎理論を学び、国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象範囲
第 2 回	国際法の基本原理	国際法概念、近代国際法の特徴
第 3 回	法源 (1)	条約、国際慣習法
第 4 回	法源 (2)	法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第 5 回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第 6 回	国家・国家機関 (1)	国家承認、政府承認
第 7 回	国家・国家機関 (2)	国家承継、国家機関
第 8 回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第 9 回	国際組織法 (1)	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第 10 回	国際組織法 (2)	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第 11 回	国家責任法 (1)	国家責任の概念、国際違法行為責任の基本構造
第 12 回	国家責任法 (2)	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第 13 回	国家領域 (1)	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第 14 回	国家領域 (2)	領域権原の取得原因、日本の領域紛争

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
教科書の該当部分を読んでおくこと。

## 【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年。  
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

## 【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

## 【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様のやり方で行います。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100. 「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This course introduces students to the legal order and rules that govern the international society. Students may learn the basic international theory and gain better understanding by reading leading cases.

LAW200HA

## 国際法 II

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際法の各論を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。  
第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

## 【到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象
第 2 回	海洋法 (1)	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第 3 回	海洋法 (2)	排他的経済水域、公海
第 4 回	海洋法 (3)	大陸棚、深海底
第 5 回	南極、宇宙	南極の法的地位、宇宙空間の利用
第 6 回	個人の管轄 (1)	国籍、犯罪人引渡し・庇護
第 7 回	個人の管轄 (2)	国際犯罪、国際刑事裁判所
第 8 回	国際人権法	人権の国際的保障、人道的介入
第 9 回	紛争の平和的解決 (1)	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第 10 回	紛争の平和的解決 (2)	非裁判的手続
第 11 回	紛争の平和的解決 (3)	裁判的手続
第 12 回	国際安全保障、軍縮・軍備管理	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動、核の国際管理、軍縮
第 13 回	国際人道法 (1)	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第 14 回	国際人道法 (2)	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
教科書の該当部分を読んでおくこと。

## 【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年。  
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

## 【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

## 【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進めます。

## 【その他の重要事項】

履修者は国際法 I を履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100. 「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This course introduces students to the specific international legal framework in various fields. Students may learn the legal process of peace making and gain better understanding by reading leading cases.

BSC200HA

## サイエンスカフェ I

石井 利典

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境の科学を正しく理解するためには化学の基礎知識が不可欠です。今後の環境の学習に役立てられるように、高校の「化学基礎」と「化学」の復習からはじめます。さらに、よりクオリティーの高い日常生活を得るために役立つ身近な化学もできるだけ授業に取り入れてゆきます。

## 【到達目標】

高等学校で履修する「化学基礎」と「化学」を大学受験科目にしていなかった受講者が、「環境科学Ⅰ」「環境科学Ⅱ」「環境科学Ⅲ」などの科目を履修するときに必要とする、基礎化学理論を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

化学の基本的な理論、必要な数値計算法、知っておくべき物質の構造と性質を問題演習を中心に解説します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	第1章 物質を構成する ミクロな世界	原子の構造と性質、化学結合と分子間力
第2回	第2章 化学変化と量的 関係	物質、化学反応式
第3回	第3章 酸と塩基	溶液 pH の計算、酸と塩基の反応、中和滴定
第4回	第4章 酸化と還元 (1)	酸化剤と還元剤の反応、酸化還元滴定
第5回	第4章 酸化と還元 (2)	COD (化学的酸素要求量) 値およびDO (溶存酸素量) 値の測定原理
第6回	第5章 有機化学の基礎 (1)	有機化合物の命名法、異性体、有機化合物の構造と性質
第7回	第5章 有機化学の基礎 (2)	炭化水素の反応、アルコールの反応、エステル・アミドの構造
第8回	第6章 身近な有機化合物 (1)	脂肪酸の種類、脂肪と脂肪油
第9回	第6章 身近な有機化合物 (2)	単糖類、二糖類、多糖類の構造と性質
第10回	第6章 身近な有機化合物 (3)	アミノ酸、タンパク質の種類と立体構造
第11回	第6章 身近な有機化合物 (4)	合成繊維、合成樹脂、合成ゴム
第12回	第7章 酵素	酵素、補酵素、補欠分子族のはたらき
第13回	第8章 核酸	DNAとRNAの構造、遺伝子発現のしくみ
第14回	期末テスト	第1回講義～第13回講義の内容に関する筆記テスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業の最初の10分間程度は、前回授業の確認テストを行います。前回の授業内容を配布したプリント類、ノートで必ず確認してください。欠席者は授業支援システムにログインして、その日に配布したプリント類を各自ダウンロードしてください。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したプリントを授業にて配布します。授業で取り扱ったすべてのプリント類は、授業支援システムからダウンロードできます。

## 【参考書】

高等学校で使用している『化学基礎』と『化学』の教科書（出版社は問わない）を入手することが望ましい。

入手先は、<http://www.textkyoukyuu.or.jp/kaiin/tokuyaku13.html>

## 【成績評価の方法と基準】

毎授業時に実施する確認テスト（10分間程度）（50％）と期末試験（50％）の合計点で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

環境科学に関連するテーマとともに、日常生活で体験する身近な科学に関するテーマもさらに多く取り扱ってゆきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムにアクセスできる情報機器

## 【その他の重要事項】

「自然環境科学の基礎（化学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This course provides an interdisciplinary introduction to environmental science in a chemical perspective. Central theme is the interaction between life and the environment. The course is suitable for students who plan further study in this field, also suitable for students without basic knowledge of environmental chemistry.

BLS200HA

## サイエンスカフェⅡ

児玉 ゆう子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、高校の生物学の知識を基本としながら、主として人間の身体の構造と生体のメカニズムを学ぶことにより、組織学、解剖学、生理学の範囲の幅広い知識を身につけることを目的としている。

## 【到達目標】

学生は、自分自身の身体の構造、仕組みを理解し、健康をはぐくむうえで必要となる組織学、生理学などの幅広い知識を習得する。

学生がこれから生きていく上で重要な健康の保持増進、疾病の予防を最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

細胞、血液、筋・骨格系、呼吸器、循環器、消化器など、身体の構造別にそれらの構造、機能、さらには病気などについても学んでいく。

講義のテーマにそったビデオを鑑賞することにより、より深く知識を定着させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	細胞と個体の成り立ち	生命の単位、細胞のはたらき。細胞の分化と分裂、組織。 ビデオ鑑賞
第3回	血液について	血液の働き 免疫について ビデオ鑑賞
第4回	呼吸器	呼吸器を構成する器官。肺の構造と機能。呼吸運動のメカニズム。 呼吸器の病気。
第5回	循環器	循環器系の構造と働き。 心臓について。 血管について。 循環器系の病気。
第6回	消化器（1）	消化器を構成する器官。 口腔、食道、胃、腸 消化器系の働きと病気 ビデオ鑑賞
第7回	消化器（2）	肝臓の構造と機能 ビデオ鑑賞
第8回	骨・筋肉	筋骨格系の構造と機能 関節の仕組みと働き 筋収縮について ビデオ鑑賞
第9回	泌尿器	腎臓の構造と機能 尿について ビデオ鑑賞
第10回	生殖	生殖の仕組み ビデオ鑑賞
第11回	神経	神経の仕組みと働き 中枢神経系と末梢神経系 神経伝達のメカニズム 神経の病気 ビデオ鑑賞
第12回	感覚・知覚	聴覚・平衡感覚 嗅覚、味覚、皮膚感覚 内臓感覚
第13回	感覚・知覚	視覚について ビデオ鑑賞
第14回	発達・まとめ・期末試験	発達の成り立ち 赤ちゃんの発達 ビデオ鑑賞・まとめ・期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

日頃から自分の身体について興味を持ち、観察を行うこと。

関連の話題についての知識を収集する。

## 【テキスト（教科書）】

毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

## 【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

学期末に授業内試験を行う。持ち込みは不可。

## 【学生の意見等からの気づき】

本シラバス作成時点では2014年度のアンケート結果を受領していないため、受領後にアンケート結果を反映させた授業改善を行うものとする。

## 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

## 【その他の重要事項】

「自然環境科学の基礎（生物学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This course is designed to help students acquire extensive knowledge of histology, anatomy, and physiology by learning the morphology and mechanisms of the human body and applying the foundation of high school-level biology.

This course provides students with the knowledge required to comprehend the mechanisms and function of their own bodies and to enhance their health.

BAB200HA

## サイエンスカフェⅢ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学とは、生物の暮らし方や、生物と環境との関係、さらには人間との関わりを含めて理解する学問です。生態学の基礎をわかりやすく学ぶことで、人間の生存基盤である自然環境との向き合い方を考え、ひいては持続的な社会を築く方策を探る能力を養うことにつながっていきます。本講義では、主に日本における生き物を中心とした自然の仕組みについて、基本的な知識と俯瞰的な視点を身に付けることを目的とします。

### 【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①野生生物の生活と生存戦略
- ②生物の進化と適応
- ③生物多様性の意義

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

「動植物の生態」、「生物と環境との相互作用」、「進化と適応」、「動物の行動生態」、「生物多様性」について学びます。国内外の研究事例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、基礎的な知識と理解を積み重ねていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、生態学とは何か、地球の視点から捉える
第2回	鳥類の生態 1	鳥類の生態と特徴、身近な鳥たち、環境との関係、取り巻く問題
第3回	鳥類の生態 2	渡り鳥、日本の鳥類相、特徴的な鳥の紹介
第4回	植物の生存戦略	種子の散布、身近な植物、環境に対する生存戦略
第5回	昆虫の世界	昆虫の特徴、素数ゼミ、水生昆虫、社会性昆虫
第6回	日本の哺乳類	シカとカモシカ、クマとブナ、イノシシと人の関係
第7回	生物の進化 1	古生代までの生物進化の歴史、大絶滅と大進化
第8回	生物の進化 2	恐竜の誕生と絶滅、哺乳類と人間の登場、大進化はなぜ起こるか
第9回	自然選択と適応	適応とは、自然選択とは、適応のための様々な生存戦略
第10回	動物の行動生態	なわばり行動、社会行動、個体数の変動、群集生態
第11回	海洋と沿岸の生物 1	クジラとイルカ、サメ
第12回	海洋と沿岸の生物 2	海から陸への物質輸送、海鳥、サケと海洋環境、サンゴ礁
第13回	生物多様性	生物多様性とは、レジリエンス
第14回	保全生態学	生態学を保全にどう生かすか

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。

### 【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

### 【参考書】

講義において随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

### 【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

### 【その他の重要事項】

人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。さらに理解を深めたい場合は自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。

また講義改善や理解促進の目的で、毎回アクションペーパーを提出してもらいます。

「自然環境科学の基礎（生態学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

### 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

### 【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

### 【Outline and objectives】

In this lecture, students will explore the sustainable relationship between humans and nature through learning the basic ecology such as organic evolution, wildlife and ecosystems in Japan.

PHY200HA

## サイエンスカフェⅣ

## 渡邊 誠

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：物質とエネルギーの理解から環境問題へ

本科目は文系の皆さんに物理学という分野の内容について慣れ親しんでもらうための科目である。日常のありふれた現象を眺めることにより、物理学は、(1) 我々の生活に密接に関連していること、そして (2) 環境問題に直結しその本質的なところを理解するためには必須の内容であること、を「直感的に」学んでいく。物理嫌いの人や高校で物理を履修してこなかった人の受講を大歓迎する。もちろん物理を学んできた人も同様である。高校で習うような（難しい？）式を扱うことはほとんどしない。環境問題を考えるには「地球」というシステムとそこで行われている人間活動「人為」の特徴を「自然法則」に照らして理解する必要がある。この授業の目的はその3つの内容を理解するための基礎的事項を学習することにある。

## 【到達目標】

物質とエネルギーに関する内容について、物理学的な知識が環境問題を考察するための基礎であることが理解できるようになることを目標とする。なお授業内容に関係する分野は、運動と力・エネルギー、物質と熱現象、気体、波動、電流と回路、電界と磁界、原子と原子核などであり、高校物理の内容をほぼ網羅するものとなっている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

視聴覚教材や実験のデモンストレーションを見ながら学習していく。文系の学生、物理を苦手としている学生にわかりやすい授業となるように留意したいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明を行う。なぜ物理は環境問題を考察するための基礎となるのか？
第2回	物体の運動とエネルギー1 (落下するボールの運動と力学、シミュレーション付)	運動の法則と何か？ エネルギーとは何か？ 位置（高さ）と運動（速度）の間のエネルギー変換について。
第3回	物体の運動とエネルギー2 (振り子運動・放物運動と力学、シミュレーション付)	エネルギーは保存される。ジュール(J)、ワット(W)などの基本単位の超入門。人間はエネルギー的に約100Wの電球と同じ、など。
第4回	熱とエネルギーを理解しよう1 (エネルギーの種類と変換、地球に降り注ぐ太陽エネルギーの大きさを測る)	異なった形態のエネルギーと変換について。温度とは？ 比熱とは？ cal と J について。太陽定数の大きさと地球-宇宙の間のエネルギー収支を知ろう。
第5回	熱とエネルギーを理解しよう2 (気体の性質、エンジンなどの熱機関の原理を理解する)	気体の圧力、体積、温度などの関係（ボイル・シャルルの法則）を理解する。気象現象の考察。熱機関（熱から仕事への変換）と熱効率について。
第6回	熱とエネルギーを理解しよう3 (熱の伝わり方を見る、金属棒を伝わる熱+空気の流れにより伝わる熱+電気ストーブによる加熱)	伝熱の3形態「熱伝導」「対流」「熱放射」を理解する。地球システムと熱との関係は？ 人間活動と熱との関係は？
第7回	物質の三態と状態変化を調べよう1 (水の融解・水の蒸発と潜熱、地球上に存在する水の役割について)	物質の三態（液体、固体、気体）の存在を理解する。状態変化に伴って出入りする潜熱の測定。地球上における水の大循環の役割は？ 生命体維持における水の役割は？
第8回	物質の三態と状態変化を調べよう2 (水の密度と膨張率+水の密度と浮力、水の融解現象について)	水の温度と体積との関係を理解する。水に浮かんだ氷の融解に伴う水位の変化を調べる。海水温の上昇は海面上昇に関係しているのか？ 氷山の融解は海面上昇の原因なのか？

第9回	波の性質を知ろう (横波と縦波を観察する、自然の中に現れる様々な波を調べる)	横波と縦波、周期と振動数（周波数）、波長と振幅、波の重ね合わせなどの基礎事項を理解する。音や光の性質などの考察。地震波や海波などの理解。
第10回	電気回路の性質を調べてみよう (電流、電圧、抵抗の超入門、抵抗線を通る電流による熱発生（ジュール熱）について)	乾電池、導線、抵抗などによる回路作りとオームの法則、キルヒホッフの法則などの理解。抵抗率とは？ 電力系統網における送電ロスに熱に転化する。
第11回	磁石を使って電気を作ろう & 電池を使って磁石をつろう (電界と磁界について、モーターと発電機の原理を知る)	モーターのしくみを理解する。電磁誘導と発電の原理を理解する。電磁波とは何か？ 可視光線、赤外線、紫外線、電波、X線なども電磁波の仲間。
第12回	原子・分子を理解しよう (原子の構造とエネルギー、核分裂と原子力発電のしくみについての超入門)	原子核と電子、中性子と陽子、放射線と放射能、Bq（ベクレル）とSv（シーベルト）などについての解説。原子力発電とウラン、セシウム、プルトニウムなどについて。
第13回	物質・エネルギーの保存則と拡散則を知ろう1 (水と湯の間の熱移動+水中に落とされたインク拡散などの現象からエントロピーの概念へ)	熱は高温側から低温側へ、インクは部分から全体へ拡散する。物質とエネルギーの「量の保存」と「質の劣化」の直感的理解。
第14回	物質とエネルギーの保存則と拡散則を知ろう2 (LED電球と白熱電球の熱発生について)	なぜLED電球は白熱電球に比べて省エネなのか？ エネルギー変換にはロス（損失）が伴う。エネルギーの最後の行き場は「熱」。人間活動のエントロピー的解釈超入門。総括として、物理学と環境問題および持続可能という概念との関係性について考える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、授業時に作成したノートを復習してください。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

## 【参考書】

開講時に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくりと進めていきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

様々な現象についての教材や実験のデモンストレーションをプロジェクターに映しながら進めていきます。

## 【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもたないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。この科目は「環境モデル論Ⅰ」「環境モデル論Ⅱ」に関する基礎としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお勧めします。「自然環境科学の基礎（物理学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Theme: Physical fundamentals for energy and materials

In this course we learn fundamentals of physics. Features concerning energy and materials will be clarified with relation to environmental problems on the earth. The following themes will mainly be examined: the law of motion, the concept of energy, the units of energy and power, energy transformations, energy valance on the earth, heat and its capacity, the three states of substances, molecular dynamics for gases and liquids, thermal engine and the heat efficiency, thermal expansion of liquids and solids, the mechanism of thermal transference (conduction, convection, and radiation), phase transition among three states (melting, boiling, and sublimation), fundamentals of wave phenomena, electric circuit, magnetism and electricity, the structure of atomic nuclear and energy, the fission and radioactivity, the first and the second law of thermodynamics, etc. They are instances lectured in this course.

SSS300HA

## 災害政策論

中川 和之

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害大国日本において、ごく最近から歴史時代まで繰り返されてきた災害から、多くの経験を学び、人々の悔しさに共感する。これら過去から近年までの災害経験に基づいて作られて来た災害政策を学び、その狙いと達成度を理解する。これからの災害政策のあり方を共に考え、行政職員や教育者、企業人、社会人としてすべきことを深く認識する。

## 【到達目標】

- ①災害とは何かを、事例から学ぶ
- ②現状の政策の背景と発展、課題を学ぶ
- ③今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える
- ④災害大国日本における当事者として、自らの専門性にどう生かすかを発見する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

日本列島は、これまでの地球の歴史を1年としたら、最も最近の1日だけであった若い列島だ。周囲を海に囲まれ、急峻な山と盆地や谷、限られた平野という大地の特性や恵みを生かし、数万年前から人々が暮らしてきた。そこに、地震や火山噴火、豪雨や土砂災害が繰り返され、災害をもたらしてきた。一方で、古くからさまざまな災害対策や支え合いが、この列島に生きてきた私たちの祖先を支えてきた。社会の高度化や高齢化は、災害に対するぜい弱性を生む。大地動乱の時代に入ったとも言われる日本。そこで、これからの人生を生きていくのが君たちだ。災害対策は、市民、行政、団体、企業にとって避けて通れないテーマだが、限られた資源の中で、どのような備えと構えをとっていけばいいのか。誰かが正解を与えてくれるわけではない。君たち自身が考えていくことでもある。授業では、歴史時代から東日本大震災、近年の災害などを、豊富な映像記録などを使って紹介。それらの災害対応と経験を踏まえて作られて来た災害政策・制度を知る。さらに、ここ数年の災害や授業期間中に発生した災害をも事例にし、制度政策が十分に活かされていない現状を知る。その上で、めざすべき社会のあり方と、制度のあり方をともに考えたい。また、ワークシートも活用し、できるだけ、学生同士や講師との討論を行う。授業のリアクションペーパーに、「今日の気になったキーワード」を記入してもらうとともに、授業の冒頭には前回のリアクションペーパーを振り返り、問題意識を共有して進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明。災害とは何か？ 災害から守るべきこととは何か。なぜ災害政策が求められるのか、歴史も踏まえて概説。行政がやる気になれば、今の法制度でたいていことはできるにも関わらず、なぜ失敗が繰り返され、「想定外」という言葉で語られてしまうのか。講師からの問題意識を投げかけるとともに、最後に災害時に向き合うジレンマを実感する行政職員の実体験を元にしたゲーム「クロスロード」も体験し、災害政策で備えておくことの意味を考える。

第2回	自然現象と災害＝社会的な制度を考える前提としての理科 1	地球の歴史では、新参者である日本列島。肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去の自然現象＝人がいたら災害と言われる現象によって形づくられている。私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのか。「理科」的な話をベースに、これから考えていく「社会」の問題を考えるベースを押さえる。その上で、学生諸君の出身地や身近な場所について、いくつかの指定したWebサイトで知ることができる地域特性の情報を元に、自らの身の回りのハザードリスクを認識することにつながる簡単なワークシートを作成していただくことが宿題となる。
第3回	身近な景観と災害＝理科 2	事前課題で取り組んできたワークシートを元に、それぞれ近い地域の学生同士で相互にプレゼンを行い、グループで語りあう。その場で、スマホやpad、PCなどで調べながら、それぞれが身近な景観がどのような自然現象によって作られてきたかを考察。紹介したさまざまな地図からどのようなことが読み解けるかを知る。
第4回	3つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災前まで	日本の災害対策を大きく変えてきた関東大震災、伊勢湾台風、阪神大震災、東日本大震災とは、どのような災害だったのか、当時の映像などを豊富に紹介し、具体的なイメージを持つ。そして、その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。その後、教訓で作られた災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、なぜ、教訓が活かされていないかを考える。前では、関東大震災、伊勢湾台風と1995年の阪神大震災の直前までを取り上げる。
第5回	3つの大震災と伊勢湾台風＝阪神と東日本大震災とは何だったか	日本の災害対策を大きく変えた阪神大震災以降、東日本大震災とは、どのような災害だったのか、改めて当時の映像などを紹介し、起きたことを振り返る。その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。を考える。また、当時の自らの体験・行動を振り返り、共有をする時間も持つ。
第6回	これからの大災害への備え	想定首都直下地震、南海トラフの地震、巨大化する台風など、これからの生涯で経験する可能性がある自然災害が、政府や専門家がどう想定しているかを知る。東日本の後、教訓で作られた災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、まだ整理されていない課題は何かを考える。
第7回	災害政策はどう活かされ、使われていないか＝近年の風水害編	2018年西日本豪雨や台風21号、2017年九州北部豪雨や2016年台風10号、2015年9月関東・東北豪雨などの豪雨災害・台風災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、洪水に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考え、それぞれの首長へのアドバイスを考えてみる。
第8回	災害政策はどう活かされ、使われていないか＝近年の地震災害編	2018年北海道胆振東部地震、大阪北部地震、2016年熊本地震や2016年鳥取県中部地震など、近年の地震災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、2度の震度7に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考え、それぞれの首長へのアドバイスを考えてみる。
第9回	災害政策はどう活かされ、使われていないか＝近年の噴火災害編	登山シーズンの中という最悪のタイミングで極小規模な水蒸気噴火をした御嶽山、警戒していた地点と異なる場所から噴火して犠牲者を出した草津・本白根の噴火、観測史上初めての小規模な噴火が起きた箱根山、危険な火砕流が発生しながら避難しきった口之永良部島、噴火現象は起きなかったが大量のマグマが地表付近まで貫入した桜島。ここ数年の噴火災害に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考え、それぞれの首長へのアドバイスを考えてみる。

- 第10回 災害政策に求められることとは？  
これまでの授業で学んできた災害種別ごとに、事前の備えや災害後の危機管理、応急救助、暮らしや営みの再建、復興で、何が求められるのか、改めて振り返るとともに、地域特性を調べた居住地（出身地）の市区町村の災害対策で欠けている点は何かを考えてワークシートに記入し、問題意識を共有して議論する。その上で、居住地（出身地）の市区町村が作成している「地域防災計画」（その地域で地区防災計画があればそれも）を読み込み、レポートの提出を求める。
- 第11回 災害報道・災害情報  
かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNSなどの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM 防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体が情報を共有するための研究成果に基づくSIP4Dについても知る。
- 第12回 市民防災・ボランティア  
この国で避けられない自然災害の前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。すべて、自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力が鍵になる。ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割をともに考える。
- 第13回 災害と恵み・防災教育・ジオパーク  
自然には恩恵と災害の二面性がある。恐怖の訴求だけでは、継続して災害への備えを続ける意欲を持ち続けるのは難しい。大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。自分の地域が嫌いになったり考えたくなくなる脅しの防災の限界を見据え、防災教育やジオパークなどの活動の現状を知ることで、危険性だけを強調するのではなく、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。
- 第14回 めざすべき社会と災害＝授業のまとめおよび授業内レポート  
「地域防災計画」（その地域で地区防災計画があればそれも）のレポートを元に、授業時間中に試験（レポート）を書いてもらう。これまでの授業資料やワークシートの持ち込みや、その場でスマホやPCの活用も可能とする。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業時間以外で、以下の2つのワークシートとレポートの提出してもらう。さらに、この授業を受ける以上、日ごろから災害に関連する情報やニュースに関心を持っておいて欲しい。

- 1) 学生諸君の出身地や身近な場所について、いくつかの指定した Web サイトで知ることができる地域特性をまとめるワークシート。
- 2) 居住地（出身地）の市区町村が作成している「地域防災計画」（その地域で地区防災計画があればそれも）を読み込んだうえでのレポート。

#### 【テキスト（教科書）】

授業では、PPTを使用する。その資料は、毎回、授業で配布するとともに、授業支援システムに事後に掲載する。どうしても出席ができなかった場合、資料を参考にして授業レポートをメールで提出することで評価対象とする。

#### 【参考書】

授業の中でも課題とするが、自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画（その地域で地区防災計画があればそれも）は必須。内閣府の防災情報のページや被災自治体のホームページから学ぶものは多い。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常評価（リアベ）40%、授業中の課題ワークシート・レポート評価 20%、期末試験（最終講座内レポート）評価 40%

#### 【学生の意見等からの気づき】

災害時のジレンマを実感するゲーム「クロスロード」を実施する他、授業中の相互のディスカッションの時間をより多くしたい。毎回のリアクションペーパーをより活用し、問題意識を確認して次に進みたい。既に東日本大震災でも「歴史」になってきており、できるだけ、映像資料を豊富に使い、具体的に災害をイメージしてもらいたい。授業の資料は、これまで事後に授業システムに格納していたが、今後は当日、配布をし、メモやキーワードを記入してもらうことにしたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業の後、授業支援システムに配布した資料を搭載する。どうしても出席ができなかった場合、資料を参考にして授業レポートをメールで提出することができる。

#### 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

#### 【実務経験のある教員による授業】

通信社の記者として、1984年の長野県西部地震や1995年の阪神大震災などの取材を担当。阪神大震災後は、取材で担当した災害救助法の制度見直しに、厚生省の関係委員会の委員として関与。その後も、災害取材を行うと共に、災害対応に当たった市町村長らの悩みを聞き取り、政府や自治体で災害法制度の見直しなどの委員会の委員などを務めるなど、災害政策の現場における課題の解決に取り組んできた。また、災害をもたらす大地の営みの恩恵も理解するプログラムのジオパークの運動で、日本における審査を担当してきた。これらの経験を踏まえ、現実としての災害政策のあるべき姿を、受講者の学生と共に考えていきたい。

#### 【Outline and objectives】

1. To learn about the major disaster of Japan, and sympathize with a victim of disaster.
2. To learn the disaster prevention and mitigation policy that was made based on past disaster experience from the past to the present, and understand its aim and achievement degree.
3. Think about the way of disaster prevention and mitigation policy from now on, and deeply recognize what should be done as society people.

MAN300HA

## CSR 論 I

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において企業が直面する社会的課題について検討します。CSR に関心が高まっている背景には、社会が必ずしもよい方向に進んでいないという認識を人々が抱いているからにはなりません。社会的課題を解決するための仕組みとして、SDGs、パリ協定、ESG 投資等の理解を深め、サステナビリティ社会が求める企業像について考えます。

## 【到達目標】

企業や非営利組織の活動の視点から、現在社会における「公共性」をめぐる生じる諸問題に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

サステナブルという言葉が現代社会のキーワードとして提示され、様々な社会的課題の解決を目指すソーシャルビジネス（社会的企業）の活動も注目されています。本講義では、CSR に関する理論やケースを取り上げ、企業経営における CSR の意義とサステナブル社会で求められる企業像を検討します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス CSR の基本概念 企業と社会の問題領域	講義の進め方 講義の全体像
第 2 回	グローバル経済の進展とその影響	1980 年代の米国と英国で進展した市場主義経済の光と影
第 3 回	サステナビリティ（持続可能性）と CSR	地球サミット以降の CSR の展開
第 4 回	欧州の CSR 戦略	EU における CSR 政策の動向とその意義
第 5 回	CSR の制度化	ISO26000, MDGs, SDGs
第 6 回	企業戦略と CSR の相克	企業不祥事の実態とその要因
第 7 回	CSR と経営戦略	マイケル・ポーターの CSR・CSV 論を中心に
第 8 回	企業と NPO のパートナーシップ	価値共創経営とは何か
第 9 回	外部講師による特別講義 I	企業等の実務家による講義（詳細は開講時に提示）
第 10 回	企業価値と CSR - 責任投資原則	投資家は CSR をどのように評価してきたのか
第 11 回	外部講師による特別講義 II	企業等の実務家による講義（詳細は開講時に提示）
第 12 回	CSR 金融① 社会的責任投資とは何か	CSR と社会的責任投資（SRI）の関係性
第 13 回	CSR 金融② 責任投資原則と企業評価	環境・社会・ガバナンスを反映した企業
第 14 回	SDGs と企業経営	SDGs とビジネスの統合のあり方

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。国内では 1,000 社程度の企業が CSR 報告書を発行しています。本講義で習得した知識を活かして、CSR 報告書を読み解いてみましょう。

## 【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

## 【参考書】

長谷川直哉編著『不連続社会と向き合った企業家の光と陰』文真堂、2019 年  
長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文真堂、2018 年  
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017 年  
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂、2016 年  
日経エコロジー編『ESG 経営ケーススタディ 20』日経 BP 社、2017 年  
水口剛『ESG 投資』日本経済新聞社、2017 年  
谷本寛治『責任ある競争力 - CSR を問い直す』エヌティティ出版、2013 年  
谷本寛治『SRI 社会的責任投資入門』日本経済新聞社、2003 年

## 【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：30%（2 回分）

期末試験：70%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の理解を論理的に展開しているか等を評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

## 【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

## 【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財) 国際金融情報センターに出身し、カントリーリスクや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

## 【関連資格】

証券アナリスト検定会員（CMA）

## 【Outline and objectives】

In this lecture, I will explain the social issues that companies face in modern society. The reason behind the growing interest in CSR and corporate ethics is that people are aware that corporate activities do not necessarily have a positive impact on society. As a mechanism to solve social problems, this lecture aims to deepen the understanding of SDGs, Paris agreements and ESG investment.

MAN300HA

## CSR 論Ⅱ

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CSR 論Ⅰで習得した知識を基に、CSR (Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任) や Business Ethics (経営倫理) が時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。SDGs を実現するうえで求められる企業の役割と企業に所属する個人の職業倫理のあり方について理解を深めることを目指します。

## 【到達目標】

企業や非営利組織の活動の視点から、現在社会における「公共性」をめぐる生じる諸問題に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本の CSR および Business Ethics に関する基本理論や背景となる思想の展開を概観します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や CSR および個人の職業倫理について検討していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方
第2回	企業と社会の問題領域 企業の機能と役割 株式会社の発展と企業倫理	講義の全体像 日米欧における株式会社の発展プロセスと企業倫理の変遷
第3回	近代産業の勃興と経済倫理Ⅰ-見えざる手と道徳哲学	『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性
第4回	近代産業の勃興と経済倫理Ⅱ-功利主義思想	産業革命の勃興と企業倫理
第5回	J. ベンサム, J. ミル 近代産業の勃興と経済倫理Ⅲ-資本主義の精神と倫理	近代資本主義の思想的背景
第6回	M. ウェーバー 企業社会の論理と倫理-社会的責任のマネジメント	社会的器官としての企業
第7回	P. ドラッカー 外部講師による特別講義Ⅰ	企業等の実務家による講義（詳細は開講時に提示）
第8回	新自由主義 vs 第三の道	新自由主義の思想と限界 第三の道と新しい公共
第9回	CSR 経営論の変遷	マイケル・ポーターの CSR 論を中心に
第10回	CSR の胎動	新自由主義への反動と CSR の胎動
第11回	① 日本企業の倫理と CSR	明治～戦前期における企業経営と CSR
第12回	② 外部講師による特別講義Ⅱ	企業等の実務家による講義（詳細は開講時に提示）
第13回	③ 日本企業の倫理と CSR	戦後の高度経済成長と CSR
第14回	④ 日本企業の倫理と CSR	成熟化社会の到来と CSR

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。関心のある企業の経営理念や CSR 報告書を読み、企業がどのような価値観を持って発展し CSR 活動を行っているのか調べて下さい。

## 【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

## 【参考書】

長谷川直哉編著『不連続社会と向き合った企業家の光と陰』文真堂、2019年  
長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文真堂、2018年  
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂カ、2017年  
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂、2016年  
R.L. ハイルブローナー（松原隆一郎ほか訳）『入門経済思想史』筑摩書房、2001年  
武田晴人『日本人の経済観念』岩波書店、1999年

佐和隆光『成熟化社会の経済倫理』岩波書店、1993年  
谷本寛治『責任ある競争力ー CSR を問い直す』エヌティティ出版、2013年

## 【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：30%（2回分）

期末試験：70%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

## 【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財)国際金融情報センターに出向し、カントリーリスクや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

## 【関連資格】

証券アナリスト検定会員（CMA）

## 【Outline and objectives】

This lecture will explain the historical transition of CSR (Corporate Social Responsibility) and Business Ethics (Management Ethics) based on the knowledge acquired by CSR I. In addition, this lecture aims to deepen the understanding of the roles of companies necessary for realizing SDGs and the way of employee's ethical ethics.

DES300HA

**自然環境政策論 I**

高田 雅之

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論I（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論II（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究することを目的とします。

**【到達目標】**

以下の2点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題
- ②人間による影響を減らすために取り組まれている主な保全対策

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

「保全の対象となる生態系の特徴」、「人間活動によって引き起こされる諸問題」、「外来種や種の絶滅という難題」、「日本における主な自然環境保全制度」、「新たな課題である里山・生物多様性・自然再生」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね到達目標に向かいます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、環境問題の難しさ、自然環境の保全とは
第2回	森林をめぐる諸課題	森林の構造と機能、森林の管理、森林保護をめぐる事例
第3回	草原をめぐる諸課題	半自然草原・高山草原・海岸草原の特徴と取り巻く課題
第4回	湿地をめぐる諸課題	湿原・水田・干潟の特徴と取り巻く課題
第5回	陸水域をめぐる諸課題	河川・湖沼生態系の特性、水生生物、富栄養化と水質問題
第6回	鳥嶼をめぐる諸課題	海洋島と大陸島、固有の生物相、ガラパゴスや小笠原諸島などの事例
第7回	自然環境をめぐる難題：貴重種 1	レッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第8回	自然環境をめぐる難題：貴重種 2	種の保存法に関する事例、種の再導入
第9回	自然環境をめぐる難題：外来種 1	様々な導入経路と影響、外来生物対策、国内外の事例
第10回	自然環境をめぐる難題：外来種 2	淡水における外来種問題など
第11回	日本の自然環境保全政策 1	鳥獣保護区、ワイルドライフマネジメント
第12回	日本の自然環境保全政策 2	自然公園、自然環境保全地域
第13回	自然の再生	自然再生とは、近自然河川工法、国内外の事例、グリーンインフラ
第14回	里山と生物多様性	里山の特徴と変貌、生物多様性とは、生態系サービス

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。

**【テキスト（教科書）】**

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

**【参考書】**

講義において随時紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験により評価します（100%）。

**【学生の意見等からの気づき】**

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

**【その他の重要事項】**

自然環境政策論I（春期）とII（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェIII（生態学）（春期）と自然環境論IV（秋期）の受講を勧めます。

また講義改善や理解促進の目的で、毎回アクションペーパーを提出してもらいます。

旧科目名称「自然環境政策論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

公務員、独立行政法人、民間企業

**【Outline and objectives】**

In this lecture, students will understand the current conditions of the natural environment and learn issues of biodiversity such as endangered species and alien species, and basic nature conservation policy in Japan.

DES300HA

## 自然環境政策論Ⅱ

高田 雅之

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究することを目的とします。

### 【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①日本における自然環境保全へ向けた誘導的・社会的・経済的な取り組みの考え方とその実際
- ②諸外国における取り組みの事例とその仕組み
- ③国際条約など国際的な枠組みによる保全

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。  
法学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

「環境影響評価や環境計画などの誘導的・計画的なアプローチ」、「法によらない保全事例」、「諸外国におけるユニークな保全とその仕組み」、「国際的な枠組みによる保全」、「経済的なアプローチ」、「地域の自然資源の活用とエコツーリズム」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と解決意識を積み重ね到達目標に向かいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、文明の盛衰と自然環境、人を動かす概念の進化
第2回	自然との共生と軋轢	日本における動物・水・森林と人との関わり、開発と自然保護の対立
第3回	環境影響評価 1	環境アセスメントの特徴と手続き、日本における制度構築の経過
第4回	環境影響評価 2	特徴的な仕組みと事例、戦略的環境アセスメント、生態学と環境計画
第5回	法によらない保全メカニズム	自然環境保全指針などの地域ビジョン、NPOによる取組事例、協定等の自発的手法
第6回	海外の自然環境政策に学ぶ 1	フランスの地方自然公園とエコミューゼ、ドイツのピオトープ
第7回	海外の自然環境政策に学ぶ 2	イギリスのナショナルトラスト・グラウンドワーク、日本のトラスト活動
第8回	海外の自然環境政策に学ぶ 3	欧州の農業環境政策、環境支払い、エコロジカルネットワーク
第9回	国際的な取り組み 1	ラムサール条約、世界遺産条約、生物多様性条約
第10回	国際的な取り組み 2	ワシントン条約と象牙問題の事例
第11回	国際的な取り組み 3	世界農業遺産、ジオパーク
第12回	生物多様性と経済	企業活動とリスク、認証制度、生態系サービスへの支払い、生物多様性オフセット、自然資本
第13回	エコツーリズム	エコツーリズムとは、インタープリテーション、管理型観光と自主型観光、野生生物を生かした事例
第14回	地域資源の活用	自然の価値を高める経済的な循環事例

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。

### 【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

### 【参考書】

講義において随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

### 【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

### 【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回アクションペーパーを提出してもらいます。

### 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

### 【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

### 【Outline and objectives】

In this lecture, students will learn social, international and economic measures and possibilities of future new policies for nature conservation and sustainable use of the natural resources.

GEO200HA

## 自然環境論 I

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

## 【Outline and objectives】

Natural environments (climate, topography, water circulation, and so on) around our human societies vary in each place worldwide. Their origins are reasonable in terms of science, and they have reached the present status through various global, regional, and local changes in the long history of the earth. We examine spatial variation, mechanism, and history of the present-day natural environments in the Japanese island, with in mind the relationship between natural environments and human societies (life, industry, culture, and so on).

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

われわれをとりまく自然環境（気候や地形、水循環ほか）は、地域ごとに個性と必然性を有し、変化を繰り返して現在に至っている。「水や空気のように」あたりまえの存在では決してない。本授業では、日本列島の現在の自然環境を、人間社会（暮らしや産業、文化）との関わりをなかで時空間を行き来しつつ見つめなおす。

## 【到達目標】

自然環境の地域的差異・メカニズム・歴史の変遷を説明できる。  
人間社会が自然環境に左右される側面を具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

自然地理学のアプローチを通じ、強く関連しあう自然界の諸要素を系統的かつ平易に解説する。講義形式。身近な自然環境の具体像を含むスライドも活用。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	自然環境と人間社会	環境決定論、環境可能論、その後
第2回	大気大循環	地球のエネルギー収支、3つの循環、偏西風
第3回	海洋大循環	表層循環、深層循環
第4回	気候の要素・因子・区分	緯度、海流、地形、ケッペンの区分、アリのソフの区分
第5回	日本列島の気候	気団、海流、四季、偏西風蛇行、エルニーニョ・南方振動、都市気候
第6回	編年法・古環境復元法	第四紀、年輪、考古、放射性炭素年代、火山灰、花粉、珪藻
第7回	気候変動と海水準変動	氷期と間氷期、酸素同位体比、地球温暖化
第8回	地形をつくる力	外的営力、内的営力、外来作用、地形の種類とスケール
第9回	プレートテクトニクス	プレート、プレート境界、島弧海溝系、火山フロント
第10回	日本列島の地震と火山噴火	プレート境界、活断層、活火山
第11回	日本列島の地形と地質	現在の地形形成環境、日本列島の成り立ち、資源
第12回	水・土壌	水の収支・循環・滞留時間、土壌因子、土壌型、砂漠化
第13回	植生・動物	自然植生、植生遷移、動物相、外来種、絶滅種
第14回	人間社会が自然環境に及ぼす影響	自然環境の保全、地球環境問題

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
自然環境に関わる時の話題や映像等に積極的に触れること。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

## 【参考書】

授業中に紹介

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）。(1) 自然環境の地域的差異・メカニズム・歴史の変遷を説明できるか、(2) 人間社会が自然環境に左右される側面を具体的に記述できるか、を問う。

## 【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がけます。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

GEO200HA

## 自然環境論Ⅱ

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

## 【Outline and objectives】

The land is our stage of life, on which our human societies stand. It is true that the land does not seem to change, but the land has changed repeatedly and reached the present styles through various geomorphic processes such as river flood and crustal deformation in the recent geologic time. We examine the geomorphic environment in the Japanese islands, one of the tectonically active and intensely denuded regions in the world, in order to recognize how land conditions are related to our human societies.

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活の舞台である大地。「動かざること大地の如し」ともいわれるが、実際には河川氾濫や地殻変動などの変化プロセスを通じて成立してきた。本講義では、いかなる社会も大地の個性に根ざして成り立っていることを意識しながら、「湿潤変動帯」日本列島の地形的個性を見つめなおし、人間社会との関わり合いを再認識する。

## 【到達目標】

大地の個性と成り立ち、および土地が変貌するプロセスを説明できる。土地条件や土地利用といった視点から人間社会の課題を具体的に提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

背景となる自然地理学的知見を総合的に見渡ししながら、地形学のアプローチから理解を深める。講義形式。野外調査データを含むスライドも活用。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	土地と人間社会・東京の自然史	土地条件、土地利用、自然災害
第2回	日本列島の自然環境	湿潤変動帯といわれる所以
第3回	地形をつくる力	外的営力、内的営力、外来作用、地形の種類とスケール
第4回	地図・空中写真・DEM	測地系、地図投影法、縮尺、等高線、DEM（数値標高モデル）、地形判読
第5回	GISとGNSS	GIS（地理情報システム）およびGNSS（全球測位衛星システム）とその活用
第6回	山地の形成と解体	山のすがた、風化と侵食、山地形成論、氷河地形
第7回	河川地形の成り立ちと土地利用	扇状地、氾濫原、三角州、土地利用
第8回	海岸地形の成り立ちと土地利用	砂浜海岸、岩石海岸、サンゴ礁海岸、土地利用
第9回	変動地形・火山地形の成り立ち	活断層、地震性隆起、マグマの組成、噴火様式
第10回	海底地形の成り立ち	大陸棚、陸棚斜面、プレート境界、大洋底、海底火山
第11回	段丘地形の成り立ちと土地利用	河成段丘、海成段丘、気候変動、地殻変動、土地利用
第12回	段丘面と地殻変動	段丘面の編年、関東ローム層、隆起と沈降
第13回	関東平野の地形発達史と古地理	多摩丘陵、武蔵野台地、東京低地
第14回	人間社会が土地に及ぼす影響	鉄穴流し、干拓、埋立て、造成

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。自然環境に関わる時の話題や映像等に積極的に触れること。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

## 【参考書】

授業中に紹介

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）。(1) 大地の個性と成り立ち、および土地が変貌するプロセスを説明できるか、(2) 土地条件や土地利用といった視点から人間社会の課題を具体的に提示できるか、を問う。

## 【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がけます。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

GEO200HA

## 自然環境論Ⅲ

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

### 【Outline and objectives】

The natural environment of the Japanese islands is characterized by tectonic landforms. These tectonic landforms have mainly developed related to recurrent large earthquakes, and thus earthquake disasters will also occur in the future. We examine spatial variation, mechanism, and history of tectonic landforms as well as seismogenic environments in the Japanese islands, in order to improve our social resilience.

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の自然環境を大きく特徴づける「変動地形」。変動地形は大地震発生と密接に関わって成立しており、地震災害はわが国の宿命ともいえる。本授業では変動地形の成り立ちを知り、日本列島の地震発生環境の地域的個性、ひいては人間社会のあり方を見つめなおす。

### 【到達目標】

地震発生繰り返しモデルを説明できる。

日本列島の地震発生環境の地域的個性を具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

背景となる地形的知見を踏まえ、変動地形学・古地震学のアプローチを通じて日本列島の地形的枠組みや地震発生環境の理解をはかる。講義形式。国内外における地殻変動の具体像を示すスライドも活用。図上作業を授業時間内に2度実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本列島の地震発生環境	島弧海溝系、プレート境界、活断層、活火山
第2回	変動地形と古地震の調査法	地形学、地質学、地球物理学、史料地震学、地震考古学
第3回	地震発生繰り返しモデル(1)	スダ海溝、サンアンドレアス断層、北アナトリア断層ほか
第4回	地震発生繰り返しモデル(2)	固有地震モデル、時間予測モデル、変位予測モデル、長期評価
第5回	活断層の認定	地震規模と地表変位、活断層地形判読
第6回	日本海溝の地震	2011年東北地方太平洋沖地震、869年貞観地震ほか
第7回	千島海溝の地震	17世紀型超巨大地震ほか
第8回	相模トラフの地震	1923年大正関東地震、1703年元禄関東地震、首都直下地震（狭義）
第9回	南海トラフの地震	1944・1946年昭和、1854年安政、1707年宝永ほか
第10回	琉球海溝の地震	1771年明和ほか
第11回	地震と活断層	2016年熊本地震、1995年兵庫県南部地震ほか
第12回	西南日本の活断層	中央構造線断層帯、近畿三角帯、中部山岳地域ほか、歴史地震
第13回	東北日本の活断層	糸魚川-静岡構造線断層帯、日本海東縁ほか、歴史地震
第14回	地震が人間社会に及ぼす影響	地殻変動と地震動

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

自然環境に関わる時の話題や映像等に積極的に触れること。

### 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

### 【参考書】

授業中に紹介

### 【成績評価の方法と基準】

図上作業（20%）と期末試験（80%）。図上作業は、作業への取り組み状況等をもとに評価する。期末試験においては、(1)地震発生繰り返しモデルを説明できるか、(2)日本列島の地震発生環境の地域的個性を具体的に記述できるか、を問う。

### 【学生の意見等からの気づき】

知識と思考力に加え、基礎力や応用力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がけます。

### 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

DES300HA

## 自然環境論Ⅳ

中井 達郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たち人間は、自然環境に取り巻かれ、それを基盤にして生存し、生活しています。しかし、近年さまざまな原因により自然環境が劣化し、人間社会への悪影響が生じています。この授業では、そのような自然環境の劣化の現状を知り、その原因を考えます。さらには自然環境保全の必要性とそのための方策を考えます。そして自然環境保全のためには、生態学、地生態学などの自然科学のみならず人文・社会科学も含むさまざまなアプローチから、また身の回りの身近な地域レベルから地球規模までの幅広い視点から理解しようとするこの重要性を学び、人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

## 【到達目標】

以下の4点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①環境保全のための基本概念である生態系
- ②生物多様性保全とそのための方策
- ③地域レベルから地球規模レベルまでを関連づけて総合的とらえることの重要性
- ④持続可能な自然利用の重要性とそのための方策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

「生態系」、「社会変化と自然環境」、「生物多様性保全」、「地域での自然環境のとらえ方」、「持続可能な自然利用とそれを基本とした社会」などについて、国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより学びます。自然科学的視点と人文・社会科学の視点を含む総合的かつ論理的な理解とそれに基づいて、自然とのつきあい方を考える能力を高めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「環境」とは？ 自然環境保全とは？	「環境」とは何かを整理、認識した上で、現代社会で大きな課題となっている環境問題、自然環境保全の内容とその根底に共通する「持続可能性」についての議論を行う。
第2回	生態系とは（1）循環	自然環境を理解し、また地球環境問題や公害問題も含む環境保全全般において重要な基本概念である「生態系」について解説する。
第3回	生態系とは（2）関係性	前回に引き続き、「生態系」について解説する。
第4回	生物多様性 (biodiversity) とは？	自然環境保全において重要なキーワードである「生物多様性」について解説する。そして生物多様性を保全することが、自然環境保全に根幹にあることを示す。
第5回	生物種の多様性の危機	近代から現代にかけて、急速に進行する生物種の絶滅、それは生物多様性の危機である。その現状を解説する。
第6回	絶滅の原因と人間活動	現在進行している多くの生物種の絶滅は人間活動に起因することを示すとともに、現在行われている対策について紹介する。
第7回	生態系の多様性・地域の多様性	生物多様性保全において、地域生態系の多様性を保全が極めて重要である。地域生態系の多様性を成立させている空間的、時間的背景を含めその保全の重要性を解説する。
第8回	里やまと生物多様性（1）里やまとは	近年、生物多様性保全の視点から注目されている「里やま」について解説する。
第9回	里やまと生物多様性（2）人間活動が維持する生物多様性	「里やま」における伝統的自然利用とそれが生む生物多様性について紹介するとともに、持続可能な自然利用のありかたを考える。
第10回	都市の自然：自然環境・生物多様性の回復をめざして	すでに劣化してしまった都市の自然について、そのような場所における生物多様性の「回復」の必要性と活動の事例を紹介する。

第11回	サンゴ礁に見る地球環境保全と生物多様性保全 （1）：サンゴ礁の生物多様性	授業担当者の専門であるサンゴ礁の自然と人間のかかわりを紹介する。まず、サンゴ礁生態系の構造と生物多様性について解説する。
第12回	サンゴ礁に見る地球環境保全と生物多様性保全 （2）：地球温暖化とサンゴ礁	現在世界各地のサンゴ礁は人為的インパクトによって劣化している。サンゴ礁保全を通じて、地域レベルの生物多様性保全の解決は地球規模の生物多様性保全・環境保全につながることを学ぶ。
第13回	人間にとっての生物多様性：なぜ自然環境保全が必要か？	これ以前の授業でも折に触れて言及する「人間にとっての生物多様性」の必要性について整理を行った上で、どのような保全が目指されているかを学ぶ。
第14回	自然環境保全と持続可能な自然利用を基本とする社会にむかって	自然環境保全・生物多様性保全のゴールは、持続可能な自然利用を基本においた社会形成であると考えられる。現在行われている生物多様性保全の制度うちのいくつかを紹介しその課題と将来への方向性を検討する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃接するメディアや日常生活において、自然環境に関わる情報や科学的な話題などに関心を払うよう努めます。

## 【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

## 【参考書】

講義において随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

## 【その他の重要事項】

本講義は応用的内容を含みますので、基礎的な知識や理解として自然環境科学の基礎（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を併せて受講することを勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Human beings are surrounded by the natural environment and our life is supported by its natural environment. However, due to various causes in recent years, the natural environment has deteriorated. And the environmental degradation has a bad influence on human society. In this class, we will learn the current situation of such natural environment degradation and reveal the cause. Furthermore, we discuss the necessity of natural environment conservation and measures for that. These discussions include social scientific approaches as well as natural scientific approaches. It also includes the spatial scale from the local level to the global level. Through such various perspectives, we aim to consider the desirable relationship between human beings and the natural environment.

GEO200HA

## 自然災害論

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害をもたらす自然現象をなくすことはできない。リスクに配慮した防災力の高い地域社会の構築に向け、多角的なアプローチが求められる。「いつ」「どこで」「何が」起こり得てその地がどうなるのか。人間社会は「その時」にどう備えるか。実例やメカニズム、リスクを検証し、災害の自然的・社会的背景をさぐる。

## 【到達目標】

自然災害リスクを決定づける要因を説明できる。  
災害の実例を挙げ、その特徴を自然・社会の両面から具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式。災害調査現地データを含むスライドも活用。図上作業を授業時間内に2度実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	自然災害と防災	自然災害とは、自然災害リスク、防災とは
第2回	地震発生予測	地震発生繰り返しモデル、長期評価
第3回	土地条件評価	地形、表層地盤、地域危険度
第4回	地震災害の諸相 (1)	地殻変動、地震動、液化化
第5回	地震災害の諸相 (2)	津波、地震火災、津波火災
第6回	火山災害の諸相	火砕流、溶岩流、山体崩壊、噴石、火山灰
第7回	気象災害の諸相	豪雨と積乱雲、台風、高潮
第8回	土砂災害の諸相	斜面崩壊（表層崩壊・深層崩壊）、地すべり、土石流、岩屑なだれ
第9回	土地利用と社会基盤 (1)	災害危険区域、防潮堤、かさ上げ、高台移転
第10回	土地利用と社会基盤 (2)	耐震基準、活断層条例、治山・砂防・治水
第11回	防災気象情報	予測可能性、伝達手段、緊急地震速報、津波警報、噴火警戒レベル、気象警報
第12回	避難	避難情報、避難場所、避難所
第13回	災害の歴史・災害経験の継承	災害史、記録と記憶、地名、碑、震災遺構
第14回	ハザードマップと防災教育	土地条件、想定、避難、学校、地域

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
自然災害と防災に関わる時の話題や映像等に積極的に触れること。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

## 【参考書】

授業中に紹介

## 【成績評価の方法と基準】

図上作業（20%）と期末試験（80%）。図上作業は、作業への取り組み状況等をもとに評価する。期末試験においては、(1) 自然災害リスクを決定づける要因を説明できるか、(2) 災害の実例を挙げ、その特徴を自然・社会の両面から具体的に記述できるか、を問う。

## 【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がけます。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科日は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Natural phenomena that cause disasters have occurred repeatedly worldwide, and will also occur in the future. We have to improve our approaches in all aspects for building resilient societies. We examine sciences of natural disasters caused by earthquakes, tsunamis, volcanic eruption, heavy rain, and slope failures, and then discuss land use, social infrastructures, use of disaster information, evacuation, hazard map, and education, for reducing natural-disaster damages.

POL200HA

## 市民社会と政治

谷本 有美子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「市民社会」の概念は極めて多義的ですが、この講義では 1990 年代に台頭してきた「現代の市民社会」を中心に学びます。政府・自治体の政策形成過程と市民の参加、及び NPO・NGO（市民セクター）と政府セクターとの協働ないし緊張関係を焦点を当てながら、日本の統治機構の伝統的な態様を理解することを第一の目的とします。その上で、政府・自治体の政策形成・決定に対する市民セクターの関与のあり方について、多面的な統治（ガバナンス）という考え方を視野に入れつつ、実践的に考えていきます。

## 【到達目標】

・市民社会が政策形成に与える影響やその手法を学ぶ  
・政治や行政に関して当事者意識を持った判断や行動ができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、現代社会の事象を取り上げていきます。また、取り扱った内容に関連して適宜リアクションペーパーの提出を求めます。

前半は、日本における市民社会と政府・自治体との関係性について歴史的变化を学んだ上で、市民社会と政府・自治体・国際政治の各レベルにおける連携・緊張関係を示す具体的事例を取り上げ、政策形成過程への市民社会の関与の意義を検討していきます。

中盤では、2010 年代に行われた諸外国の国民投票や日本の自治体における住民投票の事例を取り上げて、政府・自治体の意思決定に関わる直接民主制の諸課題を検討し、市民社会と民主政治をめぐる問題に目を向けていきます。終盤では、自治体レベルでの市民参加の実際を学びながら、間接民主制のもとでの有権者の参加のあり方を実践的に考えてみます。

最後に市民社会の多様性を念頭に置きながら、政策形成への関与について多角的な側面からアプローチし、市民社会のガバナンスに関わる問題を考察します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	市民社会と政治をめぐる最近の事象を紹介し、民主主義の観点で認知していく
第2回	市民社会を表す概念の整理	講義で扱う「市民社会」「市民セクター」等の用語を理解する
第3回	市民セクターの活動と政府	戦後日本の歴史を踏まえつつ、市民社会と政府との関係形成の時代的特性を解説する
第4回	市民セクターの活動と政策形成への影響	市民社会の取組みが政策展開に一定の影響をもたらした国内の事例を検討する
第5回	市民セクターの活動と国際政治の場	グローバルに活動する NGO の動きと国際政治との関わりについて事例から学ぶ
第6回	市民セクターと直接民主制	直接民主制の手段として、近年諸外国で行われた国民投票の例を題材にししながら、日本における国民投票の可能性と課題を考える
第7回	市民セクターと住民投票	近年の住民投票の運用事例から、市民社会の自治体政策への関与の可能性と諸課題を検討する
第8回	自治体レベルの「民意」と国政との関係	自治体レベルの「民意」と国政との相克関係を具体的事例から考える
第9回	21 世紀の市民参加と自治体の政策形成	1990 年代半ばからの地方分権の時代に活発化した市民参加の手法を取り上げ、その傾向と今後の可能性を考える
第10回	市民参加のあゆみと市民社会の適応	1970 年前後に市民参加を先駆けた自治体の事例から参加の理念と運用の実際を学ぶ
第11回	市民セクターの合意形成	討議性民主主義の観点で進められている市民参加の新たな試みを取り上げながら、市民間の合意形成に関わる諸課題を検討する
第12回	市民セクターと自治体議会	自治体議会における市民参加の取り組みを学び、議会への市民の関わり方を考える

- 第13回 市民社会のガバナンスを  
考える (1) 社会的マイノリティや参加から排除されがちな人々の参加の機会や人権の問題について、社会的包摂の視点を踏まえて検討する
- 第14回 市民社会のガバナンスを  
考える (2) 寄付に対する税制優遇のしくみと市民の活動を支える資金の流れを概説した上で、市民社会への資金供給とガバナンスの問題について検討する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用し必ず予習・復習をすること。自分の関心分野の中から、政府・自治体あるいは国際機関等との関わりのあるトピックを見つけ出し、常にウォッチする習慣を身につけてください。

#### 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は特に使用しません。授業時にレジュメと資料を配付します。

#### 【参考書】

授業内で必要に応じ、参考文献等を紹介いたします。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末の論述試験（80％）に、授業内の小レポート提出状況等（20％）を加味し、総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

ビデオや新聞記事等を活用して、具体的な事例から考える機会を提供します。

#### 【その他の重要事項】

地方自治論、NPO・ボランティア論及びNGO活動論を履修済か、同時期に履修することで、本講義の理解をより深めることができます。

#### 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

The contemporary civil society that emerged in the 1990s will be learned mainly. Firstly, it is aimed at understanding the traditional behavior of the governmental organization in Japan. The policy making process and citizen participation of the central and local governments will be taken as an object of study. The cooperation or tension relationship between civil society and the governments will be dealt with, next. Secondly, the students shall think over the citizen's participation in policy making process from the viewpoint of pluralistic governance.

SOC300HA

## 社会開発論

新村 恵美

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会においても日本においても、経済優先の開発の反省から「社会開発」の重要性がたびたび再確認されてきた。しかしながら、「社会開発」は「経済開発」と対立するものではなく、広い定義で捉えることができるだろう。その上で、社会的に弱い立場に置かれている人びとを中心に据え、すべての人が持続可能で豊かな人生の選択肢を持てるようになることに注目し、授業を展開する。

#### 【到達目標】

下記の3点を到達目標とする。

- 1、社会開発の概念、扱うテーマについて、理論と実践の両方を往復することで基本的な知識を習得し、説明できる。
- 2、途上国と先進国、当事者と支援者、というような二項対立ではなく、また自分と違う立場にある人びとを他者化することなく、「貧困」を理解できる。
- 3、想像力を駆使して、社会開発が人間に変化をもたらすものであることを実感として理解できる。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

大きく3セクションに分ける。まず、社会開発とは何か、その定義や歴史的経緯、にない手について概観する。次に、社会開発で取り組まれている諸分野について、SDGsを参照しながら検討する。最後に、社会開発のもたらす社会変容についての事例を紹介し議論する。

学生自身の主体的な考察を促すため、提出した課題レポートをグループワークで共有し、全体発表なども行うほか、シミュレーションゲームや簡単なワークショップなども取り入れる。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入 社会開発の概要1 定義と背景	本講義の全体像の紹介、オリエンテーションを行い、「社会開発」の概念を整理する。
第2回	社会開発の概要2 人間開発とSDGs	国連の「人間開発」の概念およびSDGsの内容を通して社会開発を理解する。
第3回	社会開発の概要3 国際機関、政府	社会開発を行う主体としての、国際機関、各国政府の活動について概観する。
第4回	社会開発の概要4 市民、NGO	NGOの活動について、その種類・形態・財政・人材などを検討する。
第5回	社会開発の分野1 途上国の貧困	バングラデシュのストリートチルドレンの「ことば」を手掛かりに貧困を想像し理解し、NGOの取り組みから社会開発の役割を検討する。
第6回	社会開発の分野2 日本の貧困から理解する	日本を含めて先進国における貧困について、OECDやILOのデータを検証し現状と要因を考察すると同時に、途上国の貧困との相対化を図る。
第7回	【グループワーク】 社会開発の分野3 格差を体験する	なぜ社会開発が必要なのか。ゲームを通して格差を体験し、考察する。
第8回	社会開発の分野4 フェアトレード	「不公正な」貿易は途上国において何をもたらしているのか。ファストファッションを題材に考える。
第9回	社会開発の分野5 人口問題と国際協力	高齢社会においても途上国においてもそれぞれ喫緊の課題である人口問題の概観し検討する。
第10回	社会開発と社会変容1 教育・識字の役割	貧困の悪循環を断ち切る一つの方法として、「識字」を足がかりに、人びとが力をつけることの意味を確認することを通して、社会開発がもたらす変化を学ぶ。
第11回	【グループワーク】 課題レポートの共有と発表準備	学生各自が取り組んだ課題レポートの内容を共有し、発表の準備をする。
第12回	【グループ発表】 課題レポートの発表	第11回で準備した内容を発表する。
第13回	社会開発と社会変容2 ネパールの債務労働者	ネパールの債務労働者の解放の事例を取り上げ、当事者による社会運動とNGO等による社会開発の役割について考える。

第 14 回 まとめ 全体の内容のまとめをする。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回の配布資料にテーマに関連する参考図書や参考文献一覧を掲載するので、関心のあるテーマについて、クリティカル（批判的）な読解を試み、理解を深めること。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは定めず、授業ごとに内容に沿って教員が作成した資料を配布する。授業内容が依拠する引用文献は、資料にリスト化する。

**【参考書】**

佐藤寛ら編（2007）『テキスト社会開発—貧困削減への新たな道筋』日本評論者  
アマルティア・セン（1999）池本幸生ら訳『不平等の再検討：潜在能力と自由』岩波書店

**【成績評価の方法と基準】**

中間レポート：20%  
期末試験：50%  
毎回の授業での記述:30%

**【学生の意見等からの気づき】**

2016 年度より担当。各回授業の学生からのフィードバックを踏まえて、双方向の授業にする。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業では主にスライドを使用する。授業で使用した配布資料は、授業支援システムに掲示する。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This course is to learn the theory and practice of social development. It is structured as follows:

- 1) Students will review the definition and the history of social development, the theories influenced social development, as well as the actors of social development such as government, international agencies, NGOs, etc..
  - 2) Specific issues on social development are examined according to the Sustainable Development Goals (SDGs).
  - 3) Several case studies are introduced so that students can discuss on the practice of social development.
- Students are expected to be cooperative and active during the group discussions and presentations.

SOC200HA

**社会統計論**

藤本 隆史

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

社会では様々な統計調査が行われており、その結果が報告されているが、この講義では、そのような調査結果の読み方や利用の仕方とともに、実際に統計ソフトを使ってデータの集計・分析の方法を学習する。

**【到達目標】**

調査計画からデータ分析に至るまでの統計調査における一連のプロセスを理解する。データ分析においては、クロス集計の方法など基礎的な統計処理の手順を習得する。統計解析ソフトで集計・分析していると、ただ手順に従って結果を出すだけになりがちだが、分析の目的（何を比べているのかなど）や分析の意味（どのようにしてその分析が行われているのかなど）を理解した上で適切な集計・分析を行えるようになることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

統計処理の仕組みの説明を行い、それに基づいてデータの集計・分析を行う。データの集計・分析には、統計解析ソフトの SPSS とエクセルを用いる。基礎的なデータ処理の手法を中心とし、高度な統計処理は行わない。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス	授業概要の説明を行う
第 2 回	社会統計とは何か	社会統計の種類や、政府統計など既存の統計データの探し方や利用方法などを学ぶ
第 3 回	データとは何か	データの種類や、統計データの収集方法（手順）などを学ぶ
第 4 回	基礎統計	平均値や標準偏差など記述統計の算出方法を学ぶ
第 5 回	確率分布について・データの加工	確率分布の考え方と、値の再割り当てなどデータの加工の方法を学ぶ
第 6 回	統計的推定について	標本統計量による母数の推定（点推定・区間推定）の考え方を学ぶ
第 7 回	統計的検定について	統計的検定の考え方を理解する
第 8 回	クロス集計表の作成	クロス集計の考え方と作成方法を学ぶ
第 9 回	カイ 2 乗検定	クロス集計表を使った離散変数間の検定や関連の測定方法を学ぶ
第 10 回	平均値の差の分析	t 検定や分散分析など平均値の差の分析方法を学ぶ
第 11 回	相関係数	連続変数間の関連の測定と分析方法を学ぶ
第 12 回	回帰分析	連続変数間の因果関係の分析方法を学ぶ
第 13 回	集計結果のまとめ方	SPSS の集計結果をワードやエクセルで利用・加工する方法を学ぶ
第 14 回	まとめ	統計データの収集から分析に関する手順などを整理する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。SPSS やエクセルを使った集計方法などを復習する。

**【テキスト（教科書）】**

講義時に適宜紹介する。

**【参考書】**

向後千春、2007、『統計学がわかる：ハンバーガーショップでむりなく学ぶやさしく楽しい統計学』技術評論社。  
その他、講義時に適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

毎回、授業内で作業した結果（ファイル）を提出する（10%）。データ分析に関する複数の課題（統計処理の基礎的な計算・集計および結果の読み方）の提出を求める（30%）。また、学期末に統計調査のプロセスやデータ分析に関するペーパーテストを行う（60%）。

**【学生の意見等からの気づき】**

分析手法の理解と習得のために、より多くの具体的な分析作業を行う。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

In this class, you will learn the basics of statistics, which include how to read and use data. Also, the basics of data analysis will be introduced, using statistical software, such as SPSS and Excel.

COT100HA

## 情報処理基礎

小林 信彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。  
大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

## 【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。  
インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義／実習後まとめのレポート作成を行っていく。  
基本的に授業の前半と後半の 2 つの単元に分けすすめる。講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと情報セキュリティ基礎	1. ガイダンス 講義の概要／評価について／実習環境の解説／学内の PC 環境について／スキルレベルの確認
第 2 回	ネットワークの活用	2. 情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード 1. 電子メール・オンラインストレージ Gmail および Google ドライブの活用演習 2. 情報検索 インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第 3 回	文書作成演習-ページ設定と変換操作	1. Word 基礎演習 Word の画面構成、ページ設定、変換操作、プリントアウト 2. Word の基本的な文書作成と保存演習 文章の入力、保存、エクスポート
第 4 回	文書作成演習-編集・書式	1. 編集機能演習 編集機能 2. 書式設定演習 文字・段落の書式設定
第 5 回	文書作成演習-ページレイアウトと図表の活用	1. ページレイアウト演習 ページレイアウト、印刷設定 2. 図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第 6 回	文書作成演習-図表の活用とその他機能	1. ヘッドとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2. 長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成
第 7 回	プレゼン資料作成の基本演習	1. Powerpoint の基本操作演習 2. 資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方
第 8 回	プレゼン資料作成の応用演習	1. スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2. Powerpoint 活用演習 配付資料の作成
第 9 回	表計算演習-基本的な概念と書式	1. Excel の基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2. 書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集

第 10 回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1. 数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2. 参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第 11 回	表計算演習-さまざまな関数	1. 基本関数演習 アンケート処理等で使用頻度の高い関数 2. 応用関数演習 条件に応じて処理を分岐させる論理関数
第 12 回	表計算演習-さまざまな関数と書式的应用	1. 文字列操作演習 文字列操作関数、文字列の扱い 2. 書式的应用 条件付き書式と入力規則
第 13 回	表計算演習-グラフの作成とデータベース	1. グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2. Excel のデータベース機能基礎演習 Excel におけるデータの扱い、データベースの概念
第 14 回	MS Office 応用演習と資格	1. Office シリーズ間でのデータ活用 2. 資格 Office シリーズや IT パスポート等の資格の紹介

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。  
講義/実習内容については復習を行うこと。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

**【参考書】**

必要に応じて参考書と web サイトを紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業内で作成するインターネット活用 (10%)、文書作成 (35%)、プレゼン (20%)、表計算 (35%) のレポート課題により成績評価を行う。  
インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。  
文書作成については指定された様式で Word の機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。  
プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。  
表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

**【学生が準備すべき機器他】**

情報実習室のパソコンを利用する。  
日常的に使用できるパソコン環境があると課題、復習等進めやすい。ない場合には情報カフェテリアを活用すること。

**【その他の重要事項】**

初回講義時にユーザー ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。  
この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

Learn about information processing skills(MS Word, Powerpoint, Excel, and Security).We focus on the basic skills required for the student.

COT100HA

**情報処理基礎**

小林 信彦

配当年次/単位：1~4 年 / 2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。  
大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

**【到達目標】**

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義と実習で授業を進める。  
インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義/実習後まとめのレポート作成を行っていく。  
基本的に授業の前半と後半の 2 つの単元に分けずめる。講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと情報セキュリティ基礎	1. ガイダンス 講義の概要/評価について/実習環境の解説/学内の PC 環境について/スキルレベルの確認
第 2 回	ネットワークの活用	2. 情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード 1. 電子メール・オンラインストレージ Gmail および Google ドライブの活用演習 2. 情報検索 インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第 3 回	文書作成演習-ページ設定と変換操作	1. Word 基礎演習 Word の画面構成、ページ設定、変換操作、プリントアウト 2. Word の基本的な文書作成と保存演習 文章の入力、保存、エクスポート
第 4 回	文書作成演習-編集・書式	1. 編集機能演習 編集機能 2. 書式設定演習 文字・段落の書式設定
第 5 回	文書作成演習-ページレイアウトと図表の活用	1. ページレイアウト演習 ページレイアウト、印刷設定 2. 図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第 6 回	文書作成演習-図表の活用とその他機能	1. ヘッドとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2. 長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成
第 7 回	プレゼン資料作成の基本演習	1. Powerpoint の基本操作演習 2. 資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方
第 8 回	プレゼン資料作成の応用演習	1. スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2. Powerpoint 活用演習 配付資料の作成
第 9 回	表計算演習-基本的な概念と書式	1. Excel の基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2. 書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集

第 10 回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1. 数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2. 参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第 11 回	表計算演習-さまざまな関数	1. 基本関数演習 アンケート処理等で使用頻度の高い関数 2. 応用関数演習 条件に応じて処理を分岐させる論理関数
第 12 回	表計算演習-さまざまな関数と書式的应用	1. 文字列操作演習 文字列操作関数、文字列の扱い 2. 書式的应用 条件付き書式と入力規則
第 13 回	表計算演習-グラフの作成とデータベース	1. グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2. Excel のデータベース機能基礎演習 Excel におけるデータの扱い、データベースの概念
第 14 回	MS Office 応用演習と資格	1. Office シリーズ間でのデータ活用 2. 資格 Office シリーズや IT パスポート等の資格の紹介

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。講義/実習内容については復習を行うこと。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

#### 【参考書】

必要に応じて参考書と web サイトを紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用 (10%)、文書作成 (35%)、プレゼン (20%)、表計算 (35%) のレポート課題により成績評価を行う。インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。文書作成については指定された様式で Word の機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

#### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを利用する。日常的に使用できるパソコン環境があると課題、復習等進めやすい。ない場合には情報カフェテリアを活用すること。

#### 【その他の重要事項】

初回講義時にユーザー ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

Learn about information processing skills(MS Word, Powerpoint, Excel, and Security).We focus on the basic skills required for the student.

COT100HA

## 情報処理基礎

今枝 佑輔

配当年次/単位：1～4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活に必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

#### 【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第 2 回	パソコン操作の基礎、情報検索	パソコンの基本的な操作を確認する。インターネットにおける効率的な情報検索を学ぶ。 WEB アプリケーションを使ったキーボードとマウスを用いた入力などの練習
第 3 回	インターネットを使った様々な WEB アプリケーション	Google ドライブ, Google ドキュメント, Google スプレッドシート, Google スライドなど、インターネットアプリケーションについて学ぶ。
第 4 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。自分が作った文書などはどこに保存したらよいか？ Word, Excel, PowerPoint について、知りたい事柄を周囲の人と議論の上まとめる。
第 5 回	Microsoft Word の基本	Microsoft Word の基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第 6 回	Microsoft Word の応用	Microsoft Word をによるレポートライティングの基本を学ぶ。
第 7 回	Microsoft Word を使ったレポート課題の作成・提出	Microsoft Word を使ったレポート作成の課題を行う。
第 8 回	Microsoft Excel の基本	Microsoft Excel の基本的な操作方法を学ぶ。
第 9 回	Microsoft Excel の応用	Microsoft Excel 用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学ぶ。
第 10 回	Microsoft Excel を使ったレポート課題の作成・提出	Microsoft Excel を使ったレポート作成の課題を行う。
第 11 回	Microsoft PowerPoint の基本	Microsoft PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。
第 12 回	Microsoft PowerPoint の応用	Microsoft PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の応用を学ぶ。
第 13 回	Microsoft PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成・提出	Microsoft PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第 14 回	まとめ	授業のまとめをする。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

#### 【テキスト（教科書）】

特になし

#### 【参考書】

特になし。  
インターネットを使った情報検索のスキルを取得した上で活用・駆使する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題と平常点を総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

情報処理教室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

Word online, Excel online, Powerpoint online の使用を希望する人は、個人で Microsoft アカウントを取得しておくこと。

Pages for iCloud, Numbers for iCloud, Keynote for iCloud の使用を希望する人は、個人で Apple ID を取得しておくこと。

アカウントの登録は個人情報を特定企業に差し出すことにはかならないので、希望する者以外は取得しなくて良い。

**【その他の重要事項】**

初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては履修の手引きおよび掲示やガイダンスで案内する。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

Information processing with PC, especially using Microsoft Word, Excel, and Power Point. These skills are important for many activities in the University.

COT100HA

**情報処理基礎**

松本 倫明

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活で必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

**【到達目標】**

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第 2 回	パソコン操作の基礎のおさらい	パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第 3 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第 4 回	Excel の基本	Excel の基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第 5 回	Excel の応用：表計算 (1)	Excel を用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学ぶ。
第 6 回	Excel の応用：表計算 (2)	表計算の技術を応用して、課題を行う。
第 7 回	Excel の応用：グラフによる可視化	Excel を用いてグラフを作成し、データを可視化することを学ぶ。
第 8 回	Word の基本	Word の基本的な操作方法を学ぶ。
第 9 回	Word によるレポートライティング：基本	Word によるレポートライティングの基本を学ぶ。
第 10 回	Word によるレポートライティング：図と表の活用と相互参照	レポートライティングにおける図と表の活用方法と、相互参照の操作方法について学ぶ。
第 11 回	Word によるレポートライティング：課題	レポートライティングの技術を用いて、課題を行う。
第 12 回	PowerPoint の基本	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。
第 13 回	PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第 14 回	WWW による情報検索	WWW における効率的な情報検索を学ぶ。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

**【テキスト（教科書）】**

WWW を通じて教材を配布する。

**【参考書】**

なし。

**【成績評価の方法と基準】**

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題と平常点を総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

この授業は概ね好評である。

**【学生が準備すべき機器他】**

情報処理教室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

**【その他の重要事項】**

初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては履修の手引きおよび掲示やガイダンスで案内する。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

Students learn basic skills to operate PCs. We focus on the skills required in the campus life.

COT100HA

**情報処理基礎**

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

パソコンによる情報処理と実務を学ぶ

本科目では現代社会において身に付けておくことが必要な情報リテラシーを修得する。PC およびネットワークの基礎的事項と利用技術、情報倫理とセキュリティなどについて学習する。また各種統計資料などの検索法とその利用のための学習を通してデータを活用する力を修得する。さらには企業などの組織のストラテジ（戦略）とマネジメント（管理）に関する内容についても IT 技術との関わりをふまえて学習する。これらにより現代社会について主体的に考察するために必要な知識と技術を獲得する。

**【到達目標】**

- ・Word および Excel の基礎事項を学習し、文書作成および表計算に関する技法を修得する。
- ・Powerpoint の利用法を学習し、効果的なプレゼンテーション技法を修得する。
- ・Web による情報検索法を学習し、様々な情報の収集と各種調査に役立てる方法を修得する。
- ・情報セキュリティの基礎事項を学習し、コンピュータ・ネットワークの安全な利用法を修得する。
- ・IT システムとテクノロジー（情報処理の理論）、ストラテジ（組織の戦略）、マネジメント（運用・管理）の基礎事項について学び、それらの応用法を修得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

情報実習室に設置されている PC を利用することにより、その操作と各種ソフトウェア（OS、ワープロ、表計算、プレゼンテーション、ブラウザなど）の利用法について実習する。また PC の原理と構造、ネットワークとシステム構成、システムに対する脅威・脆弱性と対策などに関する基礎事項について講義形式で学習する。その他、IT システムと企業活動、経営戦略と業務分析、システム開発と運用などについても学習する。なお、これらは情報処理技術者試験「IT パスポート」の受験を目指す上で必須の内容となっており、その受験を念頭においている。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	情報実習室の利用法	システムの概要とソフトウェア構成、PC 基本操作、ファイルシステムと階層構造など
第2回	文書作成と編集 1	Word による文書作成、書式の指定、各種メニューの利用法
第3回	文書作成と編集 2	Word による図表の活用、レポートライティング
第4回	表計算 1	Excel の操作法と表作成、各種関数の利用
第5回	表計算 2	Excel における相対参照と絶対参照、分岐関数と多分岐構造
第6回	表計算 3	Excel におけるデータベース機能の活用と図・グラフの作成
第7回	プレゼンテーション 1	PowerPoint の基本操作、プレゼン資料の作成と編集
第8回	プレゼンテーション 2	PowerPoint における図表と画像などの利用、プレゼン実習
第9回	情報検索法	ブラウザ利用法と効率的な情報検索法、統計資料などの検索と取得、各種統計データなどの分析とその活用
第10回	IT システムとテクノロジー 1	PC の原理と構造、データ表現とビット・バイト、インターネットと LAN のしくみ、リスク管理とセキュリティ対策など
第11回	IT システムとテクノロジー 2	マークアップ言語（HTML）体験と Web 環境について
第12回	IT システムとストラテジ	経営戦略と業務分析、品質管理手法、会計基礎、知的財産権など
第13回	IT システムとマネジメント	システム開発と運用・管理、テスト・保守と信頼性など
第14回	総括	IT パスポート試験の受験に向けて

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回予習と復習を行ってください。また、レポート提出のための準備を行ってください。

**【テキスト（教科書）】**

特にテキストは使用しません。必要に応じて教材を配布します。

**【参考書】**

授業中に IT パスポート試験に関する書籍を紹介します。その他、情報センターで作成している電子版資料（例えば、法政大学市ヶ谷情報センター利用ガイド、情報セキュリティハンドブックなど）を使用します。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への積極的な貢献度（授業参加の積極性）30%、提出されたレポートの完成度30%、定期試験の結果40%の割合で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

あまり急がずにできるだけゆっくりと進めていきます。

**【学生が準備すべき機器他】**

情報実習室の PC を利用しますので、学生が準備すべき機器等は特にありません。

**【その他の重要事項】**

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

**Theme: Introduction to information processing and practical business**  
This course is to learn skills concerning information processing and communication techniques by use of personal computers in a practice room. In the first half of this course, we learn the utilization techniques not only for WORD, EXCEL, POWER POINT but also for communication tools such as browsers and mail systems. Programing is experienced for HTML. Fundamentals are lectured concerning network systems and their related matters. In the latter half of this subject, we learn strategy and management techniques for practical business. The ethical treatment and security management of communication systems are studied. This course is partially based on the curriculum of "Information Technology Passport Examination" held by Ministry of Economy, Trade and Industry of Japan.

COT100HA

**情報処理基礎**

小林 信彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

**【到達目標】**

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義と実習で授業を進める。インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義／実習後まとめのレポート作成を行っていく。基本的に授業の前半と後半の 2 つの単元に分けずめる。講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと情報セキュリティ基礎	1. ガイダンス 講義の概要／評価について／実習環境の解説／学内の PC 環境について／スキルレベルの確認
第 2 回	ネットワークの活用	2. 情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード 1. 電子メール・オンラインストレージ Gmail および Google ドライブの活用演習 2. 情報検索 インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第 3 回	文書作成演習-ページ設定と変換操作	1. Word 基礎演習 Word の画面構成、ページ設定、変換操作、プリントアウト 2. Word の基本的な文書作成と保存演習 文章の入力、保存、エクスポート
第 4 回	文書作成演習-編集・書式	1. 編集機能演習 編集機能 2. 書式設定演習 文字・段落の書式設定
第 5 回	文書作成演習-ページレイアウトと図表の活用	1. ページレイアウト演習 ページレイアウト、印刷設定 2. 図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第 6 回	文書作成演習-図表の活用とその他機能	1. ヘッドとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2. 長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成
第 7 回	プレゼン資料作成の基本演習	1. Powerpoint の基本操作演習 2. 資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方
第 8 回	プレゼン資料作成の応用演習	1. スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2. Powerpoint 活用演習 配付資料の作成
第 9 回	表計算演習-基本的な概念と書式	1. Excel の基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2. 書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集

第 10 回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1. 数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2. 参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第 11 回	表計算演習-さまざまな関数	1. 基本関数演習 アンケート処理等で使用頻度の高い関数 2. 応用関数演習 条件に応じて処理を分岐させる論理関数
第 12 回	表計算演習-さまざまな関数と書式的应用	1. 文字列操作演習 文字列操作関数、文字列の扱い 2. 書式的应用 条件付き書式と入力規則
第 13 回	表計算演習-グラフの作成とデータベース	1. グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2. Excel のデータベース機能基礎演習 Excel におけるデータの扱い、データベースの概念
第 14 回	MS Office 応用演習と資格	1. Office シリーズ間でのデータ活用 2. 資格 Office シリーズや IT パスポート等の資格の紹介

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。  
講義/実習内容については復習を行うこと。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

#### 【参考書】

必要に応じて参考書と web サイトを紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用 (10%)、文書作成 (35%)、プレゼン (20%)、表計算 (35%) のレポート課題により成績評価を行う。  
インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。  
文書作成については指定された様式で Word の機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。  
プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。  
表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

#### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを利用する。  
日常的に使用できるパソコン環境があると課題、復習等進めやすい。ない場合には情報カフェテリアを活用すること。

#### 【その他の重要事項】

初回講義時にユーザー ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。  
この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

Learn about information processing skills(MS Word, Powerpoint, Excel, and Security).We focus on the basic skills required for the student.

COT100HA

## 情報処理基礎

小林 信彦

配当年次/単位：1~4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。  
大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

#### 【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。  
インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義/実習後まとめのレポート作成を行っていく。  
基本的に授業の前半と後半の 2 つの単元に分けずめる。講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと情報セキュリティ基礎	1. ガイダンス 講義の概要/評価について/実習環境の解説/学内の PC 環境について/スキルレベルの確認 2. 情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード
第 2 回	ネットワークの活用	1. 電子メール・オンラインストレージ Gmail および Google ドライブの活用演習 2. 情報検索 インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第 3 回	文書作成演習-ページ設定と変換操作	1. Word 基礎演習 Word の画面構成、ページ設定、変換操作、プリントアウト 2. Word の基本的な文書作成と保存演習 文章の入力、保存、エクスポート
第 4 回	文書作成演習-編集・書式	1. 編集機能演習 編集機能 2. 書式設定演習 文字・段落の書式設定
第 5 回	文書作成演習-ページレイアウトと図表の活用	1. ページレイアウト演習 ページレイアウト、印刷設定 2. 図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第 6 回	文書作成演習-図表の活用とその他機能	1. ヘッドとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2. 長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成
第 7 回	プレゼン資料作成の基本演習	1. Powerpoint の基本操作演習 2. 資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方
第 8 回	プレゼン資料作成の応用演習	1. スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2. Powerpoint 活用演習 配付資料の作成
第 9 回	表計算演習-基本的な概念と書式	1. Excel の基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2. 書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集

第 10 回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1. 数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2. 参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第 11 回	表計算演習-さまざまな関数	1. 基本関数演習 アンケート処理等で使用頻度の高い関数 2. 応用関数演習 条件に応じて処理を分岐させる論理関数
第 12 回	表計算演習-さまざまな関数と書式的应用	1. 文字列操作演習 文字列操作関数、文字列の扱い 2. 書式的应用 条件付き書式と入力規則
第 13 回	表計算演習-グラフの作成とデータベース	1. グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2. Excel のデータベース機能基礎演習 Excel におけるデータの扱い、データベースの概念
第 14 回	MS Office 応用演習と資格	1. Office シリーズ間でのデータ活用 2. 資格 Office シリーズや IT パスポート等の資格の紹介

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。  
講義/実習内容については復習を行うこと。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

## 【参考書】

必要に応じて参考書と web サイトを紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用 (10%)、文書作成 (35%)、プレゼン (20%)、表計算 (35%) のレポート課題により成績評価を行う。  
インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。  
文書作成については指定された様式で Word の機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。  
プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。  
表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを利用する。  
日常的に使用できるパソコン環境があると課題、復習等進めやすい。ない場合には情報カフェテリアを活用すること。

## 【その他の重要事項】

初回講義時にユーザー ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。  
この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Learn about information processing skills(MS Word, Powerpoint, Excel, and Security).We focus on the basic skills required for the student.

COT100HA

## 情報処理基礎

今枝 佑輔

配当年次/単位：1~4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活に必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

## 【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第 2 回	パソコン操作の基礎、情報検索	パソコンの基本的な操作を確認する。インターネットにおける効率的な情報検索を学ぶ。 WEB アプリケーションを使ったキーボードとマウスを用いた入力などの練習
第 3 回	インターネットを使った様々な WEB アプリケーション	Google ドライブ, Google ドキュメント, Google スプレッドシート, Google スライドなど、インターネットアプリケーションについて学ぶ。
第 4 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。自分が作った文書などはどこに保存したらよいか？ Word, Excel, PowerPoint について、知りたい事柄を周囲の人と議論の上まとめる。
第 5 回	Microsoft Word の基本	Microsoft Word の基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第 6 回	Microsoft Word の応用	Microsoft Word をによるレポートライティングの基本を学ぶ。
第 7 回	Microsoft Word を使ったレポート課題の作成・提出	Microsoft Word を使ったレポート作成の課題を行う。
第 8 回	Microsoft Excel の基本	Microsoft Excel の基本的な操作方法を学ぶ。
第 9 回	Microsoft Excel の応用	Microsoft Excel 用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学ぶ。
第 10 回	Microsoft Excel を使ったレポート課題の作成・提出	Microsoft Excel を使ったレポート作成の課題を行う。
第 11 回	Microsoft PowerPoint の基本	Microsoft PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。
第 12 回	Microsoft PowerPoint の応用	Microsoft PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の応用を学ぶ。
第 13 回	Microsoft PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成・提出	Microsoft PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第 14 回	まとめ	授業のまとめをする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

特になし。  
インターネットを使った情報検索のスキルを取得した上で活用・駆使する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題と平常点を総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

Word online, Excel online, Powerpoint online の使用を希望する人は、個人で Microsoft アカウントを取得しておくこと。

Pages for iCloud, Numbers for iCloud, Keynote for iCloud の使用を希望する人は、個人で Apple ID を取得しておくこと。

アカウントの登録は個人情報特定企業に差し出すことにはかならないので、希望する者以外は取得しなくて良い。

## 【その他の重要事項】

初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては履修の手引きおよび掲示やガイダンスで案内する。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Information processing with PC, especially using Microsoft Word, Excel, and Power Point. These skills are important for many activities in the University.

ASS300HA

## 食と農の環境学 I

西川 邦夫

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済発展段階が先進国段階に到達した現代日本の農業及び農業政策について、農業経済学・農政学の立場から理解することを目的とする。理論・歴史・現状・国際比較の視点から、多面的に日本農業・農政を理解することを試みる。

## 【到達目標】

農業経済学・農政学の基本的な知識を身につけるとともに、日本農業が抱える問題点、今後日本農業が向かうべき進路について自分の考えを持ち、論理的に表現することができる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。農業経済学・農政学の理論的な解説とともに、現場での実例の紹介に比重を置く。教員と受講生の双方向の対話を重視する。講義の終わりにアクションペーパーへの記入を行い、次回講義で紹介する回を設ける（アクティブラーニングの実例）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プロローグ：現代日本の農業問題	先進国段階に到達した日本農業が直面している問題と取るべき政策について、理論的に解説する。
第 2 回	GATT ウルグアイ・ラウンドと先進国の農政改革	1990 年代以降の先進国の農政改革と、それを規定した GATT ウルグアイ・ラウンドについて解説する。
第 3 回	WTO ドーハ・ラウンドと FTA の広がり	WTO ドーハラウンドの失敗をもたらした要因と、代替策としての FTA の広がりを解説する。
第 4 回	環太平洋・東アジア経済連携構想と TPP	日本も参加した TPP の交渉過程において、国内・国際的にどのような政治経済的特質が見られたのか検証する。
第 5 回	アメリカの農業政策とカリフォルニア稲作	日本農業にとって最大の競争相手となるアメリカの農業政策と、カリフォルニア州の稲作の実態について解説する。
第 6 回	国際農産物市場の現局面と日本の食料安全保障	国際農産物市場の現局面と、日本の農産物貿易の状況を、食料安全保障に注意を払って解説する。
第 7 回	日本経済の構造転換と食料消費	日本経済の構造転換の影響を受けた家計と食料消費の関係を、主食であるコメを中心に考察する。
第 8 回	日本農業の構造変動と多様な担い手	農業構造変動の到達点と新たに形成されつつある農業の担い手について、地域的多様性に注目して検討する。
第 9 回	農業労働力の脆弱化と就農ルートの多様化	農業労働力の高齢化・引退と、新規参入者等による補充の動きについて解説する。
第 10 回	農業者に対する支援システム	農業者を支援してきた農業協同組合と協同農業普及事業について、その役割と課題を解説する。
第 11 回	条件不利地域農業と農山村政策	中山間地域を中心に、衰退と再生の動きが交錯する農山村に求められる政策について検討する。
第 12 回	農業と環境	農業と環境の関係について、理論・実態・政策の関連を解説する。
第 13 回	食品安全問題と政策	消費者の食への安心・安全意識への高まりと、対応する政策の枠組みを解説する。
第 14 回	エピローグ：現代日本の農業政策	これまでの講義の内容を総括するとともに、求められる政策について展望する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。興味関心を養うために、学生は新聞で農業関係の記事があったら読んでおくことが望ましい。また、農業について総合的に理解するため、「食と農の環境学Ⅱ」「食と農の環境学Ⅲ」も併せて履修することが望ましい。国際経済、地域経済、環境経済に関連した他の講義を履修することも望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。資料を配布する。

【参考書】

- ①田代洋一『農業・食料問題』、大月書店、2012年（本体2,600円＋税）。
- ②速水佑次郎・神門善久『農業経済論 新版』、岩波書店、2002年（4,200円＋税）。
- ③農林水産省『食料・農業・農村白書』（各年版）（www.maff.go.jp/j/wpaper/）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。試験は穴埋め、語句解説、論述等から構成される。農業経済学・農政学の基本的な知識を問うとともに、日本農業が抱える問題点及び今後日本農業が向かうべき進路について論理的に表現できるかどうか試す。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業改善アンケートでは、理解度は概ね高い傾向が出た。しかしながら、講義中の開設のスピードを調節する、授業支援システムを有効に活用する等して、さらに理解度を高めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の配布で授業支援システムを活用する予定であるので、コンテンツの更新には常に注意すること。具体的な活用方法については講義で指示する。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the agriculture and agricultural policy of the contemporary Japan which has arrived at the stage of developed countries from the perspectives of agricultural economics and agricultural politics. This class tries to understand various aspects of the agriculture and agricultural policy in terms of theory, history, current status and international comparison.

ASS300HA

食と農の環境学Ⅱ

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の経済を支える「地域資源」とその利用システム、地域資源を利用管理する基礎集団としてのイエヤマラについて、近世から現代までの歴史をふまえて理解することを目的とします。

【到達目標】

「食」と「農」の議論の前提となる農村社会の歴史と現状を理解し、循環型社会のシステムや、持続可能な社会のあり方、豊かなコミュニティの形成などについて考える基礎知識を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

映像資料や受講者からのリアクションペーパーを活用し対話型の講義を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域資源から考えるローカリズムとグローバル리즘
第2回	「社会的共通資本」としての地域資源	豊かな社会、持続可能な社会を考えるための基礎的視点を得る
第3回	伝統的環境観と地域資源利用システム	自然環境と社会環境、「環境観」をめぐる時代の変化について考える
第4回	近世農業の確立と農村社会の形成	ムラの誕生と百姓の時代、農業技術と地域資源利用の関係について考える
第5回	ムラの構造と論理	共同と共有の論理、ソーシャルキャピタル論について考える
第6回	イエの構造と論理	伝統家族と近代家族、家族経営における女性、子ども、高齢者の役割について考える
第7回	日本社会の地域的多様性	環境、文化、社会から地域の多様性を示し、「地域づくり」を考え実践するための知識を共有する
第8回	農村と都市の歴史の変遷と現代社会	現代社会形成の背景となる農村と都市の関係について考える
第9回	家族・地域・産業の関係と展開についての史的分析	第一次、第二次、第三次産業の歴史の変遷とその影響を考える
第10回	戦後改革と農山漁村の変化	農地改革、農業基本法の影響、食と農の戦後史について考える
第11回	高度経済成長期と農山漁村の変化	岐路に立つ日本の農山漁村、ニュータウンの形成、人間と環境の関係変化について考える
第12回	国土開発と地域構造	「地域」が個性を失っていく背景としての国土開発の歴史を論じ、地域の個性について考える
第13回	暮らしの再編と新たなコミュニティ	近年の暮らしと地域の再編について考える
第14回	ローカリズムとグローバルズム	「グローバル」という視点の可能性について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。「食」や「農」に関わる新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち、可能であれば実際に足を運んだり、食べたり、五感を通して体験してみてください。

【テキスト（教科書）】

講義で配布する資料を用います。

【参考書】

- ・湯澤規子『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』古今書院、2009年
- ・湯澤規子「地域づくりの系譜—山梨県甲州市の基六桜とかつめま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁
- ・湯澤規子「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ—地球と人類の課題』朝倉書店、2018年、104-113頁
- ・湯澤規子『胃袋の近代—食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018年
- ・湯澤規子『7袋のポテトチップス—食べるを語る胃袋の戦後史』晶文社、2019年
- その他、随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（用語説明 50 %、論述 50 %程度）によって評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

初年度なので特にありません。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【その他の重要事項】

特にありません。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科日は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Regarding the "local resources" that support the local economy, its utilization system, and Ie and Mura as a basic group that uses and manages local resources, consider the history from early-modern period to today.

ASS300HA

## 食と農の環境学Ⅲ

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「食」と「農」からみた社会と経済の歴史を論じ、現代社会と未来を考える視座を得ることを目的とします。

## 【到達目標】

フィールドワークにもとづいた地域経済学の研究を中軸に据え、地理学、歴史学、人類学、社会学、民俗学などの知見と成果を加えた、多面的かつ複眼的な視点から、食と農の問題を考えることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

映像資料や受講者からのリアクションペーパーを活用し対話型の講義を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地球と人類の課題として「幸せ」と「豊かさ」を実現する社会について考える
第2回	『人間の経済』にみる2つの経済	ボランニエの“The Livelihood of Man”などをもとにして、狭義の経済と講義の経済について考える
第3回	「ごはん食べた？」という問いから考える食と農と社会	食べるという行為をみつめると、どのような社会の様相が見えてくるのかを考える
第4回	食と農をめぐる社会経済史（1）	近代日本の人びと、食と農の関係について考える
第5回	食と農をめぐる社会経済史（2）	都市労働問題を背景とした食と農の実践と政策について考える
第6回	食と農をめぐる社会経済史（3）	食と農をめぐる産業化の近現代史について考える
第7回	食と農をめぐる社会経済史（4）	近代日本の都市と農村について考える
第8回	食と農をめぐる社会経済史（5）	産業革命と「地域」社会事業の誕生について考える
第9回	胃袋の戦後史（1）戦中戦後	飢餓と空腹の現状とその後の復興過程について検討する
第10回	胃袋の戦後史（2）戦後農政と食	山形県山形市の米農家の戦後史を事例に、戦後農政と農村について考える
第11回	胃袋の戦後史（3）高度経済成長期	「食」と「農」と「地域」の構造的変化について考える
第12回	胃袋の戦後史（4）公害問題	熊本県水俣の甘夏栽培と消費者運動を事例に「内発的発展論」について考える
第13回	胃袋の戦後史（5）高度消費社会	現代の食と農から社会を考える
第14回	まとめ	「ごはん食べた？」という問いから共在社会を考える

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義内容に関連する新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち、可能であれば実際に足を運んだり、食べたり、五感を通して体験してみてください。

## 【テキスト（教科書）】

講義で配布する資料を用います。

## 【参考書】

・湯澤規子『胃袋の近代—食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018年  
 ・湯澤規子『7袋のポテトチップス—食べるを語る胃袋の戦後史』晶文社、2019年  
 その他、随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（用語説明 50 %、論述 50 %程度）によって評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

初年度なので特にありません。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【その他の重要事項】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will discuss the history of society and economy from the viewpoint of "food" and "agriculture", it aims to obtain a perspective to think about modern society and the future.

HSS211LB

## スポーツビジネス論 I

岩村 聡

配当年次／単位：3～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1980年代からスポーツビジネスは急速に発展した。今日のスポーツビジネスを動向を探るためにはスポーツマーケティングを理解しなければならない。本授業ではマーケティングの基礎理論をふまえ、スポーツマーケティング独自の理論と合わせ発展してきたスポーツビジネスにおいてその基礎理論等を理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義は、(1) マーケティングとスポーツマーケティングの関係、(2) 消費者行動論からみたスポーツ消費の特性、などを理解し、は、マーケティングの基礎的な理論をベースに、スポーツビジネス戦略を理解することを目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スポーツビジネスでの成功や失敗の実際事例を紹介しつつ、最新の理論体系や手法を解説する。大型スポーツの運営基盤や、メディアとスポーツ（放送や、権利など）について、特に重点的な講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	スポーツビジネスの使命	スポーツビジネスの使命とは
第2回	スポーツの価値	なぜスポーツが注目されるか
第3回	スポーツマーケティングの特性	スポーツマーケティングの誕生、スポーツマーケティングの定義、等
第4回	スポーツ市場の理解	スポーツ産業の特性、スポーツ市場の構造と規模
第5回	マーケティングの基礎	スポーツマーケティングにおけるプロダクト論
第6回	スポーツビジネスにおける価格政策論	価格形成のメカニズム、値頃感と消費者心理
第7回	スポーツビジネスにおけるプロモーション論	コミュニケーションの原理、スポーツ組織のプロモーションミックス
第8回	スポーツ消費者の理解	スポーツ消費者の特性、スポーツ消費者の意思決定過程
第9回	参加型スポーツの消費者	参加型スポーツの分類、スポーツ参加における心理的要因
第10回	観戦型スポーツの消費者	観戦型スポーツの分類、心理的連続モデル、スポーツ観戦動機、等
第11回	スポーツマーケティングにおけるSTP座	セグメンテーションの基礎、標的市場の設定と評価
第12回	スポーツマーケティングとマーケットリサーチ	マーケットリサーチの手順、調査の実施・分析・報告
第13回	スポーツ・スポンサーシップ	マーケティングの問題意識とスポーツの接点
第14回	スポーツ・ブランドのマーケティング	ブランドとブランディング、アスリート・ブランディング、等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講期間中はスポーツビジネスに関するニュースなどを読みだりし積極的に情報収集すること

【テキスト（教科書）】

仲澤真・吉田正幸編「よくわかるスポーツマーケティング」

山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店

原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院

広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義 ― スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【参考書】

仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版

山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店

原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院

広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義 ― スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【成績評価の方法と基準】

授業終了時に回収するリアクションペーパー 30%、小テスト 30%、学期末の課題 40%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年と同様に静粛な授業環境を保つよう努めます。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand basic theory etc in the sports business which has been developed together with sports marketing original theory.

HSS212LB

## スポーツビジネス論Ⅱ

岩村 聡

配当年次／単位：3～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のスポーツの諸状況が提起している諸課題を発見し、それらの解決に向けて、スポーツビジネスの知見がどのように活かせるかを学ぶ。授業と合わせ、チーム編成してプレゼンテーションを行い（全員がいずれかのチームに必ず参加）、各チームごとに提案を競う。受講にあたっては、春学期の「スポーツビジネス論Ⅰ」の履修者が望ましい（条件ではありません）。

## 【到達目標】

スポーツビジネスの諸問題について理解を深めること  
スポーツビジネスの諸問題について解決策を提案できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

授業はグループワークを中心に進めます。グループワークではそれぞれの役割がありますので、必ず毎回出席をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の進め方などの説明
第2回	グループワークⅠ①	課題Ⅰの説明、グループ分け、情報収集
第3回	グループワークⅠ②	情報収集、ディスカッション
第4回	グループワークⅠ③	ディスカッション、発表準備
第5回	プレゼンテーションⅠ	グループごとに発表をおこなう
第6回	グループワークⅡ①	課題の説明Ⅱ、グループ分け、情報収集
第7回	グループワークⅡ②	情報収集、ディスカッション
第8回	グループワークⅡ③	ディスカッション、発表準備
第9回	プレゼンテーションⅡ	グループごとに発表をおこなう
第10回	グループワークⅢ①	課題の説明Ⅲ、グループ分け、情報検索
第11回	グループワークⅢ②	情報収集、ディスカッション
第12回	グループワークⅢ③	ディスカッション、発表準備
第13回	プレゼンテーションⅢ	グループごとに発表をおこなう
第14回	まとめ	本授業のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間以外にもグループメンバーで集まって、情報収集、ディスカッション、発表準備を進めてもらいます。

## 【テキスト（教科書）】

適宜、資料を配布します。

## 【参考書】

仲澤真・吉田正幸編「よくわかるスポーツマーケティング」ミネルヴァ書房  
仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版  
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院  
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義—スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

## 【成績評価の方法と基準】

授業終了時に回収するアクションペーパー 20%、グループワークの参加状況 20%、学期末の課題 20%、プレゼンテーション 40%より評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

グループワークが好評でした。今年度も活発な活動ができるよう努めます。

## 【その他の重要事項】

本講義はグループワークを行うため、スポーツビジネス論Ⅰを受講していない場合は、知識を補うための補講をする場合があります。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this course is to deepen understanding through information gathering, discussion and presentation on set issues on various problems of modern sports business

PHL200HA

## 西欧近代批判の思想

越部 良一

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

### [Outline and objectives]

This course deals with the modern Western thought and the philosophical critique to it in the history of Western civilization. The aim of this course is to understand some of the modern Western thoughts and some of the philosophical critiques to them. It also enhances students' understanding of the modern Japanese society under a great influence of the modern Western society.

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、西欧の近代とその思想に批判的に対峙する西洋の哲学思想をテーマとする。授業の目的は、西欧近代のいくつかの哲学思想を把握し、それへの批判がいかなる考え方によるのかを理解し、説明できること、これにより、西欧近代の影響を大きく受けている現代の日本社会を広く理解する視点を得ることである。

### 【到達目標】

西欧近代批判として、この授業では主として2つの視点から学んでゆく。一つは、西欧の古典思想からの視点であり、もう一つは西欧近代思想自身からの視点である。これにより、西欧近代への批判を、人間を超えた存在（イデア、神など）の尊重と、人間中心主義に対する批判という方向で把握し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。まず、西洋思想の源泉であり、古典であって、近代西欧批判の視点を提供するものとして、古代ギリシャのプラトンの哲学と聖書（キリスト教）の思想を取り上げ、次に近代西洋の代表的思想として、功利主義、デカルト、ヘーゲルなどをみていく。そのうえで、そうした近代思想と批判的に対峙するものとして、キルケゴール、ニーチェなどの思想をみてゆきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	西欧近代思想の特徴とその批判	西洋近代の特徴など、この講義の全体の概観
第2回	プラトンの思想Ⅰ	人間の魂の在り方と正義
第3回	プラトンの思想Ⅱ	様々な国家体制と民衆制（民主制）批判
第4回	聖書の思想	人の戒めを超える神の命令
第5回	功利主義の思想	最大多数の最大幸福
第6回	デカルトの思想	自然支配者としての人間
第7回	ヘーゲルの思想Ⅰ	人間理性は絶対者（神）である
第8回	ヘーゲルの思想Ⅱ	人間精神（＝神）の展開としての歴史
第9回	マルクス主義	マルクス主義における人間中心主義
第10回	キルケゴールⅠ	現代の批判（神を見失うことと主体性の喪失）
第11回	キルケゴールⅡ	ヘーゲル哲学批判（人間精神は神でない）
第12回	ニーチェⅠ	「神は死んだ」（「ニヒリズム」としての近代西洋批判）
第13回	ニーチェⅡ	近代西洋の大衆化批判
第14回	授業のまとめ	まとめと展望、及び試験

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また解説書や概論ではなく、自分で興味を持った授業でとりあげる思想家の著作（むろん翻訳でよい）に少しでも接することが望ましい。

### 【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。必要に応じて、思想家の言葉を引用したプリントを配布する。

### 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（40%くらい）と期末試験（60%くらい）によって成績を評価する予定である。

### 【学生の意見等からの気づき】

近代日本は西欧近代の影響を大きく受けているから、近現代の日本の思想状況と照らし合わせる視点を背景にしながら講義するつもりである。

### 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

ART200HA

## 西洋美術史論

新保 淳乃

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋美術は時代や社会のさまざまな側面を切り取る作品を多く生み出してきました。ルネサンスから近代までの絵画作品をとりあげ、①作家の生涯と歴史的背景の確認、②作品の観察、③作品解釈、と諸段階を踏みながら分析を進めます。政治・経済・思想その他複眼的視点から芸術家や作品を理解すると同時に、西洋美術史の方法論を学びます。

## 【到達目標】

西洋美術史の方法論に沿って、ルネサンスから19世紀までの絵画作品を読解することによって、芸術家や作品の知識を得る。ジェンダー構造や市場の観点から芸術教育や作品制作プロセスの歴史的展開にも関心を広げることによって、西洋美術史の流れと方法論についての理解を深める。授業内で作品のディスクリプションを実践し、視覚表象の観察力と方法論を身につける。最終的に、授業で得た知見と研究文献の読解に基づき、作品分析を小レポートにまとめることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

作品ごとに講義（芸術家の略歴、作品解釈）とアクティブラーニング（作品のディスクリプション）に分けて、スライドを投影しながら配布資料に沿って授業を進めます。作品を観察し言語化するディスクリプションには積極的な参加を求めます。毎回講義内容をふまえてリアクションペーパーを書いていただきます。予習復習の過程で参考文献を読み解きレポート作成に生かしてください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ルネサンス以前の西洋美術史
第2回	ルネサンス的空間1	マザッチオの生涯と作品観察
第3回	ルネサンス的空間2	マザッチオ《聖三位一体》1425-28 読解
第4回	画家の自意識1	ロヒール・ファン・デル・ウエイデン の生涯と作品観察
第5回	画家の自意識2	ロヒール・ファン・デル・ウエイデン 《聖母子を描く聖ルカ》1435 読解
第6回	美術史とジェンダー	イーゼルの前の女性画家
第7回	危機の時代の芸術1	ミケランジェロの生涯
第8回	危機の時代の芸術2	ミケランジェロ《最後の審判》 1537-41 観察と読解
第9回	危機の時代の芸術3	ミケランジェロ《最後の審判》 1537-41 読解
第10回	市民社会と市場1	17世紀オランダ絵画とフェルメール の生涯
第11回	市民社会と市場2	フェルメールが描く女性の日常
第12回	近代の風景1	ルノワールの生涯と作品観察
第13回	近代の風景2	ルノワール《ムーラン・ド・ラ・ギャ レット》1876 読解
第14回	期末試験	授業と文献に基づき作品分析を小レ ポートにまとめる

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない

## 【参考書】

高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館  
ジェームズ・ホール『西洋美術解説事典』河出書房新社  
パノフスキー『イコノロジー研究』ちくま学芸文庫  
若桑みどり『イメージを読む―美術史入門』ちくま学芸文庫  
若桑みどり『絵画を読む―イコノロジー入門』NHK ブックス  
その他授業中に提示します

## 【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（40％）と期末試験（60％）を総合して評価します

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

図像リソースとして The Web Gallery of Art を推奨します  
<https://www.wga.hu/index1.html>

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Western Art has produced many artworks from which we can grasp the essence or the structure of the era. Selecting such works of art from Renaissance to 19th-Century, this course analyses them following the methodological steps: study on artist's biography and historical backgrounds, observation and description of each work, then proceeds to interpretation from various points of view, including gender structure or market system.

EAE300HA

## 大気と社会 I

丸本 美紀

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

### 【Outline and objectives】

Weather and climate have been influential in the human activity since the ancient times. The human race has been endeavoring to adapt to the changes of weather and climate. In this class, we will learn about the structure of the atmosphere, various climatic elements, climatic indices, local climates and climatic disasters in Japan and climatic impacts on the human environment.

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気象や気候は古代より人間生活に密着したものであり、常に人間生活に影響を及ぼしてきました。「大気と社会 I」においては、人間が住む空間において気候がどのように形成されているのか、気候の構成要素や表現方法についてと、日本の気象災害の事例を中心に気候や気象の人間社会への影響について学んでいきます。

### 【到達目標】

1. 気候の構成要素から、日本の気候の特徴を説明することができる。
2. 日本の主な気象災害について、その要因も含めて説明することができる。
3. 日常の生活において、どのように気候の影響を受けているのか、考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式で行います。授業内で適宜ミニレポートを提出してもらいます。質問も随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	気象・気候の基礎	気候風土—人間を取巻く環境としての気候、気象と気候の違い、二十四節気七十二候
第 2 回	大気の構造	大気の垂直構造、大気大循環、地球の熱収支と水収支
第 3 回	気候の表現方法 1	気候要素と気候因子、気候のスケール、気候指数
第 4 回	気候の表現方法 2	世界の気候区分、日本の気候区分、平年値と年候、静気候と動気候
第 5 回	日本の気候 1	気象観測の歴史、日本の気象観測網
第 6 回	日本の気候 2	日本周辺の気圧配置と季節による分類、シンギュラリティー
第 7 回	局地風	海陸風、日本の局地風と風害、屋敷林、自然エネルギーへの転換
第 8 回	生物季節	生物季節観測、桜前線、紅葉前線、温度指数
第 9 回	春の気象災害	春の天気図パターンとメイストーム（雹、竜巻、ダウンバースト）
第 10 回	夏の気象災害 1	梅雨の天気図パターンと集中豪雨、やませと冷害
第 11 回	夏の気象災害 2	盛夏期の天気図パターンと猛暑、干害
第 12 回	秋の気象災害 1	秋の天気図パターンと台風
第 13 回	秋の気象災害 2	秋雨前線、霧
第 14 回	冬の気象災害	冬の天気図パターンと山雪・里雪、局地不連続線

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。天気予報や新聞、インターネットなど身近な気象・気候情報に関心を持っておくようにしてください。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。随時、プリントを配布します。

### 【参考書】

荒木健太郎『雲の中では何が起きているのか』ベレ出版  
その他、授業内で随時紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

レポート（70%）、授業内のミニレポート＋平常点（30%）

### 【学生の意見等からの気づき】

平常点も成績に反映するようにします。

### 【その他の重要事項】

旧科目名称「人間環境特論（気流と社会環境 I）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

### 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100. 「7 コース制」）を参照してください。

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

EAE300HA

**大気と社会Ⅱ**

北川 徹哉

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

大気と社会Ⅰに引き続き、大気と人間、社会、都市との関係について網羅的に学ぶ。大気と社会Ⅱにおいては、大気と人の生活環境との関わりに重点をおいて講義する。

**【到達目標】**

1. 大気運動による物質輸送と社会との関係について説明できる。
2. 都市独特の気象と大気の動きとの関係を説明できる。
3. 人間生活で利用している気流について説明できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

この授業は講義形式で行われる。また、質問は随時受け付ける。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	大気と人間環境	人の暮らしと大気
第2回	汚染物質の大気拡散	大気汚染物質の種類、広域大気汚染、気温と大気汚染
第3回	ストリートキャニオン	都市における沿道の景観、沿道大気汚染、地形が作る大気環境、大気汚染の環境基準
第4回	ヒートアイランド	ヒートアイランドの性質、都市キャノピー、クールアイランドからの冷氣放出
第5回	クリマアトラスと風の道	ドイツ・シュツットガルトの風の道、気候情報に基づく都市計画・環境計画、風の道をつくるには
第6回	飛砂、風食	地表層土砂の挙動、風紋、飛砂対策、砂漠の拡大
第7回	黄砂の飛来	黄砂の発生源、黄砂の飛来性状と被害、アメリカ・中東・オーストラリアなどのダストストーム
第8回	スギ花粉の飛散	スギ花粉の性質、花粉の観測方法、スギ花粉飛散状況と天候、アメリカ乾燥地域のタンブルウィード
第9回	住居環境と気流（1）	室内で発生する汚染物質、室内にいる人間からのCO <sub>2</sub> 放出が室内環境に及ぼす影響、換気と通風の違い、換気施設と換気計画
第10回	住居環境と気流（2）	通風による室内環境の変化、人間の代謝と快適感・温冷感
第11回	火災と大気	都市計画法第9条、延焼と市街地火災、火災旋風（ファイヤー・トルネード）、火災の熱と大気
第12回	鉄道・自動車と大気	車両の形と転覆、強風による交通マヒ・事故、鉄道の運行規制とその発動回数減少のための対策、高速鉄道のトンネル微気圧波
第13回	農作物と大気（1）	受粉と気流、光合成と大気、気流による農作物の倒伏、飛来塩分による塩害
第14回	農作物と大気（2）	地域独自の気象特性を利用した農業、霜害とその防止、気温逆転層

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。次の内容を事前に学習しておくが良い。第1～3回：大気汚染物質の種類、第3～5回：都市の気候、第6～8回：砂粒子の大きさや形、第9～10回：屋内の空気管理、第11回：地震の2次災害、熱の種類、12回：列車や自動車の形状・構造、第13～14回：地域の気候

**【テキスト（教科書）】**

使用しない。

**【参考書】**

必要に応じて紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

レポートによる平常点評価（100％）：知識を得るためだけでなく、作業を経て身につけるような内容を含むレポート課題（2、3回程度）を通じ、到達目標1～3の習得度を総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

大気と人の生活に関する様々な話題を取り上げますので、楽しんで受講してください。旧科目名称「人間環境特論（気流と社会環境Ⅱ）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

The atmosphere concerns with human life and social systems such as industries and transportations, and it is important for us to know its characteristics so as to save the human life and society from disasters/sickness, and to create better urban/regional environments. In this course, firstly, we learn about various types of air-transport phenomena such as air pollution, heat island, dust stream and sand drift. Secondly, the ventilation of indoor air is focused on because it causes the pollution contaminant advection and remains the room environment safe and comfortable. Furthermore, the spread of the fire in city and the train/vehicle accidents due to strong winds are studied, which are closely related to disaster prevention and human-life protection.

ARs400GA

## 地域協力・統合

大中 一彌

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。この授業を適切に位置づけるために、法政大学 Web シラバスの検索結果（2018 年度）を参考にしながら、ヨーロッパの問題を扱うさいに、どのような切り口がありうるかを以下簡単にご紹介させていただきます。まず、法学部なら、第二次世界大戦後の統合をめぐる政治過程に焦点をあてるやり方があります（[EU の政治と社会]）。経済学部なら、同じく第二次世界大戦後のヨーロッパ経済史に焦点をあてるやり方があります（「ヨーロッパ経済論」）。また、生命科学部には、食糧需給の観点から共通農業政策（CAP）を扱う授業があります（「国際食糧需給論」）。グローバル教養学部（GIS）には、ウクライナ危機や難民問題のような現在進行中のトピックから出発し、英語を使用言語として実施されている授業もあります（「European Integration」）。これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、上述のような実学的な切り口はとらず、高校までの世界史の知識を確かめながら、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき教養として、思想史や文化史に焦点をあてつつ、「ヨーロッパとは何か」について認識を深めることにあります。

## 【到達目標】

- ①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べるができる。
- ②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ③西ローマ帝国崩壊前後以降、10 世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパやイスラム世界を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑤ルネサンスを含むヒューマニズムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革後の諸戦争がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑥ヨーロッパ各国における絶対主義および啓蒙専制主義のもとの商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義形式。授業支援システムをつうじた小テスト（全員必須）やレポート（任意）の提出を行う。授業内における積極的発言、運営への協力を「ざぶとん点」として評価対象にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明 ※プリント「地域協力・統合 受講者への注意」を配布
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特徴とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12 世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成

11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニズム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16 世紀-17 世紀初頭のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争（cf. 映画『最後の谷』）
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ『戦争の悲惨』。クリュセ、コメニウス、ベンラ 17 世紀に芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行。主権者としての国民による「連邦主義」の可能性

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎週、この授業について 90 分程度、授業外で学習していただくことを目安とします。
- ・ほぼ毎週小テストを実施します。これは全員必須で、授業支援システム（インターネット）上で受験します。
- ・アクティブ・ラーニングに関係して、事前に資料や映像を見てくる宿題が出される場合があります。

## 【テキスト（教科書）】

遠藤乾編『原典 ヨーロッパ統合史 史料と解説』名古屋大学出版会、2008 年。

## 【参考書】

- 金丸輝男『ヨーロッパ統合の政治史—人物を通して見たあゆみ』有斐閣、1996 年。  
 ジェラルド・ノワリエル『フランスというつぼ』法政大学出版局、2015 年。  
 エティエンヌ・バリバル『ヨーロッパ、アメリカ、戦争』平凡社、2006 年。  
 イワン・クラステフ『アフター・ヨーロッパ』庄司克宏監訳、岩波書店、2018 年。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・小テストの受験【全員必須。ただし多くは授業支援システム上で授業外実施】45%
- ・学生による発表、運営への協力【希望者のみ】10%
- ・授業への参加の積極性【良い発言をした授業参加者に得点が加算される「ざぶとんコーナー」】10%
- ・レポート【希望者のみ】35%

## 【学生の意見等からの気づき】

高校や大学 1 年時の学習との橋渡しを意識し、NHK の高校講座世界史を参照するなどしている。

## 【学生が準備すべき機器他】

- ・パソコンかスマートフォンが必要。
- ・「授業支援システム」を利用するので、初回授業後、仮登録を各自行う。
- ・「授業支援システム」>「成績簿」でリアルタイムの自分の成績を見ることができる。
- ・連絡はメールをお願いします。メールアドレスは授業支援システムを見て下さい。

## 【その他の重要事項】

- ・シラバスを熟読してください。

## 【Outline and objectives】

What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. Starting with the geographical notion of Europe as a “continent”, students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity.

ECN300HA

## 地域経済論

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では地域経済の基盤である産業とその担い手に焦点を当てて、地域の経済発展の基礎と論理について論じます。

## 【到達目標】

拡大するグローバル社会の中では、国家経済的な視点だけでなく、地域の主体性（ローカル・イニシアティブ）も同時に求められています。本講義では①地域の経済理論、②事例分析にもとづいた昨今の課題を通して、地域の経済に対する具体的な分析能力と企画立案能力を習得し、サステイナブルで豊かな地域社会のありかたについて考えることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

地域の経済に関する理論と実践について学びます。受講者からのリアクションペーパーを活用し対話型の講義を進めます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「地域経済」とは何か、「豊かさ」とは何か、今なぜ地域経済を考えるのか
第2回	日本の地域構造	データ（人口・家族・所得・産業など）からみた地域経済と地域構造
第3回	地域経済を支える基盤	地域の環境・経済・社会・文化的側面から地域経済を読み解く
第4回	第一次産業（1）ぶどうとワインからみた地域経済	山梨県甲州市を事例として地域経済の展開について考える
第5回	第一次産業（2）地域づくりの実践と理論	ワインの共同醸造、観光果樹園、住民イベントから地域づくりを考える
第6回	第一次産業（3）持続的 社会と地域産業の役割	熊本県水俣市の甘夏生産組合の歴史と現状から環境配慮型地域産業と「内発的発展論」について考える
第7回	第二次産業（1）日本経済と地域産業	産業地域社会論について考える
第8回	第二次産業（2）伝統織物生産地域の構造と展開	ライフヒストリーからみた小規模家族経営と日本経済について考える
第9回	第二次産業（3）在来的 経済発展論の射程と課題	地域の経済発展とは何か？ 在来と近代から「複線的発展論」を考える
第10回	第三次産業（1）商店街 からみた地域経済	商業と地域の経済について考える
第11回	第三次産業（2）まちづくり の実践と理論	千葉県酒々井町、茨城県取手市などを事例として社会的企業の実践と理論について考える
第12回	第三次産業（3）住民組織の ネットワーク	非営利経済セクターの活動事例と組織化について考える
第13回	まとめ（1）地域の経済 についての比較研究	日本と海外の比較研究を通して、モデルビジネス、コミュニティビジネスについて考える
第14回	まとめ（2）地域の主体性 （ローカル・イニシアティブ）の 可能性	地域の主体性とは何か。その意義と可能性について議論する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。「地域」や「産業」に関わる新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち、可能であれば実際に足を運んだり、食べたり、五感を通して体験してみてください。

## 【テキスト（教科書）】

講義で配布する資料を用います。

## 【参考書】

- ・『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
- ・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ—地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
- ・「地域づくりの系譜—山梨県甲州市の甚六桜とかつめ朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁
- ・その他、適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（用語説明 50%、論述 50%程度）によって評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

初年度なので特にありません。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【その他の重要事項】

特にありません。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

In this lecture, we will focus on regional economic activities and their workers, which is the foundation of the regional economy, and discuss the foundation and logic of the regional economy.

SOC300HA

## 地域コモンズ論

船戸 修一

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 6/Tue.6

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「草原・森林・牧草地・漁場などの資源を共同で利用・管理する仕組み」または「共同で利用・管理する資源そのもの」は「コモンズ」と呼ばれる。この授業では、具体的な事例から、このような資源がどのように利用・管理されてきたのか、そして現在どのような利用・管理状況にあるのかを説明する。そのうえで今後の地域社会における自然環境や資源の共同利用・共同管理のあり方について考える。

## 【到達目標】

まず、コモンズ研究がどのような背景で成立し、どのように発展してきたのかを理解する。次に、様々な地域資源やそれに関する実践活動から資源の持続可能な利用や地域社会の持続可能性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は、主に講義形式で進める。また授業内容についてのリアクションペーパーを授業終了後回収する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	コモンズとは何か？ (1)	コモンズの定義について説明する。
第2回	コモンズとは何か？ (2)	コモンズ研究がどのような実践的課題を背景に進められてきたのかを説明する。
第3回	地域社会と資源	日本の農山村と地域資源との関係性について説明する。
第4回	日本のコモンズ (1) 入会地	入会地の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第5回	日本のコモンズ (2) 農業用水	農業用水の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第6回	日本のコモンズ (3) 棚田	棚田の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第7回	日本のコモンズ (4) 里山	里山の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第8回	人と野生動物 (1) マタギ	狩猟を生業とするマタギの自然観を踏まえ、人間と自然のかかわりについて説明する。
第9回	人と野生動物 (2) 獣害と狩猟	野生動物による農業被害問題を踏まえ、狩猟による動物資源の利用・管理について説明する。
第10回	限界集落と集落維持	「他出子」という人的資源も「コモンズ」に位置づけたうえで、その資源による農山村維持の可能性について説明する。
第11回	グローバルなコモンズとその利用・管理 (1)	グローバリゼーションによる食料の不平等分配を踏まえ、食料の生産・消費について説明する。
第12回	グローバルなコモンズとその利用・管理 (2)	資源枯渇が危惧されるウナギ・マグロ・クジラなどの現状を踏まえ、漁業資源の利用・管理について説明する。
第13回	コモンズ研究の整理	今後のコモンズ研究の可能性と課題について説明する。
第14回	「コモンズ論」のまとめと振り返り	これまでの授業内容を振り返り、それを再確認する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業後は、授業内容や配布プリントの内容について復習しておくこと。そのうえで、授業で紹介した参考書や授業内容に関する文献を読むなど自主的な学習を望む。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。毎回、プリントを配布する。

## 【参考書】

参考文献は授業で毎回紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

学期末に提出するレポートの内容を90%、授業後に課すリアクションペーパーの内容を10%として評価する。なお受講者の人数次第では評価方法を変更することがある。

## 【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加と授業理解を促すために、毎回授業終了後にリアクションペーパーを課したい。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Studies on “commons”

SOC300HA

## 地域福祉論

宮脇 文恵

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 自らが「地域住民」として、地域を「暮らしたい場所」とするための、住民参画と主体形成について学ぶ。
2. 地域において、誰もが仲間はずれにされないための技法について学ぶ。

## 【到達目標】

人は誰もが、幸せでありたいと漠然と願っている。それは、自分が暮らしたい場所で、豊かな人間関係に囲まれ、他者から必要とされ、充実した毎を送り、「生きてよかった」と思えるようになることであろう。その一方で、「幸せになれなくても仕方がない」とされるマイノリティが存在する。

地域福祉は、地域に暮らす一人一人が「幸せだ」「生きてよかった」と思えることであり、そのためには、住民自身が「我が町を、住んで都にする」という意識を持ち、自分ができることを働きかけていくことが求められる。

本講義では、そのための基礎的な知識として、福祉的なニーズを抱える人々に対する理解と、地域に存在する社会資源、助け合う方法などについて理解を深めていく。そのことをもって、自らが地域社会に働きかけていく意識を醸成し、実践していく力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

地域福祉とは、「地域に暮らす一人一人が幸せになることであり、そのためのしくみをつくり、お互いに働きかけ合っていくこと」である。では、どんな人が大変な思いをしているのか、どうすれば自分らしく暮らしていくことができるのか。子ども・障害のある人・高齢者・貧困など生活困窮者・制度のはざまにあってサービスを使えない人（ゴミ屋敷、ひきこもり、LGBT、外国人移住者など）への理解を深め、地域で支え合うための技法と、地域社会を変革していく福祉教育実践や地域福祉計画について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス～講義の概要とポイント～	講義の概要・予定と授業におけるルールの確認
第2回	地域福祉とは何か	地域福祉の理念を学び、国際生活機能分類（ICF）に基づいて、「本人と他者（地域社会）との関わり」を考える。
第3回	ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョン	「どんな人でも社会から仲間はずれにしないで、社会の方を変えていく」というノーマライゼーションと、お互いを地域社会の中で認め合って共存していく「ソーシャルインクルージョン」についてまなぶ。
第4回	町に暮らす人々(1)～認知症と地域社会～	認知症高齢者、若年性認知症当事者の事例から、認知症への理解と地域社会の関わりを考える。
第5回	街に暮らす人々(2)～高齢者と地域社会～	介護保険と高齢者を取り巻く現状をとりあげ、地域社会の関わりを考える。
第6回	街に暮らす人々(3)～子ども・家庭と地域社会①～	児童虐待を中心としてとりあげ、地域社会の関わりを考える。
第7回	街に暮らす人々(3)～子ども・家庭と地域社会②～	子どもの愛着形成・社会的養護とそのアフターフォロー、子ども・家庭の貧困をとりあげ、地域社会との関わりを考える。
第8回	街に暮らす人々(4)～生活困窮者と地域社会～	野宿生活者の現状と社会の偏見、地域における支援の取り組みについて学ぶ
第9回	差別と偏見を見つめる	ナチスによる障害者虐殺、日本におけるハンセン病患者隔離政策などから、地域における差別の歴史を学ぶ
第10回	街に暮らす人々(5)～障害者と地域社会①～	これまで差別されてきた障害のある人について、身体障害・知的障害を中心に地域社会との関わりを考える。
第11回	街に暮らす人々(5)～障害者と地域社会②～	これまで差別されてきた障害のある人について、精神障害・発達障害を中心に地域社会との関わりを考える。
第12回	街に暮らす人々(6)～LGBTと地域社会～	15人に1人と言われるLGBTへの理解と、地域社会で共に生きる方策を探る

第13回 地域福祉の推進主体～住民の福祉意識、在宅福祉サービスの構造、地域福祉の主体形成、福祉教育と教育福祉、福祉教育の展開における留意点地域福祉を推進する中心的な団体について、学ぶ地域福祉を推進するNPO、地域の期待される人材について学ぶ地域福祉の主体形成、見直しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ

第14回 地域福祉推進における住民参画～福祉教育、地域福祉計画、ソーシャルサポートネットワーク  
住民参画の方法として、福祉教育と地域福祉計画をとりあげ、住民の福祉意識の醸成と、見直しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ留意点を学ぶ。また、地域住民の身近な支え合いとして、ソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。視聴覚教材を多用し、その際に、合計2～3回、小レポートを執筆します。高齢者、子ども連れの親子、障害のある人などを始めとして、野宿者、ひきこもり、性的マイノリティ、外国人など、社会の中で居づらさを感じる人たちが実はたくさんいます。通学、生活の中で、関心を抱いて、目を向けてみてください。メディアの中の話題もチェックしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜資料を紹介していく。

## 【参考書】

くさか樹『ヘルプマン!!』1～27巻（講談社）、『ヘルプマン!!』1～10巻（朝日新聞）

さかたのり子・穂実あゆこ『児童福祉司一貫田逸子』（青泉社）  
柏木ハルコ『健康で文化的な最低限度の生活』（小学館）他  
随時、授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（遅刻は授業開始後30分まで受付、ただし、公共交通による遅延は認める。また、退室は欠席とみなすが、体調不良や事情がある場合などは、相談に応ずる）(30%)

## 【学生の意見等からの気づき】

視聴覚教材については、古典的な教材と、さらに新しい視聴覚教材を合わせて活用する。

## 【学生が準備すべき機器他】

配布した資料は、その時間だけではなく、その後の授業でも振り返りながら使うので、地域福祉論用のファイルを用意して、必ず日付を明記して綴じておいてください（あとからいただく「いつ配布されたか教えてほしい」という声には答えません）。

レポートの提出は、かなり早いうちから授業支援システムを使用しますので、使えるようにしておいてください。

## 【その他の重要事項】

毎回、授業についてリアクションペーパーを記入していただき、そのご意見を反映して授業を展開することもあります。そのため、シラバスの順番が入れ替わったり、新たな項目が加わることもあります。

授業内容の記録は、原則的に各自ノートへの書ききとします。タブレット、PCを使用したい学生は、第1回目の授業時に、申し出てください。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This is a course on local welfare community. We deepen our understanding of difficulties of children, people with disabilities, elderly people, poor people and people who cannot use adequate social service in between different institutions/social services (such as inhabitants of "garbage residence", "hikikomori" (isolating oneself from society), LGBT, foreign migrants etc.). Students will learn the techniques to support those people and analyze the welfare education practices and regional welfare plans that will transform the community.

SHS200HA

## 地球科学史 I

谷本 勉

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代の科学的地球観（地質学）の登場以前の略画的地球観の歴史を概観する。

### 【到達目標】

略画的地球観を非科学的として否定的に取り扱うのではなく、今日の我々の日常的な地球に対する見方・考え方に大きな影響を与えているものとして理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

神話的世界の自然観を概観し、古代ギリシアの自然哲学的な地球観・自然観から、キリスト教的な世界観を経て、中世・ルネサンス期の西欧世界の地球観を明らかにし、17世紀の科学革命期から18世紀の地球像を詳述することによって、略画的地球観の重要性を明らかにする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第2回	古代世界の自然観	天地創造神話
第3回	古代ギリシアの地球観(1)	ミレトス学派からプラトン
第4回	古代ギリシアの地球観(2)	アリストテレスとリュケイオンの弟子たち
第5回	ヨーロッパ古代・中世前半の地球観	キリスト教世界の教父たち
第6回	中世・ルネサンス期の地球観	大航海時代と世界地図の製作
第7回	科学革命期の地球観(1)	デカルトの『哲学原理』(1644)の地球論
第8回	科学革命期の地球観(2)	ステノの『プロドロムス』(1669)の科学的地球観
第9回	科学革命期の地球観(3)	ライプニッツの『プロトガイア』(1691)啓蒙主義の時代の地球観
第10回	18世紀の地球観(1)	ビュフォン：デカルトの地球論から近代地質学への移行期
第11回	18世紀の地球観(2)	ヴェルナー：近代地質学誕生前夜の水成説
第12回	18世紀の地球観(3)	ハットン：近代地質学誕生前夜の火成説
第13回	地質学と聖書	火成説対水成説：玄武岩論争
第14回	授業の総括	全体の概説史的説明

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

### 【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）と平常点（50％）によって評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

### 【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

### 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

### 【Outline and objectives】

This lecture provides an outline history from the mythical Earth view of the ancient Orient to the dawn of modern geology at the end of the 18th century. In particular, this lecture aims to understand the history from the proposal of Descartes' rational earth theory in the 17th century to the emergence of sprout geology in the Enlightenment era of the 18th century.

SHS200HA

## 地球科学史Ⅱ

谷本 勉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地質学の誕生から地球科学・地球惑星科学へ至る道を検証して、地球科学の現状を明らかにする。

## 【到達目標】

地質学を含めて地球科学の可能性と限界を歴史的観点から理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

18世紀末からプレートテクトニクス誕生までの200年間、それぞれの時代の人々が地球表層の岩石圏というもとも基本的な自然環境をどのように理解しようとしてきたのかを、人が本当に地球をかけがえのない星として理解するために必要な科学のあるべき姿とは何かを念頭に置きながら説明していく。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第2回	地層と化石	スミスとキュヴィエ：岩相層序学から生（化石）層序学へ
第3回	地質学の原理	ライエルとバックランド：洪水主義対河川主義：激変主義と斉一主義
第4回	地層と時代	Dinosaur (恐竜)の発見と時間の発見
第5回	地質学と進化論	地質学者ダーウィンの『種の起源』(1859)
第6回	地球の年齢	ダーウィンとケルビン卿：地球年代論争：地質学対物理学
第7回	19世紀末の地質学	ジュース：地球冷縮説：先駆的なグローバル・テクトニクスの登場
第8回	20世紀前半の地質学	シュティレ：地向斜造山論：グローバル・テクトニクスの完成
第9回	地球科学の誕生	地質学と物理学と化学：アイソスタシー説と地震学
第10回	大陸移動説（1）	生物地理学と地質学
第11回	大陸移動説（2）	ヴェーゲナーの大陸移動説
第12回	ニュー・グローバル・テクトニクス革命（1）	大陸移動説の復活：海洋底拡大説
第13回	ニュー・グローバル・テクトニクス革命（2）	プレート・テクトニクスの登場
第14回	授業の総括	全体の概説史的説明

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。

## 【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）と平常点（50％）によって評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This lecture provides an overview history from the birth of modern geology in the first half of the 19th century to the formation of plate tectonics in the second half of the 20th century. In particular, this lecture aims to understand the history of the relationship between Christianity and science over C. Darwin's theory of evolution and the history from A. Wegener's theory of continental drift to the plate tectonics.

POL300HA

## 地球環境政治論

横田 匡紀

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

パリ協定、気候変動問題の事例にも示されるように、なぜ地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成は困難に直面するのでしょうか？米国のトランプ政権の誕生は環境政策にどのような影響を及ぼすのでしょうか？地球環境問題への解決に向けて国際社会が合意し、持続可能な世界を構築するためには、合意形成のメカニズムを理解することが必要となります。

この講義は地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成のメカニズムを対象とし、国際関係論、グローバル・ガバナンス論の理論枠組みやパリ協定、気候変動問題、トランプ政権などの事例により理解して行くことを目的とする。学生には、地球環境政治をめぐる様々な問題を考え、グローバル市民社会の一員として持続可能な世界のあり方を考える視座を獲得してもらうことをめざす。

## 【到達目標】

- ・パリ協定、気候変動問題、トランプ政権などを事例に、地球環境問題をめぐる合意形成のメカニズムを国際関係論の視点から理解できるようになる。
- ・地球環境問題をめぐる国際機構や環境NGO、企業といった様々なアクターの活動が理解できるようになる。
- ・貿易と環境、環境と安全保障といった複合的な問題をめぐる合意形成のメカニズムを理解できるようになる。
- ・日本やアメリカの地球環境外交を理解できるようになる。
- ・ヨーロッパやアジアなど地域レベルごとの多様な環境ガバナンスの現状を理解できるようになる。
- ・グローバル・ガバナンス、地球環境ガバナンスといった国際関係論の視点を理解できるようになる。
- ・トランプ政権による地球環境政策への影響を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

この講義では、国際関係論やグローバル・ガバナンスの視点からこの問題にアプローチし、どのようなアクター（国際機構、NGO、企業など）がどのような手段（国際レジームなど）で、どのような問題（気候変動問題など）に取り組み、どのような成果と課題があるのかを確認していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	地球環境政治論総論	地球環境政治とは何か
第2回	地球環境政治へのアプローチ（1）	地球環境政治の見方：リアリズムとリベラリズム
第3回	地球環境政治へのアプローチ（2）	地球環境政治の見方：コンストラクティヴィズム
第4回	地球環境政治へのアプローチ（3）	グローバル・ガバナンスとは何か
第5回	地球環境政治のメカニズム（1）	地球環境レジーム形成のメカニズム
第6回	地球環境政治のメカニズム（2）	地球環境レジーム間の相互関係
第7回	地球環境政治のメカニズム（3）	地球環境政治のアクター、国際政治と国内政治の連関
第8回	アメリカの地球環境外交：トランプ政権（1）	アメリカの地球環境外交の基礎
第9回	アメリカの地球環境外交：トランプ政権（2）	トランプ政権による影響、課題
第10回	地球環境政治のイシュー（1）	アジアと欧州における環境リジョナリズムの動向
第11回	地球環境政治のイシュー（2）	安全保障の緑化
第12回	パリ協定をめぐる国際関係（1）	全体像の把握
第13回	パリ協定をめぐる国際関係（2）	グローバル・ガバナンスからみた現状と課題
第14回	地球環境政治の展望	地球環境政治の将来の方向性

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義の各項目について理解できるようにしておく。

## 【テキスト（教科書）】

佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄編『国際関係論（第3版）』弘文堂、2018年

## 【参考書】

環境経済・政策学会編『環境経済・政策学事典』丸善出版、2018年

リチャード・E. ソーニア、リチャード・A. メガング編『グローバル環境ガバナンス事典』明石書店、2018年  
 亀山康子『新・地球環境政策』昭和堂、2010年  
 亀山康子・森晶寿編『グローバル社会は持続可能か』岩波書店、2015年  
 新澤秀則・高村ゆかり編『気候変動政策のダイナミズム』岩波書店、2015年  
 角倉一郎『ポスト京都議定書を巡る多国間交渉』法律文化社、2015年  
 小西雅子『地球温暖化は解決できるのか』岩波ジュニア新書、2016年  
 太田宏『主要国の環境とエネルギーをめぐる比較政治』東信堂、2016年  
 蟹江憲史『持続可能な開発目標とは何か』ミネルヴァ書房、2017年  
 鄭方婷『重複レジームと気候変動交渉』現代図書、2017年  
 ナオミ・クライン『これがすべてを変える上・下』岩波書店、2017年  
 村田見嗣ほか『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣、2015年  
 中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013年  
 大矢根聡編『コンストラクティヴィズムの国際関係論』有斐閣、2013年  
 三船恵美『基礎から学ぶ国際関係論（改訂版）』泉文社、2015年  
 大芝亮『国際政治理論』ミネルヴァ書房、2016年  
 今井宏平『国際政治理論の射程と限界』中央大学出版部、2017年  
 鈴木基史『グローバル・ガバナンス論講義』東京大学出版会、2017年

【成績評価の方法と基準】

中間レポートの提出を前提として、期末試験 90%、平常点 10% で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生のベースに配慮すること。

【その他の重要事項】

講義内容に関わるドキュメンタリー動画を随時用いています。  
 進度により講義内容を変更することがあります。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100. 「7 コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

For better understandings of sustainable world society, this course aim to provide a wide range of knowledge about global environmental politics from viewpoints of discipline of the International Relations Course topics.

- ・ History of global environmental governance.
- ・ Global climate governance( The Kyoto Protocol, The Paris Agreements).
- ・ Global biodiversity governance.
- ・ Global chemical governance.
- ・ Environmental governance of the European Union.
- ・ Environmental governance in Asia
- ・ Environmental policy in the U.S.
- ・ Transnational environmental governance (Non-state actors, NGOs, Business and local actors).
- ・ Japan's global environmental diplomacy.
- ・ Theories of global governance (Realism, Liberalism, Constructivism and Global governance)

POL200HA

地方自治論

谷本 有美子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2000年の地方分権改革や平成の大合併を経て、21世紀の地方自治では、公共サービスの担い手が民へと拡大し、行政と民間の役割分担が大きく変化してきました。同時に少子高齢化の進行や人口減少が社会問題化する中で、政府が自治体に対し「人口ビジョン」や「地方版総合戦略」の策定を求めるなど、自治体が将来を見通しながら地域をマネジメントする責任が問われてきています。この講義では、受講生が自治体の主人公の「市民 (Citizen)」として地方自治に関わる際の基礎知識を習得し、これからの地方自治のあり方について主体的に思考する力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

- ・地方自治の歴史や理論、制度に関する基本的な知識を身につける。
- ・地方自治の最新の動向を、市民としての主体性を持って理解し、自らの考察を踏まえて判断できるような教養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、新聞記事等を活用して可能な限り地方自治の最近の動きを交えます。また、取り扱った内容に関連して、適宜リアクションペーパーの提出を求めます。

前半の授業では、地方自治の成り立ちや歴史の変遷を知り、欧米諸国との比較を通して日本の地方自治の特徴を学びます。その後、地方自治の基本的な制度・しくみについて解説した上で現場の運用事例等を紹介しながら、市民の視点で実践的に検討していきます。

後半では、国地方を通じた事務処理体制や中央地方の政府間関係の問題も取り上げ、分権型の地方自治のあり方を考察します。

それらを踏まえて、市民の政府としての自治体に必要とされるシステムについて、運用の実際についての情報を提供しながら、見識を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「地方自治」と「自治」の概念	「地方自治」と「共同体の自治」との含意を概説し、講義で扱う内容を俯瞰する
第2回	欧米諸国の地方自治と日本の地方自治	日本の地方自治に影響を与えた欧米諸国の地方自治制度との比較の中から、日本の地方自治制度の特色を認識する
第3回	近代日本の地方自治の成り立ち	明治維新以降の日本の地方制度を学びながら、近代日本における国家と地方自治との関係性を理解する
第4回	中央集権的な地方自治と自治体による政策革新	戦後憲法で保障された地方自治の意義を踏まえつつ、講和期からの中央集権的な運用期を経て、1960年代以降の都市自治体を手掛けた先進的な都市政策を取り上げ、住民自治の観点から自治体のあり方を検討する
第5回	大都市自治体の特例と都市問題への対応	指定都市や中核市等の大都市制度と東京の都区制度を概説したうえで、人口が集中した大都市における自治体の役割や課題を検討する
第6回	二元代表制と長のリーダーシップ	二元代表で機関対立主義を採る自治体統治機構について概説し、その特色である首長（執行機関）の優位性に注目して、自治体運営で発揮される長のリーダーシップを考察する
第7回	自治体議会と地域政治	住民の代表として行政監視機能を果たす議会の活動を概説し、二元代表制における議会の政治的役割という観点から、議会による政策形成の可能性と代表制のあり方を考察する
第8回	住民自治を支える参加のシステム	地方自治法に定めのある住民の直接請求権や自治体が独自に定める市民参加のしくみを取り上げ、市民が主人公となる地方自治の民主主義的機能について検討する

第 9 回	全国画一の政策と自治体の政策決定～地方分権改革を踏まえて～	対人サービスを中心とする福祉分野の政策を取り上げ、2000 年地方分権改革を経た対等な国地方関係のもとでの、国・都道府県・市町村の役割分担を概説した上で、実施主体となる基礎自治体の政策決定のあり方について検討する
第 10 回	自治体財政と住民による税負担	全国的な財政調整・財源保障制度を基礎に成り立つ自治体財政の特色を踏まえつつ、住民が負担する税の側面に着目して、地方自治の受益と負担という関係性を検討する
第 11 回	民に広がる公共サービスと自治体の役割	公共サービスの担い手が民へと拡大し、公民の役割分担が大きく変化している中で、自治体が果たすべき役割とは何かについて、子ども子育ての政策分野を題材に考えていく
第 12 回	平成の大合併と小規模町村	平成の大合併で市町村数は 3 分の 1 に減少し、合併の功罪にはさまざまな論議がある。ここでは合併を行わなかった小規模町村にも着目しながら、住民自治と行政サービス提供体制の問題から考察する
第 13 回	住民自治組織と地域コミュニティ	近年、各地で運用されている住民自治組織等の事例を取り上げながら、地域社会における住民の自治と地域コミュニティの問題を自治体政策の観点から検討する
第 14 回	「市民の政府」たる自治体のシステム	自治体を「市民の政府」として運用するにはどのようなシステムが必要か。自治基本条例や総合計画など自治体運営の基本的なルールの活用事例を参考にしながら、今後の可能性を考えていく

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
- ・講義で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索するなど情報収集に努める
- ・自分の住んでいる自治体の状況を調べる
- ・日常的に地方自治に関連のありそうな新聞記事を読む習慣を身につける

#### 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業時にレジュメと資料を配布します。

#### 【参考書】

- ・『地方自治論－変化と未来』（法律文化社）
- その他の参考文献は授業中に適宜紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（80％）に授業内の小レポート提出状況等（20％）を加味し、総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

新聞記事等を活用し、事例を紹介しながら具体的に考える機会を提供します。

#### 【その他の重要事項】

- ・旧科目名称「地方自治論Ⅰ」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

#### 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100. 「7 コース制」）を参照してください。

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

Recently, the providers of public services have been expanding into the private sector, so the share between the local governments and the private sector in public administration has changed dramatically. Besides, the declining population are becoming a serious problem in Japan, the responsibility of local governments how to manage preparing for the future is now in question. It is aim in this lecture to acquire the basic knowledge to be involved as taxpayers in the local government and to think it independently as citizens.

LIN100HA

## テーマ別英語 1（スキルアップ科目）

CHUANFEI WANG

配当年次／単位：1～4 年／1 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course helps students improve English skills while introducing concepts of globalization through the lens of food culture focused on Japan. Students are expected to participate in discussions and engage in debates with their fellow students.

This course covers the following topics in this semester.

1. Japanese Food History
2. Japanese Food Politics
3. Global Food System
4. Japanese Food Globalization

#### 【到達目標】

Students will acquire the following skills.

1. To understand modern Japanese society through food.
2. To understand key terms and concepts of globalization reflected in food culture.
3. To analyze empirical data and be able to draw the theoretical conclusions from it.
4. To articulate personal opinions and participate in academic conversations, discussions, and debates.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

Students are expected to have in-class group discussions and presentations. Since the topics of this course are empirical and closely related to everybody's life, students are encouraged to express constructive ideas in their final reports. The final reports are required to submit in the form of web pages.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Course overview, requirements clarification
Week 2	Food and globalization 1	Watch the first half of the movie: "Global sushi" and learn concepts including globalization, localization, and transnational flow.
Week 3	Food and globalization 2	Watch the second half of the movie: "Global sushi" and learn the consequences of globalization.
Week 4	ramen in Japan	Learn the social history of ramen and the role of ramen in Japanese society.
Week 5	Modern Japanese cuisine	Learn the constructed concept of modern Japanese cuisine and how it has been constructed.
Week 6	Coffee in Japan	Learn the social history of coffee in Japan and its role in modern Japan.
Week 7	Japanese lunch-box	Learn the social history of lunch box and its role in modern Japan
Week 8	Mid-term presentations	Students present research proposal and get comments from teacher and fellow students
Week 9	The globalization of sushi	Learn the role of suppliers in globalizing food.
Week 10	The globalization of Kyoto cuisine	Learn the role of chefs in globalizing food.
Week 11	Japanese cuisine in Europe	Learn history of Japanese cuisine in Europe and who have been the actors and how they have established Japanese cuisine in the European context.
Week 12	The globalization of Japanese cuisine	Learn the multiple forces driving the globalization of Japanese cuisine

Week 13	Japanese food and globalization (and students workshop)	We will spend the first half of class on concluding this course. In the second half, students work on visual reports and prepare final presentations with group members.
Week 14	Final presentations	Students present research projects.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials. Students are required to read articles and write four reading notes during the semester.

## 【テキスト（教科書）】

No textbook will be used. Please download articles assigned for reading every week from H'etudes.

## 【参考書】

Please refer to optional readings suggested in class.

## 【成績評価の方法と基準】

Students' final grades will result on a combination of following components:

Participation（参加度）	14%
Mid-term presentation	16%
Reading notes（4 pieces）	20%
End-term presentation	20%
End-term project	30%

## 【学生の意見等からの気づき】

「本年度授業担当者変更によりフィードバックできません」

## 【学生が準備すべき機器他】

No

## 【その他の重要事項】

## 1. Reading notes

Students are required to write four reading notes during the semester.

Length: 200-250 words for each piece

## 2. End-term presentation

Students are required to do group presentation. Each member should bring five photos. If you have more than five photos in your report, please choose five of them.

## 3. End-term report

Students are required to make visual reports and submit the URLs of your visual reports instead of paper.

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【None】

None

## 【None】

None

## 【None】

None

## 【Outline and objectives】

This course helps students improve English skills while introducing concepts of globalization through the lens of food culture focused on Japan. Students are expected to participate discussions and engage in debates with their fellow students.

This course covers the following topics in this semester.

1. Japanese Food History
2. Japanese Food Politics
3. Global Food System
4. Japanese Food Globalization

LIN100HA

## テーマ別英語3（スキルアップ科目）

ロバート・G・ジェイムズ

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To develop students' awareness and ability to discuss healthcare issues and lifestyle choices in the modern world

## 【到達目標】

To expand students' English competence through readings, listening and discussions on the theme of health. Participants should be interested in both the theme and in improving their English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

Weekly topic texts will be studied and discussed in pairs and small groups. Students will be expected to contribute their ideas and experience.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
Lesson 2	Aging 1	Reading and discussion
Lesson 3	Aging 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 4	Smoking 1	Reading and discussion
Lesson 5	Smoking 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 6	Health and environment 1	Reading and discussion
Lesson 7	Health and environment 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 8	Exercise and health 1	Reading and discussion
Lesson 9	Exercise and health 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 10	Food and health 1	Reading and discussion
Lesson 11	Food and health 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 12	Stress 1	Reading and discussion
Lesson 13	Stress 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 14	Review and final exam	Review of course and final exam

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Background readings/Internet searches will be assigned in preparation for next class. Any class work unfinished in class time can be finished outside class.

## 【テキスト（教科書）】

Handouts and reading materials will be provided by the lecturer.

## 【参考書】

Additional reading on the topics can be found in Healthtalk by Bert McBean (Macmillan) or other similar Health-related English coursebooks.

## 【成績評価の方法と基準】

Final written exam (60%), class participation (30%) and homework (10%)

## 【学生の意見等からの気づき】

Besides a core group of topics to be studied, an additional selection reflecting students' interests will also be offered.

## 【学生が準備すべき機器他】

None

## 【その他の重要事項】

Students should have the time to attend ALL classes, and participate actively in discussions.

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Students will engage in readings and discussion of non-specialist issues in the area of healthcare. Bi-weekly readings will be followed by a variety activities to activate relevant vocabulary and expressions appropriate for discussing the topic.

LIN100HA

## テーマ別英語４（スキルアップ科目）

ロバート・G・ジェイムズ

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To familiarize the students with, and enable them to discuss the development and social history of modern western popular music

## 【到達目標】

To expand students' English competence through listening to and discussing the various genres of music that contributed to the development of popular music in the 20th century.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

Classroom multimedia facilities will be used to examine a variety of genres of popular music and then readings and discussions in English will explore the social and cultural context of the music.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
Lesson 2	Gospel music and slavery	Sample and discuss early African-American music and its origin
Lesson 3	Blues and the rural poor	Examples of early "Country Blues" and its social context
Lesson 4	Country music and immigration	Samples of the music brought by early settlers from Britain and Europe, and the rural culture where it took root.
Lesson 5	Folk music and white protest	Examples of music used as tool of political expression during the Great Depression and later
Lesson 6	Jazz and music as art or entertainment	Examples of both popular jazz idioms and the growth of "serious" music
Lesson 7	R & B and race relations	Examples of early rock music and the fissures in society that were exposed by its growing popularity
Lesson 8	Mid-term course review	Open-book quiz of the first part of the course
Lesson 9	The music industry	An overview of money in music, from early sales of sheet music, the rise and fall of record labels to music promotion in the digital age.
Lesson 10	Rock music and youth culture 1	An examination of the rise of youth culture and the maturing of rock music, through the career of the Beatles and other "classic rock" musicians.
Lesson 11	Rock music and youth culture 2	A look at the major genres of rock music in the context of social and political unrest
Lesson 12	Rock reactions and the rise of punk	Some examples of rock music fragmentation in the face of political failure and the rise of the political right
Lesson 13	Soul music and civil rights	Examples of early gospel-influenced soul, through pop, dance and funk styles, in the context of the early and later civil rights movements.
Lesson 14	Review and final exam	Review of the course and final exam

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。指定された文献は必ず読み、感想文（300字程度）を授業支援システムにアップロードし、ゼミ当日は積極的に議論に参加すること。発表担当文献については、事前準備を十分にしておく。フィールドワークは各自で学期中及び夏季・冬季休暇中に行う。加えて、卒論研究に関連する先行文献は教員に相談しながら各自で収集し、読み進め、先行研究レビューを執筆する。

【テキスト（教科書）】

Handouts and reading materials will be provided by the lecturer.

【参考書】

Additional resources will be provided with each lesson, and students can access most of the musical examples from Youtube or Wikipedia.

【成績評価の方法と基準】

Final written exam (60%), class participation (30%) and homework (10%)

【学生の意見等からの気づき】

We will spend more time on reading and discussion sections of the class.

【学生が準備すべき機器他】

None, though Internet access would be useful to pursue further examples cited.

【その他の重要事項】

Besides an interest in the theme, students should want to actively participate in discussions in English, and be prepared to attend all the classes.

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students will listen to illustrated lecture (presentation) on selected topics that illustrate the social and cultural context of popular music development in the 20th century. Lessons will also include readings and discussion of the topics.

PRI100HA

統計とデータ分析

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：EXCELを使って統計学の基礎とデータ分析法を学び環境データを理解する

統計学は環境問題はもちろんの事、様々な現象（社会的、自然的）を定量的に分析し論理的に最適な判断を下すために必要な基礎知識である。例えば IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の報告書の中には世界平均の地上気温や海水面水位その他のデータが掲載されているが、同時に「不確実性の幅」、「5～95%が含まれる範囲」、「90%信頼区間」などという表現も含まれている。このような環境情報を読み解くには統計学の初歩的知識が必要となる。同時に情報検索やデータ処理に関する手法も習得しておく必要がある。本科目ではパソコンを利用して統計学の基礎とデータ処理法を学ぶことをテーマとしている。

【到達目標】

本科目では EXCEL を利用しながら様々な情報を読むための基礎を学習する。これにより統計的知識などを実際の環境データの分析に応用できる力を身に付けることを目標としている。もちろん統計学の初歩とデータ分析法を学習することは、環境学への応用というだけではなく、大学生として身に付けるべき教養という側面もあるだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は毎回、情報実習室を使用して進めていく。各種ソフト+ネットワーク利用法など IT に関わる全般的なスキルの習得に加え、EXCEL の利用法を中心に学習する。これにより統計学の基礎を学ぶ。なお実務的な力を高めるために EXCEL 関数なども積極的に利用する。本科目は理系の内容が苦手だと思っている文系の学生が受講することを前提としているため、ゆっくりと分かりやすく授業を進めていく予定である。EXCEL の高度利用を目指している学生にとっても有益な授業となるだろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明を行う。
第2回	情報実習室の利用法	情報環境の説明と各種ソフトウェア+ネットワークの利用のしかたについて。
第3回	EXCEL 実習1	表の作成と演算、データベース機能、グラフ機能、相対参照と絶対参照・複合参照など。
第4回	EXCEL 実習2	各種関数の利用法、IF 関数による条件分岐、多分岐構造と階層性など。
第5回	EXCEL 実習3	論理演算、複雑な条件判断を伴う処理、統計関数の利用法など。
第6回	環境データの検索と分析1	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの検索と、整理、分析手法など。
第7回	環境データの検索と分析2	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの検索と、整理、分析手法など。
第8回	統計学入門1	代表値（平均値、モード、メディアンなど）について。ランダム性と正規分布、様々な分布について。分布の中心はどこなのか？なぜ正規分布が現れるのか？
第9回	統計学入門2	散布度（偏差、偏差平方和、分散、標準偏差、レンジ、変動係数など）について。分布の広がり（バラツキ）の程度をどのように計るのか？
第10回	統計学入門3	データ位置（基準値、偏差値とその統計的意味、正規分布とその面積など）について。例えば偏差値が70であるとは、55であるとは統計的にどのような意味か？
第11回	統計学入門4	相関分析と回帰分析（相関係数と2つの量の関係の強さ、最小自乗法の考え方、単回帰分析と重回帰分析など）について。因果関係を見抜くにはどうすればよいか？

第 12 回	統計学入門 5	統計的推定（母集団と標本、点推定と区間推定、信頼区間など）について。サンプル調査から全体の様子を推定するには？
第 13 回	統計学入門 6	統計的検定（仮説と検定、危険率と有意水準、帰無仮説・対立仮説と棄却・採択など）について。
第 14 回	総括	様々な現象を統計的に理解する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、授業内容を復習してください。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

#### 【参考書】

開講時に紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

受講時の積極性 50%、最終授業時に出席するレポートの充実度 50%。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくと進めています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業では毎回情報実習室を利用します。受講にあつたは皆さんのパソコン経験の有り無しは問いません。

#### 【その他の重要事項】

この科目は統計学を初歩から学習していきますので、受講に際しての数学的な予備知識はあまり必要としていません。

この科目は「環境モデル論 I」「環境モデル論 II」に関連する科目としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお薦めします。

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

旧科目名称「統計概論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

Theme: Introduction to statistics and data processing with EXCEL

This course is to learn the fundamentals of statistics. At the same time, we acquire skills for data-processing techniques by use of personal computers. The software EXCEL is used in a computer-practice room. In earlier stage of this course, we master the utilization techniques of it. After that the concept of distributions is examined. We learn the basic items such as average values, mode, median, deviation, variance, standard deviation, range, and so on. The correlation and regression analyses are studied. Fundamentals of statistical testing and estimation techniques are introduced in latter stage of this course.

ADE300HA

## 都市環境論 I

難波 匡甫

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間と環境の時代における望ましい都市環境とは何か、豊かで環境負荷の少ない人間重視の都市づくりについて、具体的かつ総合的に考える。都市環境論 I では、都市に関わる具体的な視点を通し、都市の見方を構築する。

#### 【到達目標】

新たな局面を迎え、これからの都市づくりの政策に必要な基本的センスとしての方向感覚を身につけることを目標とする。特に、都市環境論 I では、都市への興味と探求心を深め、地域の課題発見を自立的に導く基礎力を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

いくつかの視点を通して、都市環境に関わる基本的な考え方を探っていく。秋学期の都市環境論 II で総合的なプランニングの議論へと進むが、その準備段階としての位置づけである。講義では、国内外の都市環境（地形・地質、水、居住、歴史・文化、産業、地域データなど）について、配付資料や画像・映像を活用して多様な事例を紹介し、重層的な都市環境を包括的に捉える。授業でのミニペーパー実施により、講義の理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	都市環境論の視点から都市の見方に関して説明する
第 2 回	都市の見方：地形・水	地形・水を通して都市形成の変遷を捉える
第 3 回	都市の見方：緑	都市における緑の価値を読み解く
第 4 回	都市の見方：居住	住宅地開発の系譜を概観する
第 5 回	都市の見方：用途・機能	土地利用の用途や都市の機能を理解する
第 6 回	都市の見方：境界	都市における様々な境界を考える
第 7 回	第 1 回ミニペーパー	第 6 回までの講義の理解度を確認する
第 8 回	都市の見方：歴史遺産・景観	都市の記憶や都市美に触れる
第 9 回	都市の見方：文化	都市で育まれる文化について考える
第 10 回	都市の見方：往来	都市を支える人の往来・物の流れ・情報通信インフラを理解する
第 11 回	都市の見方：産業	都市発展における産業の姿を観る
第 12 回	都市の見方：災害	都市形成に関わる災害を知る
第 13 回	都市の見方：地域データ	都市分析における地域データの価値に迫る
第 14 回	第 2 回ミニペーパー まとめ	第 8 回～13 回までの講義の理解度を 確認する 講義全体のまとめを行う

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

初回に全体の流れと学習の仕方を説明する。

講義における具体的な実感や、テーマに応じての自主的な学習などは、各自のノートにまとめ、授業で実施するミニペーパーに積極的に反映させることを推奨する。そのため、ノートには講義に関して自ら気づいた点もあわせてメモすること。また、講義の最後において概説する次回のテーマに関して、下調べ（予習）しておくこと。

#### 【テキスト（教科書）】

特に用いない。講義資料はシステムに適宜アップロードし、講義では画像や映像資料も活用する。

#### 【参考書】

多岐にわたるため、講義時に参考となるものをいくつか紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業でのミニペーパー提出）100 %。定期試験の実施はない。

#### 【学生の意見等からの気づき】

ノートをしっかりとれるよう、板書の方法を工夫する。

#### 【その他の重要事項】

旧科目名称「都市環境論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

#### 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

It is required to think concretely and comprehensively about urban environment that focus on human and environment. In city life, we do not recognize everything we saw. In order to deepen our thoughts on urban environment, it is necessary to know the various constituent elements of cities such as topography, geology, green, and waterside. In this course, we learn how to recognize urban environment by watching at the concrete components related to urban environment.

ADE300HA

## 都市環境論Ⅱ

難波 匡甫

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間と環境の時代における望ましい都市環境とは何か、豊かで環境負荷の少ない人間重視の都市づくりについて、具体的かつ総合的に考える。都市環境論Ⅱでは、Ⅰでの個別的な都市の見方を踏まえ、基本的かつ総合的な議論を進めていく。

## 【到達目標】

都市環境論Ⅰでの目標達成を礎として、新しい都市づくり政策に必要な、都市環境問題への対応や政策を含めたプランニングの基礎的な知識や感覚を身につけ、自らが都市の展望を描けるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

初回到全体の流れと学習の仕方を説明する。

都市環境に関する総合的なテーマにより、都市づくりの変遷や都市環境の現状を把握する。また、都市環境の改善について、各種の理論、法規、技法を踏まえ、都市の展望を描くために必要となる基本的事項を解説する。授業でのミニペーパー実施により、講義の理解度を確認する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	都市とは何か、人間重視の都市環境とは何か
第 2 回	都市計画概説Ⅰ	明治・大正・昭和初期の都市の課題と解決策としての都市計画等を概観する
第 3 回	都市計画概説Ⅱ	戦後～高度経済成長期における都市の課題と都市計画等の変遷を確認する
第 4 回	都市計画概説Ⅲ	80 年代以降の社会情勢と対応する都市計画等の動向を認識する
第 5 回	都市づくりの技法	都市づくりの手法・方策（市街地整備）
第 6 回	まちづくり	協働のまちづくり
第 7 回	第 1 回ミニペーパー 都市の配慮	第 6 回までの講義の理解度を確認する バリアフリー、ユニバーサルデザイン
第 8 回	都市の配慮	都市基盤としての交通計画
第 9 回	都市の記憶	都市における歴史資産の保存と活用計画
第 10 回	都市の美学	都市の美しさとしての都市景観計画
第 11 回	都市の緑地	都市づくりに関わる緑地計画
第 12 回	都市の水辺	都市づくりの活力となる水辺計画
第 13 回	都市の防災	都市づくりを左右する防災計画
第 14 回	第 2 回ミニペーパー 都市の展望（まとめ）	第 7～13 回の講義の理解度を確認する 都市再生ビジョン・コンパクトシティ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。都市環境論Ⅰでの議論を踏まえ、各テーマに関する理論、法規等の理解を深めるため、参考となる文献や資料に目を通すことを推奨する。また、復習に役立てるため、講義内容をしっかりとノートにとること。

## 【テキスト（教科書）】

特に用いない。講義資料はシステムに適宜アップロードし、講義では画像や映像資料も活用する。

## 【参考書】

多岐にわたるため、講義時に参考となるものを紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業でのミニペーパー提出）100%。定期試験の実施はない。

## 【学生の意見等からの気づき】

ノートをしっかりとれるよう、板書の方法を工夫する。

## 【その他の重要事項】

旧科目名称「都市環境論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

It is required to think concretely and comprehensively about urban environment that focus on human beings and environment. We do not know that urban environment is established by rules such as various laws and regulations. In this course, we understand how urban environment is maintained by studying numerous plans such as urban planning, green area planning, waterside planning, landscape planning. Understanding the conditions for establishing urban environments is important for thinking about urban environment.

ADE300HA

## 都市デザイン論

田中 大助

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市を形成する建築物の最小単位は住宅である。その住宅の設計を授業のテーマに都市環境や住環境の要素を理解し、都市デザインに対する主観をひとりひとりに自覚してもらうことを目標とする。

住宅設計を通じて、問題を見つけ、解決し、それを第三者に分かりやすく表現する手法を学ぶ。

絵・図・グラフなど視覚的表現が多いレポートを課すことで、文字のみに頼らない多彩な表現力を身に付けてコミュニケーション能力を高める。

## 【到達目標】

自分の考える住宅がイメージできて表現できるようになることを授業の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義を中心に行うが、講義を元に学生がテーマを決めて作品（住宅の設計）を残すものである。

講義中の課題と最後の作品は文字のみによる表現でなく、図版・絵・グラフなど視覚言語を多用する表現が要求されるため、プレゼンテーション能力も養われる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：都市デザインと建築デザイン	都市を構成する建築・土木建造物の紹介と、授業で行う住宅の位置づけを行う
第 2 回	「棲む」と「住む」の違い	生息する（巢）ことと生活する（家）ことの違いを説明し、人間社会にのみ存在する住宅文化について認識する 第 1 回目の課題を出題する
第 3 回	住宅設計における建築家と建築技師の違い	建築家（アーキテクト）と建築技師（エンジニア）の違いについて説明し、建築家の役割の中で人文系の内容の多いことを理解してもらう
第 4 回	建築と空間・動線	住宅の中の人間の行動パターンとその行動に伴う必要最小空間を理解する 第 2 回目の課題を出題する
第 5 回	住空間の単位空間（1）（玄関）	玄関の日本の住宅文化に果たす役割を理解してもらう
第 6 回	住空間の単位空間（2）（居間・食堂・寝室・書斎・子供部屋）	居間などの日常生活空間について説明する
第 7 回	住空間の単位空間（3）（台所・風呂・便所・階段）	台所など水場について説明する 第 3 回目の課題を出題する
第 8 回	住環境の物理要素（熱・光・水・風）	住宅の外部環境の要素が建物や生活とどのように関わっているのか説明する
第 9 回	住空間の構成要素（基礎・床・壁・屋根など）	住宅を形作る要素と外部環境・内部環境との関係を説明する 第 4 回目の課題を出題する
第 10 回	ユニバーサルデザインについて	これからの社会でユニバーサルデザインの必要性などについて説明する 第 5 回目の課題を出題する
第 11 回	課題出題	敷地・家族を想定して 1 軒の住宅を考える課題を出題する
第 12 回	住宅事例の紹介	プロの建築家による実際に建てられた住宅の紹介 前年までの学生の作品を紹介する
第 13 回	課題質疑応答	各人の決めた課題テーマに対する取組み方の指導をオープンで行う
第 14 回	作品提出	作品の発表と講評を学生全員で行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
テーマが住宅の設計なので普段の日常生活を観察するだけで、授業の内容が十分に復習できるし、授業終了後も人間の日常生活を観察する癖をつけることによって、それぞれの人々に最適な生活空間はどんなものであるか考えるようになることを希望する。

授業時間内では単なる知識しか身につかない。

授業時間外の普段の生活を意識することが授業そのものなので、時間外にどれだけ生活を観察し、生活を考えているかが結果に現れる。

## 【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配布する。

## 【参考書】

「建築設計基礎編－建築デザインの製図法から簡単な設計まで－」「建築設計応用編－独立住居から集合住宅まで－」武者英二ほか著 彰国社

## 【成績評価の方法と基準】

授業中の課題（65%）と最後に提出する住宅設計（35%）による総合評価。出席点・ペーパーテストなどはない。出席して講義を聴かないと課題に取り組めないで、課題と作品によって全て判断する。

どれだけ素晴らしい設計をしたかは重要ではなく、どれだけ考えたかが重要で、作品にそれは全て表れる。

どこかの設計を写したものは直ぐに分かり、ひどい場合には単位を授与しない。逆に考えすぎて纏まりきらなくても、考えの苦悩は図面を見ると読み取れるので、その場合の方が高得点の場合が多い。

## 【学生の意見等からの気づき】

配布資料が多すぎるとの指摘が毎年あるので、適宜最小限必要なものに留めて配布する。

## 【その他の重要事項】

課題の量は多く、課外でかなりの時間を必要とするので、かなり大変であるがやる気があれば充実した授業になる。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

The smallest unit of building that constitutes a city is a house. Understand the elements of the living environment by experiencing the design of the house. Housing design is to find problems and analyze and solve them. And learning the method of clearly explain the result to a third party. For this purpose, students must be learn visual expression methods such as pictures, diagrams and graphs. Through this lesson, you acquire a variety of expression methods that do not depend on letters alone, and get high communication skills.

ECN300HA

## 途上国経済論 I

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。

## 【到達目標】

本講義においては、ア) 途上国経済の分析枠組み、特徴、イ) 主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ) 日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ) 将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

途上国経済論 I においては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

またリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第 2 回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第 3 回	日本は途上国だったのか？：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第 4 回	途上国社会・経済の概況 (1)：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第 5 回	途上国社会・経済の概況 (2)：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 6 回	途上国社会・経済の概況 (3)：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 7 回	途上国社会・経済の概況 (4)：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第 8 回	主要国／地域の社会と経済 (1)：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚しい経済成長を遂げた NIES の代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と 1997 年の IMF 危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第 9 回	主要国／地域の社会と経済 (2)：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚しい経済成長を遂げた NIES の一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。

- 第10回 主要国／地域の社会と経済(3)：香港およびシンガポール-小さな街の大きな経済
- 第11回 主要国／地域の社会と経済(4)：インドネシア-多様性の中の権威主義的開発体制
- 第12回 主要国／地域の社会と経済(5)：マレーシア-カリスマと経済成長
- 第13回 民主主義と経済成長
- 第14回 経済成長、進歩、貧困
- アジア NIES の一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国(都市)の経済成長について考える
- アセアン (Association of South East Asian Nations) の一員として NIES に続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長(経済発展)の関係について考える。
- 強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
- アジアの価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える先進国、途上国いずれもが経済成長を通じた社会の進歩、貧困の撲滅を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困を撲滅できるのか、という問いを概観する。

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前/事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

#### 【テキスト(教科書)】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する

#### 【参考書】

グラボウスキー他(2008年)『経済発展の政治経済学』(日本評論社)  
渡辺利夫編(2007年)『アジア経済読本(第4版)』(東洋経済新報社)

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。リアクションペーパーについては、加点要素とする場合がある。

#### 【学生の意見等からの気づき】

過去数年休講であった。2015年度以前は学生からの意見に基づき講義内容にメリハリをつけることに留意していた。

#### 【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものをヤスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

#### 【関連の深いコース】

履修の手引き(P100、「7コース制」)を参照してください。

#### 【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

#### 【Outline and objectives】

This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings.

ECN300HA

## 途上国経済論Ⅱ

武貞 稔彦

配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

#### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史/文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。

#### 【到達目標】

本講義においては、途上国経済論Ⅰに引き続き、ア) 主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、イ) 日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し ウ) 南北問題や世界貿易など、個々の国や地域が置かれている「構造」への理解を深めることで、エ) 将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

途上国経済論Ⅱにおいては、新興国と呼ばれる経済成長著しい国、今後の経済発展が見込まれる国などの歴史と社会の概要、国際経済の成り立ちなどを講義形式で学ぶ

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

またリアクションペーパー(教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの)を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：途上国経済を見る目	途上国経済論Ⅰの概要の復習とⅡの主題についての概観。
第2回	世界経済の歴史	「経済」と呼ばれるものの誕生も含め、「世界経済」の成り立ち、発展について概観する。
第3回	世界貿易の構造をめぐる議論	国際経済の主要な活動である貿易について、その理論、構造、課題を概観する。
第4回	途上国社会・経済の概況(1)：中国(1)社会主義と資本主義	中国は世界有数の大国であり、社会主義経済から資本主義経済へと緩やかに転換しつつ経済成長を続けている。議論の前提として社会主義/共産主義の考え方についての理解を深める。
第5回	途上国社会・経済の概況(2)：中国(2)持続的経済成長と大国としての復活	世界経済にインパクトを与える存在となった中国の社会と経済について概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況(3)：インド-目覚めた大国	インドは、近年、経済成長著しい BRICs の一つ。イギリス植民地から独立した後のインドの長い経済停滞、1990年代以降の目覚ましい経済発展という大きな流れを理解する。
第7回	途上国社会・経済の概況(4)：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国/地域の社会と経済(5)：タイ-東南アジアの「先進国」	東南アジア諸国のなかでも NIES に続く目覚ましい経済発展を遂げたタイ。アジア通貨危機の発端となるなど途上国の中の「先進国」の経済社会を概観する。
第9回	主要国/地域の社会と経済(6)：ベトナム-戦場から市場へ	1960年代にベトナム戦争で大きな傷を受けたベトナムが新興経済の一角として名乗りを上げる過程を概観する。
第10回	主要国/地域の社会と経済(7)：ブラジル-南米の大国	ブラジルはインドや中国とならび 21世紀に入って新興国として台頭著しい。豊かな自然を抱える大国の姿を概観する。
第11回	主要国/地域の社会と経済(8)：南アフリカ-アパルトヘイト	アパルトヘイトという大きな問題を克服して以降の南アフリカ経済の新興国としての経済成長を概観する。
第12回	主要国/地域の社会と経済(9)：ボツワナ-資源の呪いを越えて	アフリカ大陸にありながら世界でも有数の高経済成長を続けたボツワナの経済社会を概観する。

- 第13回 国際経済の中の域内協力 ASEAN（東南アジア諸国連合）を例に、グローバル化がすすむ国際社会における域内協力の重要性を概観する。
- 第14回 まとめ：途上国経済および世界経済の未来 講義全般の復習を行うとともに、今後の世界経済、途上国経済の姿について想像する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する

**【参考書】**

グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）  
渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）

**【成績評価の方法と基準】**

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。リアクションペーパーについては、加点要素とする場合がある。

**【学生の意見等からの気づき】**

過去数年休講であった。2015年度以前は学生からの意見に基づき講義内容にメリハリをつけることに留意していた。

**【学生が準備すべき機器他】**

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののヤスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

**【Outline and objectives】**

This is a second part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings.

HIS300HA

## 日本環境史論 I

根崎 光男

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

テーマ：人と自然の環境史

本授業では、人と自然との歴史的なかわりを、近世日本の政治・経済・生活・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の環境史研究の新しい成果を取り入れながら、歴史を「覚える」だけでなく、「考える」能力を身につける方法を紹介していく。また資料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要資料を提示して、資料から具体的な歴史像を描き出せるように工夫する。

**【到達目標】**

この講義では、日本環境史を理解するために必要となる知識の習得や歴史的事実の調べ方、およびその全体像の論理的構成方法を学び、自然・環境などにかかわる根拠資料を読解するので、資料読解のほか、環境史を論理的に説明できる。また人と自然とのかわりを歴史的に知るために、地域性や時代性を意識しながら、豊かで多様な価値観に支えられた環境史の具体像を構築する能力を養うことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業は、原則として講義形式で進め、その理解度を把握するため時としてリアクションペーパーを提出してもらう。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	環境歴史学とは	環境歴史学の歩みとその役割について学ぶ
第2回	人の暮らしと山林利用	人の暮らしと山林利用の関係について学ぶ
第3回	山林荒廃と人間社会への影響	山林荒廃の要因を地域の多様な事例を通して学ぶ
第4回	自然をめぐる環境思想	近世の環境思想を山林荒廃の論理から学ぶ
第5回	山林保護をめぐる政策と地域慣行	幕府の山林保護政策の歩みとその具体的な内容について学ぶ
第6回	持続可能な山林保護の諸相	幕府・諸藩・地域社会で実践された山林保護の諸相について学ぶ
第7回	植林をめぐる政策と地域性	各地域で実践された植林政策の歴史の多様性について学ぶ
第8回	共有資源の利用と紛争	山野河海の利用をめぐる幕府の裁定方針について学ぶ
第9回	山野河海の入会慣行	山野河海の入会利用の多様なあり方と入会権の特質について学ぶ
第10回	狩猟の歴史と自然環境保全	狩猟の歴史と自然環境保全とのかわりについて学ぶ
第11回	狩猟の文化と地域社会	狩猟文化の歩みと地域社会とのかわりについて学ぶ
第12回	農業と害鳥獣対策	鳥獣被害対策と領主・地域社会の対応関係について学ぶ
第13回	人間と鳥獣との共生関係	人間と鳥獣との多様な関係から共生のあり方について学ぶ
第14回	公害と領主・地域社会	公害の多様性と領主・地域社会とのかわりについて学ぶ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、テキストのテーマごとの史料を事前に読んでおくこと。テーマに関連する参考文献を読んでおくこと。

**【テキスト（教科書）】**

『日本近世環境史料演習 改訂版』（根崎光男編、同成社、2011年）

**【参考書】**

『生類憐みの世界』（根崎光男、同成社、2006年）  
『犬と鷹の江戸時代』（根崎光男、吉川弘文館、2016年）

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（90%）とリアクションペーパー（10%）で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

環境史学の学習には、歴史資料の読解・分析が欠かせないので、わかりやすい解説を心がけていく。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Considers the history of the relationship between humans and the natural environment in the early modern period based on politics, economics, society and culture.

OTR400HA

## プログラム修了論文

## 人間環境学部教員

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リフレッシュ・ステージ・プログラム（RSP）所属学生が人間環境学部での学びを踏まえた、成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

## 【到達目標】

各自でテーマを決め、プログラム修了論文を執筆することが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

指導教員に従い、個別に指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	同上
第4回	テーマの設定と構成③	同上
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	同上
第7回	資料の収集③	同上
第8回	資料の収集④	同上
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	同上
第11回	情報の整理③	同上
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	同上
第14回	執筆③	同上

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラム修了論文は、基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。

## 【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

## 【参考書】

各教員が指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

## 【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②プログラム修了論文の指導教員の決定については、事前に指導教員とよく相談し、内諾を得ること。指導教員の決定に関するプロセスについては、学務部の掲示および履修の手引きを参照し、慎重に行うこと。また、コース修了論文は、秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

③リフレッシュ・ステージ・プログラム（RSP）所属学生専用の科目である。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This is a course for writing thesis (for Refresh Stage Program students). Students will be able to plan and write scientific paper based on their research.

HIS300HA

## 日本環境史論Ⅱ

根崎 光男

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

## 【Outline and objectives】

Considers various environmental problems with the urbanization of Edo and the solutions based on politics, economics, society and culture.

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：江戸の都市環境について

本授業では、江戸の都市環境の全体像を、政治・経済・生活・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の環境史の新しい成果を取り入れながら、歴史を「覚える」だけでなく、「考える」能力を身につける方法を紹介していく。また資料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要資料を提示して、資料から具体的な歴史像を描き出せるように工夫する。

## 【到達目標】

この講義では、日本環境史を理解するために必要となる知識の習得や歴史的事実の調べ方、およびその全体像の理論的構成方法を学び、都市・環境などにかかわる根拠資料を解説するので、資料読解のほか、江戸の都市環境史を論理的に説明できる。また江戸という地理的条件や日本の伝統的な生活文化を意識しながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史や文化の具体像を構築する能力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は、原則として講義形式で進め、その理解度を把握するため時としてリアクションペーパーを提出してもらう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス—江戸の都市環境について	江戸の町の歴史の基礎とその特徴を学ぶ
第2回	江戸の都市化と地域の特徴	江戸の町の都市化を開発・人口増大などの環境変化から学ぶ
第3回	都市環境の変化と都市計画	江戸の都市計画を環境思想などの視点から学ぶ
第4回	行政と地域社会	江戸の行政組織の多様性とその特徴、および問題点を学ぶ
第5回	町の運営と地域コミュニティ	江戸の町の運営と地域コミュニティのありようを学ぶ
第6回	市民生活と住環境	住民の住環境の歴史の変遷を通して身分差別のありようを学ぶ
第7回	市民生活と衣食環境	衣食のありようやそれを支えた江戸周辺地域との関係性を学ぶ
第8回	産業の発達と地域社会	物直し産業の業態と同業組織の特徴について学ぶ
第9回	巨大都市とゴミ問題	ゴミ問題の発生と住民生活との関係性について学ぶ
第10回	江戸のゴミ処理システム	幕府のゴミ処理システムの運用と課題を学ぶ
第11回	火災と地域社会	災害都市江戸のありようを学ぶ
第12回	江戸の消防と防火対策	江戸の火災と幕府・町方の消防組織のあり方と多様な防火対策について学ぶ
第13回	市民生活と水問題	江戸の上下水道について学ぶ
第14回	江戸の生活文化と都市空間	江戸の住民生活と信仰・娯楽との関係性を癒し空間の視点から学ぶ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

毎回、テキストのテーマごとの史料を事前に読んでおくこと。

テーマに関連した参考文献を読んでおくこと。

## 【テキスト（教科書）】

『日本近世環境史料演習 改訂版』（根崎光男編、同成社、2011年）

## 【参考書】

『「環境」都市の真実』（根崎光男著、講談社+α新書、2008年）

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（90%）とリアクションペーパー（10%）で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

環境史学の学習には、歴史資料の読解・分析が欠かせないので、わかりやすい解説を心がけていく。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

LIT200HA

## 日本詩歌の伝統

日原 傳

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write haiku poems.

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

定型詩の実作を指導する授業である。実作に関しては「俳句」を主とするが、「短歌」の実作を体験する機会も設ける予定である。

## 【到達目標】

- ・「俳句」の定型詩としての規則を理解する。
- ・定型詩の創作を通して言葉に関する感覚を磨く。
- ・「切字」「取り合わせ」といった俳句に関する技法について理解し、実作に応用する。
- ・日本の詩歌の伝統のなかではぐくまれてきた季語の豊かさを認識する。
- ・主だった季語の季節を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式。毎回テーマを設けて、日本の詩歌の作品を紹介し、鑑賞する。同時に参加者には毎回俳句の実作を提出してもらい、提出してもらった作品のなかの秀作、問題作も鑑賞の対象とする。また、「色」「数字」「食べ物」といった切り口から先人の作品を鑑賞する機会も設け、実作の参考に供したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	俳句の三要素	俳句の約束事～定型・季語・切字／実作（俳句）
第2回	季語の重層性	発句と俳句、歳時記の世界、「季語」について／実作（俳句）
第3回	切れについて	俳諧の発句、芭蕉の追い求めたもの
第4回	再び切れについて	切字のはたらき、「一物仕立て」と「取り合わせ」／実作（俳句）
第5回	座の文学Ⅰ	松尾芭蕉の場合／実作（俳句）
第6回	座の文学Ⅱ	正岡子規の場合／実作（俳句）
第7回	正岡子規の俳句革新	『俳諧大要』より、「写生」について、吟行という作句法／実作（俳句）
第8回	川柳と俳句	川柳と俳句の違い／実作（俳句）
第9回	短歌と俳句	短歌と俳句の違い／実作（短歌）
第10回	高濱虚子とその弟子たち	鑑賞（ホトトギスの俳人たち）／実作（俳句）
第11回	自由律俳句・新傾向俳句・新興俳句	鑑賞（自由律俳句・新傾向俳句・新興俳句）／実作（俳句）
第12回	前衛俳句	鑑賞（前衛俳句）／実作（俳句）
第13回	現代俳句	鑑賞（現代俳句）／実作（俳句）
第14回	国際俳句	鑑賞（国際俳句）／実作（俳句）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
- ・自作の俳句（毎回3句ほど）を作り、持参する。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

## 【参考書】

小林恭二『俳句という遊び』『俳句という愉しみ』（以上、岩波新書）  
 山本健吉『新版 現代俳句（上・下）』（角川選書）  
 平井照敏編『現代の俳句』（講談社学術文庫）  
 藤田湘子『実作俳句入門』（立風書房）  
 片山由美子ほか『俳句教養講座』第1～3巻（角川学芸出版）  
 日原傳『365日入門シリーズ⑦ 素十の一句』（ふらんす堂）  
 佐藤和夫『海を越えた俳句』（丸善ライブラリー）  
 Hiroaki Sato『One Hundred Frogs』（Weatherhill）  
 馬場あき子・黒田杏子監修『短歌・俳句同時入門』（東洋経済新報社）  
 岡井隆『短歌の世界』（岩波新書）

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度・提出作品）40 %  
 最終レポート 20 %  
 期末試験 40 %

## 【学生の意見等からの気づき】

提出された実作を素材として解説する時間を多くとりたい。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

ART200HA

## 日本美術史論

豊田 和乎

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、まず江戸時代（近世）までの伝統的絵画の歴史を概観する。ついで、近代日本画に焦点をあわせ、その歴史をたどる。近代日本画は、伝統的絵画にくわえて明治時代以降本格的に流入した西欧の絵画をも自由に学ぶことで、新時代にふさわしい新しい日本画の創造を目指した。近代日本画作品と豊富な資料をもとにして、近代日本画の美術史的な意義を考察し、わが国の美術史に対する理解と愛着を醸成する。

## 【到達目標】

学生個々のこれまでの学習体験により、日本美術史に対する知識に不均衡があることが予想されるため、まず日本美術史に対する教室内での共通認識を深める。私たちの先人が生み出してきた絵画の歴史についてたどることで、わが国の伝統と文化の特色の一端を味わい理解することを目標とする。諸資料の講読などによってさまざまな近代日本画の用語と基礎知識を理解し、日本美術に対する教養を身につけることを目的とする。さらに講義で取り上げる絵画に関する意見を表現するトレーニングなどを通して、美術作品の読解力を養うことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業では、近世以前の日本美術史、特に絵画の各様式における作品例を概観する。そのうち近代における「日本画」の成立とその歴史的経過をふまえ、近代日本画の系譜が、日本美術史上どのような意義をもっているのかを検討する。その際、多数の近代日本画作品の画像を紹介する。さらに絵画のほかにも、美術史上の出来事、作者の履歴や制作態度などを探る手がかりとなる史料も利用する。最低限の素養として、絵画に関する事項を丹念に調べる姿勢とともに、史料読解に積極的に取り組む姿勢が必要となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本美術のながれ～日本美術の”特色”は何か	本講義の導入として、日本美術の特色と言えるものは何か、検討する。
第2回	日本美術のながれ～日本美術の一系譜としての”近代日本画”	前回に引き続き、日本絵画史研究の導入として、近代日本画というジャンルが、日本絵画史上に有する意義を考察する。
第3回	日本美術史の概観、古墳時代から奈良時代	主として古墳時代から奈良時代における絵画の代表例を概観する。
第4回	日本美術史の概観、平安時代～鎌倉南北朝時代	主として平安時代から鎌倉南北朝時代における絵画の代表例を概観する。
第5回	日本美術史の概観、室町時代～安土桃山時代	主として室町時代から安土桃山時代における絵画の代表例を概観する。
第6回	日本美術史の概観、江戸時代	江戸時代における絵画の代表例を概観する。
第7回	”日本画”のイメージ～重要文化財指定などによる”歴史化”	文化勲章を受章した近代日本画家や、重要文化財に指定された近代日本画作品を通して、現在実際に近代日本画がどのように評価されているかを概観する。
第8回	伝統的な”日本画”のすがた、かたち～技法、材料、装丁などを中心に	日本の絵画の伝統的な技法、材料や装丁方法などを概観し、”すがた、かたち”の面から日本画に関する基礎知識を共有する。
第9回	近代日本画の”誕生”	明治初期における「日本画」の誕生の経緯を概観する。
第10回	懐古趣味の醸成と日本画	「日本画」誕生の経緯に関連して、明治10年代における文化的な風潮や美術史の動向について考察する。
第11回	東京美術学校の創設と草創期の近代日本画	東京美術学校開校前後の近代日本画壇の状況を概観する。
第12回	近代日本画の勢力～東京画壇の新派と旧派	明治末、とりわけ明治40年の文展開設の前後における、東京画壇の状況を概観する。
第13回	近代日本画の勢力～官展の京都画壇	明治末、とりわけ明治40年の文展開設の前後における、京都画壇の状況を概観する。
第14回	大正期の近代日本画	大正期の日本画壇、特に日本美術院の再興、金鈴社と国画創作協会の結成、帝国美術院の創設と帝展の開催について、それらの意義を考察する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。特に、講義において必要に応じて配布されるプリントの内容を理解することが必要となる。プリントに引用されている史料等を読み、聞き覚えのない用語の有用性を把握し、出来る限り意味を調べておくことなどが必要となる。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは、特に用いない。必要に応じて、プリント等を配付する。

## 【参考書】

小林忠『原色現代日本の美術 第2巻 日本美術院』1979年、小学館／内山武夫『原色現代日本の美術 第3巻 京都画壇』1978年、小学館／細野正信『原色現代日本の美術 第4巻 東京画壇』1978年、小学館／高階秀爾、陰里鉄郎、田中日佐夫・編『日本美術全集 第22巻 洋画と日本画』1992年、講談社／根崎光男・監、講談社野間記念館、財団法人野間文化財団・編『美のながれ ― 講談社野間記念館名品図録』2005年、財団法人野間文化財団。このほか、講義に関連のある美術展覧会等の情報とともに、講義の中で適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（試験期間中）の成績による（100%）。期末試験では、近代日本画に関する基礎的知識と、近代日本画作品を解説する力との、それぞれの修得の到達度を問うこととなる。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義の各回において、できるだけ多くの近代日本画作品の画像を紹介していきます。

## 【その他の重要事項】

・講義では、場合によっては、聞き覚えのない美術用語、歴史用語などが飛び交うことにもなるかと思いますが、せっかく受講する以上は、それら用語も丹念に調べるなど、積極的に参加することを期待します。  
・旧科目名称「日本美術の系譜」を修得済の場合、本科目は履修できません。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This course is to learn about positioning of modern Japanese paintings in Japanese art history by contrasting with traditional paintings until the Edo period. Through lectures, students will deepen understanding of Japanese traditions and culture.

BSP100HA

## 人間環境学への招待

## 人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「持続可能な社会」に向けた実践的な解決策を模索する人間環境学部の学びの概要と、人間環境学部における学びの基本的な姿勢、視座を得ること。

## 【到達目標】

「持続可能な社会」に係わる多様な問題のメカニズムに関する知見を獲得しながら、実践的な解決策を模索する、人間環境学部の学びのあり方を習得するための基本的な姿勢を学ぶことを目的とする。また、人間環境学部における勉学の方向づけ（カリキュラム構成・コース制・ゼミなど学部の特色の理解）、人間環境学部における「専門性」（既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的な思考）について、各コース科目を担当する教員の講義を通して学ぶ。そして、多様な学問分野やアプローチ方法を学ぶ中で、自分の関心を明確にし、以後の本学部でのコース選択・科目選択のガイドとなる情報を得ることをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

まず学部の専門カリキュラムの構成とそのねらい、教育システムの特色などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、持続可能な社会を考えるためのさまざまなテーマに関して、多様な学問的アプローチから学ぶことの重要性を具体的に学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人間環境学部での学び方 (1) 学部理念とノートテイキングの手法	社会問題としての「環境問題」をどうとらえるか。学部カリキュラムのねらいと構成について説明する。また、大学で学ぶ技法としてのノートテイキングを実習を交えて解説する。
第2回	人間環境学部での学び方 (2) 人間環境学部の専門性と多様な学び	フィールドスタディ、人間環境セミナー、SAなど学部の特色ある学び方のねらいと履修法を説明する。
第3回	人間環境学部での学び方 (3) リーディングスキル	リーディングスキル学ぶ、課題の提出によって理解を深める。
第4回	人間環境学部での学び方 (4) 語学を学ぶことの意味と意義	語学および海外から学ぶことの意義と、人間環境学部における学びとの関係性について講義する。
第5回	人間環境学部での学び方 (5) ライティングスキル	ライティングスキルを学ぶ、課題の提出によって理解を深める。
第6回	人間環境学部での学び方 (6) 学問横断的な学び・入門編	文理融合の人間環境学部での学びの一例を複数教員による講義で実感し、多角的・総合的視野の必要性を学ぶ。
第7回	人間環境学部での学び方 (7) 学問横断的な学び・応用編	文理融合の人間環境学部での学びの一例を複数教員による講義で実感し、多角的・総合的視野の必要性を学ぶ。
第8回	テーマによる学び (1)	一つのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互関連を学ぶ。
第9回	テーマによる学び (2)	同上
第10回	テーマによる学び (3)	同上
第11回	テーマによる学び (4)	同上
第12回	テーマによる学び (5)	同上
第13回	テーマによる学び (6)	同上
第14回	テーマによる学び (7)	同上

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
次回授業の予告を行うので、関連文献・資料を読んでくること。

## 【テキスト（教科書）】

小島・西城戸編著,2012,「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房、ほか

## 【参考書】

各回講義において、担当教員より関連する文献を紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（課題レポートの提出など）40%、期末試験 60%、で総合的に成績評価を行います。

## 【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施します。

## 【その他の重要事項】

本科目は、1年次の必修科目でありクラス指定をします。A～Fクラスは水曜1時限目に、G～Lクラスは水曜2時限目に登録・履修すること（再履修者・編入者も自分のクラスの授業時限で登録・履修すること）。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This is an introductory and required course for the freshperson. While learning complex mechanisms of sustainability issues, students will be able to understand the aim of the faculty and its courses, to obtain basic viewpoint and attitude for further study and to construct own study plan in the faculty.

BSP100HA

## 人間環境学への招待

### 人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「持続可能な社会」に向けた実践的な解決策を模索する人間環境学部の学びの概要と、人間環境学部における学びの基本的な姿勢、視座を得ること。

#### 【到達目標】

「持続可能な社会」に係わる多様な問題のメカニズムに関する知見を獲得しながら、実践的な解決策を模索する、人間環境学部の学びのあり方を習得するための基本的な姿勢を学ぶことを目的とする。また、人間環境学部における勉学の方向づけ（カリキュラム構成・コース制・ゼミなど学部の特色の理解）、人間環境学部における「専門性」（既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的な思考）について、各コース科目を担当する教員の講義を通して学ぶ。そして、多様な学問分野やアプローチ方法を学ぶ中で、自分の関心を明確にし、以後の本学部でのコース選択・科目選択のガイドとなる情報を得ることをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

まず学部の専門カリキュラムの構成とそのねらい、教育システムの特色などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、持続可能な社会を考えるためのさまざまなテーマに関して、多様な学問的アプローチから学ぶことの重要性を具体的に学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人間環境学部での学び方 (1) 学部理念とノートテイキングの手法	社会問題としての「環境問題」をどうとらえるか。学部カリキュラムのねらいと構成について説明する。また、大学で学ぶ技法としてのノートテイキングを実習を交えて解説する。
第2回	人間環境学部での学び方 (2) 人間環境学部の専門性と多様な学び	フィールドスタディ、人間環境セミナー、SAなど学部の特色ある学び方のねらいと履修法を説明する。
第3回	人間環境学部での学び方 (3) リーディングスキル	リーディングスキル学ぶ、課題の提出によって理解を深める。
第4回	人間環境学部での学び方 (4) 語学を学ぶことの意味と意義	語学および海外から学ぶことの意義と、人間環境学部における学びとの関係性について講義する。
第5回	人間環境学部での学び方 (5) ライティングスキル	ライティングスキルを学ぶ、課題の提出によって理解を深める。
第6回	人間環境学部での学び方 (6) 学問横断的な学び・入門編	文理融合の人間環境学部での学びの一例を複数教員による講義で実感し、多角的・総合的視野の必要性を学ぶ。
第7回	人間環境学部での学び方 (7) 学問横断的な学び・応用編	文理融合の人間環境学部での学びの一例を複数教員による講義で実感し、多角的・総合的視野の必要性を学ぶ。
第8回	テーマによる学び (1)	一つのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互関連を学ぶ。
第9回	テーマによる学び (2)	同上
第10回	テーマによる学び (3)	同上
第11回	テーマによる学び (4)	同上
第12回	テーマによる学び (5)	同上
第13回	テーマによる学び (6)	同上
第14回	テーマによる学び (7)	同上

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
次回授業の予告を行うので、関連文献・資料を読んでくること。

#### 【テキスト（教科書）】

小島・西城戸編著,2012,「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房、ほか

#### 【参考書】

各回講義において、担当教員より関連する文献を紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（課題レポートの提出など）40%、期末試験 60%、で総合的に成績評価を行います。

#### 【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施します。

#### 【その他の重要事項】

本科目は、1年次の必修科目でありクラス指定をします。A～Fクラスは水曜1時限目に、G～Lクラスは水曜2時限目に登録・履修すること（再履修者・編入者も自分のクラスの授業時限で登録・履修すること）。

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

This is an introductory and required course for the freshperson. While learning complex mechanisms of sustainability issues, students will be able to understand the aim of the faculty and its courses, to obtain basic viewpoint and attitude for further study and to construct own study plan in the faculty.

OTR200HA

**人間環境セミナー（現場からみるSDGs（持続可能な開発目標））****人間環境学部教員**

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土3/Sat.3

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）」（以下SDGs）について、多様な分野で実現に向け取り組んでいる専門家の講義を受ける。それらを通じ、SDGsについての理解を深めると同時に、各人が自身の関心分野を切り口に、将来の持続可能な社会の構想実現に寄与するための足がかりを得る。

**【到達目標】**

グローバルな射程を持ち、多様かつ一部は実現に困難が予想される目標も含んだSDGsについては、主に国際機関、政府やNGO／NPOが主体的に活動するものと思われがちである。しかしSDGsでは、民間企業や市民がその担い手として重要であると認識されている。持続可能な社会について学ぶ当学部の学生として、①SDGsに関する基礎的な知識を持ち、人に説明することができるようになること、②SDGsにあげられた各種課題について社会の主要な主体がどのように取り組んでいるかを説明することができるようになること、③自らの今後の学習のための問題意識を高めることと将来のキャリア選択のための基盤を作ること、が本セミナーの目標である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本セミナーでは、SDGsに関わって実際の現場で活躍されている講師を招き、具体的な活動や努力、体験などの話を聴講する。各講師の知見やさまざまな経験に触れることによって、受講者のSDGsや現代社会における課題に対する意識や理解が深まることが期待される。

受講者は各回にコメントペーパー（講師からの質問への回答や、講師や講義内容への質問を記すもの）の記入と提出が求められる。

また、同時に可能な範囲でアクティブラーニングの要素を取り入れた回を設け、受講者の思い、考え、意見などを発信する機会も設ける予定である。

担当：武貞稔彦

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	セミナーの目的、進め方等の説明。講義の全体像の解説。
第2回	セミナー	外部講師による講義
第3回	セミナー	外部講師による講義
第4回	セミナー	外部講師による講義
第5回	セミナー	外部講師による講義
第6回	セミナー	外部講師による講義
第7回	セミナー	外部講師による講義
第8回	セミナー	外部講師による講義
第9回	セミナー	外部講師による講義
第10回	セミナー	外部講師による講義
第11回	セミナー	外部講師による講義
第12回	セミナー	外部講師による講義
第13回	セミナー	外部講師による講義
第14回	まとめと試験	これまでのセミナー内容の総括とそれらに関する試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
予習：次週以降のテーマにつき自分なりの予備知識を得て、質問や意見等を用意しておく。  
復習：講義で配布されたプリントや、聴講した内容について復習し、いっそうの理解や興味を深めていく。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しない。必要に応じ外部講師によるプリント（資料）が配布される。

**【参考書】**

外部講師や教員が必要に応じて紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（参加姿勢、コメントペーパーの内容、授業中の発言など）：40％  
テスト・レポート：60％

なお、原則として、4回以上無断で欠席した者は、成績評価を行わない。  
講義中のスマートフォンの使用は禁止する（授業改善アンケートへの回答作業は除く）。パソコン・タブレットの使用については許可制とする。ルールを守らない場合は、平常点で減点対象とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選ぶ。

**【その他の重要事項】**

講演後に質問時間が設けられるので、積極的に質問を行うこと。  
本セミナーの詳しいテーマおよび外部講師については、掲示板および学部ウェブサイトで発表する。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This course mainly consists of invited lectures by experts who work for achieving Sustainable Development Goals (SDGs). Students will be able to understand SDGs deeply and to have better idea for their future career to build a sustainable society.

OTR200HA

## 人間環境セミナー（離島講座）

人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土3/Sat.3

### 【Outline and objectives】

This seminar is the only comprehensive lectures of remote islands of Japan held by the Japan Remote Islands Center (public benefit foundation corporation). We will learn multifacetedly about geography, nature, culture, environment, industries of remote islands. We welcome many people interested in remote islands.

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本セミナーは、公益財団法人・日本離島センターにお願いして開催するわが国で唯一の総合的な離島講座である。わが国の離島について、その地理、自然、文化、環境、産業等について多面的に学習する。離島に興味のある方、行ってみたい方、住んでみたい方等、多くの方に受講してもらいたい。

### 【到達目標】

学生諸君が、専門分野の講師の話の聞き、離島に関する様々な側面について理解を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本セミナーでは、それぞれの専門分野の講師を学外からお招きして、具体的なテーマに関する講演を聴講します。各講師の知見に触れることで、受講者の視野が広がることを期待しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・セミナー	セミナーのねらいと進め方、各回の講演タイトルの紹介、外部講師による講義
第2回	セミナー	外部講師による講義
第3回	セミナー	外部講師による講義
第4回	セミナー	外部講師による講義
第5回	セミナー	外部講師による講義
第6回	セミナー	外部講師による講義
第7回	セミナー	外部講師による講義
第8回	セミナー	外部講師による講義
第9回	セミナー	外部講師による講義
第10回	セミナー	外部講師による講義
第11回	セミナー	外部講師による講義
第12回	セミナー	外部講師による講義
第13回	セミナー	外部講師による講義
第14回	授業のまとめと試験	授業のまとめと試験

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
予習：次週以降のテーマにつき、自分なりの予備知識を得て、質問や意見を用意する。  
復習：各回で配布されたプリントを復習する。また、日ごろから離島に関する新聞記事、書籍を読むように心がける。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。外部講師が必要に応じて資料を配布する。

### 【参考書】

参考書は、外部講師が必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、平常点（出席、コメントペーパーの内容、授業内の発言等）が40%、期末試験が60%とする。

原則として、4回以上無断で欠席した者はD評価とする。また、10分以上遅れて入室することは認められず、欠席扱いとする。

講義中のスマートフォンの使用は、禁止する（ただし、授業改善アンケートへの回答作業は除く）。パソコン・タブレットの使用については、許可制とする。ルールを守らない場合は、平常点で欠席扱いとする。

期末試験は、各講師が示したポイントについて出題される。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選びようとする。

### 【その他の重要事項】

講演後に講師への質問の時間が設けられるので、積極的に質問すること。本セミナーの詳しいテーマ及び外部講師については、掲示板及び学部ウェブサイトで後日発表する。

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

OTR200HA

## 人間環境セミナー（サステイナブルな社会と生活協同組合の実践）

人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 6/Wed.6

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、数ある生活協同組合の中でも、さまざまな領域において先駆的な活動を行っている生活クラブ生協の実践を紹介し、「サステイナブルな暮らし」とは何か、非営利・協同セクターの社会的役割について学ぶことを目的としている。

### 【到達目標】

生活クラブ生協による「食」「福祉」「エネルギー」「労働」「政治」に関するさまざまな実践、東日本大震災における活動を具体的に理解し、サステイナブルな暮らしや社会を、講義参加者の日常との接点を考えながら、構想することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この講義では、首都圏の生活クラブ生協（東京、神奈川、埼玉、千葉）の関係者を、テーマ別にお招きして、具体的なトピックスに関する講演を聴講します。各講師の知見に触れることで、受講者の視野が広まることを期待しています

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと生活クラブの概要と主な活動の紹介	協同組合とは何か。その歴史と価値を学ぶとともに生活クラブ生協50年の歴史の中でおおぜいの組合員が共同購入に参加することで解決してきたことを学びます。
第2回	消費材と共同購入（1）	生産者と組合員の出会いから生まれた消費材の開発と、消費材を組合員が利用（注文）し届くまでの共同購入の仕組みの解説します。
第3回	都市農業への取り組み	320年以上続く循環型農業の保全活動にかかわる中で、農業継続危機回避の手段として構想から協同村開設に至るまで、さらには今後の展望を解説します。
第4回	NON-GMO 運動の取り組み	遺伝子組み換え作物とは何か。食糧・飲料・飼料など輸入大国日本での遺伝子組み換え作物の現状と表示の問題点、そして協同組合におけるNON-GMO運動の実践例を紹介します。
第5回	消費材と共同購入（2）	「添加物と生活クラブの取り組み」をテーマにピオサポツール実験から市販品と消費材の違いを通して生活クラブ運動を理解します。
第6回	福祉活動の取り組み（1）	福祉の自給圏づくりに向けた仕組みと社会福祉法人が地域で展開する「誰もがありのままにその人らしく」暮らすための多様な事業展開と福祉活動の実践について解説します。
第7回	福祉活動の取り組み（2）	貧困・格差が社会の大きな問題となり、生活保護にいたる前のもうひとつのセーフティネットとして期待されている生活相談・家計再生支援事業についてその実績と地域貢献の成果について解説します。
第8回	コミュニティ・防災・減災の取組と居場所づくり	生活クラブの地域における防災の取り組みとしての「コミュニティ」づくりの実践から「個人化」時代への運動の課題を実践から学びあいます。
第9回	省エネ活動の取り組み	生活に欠かせない電気。一人一人が毎日の暮らしの中でちょっとした工夫でできる省エネ生活がエネルギーをつくる、省エネ実践例の取組を紹介しこれからのエネルギーを考えます。

第10回	生活クラブ風車建設を通じた地域間連携と電気の共同購入・エネルギー政策	生活クラブのエネルギー政策を学びます。首都圏の生活クラブでの風車建設、風車を通じた地域間連携を進めてきている現状の取組や太陽光パネルの設置など再生可能な自然エネルギーの取組実践から電気の小売り自由化への取り組みを紹介します。
第11回	ワーカーズコレクティブで働くということ	雇用労働と違った、労働―出資―運営という、ワーカーズの新しい働き方の現在の課題について学びます。
第12回	生活クラブで働くということ	生活クラブ生協職員からの報告及び問題提起を通じて協同組合で働く意義について学びます。
第13回	東日本大震災復興支援の取り組みと原発事故による放射能問題への対応	東日本大震災時への放射能問題への生活クラブ生協の取り組みと、その後の持続的な取り組みを学びます。
第14回	生活クラブと政治	1977年以降の、生活クラブの政治運動の基本的な考え方を踏まえ、自治体政策、公共政策の視点でも学びあいます。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回で配布されたプリントを復習してください。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。外部講師が必要に応じて資料を配布します。

### 【参考書】

参考書は外部講師が必要に応じて紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、平常点30%、期末試験70%です。出席は毎回とります。10分以上遅れて入室することは認められず、欠席扱いとします。また、4回以上の欠席はD評価となりますので注意してください。期末試験は、各講師が示したポイントについて出題されます。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選びます。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

講演後に講師への質問の時間が設けられますので、積極的に質問してください。講師の方々は丁寧に回答くださりますので、理解を深められるはずですが、なお、外部講師の都合でテーマの内容が変更、および順序が変わることがあります（シラバスの順番が変わることがあります）

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

### 【Outline and objectives】

This lecture introduces the practices of Seikatsu Club Cooperatives which have done many social activities in various fields, and learns about the social role of non-profit or cooperative sectors in Japan.

OTR200HA

## 人間環境特論（地域資源社会論）

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では空間軸とともに時間軸を加えて、地域経済を立体的に把握し、考える事を目的とします。

### 【到達目標】

長期的な視野から、国土開発の歴史を概観し、「地域」という概念がいかに登場し、その意味がどのように変遷しながら現在に至るのかを考えます。特に戦後の全国総合開発計画の歴史、高度経済成長期における地域構造の大転換、明治・昭和・平成の合併などが地域に与えた影響をふまえて、今、なぜ地域の経済を論じる必要があるのかを議論してみたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

地域の経済に関する歴史について学びます。受講者からのリアクションペーパーを活用し対話型の講義を進めます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「地域づくり」とは何か
第2回	地域づくりの系譜—歴史的概観	地域の主体性（ローカル・イニシアティブ）の意義
第3回	だれが国土をつくってきたのか	国土形成の歴史を中世・近世・近代・現代を通して考える
第4回	近代日本の国家と地域	明治の大合併と地域の再編、国民国家経済の形成と地域の位置づけについて考える
第5回	戦後の国土開発と地域	全国総合開発計画による地域構造の形成、中央と地方の格差について考える
第6回	高度経済成長期と内発的発展論	公害問題などを発端として始まった人間と環境の関係への問い直しについて考える
第7回	産業構造の変化と都市と農村	産業構造の変化、過疎と過密の要因と影響について考える
第8回	地域主義の提唱と地方の時代	一極集中経済の是正と地域主義の関係、「地方の時代」の背景を考える
第9回	失われる地域の個性と「地」の商品化	地域文化と固有性の衰退の一方で進む「地」の消費現象について考える
第10回	地域と固有価値の再評価	震災以後地域経済がもつ固有価値の再評価が進む現象について考える
第11回	東京から地域の経済を考える【ディスカッション1】	ディスカッションペーパー（東京の地域産業ルポ）にもとづいて地域の経済について議論する
第12回	自分の身近な地域から地域の経済を考える【ディスカッション2】	ディスカッションペーパー（身近な地域資源ルポ）にもとづいて地域の経済について議論する
第13回	地域の経済と地域づくり	担い手、組織、ネットワークから考える
第14回	まとめ	今、地域の経済を考える意義について議論する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

### 【テキスト（教科書）】

・講義中に配布する資料を用いて進めます。

### 【参考書】

・『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）  
・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ—地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁  
・「地域づくりの系譜—山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁  
・その他、適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

ディスカッションペーパー（50%）と期末試験（50%）によって評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

初年度なので特にありません。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【その他の重要事項】

特にありません。

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

### 【Outline and objectives】

In this lecture, we aim to understand and think about the regional economy in three dimensions. To achieve that, we focus on region and era.

OTR200HA

## 人間環境特論（ジェンダーと家族の社会学）

佐伯 英子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族」は身近な社会的単位である一方、それを俯瞰的に理解し、相対化して分析することは少ないものです。また、家族はしばしば「愛」や「つながり」といったポジティブな語られ方をする一方、格差や性役割が再生産され、可視化されない暴力が行われる場でもあります。更に、家族はインクルーシブではありません。生き方が多様になる現在も、法的、社会的に家族として認識されていない「様々な親密な人と人との関わり」が存在します。この「家族」という制度と現状を理解するため、また現代日本社会を理解するためにジェンダーの視点は欠かせません。ジェンダーの視点は、「男らしさ」や「女らしさ」というものが、社会的、文化的、歴史的にどのように構築されてきたのかを明らかにします。

本科目ではライフコースをたどる中からジェンダーの規範が個人の経験や社会の構築にどのような影響を与えているのかを探り、家族と人間の関わり方を社会的にどのように理解できるのか、基本的な理論と概念、日本国内の歴史の変遷、諸外国との比較を通して探ります。

## 【到達目標】

1. 家族社会学の基本的な概念、国内の歴史の変遷、国際比較を通して、現代日本社会において多くの家族が直面する諸問題を多面的に理解し、議論できるようになる。
2. 歴史的な視点、国際比較、国内のデータ等を用いてジェンダーを多面的に捉えるのと同時に、日常生活の中で常識、または自然であると考えられていることを疑い、ジェンダーの視点で社会をみることから、新たな知見を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義とアクティビティ、グループディスカッションを織り交ぜながら進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	家族を社会的に学ぶ意義；社会学的想像力；授業の進め方
第2回	家族とは何か；日本における家族の歴史と現在	世界における多様な「家族」のかたち；人類学、歴史学、社会学の知見から；親族名称の体系；近代化と家族；戸籍；イエ制度；家父長制；少子高齢化；世帯構成の変化
第3回	ジェンダーとは何か	性別と性差；ジェンダー、性自認とセクシュアリティ
第4回	生まれ、育つ	家庭において子どもは何を学ぶのか；ジェンダーの社会化；子どもの人権；子どもと貧困
第5回	教育中のジェンダー	顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム；教科書とジェンダー
第6回	結婚とパートナーシップ	婚姻制度の変化；「婚活」；未婚化と晩婚化；離婚；パートナーシップ
第7回	テスト1	講義内容の理解度をテストします。
第8回	生殖と現代の家族	家族計画の歴史と現在；リプロダクティブ・ライツ；生殖補助医療；生命倫理；出自を知る権利
第9回	親になる	育児をとりまく環境；育児休暇；待機児童；家庭における性別役割分業；「育メン」；「ワンオペ育児」；子育て支援
第10回	労働、社会階層と家族	長時間労働と家族；家事労働；ワークライフバランス；労働の非正規化；家族と貧困；ひとり親家庭；生活保障システム
第11回	高齢者と家族	介護；ケア労働とジェンダー；感情労働
第12回	暴力	ドメスティックバイオレンス；虐待；ジェンダーと暴力；暴力のサイクル
第13回	「親子のつながり」とは何か；親密性のこれから	特別養子縁組制度；里親養育；児童擁護施設；赤ちゃんポスト；グローバル化；多様なセクシュアリティ；シェアハウスと共同生活
第14回	テスト2	講義内容の理解度をテストします。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定されたテキストを読んで授業に備え、授業の後は講義内容について復習してください。

## 【テキスト（教科書）】

牟田和恵編. 2009. 『家族を超える社会学- 新たな生の基盤を求めて』新曜社.

## 【参考書】

神原文子・杉井潤子・竹田美和編. 2016. 『よくわかる現代家族』ミネルヴァ書房.

比較家族史学会編. 2015. 『現代家族ベディア』弘文堂.

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 30%（リアクションペーパーを含む）；課題 20%；テスト 50%

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用します。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This course on the Sociology of Gender and Families examines norms surrounding gender and sexuality in contemporary society and the ways in which the notions of femininity and masculinity affect our experiences both in public and private spheres. Through international comparisons as well as historical changes within Japan, we will challenge taken-for-granted notions of the family and considers possibilities for more open conceptualizations of close relationships.

OTR200HA

## 人間環境特論（社会学理論と現代社会）

佐伯 英子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学理論は社会を分析し、理解するための重要な道具です。本科目では、この理論という多種多様な道具を紹介し、共に使い方を練習する中から「社会的に社会を見る」面白さを体験し、そのスキルを身につけていきます。

## 【到達目標】

社会学における様々な理論や概念を理解し、それを通して日常生活や私たちの暮らす社会を見つめる中で、現代社会における問題や課題について分析できるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義、ディスカッション、その他のアクティビティを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要とねらい
第2回	社会学とは何か；なぜ理論を学ぶのか	C. ライト・ミルズの社会学的想像力
第3回	エミール・デュルケム	経験科学としての社会学；社会的事実；アノミー；連帯
第4回	カール・マルクス	資本主義；階級；搾取；疎外された労働
第5回	マックス・ヴェーバー	合理性；官僚制；支配の諸類型；ヴェーバーの考える「理解」(Verstehen)
第6回	タルコット・パーソンズとラルフ・ダーレンドルフ	構造機能主義と紛争理論
第7回	テスト1	授業内容の理解度を試験します
第8回	ジョージ・ハーバート・ミード	私と他者；相互作用論；I と me；一般化された他者
第9回	アーヴィング・ゴッフマン	ドラマツルギー；表舞台と裏舞台
第10回	ミシェル・フーコー	知識、まなざしと権力
第11回	ピエール・ブルデュー	界とハビトゥス；文化資本と文化的再生産；リフレクシビリティ
第12回	フェミニズム	ジェンダーとセクシュアリティ；ジュディス・バトラーのパフォーマティビティ；キンバレー・クレンショアのインターセクショナルリティ
第13回	ポストコロニアリズム	中心と周縁；エドワード・サイードのオリエンタリズム批判；ガヤトリ・C・スピヴァクのサルタン論
第14回	テスト2	講義内容の理解度を試験します

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定されたテキストを読んで授業に備え、授業の後は講義内容について復習してください。

## 【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

## 【参考書】

授業内で適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 30%；課題 20%；テスト 50%

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用します。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Sociological theories are tools critical to understand society. This course introduces a variety of theoretical tools and how to use them. It is designed to have students experience the excitement of analyzing society in sociological ways, and obtain the skills of doing so.

OTR200HA

## 人間環境特論（健康 × まちづくり = スマート・ウェルネス・シテイの挑戦）

塚尾 晶子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国は、急速な超高齢化が加速すると同時に人生 100 年の世界最長寿命になると予測されている。長寿社会に生まれた我々は、100 年もの人生をいかに健康で幸せを感じて生活するかのチャレンジができると同時に、日本は高齢化先進国として、超高齢国家の手本となるロールモデルを世界に提示する役割がある。日本は少子高齢社会の健康づくりで世界のトップランナーになれる。

本講座では、「まち」そのものを、そこに住むことによって健康なまちに変えていく試みとして、「ウェルネス（健康：各々が健康かつ生きがいを持ち、安心安全で豊かな生活を営むことのできる）」をまちの中核に位置付けた新しい都市モデル Smart Wellness City 構想の社会実験の手法を取り上げ、現在の社会課題、政策動向、今後の健康都市政策の方向性について検討する。「過去」に学び、「今」のニーズに対して事業化するという発想では日本の未来は変えられない。「今」から「20 年先」を見据えた未来を想像し、刻々と変化する社会のダイナミズムを捉え、分析し、事業に生かすことが重要である。この講義の目的・意義は、地域社会のリーダーとなりイノベーションの指揮を執れる人材に必要な課題解決型思考力を身につけることである。

## 【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

1. 超少子高齢社会の現状と課題を理解する
2. 国の健康都市政策の動向を理解する
3. 健康都市実現に向けた「人づくり」「都市づくり」の必要性とそれを創造するために必要な知識や視野の形成、課題解決型思考能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。さらに、リアクションペーパーやミニレポートを活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	超高齢社会の現状と課題	我が国の健康課題の現状と将来を見据えた課題、健康都市政策の国の動向を理解する
2	Smart Wellness City とは	健康課題を解決するための健康都市 Smart Wellness City の考え方の概要を学ぶ
3	科学的根拠に基づく健康づくり	健康長寿の科学的根拠を活用した健康づくりの必要性を検討する
4	健康づくり無関心層対策	国民の成人の 7 割を占める健康づくり無関心層の特徴と対策について検討する
5	住民協働のまちづくり	健康づくり無関心層対策としてのインセンティブ策やインフルエンサー戦略を検討する
6	Smart Wellness City の取り組み事例 1	まちのにぎわいづくりや歩きたくなるまちづくりなど国内の事例を検討する
7	Smart Wellness City の取り組み事例 2	健康づくりの科学的根拠を明確にするための AI（人工知能）の活用等、費用対効果を高めるための取り組みを検討する
8	Smart Wellness City の取り組み事例 3	官民連携の仕組みで、行政や民間事業者及び資金提供者等が連携して、社会問題の解決を目指す成果志向の取組ソーシャルインパクトボンド（Social Impact Bond:SIB）を検討する
9	各国の健康都市の取り組み 1	コンパクトシティや歩きたくなるまちづくりなど海外の事例を検討する
10	各国の健康都市の取り組み 2	クアオルトやスポーツ療法など海外の事例を検討する
11	Smart Wellness City 推進のための課題解決型思考	Smart Wellness City 推進を担う首長（市区町村長）の課題解決型思考を学び検討する
12	健康都市政策の評価	事業評価の考え方、施策評価としての KPI(key Performance Indicators：重要業績評価指標)について検討する
13	20 年先を見据えた都市づくりを考える	データを基にまちの将来を想像し、課題と解決策を検討する

## 14 健康都市政策の課題と展望 健康都市政策の課題と展望について言及する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
- ・提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読むこと。
- ・講義で言及した内容に関連する報道などの情報収集に努める。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付する

## 【参考書】

- ・辻哲夫・久野譜也監修(2017)健康長寿のまちづくり一超高齢社会への挑戦。時評社
- ・久野譜也・塚尾晶子(2017)健康長寿社会構築のためには「人の健康」に加えて「都市の健康」づくりを。自治実務セミナー,(665):2 - 9.
- ・久野譜也・塚尾晶子(2018)ヘルスケアポイントとソーシャルインパクトボンド(SIB)の活用,保健師ジャーナル,74(10):858 - 863.
- ・塚尾晶子・久野譜也(2017)健康無関心層への情報提供を可能とするインフルエンサー養成200万人プロジェクト。介護福祉・健康づくり,4(1):47 - 53.
- ・スマートウェルネスシティ

<http://www.swc.jp/about/>

・スマートウェルネスコミュニティ協議会

<https://www.swc-kyogikai.jp/>

## 【成績評価の方法と基準】

レポート課題(60点)、平常点(40点)

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

## 【実務経験のある教員による授業】

健康政策・地方自治体総合計画コンサルタント

## 【Outline and objectives】

The 100-year era of life will come soon. Learn about creation of strategic innovation and efforts of change to build "Smart Wellness City".

OTR200HA

## 人間環境特論（都市政策への挑戦～湘南からのメッセージ～）

杉 潤 武

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人々にとって住みやすく、住み続けたい都市（まち）を創るためには、市民ニーズを把握し、都市活動を担う、自治体、市民、事業者が各々の役割を果たすことが重要である。自治体は、直面する多様な都市問題の解決のために総合的な計画を策定し都市政策として実践してきた。本授業では、若い世代の転入が多い神奈川県湘南地域の藤沢市の事例を中心に、自治体の市民参加、環境、福祉、文化、都市づくり、防災、経済・観光など様々な領域にわたる都市政策が戦後から現代まで、地方分権・地方創生という時代潮流の中でどのように展開されてきたかを検証し、今後の人口減少社会少子高齢社会にどのような都市を目指したらよいかを展望する。

授業を通し、学生一人ひとりが、一人の人間として、住みやすく住み続けたい都市（まち）とは、どのような都市（まち）であればよいかを主体的に思考する契機とする。また、自治体の現場で約40年、計画の策定や、政策の遂行に携わってきた地方公務員経験者による、実務経験を基礎にした多様な領域の都市政策の考え方と実践および未来に向けての課題等についての講義を聴くことにより、都市政策が目指すものは何かを学ぶとともに、自治体が市民生活向上のために果たしている役割と具体的内容を把握する機会とする。これらを通して、都市の具体的な政策課題に取り組む力を身につけることを目的とする。

## 【到達目標】

学生の到達目標は次のとおりとする。

- ・都市政策の歴史や具体的な実践を学び、都市政策の役割を理解する。
- ・都市政策を検討、作成するために必要な知識を身につける。
- ・ある都市の一領域（例えば、環境・福祉・文化・都市づくり・防災・観光など）の政策について、事例を調査・分析し、課題をまとめ、政策へのアイデアを提案できる手法を学び、身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は、配布資料およびパワーポイントによる講義を原則とする。適宜、学生とのコミュニケーションを図るとともに、リアクションペーパーによる講義についての意見・感想を求め、その後の講義に活かすこととする。ゲストスピーカーとの対談を1～2回行う。

14回のうち1回は、政策課題を設定して、ワークショップ形式による学生同士のディスカッションを行い、グループの発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	都市と環境問題について～何故、自治体に勤め、都市の政策に関わったか～	戦後から現在までの環境問題の歴史を、年表とともに振り返り、そこから何を学んできたかを自分史と重ねながら、考察する。そして、都市、自治体にかける思いを若い世代に伝える。
第2回	都市政策を学ぶ基礎として、都市を知り、住むまちを知る～まちを好きになる～	①都市の政策をつくるには、都市をよく知ることが大切である。その手掛かりとして、歴史、地形、地誌を学ぶ。いくつかの都市を例に、どのような資料をどのように読むかを紹介する。 ②自分が住む家はどのようにしてそこに建っているのか。居住環境を守るための様々な法律の一端を紹介し、まちを知る契機とする。
第3回	都市政策をつくるための条件とは何か～都市に関する様々な指標～	政策づくりには都市に関する様々な指標を把握し、その意味を理解することが重要である。国勢調査、人口推計、住宅土地統計、意識調査など都市に関する様々な指標を紹介し、その意味を考察し、政策づくりにどのように活かすか検討する。

<p>第4回 湘南の藤沢から、都市政策への挑戦 ～市民参加の実践～</p> <p>第5回 首都圏の都市は何を目指してきたか ～総合計画の変遷から学ぶ～</p> <p>第6回 マイクロプラスチックの海洋汚染問題から暮らしを考える ～ローカルとグローバルの視点から～</p> <p>第7回 水循環から、水道と下水道の役割を考える ～有限な水をどのように使用したらよいか～</p> <p>第8回 大規模地震や集中豪雨への備えは大丈夫か ～災害の歴史に学び、対策を考える～</p> <p>第9回 都市（まち）の課題発見と解決策に向けたワークショップ</p> <p>第10回 少子高齢社会にどのように立ち向かうのか ～2025年問題を考える～</p> <p>第11回 これからの住宅政策とニュータウンの未来を考える ～住み慣れた地域で、住み続けるために～</p> <p>第12回 産業構造の変化とまちづくり</p>	<p>藤沢市の公民館活動の歴史は古く、盛んであり、それが基礎となって、市民主体の文化活動や市民参加につながっている。都市政策のベースとなる市民参加の変遷を紹介し、現在の状況、今後に向けての課題を整理し、市民主体のまちづくりを一層推進するには、どのような仕組みで、市民と行政がどのような連携をすればよいかを検討する。</p> <p>自治体の「総合計画」の果たす役割を説明し、藤沢市を事例に、人口集中の著しい首都圏で、人口増、交通問題、緑の減少や保育ニーズの増加など都市問題の激化にどのように対応してきたかを紹介する。また、良好な住宅地であり、工業都市でもある藤沢市の都市形成の歴史を振り返り、これからの人口減少社会、少子超高齢社会における都市の目指す方向性を考察する。</p> <p>死亡した鯨から大量のプラスチックが発見された事実は衝撃的であったが、身の回りで使用するプラスチックが海洋汚染に繋がっている証でもある。海洋汚染というグローバルな環境問題を捉え、私たちは、プラスチックを含むゴミをどのように分別しリサイクルしているのか、自治体の事例を学び、環境問題解決のために、毎日の暮らしの中で何をしたら良いかを検討する。</p> <p>人間が生きる上で不可欠な水を毎日自由なく使用しているが、飲み水の安全性の保持、使用した水の汚染の処理は地域の環境および地球環境にとって大切である。そのために都市が実施している政策を紹介し、都市生活と水についての関係を考察する。</p> <p>関東大震災、阪神淡路大震災、東日本大震災等大きな災害を経るごとに災害対策は推進され、防災から減災に重点が置かれるようになった。これまでの防災対策の変遷を年表をもとに紹介する。その上で、地震・津波、豪雨など近年全国で発生している災害事例から、地域に適った防災・減災対策を学び、地域でできる防災対策や大学で行える防災対策を考察する。</p> <p>市民参加、環境、防災等をテーマに7～8人程度のグループをつくり、自分の育ったまち、現在住んでいるまちを対象に、まちの将来を話し合う。課題解決に向けた提案をまとめ、グループ発表を行う。</p> <p>2025年問題とは、団塊世代がすべて75歳以上になり、介護を要する人が著しく増加し、その介護を誰が支えていくかが今問われている。その解決策の一つとして地域包括支援システムが期待されているが、その具体的イメージは未成熟である。現在の状況を紹介します、地域で具体的に何ができるか、また地域コミュニティはどのようにすれば持続できるかを検討する。</p> <p>今後、高齢単身世帯の増加に伴い、空き家・空き室が増加したり、老朽化した住宅の建替えや住宅ストックの活用、団地再生など様々な課題が発生する。これらに対応するため、今後の住宅政策の方向性が問われている。神奈川県におけるいくつかの住宅政策を紹介し、望まれる住宅や団地のあり方を検討する。</p> <p>戦後75年近く経ち、日本の産業構造が大きく変化・転換してきた中で、例えば工場移転などに都市はどのように対応してきたのか、その過程を振り返る。また、科学技術の進歩が自治体の政策にどのような転換をもたらしたのか、事例をもとに考察する。</p>	<p>第13回 これからの都市づくり～ハード面から見た課題と対応を考える～</p> <p>人口減少社会、少子超高齢社会を見据え、都市の縮退・縮小が切実な課題となっている。公共施設の老朽化をふまえた施設の複合化や統廃合、市街地全体のコンパクト化等様々な考え方が提起され、既に実施されたり、喫緊の政策として提示されており、その政策を紹介する。その上で、このような取組で重要なことは市民の合意形成であるので、都市の縮退と言える時代における市民参加の仕組み、市民の合意形成のあり方等も検討する。</p> <p>第14回 都市政策とは何か～改めて、原点から振り返り、未来の都市政策へつなげる～</p> <p>講座の最終として、日本の都市政策の変遷を振り返り、これからの都市政策において考慮したい事項（ローカルとグローバル、自治と連携、科学技術の進歩、青年世代の意識の変化、多様性と共存など）にふれ、都市の未来を展望する。</p> <p>【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。 ミニレポートを作成する。 提示した参考文献や自ら選んだ文献を読む。</p> <p>【テキスト（教科書）】 特定の教科書は使用しません。 授業時に、講義の内容をまとめたレジュメと参考資料を配布します。</p> <p>【参考書】 「都市政策を考える」（著：松下圭一 岩波書店・岩波新書 1971年） 授業中に、次回以降のテーマに参考となる文献等を適宜紹介する。</p> <p>【成績評価の方法と基準】 成績は、論述試験（80%）＋ワークショップでのレポート（10%）＋ミニレポート（10%）で評価する。</p> <p>【学生の意見等からの気づき】 毎回の授業の最後に、授業の感想や意見を聞くためのアンケートを行い、次の授業に活かす。</p> <p>【学生が準備すべき機器他】 特にありません。</p> <p>【その他の重要事項】 本授業「人間環境特論」は、前年に小島先生が講義された「自治体環境政策論Ⅱ」という科目の枠を使用して、特別のテーマを扱う特殊講義で、都市政策をテーマに行います。</p> <p>【実務経験のある教員による授業】 地方自治体職員（神奈川県藤沢市）として約40年、自治体の現場で計画の策定や政策の実践に務めてきた。 また、自治体学会の活動を通して、全国の自治体職員や研究者の方々と交流を重ね、その中から都市政策について勉強をしてきた。授業では、その経験をいかし、都市政策の歴史を伝えるとともに、未来の都市の創造に向けて、受講者と討議をしながら考察を進める。</p> <p>【Outline and objectives】 The first purpose of this class is to learn urban policy of japan local government with environment,welfare,culture,city planning,economy,sightseeing,participate of citizen,and so on. The second is to research urban policy in the future from the view of local and global. The teacher of this class is a person who was experienced in lokal government of Fujisawa city in Kanagawa prefecture.The third purpose is to listen to teacher's message and talk and to think a city or area that you will live.</p>
--	--	--

OTR200HA

## 人間環境特論（市民参加 × まちづくり～地域コンサルティングの現場から）

佐谷 和江

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①本講義では、都市環境の形成・改善（まちづくり）に、多様な人々が関わりながら取り組んでいることを、具体的なケースを踏まえて理解する。  
 ②また、市民として、都市にオーナーシップを持ち、関わるための考え方や手法を学ぶ。  
 ③さらに、都市環境の形成・改善に取り組む人々の考え方の背景や価値観を理解し、自分なりの価値を見出す。

## 【到達目標】

- ①都市環境の形成・改善の動機、プロセス、取り組みの評価について学び、それを踏まえて、都市環境への洞察力を高める。  
 ②都市環境への関わり方を具体的に知るにより、当事者として関わる意識を高める。また、足がかりを把握する。  
 ③都市環境の背景や環境を生み出す価値感を知ることにより、環境を評価するための判断基準を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

- ・講義を聞き、それに関連した質問に対する意見をポスト・イットに書いてもらう。
- ・書いてもらった意見をもとに議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	地域コンサルティングとは？	授業の概要や進め方を紹介する。また、地域コンサルティングにおいて重要なキーワードを理解する。
2回	計画づくりとは？	都市計画や計画づくりについて理解する。また、市民の関わり方について理解する。
3回	計画を承認するための仕組みとは？	計画を進めるためには市長や議会、審議会などが関わっており、これらの仕組みや市民の関わり方を理解する。
4回	計画の実現とは？	計画したものをどのように実現していくかについて理解する。また、企業の関わり方についても理解する。
5回	政策課題への対応とは？	暮らしの中には様々な課題がある中で、どのように選択し、対応策を考えるかについて理解する。
6回	コミュニティづくりとは？	孤独死や引きこもりなど、地域での孤独が問題となる中、コミュニティづくりへの行政の対応について理解する。
7回	市民活動への支援とは？	暮らしやすいまちにするために、市民活動を支援する取り組みについて理解する。
8回	身近な地域での市民活動とは？	町内会や自治会などの地域での市民活動について理解するとともに、実現の難しさについても把握する。
9回	身近な地域でのルールづくりとは？	身近な地域で自分たちで環境に関するルールをつくることのできることを知るとともに、そのプロセスや結果について理解する。
10回	復興まちづくりとは？	東日本大震災の被災地で、復興に地域住民がどのように取り組んだか、また、その支援方法について理解する。
11回	ひろばのデザインとは？	多様な意見がある中で、意見をまとめながらデザインしていくプロセスや、その結果としての環境について理解する。
12回	地域での居場所づくりとは？	衰退傾向にある商店街の中で、地域の居場所をつくったプロセスを把握するとともに、継続のための工夫を理解する。
13回	地域での三世代の居場所づくりと運営とは？	高齢者施設を三世代の居場所への変更したプロセスや、その運営について理解する。
14回	レポート作成	これまで自分が書いた意見を分析し、環境を評価するための判断基準についてのレポートを作成、提出する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各ケースのURLを下記に示すので、事前に概要を把握する。

○第2回：練馬区都市計画マスタープラン

<http://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/machi/masterplan/>

○第3回：横須賀市土地利用調整審議会

<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4805/tokei/chosei/chosei.html>

html

○第4回：港区まちづくりマスタープラン

<https://www.city.minato.tokyo.jp/sougoukeikaku/kankyomachi/toshikekaku/kekaku/master-plan.html>

<http://wp.3sedai.com/>

○第5回川崎市「区民会議運営」

<http://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000017573.html>

○第6回川崎市「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」

<http://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000097375.html>

○第7回：江戸川総合人生大学

<http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>

○第8回：横浜市まち普請事業 左近山地区

<http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/chiikimachi/machibushin/>

○第9回、第10回 → 授業の事前に知らせる

○第11回：川崎市カッパーク鷺沼

<http://www.city.kawasaki.jp/miyamae/category/117-10-2-5-0-0-0-0-0-0.html>

○第12回：墨田区玉の井地区/玉ノ井カフェ

<http://ameblo.jp/tamanoicafe/>

○第13回：新宿区落合三世代交流サロン

<http://wp.3sedai.com/>

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に資料を配付する。

## 【参考書】

- ・都市計画とまちづくりがわかる本 彰国社 (2017/7/1)
- ・縮充する日本「参加」が創り出す人口減少社会の希望 山崎 亮 PHP 新書 (2016/11/16)
- ・BIOCITY (2018 No.74) 特集 エコロジカル・デモクラシーのデザインブックエンド (2018/4/1)
- ・新・公民連携最前線 PPP まちづくり <https://project.nikkeibp.co.jp/ppp/>
- ・COLOCAL リノベのススメ <https://colocal.jp/category/topics/lifestyle/renovation>

## 【成績評価の方法と基準】

ポストイットの提出 65%：毎回、講義を聞き、それに関連した質問に対する意見を積極的に書いているか。毎回、ポスト・イットを提出してもらい判断する。

レポートの提出 35%：第14回でこれまで自分が書いた意見を分析し、環境を評価するための判断基準についてのレポートを作成、提出する。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

## 【学生が準備すべき機器他】

- ・ポストイット（75mm×75mm）各回5枚
- ・サインペン

## 【その他の重要事項】

特になし。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

- ① We understand that various people are involved in improving the urban environment based on concrete cases.
- ② As citizens, we have ownership in cities and learn concepts and methods to engage.
- ③ We understand the background and values of the ideas of people working on improving the urban environment and find out our own value.

POL300HA

## 人間の安全保障

植村 充

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 6/Fri.6

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1994 年に「人間の安全保障」という概念が提唱されてからすでに 25 年が過ぎようとしています。この間同概念を基にして国際社会では多様な試みがなされてきました。安全保障の焦点が従来の国家から個人の人權や生活に当てられたことによって何が達成され、また課題として残されているか。本講義では、この「人間の安全保障」について体系的に学習します。

## 【到達目標】

安全保障概念の変遷、人間の安全保障に対する国際機関・国家・NGO の政策、人間の安全保障という概念を基軸として見つめ直される諸課題について理解します。これによって、越境的に生じる政治経済社会問題を学生自身が主体的に考察し、当事者の視点を踏まえて議論できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を採ります。適宜グループワークを用いるので学生間での積極的な意見の交換を求めます。毎回、簡潔な小テストとリアクションペーパーを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：人間の安全保障とは何か	「人間の安全保障」の概念が成立した経緯、その意義、他の学問領域との関連を概説する。
第 2 回	安全保障の歴史と概念の変容	従来、安全保障は伝統的に国家同士の戦争から国家の主権をいかに守るかという国家安全保障を想定してきた。しかしその後、安全保障の対象は多様化する。その多様化の歴史的経緯を理解する。
第 3 回	現代世界における人間の安全保障	1990 年代以降に確立された「人間の安全保障」概念が誕生してから 25 年が経過しようとする今、どのような成果を残し、課題を抱えているのかを理解する。
第 4 回	崩壊国家と内戦の様相	人間の安全保障の重要性が最も顕わになるのは、国家が国民の安全を保障できない、崩壊国家や内戦の場合である。ここでは、冷戦終結後に生じた内戦や脆弱な国家の出現とその原因を理解する。
第 5 回	人間の安全保障と国際法	人間の安全保障の概念は国際法の発展にも寄与してきた。特に国家主権や人道的介入、平和に対する権利など、従来の概念に対する影響を看過することはできない。ここでは人間の安全保障と既存の国際法の関係を理解する。
第 6 回	国際機関と人間の安全保障	人間の安全保障を推進する主体として、国際連合をはじめとする国際機関の活動は重要な論点である。特に国際連合が果たしてきた成果とその限界について理解する。
第 7 回	国際社会・NGO と人間の安全保障	国際社会を構成する日本以外の諸外国と NGO が人間の安全保障という概念に基づきいかに活動してきたか、理解する。
第 8 回	日本と人間の安全保障	1990 年代後半以降、人間の安全保障は日本外交の柱の一つとなってきた。この回では、人間の安全保障に対する国際社会への日本政府の取り組みを概説する。
第 9 回	貧困と開発援助の諸相	人間らしく生きるためには、暮らしの安定性と持続性が必要である。しかしながら、主に途上国で深刻な貧困状態が継続し、人間の安全保障に対する脅威の一つになっている。今回は、貧困の実態と開発援助の諸相を考える。

第 10 回	テロリズムと人間の安全保障	現代国際社会で人間の安全保障に対する著しい脅威として、世界各地で生ずるテロリズムがある。この回では、越境的に生じるテロの問題を理解し、国際社会の取り組みを考える。
第 11 回	難民・国内避難民問題 part1	世界各地には紛争や内戦によって移動を余儀なくされた避難民が多く存在する。この回では難民の発生要因、難民キャンプでの生活、解決策について考える。
第 12 回	難民・国内避難民問題 part2	2015 年に発生した欧州難民危機では地中海やバルカン半島を經由して多くの避難民が欧州地域に押し寄せた。大量の避難民を前に EU はいかに対処したか。各構成国の反応も踏まえつつ概説する。
第 13 回	人間の安全保障の日本の文脈	日本で発生する自然災害や避難所で生じる問題も重要な人間の安全保障である。この回では日本で生じる脅威について検討する。
第 14 回	講義の振り返りとまとめ	第 13 回までの講義内容と議論をまとめながら、人間の安全保障に関する今後の展望を考える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。人間の安全保障」という概念は聞きなれないかもしれませんが、関連する諸課題は講義で説明するように我々の身近にあります。積極的に新聞やニュースに触れ、主体的な授業参加を奨励します。また適宜英語資料を用います。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義の際に、毎回資料を配布します。

## 【参考書】

東大作編著 (2017)『人間の安全保障と平和構築』2017 年 日本評論社  
高橋哲哉・山影進編 (2008)『人間の安全保障』2008 年 東京大学出版会

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%)、毎回の小テスト (20%)、リアクションペーパー (10%)。

## 【学生の意見等からの気づき】

担当者変更のため特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを利用します。講義までに読んでくる関連資料は、授業支援システムに掲載します。

## 【その他の重要事項】

特になし。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き (P100.「7 コース制」)を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Twenty five years have passed since the concept, “human security,” was proposed in 1994. Various attempts have been made on the basis of this concept in international society. We consider what has been achieved, and what are left as uncompleted agendas, by shifting the focus from issues concerning nation states to the human right and life of people. In this course, we study about “human security” with a systematic method.

COT100HA

## ネットワークとマルチメディア

松本 倫明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットとマルチメディアの基礎と応用を学ぶ。

近年、インターネットを用いた情報交換が活発に行われている。それにと  
もない、画像・音声・動画などのマルチメディアに触れる機会も多くなった  
この授業では、インターネットとマルチメディアの基礎と応用について学  
ぶ。さらに、インターネットの光と影の部分にも焦点を当て、情報倫理につ  
いても触れる。

## 【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. 画像処理の基本的な技術を習得することができる。
2. 模式図を自作することができる。
3. ウェブページを制作することができる。
4. インターネットにおける情報発信の技術を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力  
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習  
成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題  
を行なって操作方法の理解を確認する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・基本操作方 法のおさらい	授業の進め方に関する説明をする。パ ソコンの基本的な操作を確認する。 キーボードとマウスを用いた入力など。
第2回	ファイル・フォルダ・木 構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を 学ぶ。
第3回	ペイント系画像処理： Photoshopによる実習	Photoshopによる写真や画像の処理 方法を学ぶ。
第4回	ドロー系画像処理：基本	ドロー系画像処理ソフトを用いた、画 像処理の基本を学ぶ。
第5回	ドロー系画像処理：自由 課題	ドロー系画像処理ソフトを用いて自由 課題を制作する。
第6回	Web ページ製作： HTMLの基本	Web ページ作成の基本を学ぶ。 HTMLについて重点的に学ぶ。
第7回	Web ページ製作：CSS の基本（1）	CSSについて学ぶ。
第8回	Web ページ製作：CSS の基本（2）	CSSについて学ぶ。
第9回	Web ページ製作：課題 ページの作成（1）	Web ページの自由課題を作成する。
第10回	Web ページ製作：課題 ページの作成（2）	Web ページの自由課題を作成する。
第11回	Web ページ製作：課題 ページのまとめ。	自由課題のまとめと評価を行う。
第12回	WWWの仕組み	WWWの仕組みを学習し、情報発信 と受信の仕組みを理解する。
第13回	情報検索のコツと練習	WWWにおける効率的な情報検索の 方法を学ぶ。
第14回	インターネットの光と影 ：情報倫理	インターネットにおける情報倫理を学 ぶ。様々な事例を取り上げ、インター ネットの利用における問題点や注意点 を理解する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないか  
もしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

## 【テキスト（教科書）】

WWWを通じて教材を配布する。  
また、授業のなかで、テキストを紹介する。

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点・課題提出を総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。大学から配布されたIDとパスワードを用意すること。

## 【その他の重要事項】

受講生はパソコンの基本的な操作（キー入力やファイルの保存）を既に修得  
していることが望まれる。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受  
講申し込みについては掲示やガイダンスで案内する。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Students learn both basic and practical skills on the internet and  
multimedia.

ENV300HA

## 廃棄物・リサイクル論

鈴木 儀郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物は社会を映す鏡であり、超高齢化、自然災害の激甚化などの社会の変化に対応して想定すべき廃棄物問題とその解決策は次世代を担う学生が自らの問題として考える必要がある。この講義では、そのための基礎として「廃棄物処理はみんなの責任」と言われるのはなぜか、循環型社会の形成が推進されている背景事情は何か等を理解するため、今日の問題全体を俯瞰しつつ廃棄物に関して過去と現在を比較検討するとともに法制度技術等の廃棄物・リサイクルを考えるための基礎知識を学ぶ。

### 【到達目標】

廃棄物問題は複雑・多様で簡単には片付かない。社会の変化、それに伴う生活や製品の変化、産業構造の変化、自然災害の激化などが種々に廃棄物問題を生む。法的には「廃棄物」の定義の難しさ、処理責任を負うべき排出者のみでは解決できない製品の高度化・多様化に対応できる社会システムの政策誘導などの課題がある。そこで社会の変化と廃棄物の発生・処理との関係を学び、廃棄物に関するテーマについて過去と現在の比較考察をし、生活に身近な廃棄物がどこでどう処理されるかを知り、処理技術の基礎を学ぶ。そのうえで法における廃棄物の定義と有価物の差異を学ぶとともに廃棄物処理法と各種リサイクル法規の考え方を学ぶ。加えて災害環境研究などの現状を学ぶ。これらをもとにしてリサイクルなど3R政策の現状と意義、今後の廃棄物対策のあり方等考えるための知識と考える力をつけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎回の講義資料をもとにして講義を進め、日常生活、歴史と文化、法律、経済、技術などの様々な側面から廃棄物問題の基礎知識を学ぶ。毎回の出席表に各自のコメントなどを記入するアクションペーパーを用いる方式により、廃棄物問題についての考察を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	全体構成と進め方 知っておくべき基本的な事実と知識	講義の全体像を説明。今日の環境問題全般について俯瞰したうえで廃棄物・リサイクル問題にフォーカスする。
第2回	社会の変化による廃棄物の排出等への影響	政府の白書等をもとにして社会の変化を認識しそれによって廃棄物の排出等がどのように影響されるかを学ぶ
第3回	ごみ処理の昔と今	明治時代の東京、大阪や中世のバリの廃棄物再生利用を学びリサイクルの価値観の変化について知識を得る。
第4回	廃棄物処理の法制度の基本	廃棄物処理法の仕組みと基本的な考え方について知識を得る。
第5回	廃棄物処理はみんなの責任	国民、事業者、自治体、国がそれぞれどのような法的責任を有しているかについて知識を得る。
第6回	一般廃棄物処理の体系	一般廃棄物処理と産業廃棄物処理との制度上の違いとその背景や実態などについて知識を得る。
第7回	産業廃棄物処理の体系	産業廃棄物処理の制度などについての知識を得る。
第8回	特別管理廃棄物の処理の考え方	PCB廃棄物などを具体例として特別管理廃棄物制度の意義や処理方法についての知識を得る。
第9回	廃棄物処理の技術の基本的原則	安定化、無害化、減量化という過去から現在まで継続して重要である基本的原則の背景や必要性を知る。
第10回	中間処理技術と最終処分技術、リサイクル技術	焼却などの中間処理技術、埋め立て技術、リサイクル技術など環境産業、環境技術の現状を学ぶ。
第11回	有害廃棄物処理技術レポートの課題	有害な特性を持つ物質の処理技術について学ぶ 授業内容全体の理解を深めて考える力をつけるためのレポートを出題する
第12回	災害環境研究の現状と見直し	東日本大震災を契機として行われている災害環境研究の現状と今後の見直しについて学ぶ
第13回	授業時間内小テストレポートの回収	授業内容の理解とそれらを踏まえた考察力の確認のために小テストを行う 第11回に出題されたレポートを提出/回収する

第14回 授業内容のまとめ レポートのフィードバック  
授業全体の内容をまとめるとともに、第13回に提出されたレポートについてフィードバックする

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。より効果的に講義が受講できるように、各自が住んでいる自治体で日常どのようなごみの分別・ごみ出しをすべきなのか、自治体のホームページや回覧板などで見ておく和良好的。新聞報道等でごみ処理やリサイクルなどの記事があったら注意深く読みなぜ記事のようなことが起きているのか考える訓練をしておく和良好的。

### 【テキスト（教科書）】

講義の際に資料を配布する。

### 【参考書】

環境・循環型社会・生物多様性白書  
「人間とごみ」カトリニス・ド・シルゲ著 新評論  
「明治日本のごみ対策」溝入茂著 リサイクル文化社  
「ごみ減量 全国自治体の挑戦」服部美佐子著 丸善

### 【成績評価の方法と基準】

参加姿勢、提出レポートの内容、小テストの結果により総合的に評価する。成績評価要素ごとの配分は小テスト40%、レポート45%、平常点15%とする。小テストは配布資料、ノート、参考書などの紙資料は何でも持ち込み自由だが、モバイルパソコン、スマートフォン、携帯電話などの情報機器の使用は認めない。

### 【学生の意見等からの気づき】

各講義時間の終了時に提出してもら出席票に書き込まれる各自のコメントや質問を次回の講義に反映できるようにし、双方向の講義の実施を図る。

### 【学生が準備すべき機器他】

携帯電話、スマホ等を含めたすべての情報機器について講義時間中の使用は認めない。

### 【その他の重要事項】

・小テストにおいては配布する資料やノートなどの持込を可とする。  
・旧科目名称「リサイクル論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。  
・講義内容は入れ替えがあり得ます。

### 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

### 【Outline and objectives】

To study and learn current status and future scope of the Waste Management and 3R Policies (Wastes Reduce, Reuse and Recycle) to think and/or establish ideas/ways to tackle with waste management/concerned problems which would be caused by the change of the life style due to aging society, ICT technology, and/or the change of the structure of the cities in future.

ART200HA

## 比較演劇論 I

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なもの」とは何か？ 比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。

## 【到達目標】

演劇の各ジャンルについて基本的な教養を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

基本用語の解説もしながら、東西のさまざまな演劇ジャンルを考察するので、非常に密度の濃い講義形式となります。比較考察の軸は、つねに日本の伝統芸能です。毎回学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明し、志望理由を簡潔に書いていただきます。選抜を行う可能性もあります。受講を希望する人は、必ず出席してください。
第2回	歌舞伎海外公演（1）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第3回	歌舞伎海外公演（2）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第4回	何も無い空間	能やギリシャ悲劇を対象に、観客の想像力について考えます。
第5回	歌舞伎舞台の大仕掛け	回り舞台、花道、せり、屋体くずしなど、歌舞伎舞台の仕掛けを学びます。
第6回	歌舞伎の音	歌舞伎の音楽、効果音、間について考えます。
第7回	歌舞伎のせりふ	聞かせどころのせりふを例として、歌舞伎のせりふの特徴を学びます。
第8回	歌舞伎と能の視覚効果	歌舞伎と能について、演技の型、舞台構造、衣裳 vs. 装束、化粧 vs. 面などの観点から、対照的に考察します。
第9回	古今東西の劇的葛藤と情感	論理性 vs. 感性という観点から、東西の伝統演劇を考察します。
第10回	日本人の主情性 一家庭悲劇のドラマツルギー（1）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。
第11回	日本人の主情性 一家庭悲劇のドラマツルギー（2）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。
第12回	歌舞伎と文楽	歌舞伎と文楽の『熊谷陣屋』を比較考察します。
第13回	総括	春学期の学習内容の復習。期末試験の予告。
第14回	期末試験（記述式）と復習	13回までの講義内容について、まとめと復習を行うとともに、理解度・知識定着度を確認します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。翌週の講義範囲については、必ず配布プリントの下読みをして参加してください。また、日頃から舞台芸術に親しむ姿勢が必要です。

## 【テキスト（教科書）】

プリント配布。加えてテキストを指定する場合、授業内で指示します。

## 【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 ー日本人の美意識ー』 TBS プリタニカ  
野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書  
青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

## 【成績評価の方法と基準】

【平常点】40%

参加態度（授業に関係のない私語などには厳しく対応します）。ジャーナル（毎回授業の最後にその日の講義内容について考えたことをその場で簡潔にまとめて提出していただきます）。

【期末試験】60%

参照不可の記述式試験です。

## 【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心もてて楽しかった」など、基本的に好評でした。

## 【学生が準備すべき機器他】

BT0309教室での授業です。

## 【その他の重要事項】

・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも舞台情報を提供します。  
・2011年度までに「比較演劇論」を修得済の場合、本科目は履修できません。  
・当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

We will compare and analyze Japanese theatres and theatres overseas without favour or partiality to savor underlying cultural backgrounds and aesthetics for each of them. What is theatre? What is tradition? What is originally from Japan? Discussing such topics from comparative perspectives, we can recognize our own identity and aesthetics. This could be the best part of learning other cultures.

ART300HA

## 比較演劇論Ⅱ

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なもの」とは何か？ 比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。

## 【到達目標】

春学期講義「比較演劇論Ⅰ」で学んだ理論的枠組みを土台に、さまざまな演劇作品・関連芸術への鑑賞眼を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

演劇各ジャンル・関連芸術の代表的な作品について鑑賞・討論・解説し、受講者の鑑賞眼を養います。毎回学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明します。
第2回	歌舞伎海外公演（3）	平成中村座海外公演について考察します。
第3回	劇場とは何か	芸能の「場」と観客の想像力について考察します。
第4回	スペクタクルの役割：歌舞伎を中心として	古典歌舞伎とスーパー歌舞伎のスペクタクルについて考察します。
第5回	ジャンル横断的考察（1）	能と歌舞伎：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第6回	ジャンル横断的考察（2）	文楽と歌舞伎：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第7回	ジャンル横断的考察（3）	歌舞伎と落語：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第8回	ジャンル横断的考察（4）	歌舞伎と映画：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第9回	翻案劇とは何か	明治期のシェイクスピア受容を初めとして、ジャンルとしての翻案劇のあり方を考察します。
第10回	東西の流血シーン	ヨーロッパの演劇と比較して、歌舞伎の「殺し場」の特徴を考えます。
第11回	歌舞伎の理想美	歌舞伎を軸として、演劇におけるリアリズムと様式表現について考えます。
第12回	演劇の季節感	歌舞伎の「芝居年中行事」について、代表的な作品を考察します。
第13回	伝統とは何か	東西の伝統演劇の比較考察のまとめ。期末試験の予告。
第14回	期末試験（記述式）と復習	13回までの講義内容について、まとめと復習を行うとともに、理解度・知識定着度・鑑賞力を確認します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。翌週の講義範囲については、必ず配布プリントの下読みをして参加してください。また、日頃から舞台芸術に親しむ姿勢が必要です。

## 【テキスト（教科書）】

プリント配布。加えてテキストを指定する場合、授業内で指示します。

## 【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 ー日本人の美意識ー』 TBS プリタニカ  
野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書  
青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

## 【成績評価の方法と基準】

【平常点】 40%

参加態度（授業に関係のない私語などには厳しく対応します）。  
ジャーナル（毎回授業の最後にその日の講義内容について考えたことをその場で簡潔にまとめて提出していただきます）。

【期末試験】 60%

参照不可の記述式試験です。

## 【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。ただし、学習の分量は多いので、2013年度以降の「比較演劇論Ⅱ」では、春学期の「比較演劇論Ⅰ」を受講していない学生の履修は一切認めていません。

## 【学生が準備すべき機器他】

BT0309教室での授業です。

## 【その他の重要事項】

・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも舞台情報を提供します。  
・2011年度までに「比較演劇論」を修得済の場合、本科目は履修できません。  
・春学期の「比較演劇論Ⅰ」を履修していない学生の履修は、一切認めません。  
・当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

We will compare and analyze Japanese theatres and theatres overseas without favour or partiality to savor underlying cultural backgrounds and aesthetics for each of them. What is theatre? What is tradition? What is originally from Japan? Discussing such topics from comparative perspectives, we can recognize our own identity and aesthetics. This could be the best part of learning other cultures.

MAN200HA

## ビジネスヒストリー

長谷川 直哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦前・戦後の日本経済の発展をリードした代表的な企業家の活動について説明します。過去から現在に至る企業および企業家活動の展開を振り返ることで、企業と社会の関係性や企業の社会的責任（CSR）の変遷について学びます。併せて、就職先企業の選定について役立つ情報・知識を提供します。

## 【到達目標】

現代企業の発展プロセスを理解し、企業が長年培ってきた強み・弱み、企業理念、CSRの取り組み等を理解する能力を高めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

毎回、わが国の代表的な企業や企業家のケースを取り上げて解説します。また、外部講師による特別講話を行う予定です。講義にはパワーポイントを使用し、必要に応じてDVD等を視聴します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション CASE1 高峰謙吉 [三共商店]	ビジネスヒストリーを学ぶ意義 第一三共株式会社
第2回	CASE2 豊田佐吉 [豊田自動織機製作所]	トヨタ自動車株式会社
第3回	鈴木道雄 [鈴木式織機株式会社]	スズキ株式会社
第4回	波多野鶴吉 [郡是製糸]	グンゼ株式会社
第5回	大原孫三郎 [倉敷紡績・倉敷絹織]	倉敷紡績株式会社 株式会社クラレ
第6回	武藤山治 [鐘淵紡績]	カネボウ株式会社
第7回	岡田良一郎 [大日本報徳社]	公益社団法人大日本報徳社
第8回	中島知久平 [中島飛行機]	株式会社 SUBARU (スバル)
第9回	伊庭貞号・鈴木馬左也 [住友財閥]	住友グループ
第10回	鳥井信治郎 [寿屋洋酒店]	サントリーホールディングス株式会社
第11回	小林三三 [阪急電鉄]	阪急阪神東宝グループ
第12回	石橋正二郎 [日本足袋]	株式会社ブリヂストン
第13回	樋口廣太郎 [アサヒビール]	アサヒグループホールディングス株式会社
第14回	稲盛和夫 (京都セラミック) 立石一真 [立石電機]	京セラ株式会社 オムロン株式会社

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。企業のホームページに掲載されている「企業の歴史」などをウォッチし、各企業が生き残りをかけてどのような取り組みを行ってきたのかを考えてみましょう。

## 【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

## 【参考書】

長谷川直哉編著『不連続社会と向き合った企業家の光と陰』文真堂、2019年  
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史: CSR 経営の先駆者に学ぶ』文真堂、2016年  
長谷川直哉編著『企業家活動でたどる日本の金融事業史』文真堂、2013年  
長谷川直哉著『スズキを創った男-鈴木道雄』三重大学出版会、2005年

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 : 90%

リアクションペーパー : 10%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを中心に、分かりやすい講義を行います。

## 【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

## 【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財)国際金融情報センターに出身し、カントリーリスクや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

## 【関連資格】

証券アナリスト検定会員（CMA）

## 【Outline and objectives】

This lecture will explain the activities of representative entrepreneurs who lead the development of the Japanese economy ranging from the Meiji era to the present age. By looking back on the developments of companies and entrepreneurial activities from the past to the present, we will learn about the relationship between companies and society and the transition of corporate social responsibility (CSR). In addition, I will explain information, knowledge and method useful for company research.

SOC200HA

## ファシリテーション論

鈴木 まり子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が何か目的をもって集ったとき、お互いの違いを厄介な問題としてではなく、新たな創造のための豊かさとして活かすには、皆が安心して参加できる場づくりが必要です。人は自ら関わっていく中で、他人事だった課題も自分事となり、主体性を発揮し始めます。この授業では、様々な課題が山積みの現代において、会議やワークショップや組織変革の現場で、対話を育み共創や協働を促進する参加型の場づくりのためのコミュニケーション技法「ファシリテーション」を取り上げます。

## 【到達目標】

この授業では、会議、ワークショップなど参加型の場におけるファシリテーションに対する知識と手法を身につけることを目的とします。ファシリテーションの定義や効果が理解でき、会議、ワークショップ、話し合いを有意義に進めることができるスキルを理解したうえで、実践できるようになります。また、演習を通して、対話や議論のスキルを身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習とミニレポートで構成します。授業ですから、解説や質問に対する解答の時間もあります。演習では、授業で学んだファシリテーションの手法を実践して学びを深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ワークショップとファシリテーション	オリエンテーション（授業の進め方） 【講義】参加型の場が求められる背景。 ワークショップとファシリテーションとは。【演習】チェックイン
2	参加型の場をつくる3つの必須条件①事前準備のポイント「場づくり」	【講義】場づくり・場づくりの基本や空間のデザインについて。 【演習】場づくり体験
3	参加型の場をつくる3つの必須条件②事前準備のポイント「プログラム」	【講義】プログラムデザインとプロセスについて。【演習】広げる手法・収束する手法
4	参加型の場をつくる3つの必須条件③事前準備のポイント「ファシリテーター」	【講義】ファシリテーターについて。 【事例紹介】ファシリテーターの実践事例の紹介
5	ファシリテーターに求められる技術①オリエンテーション	【講義】オリエンテーションの OARR とは。【演習】アウトカムを考えるワーク
6	ファシリテーターに求められる技術②アイスブレイク	【講義】アイスブレイクとは。【演習】アイスブレイクの体験
7	ファシリテーターに求められる技術③傾聴と問いかけとグループサイズ	【講義】ファシリテーションにおける傾聴と問いかけとグループサイズとは。【演習】質問会議
8	ファシリテーターに求められる技術④グラフィックとタイムキープ	【講義】グラフィックとタイムキープとは。【演習】ファシリテーショングラフィック
9	プログラムデザイン①プログラムデザインの手法を学ぶ	【講義】プログラムデザインとは【演習】プログラムデザインを考えるワーク①
10	プログラムデザイン②ワークショップを企画する	【演習】プログラムデザインを考えるワーク② グループに分かれてワークショップのテーマを話し合う
11	プログラムデザイン③ワークショップのプログラムをデザインする	【演習】プログラムデザインを考えるワーク③ 時間配分や役割を話し合って決める
12	ワークショップの実践	【演習】プログラムデザインをもとに実際にワークショップを実施
13	ファシリテーターとして持続可能な社会を実現する	【ゲストの講義】ファシリテーションを環境分野等で活かしている事例をゲストから学ぶ
14	対話の手法（授業を振り返る）	【講義】対話と議論の違いとは【演習】ワールドカフェ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

今、現在、身近にある話し合い（サークル、ゼミなど）や参加したワークショップは、どのような場になっているか意識してきてください（楽しい、有意義、つまらないなど）

## 【テキスト（教科書）】

「ファシリテーション～実践から学ぶスキルとこころ」 共著鈴木まり子他 岩波書店。

## 【参考書】

「ワークショップ」中野民夫 新しい学びと創造の場 岩波書店（岩波新書）  
「ファシリテーション革命」中野民夫 岩波アクティブ新書「チームビルディング」堀公俊他 日本経済新聞出版社「ワークショップ入門」ロバート・チェンバース 明石書店「ワールドカフェ」カフェの会話が未来を創る～: アニータ ブラウン / デイビッド アイザックス ヒューマンバリュー

## 【成績評価の方法と基準】

演習への参加度とレポートによって総合的に評価します。前者は、態度だけではなく、振り返りシートに意見・感想を記入してもらい、これも評価対象とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

就職活動やファシリテーターという職業に関して、もう少し具体的にイメージしたいという意見があったので、キャリアデザインという視点で、具体的な活動分野などを紹介していきます。

## 【その他の重要事項】

◎演習を中心とした授業です。履修希望者が多い場合は、第1回授業に出席した人を優先する可能性がありますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください。

◎受講希望者が多数となった場合は、受講者数を限定する可能性があるため、初回授業には必ず参加すること。

◎RSP生は、本科目は履修不可。火曜2限のファシリテーション論を受講すること。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

鈴木まり子ファシリテーター事務所代表。企業・自治体・NPO等において、会議、ワークショップ等のファシリテーターの実務経験あり。それに関連して、多様な分野の事例をもとに、ファシリテーションに対して具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

## 【Outline and objectives】

Today, where various issues are piled up, when people gather for the purpose of solving the problem, we need to consider place-making where everyone can participate safely and comfortably in order to respect the differences between each other and make use of it as the wealth for new idea and creation.as people are involved in themselves, the issues that are other people's affairs become their own things, and people start to demonstrate their initiative.in this course, we will learn the "facilitation," as communication skills and mind for creating participatory place-making which can encourage dialogue and promote collaboration at conferences, workshops and organizational development process.

SOC200HA

## ファシリテーション論

鈴木 まり子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が何か目的をもって集ったとき、お互いの違いを厄介な問題としてではなく、新たな創造のための豊かさとして活かすには、皆が安心して参加できる場づくりが必要です。人は自ら関わっていく中で、他人事だった課題も自分事となり、主体性を発揮し始めます。この授業では、様々な課題が山積みの現代において、会議やワークショップや組織変革の現場で、対話を育み共創や協働を促進する参加型の場づくりのためのコミュニケーション技法「ファシリテーション」を取り上げます。

## 【到達目標】

この授業では、会議、ワークショップなど参加型の場におけるファシリテーションに対する知識と手法を身につけることを目的とします。ファシリテーションの定義や効果が理解でき、会議、ワークショップ、話し合いを有意義に進めることができるスキルを理解したうえで、実践できるようになります。また、演習を通して、対話や議論のスキルを身につけることができます。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義と演習とミニレポートで構成します。授業ですから、解説や質問に対する解答の時間もあります。演習では、授業で学んだファシリテーションの手法を実践して学びを深めます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ワークショップとファシリテーション	オリエンテーション（授業の進め方） 【講義】参加型の場が求められる背景。 ワークショップとファシリテーションとは。【演習】チェックイン
2	参加型の場をつくる3つの必須条件①事前準備のポイント「場づくり」	【講義】場づくり・場づくりの基本や空間のデザインについて。 【演習】場づくり体験
3	参加型の場をつくる3つの必須条件②事前準備のポイント「プログラム」	【講義】プログラムデザインとプロセスについて。【演習】広げる手法・収束する手法
4	参加型の場をつくる3つの必須条件③事前準備のポイント「ファシリテーター」	【講義】ファシリテーターについて。 【事例紹介】ファシリテーターの実践事例の紹介
5	ファシリテーターに求められる技術①オリエンテーション	【講義】オリエンテーションのOARRとは。【演習】アウトカムを考えるワーク
6	ファシリテーターに求められる技術②アイスブレイク	【講義】アイスブレイクとは。【演習】アイスブレイクの体験
7	ファシリテーターに求められる技術③傾聴と問いかけとグループサイズ	【講義】ファシリテーションにおける傾聴と問いかけとグループサイズとは。【演習】質問会議
8	ファシリテーターに求められる技術④グラフィックとタイムキープ	【講義】グラフィックとタイムキープとは。【演習】ファシリテーショングラフィック
9	プログラムデザイン①プログラムデザインの手法を学ぶ	【講義】プログラムデザインとは【演習】プログラムデザインを考えるワーク①
10	プログラムデザイン②ワークショップを企画する	【演習】プログラムデザインを考えるワーク② グループに分かれてワークショップのテーマを話し合う
11	プログラムデザイン③ワークショップのプログラムをデザインする	【演習】プログラムデザインを考えるワーク③ 時間配分や役割を話し合って決める
12	ワークショップの実践	【演習】プログラムデザインをもとに実際にワークショップを実施
13	ファシリテーターとして持続可能な社会を実現する	【ゲストの講義】ファシリテーションを環境分野等で活かしている事例をゲストから学ぶ
14	対話の手法（授業を振り返る）	【講義】対話と議論の違いとは【演習】ワールドカフェ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

今、現在、身近にある話し合い（サークル、ゼミなど）や参加したワークショップは、どのような場になっているか意識してきてください（楽しい、有意義、つまらないなど）

## 【テキスト（教科書）】

「ファシリテーション～実践から学ぶスキルとこころ」 共著鈴木まり子他 岩波書店。

## 【参考書】

「ワークショップ」中野民夫 新しい学びと創造の場 岩波書店（岩波新書）  
「ファシリテーション革命」中野民夫 岩波アクティブ新書「チームビルディング」堀公俊他 日本経済新聞出版社「ワークショップ入門」ロバート・チェンバース 明石書店「ワールドカフェ」カフェ的会話が未来を創る～: アニータ ブラウン / デイビッド アイザックス ヒューマンバリュー

## 【成績評価の方法と基準】

演習への参加度とレポートによって総合的に評価します。前者は、態度だけではなく、振り返りシートに意見・感想を記入してもらい、これも評価対象とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

就職活動やファシリテーターという職業に関して、もう少し具体的にイメージしたいという意見があったので、キャリアデザインという視点で、具体的な活動分野などを紹介していきます。

## 【その他の重要事項】

◎演習を中心とした授業です。履修希望者が多い場合は、第1回授業に出席した人を優先する可能性がありますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください。

◎受講希望者が多数となった場合は、受講者数を限定する可能性があるため、初回授業には必ず参加すること。

◎上記の通り受講者数を限定する際には、社会人学生（含むRSP生）を優先的に受け入れる。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

鈴木まり子ファシリテーター事務所代表。企業・自治体・NPO等において、会議、ワークショップ等のファシリテーターの実務経験あり。それに関連して、多様な分野の事例をもとに、ファシリテーションに対して具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

## 【Outline and objectives】

Today, where various issues are piled up, when people gather for the purpose of solving the problem, we need to consider place-making where everyone can participate safely and comfortably in order to respect the differences between each other and make use of it as the wealth for new idea and creation.as people are involved in themselves, the issues that are other people's affairs become their own things, and people start to demonstrate their initiative.in this course, we will learn the "facilitation," as communication skills and mind for creating participatory place-making which can encourage dialogue and promote collaboration at conferences, workshops and organizational development process.

OTR200HA

## フィールドスタディ

## 人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外のさまざまな「現場（フィールド）」を訪問し、人間環境学部での多様な学びに関連するテーマについて、直接的に触れ、実習を行う。社会との交流・連携を重視する当学部カリキュラムの特色を体現する教育プログラムであり、課題解決型学習（PBL）のひとつでもある。

## 【到達目標】

教室での講義や文献から学んだ事柄を、「現場」における実体験を通じて検証し、当該フィールドにおけるトピックス、テーマに関する知識を習得するとともに、人間環境学部で学ぶ自らの問題意識を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

各コースでは、実施テーマに応じて事前学習を行う。それに基づいて現地での観測・観察や調査、施設での実習などを行う。現地学習終了後は事後の学習や報告会などを行う。各コースの構成はそれぞれ異なるので、掲示に注意すること。また「履修の手引き」も参照すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	事前オリエンテーション	フィールドスタディの概略。
第2回～	事前講義	各コースに関連する事項、参加にあたっての注意事項等。
第4回		
第5回～	現地実習・観察	現地に赴き、観察や調査、施設での実習などを行う。実習の日数や宿泊の有無はコースによって異なる。合計4日間の実習が原則であるが、国内遠距離地域や海外でのフィールドスタディの場合には1週間から10日前後に及ぶこともある。
第10回		
第11回	事後講義	現地体験の総括講義、報告会等。
～第13回		
第14回	レポート提出	与えられたテーマについてレポートを作成し、提出する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

## 【テキスト（教科書）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

## 【参考書】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし

## 【その他の重要事項】

参加確定後はやむを得ない事情がない限りキャンセルを認めない。  
参加には交通機関や宿泊施設など別途費用がかかるので、注意すること。自己都合でキャンセルした場合には、原則として費用は返還されない。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This is a combination of lectures and off-campus visit for deepening knowledge and experiences related to sustainability issues in reality. Students are expected to learn sustainability issue deeply, to interrelate class-room knowledge with reality in the ground, and to strengthen their motivations to study further.

SOC200HA

## フィールド調査論

## 西城戸 誠

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査に限らず、「調べる」ことは私たちが日常的に行って営みであり、物事を多様な方法で知ることは、個人にとっても社会にとっても重要なことである。本講義では、社会調査に関わる基本的な知識、技術を習得することによって、「調べる」ことの重要性、社会科学の基本的な考え方、量的調査・質的調査の方法論、調査倫理を学ぶ。仮説の設定、調査票の作成、リサーチデザインの作成については受講者を個別に指導する。さらに方法論の観点から実証研究を評価する視点を学び、現代の社会について主体的に考察する方法を講義する。

## 【到達目標】

さまざまな社会調査の基本的な知識、技術について修得することが授業の到達目標である。社会科学の基本的な考え方、社会調査や調査倫理といったリサーチリテラシーに加えて、メディアリテラシーの基礎も学習し、現代の社会について主体的に考察する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

社会調査に関する知識、技法についての講義が中心であるが、受講者のグループワークまたは個人的な作業も同時に実施する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会調査とは何か（1）社会調査の概要	本講義の内容についてのガイダンスと、受講者の選抜等を実施する。また、社会調査とは何か、その歴史的展開と学ぶ意義を講義する。
第2回	社会調査とは何か（2）問題関心と「問い」	社会調査における問題関心と「問い」の作り方について講義する。
第3回	社会調査とは何か（3）社会調査のための情報収集	社会調査を企画・設計するための既存資料へのアクセス法と活用術について説明する。
第4回	社会科学の方法の基礎（1）-「説明」「記述」について講義する。	社会調査における「記述」と「説明」について講義する。
第5回	社会科学の方法の基礎（2）-「因果関係」「仮説」などについて講義する。	「概念」、「変数」、「因果関係」、「仮説」などについて講義する。
第6回	量的調査入門（1）-サンプリングの原理	サンプリングの考え方、原理について講義する。
第7回	量的調査入門（2）-量的調査の一連の流れを学ぶ	調査の企画・設計と調査票作成のプロセスを説明する。
第8回	量的調査入門（3）-仮説から調査票を作成する	仮説の設定と、概念の操作化を経て調査票を作成するプロセスを学ぶ
第9回	量的調査入門（4）-ワーディングと調査票作成	ワーディングを学び、調査票を具体的に作成する。
第10回	フィールドワーク入門（1）-質的調査の概要	フィールドワークの発展とデータ収集の手法について講義する。
第11回	フィールドワーク入門（2）-インタビューの技法	インタビューの種類と実践について講義する。
第12回	フィールドワーク入門（3）-質的データの整理	参与観察法とアクション・リサーチについて講義する。
第13回	フィールドワーク入門（4）-質的調査の実践から方法を学ぶ	質的調査の具体例から、質的調査の方法を実践的に学ぶ。
第14回	2つの調査方法論の比較	量的、質的調査の相違点を整理する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義内容に関する復習を行い、次回の講義内容に備えること。また、課題に対してグループワークまたは個人的な作業を求める。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布  
佐久間充, 1984, 『ああダンブ街道』岩波新書。

## 【参考書】

宮内泰介, 2004, 『自分で調べる技術』岩波アクティブ新書。  
高根正昭, 1979, 『創造の方法学』講談社現代新書。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、講義中の課題提出（30%）、最終レポートの提出（50%）

**【学生の意見等からの気づき】**

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、講義内容の分量が多く、話し方が早口になってしまいう点も、内容を厳選することで可能な限り対処したい。

**【学生が準備すべき機器他】**

場合によっては PC を用いることがある。その際には事前に貸し出しをしておくか、自前で準備しておくこと。

**【その他の重要事項】**

本講義の定員は 30 名である。受講希望者は第 1 回目の講義で決定する。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This lecture offers the basic methodology of quantitative survey and qualitative survey. This lecture also deals with the research ethics and how to create the research design.

SOC200HA

**フィールド調査論**

廣本 由香

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

社会調査とは何かを学び、調査に必要な知識や技法を身につける。

**【到達目標】**

講義の目標は社会調査の基本的性格や知識、技法を身につけることである。社会調査の考え方や調査計画、調査法、調査倫理を学び、調査・研究を遂行させるリサーチリテラシーを高め、社会のなかにある問題や問いについて考察する力をつける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

この講義ではレジュメを使った講義形式を中心に進めるが、グループワークまたは個人作業も同時に実施する。そのため特別な事情を除いて欠席しないことが受講条件となる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	講義のガイダンス	自己紹介（他己紹介）、講義のねらいと進め方、成績評価について説明する。（受講希望者が定員数を超えた場合は選抜等を実施）
第2回	社会調査とは何か（1） 社会調査の基礎的知識	社会調査の定義、社会調査を学ぶ意義、社会調査の歴史的展開、リサーチリテラシーについて解説する。
第3回	社会調査とは何か（2） 文献・資料調査	書籍や論文の探し方、統計データの探し方、新聞記事・インターネット記事の活用方法を解説する。
第4回	社会調査とは何か（3） 問いのつくり方	社会調査における問題関心と問いのつくり方を説明する。課題にたいして、グループワークのなかで問いをつくり、「調べる」方法について検討する。
第5回	社会調査とは何か（4） 社会調査の基礎	社会調査における「記述」と「説明」、「概念」、「仮説」を解説する。
第6回	調査方法論の概説（1） 量的調査法	調査票調査の方法、種類、プロセスにかんする基本的解説をする。
第7回	調査方法論の概説（2） 質的調査法	質的調査の基本的知識、働き、留意点を説明する。インタビュー調査、参与観察法、ドキュメント分析にかんする基本的解説をする。
第8回	フィールドワーク入門 （1）フィールドワークとは何か	フィールドワークの意義や必要性、データの収集方法、調査倫理を解説する。
第9回	フィールドワーク入門 （2）インタビュー調査の技法	インタビューの種類や方法、メリット・デメリット、注意点について解説する。「聞き書き」による研究事例を紹介する。
第10回	フィールドワーク入門 （3）参与観察法	参与観察法の考え方や技法、調査の特質を解説する。参与観察法を用いた研究事例やテレビ番組を紹介する。
第11回	インタビュー調査（1） 設計	インタビュー調査のプロセス（調査デザイン・実査・分析・報告）を解説する。グループワークをとおして調査設計を立て、検討する。
第12回	インタビュー調査（2） 実査	受講生同士でインタビュー調査を実査し、グループワークで方法や内容を検討する。
第13回	インタビュー調査（3） データの整理・分析	インタビュー調査で得られたデータの整理と分析法を解説する。グループワークないし個人作業をとおして分析の仕方を検討する。
第14回	インタビュー調査（4） 報告 講義の総括	調査報告について解説する。フィールド調査の意義と調査者の倫理を中心に講義の総括をおこない、最終レポートの課題内容について説明する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。次回の講義にそなえて講義内容の復習をおこなうこと。また、講義内でグループワークや個人作業をおこなうので、グループあるいは個人で課題にたいする準備を進めてもらう。

**【テキスト（教科書）】**

特定のテキストは用いらない。

**【参考書】**

石川淳志・佐藤健二・山田一成編、1998、『見えないものを見る力——社会調査という認識』八千代出版。  
大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編、2013、『新・社会調査へのアプローチ——論理と方法』ミネルヴァ書房。  
宮内泰介、2004、『自分で調べる技術』岩波アクティブ新書。  
桜井厚、2002、『インタビューの社会学——ライフストーリーの聞き方』せりか書房。

**【成績評価の方法と基準】**

講義内の課題提出（40％）、最終レポート（60％）。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

講義でPCを用いることがあるため、その際は各自で用意しておくこと。

**【その他の重要事項】**

受講者数に制限があるため、希望者が定員を超えた場合は選抜等をおこないます。講義内でグループワークを実施するため、特別な事情を除いて欠席しないことが受講条件です。また、初回の講義で関連する課題図書を1冊紹介するので、受講者は入手して読んでおくようにしてください。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

This lecture learns about social research, and acquires the knowledge and techniques required for investigation.

SOC200MA

**文化経営論**

荒川 裕子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

21世紀の成熟社会においては、「文化」が重要なファクターとなっています。ここで言う文化には、美術や音楽や演劇といった芸術文化はもとより、日常生活文化や伝統文化、映画やアニメ、ファッションなどの若者文化やポピュラー文化、さらには街並みや景観まで含まれます。それらを文化的「資源」ととらえ、まちづくりやひとづくり、あるいは文化産業をはじめとするビジネスなどに活用していくための「マネジメント」のあり方を考えます。

**【到達目標】**

文化のしくみを知り、文化に働きかけ、新しい文化を創生していくために、「文化をマネジメントする」という視点を養います。より具体的には、以下のふたつの面からアプローチします。まず、日本の文化政策、自治体の文化行政、文化予算やファンドレイジングなど、文化を取り巻くさまざまな制度について理解します。続いて、文化産業、企業メセナ、文化関連のNPOなど、文化を推進したり支援している多様な実践的活動について、その現状と課題、今後の可能性などを探ります。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

各回ごとにトピックを設定し、ビジュアル資料や文献資料を用いて具体的な事例を紹介しながら授業を進めます。一方的な講義に終始することなく、学生自身が実際に文化の現場に出かけ、そのマネジメントのありようを分析してプレゼンテーションをしたり、文化に関わるイベント等の企画立案を試みたりします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり/Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明する。
第2回	日本の文化政策①	明治から昭和初期までの文化政策の歩みをたどる。
第3回	日本の文化政策②	第二次世界大戦から戦後の文化政策の転換までを概観する。
第4回	日本の文化政策③	高度経済成長期の文化政策の特徴を探る。
第5回	日本の文化政策④	今日の文化政策の動向を概観する。
第6回	文化と法	「文化芸術振興基本法」をはじめ、文化を支える法的基盤について学ぶ。
第7回	文化と経済①	文化を支える予算やファンドレイズについて理解する。
第8回	文化と経済②	文化産業／創造産業について事例をもとに考察する。
第9回	企業による文化支援	企業メセナを中心に企業と文化の関係を探る。
第10回	市民社会と文化①	「創造都市」という考えを中心に文化と社会の関わりを考える。
第11回	市民社会と文化②	まちづくり・地域活性化の観点から文化にアプローチする。
第12回	文化のマネジメント①	学生によるプレゼンテーションと質疑応答
第13回	文化のマネジメント②	学生によるプレゼンテーションと質疑応答
第14回	まとめと振り返り	授業を通じて学んだことをもとに、文化をマネジメントするための方法や今後の可能性について考える。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

博物館や美術館、劇場などの文化施設、まちづくりのための各種プロジェクト、企業や自治体が開催するイベントなど、文化に関わる現場に実際に足を運び、そのマネジメントについてフィールド調査を行うことが求められます（その際、若干の入場料等が発生する可能性があります）。また、文化関連の企画立案や、そのプレゼンテーションのための準備の時間を必要とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは特に指定ませんが、授業中にほぼ毎回プリント資料を配布します。

**【参考書】**

授業中に適宜、参考図書および参考ウェブサイトを提示します。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加度（課題の成果、プレゼンテーション／ディスカッションへの参加など）：50％

期末試験（論述式）：50％

## 【学生の意見等からの気づき】

知的発見が非常に多い授業との評価をいただいておりますが、ともすれば受け身の講義になってしまうため、学生の積極的な参画を促すべく、プレゼンテーションやディスカッションの機会を確実に設けていきたいと思っております。

## 【その他の重要事項】

春学期開講の「アート・マネジメント論（社会とアートⅠ）」も併せて履修することが望ましい。

## 【Outline and objectives】

"Culture" is an important factor in the mature society of the 21st century. Culture here includes not only art such as fine arts, music and theater but also youth culture and popular culture such as movies, animation, fashion, and even cityscapes and landscapes. We consider them as "cultural resources" and try to make use of them for business development, such as town planning, human resource development and cultural industry.

POL200HA

## 平和学

植村 充

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 6/Fri.6

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

安住の地を求めて移動する難民、混迷を極める内戦、頻発するテロ事件などのニュースに私たちは日常的に触れています。越境的に生じるこれらの諸問題を解決するには、事象の正確な把握とその分析が不可欠です。本講義においては、平和学がこれまでに積み重ねてきた知に触れ、これらの問題に対するアプローチを探ります。これによって国際社会に生じる問題に主体的に取り組む姿勢を身につけます。

## 【到達目標】

第1に、平和学の誕生から現在までの変遷、その特徴、他学問領域との関連、そして平和学における諸論点を横断的に理解します。また国際社会を構成する各主体（アクター）の特徴と関係性について理解します。第2に、それらの知識を活用して、紛争、平和構築、難民、多文化共生社会、といった具体的な課題に取り組む主体と手法の多様性を主体的に考察できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を採ります。適宜グループワークを用いるので学生間での積極的な意見の交換を求めます。

また毎回、簡単な小テストとリアクションペーパーを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：平和学とは何か	平和学誕生の背景、その特徴、現代社会における役割と課題を概説する。特に「平和」とはどのような状態を指すのか、平和学が対象とする課題はなにかを理解する。
第2回	紛争と平和研究 (1)	主権国家体制の成立から現代にいたるまでの暴力発生様態の変容を理解する。従来、暴力の主な発生要因といえば国家間の戦争であったが、現代はより要因が多様化している点を理解する。
第3回	紛争と平和研究 (2)	崩壊国家と内戦の様相を植民地主義の歴史と各地域の事例を踏まえて概説する。
第4回	人道支援・人道的介入・平和構築 (1)	国家の崩壊や諸々の内戦に対して国際社会が用いてきたアプローチを理解し、具体的な事例からその問題点と展望を理解する。第4回は人道支援・人道的介入を考える。
第5回	人道支援・人道的介入・平和構築 (2)	内戦の終結した国にとって次なる課題は平和状態をいかに構築し、維持するかということである。第5回は国家建設をはじめとする平和構築のアプローチを考える。
第6回	国連と平和	国際平和を希求する目的をもって誕生した国連の平和に関する取り組みと現代的課題を理解する。
第7回	市民・NGO と平和	従来より平和研究における主要なアクターとして市民や NGO 活動の重要性が指摘されてきた。国境を越えた彼らの連帯と国際平和への関りについて理解する。
第8回	地域共同体と平和	国際社会を形成するアクターとして地域共同体の役割と性質を理解する。特にアフリカ連合 (AU) や欧州連合 (EU)、ASEAN を取り上げ近隣の紛争や難民危機についていかに対処してきたかを理解する。
第9回	差別・排除の克服と平和	世界では社会の分断をおおるような差別や排除が日々行われ、時に深刻な暴力的状況を生み出されている。ここでは差別・排除の生じる要因を理解し、解決への取り組みを考える。
第10回	グローバルな経済格差と開発援助	戦争の不在だけでは平和とは言えない。ここでは発展途上国と先進国間にある経済格差に注目し、「積極的平和」などの概念も踏まえ、現在の課題と国際社会のアプローチを理解する。

- 第 11 回 人の移動と平和研究 (1) 現代社会において、人の移動は重要なトピックとなっている。ここでは特に世界各地で生じる難民問題について、難民発生のメカニズムを理解し、日本そして国際社会がいかに難民問題に対応してきたかを理解する。
- 第 12 回 人の移動と平和研究 (2) 難民に限らず、世界には多様な理由で越境を行う人々がいる。日本でいえば技能実習生の問題など、脆弱性を持つ移動する人々の権利保障に焦点をあてる。
- 第 13 回 平和研究の日本的文脈 (1) 核軍縮や日米安全保障条約の変容を理解し、日本を取り巻く国際社会の様相について考察する。
- 第 14 回 平和研究の日本的文脈 (2) 日本国憲法の平和主義や戦後賠償問題を巡る学術界の議論を踏まえ、主体的に日本に関わる問題の理解を深める。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習を適宜すること。また本講義で取り上げる国際社会における諸課題には、普段のニュースや他講義でも触れることがあると思います。主体的な取り組みのためにも、アンテナを張って積極的に知識を吸収してください。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義の際に、毎回資料を配布します。

#### 【参考書】

日本平和学会編 (2018) 『平和をめぐる 14 の論点 - 平和研究が問いつけること -』法律文化社  
 児玉克哉・佐藤安信・中西久枝 (2004) 『初めて出会う平和学 - 未来はここからはじまる -』有斐閣アルマ  
 吉田康彦編 (2005) 『21世紀の平和学【第2版】』明石書店

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%) と毎回の小テスト (20%) およびアクションペーパー (10%) による。

#### 【学生の意見等からの気づき】

担当者変更のため特になし。

#### 【その他の重要事項】

講義ではスライドを利用します。関連資料は、授業支援システムに掲載します。

#### 【関連の深いコース】

履修の手引き (P100. 「7 コース制」) を参照してください。

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

#### 【Outline and objectives】

We always come in contact with the news such as refugee issues, civil wars and terrorism. In order to solve these cross-border problems, it is essential for us to understand these incidents precisely and analyze them critically. In this course, we study the knowledge which has been accumulated in the field of peace studies, and research the methodological approach to these issues. By so doing, students acquire a positive attitude to work on the problems in international society.

MAN100FA-A4024

## 簿記入門 I (2016 年度以降入学者)

大下 勇二

配当年次/単位：2~4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。

#### 【到達目標】

簿記入門 I/II では日商簿記 3 級程度を共通の目標としているが、このクラスでは、特に 2 年次以上の学生向けに 3 級程度の簿記の基礎を習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

授業では、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し、それに基づいて簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを目標に、具体的には、複式簿記の原理、帳簿記録の方法、決算の概要、決算書の作成方法を、テキストに従い、板書講義、パワー・ポイントのスライドによる解説および記帳・計算演習をおこなって習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】

##### I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	簿記の意義としくみ (1)	簿記の意義と基礎について解説します。
第 2 回	簿記の意義としくみ (2)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産 (資本) について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法について学びます。
第 3 回	簿記の意義としくみ (3)	損益計算書の構成要素である収益・費用について解説し、損益法による損益計算の方法を学びます。
第 4 回	仕訳と転記 (1)	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第 5 回	仕訳と転記 (2)	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第 6 回	仕訳と転記 (3)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。
第 7 回	仕訳帳と元帳 (1)	帳簿組織の種類と役割、複式簿記の原理に基づいて、仕訳帳への記入練習を行います。
第 8 回	仕訳帳と元帳 (2)	勘定記入仕訳帳から総勘定元帳への転記について学習します。
第 9 回	仕訳帳と元帳 (3)	取引から仕訳、その勘定口座への転記の作業を習得します。
第 10 回	決算 (1)	試算表の作成 合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の特徴と役割を理解し、その作り方を学習します。
第 11 回	決算 (2)	決算の意味と手続き、精算表の仕組み、6 桁精算表の作り方を中心に決算手続きを学習します。
第 12 回	決算 (3)	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成、損益計算書および貸借対照表の作成を中心に決算手続きの最後までを学習します。
第 13 回	決算 (4)	精算表の作成、帳簿の締切り、損益計算書・貸借対照表の作成に関する練習問題に取り組みます。
第 14 回	現金と預金	現金・預金の記帳 現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金、小口現金を学習します。

##### II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	繰越商品・仕入・売上 (1)	3 分法、分記法、仕入帳と売上帳を中心に商品売上の記帳を練習します。
第 2 回	繰越商品・仕入・売上 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを理解します。

第 3 回	売掛金と買掛金	掛取引の記帳 売掛金と買掛金、人名勘定、売掛金元帳と買掛金元帳の処理を練習します。
第 4 回	その他の債権と債務	貸付金・借入金、未収金・未払金、立替金・預り金、仮払金・借入金、商品券の各勘定の役割と記入方法を練習します。
第 5 回	受取手形と支払手形	手形の種類、約束手形の仕組みと処理、手形の裏書と売却の処理を学びます。
第 6 回	有価証券	有価証券の処理、有価証券の利息と配当金の処理を学習します。
第 7 回	固定資産 (1)	固定資産の取得、減価償却について学習します。
第 8 回	固定資産 (2)	減価償却費の計算と記帳方法、固定資産の売却の処理について学習します。
第 9 回	貸倒損失と貸倒引当金、 資本金と引出金	貸倒れの処理と資本金の処理を学習します。
第 10 回	収益と費用 (1)	収益と費用、費用・収益の繰延べと見越しの処理を学習します。
第 11 回	収益と費用 (2)	費用・収益の繰延べと見越し、消耗品の処理を学習します。
第 12 回	伝票	伝票を用いた記入方法を学習します。
第 13 回	財務諸表 (1)	決算手続きと決算整理の処理を学習します。
第 14 回	財務諸表 (2)	決算整理から 8 桁精算表および財務諸表の作成を学習します。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ずテキストを事前に読んでおき、例題を解いておくことが求められます。また、毎授業の最後に、「仕訳トレーニング」という問題プリントを配布しますので、次回までに解答しておくことが必要です。

#### 【テキスト（教科書）】

渡部・片山・北村『検定簿記講義 3 級』（最新版）中央経済社。  
『検定簿記ワークブック 3 級』（最新版）中央経済社。

#### 【参考書】

最初の授業で指示する予定です。

#### 【成績評価の方法と基準】

基本的には、春学期・秋学期の定期試験（100%）により評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

仕訳トレーニングの問題を毎回学生に解答してもらい、授業内容の理解度を確認しながら、授業を進めて行きます。

#### 【その他の重要事項】

【関連科目】

この講義は、2 年次の会計学入門 I/II、3・4 年次の財務会計論 I/II、税務会計論 I/II、国際会計論 I/II、監査論 I/II、原価計算論 I/II、管理会計論 I/II、経営分析 I/II、経営分析 III/IV、経営分析論 I/II、企業経営論 I/II など会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。

【その他注意事項】

簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。

#### 【Outline and objectives】

The objective of this subject is to understand the book-keeping of an introductory level.

MAN100FA-A4037

## 簿記入門 I・II（2015 年度以前入学者）

大下 勇二

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：水 1/Wed.1

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。

#### 【到達目標】

簿記入門 I/II では日商簿記 3 級程度を共通の目標としているが、このクラスでは、特に 2 年次以上の学生向けに 3 級程度の簿記の基礎を習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

授業では、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し、それに基づいて簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを目標に、具体的には、複式簿記の原理、帳簿記録の方法、決算の概要、決算書の作成方法を、テキストに従い、板書講義、パワー・ポイントのスライドによる解説および記帳・計算演習をおこなって習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】

##### I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	簿記の意義としくみ (1)	簿記の意義と基礎について解説します。
第 2 回	簿記の意義としくみ (2)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産（資本）について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法について学びます。
第 3 回	簿記の意義としくみ (3)	損益計算書の構成要素である収益・費用について解説し、損益法による損益計算の方法を学びます。
第 4 回	仕訳と転記 (1)	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第 5 回	仕訳と転記 (2)	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第 6 回	仕訳と転記 (3)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。
第 7 回	仕訳帳と元帳 (1)	帳簿組織の種類と役割、複式簿記の原理に基づいて、仕訳帳への記入練習を行います。
第 8 回	仕訳帳と元帳 (2)	勘定記入仕訳帳から総勘定元帳への転記について学習します。
第 9 回	仕訳帳と元帳 (3)	取引から仕訳、その勘定口座への転記の作業を習得します。
第 10 回	決算 (1)	試算表の作成 合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の特徴と役割を理解し、その作り方を学習します。
第 11 回	決算 (2)	決算の意味と手続き、精算表の仕組み、6 桁精算表の作り方を中心に決算手続きを学習します。
第 12 回	決算 (3)	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成、損益計算書および貸借対照表の作成を中心に決算手続きの最後までを学習します。
第 13 回	決算 (4)	精算表の作成、帳簿の締切り、損益計算書・貸借対照表の作成に関する練習問題に取り組みます。
第 14 回	現金と預金	現金・預金の記帳 現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金、小口現金を学習します。

##### II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	繰越商品・仕入・売上 (1)	3 分法、分記法、仕入帳と売上帳を中心に商品売買の記帳を練習します。
第 2 回	繰越商品・仕入・売上 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを理解します。

第 3 回	売掛金と買掛金	掛取引の記帳 売掛金と買掛金、人名勘定、売掛金元帳と買掛金元帳の処理を練習します。
第 4 回	その他の債権と債務	貸付金・借入金、未収金・未払金、立替金・預り金、仮払金・借入金、商品券の各勘定の役割と記入方法を練習します。
第 5 回	受取手形と支払手形	手形の種類、約束手形の仕組みと処理、手形の裏書と売却の処理を学びます。
第 6 回	有価証券	有価証券の処理、有価証券の利息と配当金の処理を学習します。
第 7 回	固定資産 (1)	固定資産の取得、減価償却について学習します。
第 8 回	固定資産 (2)	減価償却費の計算と記帳方法、固定資産の売却の処理について学習します。
第 9 回	貸倒損失と貸倒引当金、 資本金と引出金	貸倒れの処理と資本金の処理を学習します。
第 10 回	収益と費用 (1)	収益と費用、費用・収益の繰延べと見越しの処理を学習します。
第 11 回	収益と費用 (2)	費用・収益の繰延べと見越し、消耗品の処理を学習します。
第 12 回	伝票	伝票を用いた記入方法を学習します。
第 13 回	財務諸表 (1)	決算手続きと決算整理の処理を学習します。
第 14 回	財務諸表 (2)	決算整理から 8 桁精算表および財務諸表の作成を学習します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ずテキストを事前に読んでおき、例題を解いておくことが求められます。また、毎授業の最後に、「仕訳トレーニング」という問題プリントを配布しますので、次回までに解答しておくことが必要です。

## 【テキスト（教科書）】

渡部・片山・北村『検定簿記講義 3 級』（最新版）中央経済社。  
『検定簿記ワークブック 3 級』（最新版）中央経済社。

## 【参考書】

最初の授業で指示する予定です。

## 【成績評価の方法と基準】

基本的には、春学期・秋学期の定期試験（100%）により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

仕訳トレーニングの問題を毎回学生に解答してもらい、授業内容の理解度を確認しながら、授業を進めて行きます。

## 【その他の重要事項】

【関連科目】

この講義は、2 年次の会計学入門 I/II、3・4 年次の財務会計論 I/II、税務会計論 I/II、国際会計論 I/II、監査論 I/II、原価計算論 I/II、管理会計論 I/II、経営分析 I/II、経営分析 III/IV、経営分析論 I/II、企業経営論 I/II など会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。

【その他注意事項】

簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。

## 【Outline and objectives】

The objective of this subject is to understand the book-keeping of an introductory level.

MAN100FA-A4025

## 簿記入門Ⅱ（2016 年度以降入学者）

大下 勇二

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。

## 【到達目標】

簿記入門Ⅰ/Ⅱでは日商簿記 3 級程度を共通の目標としているが、このクラスでは、特に 2 年次以上の学生向けに 3 級程度の簿記の基礎を習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

授業では、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し、それに基づいて簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを目標に、具体的には、複式簿記の原理、帳簿記録の方法、決算の概要、決算書の作成方法を、テキストに従い、板書講義、パワー・ポイントのスライドによる解説および記帳・計算演習をおこなって習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

## Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	簿記の意義としくみ (1)	簿記の意義と基礎について解説します。
第 2 回	簿記の意義としくみ (2)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産（資本）について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法について学びます。
第 3 回	簿記の意義としくみ (3)	損益計算書の構成要素である収益・費用について解説し、損益法による損益計算の方法を学びます。
第 4 回	仕訳と転記 (1)	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第 5 回	仕訳と転記 (2)	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第 6 回	仕訳と転記 (3)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。
第 7 回	仕訳帳と元帳 (1)	帳簿組織の種類と役割、複式簿記の原理に基づいて、仕訳帳への記入練習を行います。
第 8 回	仕訳帳と元帳 (2)	勘定記入仕訳帳から総勘定元帳への転記について学習します。
第 9 回	仕訳帳と元帳 (3)	取引から仕訳、その勘定口座への転記の作業を習得します。
第 10 回	決算 (1)	試算表の作成 合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の特徴と役割を理解し、その作り方を学習します。
第 11 回	決算 (2)	決算の意味と手続き、精算表の仕組み、6 桁精算表の作り方を中心に決算手続きを学習します。
第 12 回	決算 (3)	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成、損益計算書および貸借対照表の作成を中心に決算手続きの最後までを学習します。
第 13 回	決算 (4)	精算表の作成、帳簿の締切り、損益計算書・貸借対照表の作成に関する練習問題に取り組みます。
第 14 回	現金と預金	現金・預金の記帳 現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金、小口現金を学習します。

## Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	繰越商品・仕入・売上 (1)	3 分法、分記法、仕入帳と売上帳を中心に商品売買の記帳を練習します。
第 2 回	繰越商品・仕入・売上 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを理解します。

第 3 回	売掛金と買掛金	掛取引の記帳 売掛金と買掛金、人名勘定、売掛金元帳と買掛金元帳の処理を練習します。
第 4 回	その他の債権と債務	貸付金・借入金、未収金・未払金、立替金・預り金、仮払金・借入金、商品券の各勘定の役割と記入方法を練習します。
第 5 回	受取手形と支払手形	手形の種類、約束手形の仕組みと処理、手形の裏書と売却の処理を学びます。
第 6 回	有価証券	有価証券の処理、有価証券の利息と配当金の処理を学習します。
第 7 回	固定資産 (1)	固定資産の取得、減価償却について学習します。
第 8 回	固定資産 (2)	減価償却費の計算と記帳方法、固定資産の売却の処理について学習します。
第 9 回	貸倒損失と貸倒引当金、 資本金と引出金	貸倒れの処理と資本金の処理を学習します。
第 10 回	収益と費用 (1)	収益と費用、費用・収益の繰延べと見越しの処理を学習します。
第 11 回	収益と費用 (2)	費用・収益の繰延べと見越し、消耗品の処理を学習します。
第 12 回	伝票	伝票を用いた記入方法を学習します。
第 13 回	財務諸表 (1)	決算手続きと決算整理の処理を学習します。
第 14 回	財務諸表 (2)	決算整理から 8 桁精算表および財務諸表の作成を学習します。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ずテキストを事前に読んでおき、例題を解いておくことが求められます。また、毎授業の最後に、「仕訳トレーニング」という問題プリントを配布しますので、次回までに解答しておくことが必要です。

#### 【テキスト（教科書）】

渡部・片山・北村『検定 簿記講義 3 級』（最新版）中央経済社。  
『検定 簿記ワークブック 3 級』（最新版）中央経済社。

#### 【参考書】

最初の授業で指示する予定です。

#### 【成績評価の方法と基準】

基本的には、春学期・秋学期の定期試験（100%）により評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

仕訳トレーニングの問題を毎回学生に解答してもらい、授業内容の理解度を確認しながら、授業を進めていきます。

#### 【その他の重要事項】

【関連科目】

この講義は、2 年次の会計学入門 I/II、3・4 年次の財務会計論 I/II、税務会計論 I/II、国際会計論 I/II、監査論 I/II、原価計算論 I/II、管理会計論 I/II、経営分析 I/II、経営分析 III/IV、経営分析論 I/II、企業経営論 I/II など会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。

【その他注意事項】

簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。

#### 【Outline and objectives】

The objective of this subject is to understand the book-keeping of an introductory level.

ECN200HA

## マクロ経済学 I

今 喜史

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済は、たとえば 30 年前と比較してどれほど豊かになっているのか？そして現在から 30 年後には、私たちの暮らしはどれほど豊かになるのだろうか？マクロ経済学 I では、経済の「豊かさ」を計測する方法について理解を深め、数十年という長期的な視野からとらえた場合に経済成長のペースを左右する要因は何かを議論する。とくに、現在の日本で課題となっている財政赤字と少子高齢化に着目し、経済学の観点からどのような政策対応が望まれるのかを考察する。

#### 【到達目標】

- ①日本の直面するマクロ経済問題を自分の言葉で説明することができること
- ②統計データを的確に使用する意義を理解すること
- ③経済の持続可能性のために何が必要かを論じることができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。不定期で、小テストを兼ねたリアクションペーパーを配布し、講義時間内に回答していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロ経済学への導入	社会科学としてのマクロ経済学の分析手法について理解する
第 2 回	豊かさを測る経済指標	国民経済計算（SNA）の概要を学ぶ
第 3 回	歴史の中の日本経済	国内総生産（GDP）の推移をデータから確認する
第 4 回	GDP が見落としているもの	環境への負荷や健康状態など、統計で金銭評価されにくい「豊かさ」を把握する方法について議論する
第 5 回	財政とマクロ経済	政府のマクロ経済政策が必要とされる理由を考える
第 6 回	財政支出と景気	政府支出の増加が景気を改善するメカニズムを理解する
第 7 回	乗数効果への反論	政府支出の副作用を考える
第 8 回	財政の持続可能性	日本の国債残高の現状を学び、今後の対策を議論する
第 9 回	経済成長の理論	先進国が長期的な経済成長を実現できた理由を考える
第 10 回	資本蓄積と技術革新	経済成長のメカニズムを理論的に考察する
第 11 回	人的資本	少子高齢化や教育の普及が経済成長を左右することを理解する
第 12 回	環境と天然資源	経済成長と天然資源の関係を議論する
第 13 回	経済成長と所得分配	豊かな国ほど不平等が拡大する傾向があるのか議論する
第 14 回	まとめと期末試験	講義全体を総括し、期末試験を行う

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回の講義ノートや配布資料の内容をよく復習してから、次の回の講義に出席してください。

#### 【テキスト（教科書）】

なし

#### 【参考書】

大瀧雅之『アカデミックナビ 経済学』勁草書房、2018 年。  
福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第 5 版）』有斐閣、2016 年。  
平口良司・稲葉大『マクロ経済学』有斐閣、2015 年。

#### 【成績評価の方法と基準】

講義の第 14 回目に行う期末試験（100%）により評価します。また、不定期に行うリアクションペーパーに回答して提出した場合、ボーナス得点として期末試験の得点に加算します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

#### 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

#### 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This course provides a concise introduction to the macroeconomic issues, especially taking account of modern Japanese economy. Topics covered are following: How to measure the wealth of nations? What determines the long-run economic growth of nations? Why should we care about the government debt? Students are asked to form their opinion based on rigorous theoretical foundations and relevant empirical studies.

ECN200HA

## マクロ経済学Ⅱ

今 喜史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本銀行の行う金融緩和政策は、マクロ経済にどのような影響を及ぼすのだろうか？ 貿易や国際資本移動など外国との経済取引まで考慮した場合、日本の金融政策の有効性はどのように変化するのだろうか？ マクロ経済学Ⅱでは、金融政策の効果について賛否両論が存在することを学び、それぞれの主張の妥当性を統計データによって検証する。インフレ目標をはじめとする新たな金融緩和の手段が、広く国民の生活を改善することにつながるのかを議論する。

## 【到達目標】

- ①現代の社会について主体的に考察し、金融政策の是非をめぐる論点を理解すること
- ②統計データを的確に使用し、事実に基づいた議論ができること
- ③国際的な観点から、日本のマクロ経済の課題を位置づけられるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。不定期で、小テストを兼ねたリアクションペーパーを配布し、講義時間内に回答していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	マクロ経済と金融政策をめぐる論点を整理する
第2回	世界の中の日本経済	日本の国内総生産（GDP）を諸外国と比較する
第3回	景気変動の読み方	GDPの寄与度分解という手法を理解する
第4回	金融市場の基礎	資産や利子率など、金融の基本概念を学ぶ
第5回	利子率の決定と投資	均衡利子率の決定メカニズムを理解する
第6回	日本銀行と貨幣供給	準備預金制度の概要を学び、貨幣量の統計データを確認する
第7回	伝統的な金融政策	伝統的な金融緩和政策の意図と効果を理解する
第8回	非伝統的な金融緩和政策	量的緩和やマイナス金利など、日本銀行が採用した新たな政策手段の意図と効果を理解する
第9回	インフレ・デフレと貨幣	政府が「デフレからの脱却」を政策目標として掲げることを考える
第10回	国際金融と為替レート	外国為替市場のしくみを理解する
第11回	為替レートの決定理論	金利裁定の理論を学び、為替レートの決定要因を理解する
第12回	円安と貿易収支	為替レートの変化と国際収支の関係を議論する
第13回	諸外国の国際金融政策	中国やヨーロッパの通貨制度を日本と比較する
第14回	まとめと期末試験	講義全体を総括し、期末試験を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回の講義ノートや配布資料の内容をよく復習してから、次の回の講義に出席してください。

## 【テキスト（教科書）】

なし

## 【参考書】

大瀧雅之『アカデミックナビ 経済学』勁草書房、2018年。  
 福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第5版）』有斐閣、2016年。  
 平口良司・稲葉大『マクロ経済学』有斐閣、2015年。

## 【成績評価の方法と基準】

講義の第14回目に行う期末試験（100%）により評価します。また、不定期に行うリアクションペーパーに回答して提出した場合、ボーナス得点として期末試験の得点に加算します。

## 【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの回数を増やし、学生から寄せられた質問などへの回答をする時間を講義の中で積極的に設けます。

## 【その他の重要事項】

同じ担当者による春学期「マクロ経済学 I」とは独立した内容で講義を行います。また、「マクロ経済学 I」も併せて履修することで理解が深まると思います。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Macroeconomics II gives students a thorough introduction to monetary policy issues. Starting from the basic concepts of monetary economics, we overview both the proponents and opponents of the current monetary policy conducted by the Bank of Japan. We also study some international macroeconomic policies, including the effectiveness of monetary policy under the flexible exchange rate regimes, capital controls, and currency unions.

ECN200HA

## ミクロ経済学 I

芦田 登代

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個々の経済主体の意思決定が、市場や制度を通してどのような影響をもたらしているのかを体系的に理解することが、講義の目的である。利己的な経済行動を前提としても、ある理想的な条件のもとでは、それが社会の構成員全体の利益にバランスよく分配され、結果的に平和で民主的な社会の形成とかわかりがあることを理解する。さらにその上で、現代の社会を主体的に考察することを通じ市場経済の限界を深く考える。

## 【到達目標】

市場における代表的な意思決定者である消費者と企業の経済行動を理解し、需要曲線と供給曲線が導かれることを学ぶ。また、それが、現実の経済問題に対して果たしている役割を理解することで、家計・企業・政府が、どのような行動基準に基づいた行動をとっているのか、それぞれの最適な選択を理解することが目的である。経済学を初めて学ぶ人を対象に、ミクロ経済学の基本を、分かりやすく解説したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義中心で進めますが、基礎的な事項が理解できているかどうか確認するために、練習問題を解いていただき、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	この授業の概要や進め方の説明、人間環境学部としてのミクロ経済学を学ぶ意義についての解説
第 2 回	経済学の十大原理	経済学の基盤となる考え方の整理
第 3 回	経済政策	科学的判断における相違・価値観の相違・認識と現実
第 4 回	相互依存と貿易からの利益	比較優位の理論
第 5 回	市場機能（市場における需要と供給の作用）	競争市場、需要曲線と供給曲線
第 6 回	市場機能（弾力性）	需要の弾力性、供給の弾力性
第 7 回	市場機能（需要・供給および政府の政策）	価格規制、税金
第 8 回	復習	経済学の概念、市場機能の復習
第 9 回	市場と厚生（効率性）	消費者余剰、生産者余剰、市場の効率性
第 10 回	公共部門（外部性）	市場の失敗
第 11 回	公共部門（公共財と共有資源）	様々な種類の財、フリーライダー問題、共有地の悲劇
第 12 回	公共部門（税制の設計）	税と効率、税と公平、効率と公平のトレードオフ
第 13 回	復習	市場と厚生・公共部門の復習
第 14 回	授業のまとめ	市場の働きと限界を考える

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

## 【テキスト（教科書）】

N. グレゴリー・マンキュー (2013) 『マンキュー経済学：ミクロ編【第 3 版】』東洋経済新報社

## 【参考書】

大瀧雅之 (2018) 『アカデミックナビ 経済学』勁草書房

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験で評価する (100%)

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

特になし

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This class provides an introduction to microeconomic theory. The purpose of this class is to foster the economic reasoning by understanding the market mechanism and the principles behind it. Furthermore, we aim to think about the real situation from an economic point of view, and also to acquire the fundamental skill required to solve the environmental issues.

ECN200HA

## ミクロ経済学Ⅱ

芦田 登代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場における代表的な意思決定者である消費者と企業の経済行動を理解し、それが現実の経済問題に果たしている役割の理解を深める。本講では企業理論や労働市場を中心に解説し、身近な出来事や、政治・経済の動向をもとに経済の仕組みを理解できるように授業を進める。

## 【到達目標】

ミクロ経済学Ⅰでの学習に引き続き、ミクロ経済学の基礎を学ぶ。利己的な経済行動を前提としても、ある理想的な条件のもとでは、それが社会の構成員全体の利益にバランスよく分配され、結果的に平和で民主的な社会の形成とかわかりがあることを理解する。さらにその上で、現代社会を主体的に考察することを通じ市場経済の限界を深く考える。日本の経済の取り巻く問題や身近な出来事を経済学の考え方に基づいて理解し、説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義中心で進めますが、基礎的な事項が理解できているかどうか確認するために、練習問題を解いていただき、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の概要や進め方の説明、人間環境学部としてのミクロ経済学を学ぶ意義についての解説
第2回	ミクロ経済学Ⅰの復習 1	市場機能
第3回	ミクロ経済学Ⅰの復習 2	公共部門の経済学
第4回	企業行動と産業組織（生産の費用）	費用とは何か
第5回	企業行動と産業組織（競争市場における企業）	競争の意味、利潤最大化と競争企業の供給曲線
第6回	企業行動と産業組織（独占・独占的競争）	独占が生じる理由と弊害
第7回	企業行動と産業組織（寡占）	寡占とは何か
第8回	復習	企業行動と産業組織
第9回	ゲーム理論と制度設計	ゲーム理論とは何か
第10回	労働市場の経済学（生産要素市場）	企業の労働需要、労働供給、労働市場の均衡
第11回	労働市場の経済学（勤労所得と差別）	均衡賃金に関する決定要因
第12回	労働市場の経済学（所得不平等と貧困）	不平等の尺度、所得再分配に関する政治哲学、貧困を減らすための政策
第13回	復習	労働市場の経済学
第14回	授業のまとめ	身近な問題と経済学との関係を考える

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

## 【テキスト（教科書）】

N. グレゴリー・マンキュー (2013) 『マンキュー経済学：ミクロ編【第3版】』東洋経済新報社  
その他、資料を配布する

## 【参考書】

大瀧雅之 (2018) 『アカデミックナビ 経済学』勁草書房

## 【成績評価の方法と基準】

期末テストで評価する（100%）

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100. 「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This class provides an introduction to microeconomic theory. The purpose of this class is to foster the economic reasoning by understanding the market mechanism and the principles behind it. Furthermore, we aim to think about the real situation from an economic point of view, and also to acquire the fundamental skill required to solve the environmental issues.

LAW200HA

## 民事法 I

## 花立 文子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ:市民間の法律問題について、解決するための考え方や基礎知識の習得目的・意義:市民間の契約においてトラブルが生じた場合に、当事者の話し合いで解決をはかることになるが、話し合いがうまくいかず第三者の仲裁や裁判で解決をはかることもある。このような場合の解決基準となるものとして民法という法律が規定されている。市民間のトラブルにおいて、民法の他、各種の法律がどのように役割を果たしているかを、社会における問題点とともに勉強する。その勉強を通じて、実践的に日常生活上のリスクを回避することに役立てたい。また、トラブルが生じたときには、法的思考により論理的に他者に説明することのできる力を要することから、法律的な考え方で問題を考えたい。

## 【到達目標】

到達目標: 市民間の取り引きやトラブル等を解決するための法制度や基礎知識を習得する。さらに、法律問題について、自ら問題点を調べ法知識を用いて解決する能力及び法的な考え方の習得をめざす。さらには、問題解決に際して説得力ある主張ができるように、文章による表現力を身につけたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業（講義形式）

授業の方法

- (1) テーマごとに具体的な問題を通じて、法律条文や、裁判例についての基本的な事項を理解し、さらに市民間の法律問題の解決の仕方を考える。また問題の背景となる社会問題についても考える。さらに、授業の終わりに、リアクションペーパーを配布し、法律問題について考察したこと、また質問や感想等を書いていただく。
- (2) 授業では、六法を用いる。六法の見方、調べ方、条文の探し方や読み方なども勉強する。
- (3) 授業では、適宜レジュメや資料を配布しそれに沿って授業を進める。
- (4) 話題となっているテーマを取り上げたり、関心の強いテーマを掘り下げたり、進捗を確認することから、シラバスの進行と異なることもあることをお断りしておく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 民事法上の問題と司法制度	授業の進め方や六法、成績評価について説明する。 その後、民事法とは何か、一般的な法律上のトラブルにどのような法律がかかわってくるかを概観する。
第 2 回	トラブルの解決基準となる法体系	問題解決に向け、どのように手続が進められるか、裁判制度（民事）の全体像をみる。民事法、行政法、刑事法にもふれ、法の体系を概観する。
第 3 回	契約とは	最も生活に密着する契約とは何か。契約はいつどこでどのようにして成立するか。契約が成立したときの契約責任を概観する。
第 4 回	人が民法上権利主体となる時期	民法上権利義務の主体となるのはだれか、いつ主体となるか等をみる。また、人の出生に関わる問題も、社会問題とあわせてみる。
第 5 回	人の権利義務消滅時期	民法上、人が有する権利義務が消滅する死亡について、社会の認識や科学の進歩によってその捉え方が変化していること、臓器移植等現代的な問題を含めて、人の死亡と法律との関係を概観する。
第 6 回	人の死亡と法律効果	民法上、主体として有する権利義務が消滅するのはいつかをみる（死亡・認定死亡）。また、行方不明になった人の権利義務の行方についてもみる。
第 7 回	代理制度について	契約を通して権利を取得したいとしても、自ら契約を締結できない場合がある。このような場合にそなえた代理制度についてみる。
第 8 回	取引における条件と取引期間について	取引において生じる権利義務と時間との関係はどうなっているかをみる（条件・期間・時効）

第 9 回	制限行為能力制度	未成年者等、契約締結に際して単独で契約を締結できない場合について考える。
第 10 回	取引上の権利の確保方法①	権利を確保するための方法として、物の価値を利用する場合がある。その内容がどのようなものかを扱う。
第 11 回	取引上の権利の確保方法②	権利を確保するための方法として、保証、担保物権等がある。それらの方法を概観する。
第 12 回	契約において代理人が契約を締結し法律の効力を発生させる場合	病気等で必ずしも本人が契約を締結できない場合もある。その場合のために代理制度が規定されている。この制度を概観する。
第 13 回	夫婦の問題	法律上、夫婦とはどのようにして成立するのか、各々どのような義務を負うのか等、夫婦に関する問題をみる。また死亡した場合に、その財産がどのようになるのか、相続問題を考える
第 14 回	まとめとテスト	これまでの勉強を振り返り、全体の確信度をテストする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃からニュースに接したり、機会があるときには幅広い年代の方々と話をしましょう。そのことが、法律問題を想像したり、考える基礎力になります。

## 【テキスト（教科書）】

六法（コンパクト六法、デイリー六法等）

## 【参考書】

参考書を指定しない。授業の際に必要なに応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、最終確認テスト 60 % で評価する。平常点は、リアクションペーパーに毎回法律問題についての考察、また疑問に思った点の検討、及び質問事項を記述し、また適宜課題を出しレポートを提出してもらうことで、授業への取組度を評価する（40 %）。最終確認テストでは、授業での法律問題の理解度を評価する（60 %）。平常点と最終確認テストで総合評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業で取り上げる法律問題について、これまでの生活体験から想像し、自ら考えられるようになると、日常生活に応用できそうに感じられ、興味を持ってもらえる。しかし、自分の立場に置き換えられず、身近に感じられないと関心が低くなるようである。また関心がもてると、難易度の高い問題でも取り組む意欲がわき、なかでも文章力が格段に上がるようである。授業の目標は、問題を客観的にみて論理的に整理し、そして説明できる力を習得すること、と考えている。この習得のために、身近な問題を中心に、関連問題にもふれつつ、関心が途切れないよう工夫を重ねたい。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100. 「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This course is an introduction of the civil law.

LAW200HA

## 民法Ⅱ

## 花立 文子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、市民間を規律する民法と関連法について勉強します。市民社会においては個人が取引を通じて生活を成り立たせています。そこには誤解や思ったような取引でなかったなどトラブルも生じます。トラブルを最小限にするためには、法律制度や法律知識が必要となります。そこで、具体的な市民間の法律問題を取り上げ、それに関する法律、各種の法制度全体を理解し、法律知識の習得をめざします。

## 【到達目標】

市民間の取り引きやトラブル等に対応するために、まず民法及び関連法の全体像を理解します。さらに、具体的なトラブルの法律問題を見つけ、関連法律を使って妥当な解決を見いだすために、自ら問題を法的に考え解決する力を習得します。

授業では、契約を中心に市民間の法律問題を考える。そして、具体的な問題を通して、自ら考えて解決できる力を養う。内容は、民法に規定されている制度と契約法および不法行為法についてみるとともに、関連する法律問題をみる。その過程で、法律の役割、法律的な考え方を習得していきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。項目ごとにレジュメを配布し、六法を読みながら授業を進めます。また、授業の終わりに考察したことについてリアクションペーパーを提出していただく。なお、適宜話題となっているテーマを取り上げたり、社会問題を検討すること場合がある。そのため授業の進捗が、シラバスと異なることもあることをお断りしておく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 民法法の体系、法体系の概観	まず、授業の進め方、六法、成績評価等について説明する。 次に、民法法の授業での対象、民法法とは何か、民法法の中の民法について、民法の基本原則を取り上げる。また日常行われる契約について概観する。
第2回	制限行為能力が契約を解消できる場合	判断能力が不十分な場合の契約について考える。
第3回	心裡留保、通謀虚偽表示について	贈与契約および売買契約を無効にできる場合として、民法93条の心裡留保、94条の通謀虚偽表示について考える。
第4回	錯誤無効、詐欺強迫について	契約を錯誤により無効にできる場合(95条)、詐欺強迫にあい取消できる場合(96条)を考える。
第5回	裁判例を読む	これまでの法律知識と関連する裁判例を読み、法律適用の具体例をみる。
第6回	契約の解除について	賃貸借を通じて、解除と解約告知についてみる。
第7回	クーリングオフ制度について	特定商取引法等をみながら、悪質商法等の社会における問題点を考える。
第8回	消費貸借契約について	クレジットカードの仕組みを通じて、金銭消費貸借契約と利息について考える。
第9回	労働契約について	現代の多様な労働形態と、雇用契約、請負契約、および労働法の体系をみる。
第10回	和解契約について	自転車走行中の事故に関する事件を通じて示談することの意味を考え、和解契約と不法行為責任について概観する。
第11回	委任契約について	具体的な近隣問題に関する判例を通して、法が近隣問題にどうかかわるのかを考え、委任契約についても検討する。
第12回	忘れられる権利について	インターネット上の契約の成立時期、SNSの諸問題、知的財産権について考える。
第13回	家族と法について	家族について考える。親族、夫婦、親子について、法律上どのように規定しているかをみて、家族について考える。
第14回	まとめと理解度テスト	これまでの理解度をはかるテストを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。レジュメをもとに授業内容をよく整理し、疑問点を調べ理解につとめること。また日頃からニュースに接し、どのような法律問題が生じているかを考え、疑問点を意識して授業に臨みたい。

## 【テキスト（教科書）】

六法

## 【参考書】

適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（適宜課題を出しレポートを提出してもらう。また、毎回リアクションペーパーを配布し法律問題について考察したことを記述していただき、取組度をみる）(40%)、および最後に行なわれる確認テスト(60%)で総合評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業で取り上げる法律問題について、これまでの生活体験から想像し考えられると、日常生活に応用できそうに感じられ、興味を持ってもらえる。しかし、自分の立場に置き換えられず、身近に感じられないと関心も理解も低くなるようである。また、関心がもてると、難易度の高い問題でも、真剣に取り組めるようである。授業の目標の一つは、問題を客観的にみて論理的に整理し、そして説明できる力を習得すること、と考えている。この習得のために、身近な問題を中心に、関連問題にもふれつつ、関心が途切れないよう工夫を重ねたい。また、リスク管理の重要性についても考えられるような内容にしたいと考えている。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

This course is an advanced study of the civil law.

HIS300HA

## ヨーロッパ環境史論 I

## 辻 英史

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、中世から現代までのヨーロッパ各国の都市における生活世界と周囲の自然環境の変化を、空間利用、食糧供給、保養、衛生など、さまざまな角度から考察する。これにより、ヨーロッパの地理的歴史的な条件のなかでの人々の生活の展開や意識の成り立ちをさぐるとともに、人間社会と環境の共生がいかに達成されてきたのかを理解する。

## 【到達目標】

ヨーロッパの都市の歴史的発展を、そこに暮らす人々の生活世界がどのように時代によって変化してきたか、また人間と自然環境との関係はどのように変化してきたかを考察することで、ヨーロッパだけでなく日本を含む世界の他地域の都市社会の歴史や文化的独自性について考察を広げる視座を提供する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本講義では、中世から現代までのヨーロッパの都市を対象として、都市の景観および都市内部での住民の生活世界、それを取り巻く自然環境との関係について、各地域で特徴のある事象をいくつかとりあげて解説していく。

毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような図像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれの問題に関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品をとりあげて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論：ヨーロッパ都市の環境史について	環境という観点からヨーロッパ都市の歴史を考える際に重要な概念・方法論を紹介する。
第 2 回	古代都市から中世都市へ	古代都市から中世都市への変化と、中世都市独特の景観について。
第 3 回	近世絶対主義のもとでの都市の造形	近世になると強大な権力を手にした君主は、都市空間の造形に取り組んだ。それが都市の生活にもたらした影響を分析する。
第 4 回	近代都市の出現と都市計画	近代都市の特徴と、各国でおこなわれた国家権力の主導する大規模な都市改造／拡大の事業について
第 5 回	都市の拡大と交通	道路、鉄道、河川交通など、都市の内部および都市と近郊を結ぶ交通の発展と都市の人口規模の増大
第 6 回	都市と食料供給	人口が密集する都市に食糧を供給するという問題はいかにして対処されたのか。ヨーロッパの食の歴史の中に位置づける。
第 7 回	都市における水と衛生問題	上水道・下水道など、人びとの生活に欠かせない水との関わりと、衛生と清潔さの歴史。
第 8 回	都市と自然・災害	都市の外部に広がる自然のとらえ方は近世から近代にかけてどのように変化したか。災害への見方を例に考える。
第 9 回	都市と緑	都市内の公園・緑地の役割の変化を追う。住民の保養・休養から、教養と学習、政治活動の場まで。
第 10 回	20 世紀の都市問題	20 世紀前半から後半にかけて、都市社会の機能変化と、景観および生活空間の変化を関連づける。
第 11 回	田園都市と郊外の開発	20 世紀初頭から各国で都市郊外でのニュータウン建設の試みが始まった。その課題と問題点をあきらかにする。
第 12 回	20 世紀後半の都市改造	第二次世界大戦後の都市では、戦災からの復興や自動車化と消費社会化などの新しい傾向への対応として、どのような対策がおこなわれたのか。
第 13 回	現代における都市の再生	1980 年代ごろから、都市内部および郊外ニュータウンの衰退が問題となってきた。これに対する再生の試みを紹介する。
第 14 回	まとめ：日本とヨーロッパの都市社会と環境	ヨーロッパの都市社会の発展の過程と日本のそれとを比較検討する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。  
授業の進度に応じて、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。

## 【テキスト（教科書）】

毎回レジュメを配布する。

## 【参考書】

授業中に適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験（100％）による。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるので、見やすい位置を選んで着席すること。

## 【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。  
・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論 I）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

History of daily life and environment in European cities from the middle ages to the 20th century

HIS300HA

## ヨーロッパ環境史論Ⅱ

## 辻 英史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「弱者」の包摂と排除の社会史

## 【到達目標】

社会のなかには、さまざまな人たちの「弱者」がいる。病気・貧困・高齢・障害・失業などの理由により、通常の生活を送ることができず、時には自力で生計を維持できなくなった人々である。社会的「弱者」は、往々にして社会の周縁に追いやられ、差別や迫害を受ける場合もある。しかし、同時に彼らに保護し救助の手をさしのべることは、時代と地域を問わず、つねに社会の大きな関心事であった。「弱者」とはどのような人たちで、なぜ排除されるのか、また誰がどのような手段で彼らを救助するのか、そのあり方は、それぞれの社会状況を反映して、時代とともに大きく変化してきた。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本講義では、ヨーロッパ社会において、こうした「弱者」の社会からの排除と、その救助を通じた包摂が、どのようにおこなわれてきたのか、中世のキリスト教会による慈善活動から現代の社会福祉制度にいたるまで検証してみたい。

毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような図像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれのトピックに関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品をとりあげて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入 「弱者」の社会史について。	いま、社会的な「弱者」を問題にするものの意義について。
第2回	キリスト教精神と道徳	キリスト教道徳が、慈善というかたちでいかに社会のなかでセイフティーネットの役割を果たしていたか。
第3回	中世における排除のあり方	乞食、ジプシー、「ライ病患者」、ユダヤ人など中世社会から排除された人々の姿を紹介する。
第4回	中近世の包摂の制度	救貧法や貧民救済制度を例に、救助と一体となった規律化の試みについて考える。
第5回	産業革命による社会の変化	18-19世紀の工業化は社会の秩序を揺るがし、それまでの排除と包摂のあり方を一変させた。
第6回	弱者の団結	新たに出現した工業労働者たちは、その弱い立場のゆえに団結し、やがてマルクス主義の影響下に自らを組織化していく。
第7回	近代市民社会と包摂の制度	都市内の弱者の包摂に、市民社会はどのような制度を持って取り組んだか。
第8回	社会福祉制度の始まりと発展	19世紀後半から国民国家の強化を背景に国家が主導して国民の生活を保障する制度が構築されていく。
第9回	総力戦と福祉国家	第1次世界大戦、世界大恐慌、第2次世界大戦とつづく非常事態は、各国の社会福祉制度の発展にどのような影響を与えたか。
第10回	福祉国家と黄金時代	1950年代後半から1960年代の高度経済成長下で、ヨーロッパ各国の社会福祉制度はその最盛期を迎える。
第11回	社会主義という可能性	ソ連など社会主義経済のもとでの社会保障のあり方を考える。
第12回	福祉国家の動揺と再編	1970年代以来、景気の停滞を受けて各国は産業構造の変化への対応と貧困の克服のための新しい取り組みを開始した。
第13回	新自由主義と「新しい中道」	1990年代半ばから2000年代に架けて試みられた社会民主主義の新展開を分析する。
第14回	多文化社会における排除と包摂	複雑な社会問題を生じさせている外国人移民とホスト社会の葛藤について。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

授業の進度に応じて、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。

## 【テキスト（教科書）】

レジュメを配布する。

## 【参考書】

上記のほか、授業中に適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験（100％）。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せる。

## 【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。  
・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

History of social work and social welfare in Europe from the middle ages to the contemporary period

LAW300HA

## 労働環境法

水野 圭子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

電通自殺事件に象徴されるように、労働の場において、労働時間、休憩、休暇といった労働条件によって形成される労働環境は極めて重要な問題を提起しています。このような労働者の健康、安全衛生、労働災害といった従来からの問題だけではなく、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、マタニティハラスメントなど人格権侵害への対策、少子高齢化社会を念頭に置いたワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境、障害を持つ労働者に対する合理的配慮など様々な新しい問題にも労働環境といった観点から考察することが求められています。このような労働環境を形成する法律と判例について基本的な知識と理解を習得することを目的とします。

## 【到達目標】

1. 「労働環境法」とかかわりのある労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解する。
2. 「労働環境法」と関わりのある労働法上の基本的な法規制および重要な判例についての基本的な問題（ビジネス実務法務検定）を解答できるようになる。
3. その次の段階として、「労働環境法」と関わりのある労働法上の法規制および重要な判例について、社会保険労務士・労働基準監督官の試験程度の問題についても、難易度が高くないものであれば、解答できるようになる。
4. 「労働環境法」として取り上げる労働法上の基本的な法規制および重要な判例について、論理的に解説できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

PowerPoint を用いながら講義を行う。労働環境について、学生である皆さんは明確なイメージを持ちにくいと思うので、ドキュメンタリーなどの映像資料を使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、労働環境法が対象とするもの	講義の進め方や評価方法の説明。「労働環境法」「労働法」の簡単な全体像の説明。
第2回	労働環境法の基礎知識	「労働環境法」を履修するにあたって必要な最低限度の法学に関する知識についての説明。
第3回	労働環境を構築する労働法の仕組み	労働環境を作る労働条件がどのようにまもられているのか。
第4回	労働時間・休憩・休暇・休業時間といった労働環境	休憩・休息时间・休日・年次有給休暇など休むことについて
第5回	労働時間制度について	法定労働時間とは、労基法上の労働時間、労働時間の延長の仕組みについて労働時間の対をなすと休む時間、休息时间、年次有給休暇、インターバル規制についてなど
第6回	休憩・休暇	
第7回	労働安全衛生法（概要）	労働者の安全衛生の確保。産業医の問題点。
第8回	労働者災害補償保険法（1）（制度概要・業務災害）	労災保険は誰が保険料を払い、どのような場合に労働者に保険が給付されるのか
第9回	労働者災害補償保険法（2）（制度概要・業務災害）	過労死や過労自殺の問題と労災認定の基準について
第10回	少子化とワークライフバランス（1）	女性の社会進出と労働環境の整備、社会的な影響について、就業率、労働時間、年取、賃金補償などの観点から検討する
第11回	少子化とワークライフバランス（2）	就業率の向上、労働時間の短縮はどのように行われてきたのか、海外の事例を含め検討する
第12回	新しい労働問題	近年問題となった労働問題について検討を行う。 マタニティハラスメントや障害者雇用に対する合理的配慮など。
第13回	労働契約の始まり	就職活動、採用内々定、内定、本採用といった正社員として働くまでの労働契約とその問題について検討する
第14回	労働契約の終了・労働契約の承継	辞職、解雇やリストラといった労働契約の終了、労働契約の承継である企業組織変動について検討する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義の終わりに、次回の該当箇所を指示するので、教科書の該当部分を熟読し、講義に臨むこと。

## 【テキスト（教科書）】

高橋賢司『労働法講義』（中央経済社）  
六法を用意すること。六法についてはガイダンスで説明する。

## 【参考書】

1. 浜村彰ほか『ベーシック労働法』（有斐閣）

## 【成績評価の方法と基準】

1. 「試験」（80%）  
定期試験として1回実施。論述形式の問題を出題する。
2. 「授業中に実施する確認問題」（20%）  
講義中に確認問題を出題する（1回の講義で1～2問程度）

## 【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を配布プリントに記載するなどして、さらに具体的なイメージを持てるような講義としたい。

## 【その他の重要事項】

講義内容は、受講者の問題関心や理解度に応じて、適宜変更する場合がある。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

As symbolized by the Dentsu suicide incident, the working environment formed by working conditions such as working hours, breaks, vacation raises extremely important problems. As a starting point, we will consider important problems on labor laws and related that problems such as workers' health, safety and health, and work-related injuries. Furthermore, we will consider countermeasures against infringement of personal rights such as power harassment, sexual harassment and maternity harassment. We also consider work-life balance from the view of declining birthrate. We also study various new problems such as reasonable consideration for workers with disabilities. It aims to master basic knowledge and understanding about law and case in this lecture.

SOC300HA

**労働環境論 I**

長峰 登記夫

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「仕事を通して労働環境と生活を考える」

**【到達目標】**

本講では、仕事や雇用に関連した基礎的知識の習得をめざす。労働環境を考える前提としての基本的な雇用問題、すなわち就職から入社後の賃金や昇進、昇給、教育訓練、退職、転職、労働組合など、仕事や雇用に関する基本的な概念や現象を理解でき、職業人としての基本的な知識の習得をめざす。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

就職、教育訓練、昇進、失業、退職といった、ライフステージに沿った雇用に関する様々なトピックを取りあげる。雇用の一般理論や労働組合、非正規雇用等の個別具体的なトピックも取り上げる。また、新聞記事などを利用して、その時々話題になっているアプトゥデートな諸問題をも随時紹介しつつ、本講との関連や現実社会への理解を深める。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	労働環境論入門	労働環境論では何を学ぶのか、なぜ学ぶのか等について考える。
2	雇用・処遇システム	日本の雇用システムの特徴と諸外国との違いについて基本的な知識を得る。
3	学校から職場へ	大学生の就職に焦点を当て、それが過去どう変化してきたのかを見ながら、現在の問題を考える。
4	能力開発とキャリア	日本企業と教育訓練の特徴は何か、諸外国とどう違い、どう変わってきたのかについて学ぶ。
5	ライフスタイルと就業意識	労働者のライフスタイルや就業意識が、戦後初期から高度経済成長期、バブル期を経てどう変わってきたのか学ぶ。
6	生活時間配分	私たちの生活のなかで、仕事とプライベートな生活がどう構成され、変化してきたのかについてみる。
7	技術革新と仕事・職場の変化	技術は仕事の遂行方法に大きく影響する。それが時代とともにどう変化してきたのかをみる。
8	賃金システム	労働条件の基本をなし、きわめて複雑な日本の賃金システムについてその基本を学習する。
9	企業と労働組合	労働条件設定について特別な地位を認められている労働組合の機能や役割について学ぶ。
10	仕事からの引退過程	私たちは一定の年齢に達すると仕事から引退する。その過程について学び、その後の人生設計について考える。
11	非典型雇用	派遣やパート等非正規雇用の増加の現状や問題点について考える。
12	障がい者の支援	2016年に障がい者差別解消法が施行されて以降、障がい者の就職や就労支援の見直しがなされている。それに関する基本的な事項や現状について学ぶ。
13	日本の雇用慣行とは何か	日本の雇用慣行の特徴は何か、そのメリット、デメリットを含め総合的にふりかえる。
14	試験および解説、労働環境のまとめ	試験およびその解説をしながら、日本の雇用慣行とその下にある労働環境や人々の生活のあり方について考える。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。より効率的に講義が理解できるよう、事前にテキストの関連する章を読み、理解できなかった箇所を再度読み返し、疑問点を確認し授業中に質問する。

**【テキスト（教科書）】**

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方〔改訂版〕』有斐閣ブックス、2012年。

**【参考書】**

テキストでカバーできないテーマについては、随時、プリントやその週の関連する新聞記事等で補う。

**【成績評価の方法と基準】**

論述式試験（80%）によりそれぞれのテーマについてどの程度理解し、説明できているか、文章表現は適切か等をもとに、平常点（20%、出席を含む）をも加味して総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

この科目に関連した時事的事象についてほぼ毎時間紹介しているが、これには要望も多く今後も継続する。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

ここで扱うテーマは、卒業して就職する限りだれもが経験するようなものばかりです。自分が問題に直面したときに思い出して、どうすれば解決できるか、それを考える手掛かりとなるような知識と知恵を身につけてください。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

The lecture aims to help students understand relationships between work environments and private life through daily working life after graduation. For that, students will learn to get basic knowledge about various issues relating to employment such as job searching and wages, promotion, job training, retirement, career changes, trade unions and so on.

SOC300HA

**労働環境論Ⅱ**

長峰 登記夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

仕事を通して労働環境と生活を考える。

**【到達目標】**

労働環境論Ⅰで学んだことを前提に、いくつかのトピックを取り上げ、労働環境について学ぶうえで必要な事柄についてより深い知識の習得をめざす。より具体的かつ時事的な事象を扱い、仕事や雇用に関する理解を深め、コンプライアンスに基づいた円滑な仕事遂行を可能にする労働環境をつくるにはどうすればよいかを考えながら、卒業後の職業人としての基礎的な知識の習得をめざす。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

就職、昇進、退職など、ライフステージに沿った雇用に関する種々のテーマについて、時事的なできごとにも触れながら学ぶ。1つのトピックにつき1～2回で授業を進める。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	労働環境論とは何か	労働環境論とは何かについて考える。
第2回	日本の雇用慣行 1	種々の統計、図表を見ながら、日本の雇用慣行の特徴を概観する。
第3回	日本の雇用慣行 2	前週に続いて、日本の雇用慣行をどう理解すればよいか、近年の変化もふまえて学習する。
第4回	大学生の就職 1	過去に大学生の就職のあり方がどう変化し、いま何が問題になっているのか考える。
第5回	大学生の就職 2	大学生の就職と近年話題となっているグローバル人材の問題を考える。
第6回	労働環境と安全衛生 1	仕事場における安全衛生の問題について、歴史的な変遷もふまえて見ていく。
第7回	労働環境と安全衛生 2	前週の学習に基づいて、近年大きな問題となっている働く人々のメンタルヘルスを中心に考える。
第8回	労働環境と労働時間 1 (労働時間の見方、考え方)	全体的な労働時間の短縮の背後で進んでいる労働時間の二極化を中心に、労働時間について考える。
第9回	労働環境と労働時間 2 (裁量労働制と変形労働時間制)	労働の規制緩和の一環として進められてきた裁量労働制と変形労働時間制を中心に、ホワイトカラー・エグゼンプション（残業代ゼロ制度）や最近の高度プロフェッショナル制度をめぐる議論についても学ぶ。
第10回	労働環境とジェンダー 1	日本は毎年のように国際機関から雇用に関する女性の地位の低さを指摘されている。なぜか、その現状について学ぶ。
第11回	労働環境とジェンダー 2	前週の学習に基づいて、とくに女性管理職を取り上げ、問題点と課題について学習する。
第12回	労働環境と差別（年齢差別禁止を中心に）	年齢差別を一例として、雇用における差別問題について考える。
第13回	震災と雇用	阪神淡路大震災、東日本大震災で、一瞬のうちに多くの雇用が失われることになった。震災で雇用に何が起り、当事者や行政等はどう対処したのかみていく。
第14回	試験と解説、労働環境のまとめ	試験および解説をするなかで、労働環境や私たちの生活のあり方について考える。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、テキストを指示する。授業はテキストを読んでいることを前提に進めるので、事前の学習と事後の復習が必須である。

**【テキスト（教科書）】**

学期はじめに関係するテキストを指示するが、いろいろな資料を使うので、特定の本を教科書として使うことはしない。

**【参考書】**

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方〔改訂版〕』有斐閣ブックス、2012年。

**【成績評価の方法と基準】**

論述式試験（80%）によりそれぞれのテーマについてどの程度理解し、説明できているか、文章表現は適切か等をもとに、平常点（20%、出席を含む）をも加味して総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生が現実即して理解しやすいよう、時事的な問題にも関連づけて授業をおこなう。毎時間、内容理解に関連する基本的な設問を提示し、学生が勉強しやすいようにする。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

労働環境論Ⅰで学んだ内容をベースに、いくつかのテーマに分けてそれらをより掘り下げて勉強する。長時間労働や過労死、メンタルヘルス、女性雇用など、ふだん新聞等でも取り上げられている問題を扱う。

**【関連の深いコース】**

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

**【実務経験のある教員による授業】**

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

**【Outline and objectives】**

Based on what the students learned in Work Environment I, the lecture aims to take several topics so that they can get deeper knowledge about work environments. For that, the lecture will take up current topics and help students think what and how they should do to perform their job smoothly in compliance with the law and make work environments to enable it.

SOC300HA

## ローカルスタディーズ I

船戸 修一

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「農山村（中山間地域）」の現状と課題について考える。

## 【到達目標】

「農山村（中山間地域）」の現状と課題を理解するだけでなく、その問題解決策まで考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本授業では、「地域」を「農山村（中山間地域）」に絞り、農山村の根幹的産業である農林業や農山村の集落の現状と課題について理解することを目標にする。さらに、その学習だけでなく、その問題解決までも構想できるようになることも目標にする。本授業では、テキストとして、①日本村落研究学会編『むらの社会を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）、②日本村落研究学会編『むらの資源を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）を使い、毎回、それぞれ1章分を受講生に発表をしてもらい、その解説と説明をしたうえで、全員で討論を行う。なお、本授業は「食と農の環境学Ⅱ」を履修していることを受講条件とし、またゼミ形式を導入するため受講者の定員を30名程度にする。もし受講希望者が定員超過する場合は、第1回目の授業でテストを行い、その成績上位から受講生を選抜する。テスト問題は「食と農の環境学Ⅱ」の内容から出題する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価を説明する。
第2回	テキストの輪読・発表・討論(1)	『むらの社会を研究する』の「村落空間」をとりあげる。
第3回	テキストの輪読・発表・討論(2)	『むらの社会を研究する』の「都市化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「むらにとっての資源とは」をとりあげる。
第4回	テキストの輪読・発表・討論(3)	『むらの社会を研究する』の「農業の近代化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「集団的土地利用」をとりあげる。
第5回	テキストの輪読・発表・討論(4)	『むらの社会を研究する』の「過疎化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「水をめぐる排除と協同」をとりあげる。
第6回	テキストの輪読・発表・討論(5)	『むらの社会を研究する』の「縮小化する世帯・家族と家の変化」、『むらの資源を研究する』の「森林問題と林野資源の可能性」をとりあげる。
第7回	テキストの輪読・発表・討論(6)	『むらの社会を研究する』の「今、農村家族の問題は何か」、『むらの資源を研究する』の「日本における農政の変遷と地域政策」をとりあげる。
第8回	テキストの輪読・発表・討論(7)	『むらの社会を研究する』の「農山村の開発に伴う環境破壊」、『むらの資源を研究する』の「農業技術と自然」をとりあげる。
第9回	テキストの輪読・発表・討論(8)	『むらの社会を研究する』の「自然環境と歴史環境の保全活動」、『むらの資源を研究する』の「近代農法の成果と限界」をとりあげる。
第10回	テキストの輪読・発表・討論(9)	『むらの社会を研究する』の「農村女性とパートナーシップ」、『むらの資源を研究する』の「有機農業をめぐるむらのコンフリクト」をとりあげる。
第11回	テキストの輪読・発表・討論(10)	『むらの社会を研究する』の「担い手としての高齢者」、『むらの資源を研究する』の「農村の多面的価値を『引き出す』ツーリズムを目指して」をとりあげる。
第12回	テキストの輪読・発表・討論(11)	『むらの社会を研究する』の「限界集落論からみた集落の変動と山村の再生」、『むらの資源を研究する』の「農業共同化の背景と生産組織の展開」をとりあげる。

第13回 テキストの輪読・発表・討論(12) 『むらの社会を研究する』の「戦後農政の展開とむら」、『むらの資源を研究する』の「家族構成の変化と兼業化」をとりあげる。

第14回 テキストの輪読・発表・討論(13) 『むらの社会を研究する』の「農業者として生きる都市住民の転身」、『むらの資源を研究する』の「農の経営から地域経営へ」をとりあげる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業後は、授業内容について復習しておくこと。また次回の授業で内容も読んで、予習しておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

日本村落研究学会編『むらの社会を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）  
日本村落研究学会編『むらの資源を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）

## 【参考書】

参考文獻は、授業で随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（発表内容、討論への参加姿勢など）を50%として評価する。さらに学期末に課すレポートを50%として評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

ゼミ形式で授業を進めるため、なるべく多くの履修学生の意見に耳を傾けたいと考えている。

## 【その他の重要事項】

受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行う。その際「食と農の環境学Ⅱ」を履修者を優先する。受講希望者には、必ず初回授業に出席を求める。

「地球環境ケーススタディ I」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Studies on the present conditions and the problem of the farming and mountain villages

SOS300HA

## ローカルスタディーズⅡ

坂本 昭夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 6/Tue.6

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海洋環境汚染は海洋だけの問題ではなく、地球全体の汚染と言えます。日常の便利さを追求、要求した結果が現在の「汚染」です。『汚染』の原因をあらゆる角度から検討し、学ぶことでこれからのあるべき人間の姿が見えてきます。その姿が正しいものかを自ら判断し、これからの生活態度を見直すことで、地球環境を正しく導くことができるものと思われま。

## 【到達目標】

現在の海況を知る。一杯の味噌汁から農業まであらゆる汚染起因物質を知り、海洋汚染、地球環境汚染に関しこれ以上の地球負荷を軽減させるべく学習します。またプラスチック等による環境汚染、そして人間を含む生物全体への影響等を知り、便利な社会が生み出す「汚染」を防ぎます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

PPTを用いた発表、DVDを視聴します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 海洋環境概要	授業の進め方、単位の取り方などを説明するとともにDVDを視聴します。
第2回	東京湾における生物体系を知る	多種多様な海洋生物を知る。
第3回	海洋ゴミ	海洋ゴミを知る①
第4回	海洋ゴミ	海洋ゴミを知る②
第5回	震災ゴミ	東北震災等で発生した海洋（震災）ゴミを知る
第6回	環太平洋ネットワークの活動と紹介	日本、ハワイ、カナダ、アラスカで活動する実態を知る
第7回	プラスチックゴミ	海に漂うゴミ、マイクロプラスチックに焦点をあて解説する
第8回	外部ゲスト 一般社団法人 Jean による講義	海洋ゴミ問題を日本国内でいち早く問題定義した団体 Jean による講義
第9回	海洋温暖化に由来する赤潮、青潮の発生メカニズム	何故 赤潮が発生するのかを知り、生活を見直す
第10回	海草「アマモ」の役割	アマモってなに？ アマモを知ることによって海が見えてくる
第11回	海藻「ワカメ」の役割と東京湾内干潟の役割を知る	海藻の役割を知り、減少する海藻を知る。
第12回	外部ゲスト「川ゴミネット」による「講義	川のゴミが海洋に。その原因を知る。
第13回	ゴミ軽減レポートの発表	ゴミの軽減策を考える
第14回	農業による河川汚染、海洋汚染を知る レポート回収	大量の農業消費国日本。その河川、海洋汚染を知る。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。復習、宿題などはありません。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

第13回講義において、レポート提出に関する題をお知らせし、最終講義 第14回にて回収をいたします。レポート内容 100%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

「地球環境ケーススタディⅡ」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

## 【関連の深いコース】

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

## 【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

## 【Outline and objectives】

Marine environmental pollution can be called pollution in the whole earth only in the ocean, not a problem.

The result which pursued and requested daily convenience is the present "pollution".

The form of the future human is being seen by detecting and learning the cause of "pollution" from all angles.

OTR400HA

## SCOPE Seminar

Atsuko Watanabe

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course explores identity politics in international relations. Identity and sense of belongings are a key future of contemporary political life, as commonly seen in Brexit, the presidency of Donald Trump, and the growing tension among East Asian countries. This course, offering some foundational theoretical perspectives of the debate, examines how identities are formed and used in politics by analyzing media coverage and popular culture products such as movies, comic books, and novels.

## 【到達目標】

By the end of the course, the students will be able to:

- 1) Critically understand how identity is used in politics.
- 2) Gain skills to analyse texts and visual materials.
- 3) Improve reading, writing, presentation and discussion skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

Short lectures, students' presentations, discussions. We have one guest lecture

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction: Who are you, and who are they?	Guidance for the course. Why identity is important in international politics?
Week 2	What is identity politics?	Understand theoretical perspectives.
Week 3	Methodology	Understand research method.
Week 4	Which identity?	Gender, race, ethnicity, and religion.
Week 5	Which identity?	Geography and History.
Week 6	Formal identity politics	Identity politics by experts including academics.
Week 7	Practical identity politics	Identity politics of policy makers.
Week 8	Popular identity politics	Identity politics in popular culture.
Week 9	Movie watching	TBA
Week 10	Guest lecture	TBA
Week 11	Discussion	Discuss what we have learned so far to plan individual project.
Week 12	Individual project	Work individual research project.
Week 13	Student presentations	Student presentations and discussions.
Week 14	presentations and conclusion	Wrap up and guidance for the final report.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

## 【テキスト（教科書）】

Reading materials are distributed in class.

## 【参考書】

The reference list is distributed in class.

## 【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussions: 20%

Class presentation: 30%

Final report: 50%

## 【学生の意見等からの気づき】

This course starts this year.

## 【学生が準備すべき機器他】

N/A

## 【その他の重要事項】

N/A

## 【Outline and objectives】

N/A

OTR400HA

## SCOPE Seminar

Masaatsu TAKEHARA

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This seminar offers students opportunities to acquire knowledge and skill to analyze the role of business to contribute to solving sustainability challenges in the world, especially global issues described in the SDGs, U.N. Sustainable Development Goals. As it is increasingly clear governments alone cannot solve global problems such as climate change, poverty and various forms of inequalities, there is growing expectation for businesses and civil society to play more important roles. Companies are uniquely positioned to work with their stakeholders across their value chains to reduce their negative impact and deliver high-impact business solutions to the challenging sustainability issues. Through this seminar, we learn various efforts of companies on global challenges and understand how they are creating shared values (CSV).

## 【到達目標】

We aim at achieving following goals.

- (1) Learn global sustainability challenges and how companies are creating shared values (CSV) and enhancing their corporate values.
- (2) Acquire logical thinking skill to consider systematically by setting agenda, collecting and analyzing necessary information.
- (3) Understand the importance of theory or theoretical framework and actually utilize them to gain insight.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

This seminar will consist of short lectures, discussions, and presentations by students. They are all conducted in English.

During the first half of the seminar, to acquire basic knowledge on global sustainability and role of business, we will review several sustainability reports issued by major global companies and related literatures/reports. The summary of those materials will be reported by students. During the second half of the seminar, students will conduct research on a topic of their interest and share the research findings with other members of the seminar.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course Short lectures and discussions
2	Reading academic literatures (1)	Short lectures and discussions
3	Reading academic literatures (2)	Student presentation and discussions
4	Reading academic literatures (3)	Student presentation and discussions
5	Reading academic literatures (4)	Student presentation and discussions
6	Reading academic literatures (5)	Student presentation and discussions
7	Reading academic literatures (6)	Student presentation and discussions
8	Reading academic literatures (7)	Student presentation and discussions
9	Reading academic literatures (8)	Student presentation and discussions
10	Reading academic literatures (9)	Student presentation and discussions
11	Reading academic literatures (10)	Student presentation and discussions
12	Reading academic literatures (11)	Student presentation and discussions
13	Reading academic literatures (12)	Student presentation and discussions
14	Reading academic literatures (13)	Student presentation and discussions

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to attend each class fully prepared and complete all assignments on time.

【テキスト（教科書）】

Textbook will be introduced during the orientation.

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on following criteria:

- (1) Active class participation:40%
  - (2) Completion of in-class reporting(presentation) assignments: 40%
  - (3) Final writing assignments:20%
- Please note students who miss 4 classes or more without justification cannot receive credit.

【学生の意見等からの気づき】

Based on our learning in 2018 class, we will be aiming at becoming more proficient in theoretical framework to analyze corporate sustainability topic.

【学生が準備すべき機器他】

No special equipment is needed in this course.

【その他の重要事項】

As all the class discussion and group works will be conducted in English, students whose English proficiency is introductory level may have difficulties in keeping up with the class. If you have any concern, please contact lecturer in advance.

【Outline and objectives】

This seminar offers students opportunities to acquire knowledge and skill to analyze the role of business to contribute to solving sustainability challenges in the world, especially global issues described in the SDGs, U.N. Sustainable Development Goals. As it is increasingly clear governments alone cannot solve global problems such as climate change, poverty and various forms of inequalities, there is growing expectation for businesses and civil society to play more important roles. Companies are uniquely positioned to work with their stakeholders across their value chains to reduce their negative impact and deliver high-impact business solutions to the challenging sustainability issues. Through this seminar, we learn various efforts of companies on global challenges and understand how they are creating shared values (CSV).

OTR400HA

## SCOPE Seminar

Atsuko Watanabe

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course invites you to think about the concept of peace: what does it mean? Peace is attracting growing attention in International Relations: the discipline of war and peace. This is because the growingly globalizing and diversifying world asks us to reconsider its fundamental meaning. Indeed, peace is much more vague and ambiguous a concept than we think. We first identify the ongoing discussions and then examine the historical development of the concept in East Asia. We invite some people who work for peace in various fields to discuss the topic with us. Finally, students are required to write a report on their ideas about how peace can be re-conceptualized.

【到達目標】

By the end of the course, students will be able to:

- 1) Gain knowledge about global conceptual history and the concept of peace.
- 2) to critically think about the difference in world politics.
- 3) Improve presentation, writing, and discussion skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Short lectures, students' presentations, discussions. We have one field visit and two guest lecture

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction: Identifying the debate	What is the issue of peace?
Week 2	What is global conceptual history?	Learn what global conceptual history is about.
Week 3	Identifying the debate	Learn existing literature to understand what is the issue in the contemporary academia.
Week 4	Identifying the debate	Same as above
Week 5	Peace in East Asia	Explore the history of the concept in East Asia
Week 6	Peace in East Asia	Same as above
Week 7	Peace in East Asia	Same as above
Week 8	Field visit	TBA
Week 9	Discussions	Discuss what we have learned so far.
Week 10	Guest lecture	TBA
Week 11	Guest lecture	TBA
Week 12	Discussions	Discussions to plan individual research project.
Week 13	Student presentations	Student presentations and discussions.
Week 14	presentations and conclusion	Wrap up and final guidance for the final report.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials. Students are required to carry out their field studies with close supervision from the instructor.

【テキスト（教科書）】

Reading materials are distributed in class.

【参考書】

The reference list is distributed in class.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussions: 20%  
Class presentation: 30%  
Final report: 50%

【学生の意見等からの気づき】

This course starts this year.

【学生が準備すべき機器他】

N/A

【その他の重要事項】

N/A

【Outline and objectives】  
N/A

OTR400HA

## SCOPE Seminar

Masaatsu TAKEHARA

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This seminar offers students opportunities to acquire knowledge and skill to analyze the role of business to contribute to global issues described in the SDGs, U.N. Sustainable development Goals. As governments alone cannot solve those problems such as climate change, poverty and various forms of inequalities, there is growing expectation for businesses and civil society to play more important roles. Companies are uniquely positioned to work with their stakeholders across their value chains to deliver high-impact business solutions to the challenging sustainability issues. Through this seminar, we learn various efforts of global companies on challenges on earth, how they are creating shared values (CSV) and enhancing their corporate values. Also, considering the nature of seminar, we would like to study topics that enable students to acquire knowledge and skills to lead successful life.

## 【到達目標】

We aim at achieving following goals:

- (1) Learn global sustainability challenges and how companies are creating shared values (CSV) and enhancing their corporate values.
- (2) Train logical thinking skill to consider systematically by setting agenda individually and collecting, analyzing necessary information,
- (3) Understand the importance of theory or theoretical framework and actually utilize them to gain insight for students' successful life.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

The course will consist of short lectures, discussions, and presentations by students. To acquire basic knowledge on global sustainability and role of companies, we will review selected academic literatures and sustainability/integrated reports issued by major global companies. The summary of those materials will be reported by students. If students are interested in a specific industry or company, he or she can conduct research and share the research findings with other members of the seminar.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course Short lectures and discussions
2	Reading academic literatures (1)	Short lectures and discussions
3	Reading academic literatures (2)	Student presentation and discussions
4	Reading academic literatures (3)	Student presentation and discussions
5	Reading academic literatures (4)	Student presentation and discussions
6	Reading academic literatures (5)	Student presentation and discussions
7	Reading academic literatures (6)	Student presentation and discussions
8	Reading academic literatures (7)	Student presentation and discussions
9	Reading academic literatures (8)	Student presentation and discussions
10	Reading academic literatures (9)	Student presentation and discussions
11	Reading academic literatures (10)	Student presentation and discussions
12	Reading academic literatures (11)	Student presentation and discussions
13	Reading academic literatures (12)	Student presentation and discussions
14	Reading academic literatures (13)	Student presentation and discussions

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to attend each class fully prepared and complete all assignments on time.

**【テキスト（教科書）】**

Textbook will be introduced during the orientation.

**【参考書】**

References will be introduced in class.

**【成績評価の方法と基準】**

Grading will be decided based on following criteria:

- (1) Active class participation:40%
  - (2)Completion of in-class reporting(presentation) assignments: 40%
  - (3) Final writing assignments:20%
- Please note students who miss 4 classes or more cannot pass the subject.

**【学生の意見等からの気づき】**

Because this class is relatively new, class methodology might change based on students' feedback.

**【学生が準備すべき機器他】**

No special equipment is needed in this course.

**【その他の重要事項】**

As all the class discussion and group works will be conducted in English, students whose English proficiency is introductory level may have difficulties in keeping up with the class. If you have any concern, please contact lecturer in advance.

OTR400HA

**SCOPE Seminar**

Shamik Chakraborty

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）**

Seminar (Advanced)

Join us in the seminar course to gain understanding on fundamental aspects of landscapes and sustainability through engaging with local socio-ecological landscapes/seascapes. We will learn through active learning. This course is directly related to the aims of the Sustainability Co-creation Programme (SCOPE) at Hosei University.

Students will also directly learn from local stakeholders. A vital attribute of the seminar course is developing a "class project" where the students are required to bring their own research questions while employing a suitable method to explore the answer (e.g., interview, questionnaire, observation) from field study. Students will then be required to write a report, summing up their investigations. Students will also get unique chances to learn from local stakeholders/resource managers regarding various local sustainability problems.

**【到達目標】**

The course is designed as an advanced seminar course for undergraduate students. Those who are interested to know about socioecological landscapes (such as Satoyama, Satoumi, urban green spaces etc.) by directly visiting these landscapes and learning from local stakeholders are welcome. By completing this seminar, students will gain a critical understanding of the various challenges of sustainable resource use from fieldwork-based experiences, critical thinking, and discussion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

Lectures and personal guidance will be carried out regarding each of the student's class project. There will be opportunities for discussion and feedback on the individual project. The course will mainly be based on on-campus classes and field trips.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction and orientation	Guidance for the seminar course. What are socioecological landscapes? How socioecological landscapes can inform sustainability studies.
Week 2	Same as above	Same as above
Week 3	Research methods	Guidance and discussion on research methods and field study topic.
Week 4	Same as above	Same as above
Week 5	Invited lecture 1	Experienced and knowledgeable person will be invited to give lecture followed by a question and answer session.
Week 6	Critical thinking and discussion	Discussion and presentations on field study/ invited lecture
Week 7	Commons in socioecological landscapes	Commons in socioecological landscapes, change, degradation and resilience.
Week 8	Same as above	Same as above
Week9	Indigenous and local knowledge	Indigenous and local knowledge in socioecological landscape resilience.
Week10	Individual guidance 1	Guidance on students' class projects
Week 11	Individual guidance 2	Same as above
Week 12	Individual guidance 2	Same as above
Week 13	Presentations	Students presentations
Week 14	Summary	Summary of the course. What we have learnt from the course and looking forward.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

## 【テキスト（教科書）】

There is no specific textbook; all materials will be distributed in the class.

## 【参考書】

References will be provided in the class

## 【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussions: 20%

Class presentation: 30%

Final report: 50%

## 【学生の意見等からの気づき】

No significant changes were made based on students' comments

## 【学生が準備すべき機器他】

N/A

## 【その他の重要事項】

N/A

## 【Outline and objectives】

Join us in the seminar course to gain understanding on fundamental aspects of landscapes and sustainability through engaging with local socio-ecological landscapes/seascapes. We will learn through active learning. This course is directly related to the aims of the Sustainability Co-creation Programme (SCOPE) at Hosei University.

Students will also directly learn from local stakeholders. A vital attribute of the seminar course is developing a "class project" where the students are required to bring their own research questions while employing a suitable method to explore the answer (e.g., interview, questionnaire, observation) from field study. Students will then be required to write a report, summing up their investigations. Students will also get unique chances to learn from local stakeholders/resource managers regarding various local sustainability problems.

OTR400HA

## SCOPE Seminar

Shamik Chakraborty

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Seminar (Advanced)

Join us in the seminar course to gain understanding on fundamental aspects of landscapes and sustainability through engaging with local socio-ecological landscapes/seascapes. This seminar will be a continuation of the seminar held in the fall semester and give an insight into the concept of cultural landscapes and its application in studying landscape sustainability.

A major part of the field research will link the notion of cultural landscapes together with learning from local knowledgeable stakeholders to have a critical understanding of sustainability studies. A vital attribute of the seminar course is developing (or continuing) a "class project" where the students are required to bring their own research questions while employing a suitable method to explore the answer (e.g., interview, questionnaire, observation) from topics introduced. Students will then be required to write a report, summing up their investigations.

## 【到達目標】

The course is designed as an advanced seminar course for undergraduate students. Those who are interested to know about cultural landscapes (such as the traditional agriculture and/or fisheries-based systems) by directly visiting these ecosystems, and learning from local stakeholders are welcome. By completing this seminar, students will gain a critical understanding of different types of cultural landscapes and the challenges they face. They will also work through fieldwork-based experiences, critical thinking, discussion, and writing to explore workable solutions to these challenges. Students will learn vital oral and written communication skills, mainly through their class projects. These skills will help them in their future studies and research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

Lectures and personal guidance will be carried out regarding each of the student's class project. There will be opportunities for discussion and feedback on the individual project. The course will mainly be based on on-campus classes and field trips.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction Cultural landscapes	What are "cultural landscapes"? Evolution of the notion of cultural landscapes
Week 2	Cultural landscape and landscape governance	How the notion of cultural landscapes can be used for an integrated landscape governance
Week 3	Research methods	Guidance and discussion on research methods and field study topics.
Week 4	Same as above	Same as above
Week 5	Field visit	Location TBA
Week 6	Invited lecture 1	Experienced and knowledgeable person from the local stakeholders will be invited to give lecture followed by a question and answer session.
Week 7	Critical thinking and discussion	Discussion and presentations on field study/ invited lecture.
Week 8	Resilience of cultural landscapes	Cultural landscapes and resilience (reflection through the field studies and invited lecture).
Week 9	Same as above	Cultural landscapes as complex adaptive systems
Week 10	Field visit	Location TBA
Week 11	Invited lecture 2	Experienced and knowledgeable person from the local stakeholders will be invited to give a lecture followed by a question and answer session).
Week 12	Critical thinking and discussion	Discussion and presentations on field study/Invited lecture.

Week 13	Indigenous and local knowledge	Indigenous and local knowledge in cultural landscapes and their resilience (reflection through the field studies and invited lecture).
Week 14	Summary	Wrap up, final guidance for writing report.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are required to carry out their field studies with close supervision from the instructor. They are encouraged to raise fresh issues or offer critical viewpoints on the readings.

## 【テキスト（教科書）】

There is no specific textbook; all materials will be distributed in the class

## 【参考書】

N/A

## 【成績評価の方法と基準】

Class attendance and discussions: 20%

Class presentation: 30%

Final report: 50%

## 【学生の意見等からの気づき】

N/A

## 【学生が準備すべき機器他】

N/A

## 【その他の重要事項】

N/A

OTR200HA

## Co-creative Workshop A I

Masaatsu TAKEHARA

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Co-creative Workshop provides multidisciplinary learning for dealing with significant challenges of sustainability. The class brings together students from SCOPE and students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on projects together. In this workshop A1, participants will deepen their understanding about various issues of business and sustainability through group work. Understanding the latest important sustainability-related concepts and knowledges such as SDGs (Sustainable Development Goals) and the Paris agreement, as final assignment, students will choose one sustainability challenge and come up with viable solution and present in the class. Examples of cases discussed and presented in previous workshop include analyzing risk of global supply chain of an apparel company and propose solution, and waste management issue in India and possible solution.

## 【到達目標】

By the end of the semester, students should be able to:

- 1) identify and analyze sustainability problems
- 2) interact proactively and collaborate with diverse participants
- 3) reach and design collaborative solutions
- 4) make effective presentation

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

Students will participate in the group work with diverse fellow learners. Through facilitating interaction and teamwork, defining problems, and generating ideas, participants will collaborate to obtain solutions. Students will also have opportunities for concentrated efforts to research and make presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Ice-breaking and introduction of participants, selection if necessary.
Week 2	Basics	Basic knowledge in corporate sustainability
Week 3	Case No.1(1) Issue Introduction	Issue Introduction to case (problem) No.1 and defining the issue
Week 4	Case No.1 (2) Stakeholders	Stakeholder analysis
Week 5	Case No.1 (3) Problem analysis	Analyze the issue focusing on causal relationship
Week 6	Case No.1 (4) Solution	Generate ideas and reach collaborative solution
Week 7	Case No.1 (5) Business Project Design	Design realistic and effective business projects to solve sustainability issue
Week 8	Case No.1 (6) Presentation In class	Presentation of solutions and feedback from participants
Week 9	Case No.2 (1) Issue Introduction	Issue Introduction to case (problem) No.2 and defining the issue
Week 10	Case No.2 (2) Stakeholders	Stakeholder analysis
Week 11	Case No.2 (3) Problem Analysis	Analyze the issue focusing on causal relationship
Week 12	Case No.2 (4) Solution	Generate ideas and reach collaborative solution
Week 13	Case No.2 (5) Business Project Design	Design realistic and effective business projects to solve sustainability issue
Week 14	Case No.2 (6) Presentation In class	Presentation of solutions and feedback from participants

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to read reference materials, conduct necessary research and prepare for the group work.

**【テキスト（教科書）】**

Materials will be distributed in the class.

**【参考書】**

Additional resources will be introduced in the class,if necessary.

**【成績評価の方法と基準】**

Assessment will consist of active class participation, contribution to the group work, quality of group presentations, and submission of reflection sheet.

Note that students who miss 4 classes or more without justification cannot receive credit.

**【学生の意見等からの気づき】**

Majority of previous students' comments for this course emphasized the importance of proactive contribution to the group work. Free riding will not be tolerated so students who plan to take this workshop are required to actively participate in the group work and entire class activities.

**【学生が準備すべき機器他】**

When group work starts, students often need to use laptop computers.

**【その他の重要事項】**

(1)As all the classes and group works will be conducted in English, students with lower English proficiency may have difficulties.

(2)Please note selection may be conducted in the first class if the number of participants is too large. Students who are interested in taking this workshop should attend the first class.

**【Outline and objectives】**

The Co-creative Workshop provides multidisciplinary learning for dealing with significant challenges of sustainability. The class brings together students from SCOPE and students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on projects together. In this workshop A1, participants will deepen their understanding about various issues of business and sustainability through group work. Understanding the latest important sustainability-related concepts and knowledges such as SDGs (Sustainable Development Goals) and the Paris agreement, as final assignment, students will choose one sustainability challenge and come up with viable solution and present in the class. Examples of cases discussed and presented in previous workshop include analyzing risk of global supply chain of an apparel company and propose solution, and waste management issue in India and possible solution.

OTR200HA

## Co-creative Workshop A II

Masaatsu TAKEHARA

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

The Co-creative Workshop provides multidisciplinary learnings for dealing with significant challenges of sustainability. The class brings together students from SCOPE and students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop project together. In this Co-creative Workshop, participants will discuss sustainability issues in the field of business and try to come up with solutions through various group work. Examples of cases students will tackle in the workshop are: (1) achieving local revitalization in rural area by tackling social problems with social business type of approach, and (2) ensuring environmental and social sustainability in global supply chain of companies.

**【到達目標】**

By the end of the semester, students should be able to:

- 1) identify and analyze sustainability problems in given cases,
- 2) interact proactively and collaborate with diverse participants,
- 3) reach and design collaborative solutions and present in the class,
- 4) share various solutions in the class for further discussion of the issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

Students will participate in the group work with other students with diverse background and study experience. Through facilitating interaction and teamwork, defining problems, and generating ideas, participants will collaborate to obtain solutions. Opportunities for concentrated efforts to research and effective presentations will be also given.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Orientation	Ice-breaking and introduction of participants, selection if necessary.
2	Basics	Basic knowledge in business environment
3	Case No.1 (1) Issue	Introduction to case (problem) No.1 and defining the issue
4	Case No.1 (2)Stakeholders	Stakeholder analysis
5	Case No.1 (3)Problem analysis	Analyze the issue focusing on causal relationship
6	Case No.1 (4)Solution	Generate ideas and reach collaborative solution
7	Case No.1 (5)Presentation	In class presentation of solutions and feedback from participants
8	Case No.2 (1) Issue	Introduction to case (problem) No.2 and defining the issue
9	Case No.2 (2)Stakeholders	Stakeholder analysis
10	Case No.2 (3)Problem Analysis	Analyze the issue focusing on causal relationship
11	Case No.2 (4)Project Design	Analyze the objectives to solve the issue and design the project
12	Case No.2 (5)Solution	Generate ideas and reach collaborative solution
13	Case No.2 (6)Presentation	Presentation of solutions and feedback from participants
14	Summary and reflection	Reflection on interaction and group works for further study

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to read reference materials, to do necessary web-site research and to prepare for contributing to group work.

**【テキスト（教科書）】**

Materials will be distributed in the class.

**【参考書】**

Additional resources will be introduced in the class, if necessary.

**【成績評価の方法と基準】**

Grading will be decided based on following criteria.

Active class participation (40%)

Contribution to the group work (40%)

Final presentations (20%).

Please note that students who miss 4 classes or more cannot pass the subject.

**【学生の意見等からの気づき】**

Collecting students'on-going feedback, progress of the class might change.

**【学生が準備すべき機器他】**

No special equipment is used in this course.

**【その他の重要事項】**

(1) Note that selection may be conducted in the first class if the number of participants is too large. Students interested in participating should attend the first class.

(2) As all the classes and group works will be conducted in English, students with lower English proficiency may have difficulties to keep up with the class. In that case, students are expected to make additional efforts to improve their English skills.

(3) Methods and schedule will be subject to change based on feedback from participants.

(4)Students can take Co-creative Workshop A I and A II in random order.

